

### III 調査結果・分析

---

# 1 生活・社会における男女の平等について

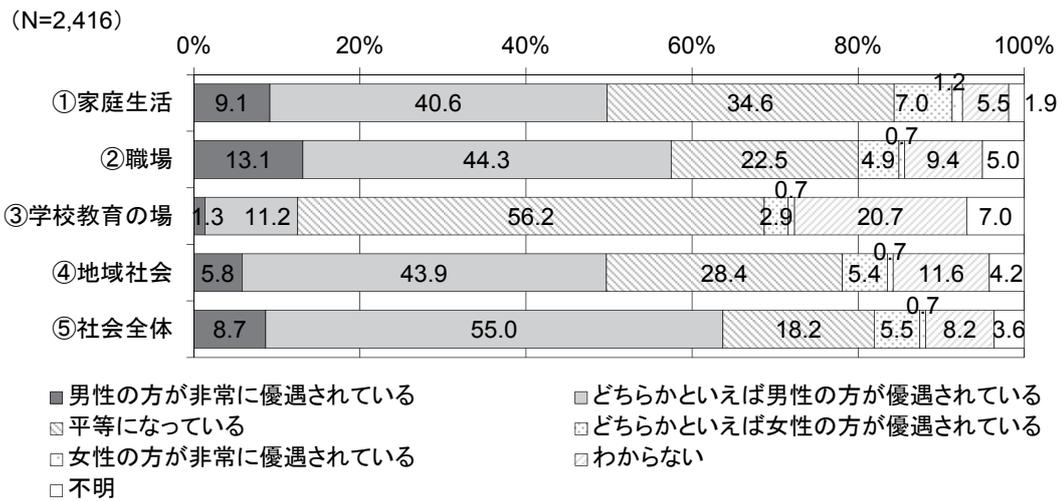
問1 以下のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

【全項目・全体】

- 「学校教育の場」は「平等」が約6割
- 「学校教育の場」を除き、「どちらかといえば男性が優遇」が最も高く、特に「職場」や「社会全体」が高い

「③学校教育の場」(56.2%)は「平等になっている」が最も高く、約6割を占めています。

他の項目はいずれも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。「男性の方が非常に優遇されている」との合算値「男性が優遇」は、「⑤社会全体」(63.7%)が最も高く、次いで「②職場」(57.4%)、「①家庭生活」(49.7%)、「④地域社会」(49.7%)、「③学校教育の場」(12.5%)となっています。



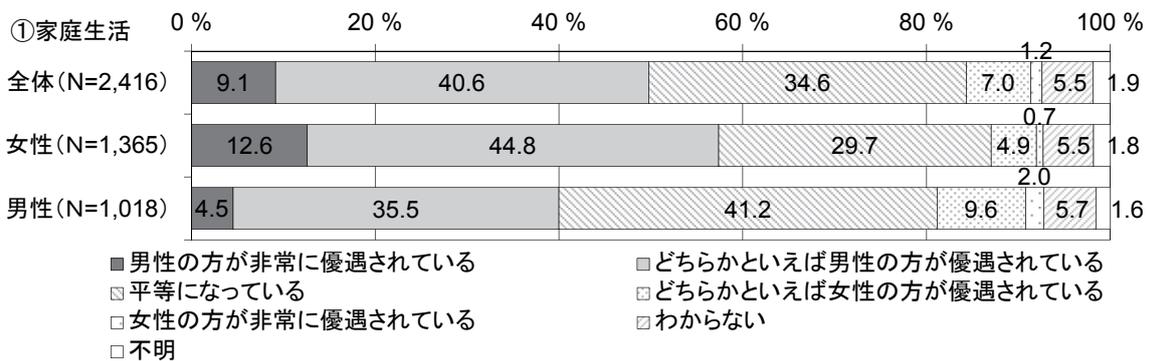
①家庭生活

【全体・性別】

- 女性は「どちらかといえば男性が優遇」、男性は「平等」が4割以上で最も高い
- 「男性が優遇」は女性が約6割、男性が約4割
- 男性は「平等」と「男性が優遇」が同程度

女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(44.8%)、男性は「平等になっている」(41.2%)、が最も高くなっています。

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合算値「男性が優遇」は、女性57.4%、男性40.0%となっており、男性は「平等になっている」と同程度になっています。

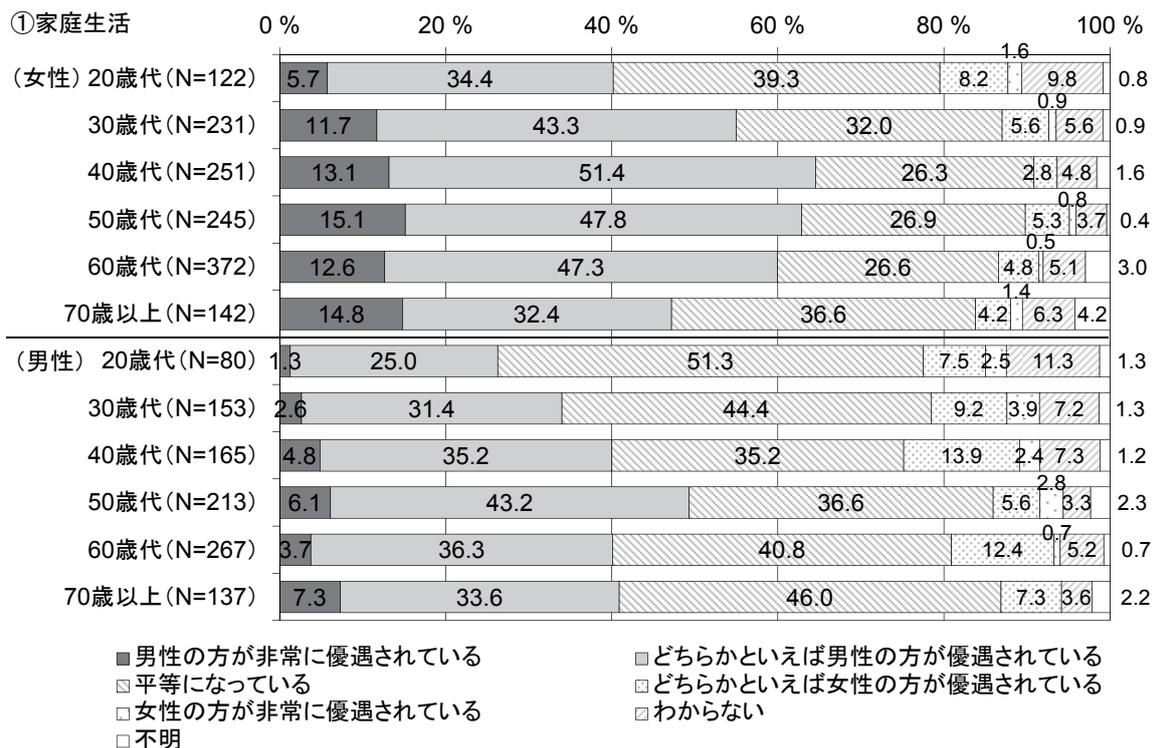


【性別×年代別】

- すべての年代で「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が高い

合算値「男性が優遇」は、女性40歳代(64.5%)や女性50歳代(62.9%)が6割以上で比較的高くなっています。また、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、「平等になっている」は、男性20歳代(51.3%)が最も高く、すべての年代で男性が高くなっています。

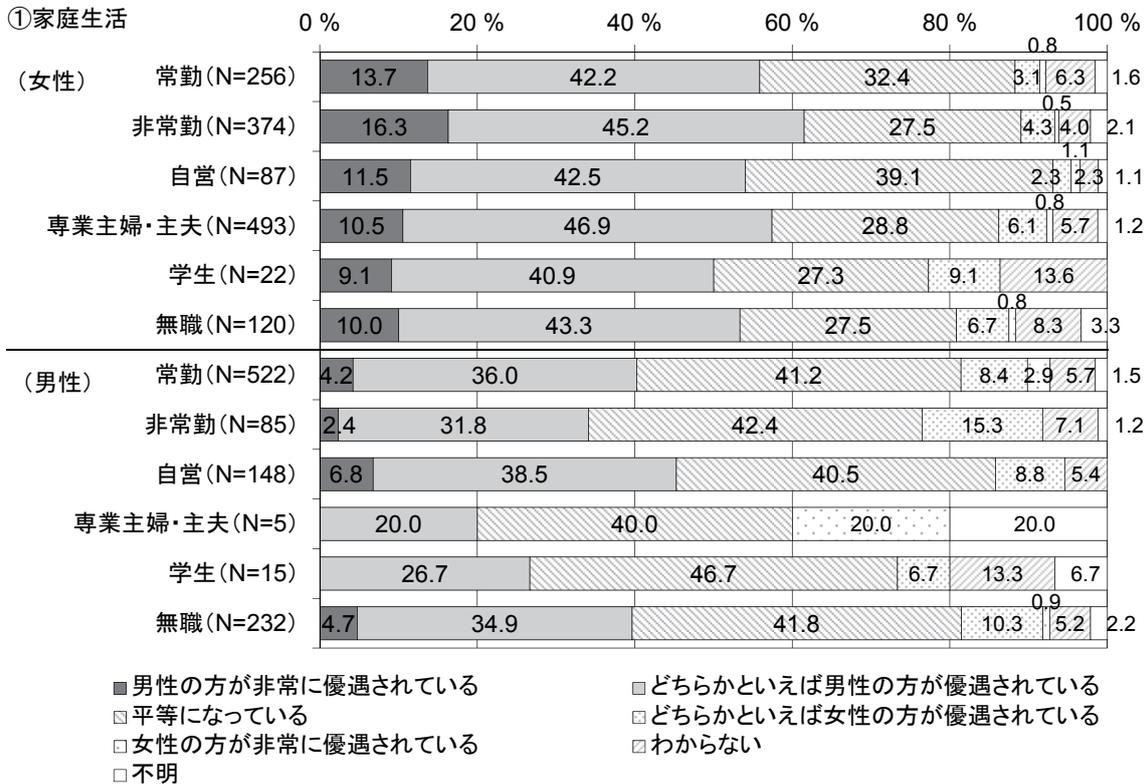


【性別×職業別】

● すべての職業で「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、女性非常勤（61.5%）が最も高く、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「平等になっている」は、男性学生（46.7%）が最も高く、すべての職業で男性が比較的高くなっています。

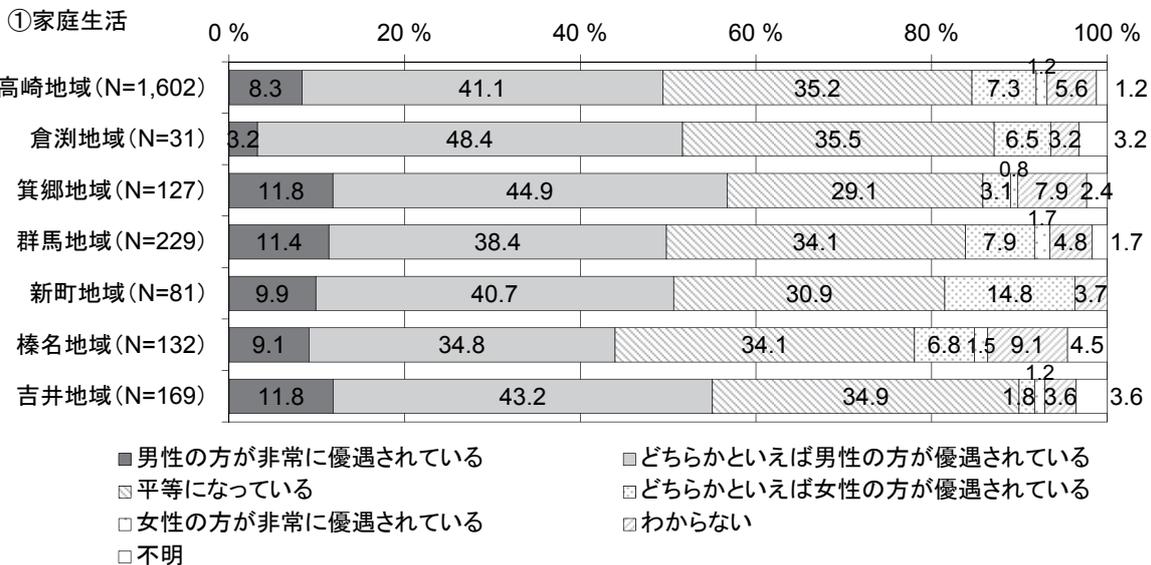


【地域別】

● 「男性が優遇」は箕郷・吉井地域が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、箕郷地域（56.7%）や吉井地域（55.0%）が比較的高くなっています。

一方、「平等になっている」は、地域による大きな差は見られません。

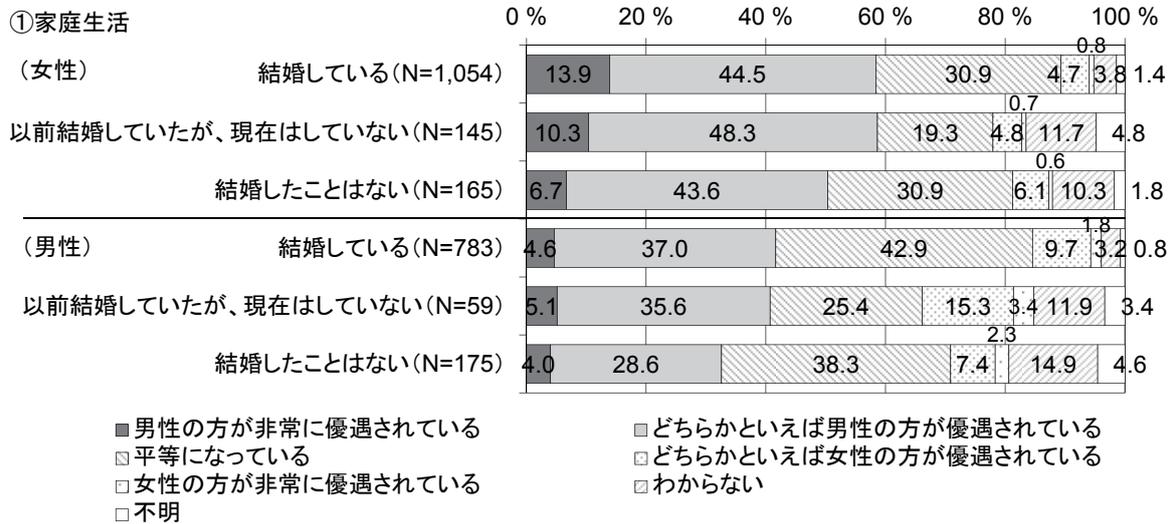


【性別×結婚経験別】

- 「男性が優遇」は結婚経験にかかわらず女性が比較的高い
- 「平等」は男性「結婚している」「結婚したことがない」が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。

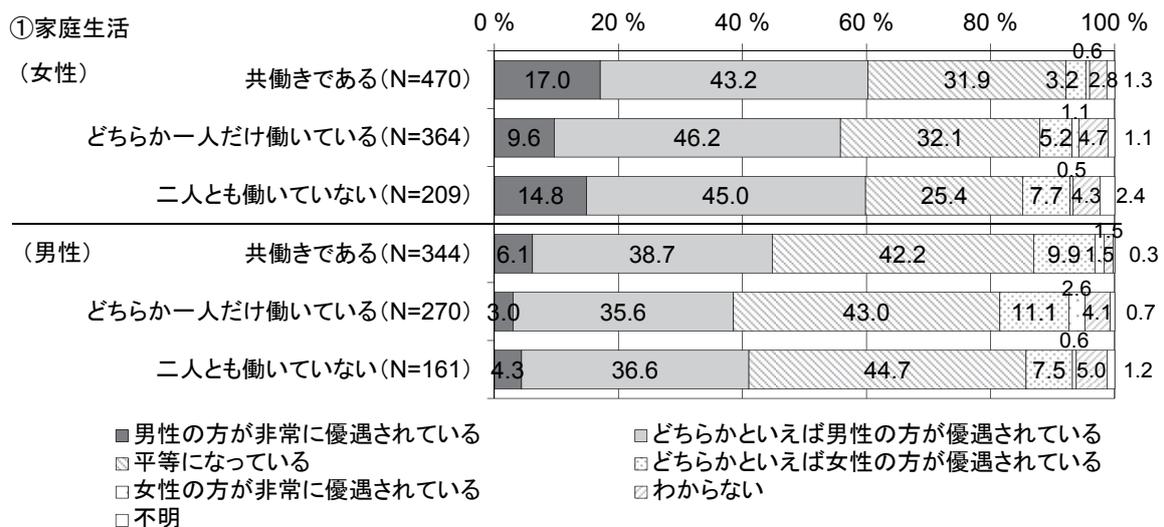
一方、「平等になっている」は男性「結婚している」(42.9%)や男性「結婚したことはない」(38.3%)が約4割で比較的高くなっています。



【性別×働き方別】

- 働き方にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が高い

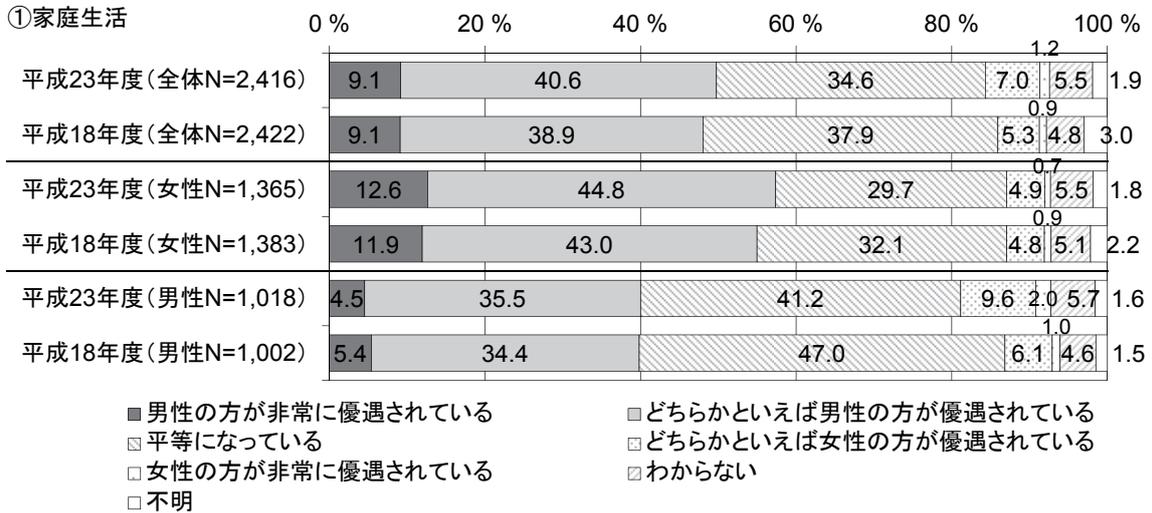
合算値「男性が優遇」は、働き方にかかわらず女性、「平等になっている」は、働き方にかかわらず男性が高くなっています。



【性別×経年変化】

- 男女とも大きな変化は見られない
- 男性は「平等」が若干減少

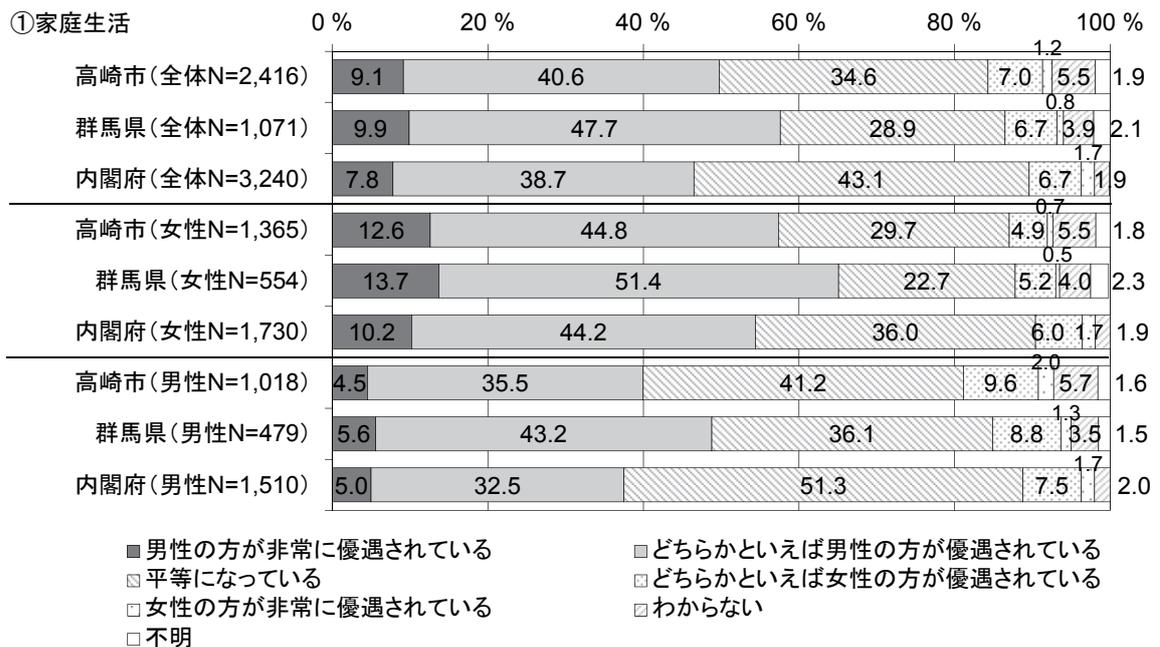
前回調査と比較すると、男女とも大きな変化は見られません。その中で、男性は「平等になっている」が若干減少しています。



【性別×他調査との比較】

- 「男性が優遇」は男女とも群馬県より低く、国と同程度
- 「平等」は男女とも群馬県より高く、国より低い

合算値「男性が優遇」は、男女とも群馬県より低く、内閣府と同程度になっています。一方、「平等になっている」は、男女とも群馬県より高く、内閣府より低くなっています。



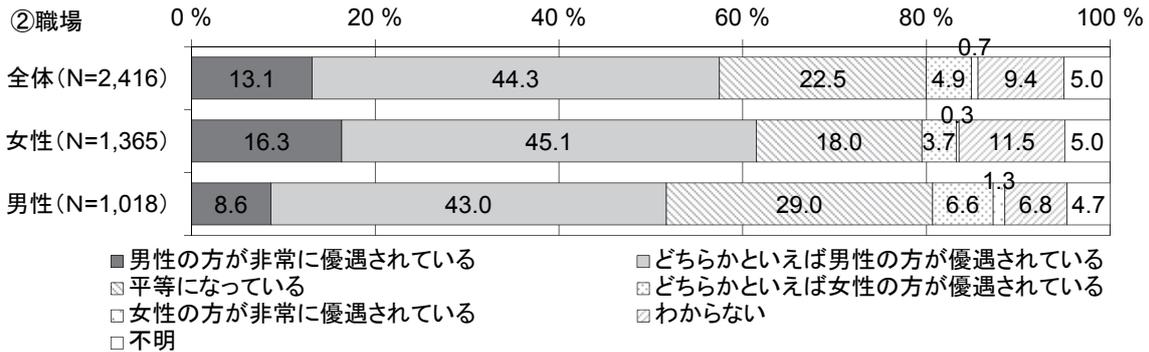
②職場

【全体・性別】

- 男女とも「どちらかといえば男性が優遇」が4割以上で最も高い
- 「男性が優遇」は女性が約6割、男性が約5割

男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（女性45.1%、男性43.0%）が最も高くなっています。また、男性は「平等になっている」（29.0%）も比較的高くなっています。

合算値「男性が優遇」は、女性61.4%、男性51.6%となっています。

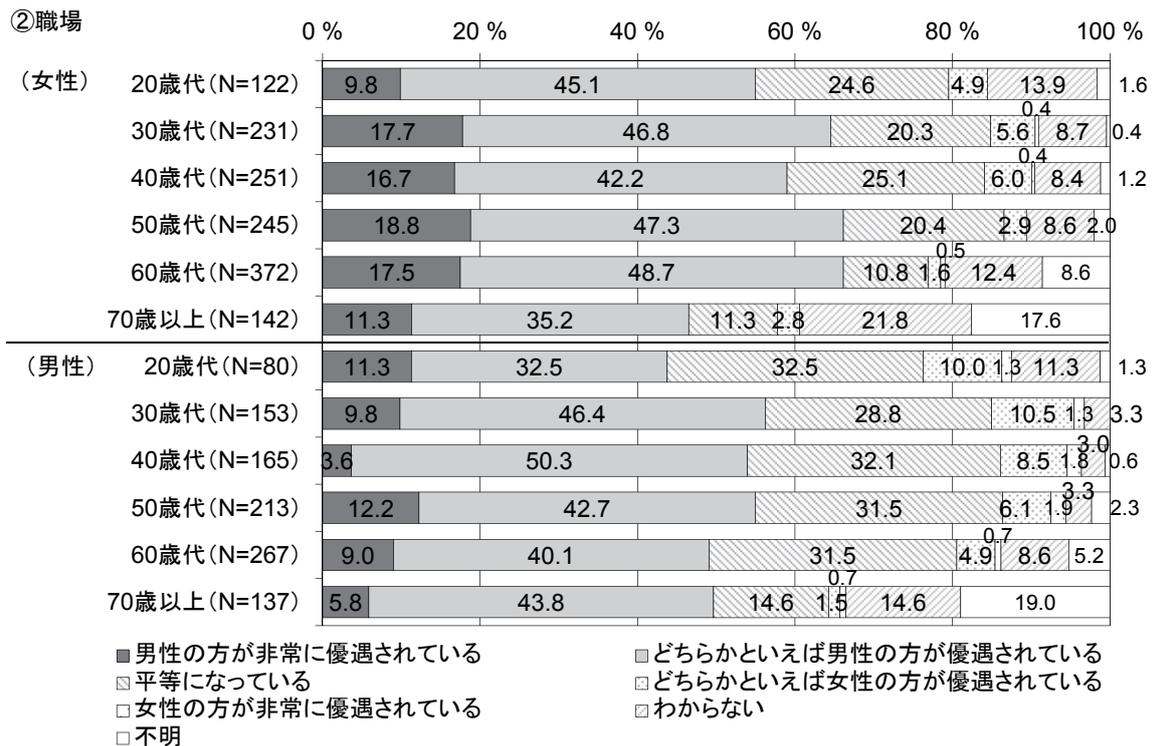


【性別×年代別】

- 70歳以上を除くすべての年代で「男性が優遇」は女性が高い
- 70歳以上は「男性が優遇」が男女同程度
- すべての年代で「平等」は男性が高い

合算値「男性が優遇」は、女性30・50・60歳代（それぞれ64.5%、66.1%、66.2%）が比較的高く、いずれも6割以上となっています。また、70歳以上を除くすべての年代で女性が高くなっています。

一方、「平等になっている」は、すべての年代で男性が高くなっています。

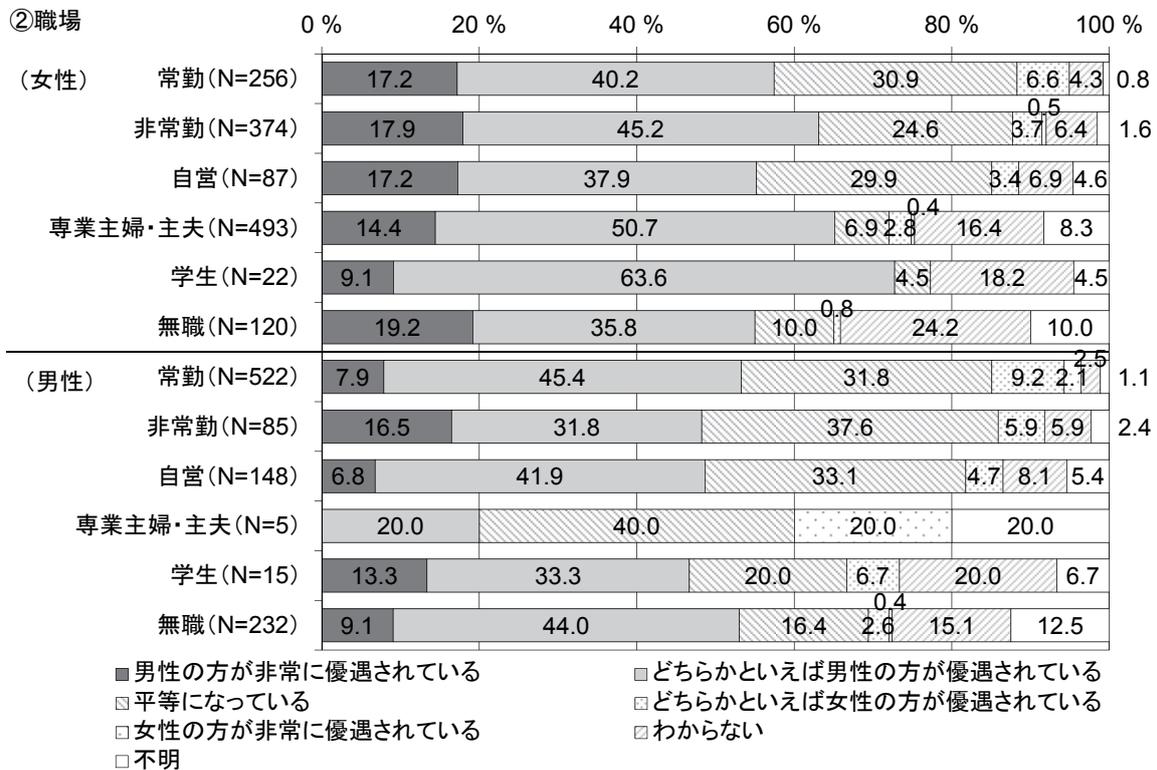


【性別×職業別】

● すべての職業で「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は女性学生（72.7%）が最も高く、すべての職業で女性が高くなっています。

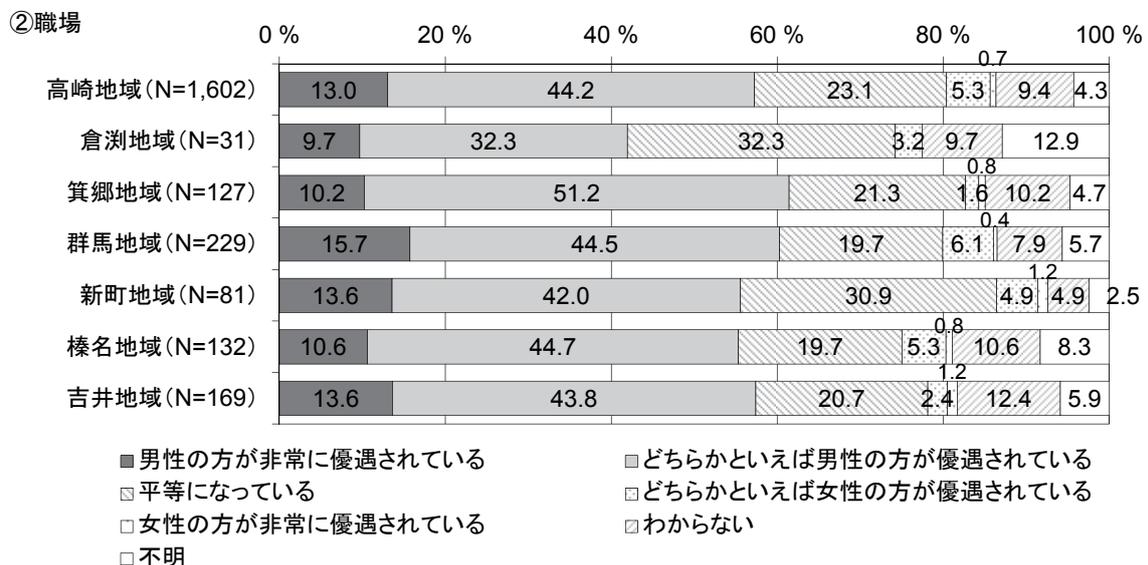
一方、「平等になっている」は、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、男性非常勤（37.6%）が最も高く、すべての職業で男性が比較的高くなっています。



【地域別】

● 倉渚地域は「男性が優遇」が比較的低く、「平等」が比較的高い

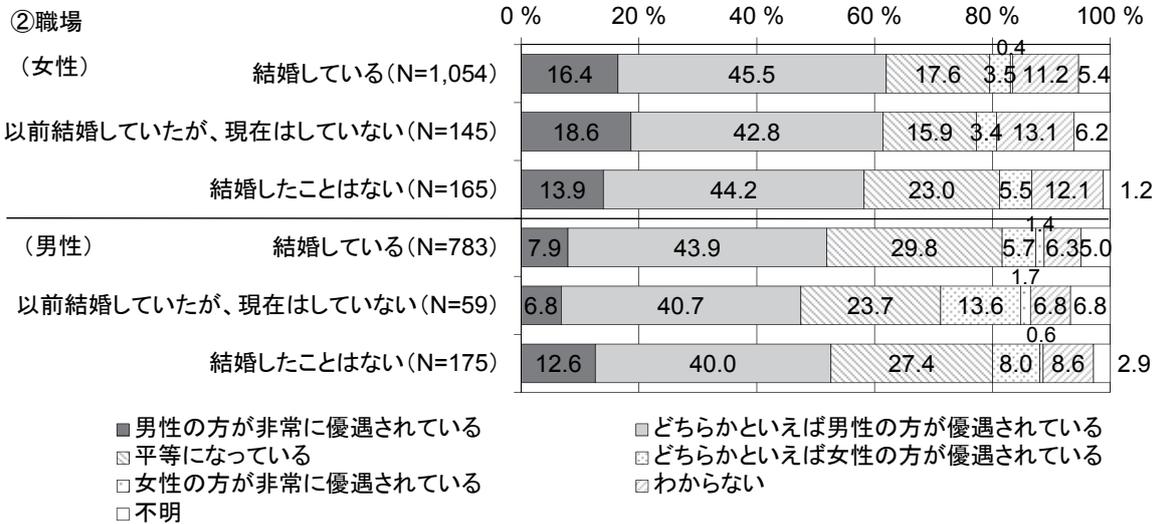
合算値「男性が優遇」は、倉渚地域（42.0%）が比較的低く、その一方で、「平等になっている」は、倉渚地域（32.3%）が比較的高くなっています。



【性別×結婚経験別】

● 結婚経験にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、結婚経験にかかわらず女性、「平等になっている」は、結婚経験にかかわらず男性が比較的高くなっています。



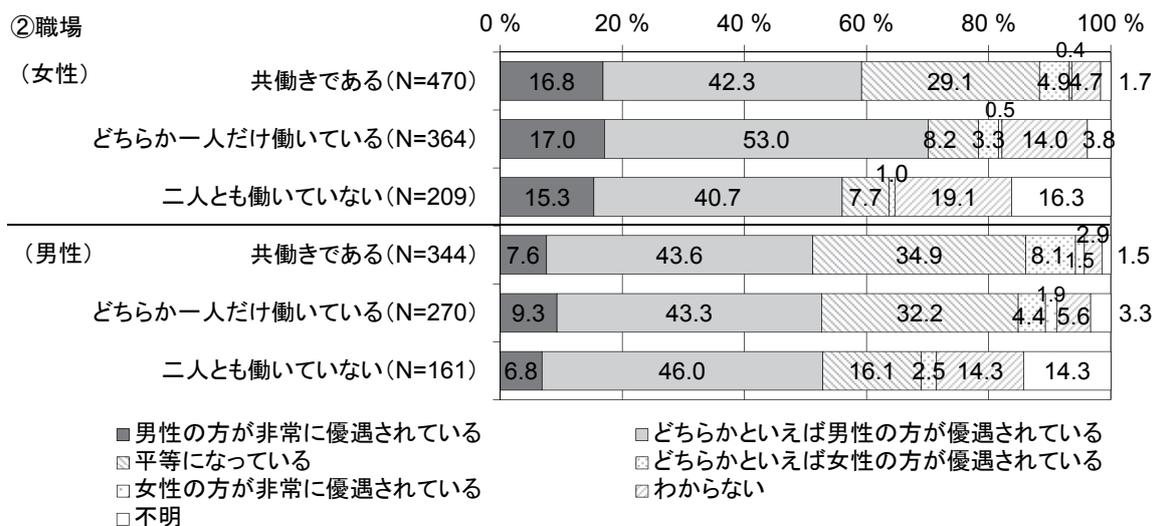
【性別×働き方別】

● 働き方にかかわらず「男性が優遇」は女性が比較的高い

● 「平等」は男性「共働き」「どちらか一人だけ働いている」が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、女性「どちらか一人だけ働いている」(70.0%)が特に高く、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

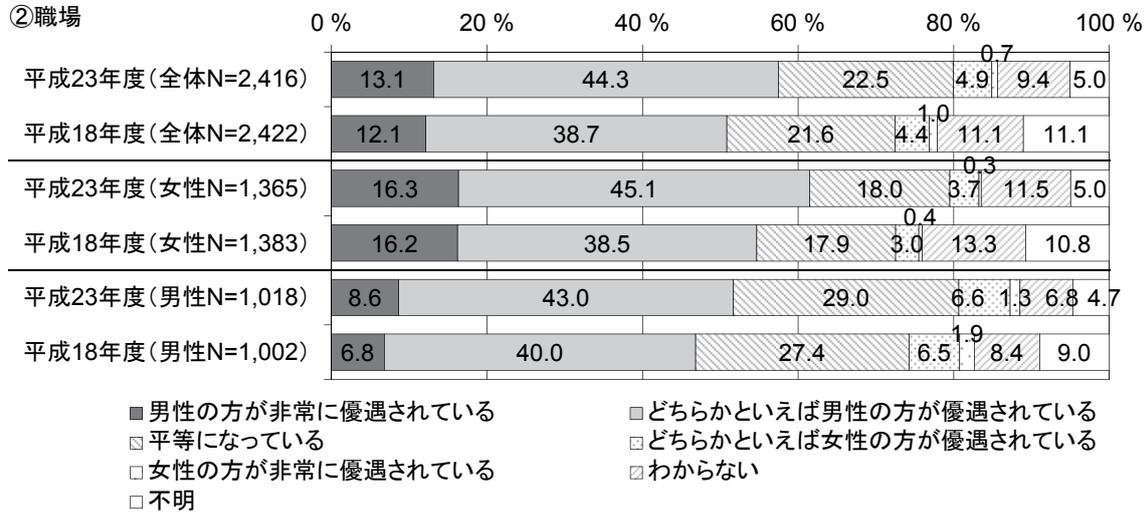
一方、「平等になっている」は、男性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」(それぞれ 34.9%、32.2%)が比較的高くなっています。



【性別×経年変化】

● 男女とも「男性が優遇」が増加

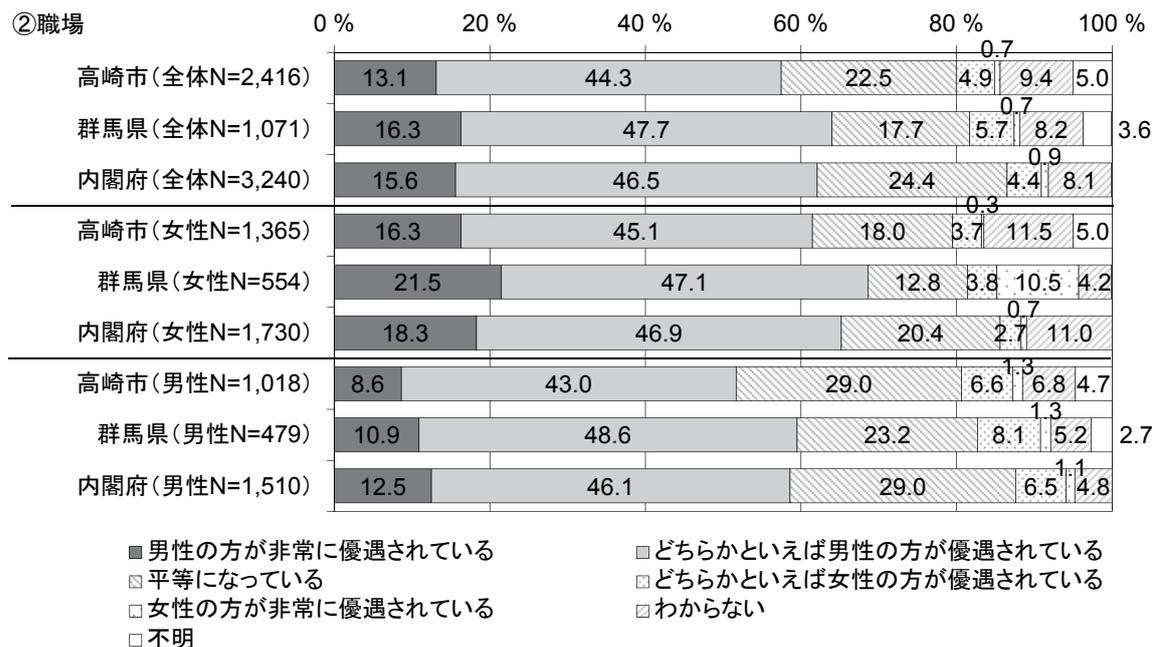
前回調査と比較すると、合算値「男性が優遇」が男女とも若干増加しています。特に女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が6.6ポイント高くなっています。



【性別×他調査との比較】

- 「男性が優遇」は男女とも群馬県や国より低い
- 「平等」は男女とも群馬県より高く、国と同程度

合算値「男性が優遇」は、男女とも群馬県や内閣府より低くなっています。一方、「平等になっている」は、男女とも群馬県より高く、内閣府と同程度になっています。



③学校教育の場

【全体・性別】

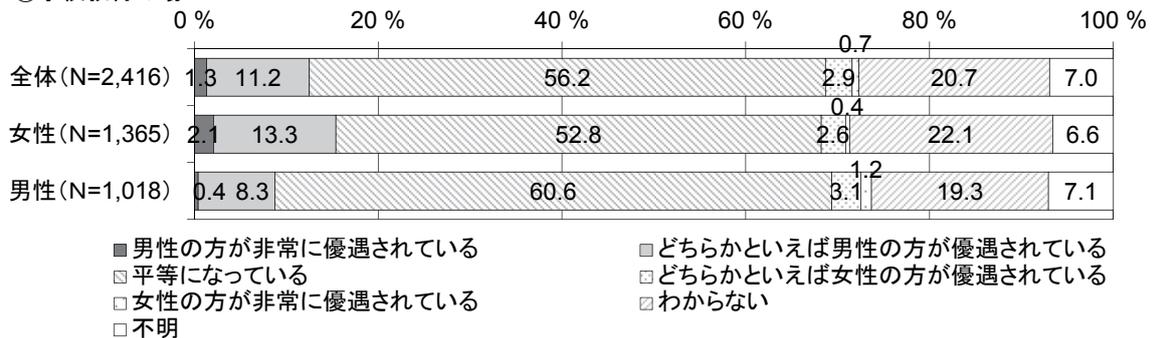
- 男女とも「平等」が最も高く、女性が約5割、男性が約6割
- 「男性が優遇」は女性が比較的高い

男女とも「平等になっている」(女性 52.8%、男性 60.6%) が最も高くなっています。また、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(13.3%) も比較的高くなっています。

合算値「男性が優遇」は、女性 15.4%、男性 8.7%となっています。

また、男女とも「わからない」が2割程度見られます。

③学校教育の場

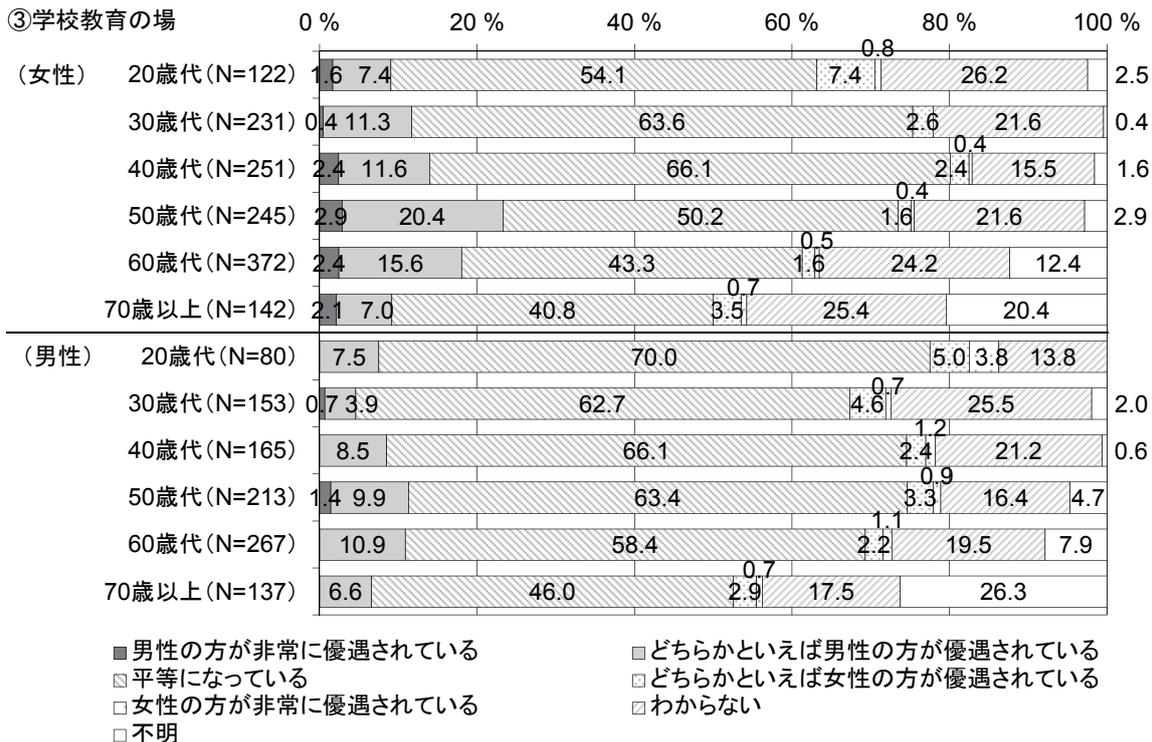


【性別×年代別】

- 男女ともすべての年代で「平等」が最も高い
- 女性60歳代以上、男性70歳以上は「平等」が比較的低い

「平等になっている」は、男女とも多くの年代で5割以上となっていますが、女性60歳代(43.3%)、女性70歳以上(40.8%)、男性70歳以上(46.0%)では比較的低くなっています。合算値「男性が優遇」は、女性50歳代(23.3%)が比較的高くなっています。

③学校教育の場

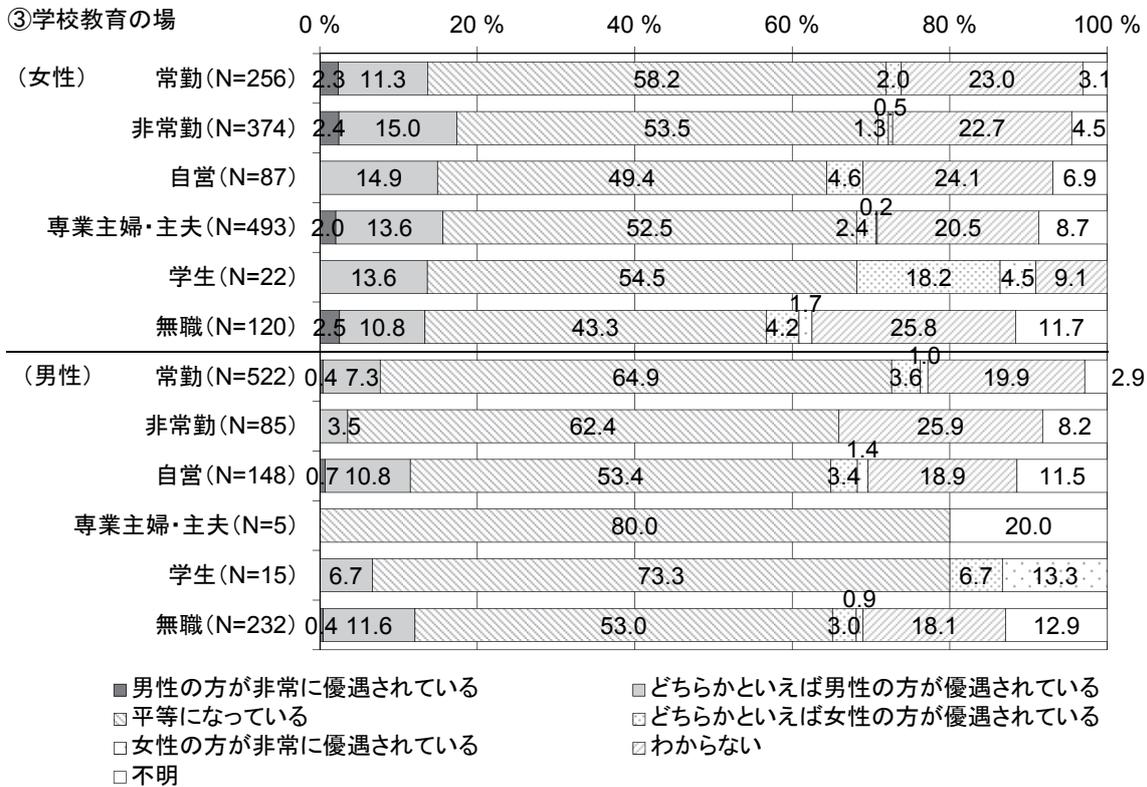


【性別×職業別】

- 男女ともすべての職業で「平等」が最も高い
- 女性無職は「平等」が比較的低い

「平等になっている」は、男女ともほとんどの職業で5割以上となっていますが、女性無職（43.3%）では比較的低くなっています。

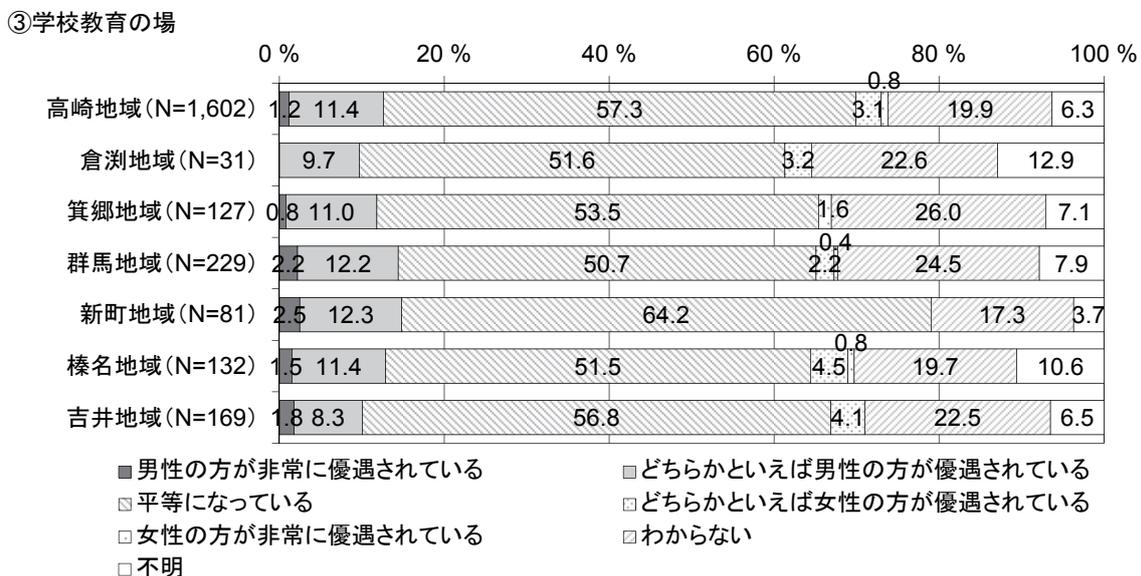
合算値「男性が優遇」は、すべての職業で女性が比較的高くなっています。



【職業別】

- すべての地域で「平等」が最も高く、特に新町地域が高い

すべての地域で「平等になっている」が最も高く、特に新町地域（64.2%）は6割以上となっています。

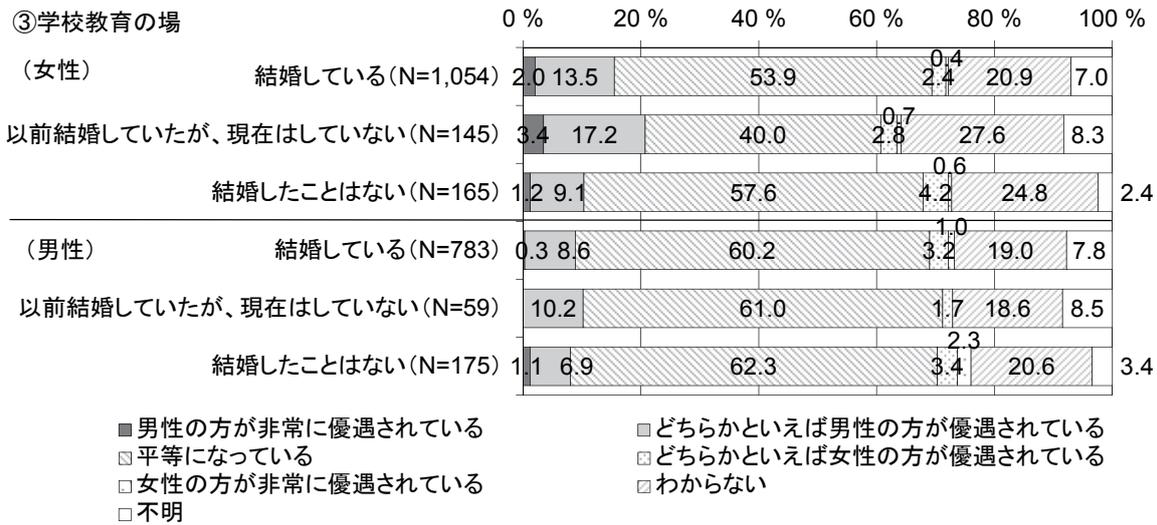


【性別×結婚経験別】

- 女性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「平等」が比較的低く、「男性が優遇」が比較的高い

「平等になっている」は、ほとんどの属性で5割以上となっていますが、女性「以前結婚していたが、現在はしていない」(40.0%)は比較的低くなっています。

合算値「男性が優遇」は、女性「以前結婚していたが、現在はしていない」(20.6%)が比較的高くなっています。

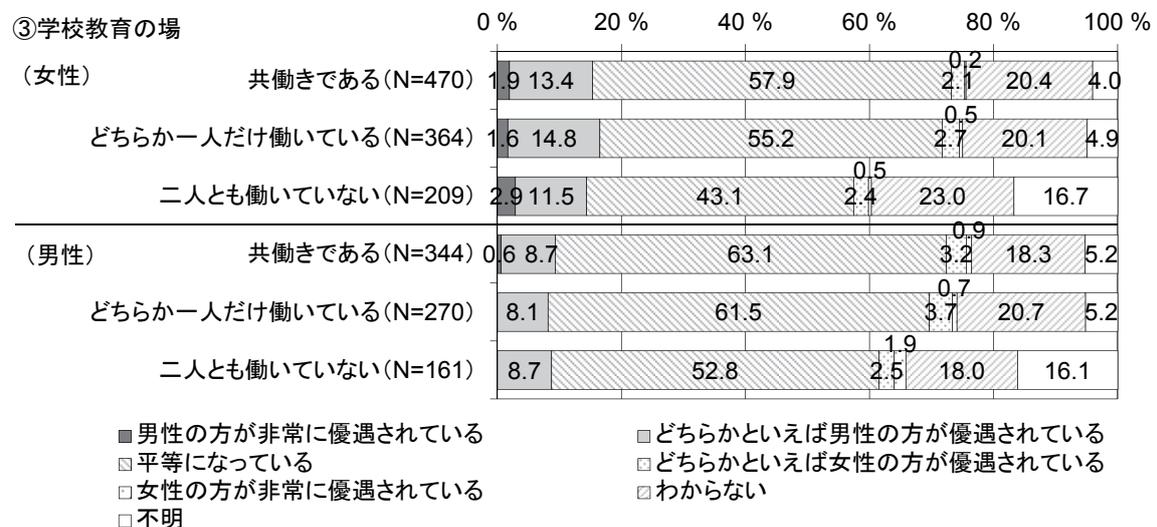


【性別×働き方別】

- 女性「二人とも働いていない」は「平等」が比較的低い
- 働き方にかかわらず「男性が優遇」は女性が比較的高い

「平等になっている」は、ほとんどの属性で5割以上となっていますが、女性「二人とも働いていない」(43.1%)は比較的低くなっています。

合算値「男性が優遇」は、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

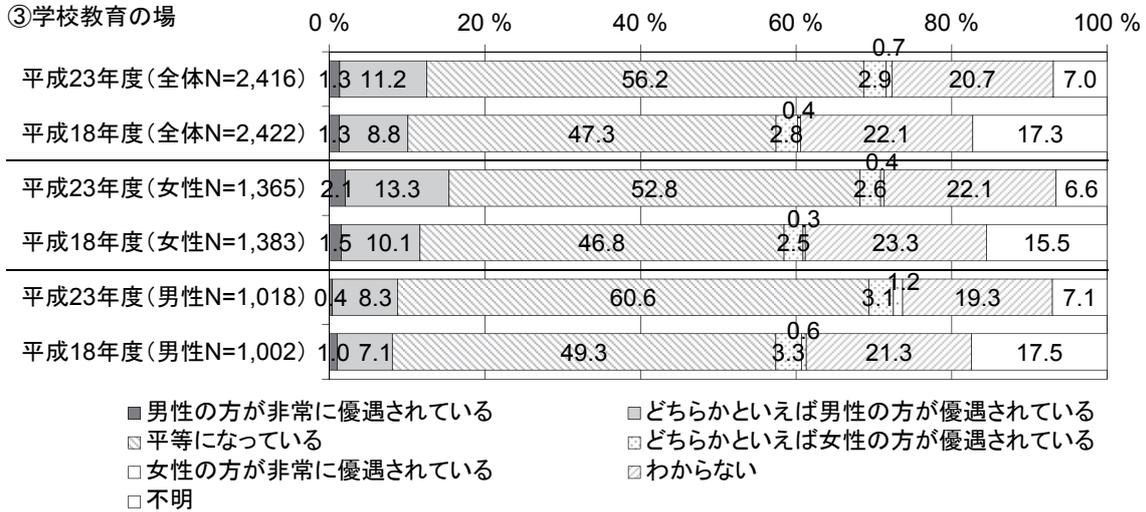


【性別×経年変化】

● 男女とも「平等」が増加

前回調査と比較すると、「平等になっている」が男女とも増加しており、特に男性は11.3ポイント増加しています。

合算値「男性が優遇」は、女性が若干増加しています。



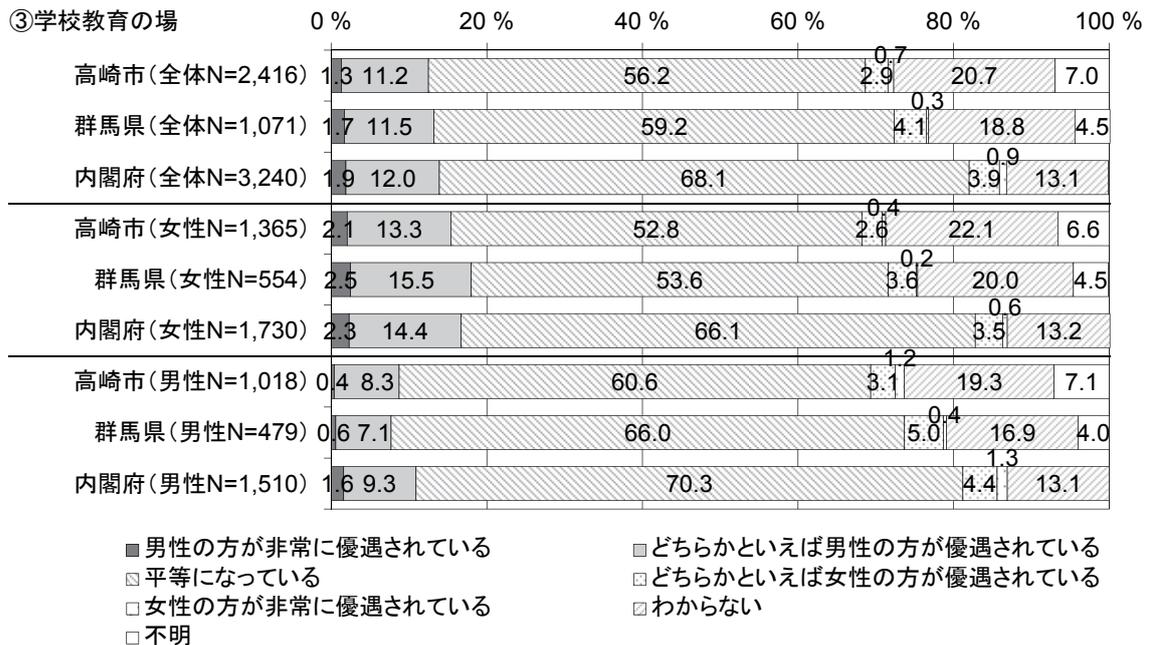
【性別×他調査との比較】

● 「平等」は男女とも国より低く、女性は群馬県と同程度、男性は群馬県より低い

● 「男性が優遇」は男女とも群馬県や国と同程度

「平等になっている」は、女性は内閣府より低く、群馬県と同程度、男性は群馬県や内閣府より低くなっています。

一方、合算値「男性が優遇」は、男女とも群馬県や内閣府と同程度になっています。



④地域社会

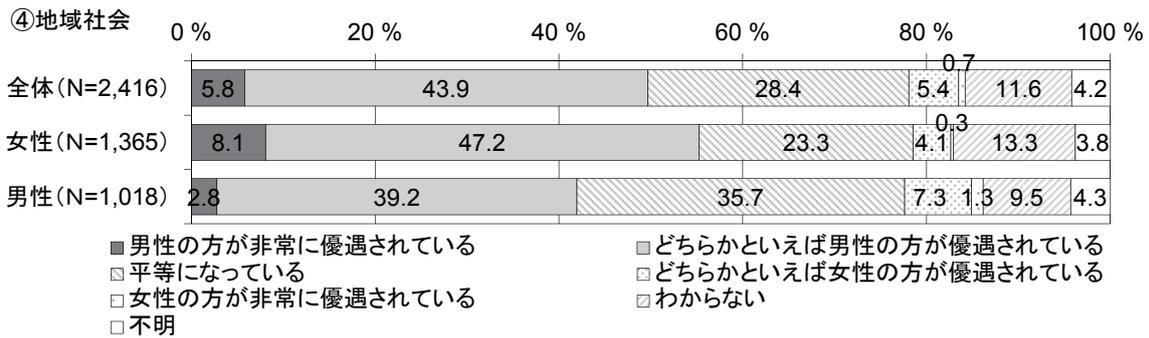
【全体・性別】

- 男女とも「どちらかといえば男性が優遇」が最も高く、女性が約5割、男性が約4割
- 「男性が優遇」は女性が約6割、男性が約4割
- 男性は「平等」も約4割

男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（女性47.2%、男性39.2%）が最も高くなっています。

合算値「男性が優遇」は、女性が55.3%、男性が42.0%となっています。

また、男性は「平等になっている」（35.7%）も比較的高くなっています。

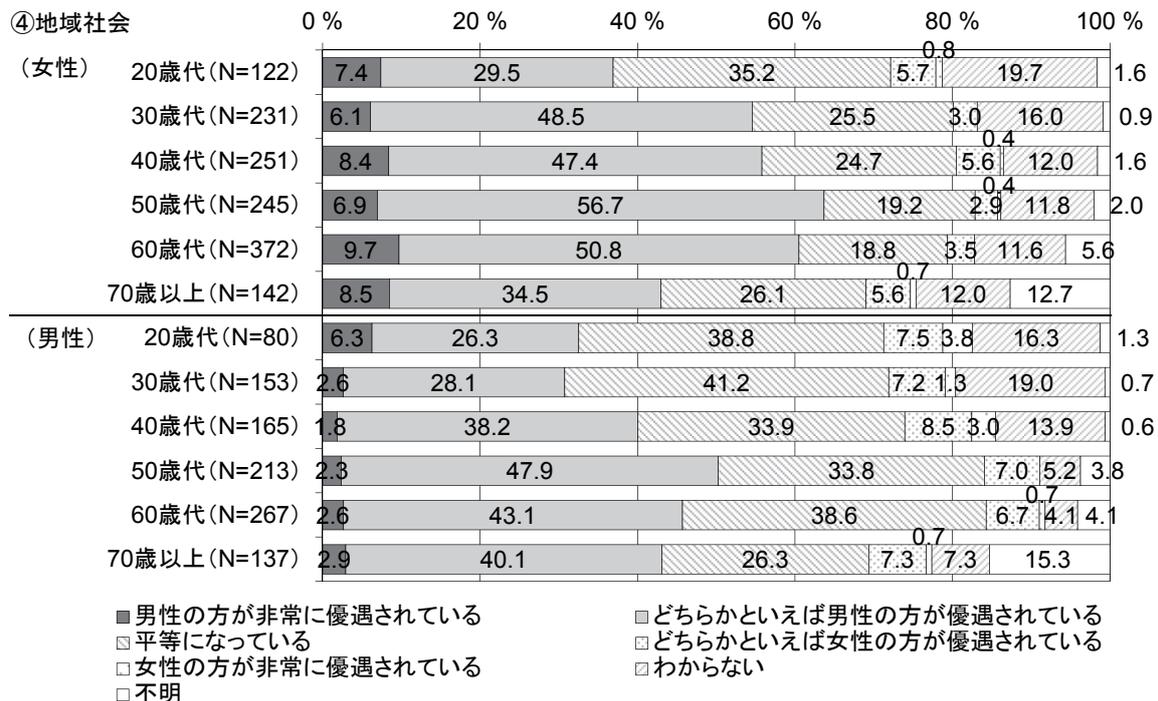


【性別×年代別】

- 70歳以上を除くすべての年代で「男性が優遇」は女性が高い
- 70歳以上は「男性が優遇」が男女同値
- すべての年代で「平等」は男性が高い

合算値「男性が優遇」は、女性50歳代（63.6%）や女性60歳代（60.5%）が6割以上で比較的高くなっています。また、70歳以上を除くすべての年代で女性が高くなっています。70歳以上は男女が同値（43.0%）となっています。

一方、「平等になっている」は、男性30歳代（41.2%）が最も高く、すべての年代で男性が高くなっています。

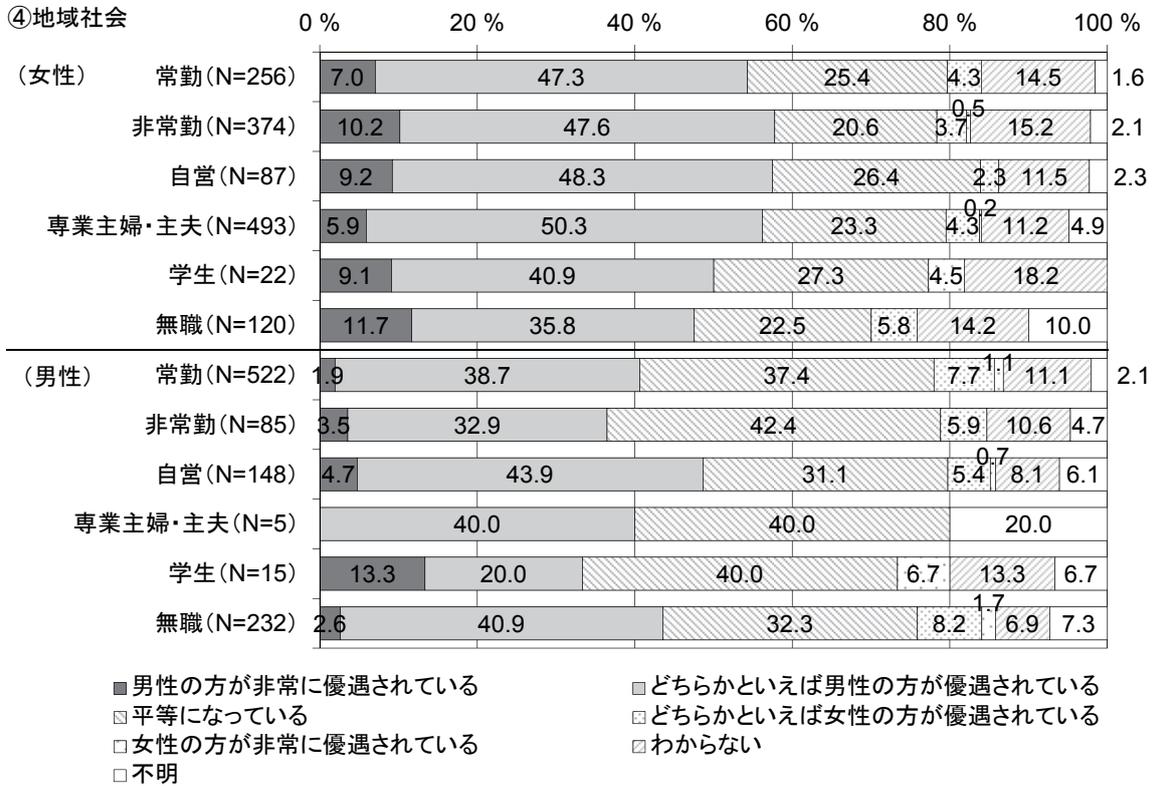


【性別×職業別】

● すべての職業で「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「平等になっている」は、男性非常勤（42.4%）が最も高く、すべての職業で男性が比較的高くなっています。

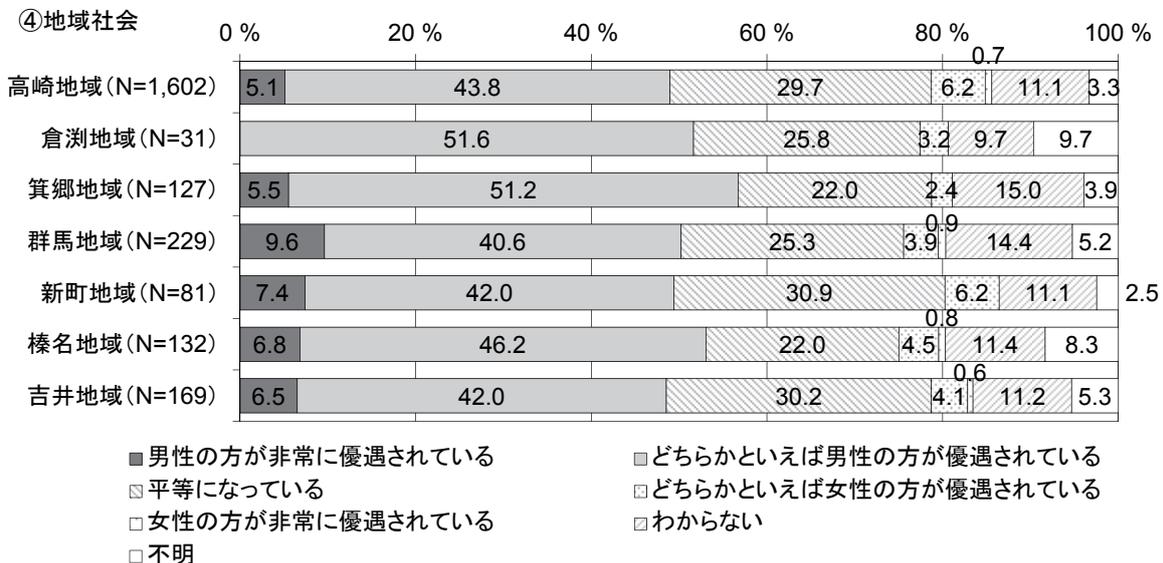


【地域別】

● 「男性が優遇」は箕郷地域が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、箕郷地域（56.7%）が比較的高くなっています。

一方、「平等になっている」は、地域による大きな差は見られません。

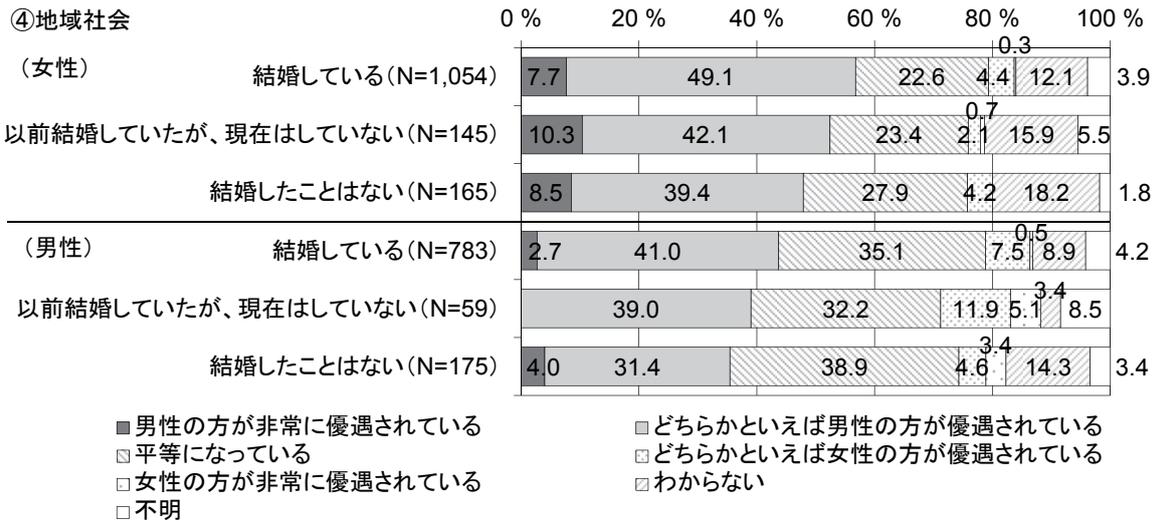


【性別×結婚経験別】

- 「男性が優遇」は男女とも「結婚している」が最も高く、「結婚したことはない」が最も低い
- 結婚経験にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、男女とも「結婚している」が最も高く、「結婚したことはない」が最も低くなっています。また、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。

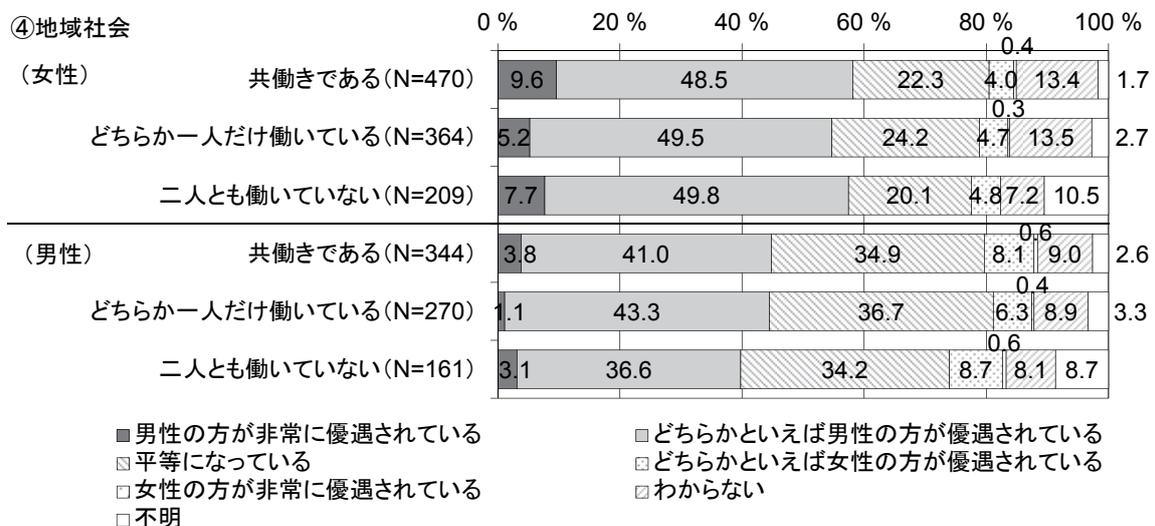
一方、「平等になっている」は、男性「結婚したことはない」(38.9%)が最も高く、結婚経験にかかわらず男性が比較的高くなっています。



【性別×働き方別】

- 働き方にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が高い

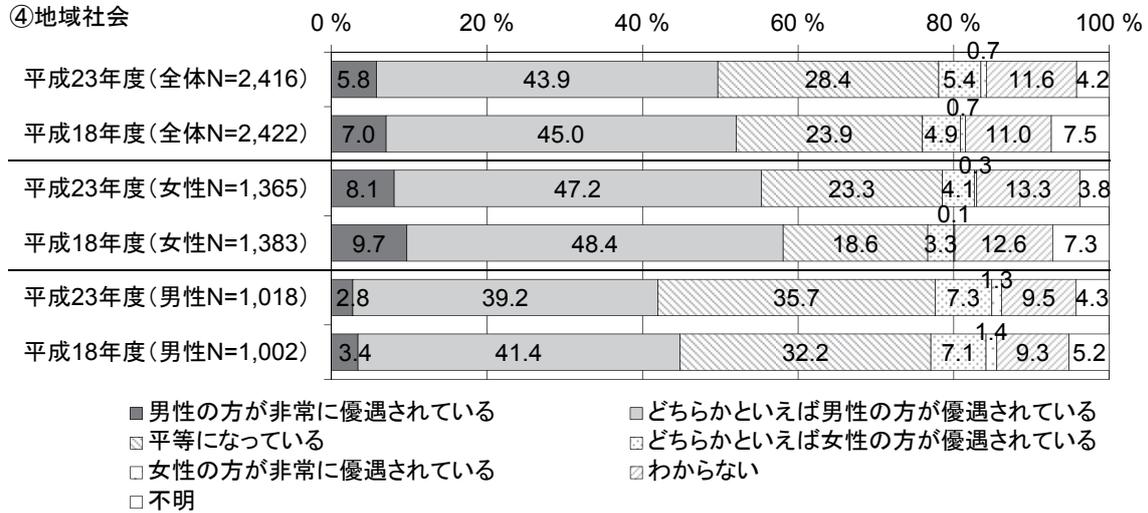
合算値「男性が優遇」は、働き方にかかわらず女性、「平等になっている」は、働き方にかかわらず男性が高くなっています。



【性別×経年変化】

● 男女とも「男性が優遇」が若干減少し、「平等」が若干増加

前回調査と比較すると、大きな変化は見られませんが、男女とも合算値「男性が優遇」は若干減少、「平等になっている」は若干増加しています。



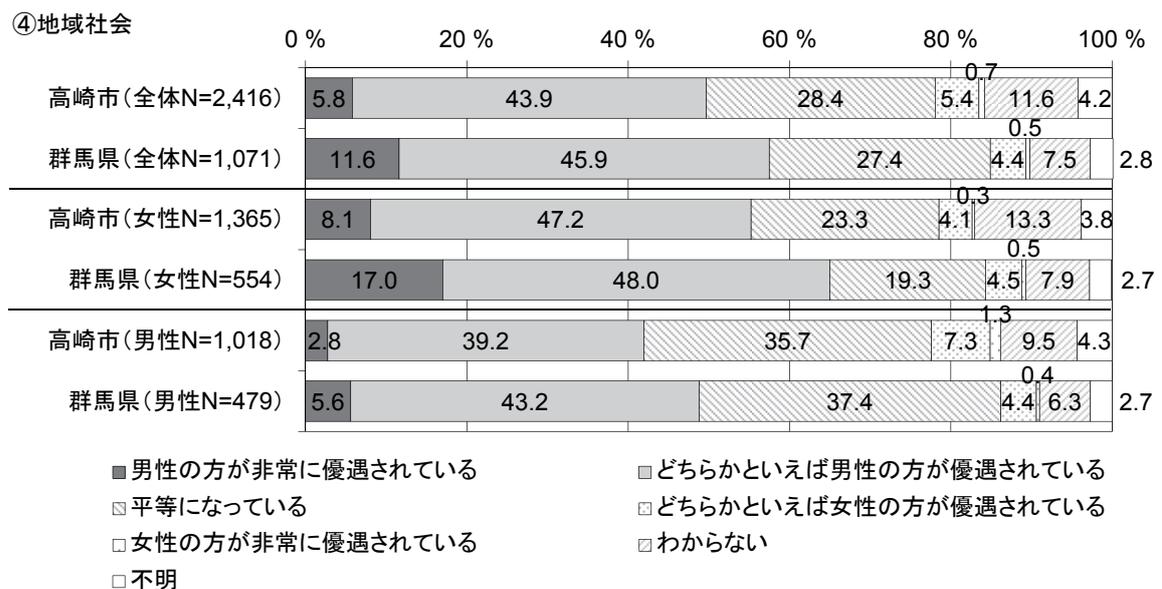
【性別×他調査との比較】

● 「男性が優遇」は男女とも群馬県より低く、特に女性が低い

● 「平等」は群馬県より女性は高く、男性は同程度

合算値「男性が優遇」は、男女とも群馬県より低く、特に女性は 9.7 ポイント低くなっています。

一方、「平等になっている」は、女性は群馬県より高く、男性は群馬県と同程度になっています。



⑤社会全体

【全体・性別】

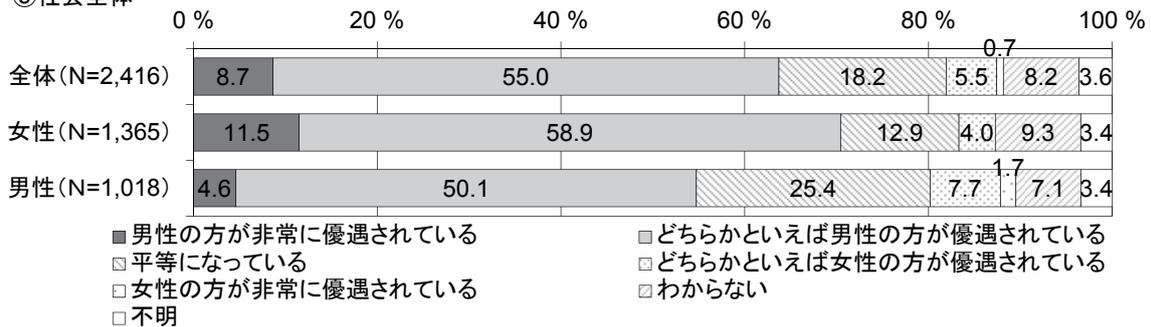
- 男女とも「どちらかといえば男性が優遇」が最も高く、女性が約6割、男性が約5割
- 「男性が優遇」は女性が約7割、男性が約5割
- 男性は「平等」も約3割

男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（女性 58.9%、男性 50.1%）が最も高く、特に女性（58.9%）は約6割となっています。

合算値「男性が優遇」は、女性 70.4%、男性 54.7%となっています。

また、男性は「平等になっている」（25.4%）も比較的高くなっています。

⑤社会全体



【性別×年代別】

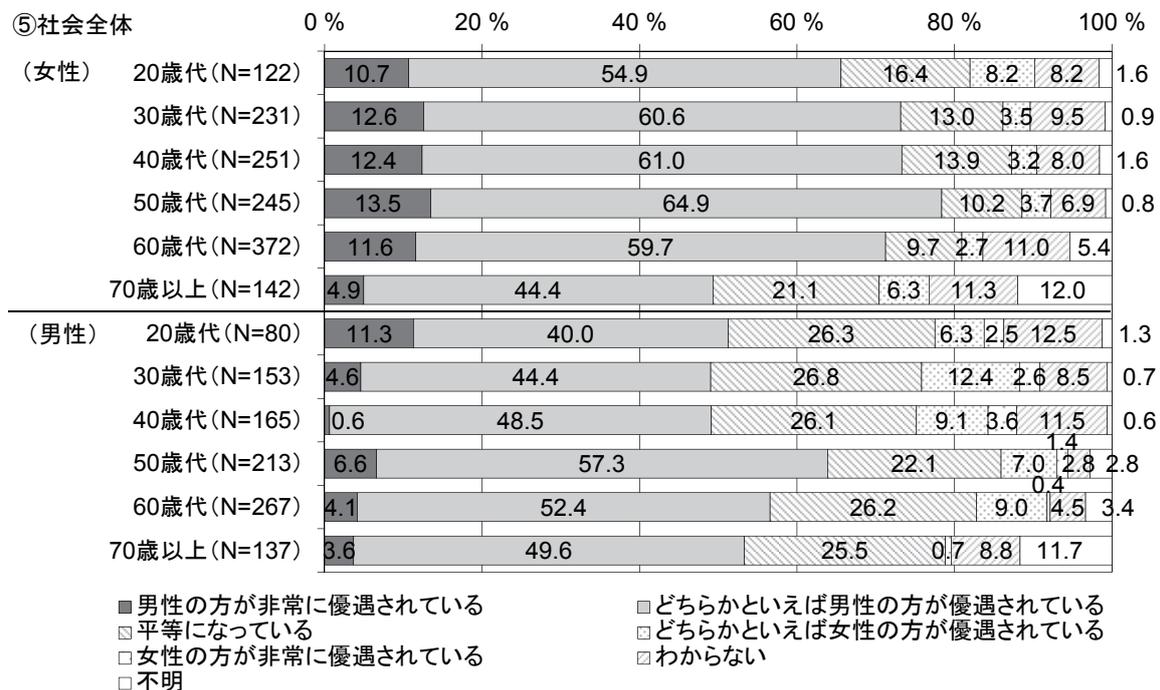
- 70歳以上を除くすべての年代で「男性が優遇」は女性が高い
- 70歳以上は「男性が優遇」が男女同程度
- すべての年代で「平等」は男性が高い

合算値「男性が優遇」は、女性 50歳代（78.4%）が最も高く、約8割となっています。

また、70歳以上を除くすべての年代で女性が高く、70歳以上は女性（49.3%）と男性（53.2%）が同程度になっています。

一方、「平等になっている」は、すべての年代で男性が高くなっています。

⑤社会全体

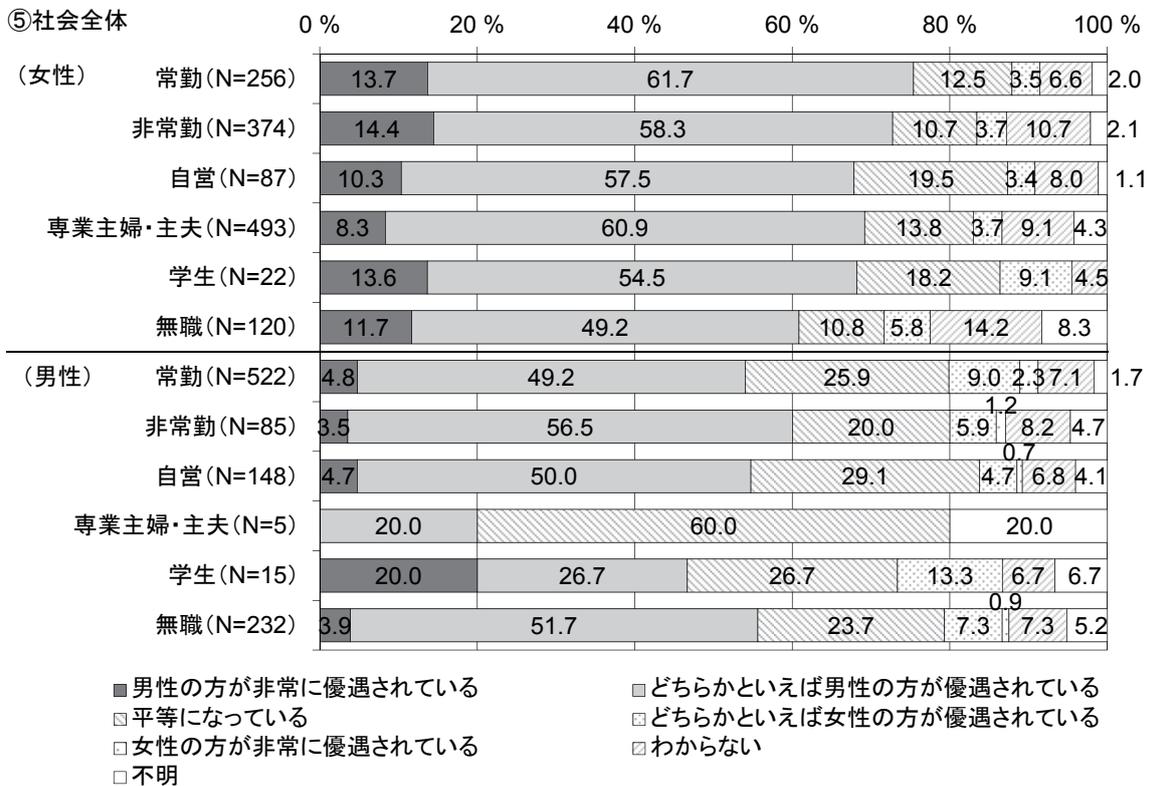


【性別×職業別】

● すべての職業で「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、女性常勤（75.4%）が最も高く、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「平等になっている」は、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、男性自営（29.1%）が最も高く、すべての職業で男性が比較的高くなっています。

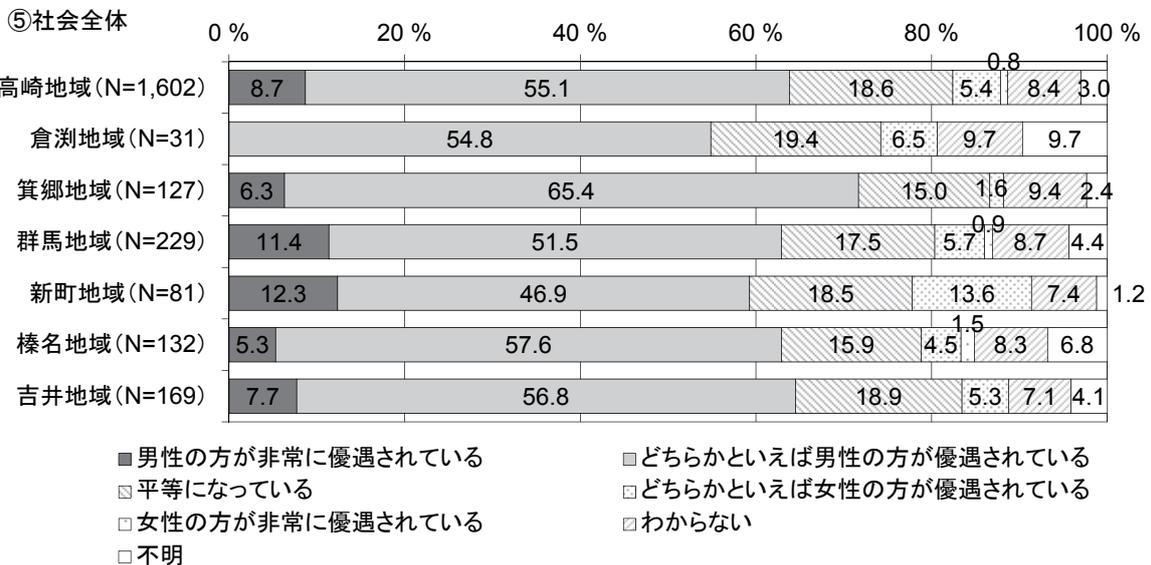


【地域別】

● 「男性が優遇」は箕郷地域が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、箕郷地域（71.7%）が比較的高くなっています。

一方、「平等になっている」は、地域よる大きな差は見られません。

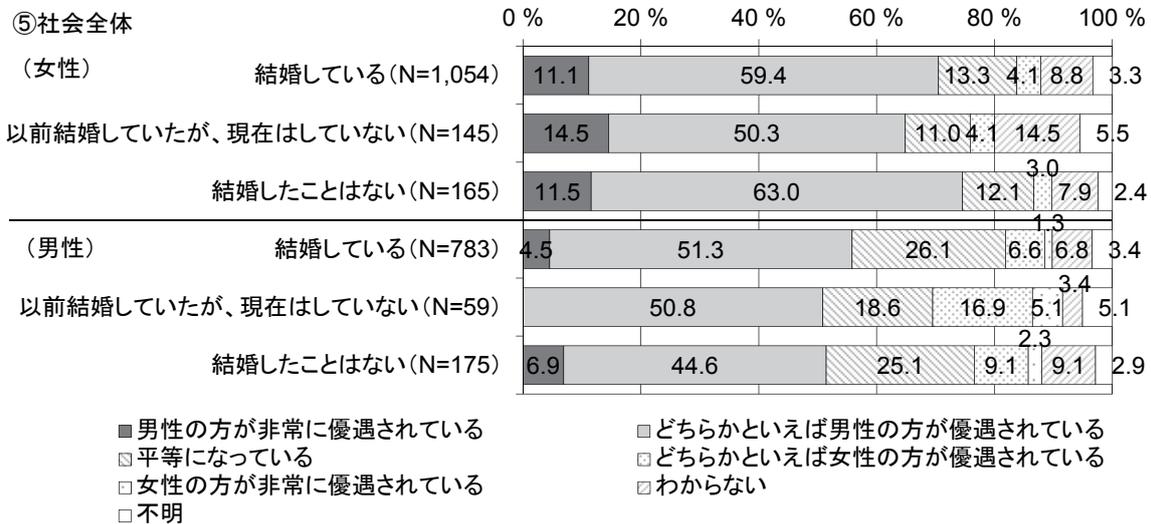


【性別×結婚経験別】

● 結婚経験にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が高い

合算値「男性が優遇」は、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。

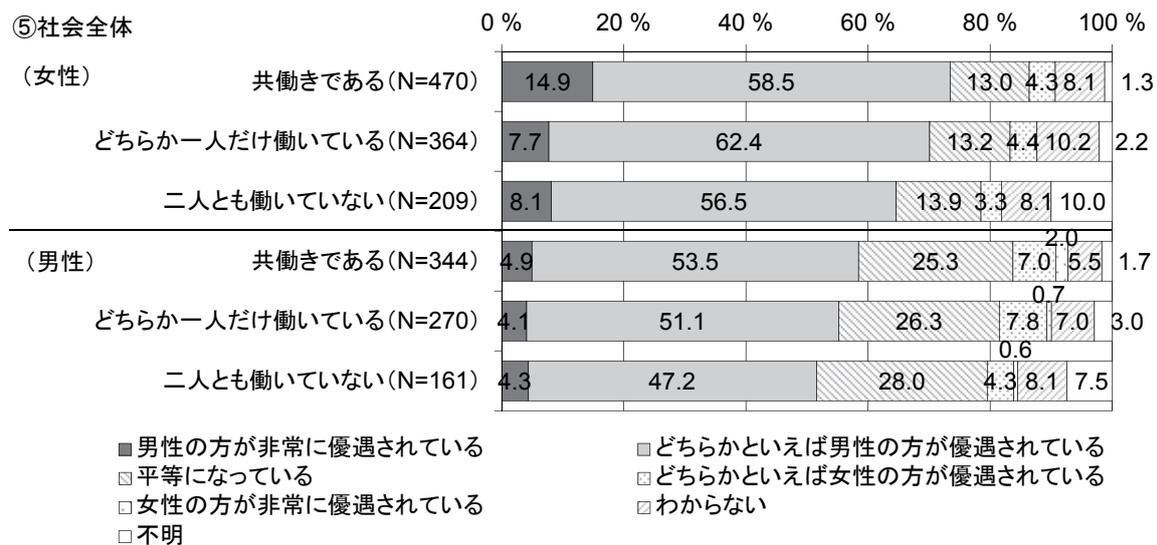
一方、「平等になっている」は男性「結婚している」(26.1%)や男性「結婚したことはない」(25.1%)が比較的高く、結婚経験にかかわらず男性が比較的高くなっています。



【性別×働き方別】

● 働き方にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が高い

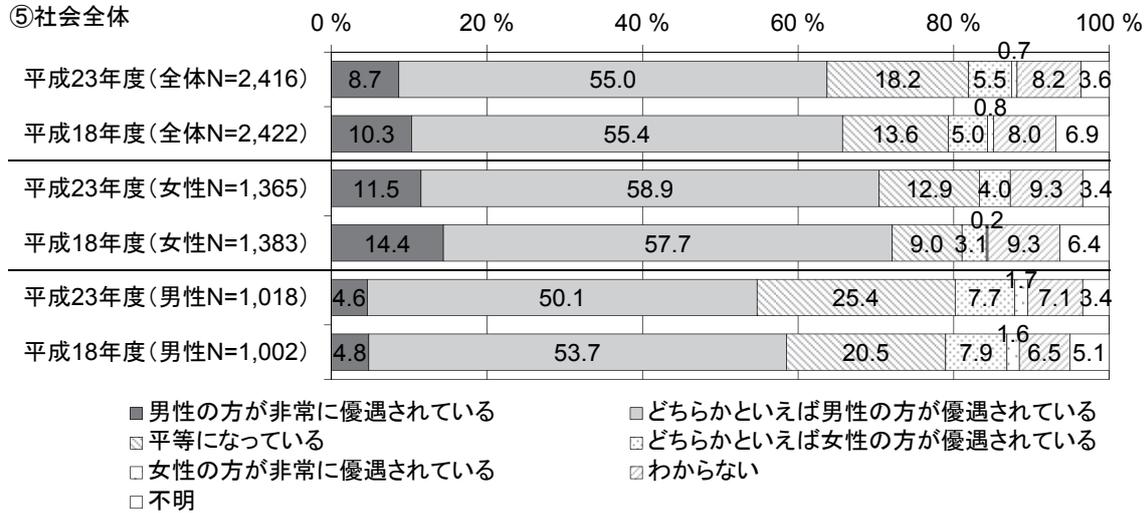
合算値「男性が優遇」は、働き方にかかわらず女性、「平等になっている」は、働き方にかかわらず男性が高くなっています。



【性別×経年変化】

● 男性は「平等」が若干増加

前回調査と比較すると、男女とも大きな変化は見られません。その中で、男性は「平等になっている」が若干増加しています。



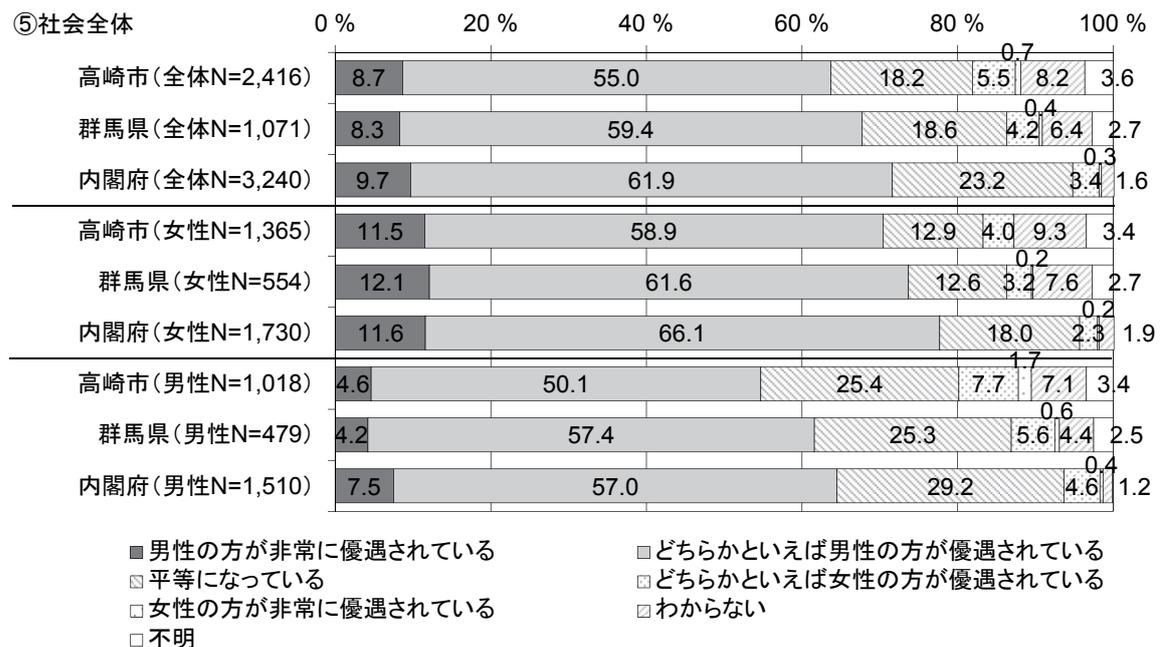
【性別×他調査との比較】

● 「男性が優遇」は男女とも群馬県や国より低い

● 「平等」は男女とも国より低く、群馬県と同程度

合算値「男性が優遇」は、男女とも群馬県や内閣府より低くなっています。

一方、「平等になっている」は、男女とも内閣府より低く、群馬県と同程度になっています。



## 2 結婚・家庭について

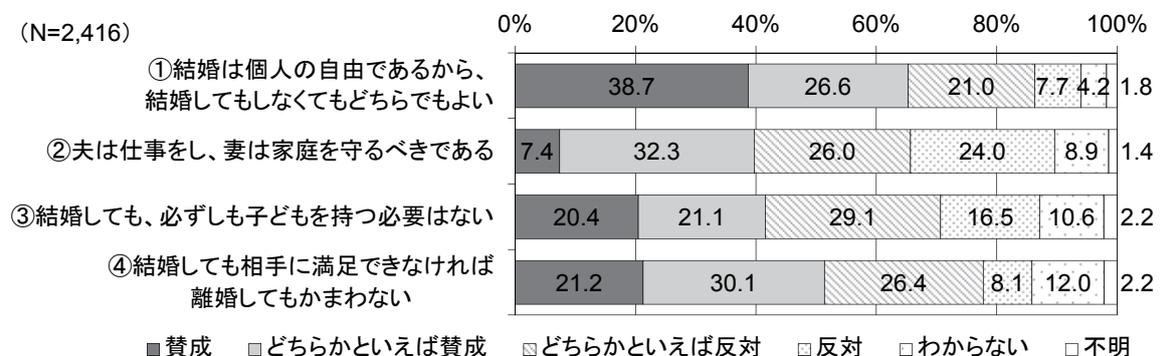
問2 結婚・家庭等について以下をどのように考えますか。

【全項目・全体】

- 「結婚は個人の自由」は「賛成」約7割
- 「夫は仕事・妻は家庭」「相手に満足できなければ離婚してもよい」は「賛成」約5割
- 「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」は「賛成」「反対」が同程度

「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は「賛成」(38.7%)、「②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである」は「どちらかという賛成」(32.3%)、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」は「どちらかといえば反対」(29.1%)、「④結婚しても相手に満足できなければ離婚してもかまわない」は「どちらかといえば賛成」(30.1%)がそれぞれ最も高くなっています。

「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合算値「賛成」と、「反対」と「どちらかといえば反対」の合算値「反対」について、どちらが上回っているかを見ると、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は合算値「賛成」(65.3%)が約7割、「②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである」は合算値「反対」(50.0%)が約5割、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」は合算値「賛成」(41.5%)と合算値「反対」(45.6%)が同程度、「④結婚しても相手に満足できなければ離婚してもかまわない」は合算値「賛成」(51.3%)が約5割で、それぞれ上回っています。



①結婚について（「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」）

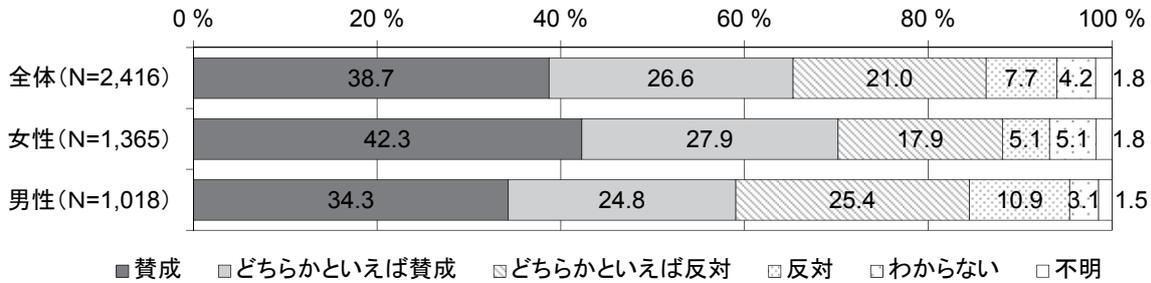
【全体・性別】

- 「賛成」は女性が約7割、男性が約6割

男女とも「賛成」（女性42.3%、男性34.3%）が最も高くなっています。

合算値「賛成」は、女性70.2%、男性59.1%となっています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



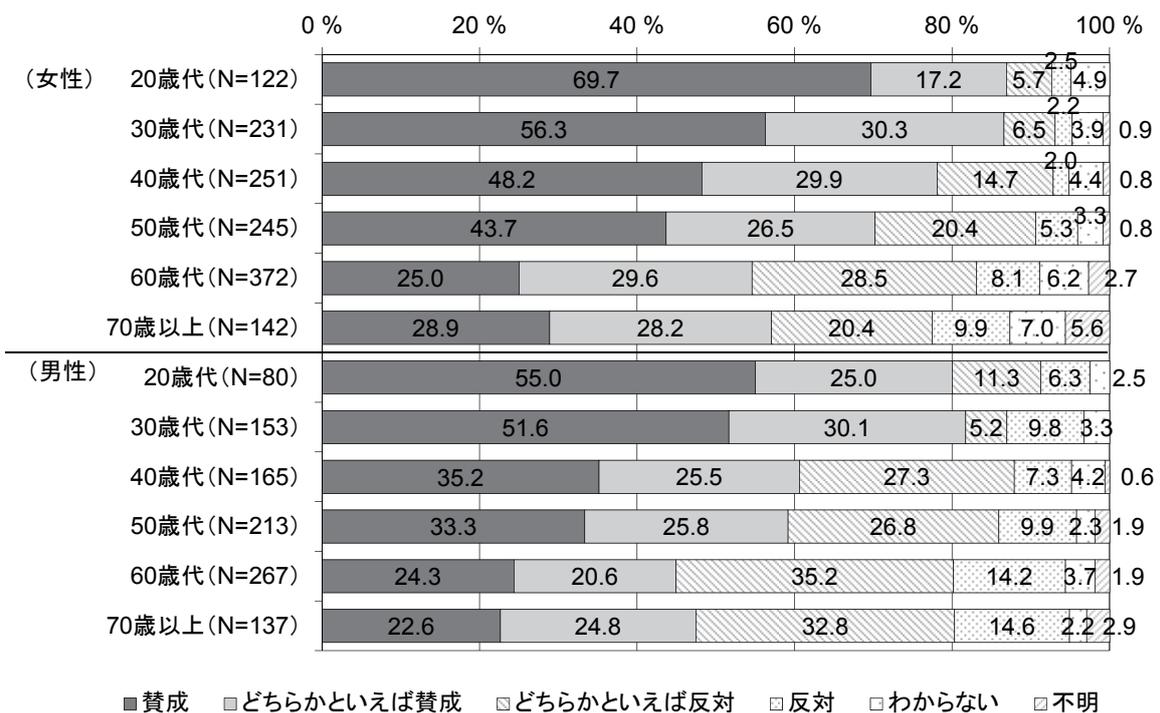
【性別×年代別】

- すべての年代で「賛成」は女性が高い
- 男女とも若い年代ほど「賛成」が高く、20・30歳代は男女とも8割以上
- 男性60歳代は「反対」が「賛成」を上回り、男性70歳以上は「賛成」「反対」が同値

合算値「賛成」は、男女とも20～30歳代で8割以上と高く、男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。また、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性60歳代（49.4%）や男性70歳以上（47.4%）が高く、男性60歳代は合算値「賛成」（44.9%）を上回り、男性70歳以上は「賛成」（47.4%）と同値となっています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



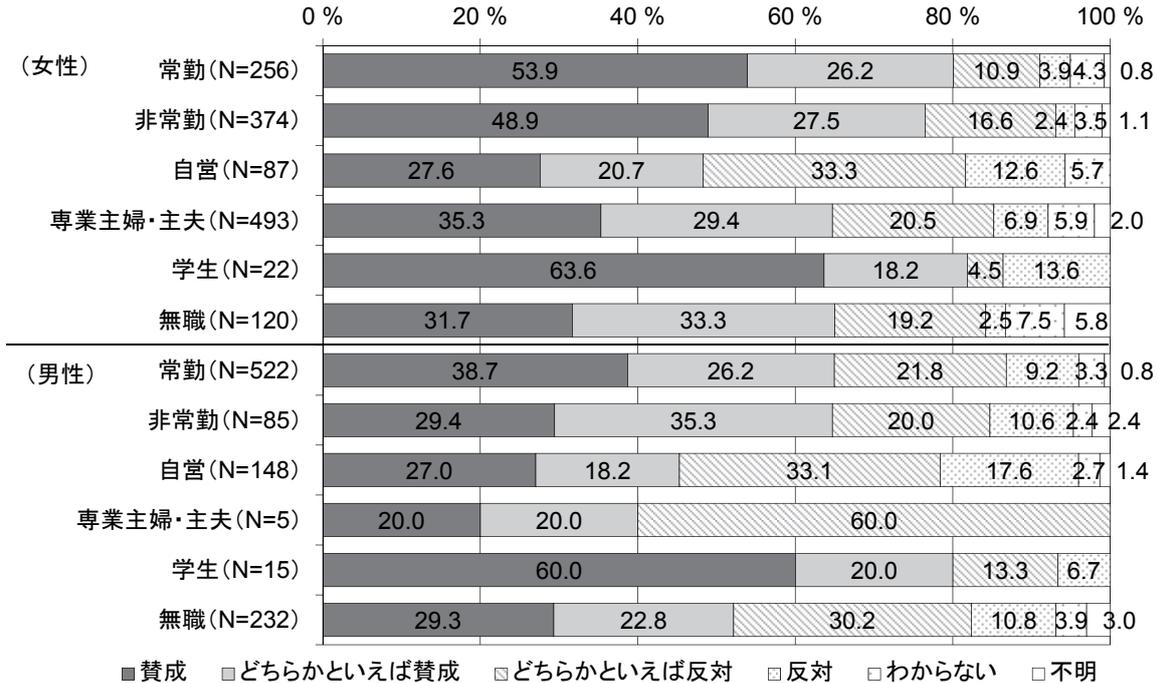
【性別×職業別】

- すべての職業で「賛成」は女性が高い
- 女性自営は「賛成」「反対」が同程度、男性自営は「反対」が「賛成」を上回る

合算値「賛成」は、女性常勤・非常勤・学生（それぞれ80.1%、76.4%、81.8%）、男性学生（80.0%）が特に高くなっています。また、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、合算値「反対」は、女性自営（45.9%）や男性自営（50.7%）が特に高く、女性自営は合算値「賛成」（48.3%）と同程度、男性自営は合算値「賛成」（45.2%）を上回っています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

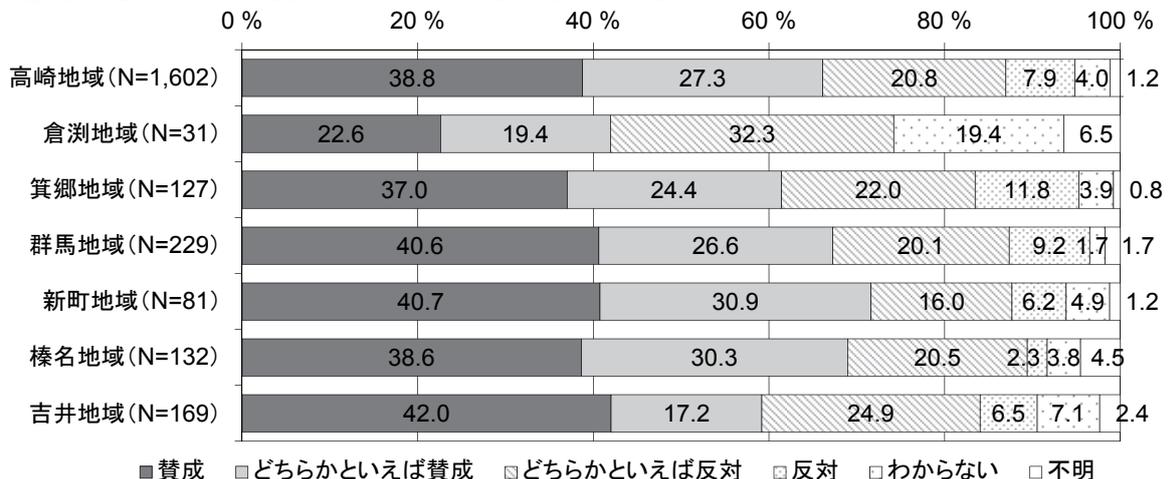


【地域別】

- すべての地域で「賛成」が「反対」を上回る
- 倉渚地域は「賛成」が低い

合算値「賛成」は、すべての地域で合算値「反対」より高くなっていますが、倉渚地域は、合算値「賛成」（42.0%）が比較的低くなっています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



【性別×結婚経験別】

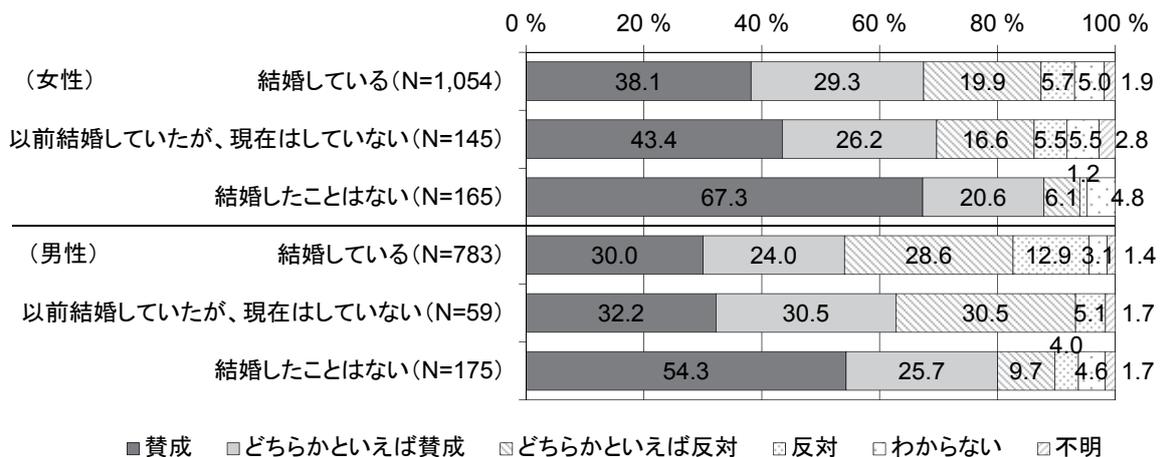
- 男女とも結婚経験にかかわらず「賛成」が「反対」を上回り、「賛成」は女性が比較的高い

- 「賛成」は男女とも「結婚したことはない」が特に高い

合算値「賛成」は、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。また、男女とも「結婚したことはない」（女性 87.9%、男性 80.0%）が特に高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性「結婚している」（41.5%）が最も高くなっていますが、男女とも結婚経験にかかわらず「賛成」が「反対」を上回っています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



【性別×働き方別】

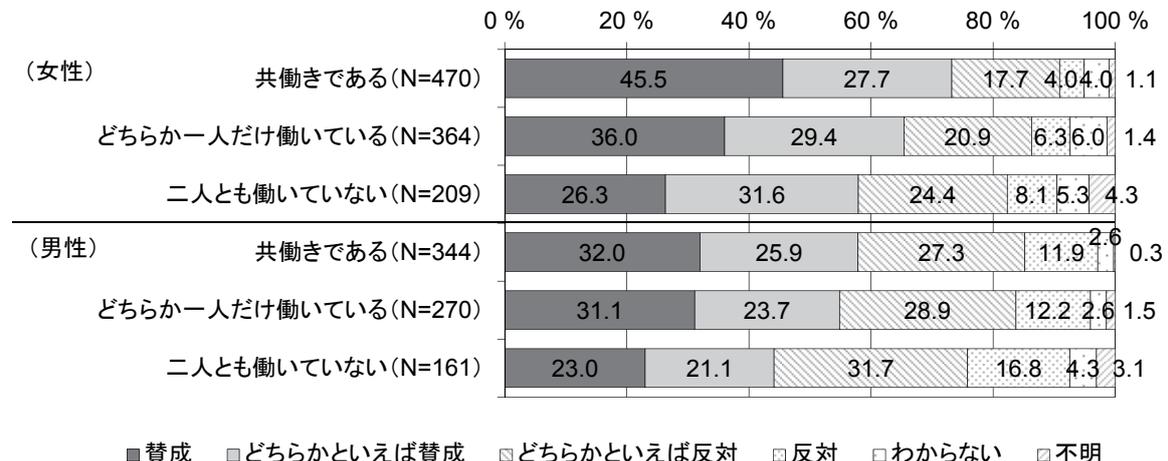
- 働き方にかかわらず「賛成」は女性が比較的高い

- 男性「二人とも働いていない」は「反対」が「賛成」を上回る

合算値「賛成」は、女性「共働きである」（73.2%）が最も高く、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性「二人とも働いていない」（48.5%）が最も高く、合算値「賛成」（44.1%）を上回っています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



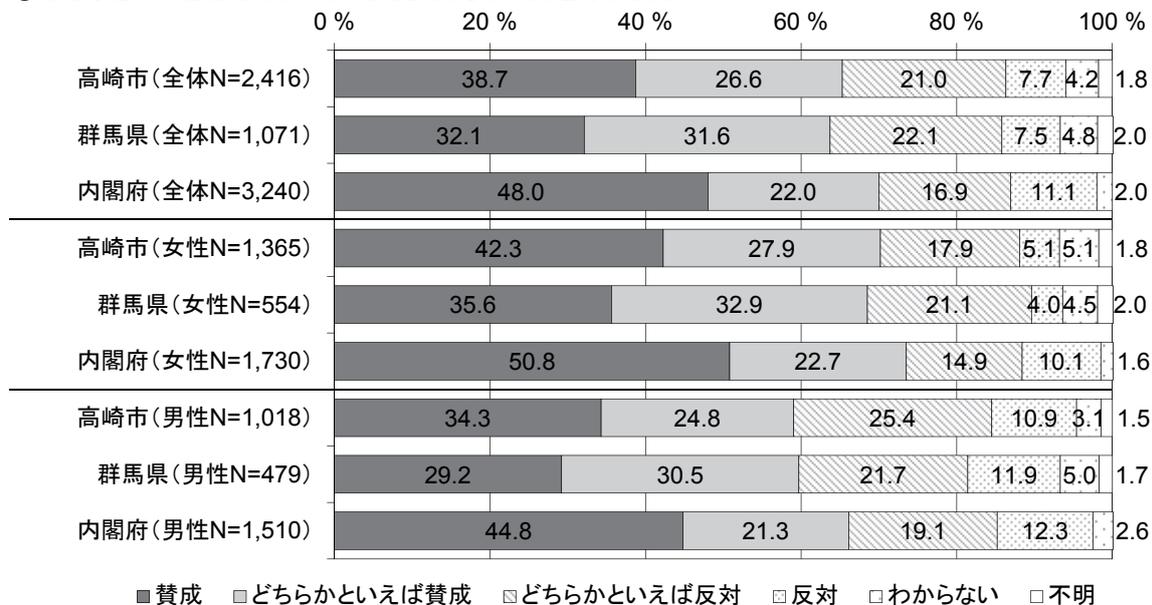
【性別×他調査との比較】

- 「賛成」は男女とも国より低く、群馬県と同程度
- 「反対」は国より男性は高く、女性は同程度

合算値「賛成」は、男女とも内閣府より低く、群馬県と同程度になっています。

一方、合算値「反対」は、女性（23.0%）は群馬県や内閣府と同程度、男性（36.3%）は内閣府より高く、群馬県と同程度になっています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい



②夫婦の固定的な役割分担について（「夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである」）

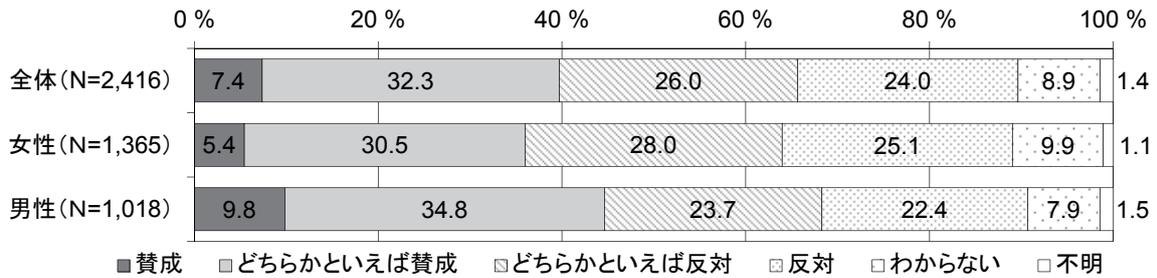
【全体・性別】

● 男女とも「どちらかといえば賛成」が最も高いが、合算値は「反対」が「賛成」を上回る

男女とも「どちらかといえば賛成」（女性 30.5%、男性 34.8%）が最も高くなっています。しかし、「どちらかといえば反対」や「反対」も比較的高くなっています。

合算値「反対」は、女性 53.1%、男性 46.1%となっており、男女とも合算値「賛成」（女性 35.9%、男性 44.6%）を上回っています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである



【性別×年代別】

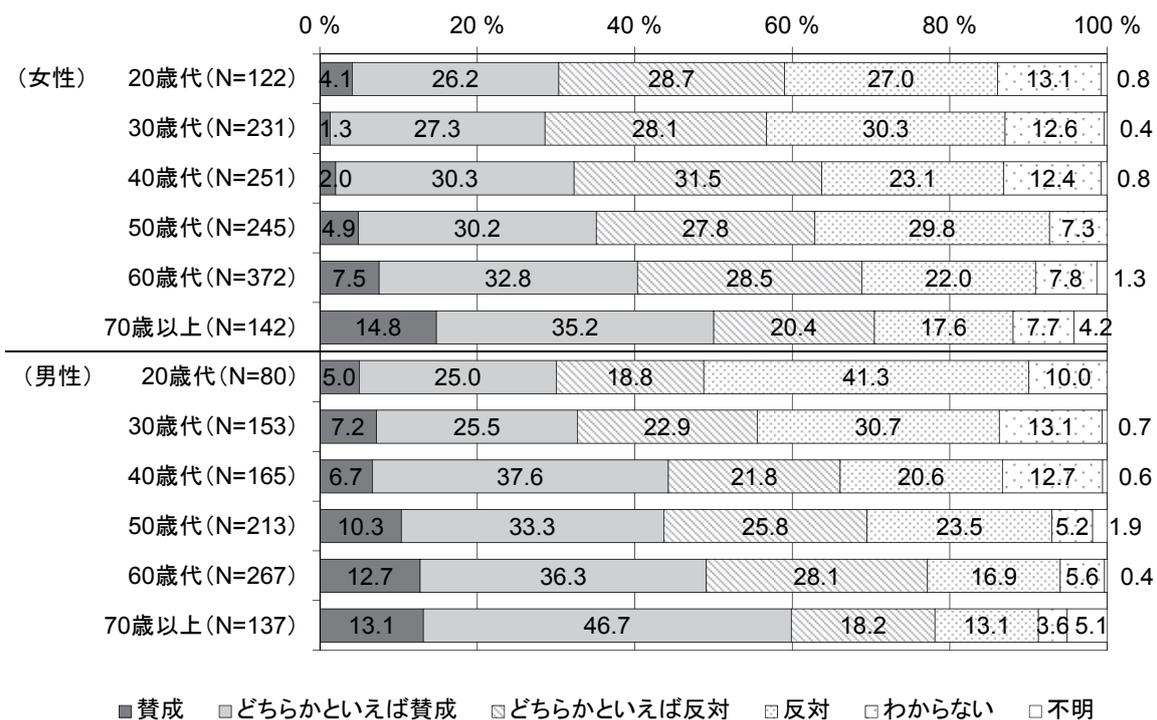
● 女性は70歳以上を除き「反対」が「賛成」を上回る

● 男性は若い年代ほど「賛成」が低く、40・60・70歳以上は「賛成」が「反対」を上回る

合算値「賛成」は、男性70歳以上（59.8%）が特に高く、男女とも高い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。

一方、合算値「反対」は、男性20歳代（60.1%）、女性30・50歳代（それぞれ58.4%、57.6%）などが比較的高く、女性70歳以上、男性40歳代、男性60歳代以上を除くすべての年代で合算値「賛成」を上回っています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである



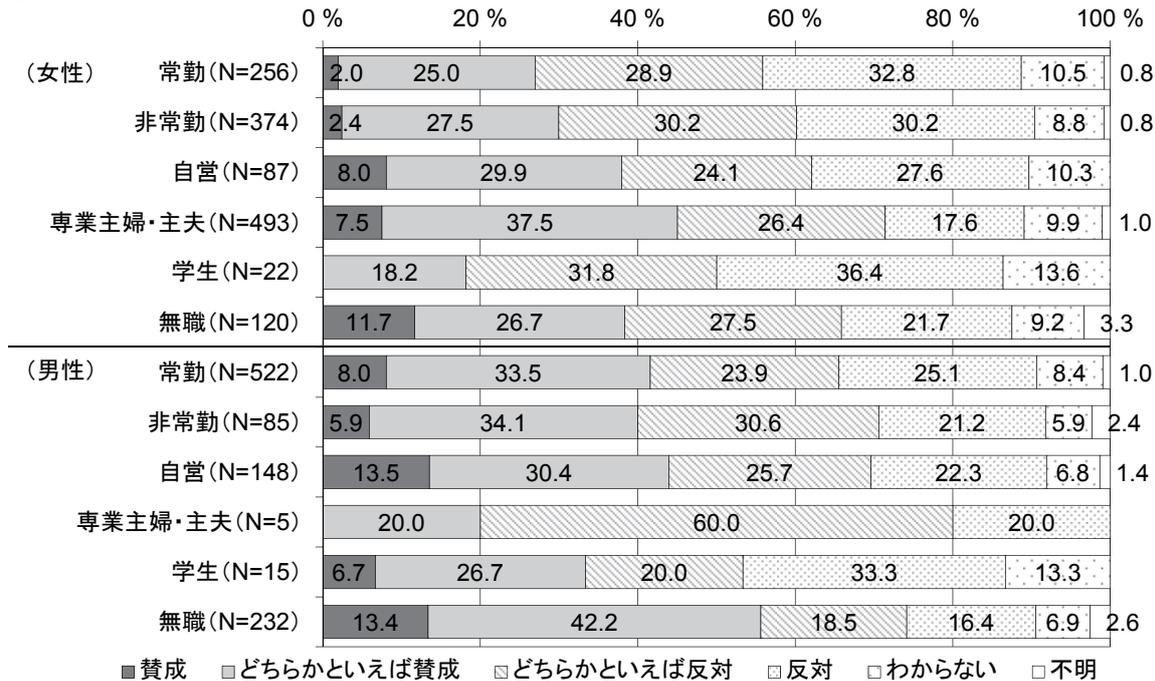
【性別×職業別】

- 女性専業主婦・男性無職を除き「反対」が「賛成」を上回る
- すべての職業で「反対」は女性が高い

合算値「賛成」は、男性無職（55.6%）が特に高くなっています。

一方、合算値「反対」は、女性常勤・非常勤・学生（それぞれ61.7%、60.7%、68.2%）などが比較的高く、女性専業主婦、男性無職を除き、男女ともすべての職業で合算値「賛成」を上回っています。また、すべての職業で女性が高くなっています。女性専業主婦は、合算値「賛成」（45.0%）と合算値「反対」（44.0%）が同程度になっています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである



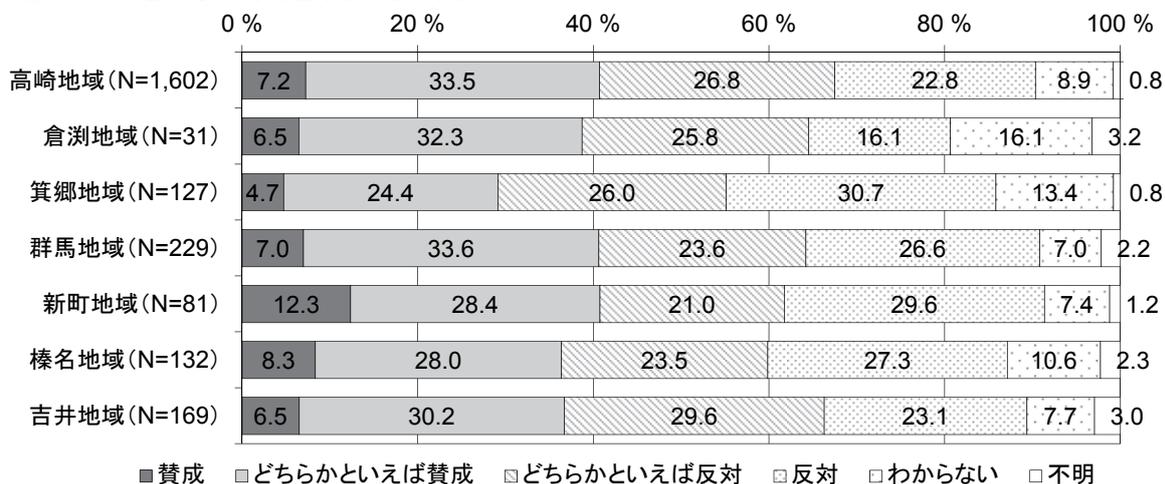
【地域別】

- すべての地域で「反対」が「賛成」を上回る

合算値「賛成」は箕郷地域（29.1%）を除くすべての地域で約4割となっています。

一方、合算値「反対」は、箕郷地域（56.7%）が最も高く、すべての地域で合算値「賛成」を上回っています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである



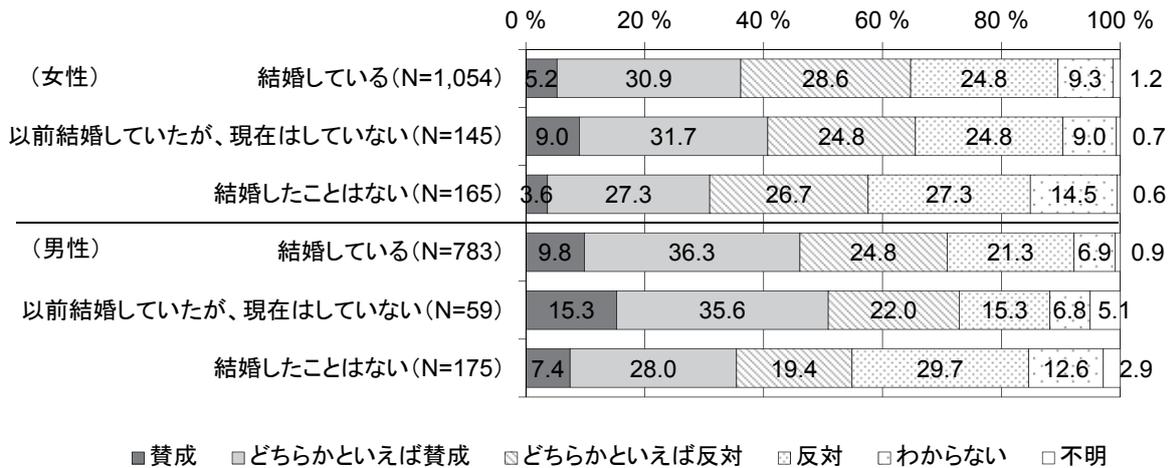
【性別×結婚経験別】

- 男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は「賛成」、それ以外は「反対」が上回る
- 結婚経験にかかわらず「反対」は女性が高い

合算値「賛成」は、男性「以前結婚していたが、現在はしていない」(50.9%)が比較的高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」を除いていずれも合算値「賛成」を上回っています。また、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。男性「結婚している」は、合算値「賛成」(46.1%)と合算値「反対」(46.1%)が同値になっています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである



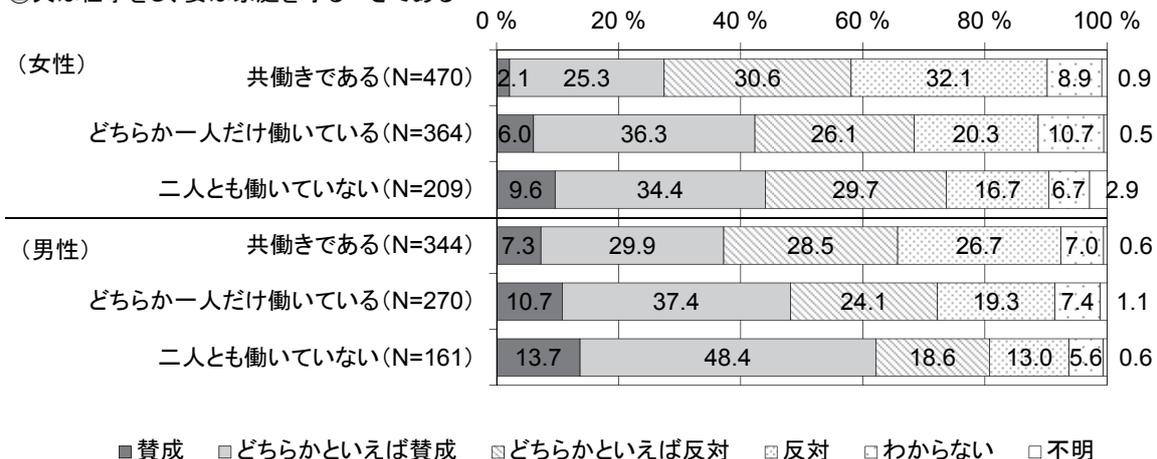
【性別×働き方別】

- 男性「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」は「賛成」、それ以外は「反対」が上回る
- 働き方にかかわらず「反対」は女性が高くて、女性「共働き」は「反対」が特に高い

合算値「賛成」は、男性「二人とも働いていない」(62.1%)が特に高くなっています。

一方、合算値「反対」は、女性「共働きである」(62.7%)が特に高く、男性「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」を除いて合算値「賛成」を上回っています。また、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである

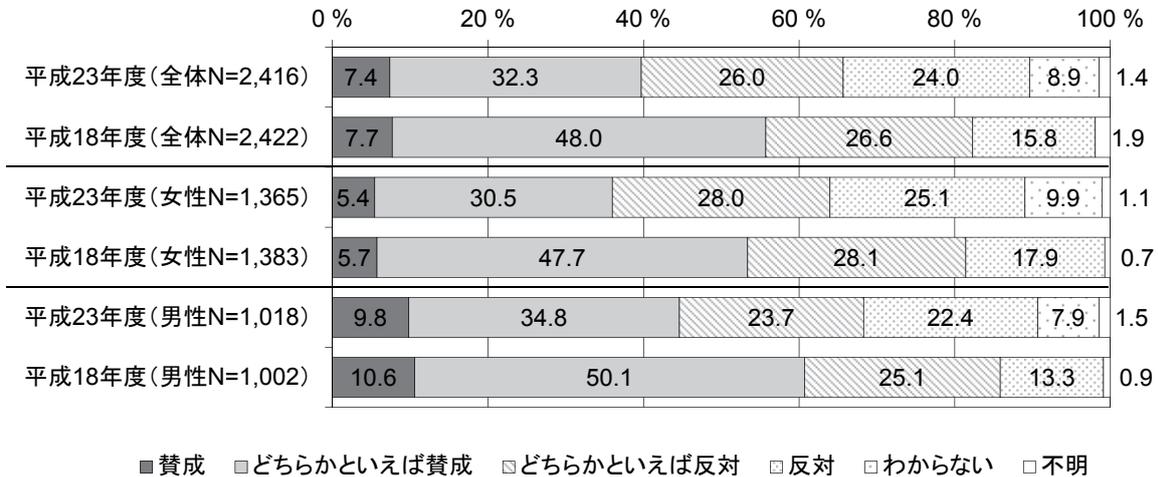


【性別×経年変化】

● 男女とも「反対」が増加

前回調査とは、表現等が若干異なることを考慮する必要がありますが、男女とも前回は合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。しかし、本調査では男女とも合算値「反対」が合算値「賛成」を上回っています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである



※「平成18年度」は「同感する」「ある程度同感する」「あまり同感しない」「同感しない」の4選択肢で設定

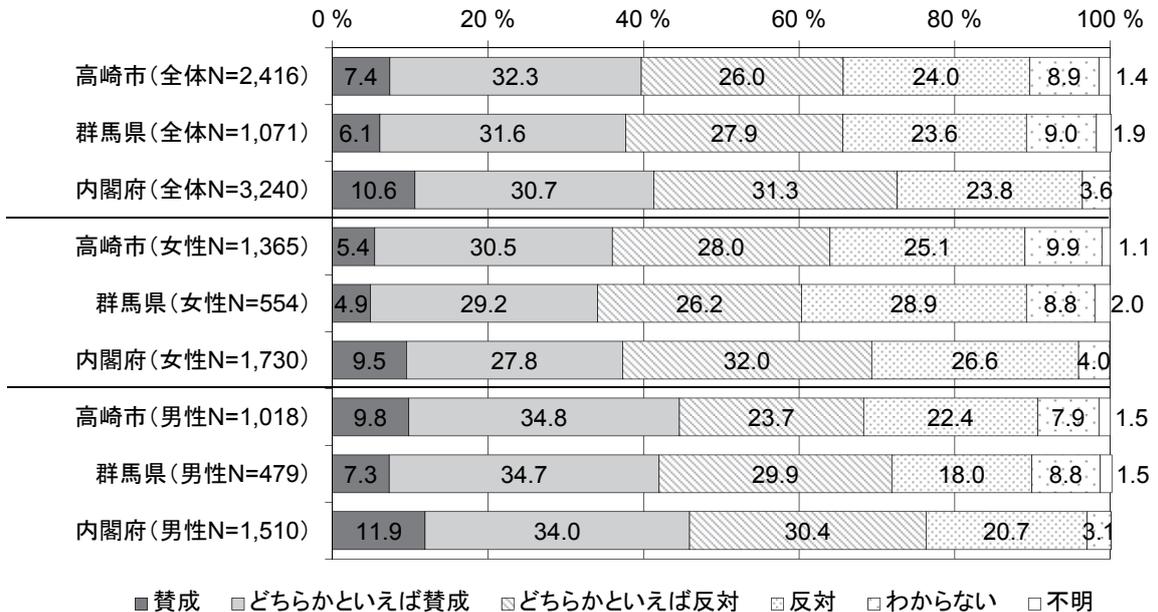
【性別×他調査との比較】

- 「賛成」は男女とも群馬県や国と同程度
- 「反対」は男女とも国より若干低く、群馬県と同程度

合算値「賛成」は、男女とも群馬県や内閣府と同程度になっています。

一方、合算値「反対」は、男女とも内閣府より若干低く、群馬県と同程度になっています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである



③結婚と子どもを持つことについて（「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」）

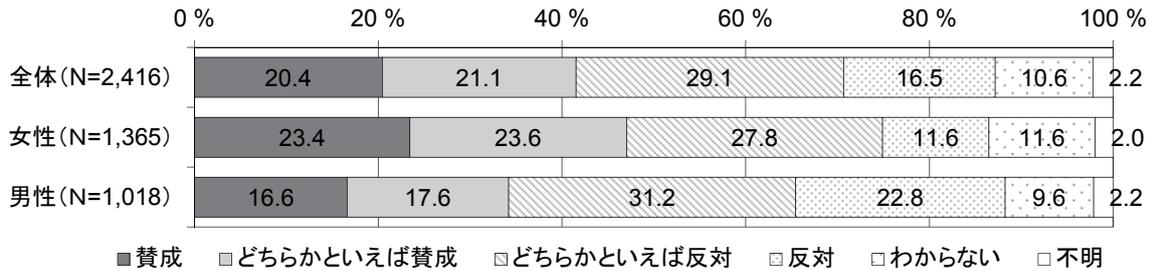
【全体・性別】

● 女性は「賛成」、男性は「反対」が高い

男女とも「どちらかといえば反対」（女性 27.8%、男性 31.2%）が最も高くなっていますが、女性は「賛成」（23.4%）や「どちらかといえば賛成」（23.6%）、男性は「反対」（22.8%）も比較的高くなっています。

女性は合算値「賛成」（47.0%）が合算値「反対」（39.4%）を上回っています。男性は合算値「反対」（54.0%）が合算値「賛成」（34.2%）を上回っています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



【性別×年代別】

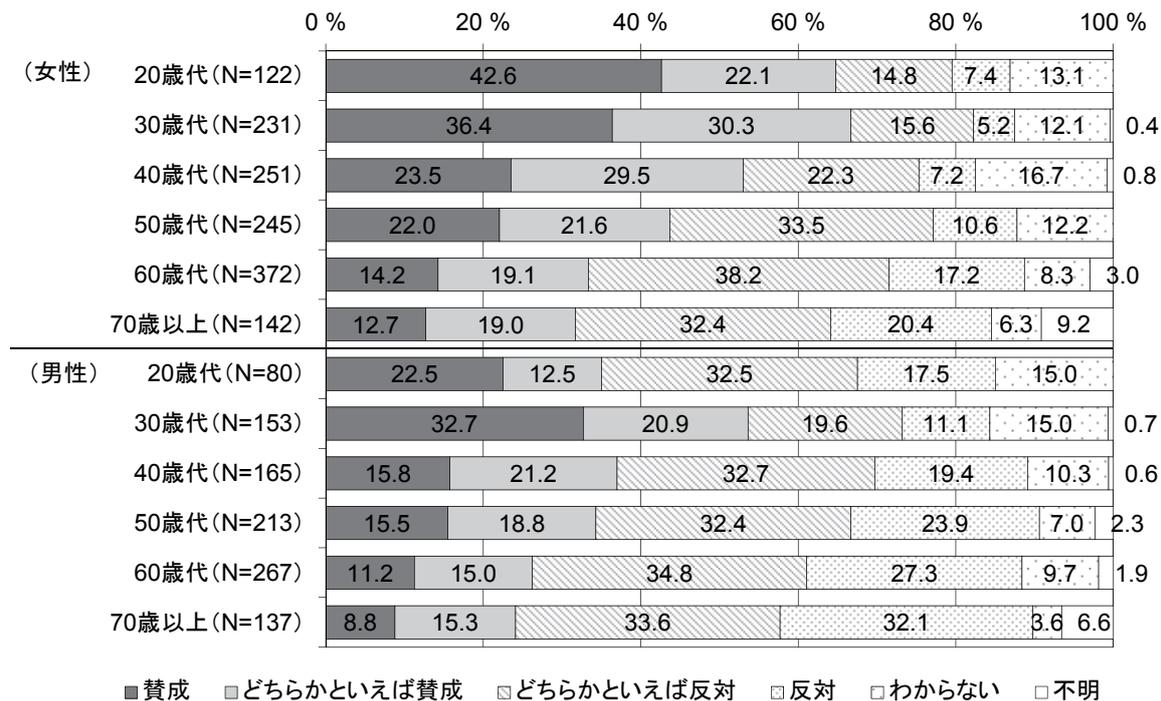
● すべての年代で「賛成」は女性が高く、男女とも 30 歳代が特に高い

● 女性 40 歳代以下・男性 30 歳代は「賛成」、女性 50 歳代以上、男性 20 歳代、40 歳代以上は「反対」が高い

合算値「賛成」は、男女とも 30 歳代（女性 66.7%、男性 53.6%）が最も高く、男性は 30 歳代の値が突出しています。男性 20 歳代を除いて男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。また、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性 60 歳代（62.1%）や男性 70 歳以上（65.7%）が特に高く、女性は 50 歳以上、男性は 30 歳代を除くすべての年代で合算値「反対」が合算値「賛成」を上回っています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



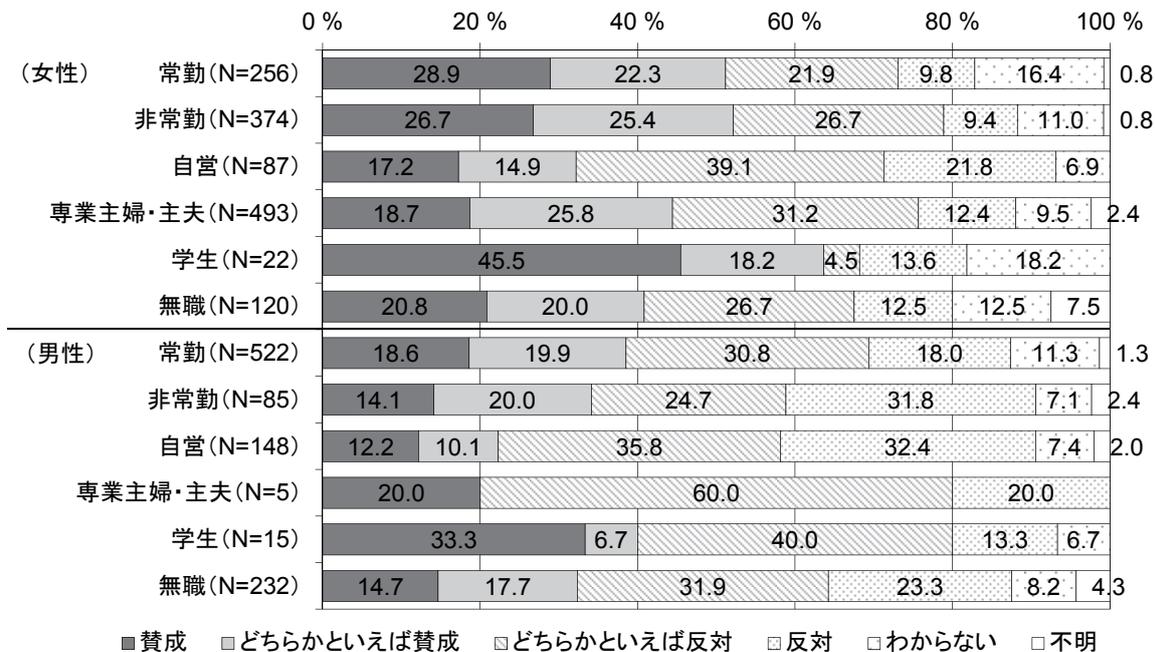
【性別×職業別】

- 女性は自営を除き「賛成」が「反対」を上回る
- 男性はすべての職業で「反対」が「賛成」を上回る

女性は、自営を除くすべての職業で合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。女性自営は「反対」(60.9%)が高くなっています。また、女性専業主婦は「賛成」(44.5%)と「反対」(43.6%)が同程度となっています。

一方、男性は、すべての職業で合算値「反対」が合算値「賛成」を上回っています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



【地域別】

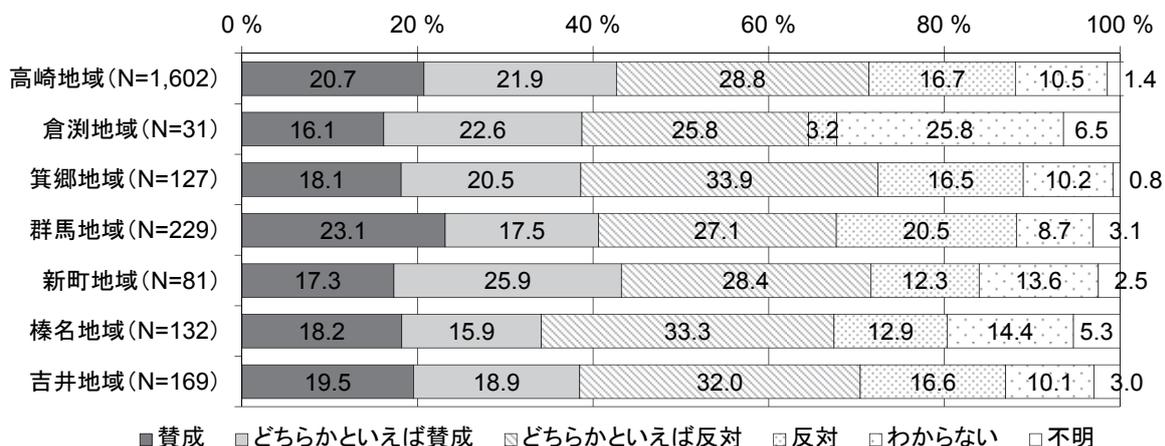
- 高崎・新町地域は「賛成」「反対」が同程度
- 倉渕地域は「賛成」、箕郷・群馬・榛名・吉井地域は「反対」が比較的高い

高崎・新町地域は、合算値「賛成」(それぞれ 42.6%、43.2%)と合算値「反対」(それぞれ 45.5%、40.7%)が同程度になっています。

倉渕地域は、合算値「賛成」(38.7%)が合算値「反対」(29.0%)を上回っており、「わからない」(25.8%)も高くなっています。

箕郷・群馬・榛名・吉井地域は「反対」が「賛成」を上回っています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



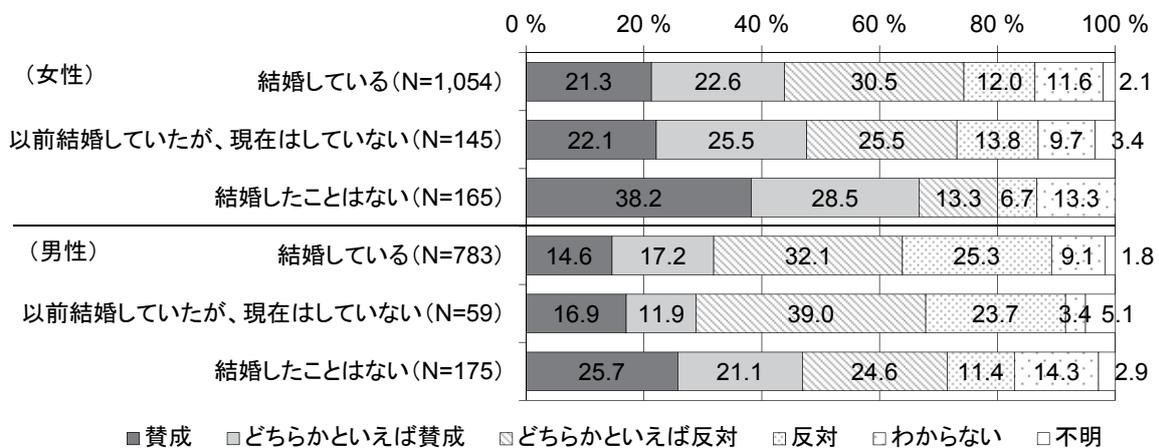
【性別×結婚経験別】

- 男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は「反対」、それ以外は「賛成」が上回る
- 結婚経験にかかわらず「賛成」は女性が高い

合算値「賛成」は、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。また、男女とも「結婚したことはない」（女性 66.7%、男性 46.8%）が特に高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性「結婚している」（57.4%）や男性「以前結婚していたが、現在はしていない」（62.7%）が特に高く、これらを除いていずれも合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。女性「結婚している」は合算値「賛成」「反対」（それぞれ 43.9%、42.5%）が同程度となっています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



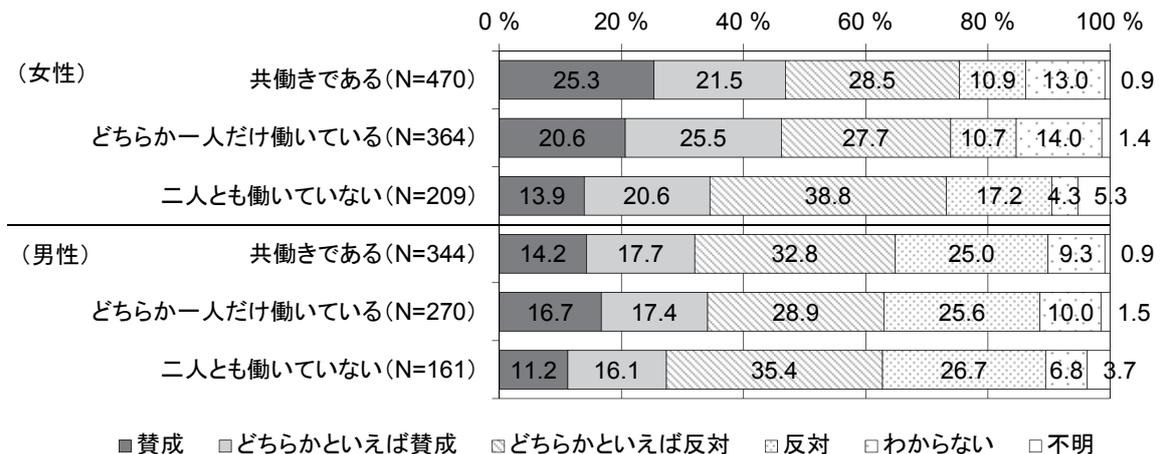
【性別×働き方別】

- 女性「共働き」「どちらか一人だけ働いている」は「賛成」、それ以外は「反対」が上回る
- 働き方にかかわらず「賛成」は女性が比較的高い

合算値「賛成」は、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性「二人とも働いていない」（62.1%）が最も高く、女性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」を除いて合算値「賛成」を上回っています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



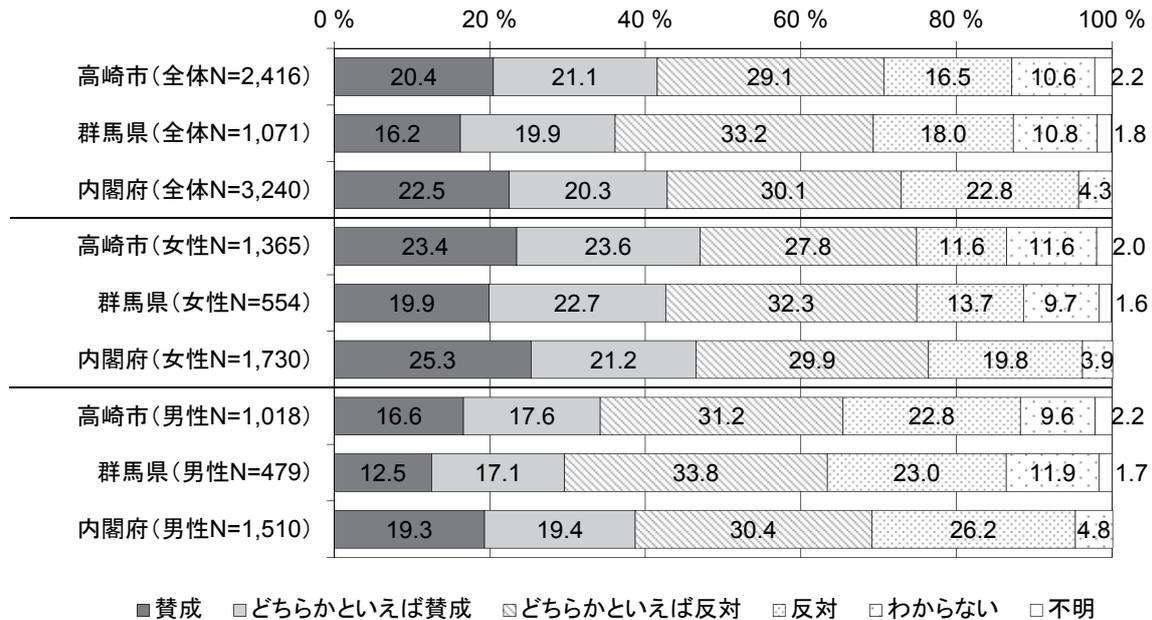
【性別×他調査との比較】

- 「賛成」は男女とも群馬県や国と同程度
- 「反対」は群馬県や国より女性は若干低く、男性は同程度

合算値「賛成」は、男女とも群馬県より若干高く、内閣府と同程度になっています。

一方、合算値「反対」は、女性は群馬県や内閣府より若干低く、男性は群馬県や内閣府と同程度になっています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



④離婚について（「結婚しても相手に満足できなければ離婚してもかまわない」）

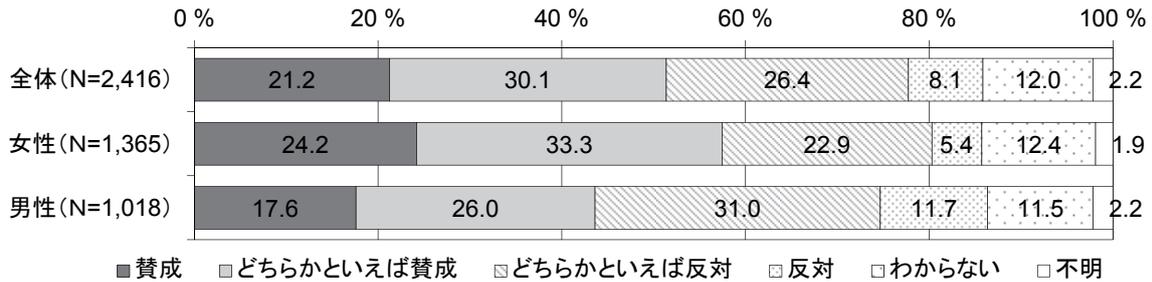
【全体・性別】

● 女性は「賛成」が約6割、男性は「賛成」「反対」が同程度

女性は「どちらかといえば賛成」（33.3%）、男性は「どちらかといえば反対」（31.0%）が最も高くなっています。

女性は、合算値「賛成」（57.5%）が高く、約6割となっています。男性は、合算値「賛成」（43.6%）と合算値「反対」（42.7%）が同程度になっています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



【性別×年代別】

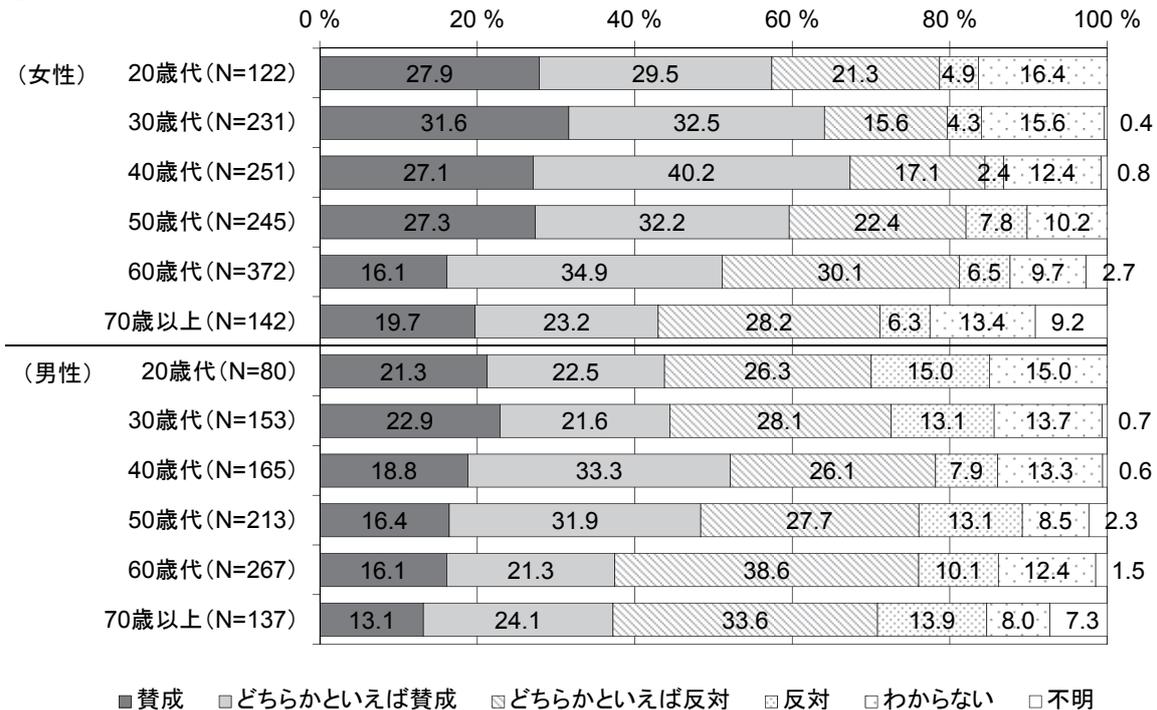
● すべての年代で「賛成」は女性が高く、男女とも40歳代が比較的高い

● 男性60歳代以上は「反対」が「賛成」を上回る

合算値「賛成」は、男女とも40歳代（女性67.3%、男性52.1%）が比較的高く、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性60歳代（48.7%）や男性70歳以上（47.5%）が比較的高く、いずれも合算値「反対」が合算値「賛成」を上回っています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



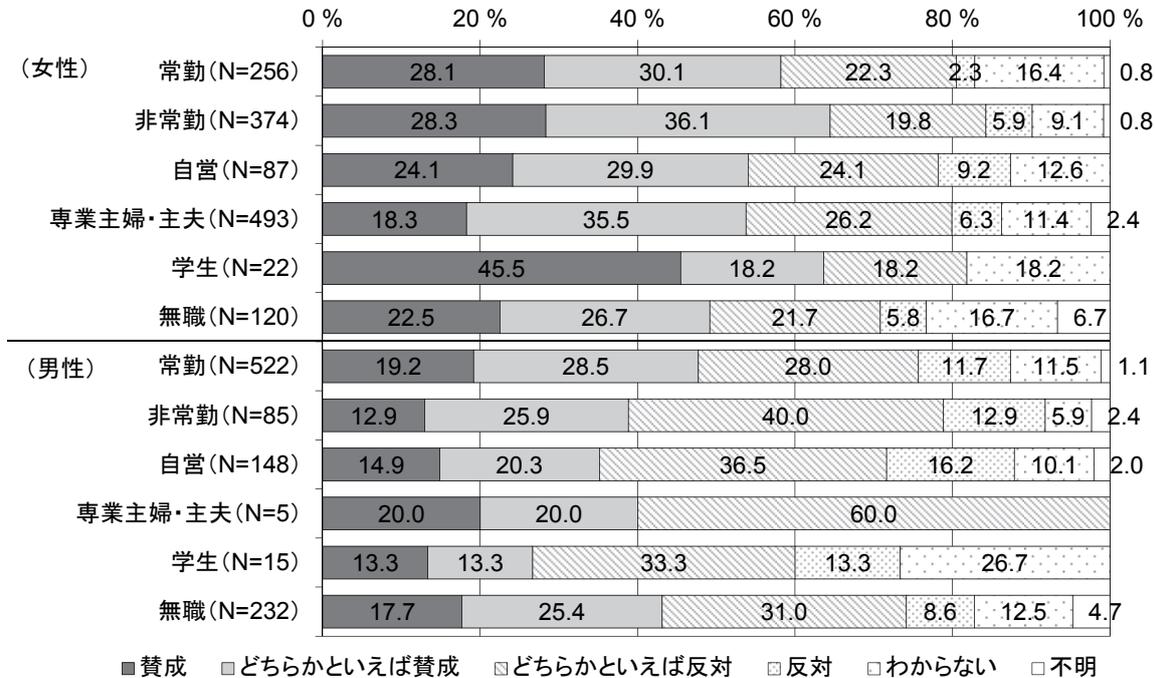
【性別×職業別】

- 女性はすべての職業で「賛成」が「反対」を上回る
- 男性は常勤・無職を除き「反対」が「賛成」を上回る

女性は、すべての職業で合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。

一方、男性は、常勤・無職を除くすべての職業で合算値「反対」が合算値「賛成」を上回っています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



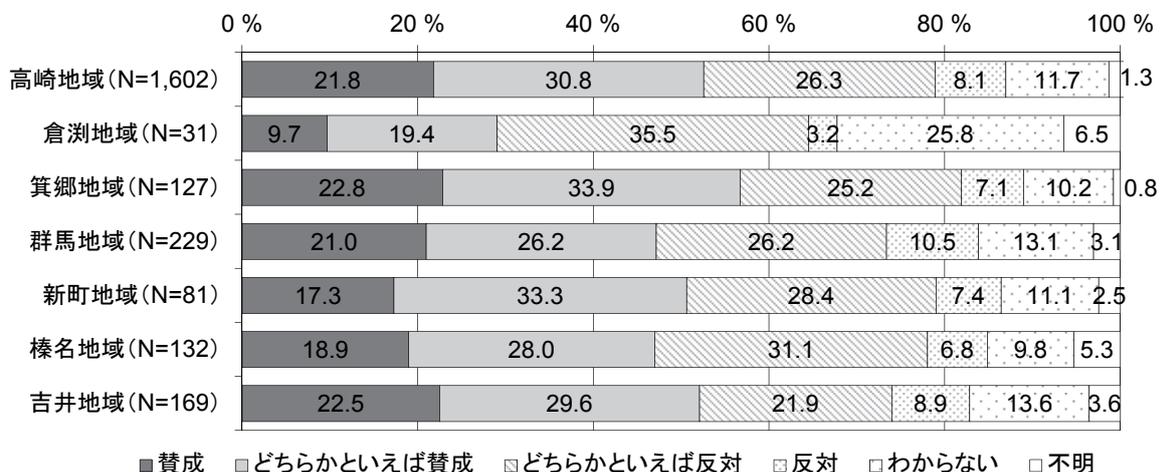
【地域別】

- 倉渚地域を除くすべての地域で「賛成」が「反対」を上回る
- 倉渚地域は「反対」や「わからない」が比較的高い

合算値「賛成」は、倉渚地域を除くすべての地域で合算値「反対」を上回っています。

倉渚地域は、合算値「反対」(38.7%)が合算値「賛成」(29.0%)を上回っており、「わからない」(25.8%)も高くなっています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



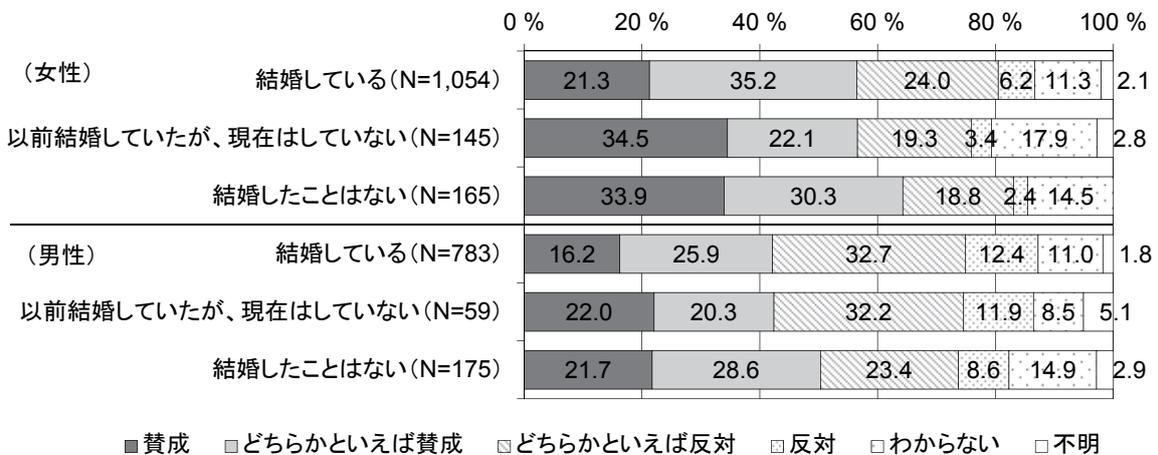
【性別×結婚経験別】

- 男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は「賛成」と「反対」が同程度、それ以外は「賛成」が上回る
- 「賛成」は男女とも「結婚したことはない」が比較的高い

合算値「賛成」は、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。また、男女とも「結婚したことはない」（女性 64.2%、男性 50.3%）が比較的高くなっています。女性は、結婚経験にかかわらず合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。

一方、男性は、「結婚したことはない」は合算値「賛成」（50.3%）が合算値「反対」（32.0%）を上回っていますが、「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は合算値「賛成」と合算値「反対」が同程度になっています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



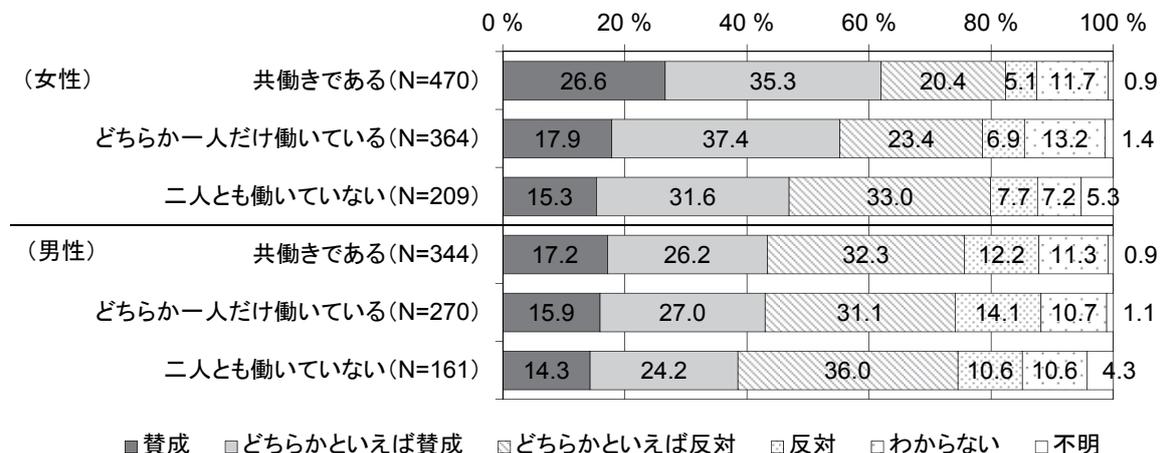
【性別×働き方別】

- 働き方にかかわらず「賛成」は女性、「反対」は男性が比較的高い

女性は、働き方にかかわらず合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。また、合算値「賛成」は、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

一方、男性は、「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」は合算値「賛成」と合算値「反対」が同程度、「二人とも働いていない」は合算値「反対」（46.6%）が合算値「賛成」（38.5%）を上回っています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



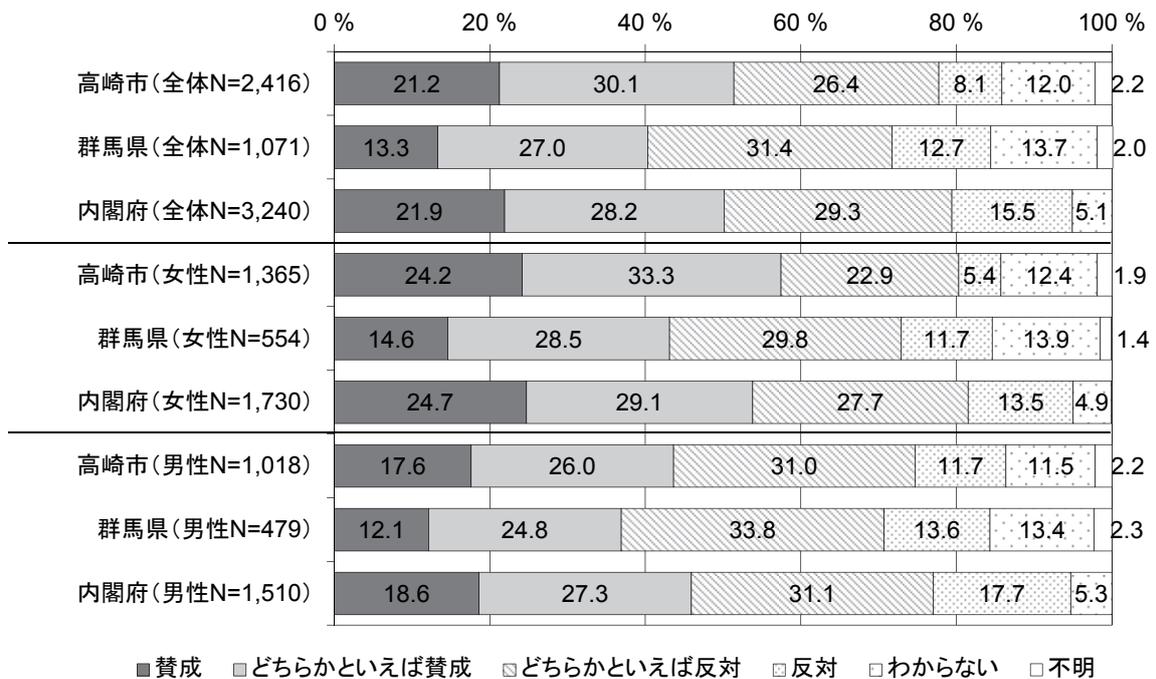
【性別×他調査との比較】

- 「賛成」は男女とも群馬県より高く、国と同程度
- 「反対」は男女とも群馬県や国より低く、特に女性が低い

合算値「賛成」は、男女とも群馬県より高く、内閣府と同程度になっています。

一方、合算値「反対」は、男女とも群馬県や内閣府より低く、特に女性（28.3%）が低くなっています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



### 3 生活の中での優先度

問3 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域活動」の優先度についてうかがいます。①希望（理想）、②現実（現状）それぞれについて優先したいものはどれですか。（複数回答可）

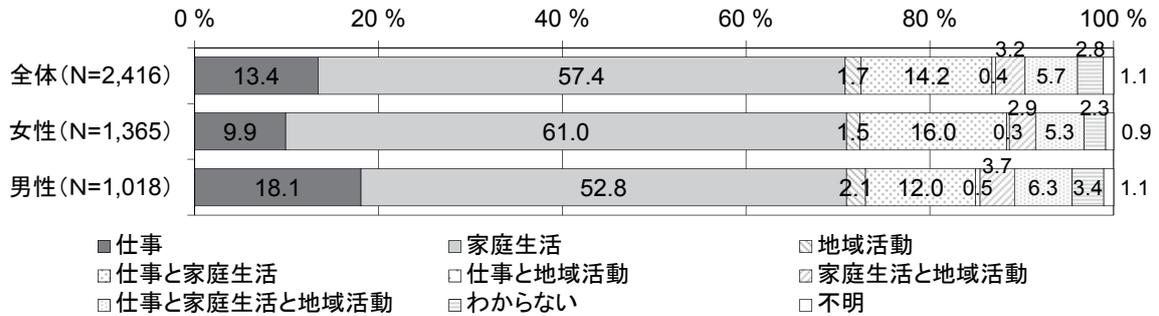
【全体・性別】

- 希望では、男女とも「家庭生活」が最も高い
- 現実では、女性は「家庭生活」、男性は「仕事」が最も高い

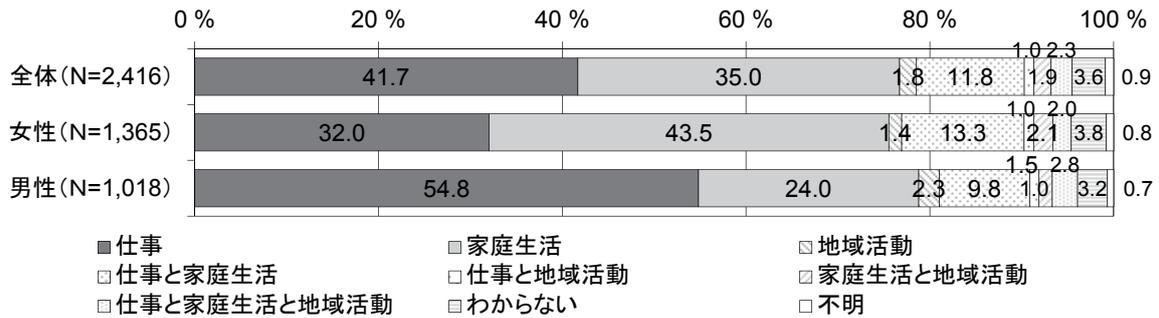
①希望（優先したい）は、男女とも「家庭生活」（女性 61.0%、男性 52.8%）が最も高く、次いで女性は「仕事と家庭生活」（16.0%）、男性は「仕事」（18.1%）となっています。

②現実（優先している）は、女性は「家庭生活」（43.5%）、男性は「仕事」（54.8%）が最も高く、次いで女性は「仕事」（32.0%）、男性は「家庭生活」（24.0%）となっています。

①希望（優先したい）



②現実（優先している）

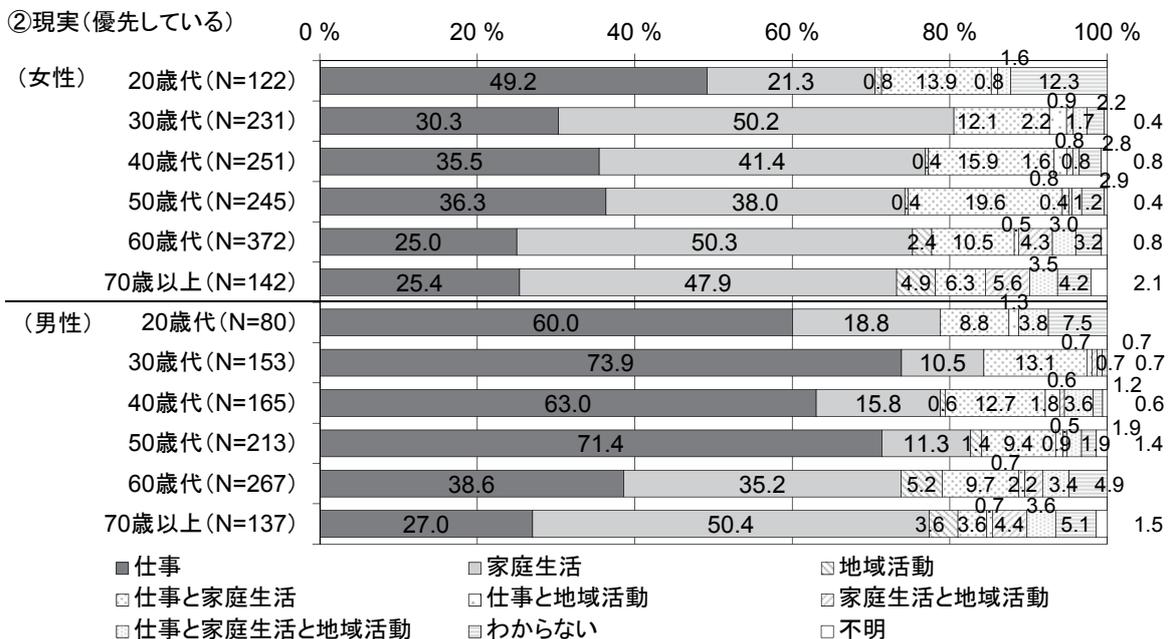
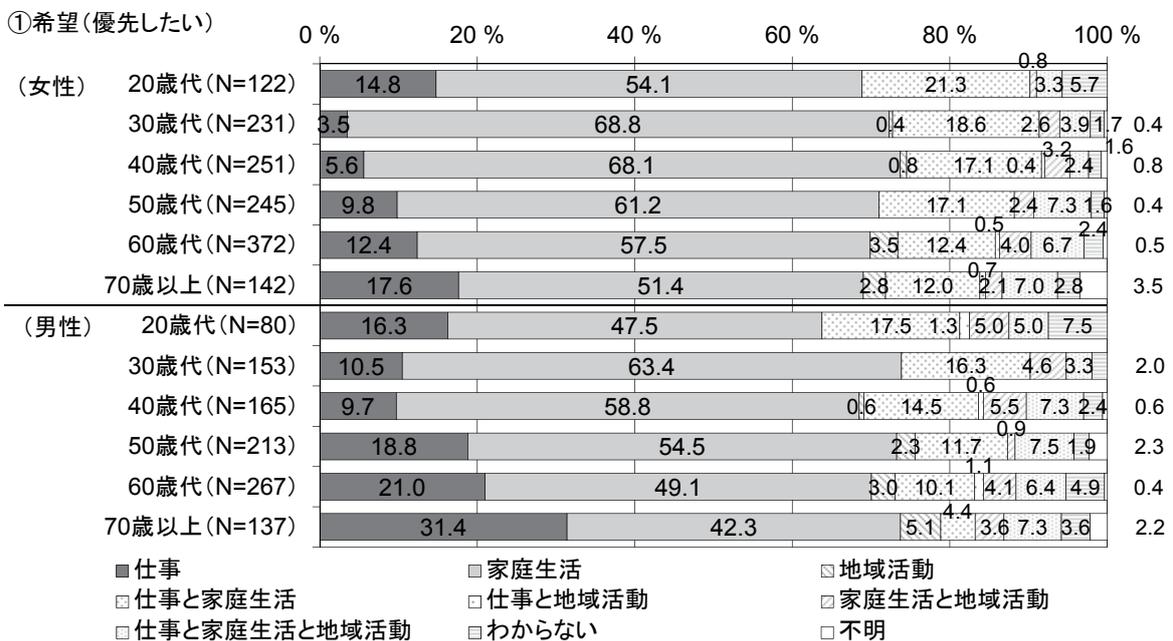


【性別×年代別】

- 希望では、男女ともすべての年代で「家庭生活」が最も高い
- 現実では、女性 20 歳代は「仕事」、男性 70 歳以上は「家庭生活」、他の年代ではいずれも女性は「家庭生活」、男性は「仕事」が最も高い

①希望（優先したい）は、男女ともすべての年代で「家庭生活」が最も高くなっています。次いで女性 60 歳代以下や男性 40 歳代以下は「仕事と家庭生活」、女性 70 歳以上や男性 50 歳代以上は「仕事」となっています（女性 60 歳代は「仕事」「仕事と家庭生活」が同値）。「仕事」は、女性では 30 歳代以上、男性では 40 歳代以上で高い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。

②現実（優先している）は、女性は 20 歳代を除いて「家庭生活」、男性は 70 歳以上を除いて「仕事」が最も高くなっています。女性 20 歳代は「仕事」（49.2%）、男性 70 歳以上は「家庭生活」（50.4%）が最も高くなっています。

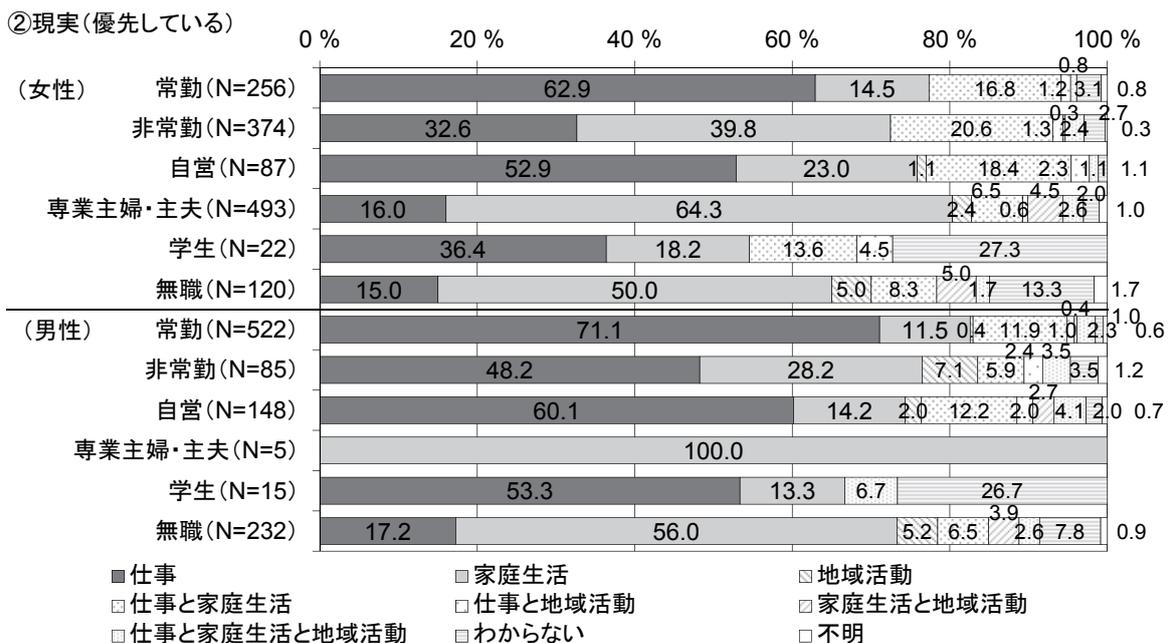
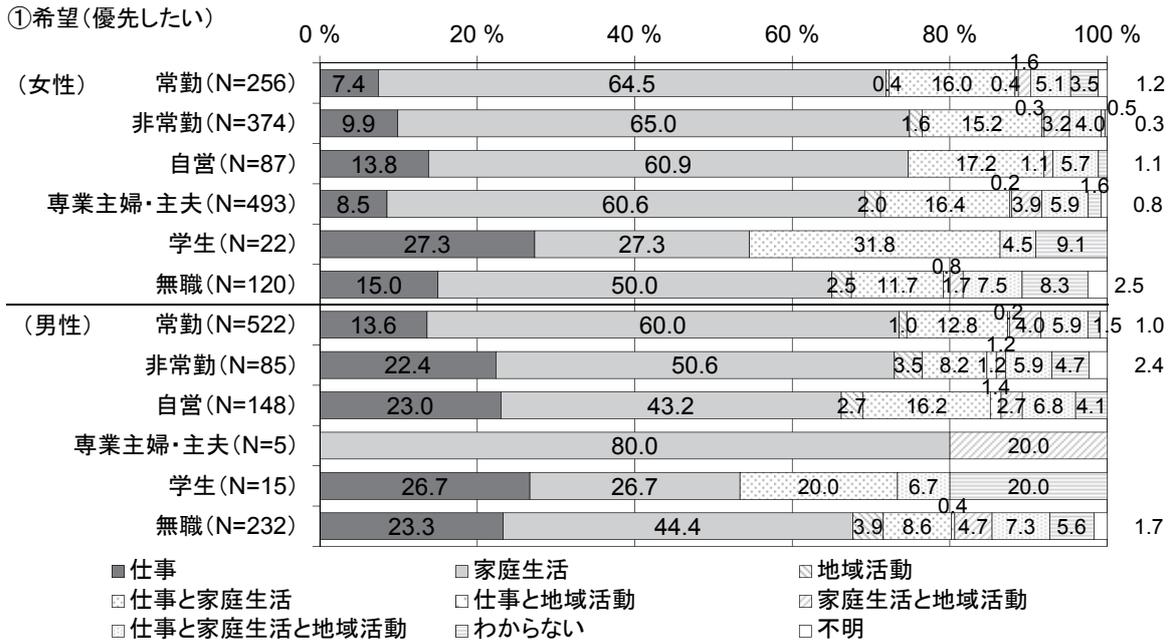


【性別×職業別】

- 希望では、女性学生を除き男女ともすべての職業で「家庭生活」が最も高い
- 現実では、非常勤を除き男女で同様の傾向

①希望（優先したい）は、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、女性学生を除き、男女ともにすべての職業で「家庭生活」が最も高くなっています（男性学生は「仕事」「家庭生活」が同値）。女性学生は「仕事と家庭生活」（31.8%）が最も高くなっています。

②現実（優先している）は、男女とも常勤・自営・学生は「仕事」、専業主婦・無職は「家庭生活」が最も高くなっています。また、非常勤は、女性は「家庭生活」（39.8%）、男性は「仕事」（48.2%）が最も高くなっています。



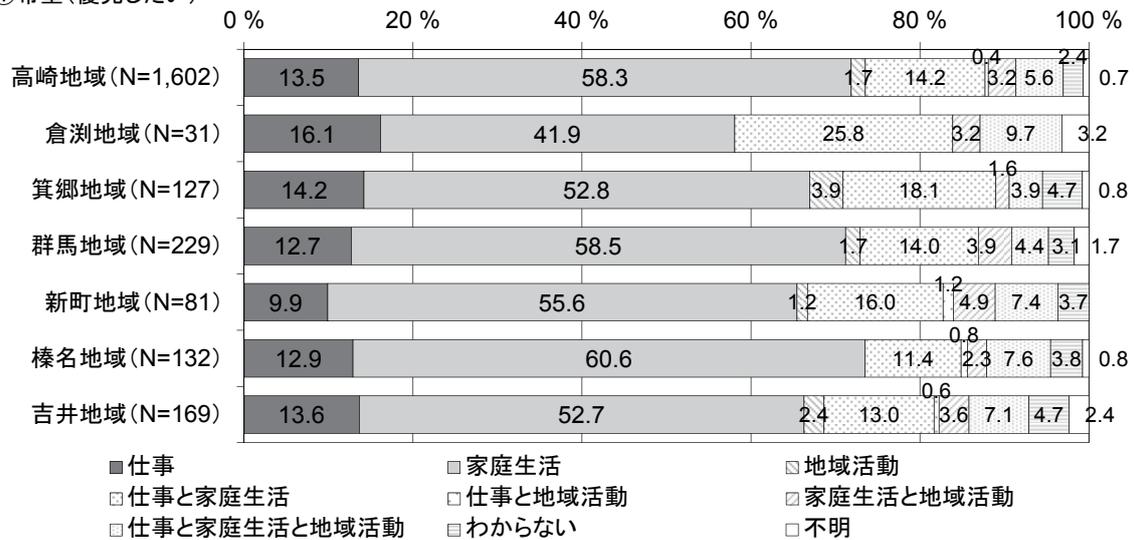
【地域別】

- 希望では、すべての地域で「家庭生活」が最も高い
- 現実では、すべての地域で「仕事」と「家庭生活」が同程度に高い

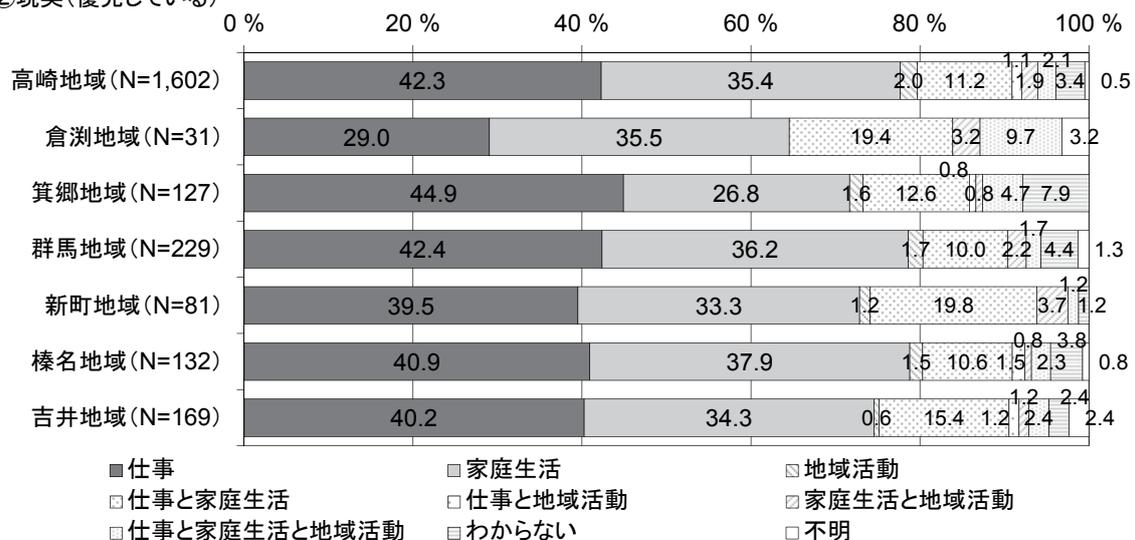
①希望（優先したい）は、すべての地域で「家庭生活」が最も高くなっています。次いで倉渚・箕郷・新町地域は「仕事と家庭生活」が高く、高崎・群馬・榛名・吉井地域は「仕事」と「仕事と家庭生活」が同程度になっています。倉渚地域は「仕事と家庭生活」（25.8%）が比較的高くなっています。

②現実（優先している）は、倉渚地域を除くすべての地域で「仕事」、倉渚地域は「家庭生活」（35.5%）が最も高くなっていますが、いずれの地域も「仕事」と「家庭生活」に大きな差は見られません。

①希望（優先したい）



②現実（優先している）



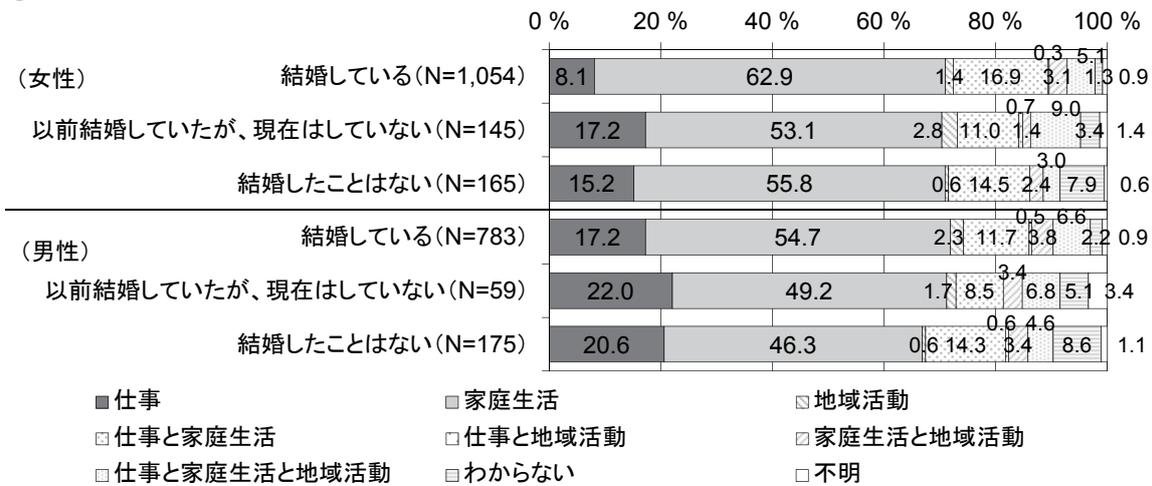
【性別×結婚経験別】

- 希望では、男女とも結婚経験にかかわらず「家庭生活」が最も高い
- 現実では、女性「結婚している」を除き「仕事」が最も高い
- 女性「結婚している」は、希望・現実ともに「家庭生活」を優先する傾向

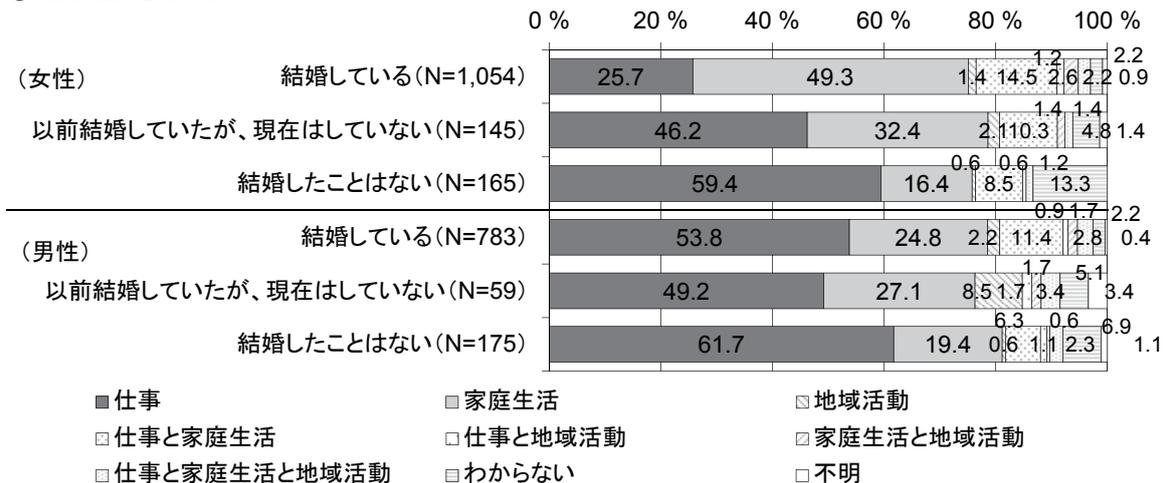
①希望（優先したい）は、男女とも結婚経験にかかわらず「家庭生活」が最も高くなっています。次いで女性「結婚している」を除いて男女とも「仕事」、女性「結婚している」は「仕事と家庭生活」（16.9%）が高くなっています。

②現実（優先している）は、女性「結婚している」を除いて男女とも「仕事」、女性「結婚している」は「家庭生活」（49.3%）が最も高くなっています。

①希望（優先したい）



②現実（優先している）



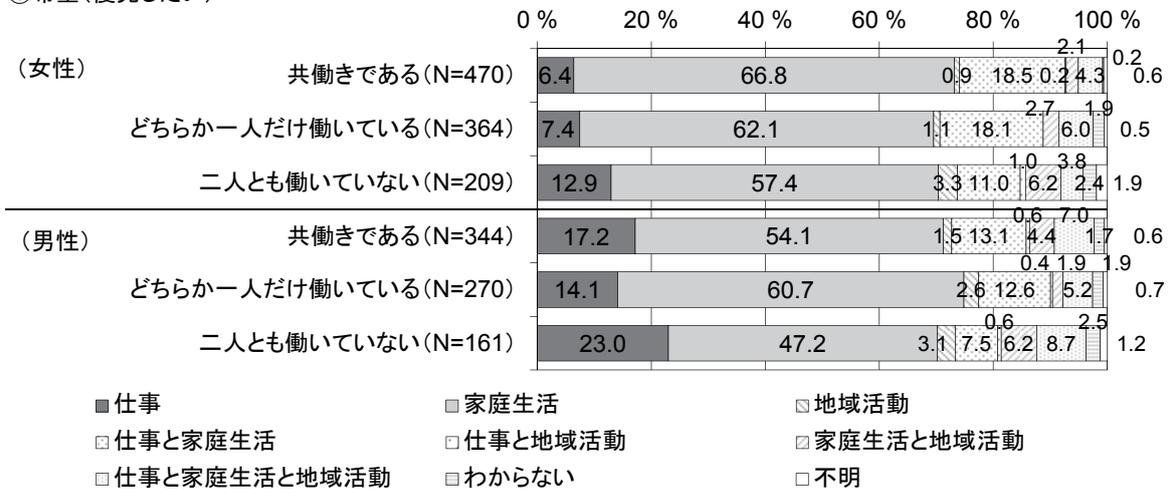
【性別×働き方別】

- 希望では、男女とも働き方にかかわらず「家庭生活」が最も高い
- 現実では、「共働き」でも男性は「仕事」が高く、女性は「仕事」と「家庭生活」が同程度に高い

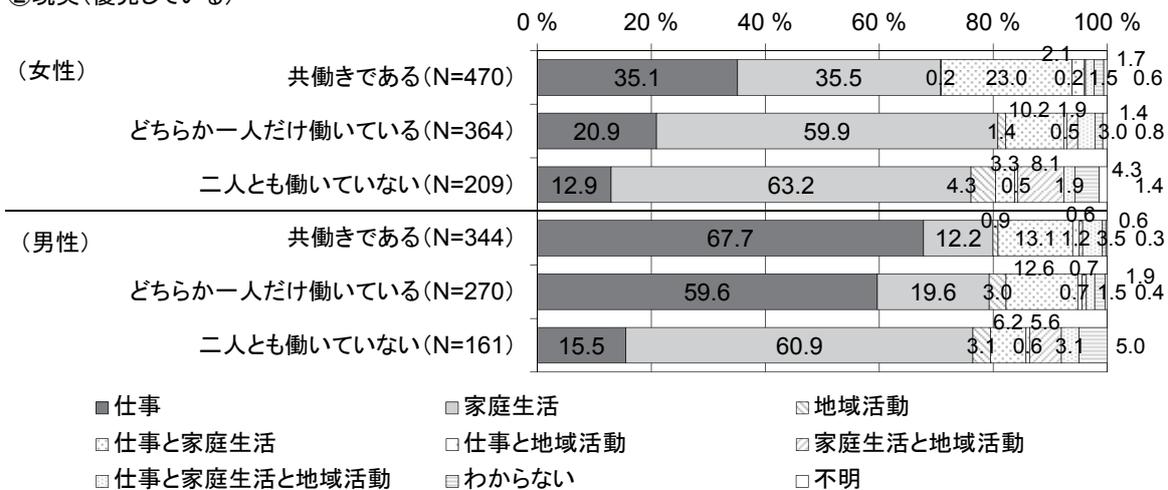
①希望（優先したい）は、男女とも働き方にかかわらず「家庭生活」が最も高くなっています。次いで女性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」は「仕事と家庭生活」、女性「二人とも働いていない」と男性はいずれも「仕事」が比較的高くなっています。

②現実（優先している）は、女性「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」、男性「二人とも働いていない」は「家庭生活」、男性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」は「仕事」が最も高く、女性「共働きである」は「仕事」（35.1%）と「家庭生活」（35.5%）が同程度になっています。また、女性「共働きである」は「仕事と家庭生活」（23.0%）も高くなっています。

①希望（優先したい）



②現実（優先している）



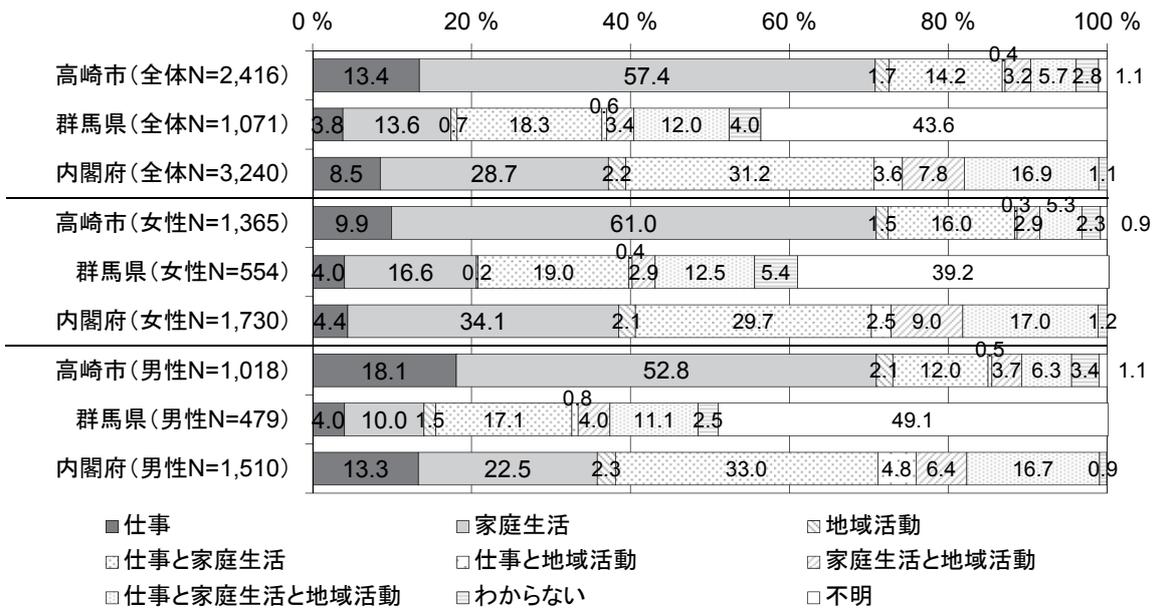
【性別×他地域との比較】

- 希望では、男女とも国より「家庭生活」が高く、「仕事と家庭生活」が低い
- 現実では、男女とも国より「仕事」が高く、「仕事と家庭生活」が低い

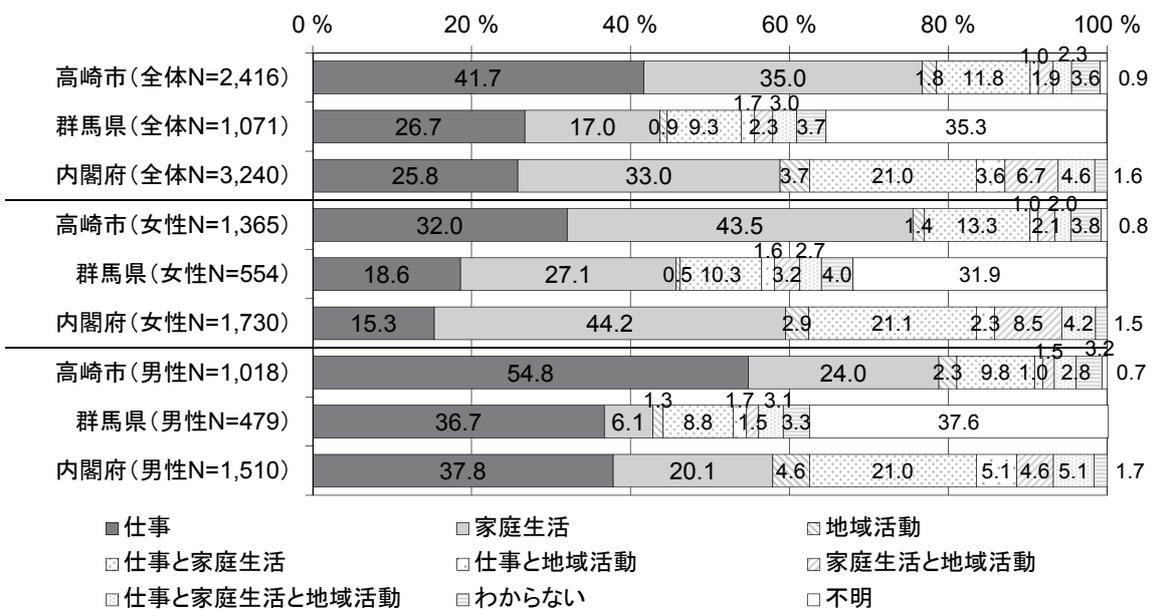
内閣府と比較すると、①希望（優先したい）は、男女とも内閣府より「家庭生活」が高く、「仕事と家庭生活」が低くなっています。

②現実（優先している）は、男女とも内閣府より「仕事」が高く、「仕事と家庭生活」が低くなっています。

①希望（優先したい）



②現実（優先している）



※「群馬県」は「不明」が多いため、参考表示とする

## 4 家庭における役割分担について

問 4 あなたの家庭では以下のような役割は主にだれが担っていますか。（結婚や事実婚をしている場合限定）

【全項目・全体】

- ほとんどの項目で「妻」が突出して高く、「夫」は1割未満
- 「主たる収入」のみ「夫」が約8割で突出して高い
- 「地域活動」は夫婦同程度

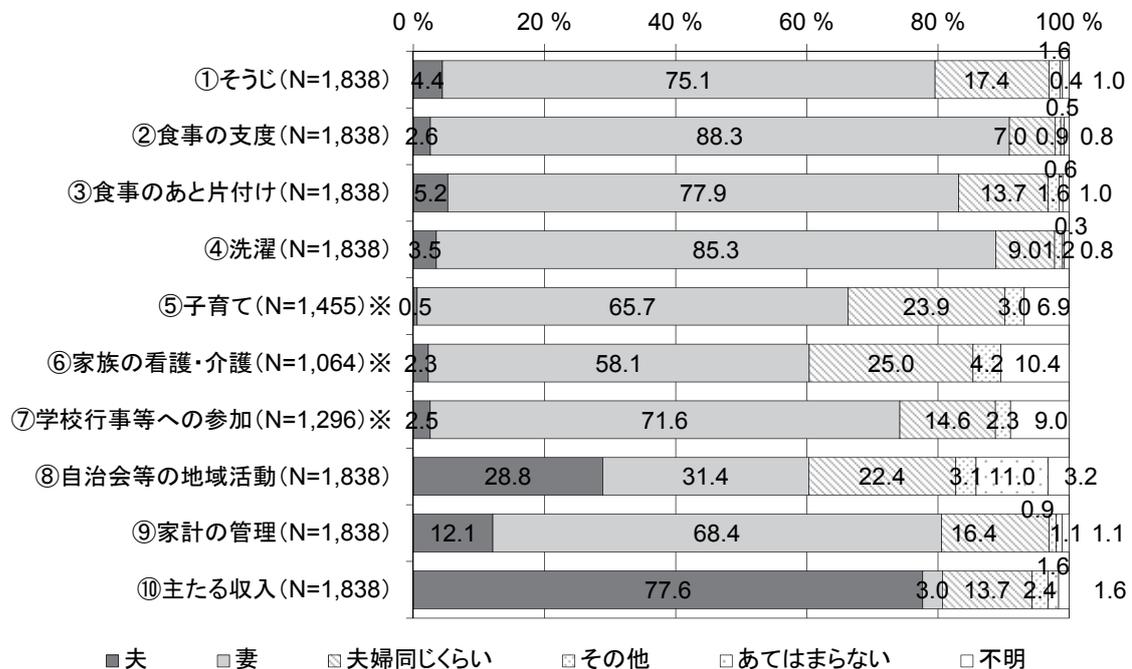
「⑩主たる収入」を除くすべての項目で「妻」が最も高く、特に「②食事の支度」(88.3%)や「④洗濯」(85.3%)は8割以上となっています。「⑩主たる収入」は「夫」(77.6%)が最も高くなっています。

また、「⑧自治会等の地域活動」は「夫」(28.8%)と「妻」(31.4%)が同程度であり、「夫婦同じくらい」(22.4%)も比較的高くなっています。

「夫」が最も低いのは「⑤子育て」(0.5%)で、「⑧自治会等の地域活動」「⑨家計の管理」「⑩主たる収入」を除くすべての項目で1割未満となっています。

「夫婦同じくらい」は「⑤子育て」「⑥家族の看護・介護」「⑧自治会等の地域活動」(それぞれ23.9%、25.0%、22.4%)が2割以上で比較的高くなっています。

一方、「②食事の支度」「④洗濯」(それぞれ7.0%、9.0%)が1割未満で比較的低くなっています。



※⑤子育て (N=1,455)、⑥家族の看護・介護 (N=1,064)、⑦学校行事等への参加 (N=1,296) は、家族に該当者がいない場合が考えられるため「あてはまらない」を除外して集計。  
( ) 内の N は「あてはまらない」を除外した値

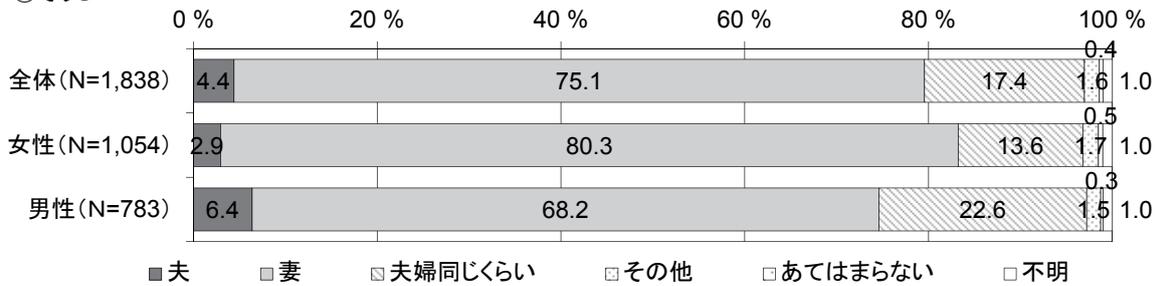
①そうじ

【全体・性別】

- 男女とも「妻」が最も高く、女性が約8割、男性が約7割
- 男性は「夫婦同じくらい」が約2割で比較的高い

男女とも「妻」(女性80.3%、男性68.2%)が最も高くなっています。また、男性は「夫婦同じくらい」(22.6%)も比較的高くなっています。

①そうじ



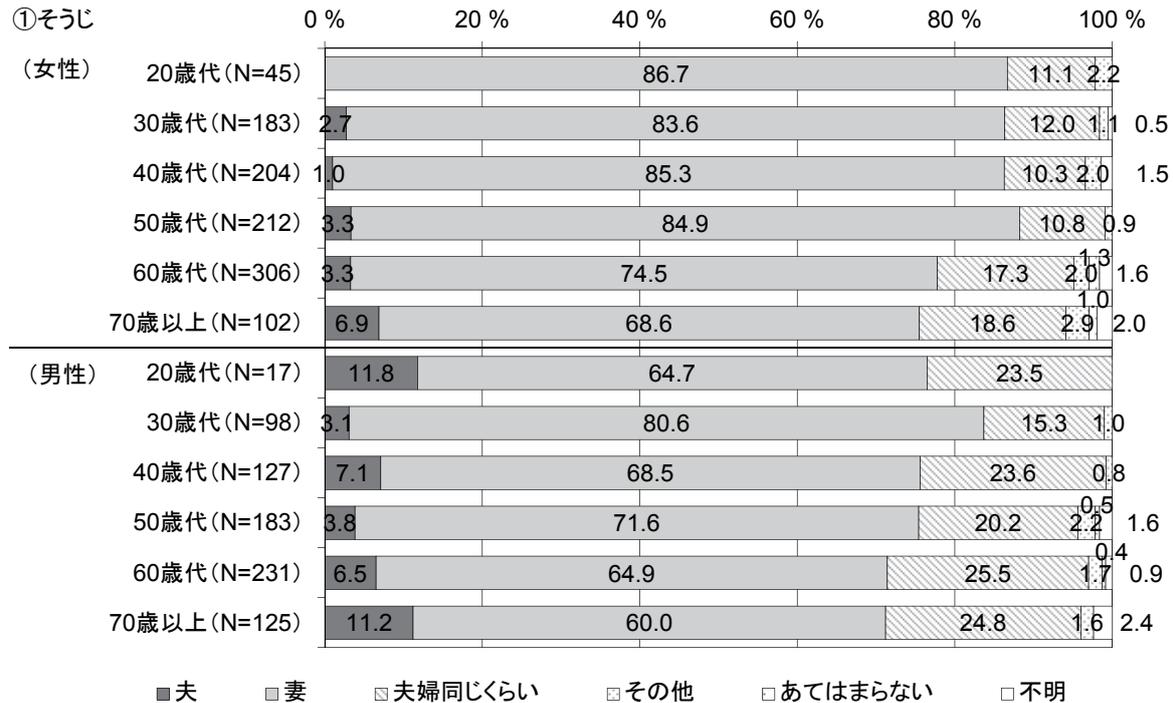
【性別×年代別】

- 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い
- 高い年代ほど「夫」や「夫婦同じくらい」が高い傾向

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。また、「妻」はすべての年代で女性が高くなっています。

一方、男性20歳代を除き、「夫」や「夫婦同じくらい」は高い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。

①そうじ

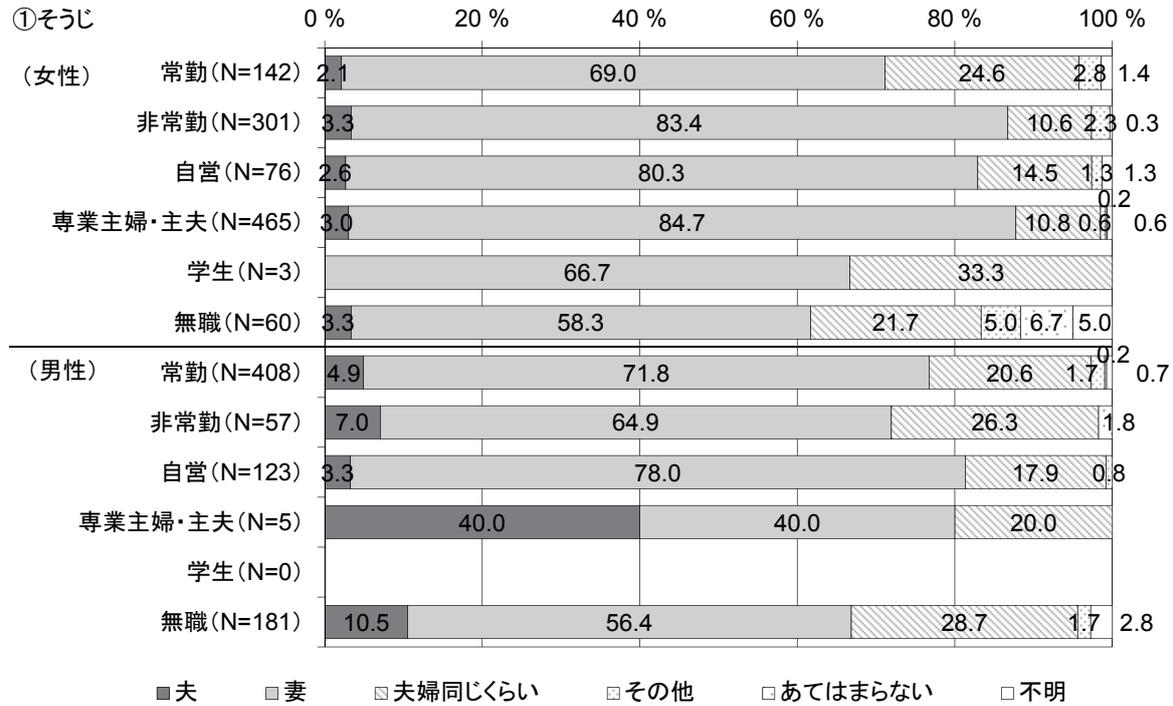


【性別×職業別】

- 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い
- 女性常勤、男性非常勤、男性無職は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

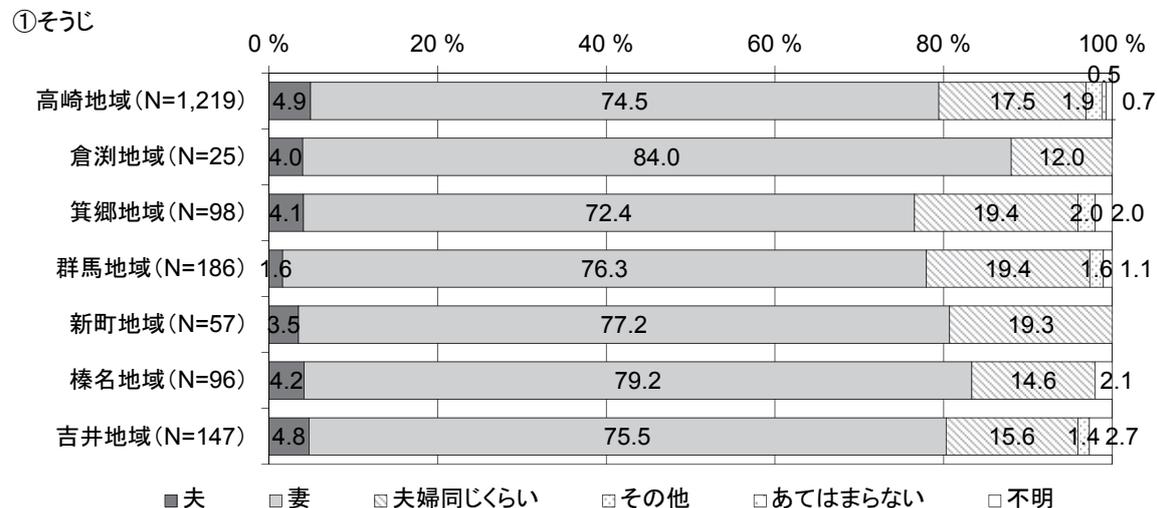
また、女性常勤、男性非常勤、男性無職は「夫婦同じくらい」（それぞれ 24.6%、26.3%、28.7%）も比較的高くなっています。



【地域別】

- すべての地域で「妻」が最も高い
- 倉渚地域は「妻」が比較的高く、「夫婦同じくらい」が比較的低い

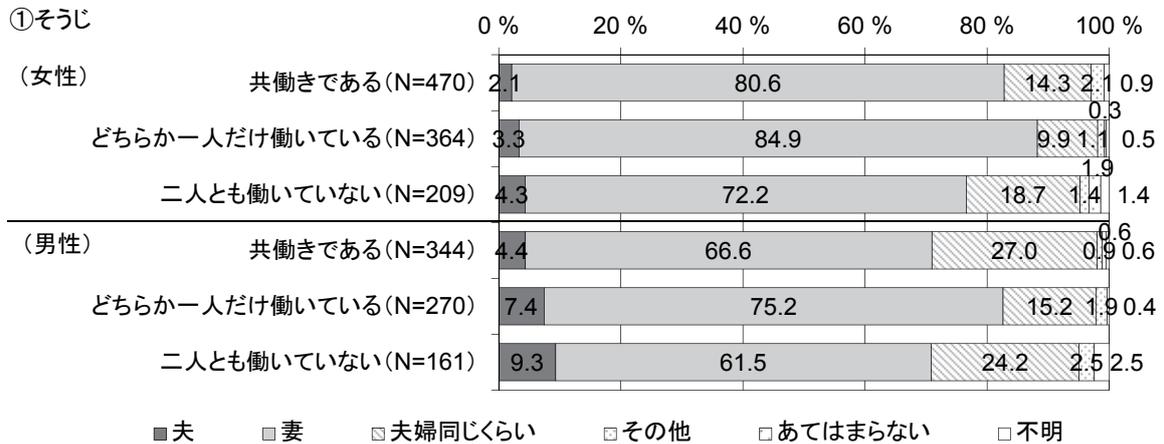
すべての地域で「妻」が最も高く、特に倉渚地域（84.0%）が比較的高くなっています。一方、倉渚地域は、「夫婦同じくらい」（12.0%）が比較的低くなっています。



【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い
- 「妻」は男女とも「どちらか一人だけ働いている」が特に高い

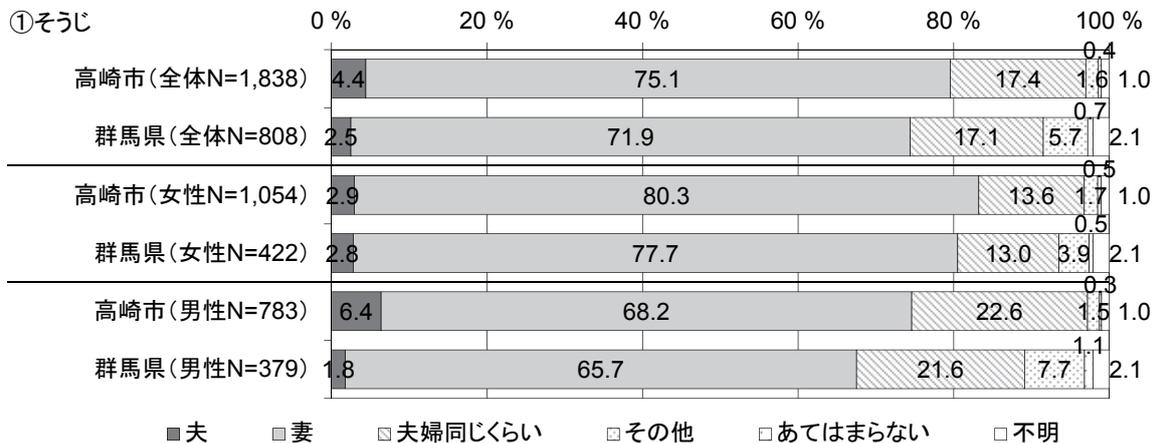
働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高く、特に「どちらか一人だけ働いている」(女性 84.9%、男性 75.2%) で高くなっています。また、働き方にかかわらず「妻」は女性で高くなっています。



【性別×他調査との比較】

- 「妻」は男女とも群馬県より高い

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「妻」は、男女とも群馬県より高くなっています。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

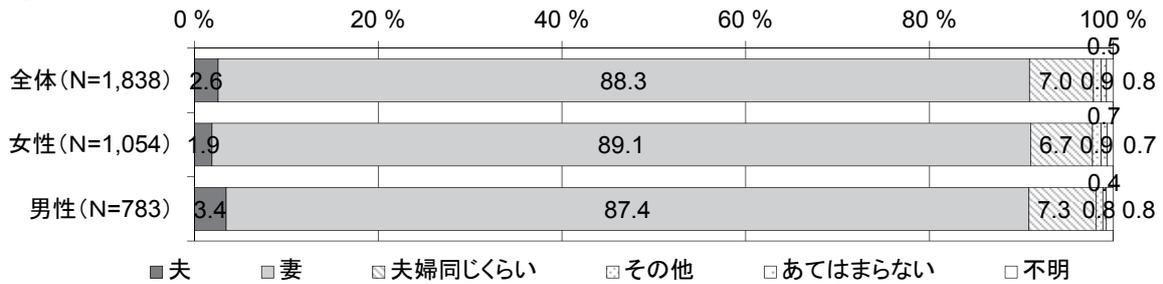
②食事の支度

【全体・性別】

● 男女とも「妻」が約9割

男女とも「妻」(女性 89.1%、男性 87.4%) が最も高く、性別による大きな差は見られません。

②食事の支度

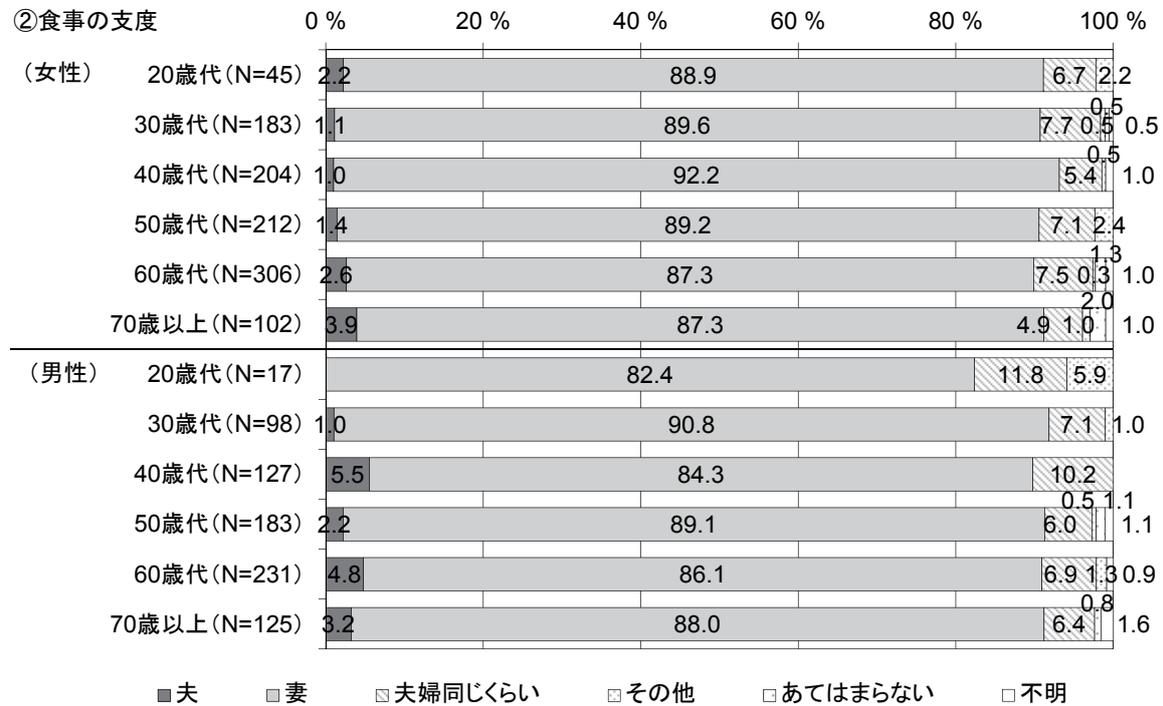


【性別×年代別】

● 男女とも年代による大きな差は見られない

男女ともすべての年代で「妻」が最も高く、年代による大きな差は見られません。

②食事の支度

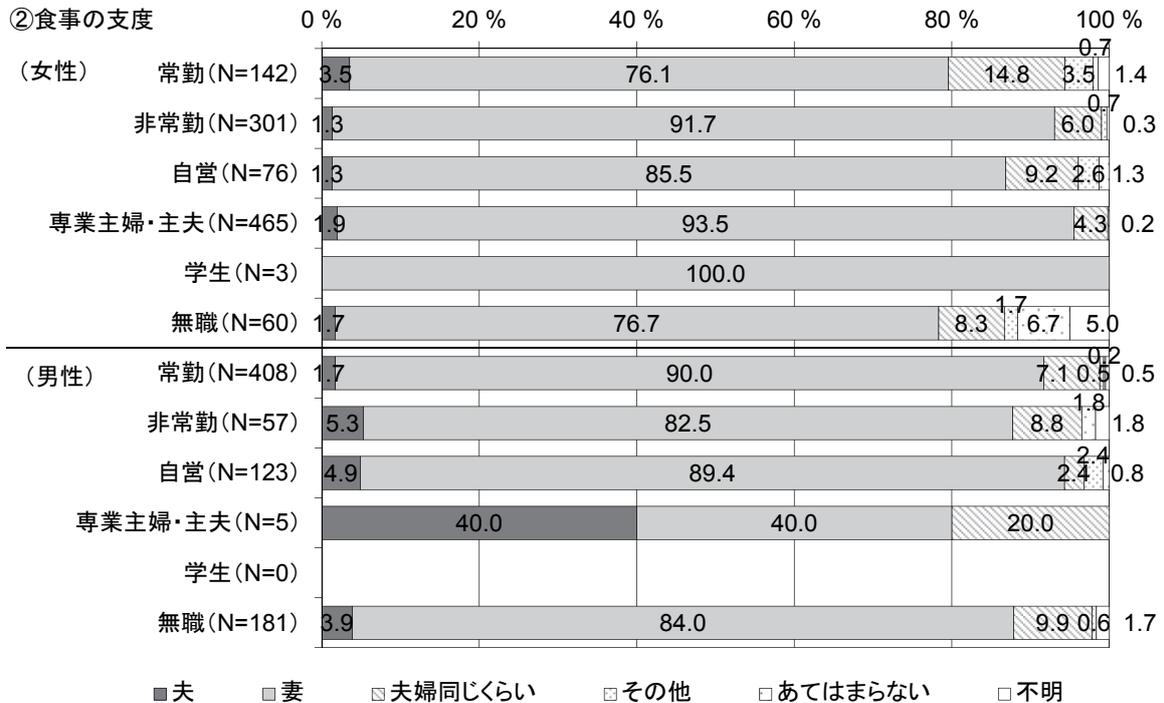


【性別×職業別】

- 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い
- 女性常勤は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

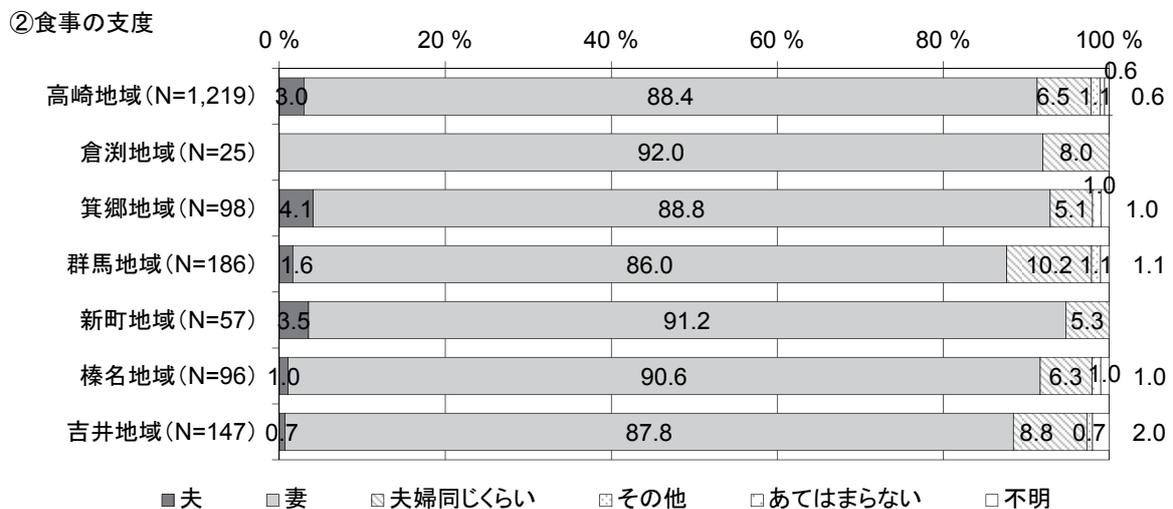
また、女性常勤は「夫婦同じくらい」（14.8%）も比較的高くなっています。



【地域別】

- すべての地域で「妻」が最も高く、地域による大きな差は見られない

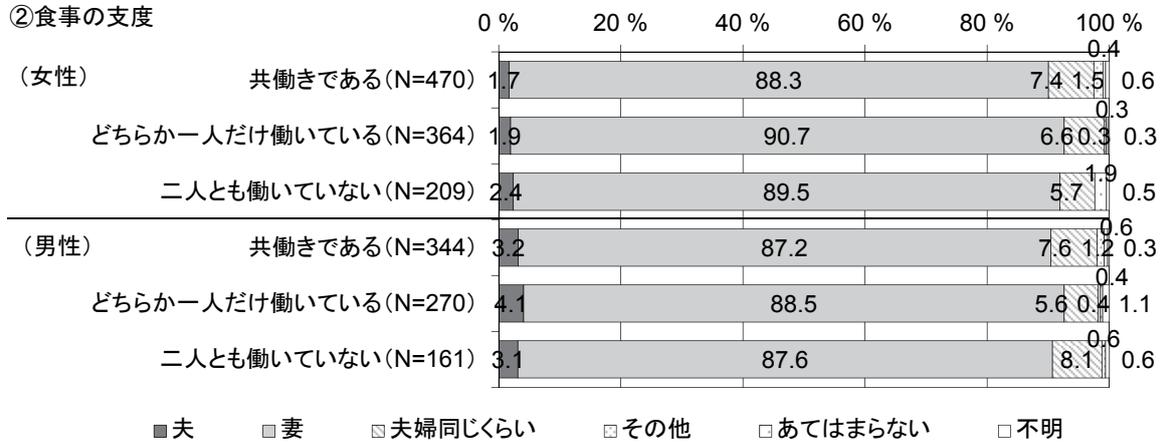
すべての地域で「妻」が最も高く、地域による大きな差は見られません。



【性別×働き方別】

● 男女とも働き方による大きな差は見られない

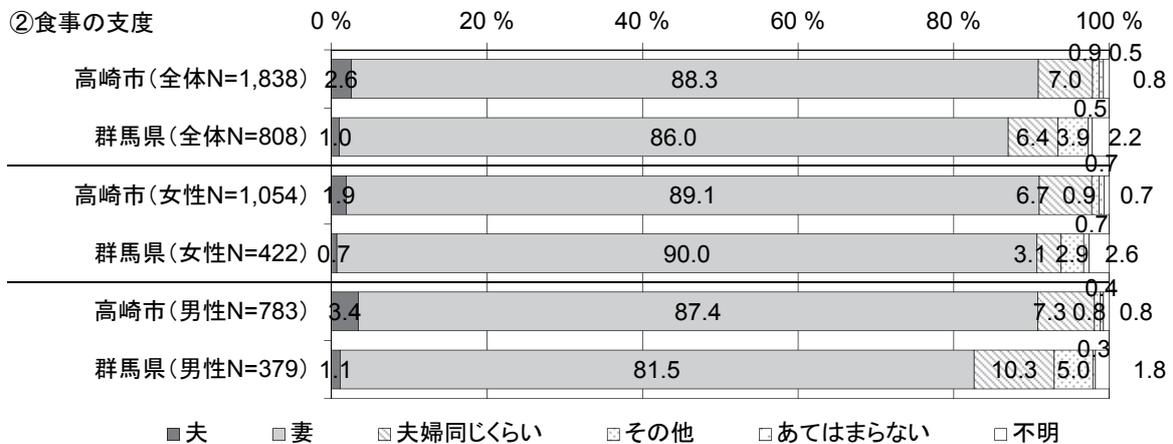
働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高く、働き方による大きな差は見られません。



【性別×他調査との比較】

● 「妻」は群馬県より男性は高く、女性は同程度

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「妻」は、女性は群馬県と同程度、男性は群馬県より高くなっています。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

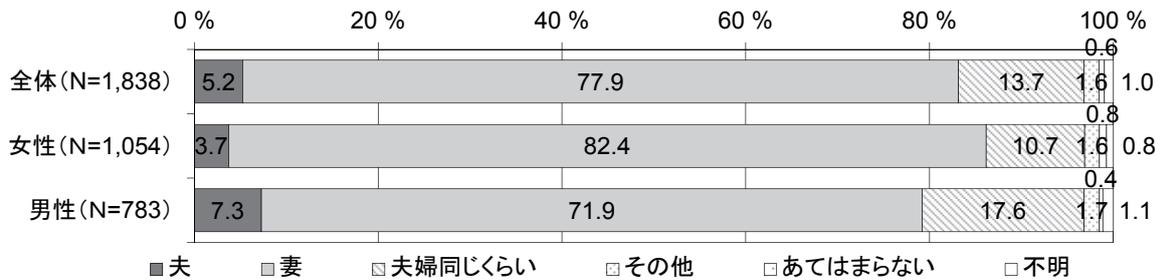
③食事のあと片付け

【全体・性別】

- 男女とも「妻」が最も高く、女性が約8割、男性が約7割

男女とも「妻」(女性82.4%、男性71.9%)が最も高くなっています。また、男性は「夫婦同じくらい」(17.6%)も比較的高くなっています。

③食事のあと片付け



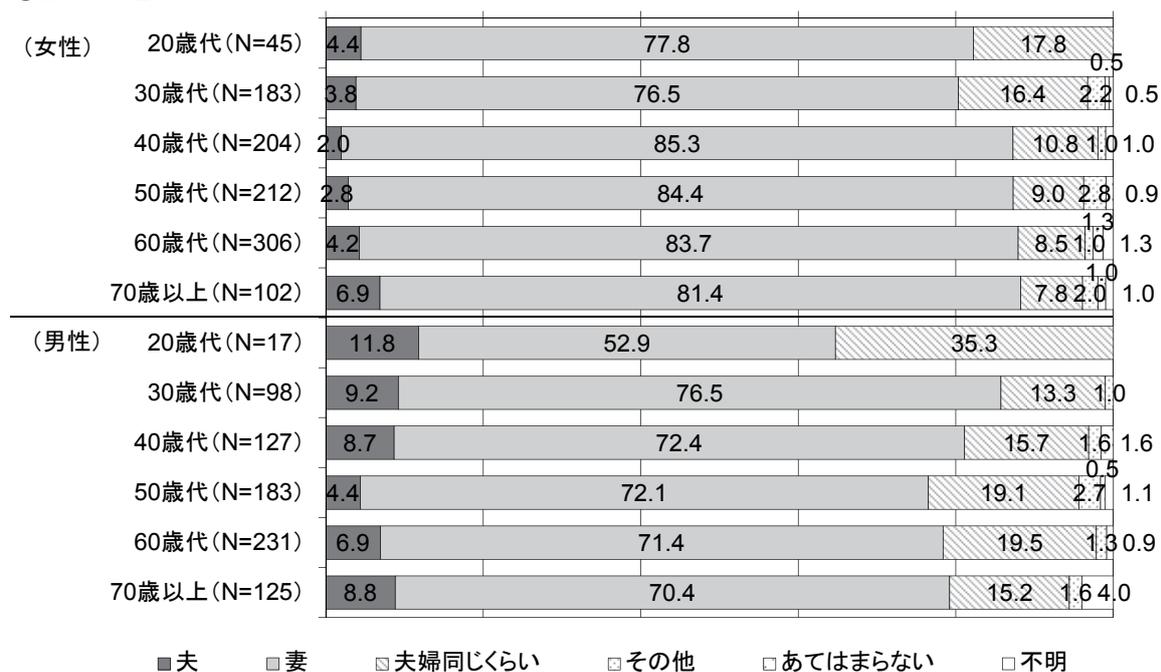
【性別×年代別】

- 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い
- 男性20歳代は「夫」や「夫婦同じくらい」が比較的高い

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。また、「妻」は30歳代を除き、すべての年代で女性が高くなっています。30歳代は男女が同値(76.5%)となっています。

一方、「夫」や「夫婦同じくらい」は男性20歳代(それぞれ11.8%、35.3%)が比較的高くなっています。

③食事のあと片付け

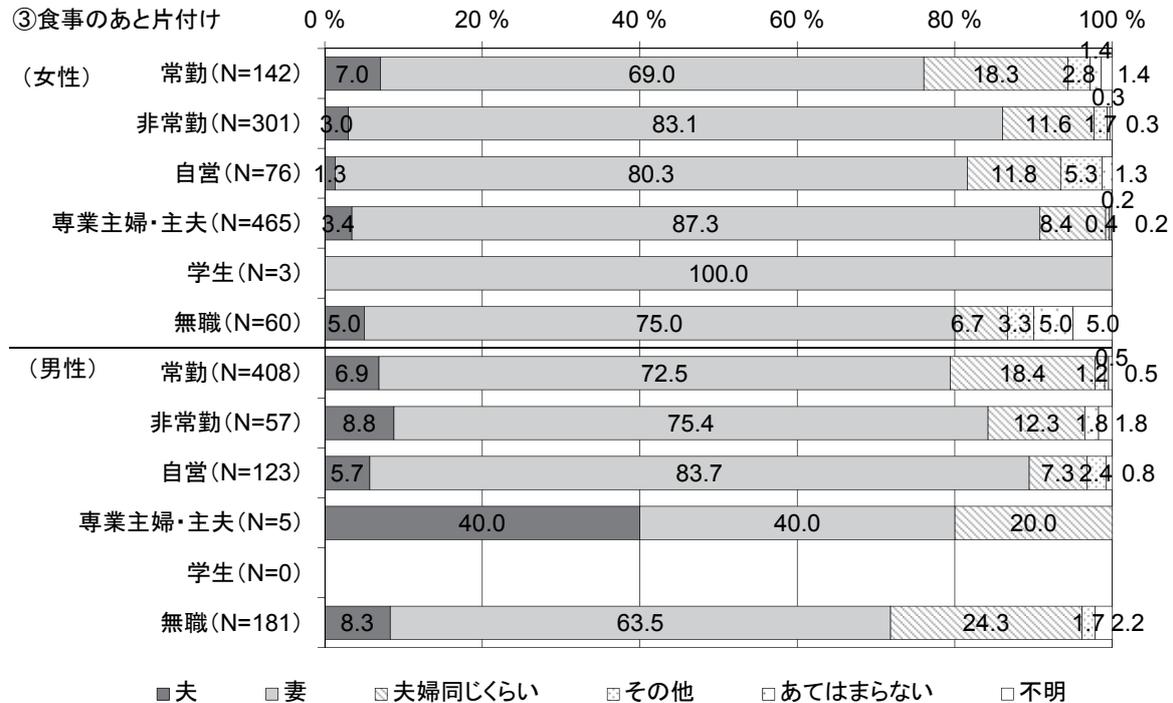


【性別×職業別】

- 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い
- 男性無職は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

また、男性無職は「夫婦同じくらい」(24.3%)も比較的高くなっています。

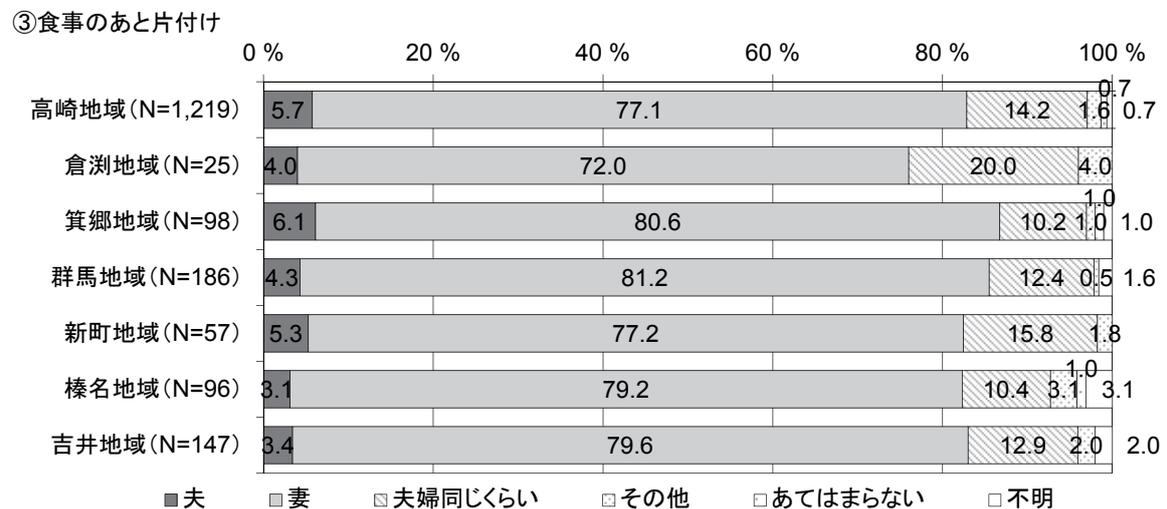


【地域別】

- すべての地域で「妻」が最も高い
- 倉渚地域は「夫婦同じくらい」が比較的高い

すべての地域で「妻」が最も高くなっています。

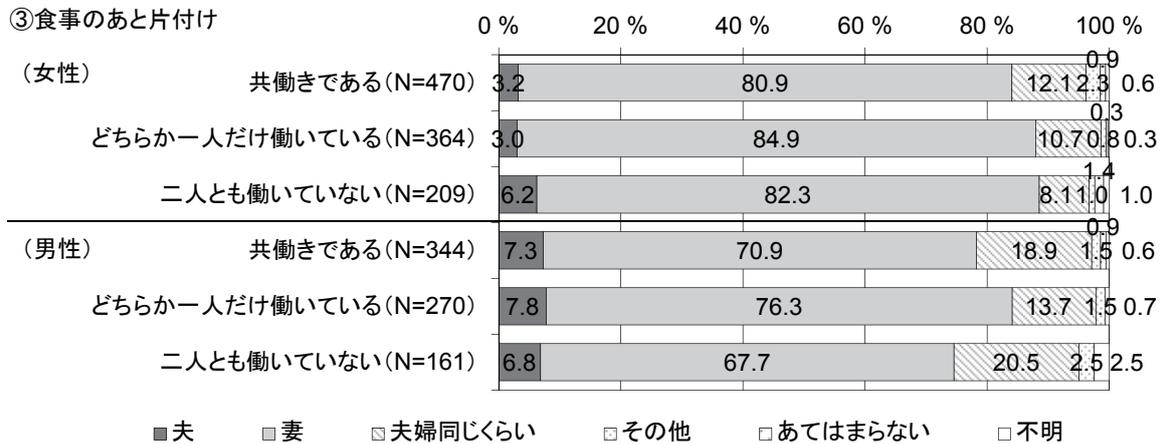
また、倉渚地域は「夫婦同じくらい」(20.0%)も比較的高くなっています。



【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い
- 「妻」は男女とも「どちらか一人だけ働いている」が比較的高い

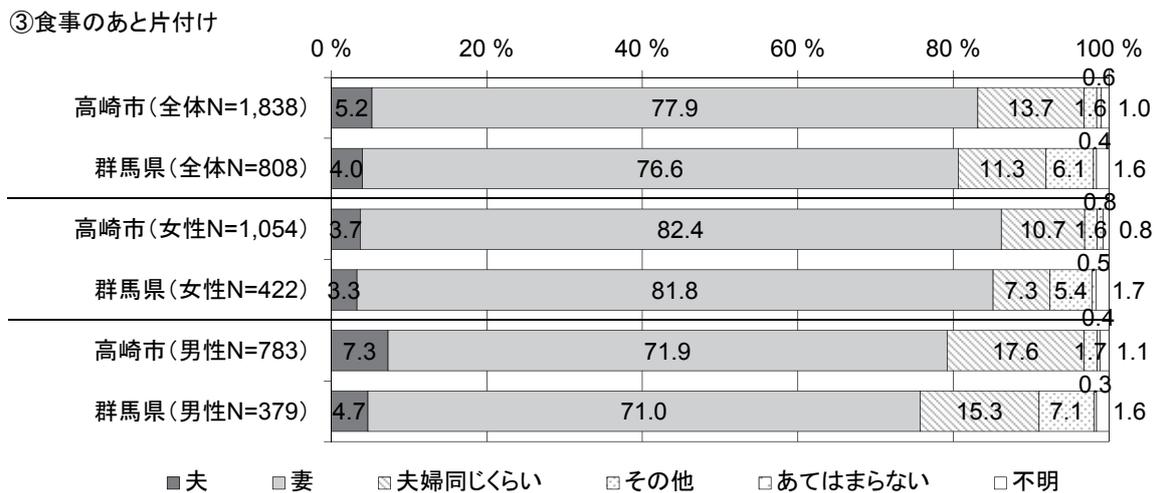
働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高く、「どちらか一人だけ働いている」（女性 84.9%、男性 76.3%）が比較的高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています。



【性別×他調査との比較】

- 男女とも群馬県と大きな差は見られない

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、男女とも群馬県と大きな差は見られません。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

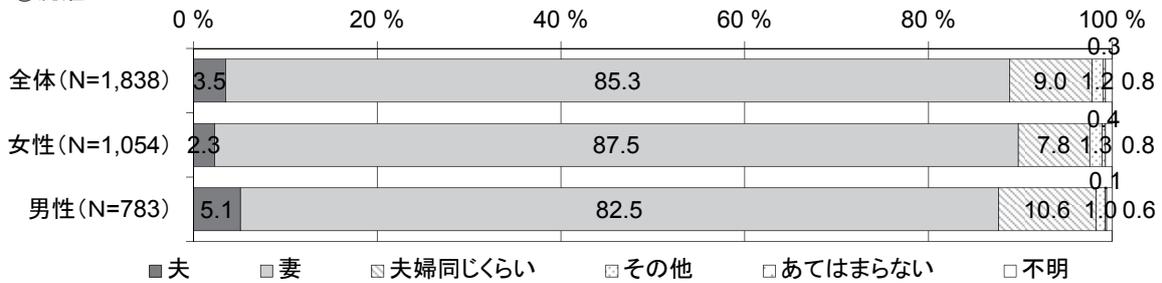
④洗濯

【全体・性別】

- 男女とも「妻」が最も高く、女性が約9割、男性が約8割

男女とも「妻」（女性 87.5%、男性 82.5%）が最も高く、特に女性は約9割を占めています。

④洗濯



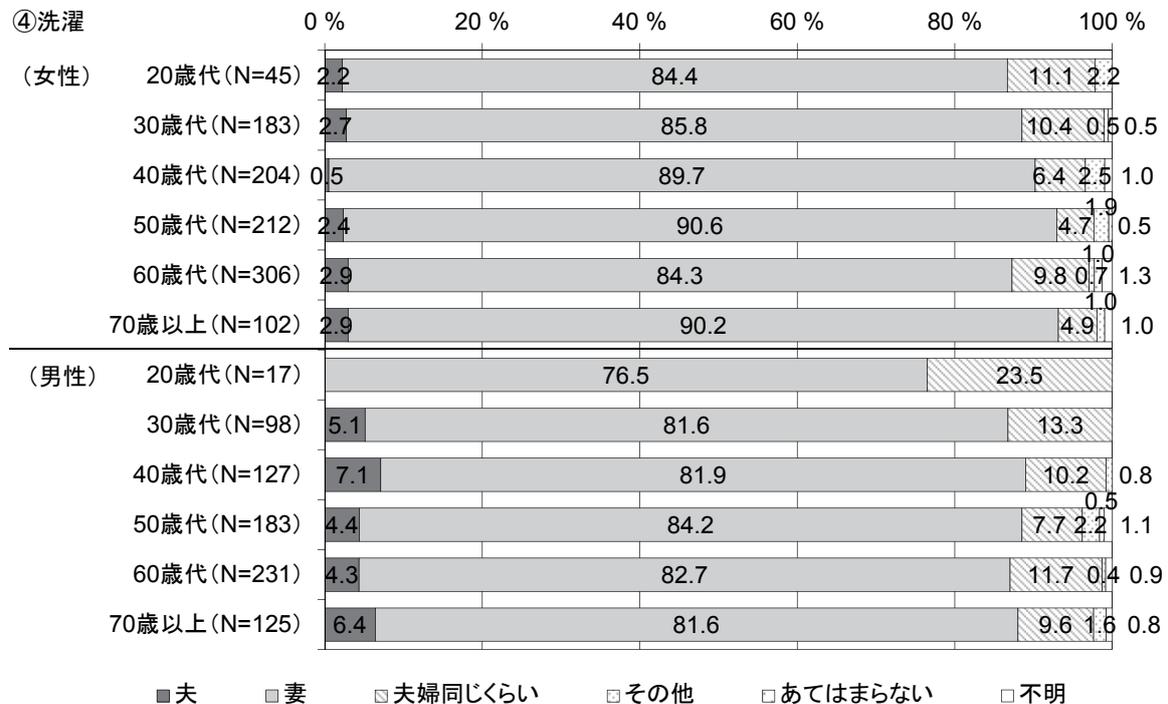
【性別×年代別】

- 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い
- 男性20歳代は「夫婦同じくらい」が比較的高い

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。また、「妻」はすべての年代で女性が高くなっています。

男性20歳代は「夫婦同じくらい」（23.5%）も比較的高くなっています。

④洗濯

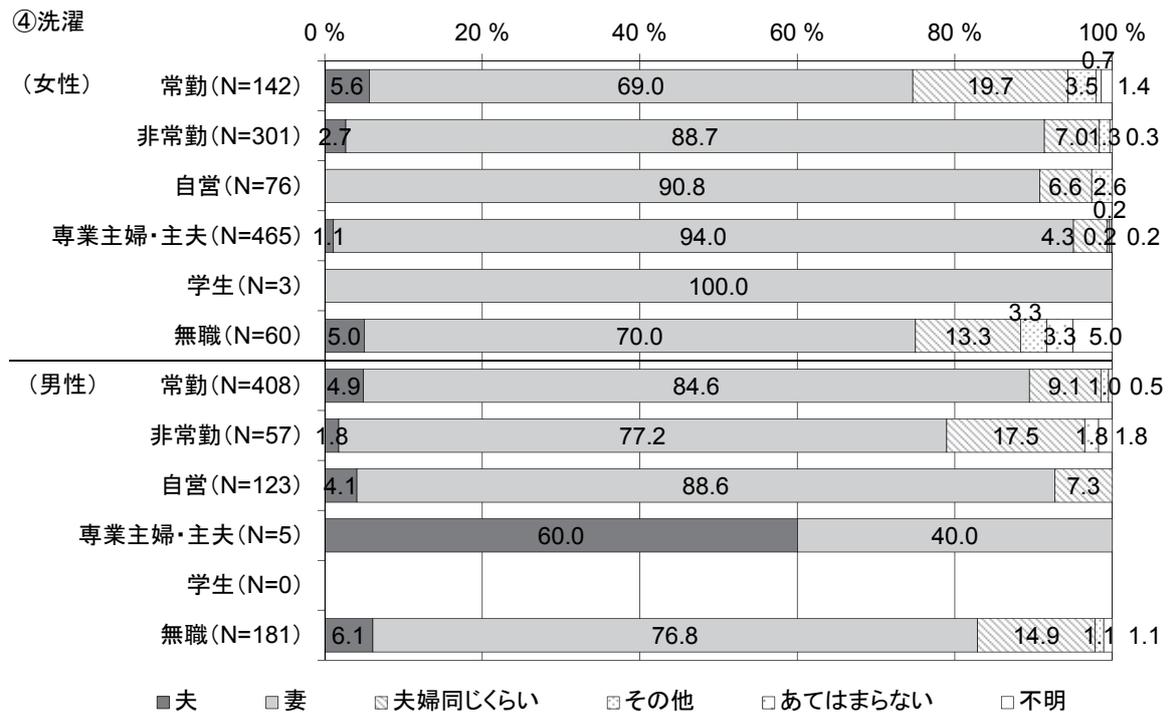


【性別×職業別】

- 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い
- 女性常勤・無職、男性非常勤・無職は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

また、女性常勤・無職、男性非常勤・無職は「夫婦同じくらい」（それぞれ 19.7%、13.3%、17.5%、14.9%）も比較的高くなっています。

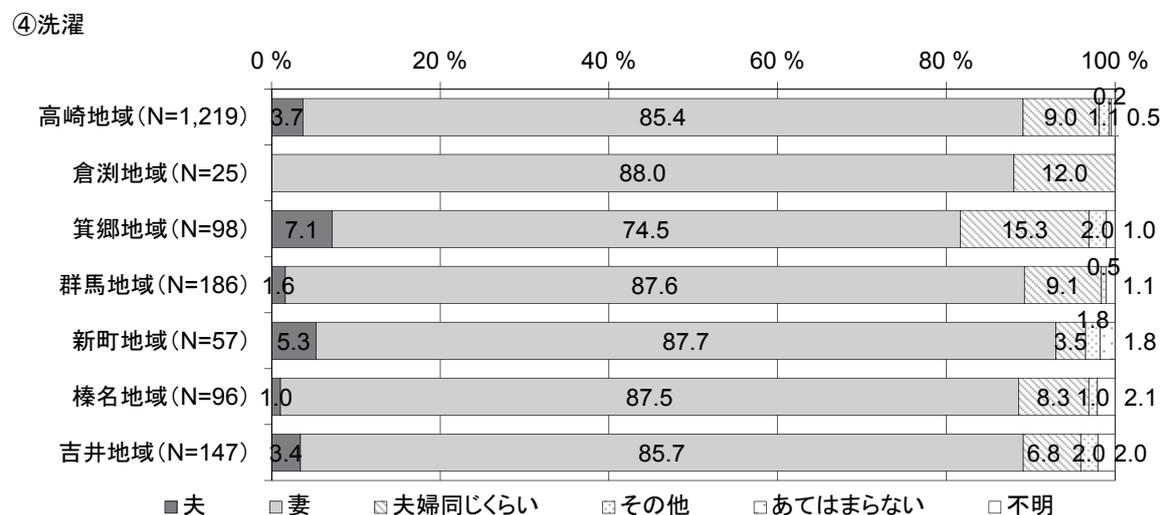


【地域別】

- すべての地域で「妻」が最も高い
- 箕郷地域は「夫婦同じくらい」が比較的高い

すべての地域で「妻」が最も高くなっています。

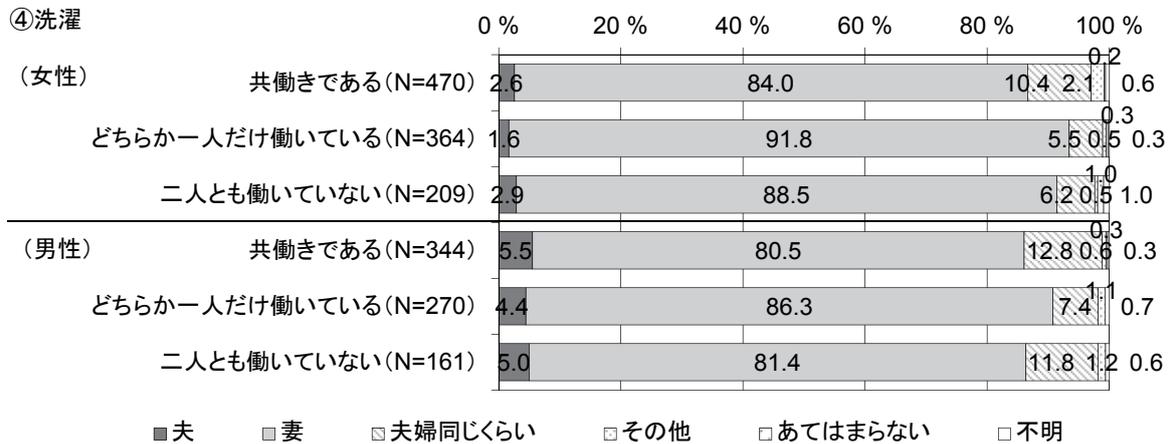
また、箕郷地域は「夫婦同じくらい」（15.3%）も比較的高くなっています。



【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い
- 「妻」は男女とも「どちらか一人だけ働いている」が比較的高い

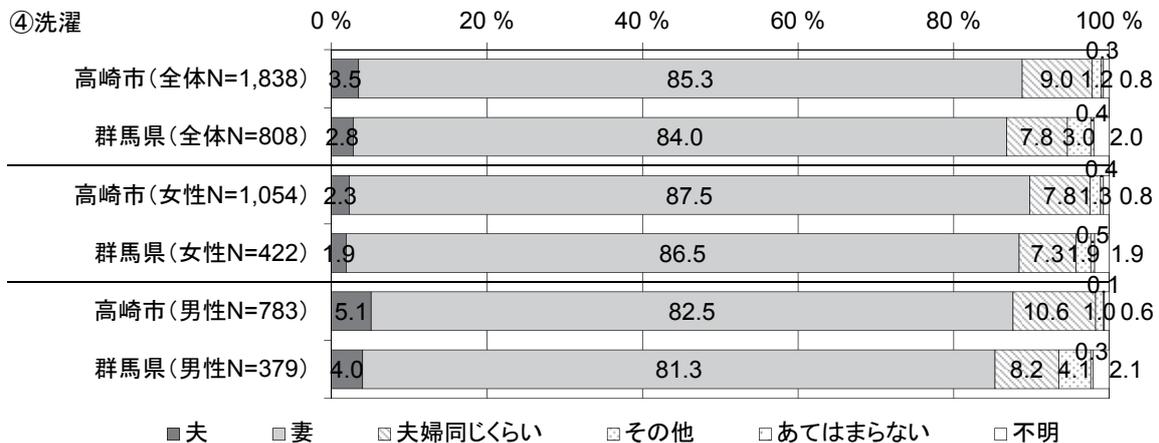
働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高く、特に「どちらか一人だけ働いている」（女性 91.8%、男性 86.3%）が比較的高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています。



【性別×他調査との比較】

- 男女とも群馬県と大きな差は見られない

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、男女とも群馬県と大きな差は見られません。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

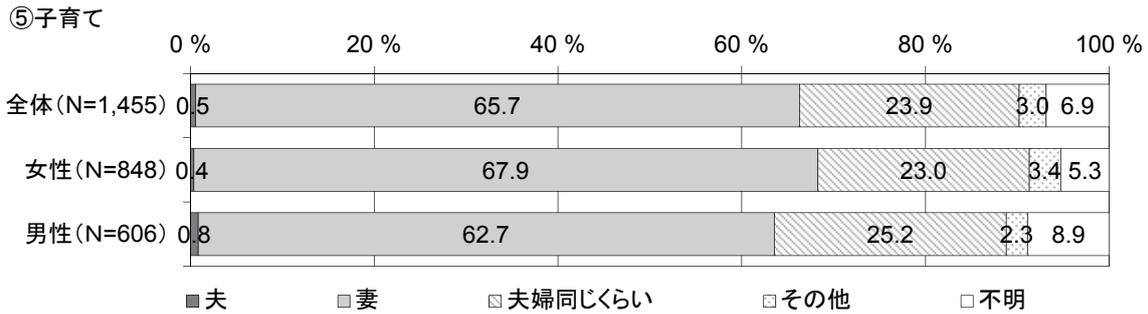
⑤子育て（子どもがいない場合の「あてはまらない」を除外）

【全体・性別】

- 男女とも「妻」が最も高く、女性が約7割、男性が約6割
- 男女とも「夫婦同じくらい」も2割以上

男女とも「妻」（女性 67.9%、男性 62.7%）が最も高くなっています。

また、男女とも「夫婦同じくらい」（女性 23.0%、男性 25.2%）も比較的高くなっています。

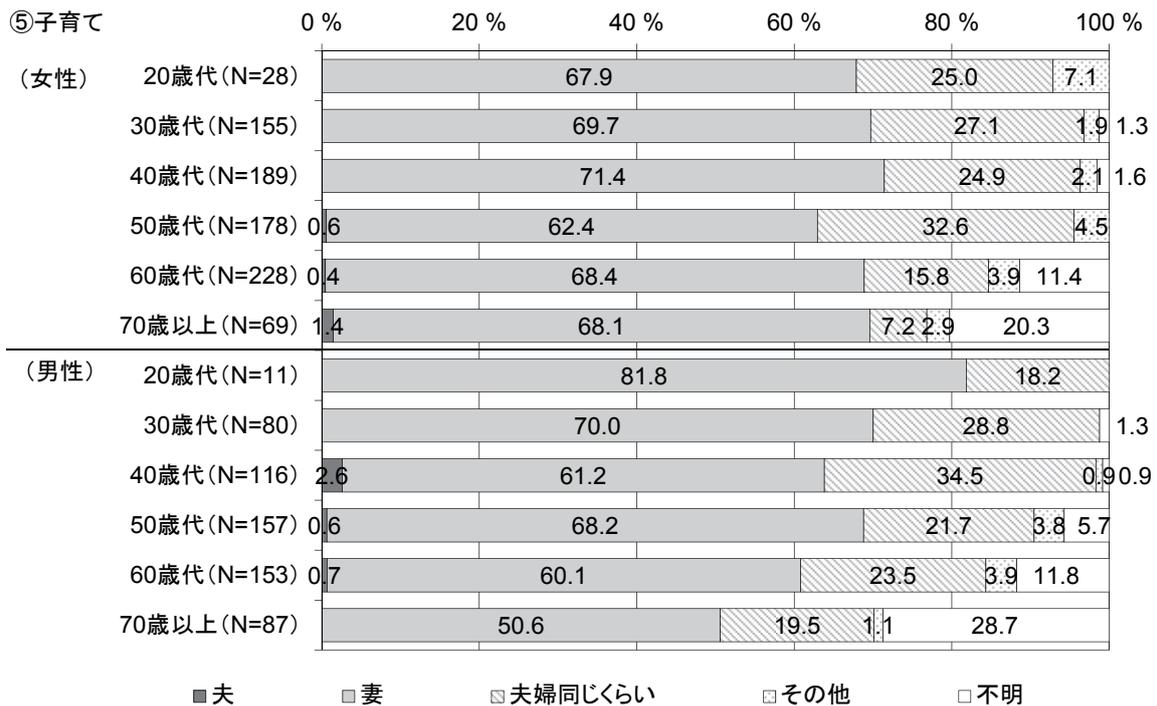


【性別×年代別】

- 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い
- 女性50歳代、男性40歳代は「夫婦同じくらい」が比較的高い

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。

また、女性50歳代や男性40歳代は「夫婦同じくらい」（それぞれ32.6%、34.5%）も3割以上と比較的高くなっています。

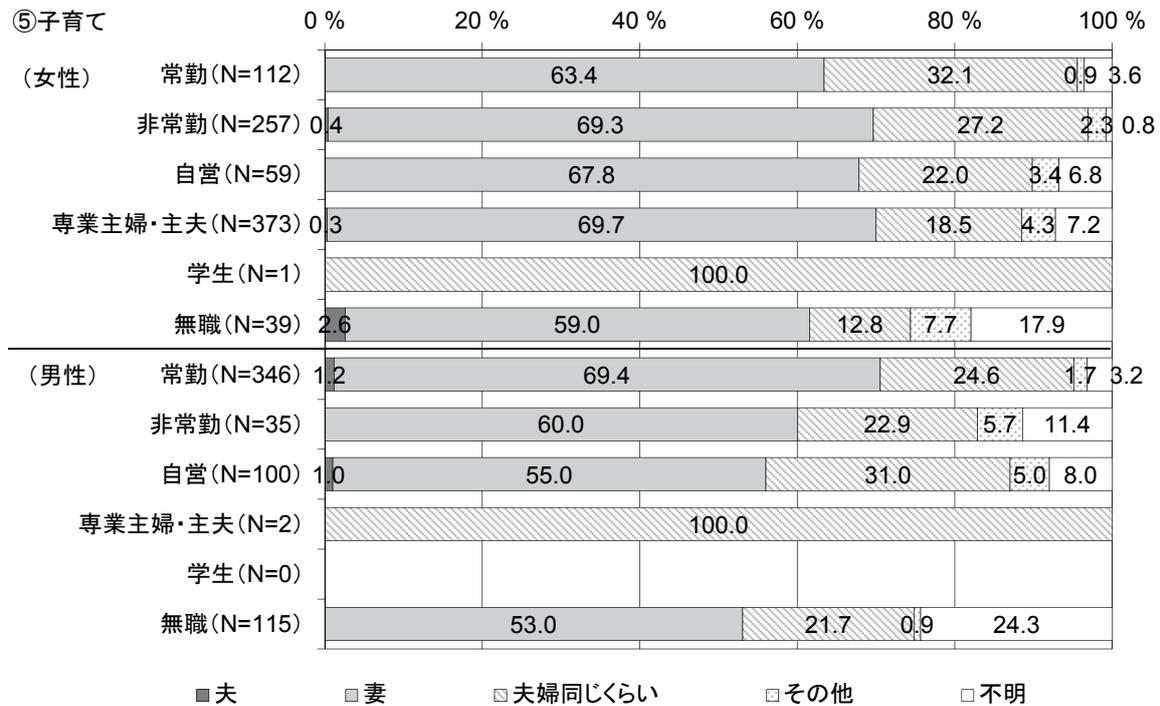


【性別×職業別】

- 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い
- 女性常勤、男性自営は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

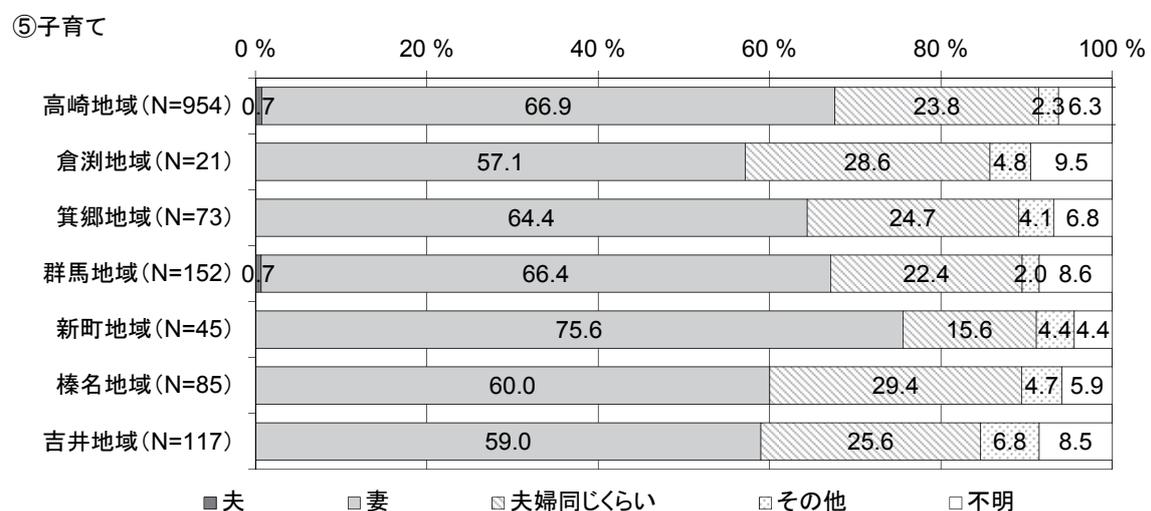
また、女性常勤や男性自営は「夫婦同じくらい」（それぞれ 32.1%、31.0%）も比較的高くなっています。



【地域別】

- すべての地域で「妻」が最も高い
- 新町地域は「妻」が比較的高く、「夫婦同じくらい」が比較的低い

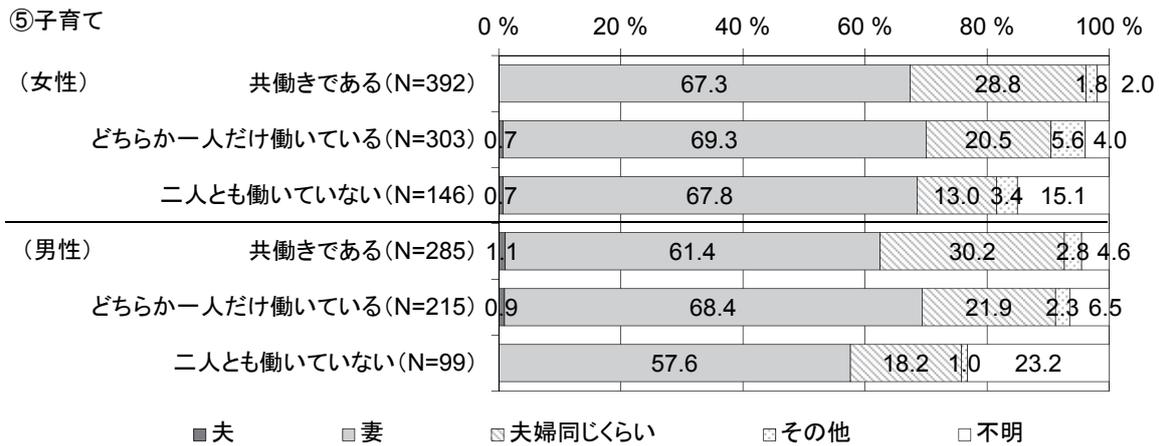
すべての地域で「妻」が最も高く、特に新町地域（75.6%）が比較的高くなっています。一方、新町地域は、「夫婦同じくらい」（15.6%）が比較的低くなっています。



【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い
- 男女とも「共働き」は「夫婦同じくらい」が比較的高い

働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高く、「共働きである」は「夫婦同じくらい」（女性 28.8%、男性 30.2%）も比較的高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています（「どちらか一人だけ働いている」は同程度）。

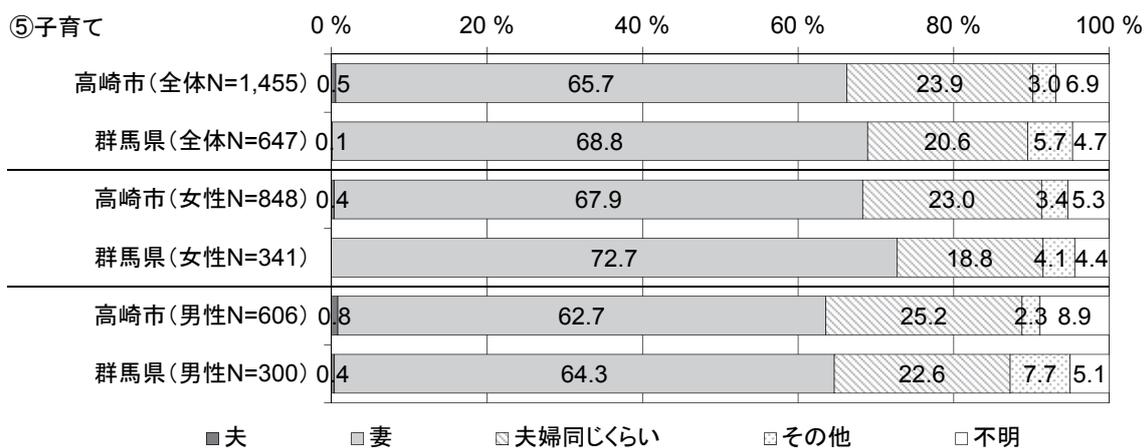


【性別×他調査との比較】

- 「妻」は群馬県より女性は若干低く、男性は同程度
- 「夫婦同じくらい」は男女とも群馬県と同程度

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「妻」は、女性は群馬県より若干低く、男性は群馬県と同程度になっています。

また、「夫婦同じくらい」は、男女とも群馬県より若干高くなっています。



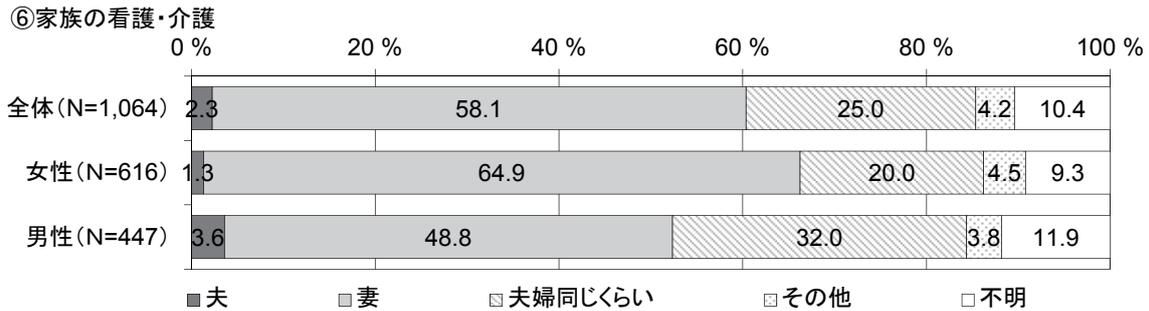
※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上し、「高崎市」と同様に「あてはまらない」を除外

⑥家族の看護・介護（看護・介護が必要な家族がない場合の「あてはまらない」を除外）

【全体・性別】

- 男女とも「妻」が最も高く、女性が約6割、男性が約5割
- 「夫婦同じくらい」も女性が約2割、男性が約3割

男女とも「妻」（女性64.9%、男性48.8%）が最も高くなっています。  
また、男性は「夫婦同じくらい」（32.0%）も比較的高くなっています。

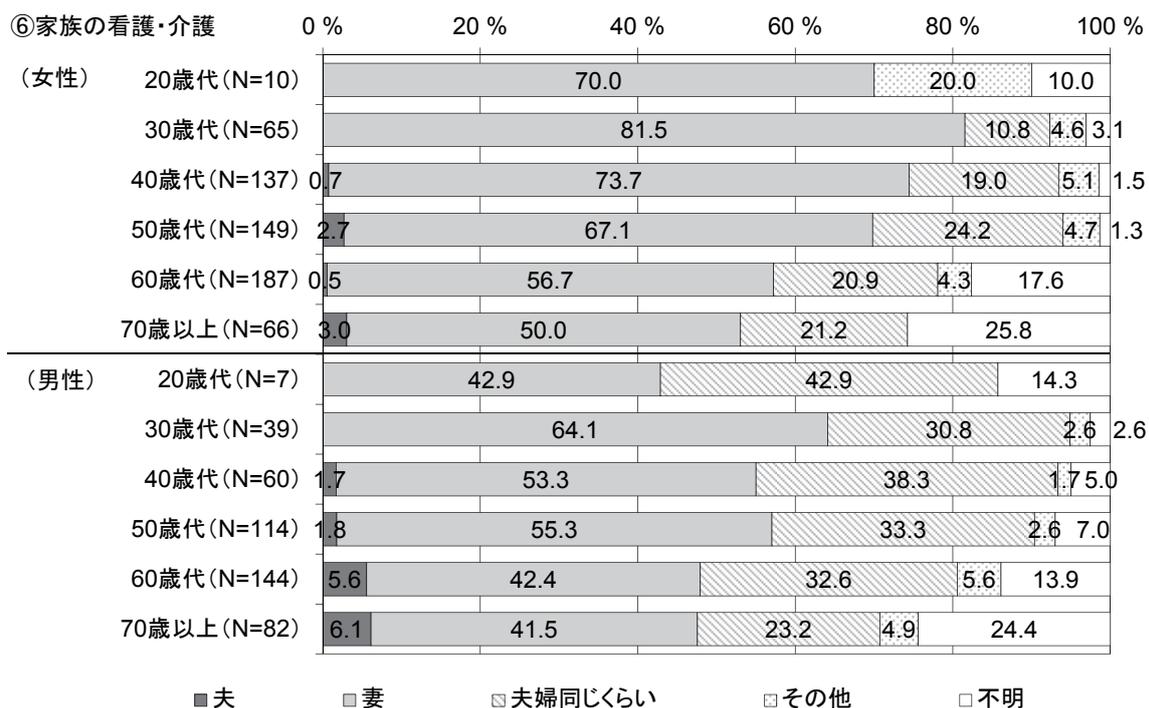


【性別×年代別】

- 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い
- 男性40歳代は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない20歳代を除くと、男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。

また、男性40歳代は「夫婦同じくらい」（38.3%）も約4割と比較的高くなっています。  
男性は30・50・60歳代も「夫婦同じくらい」（それぞれ30.8%、33.3%、32.6%）が3割以上となっています。

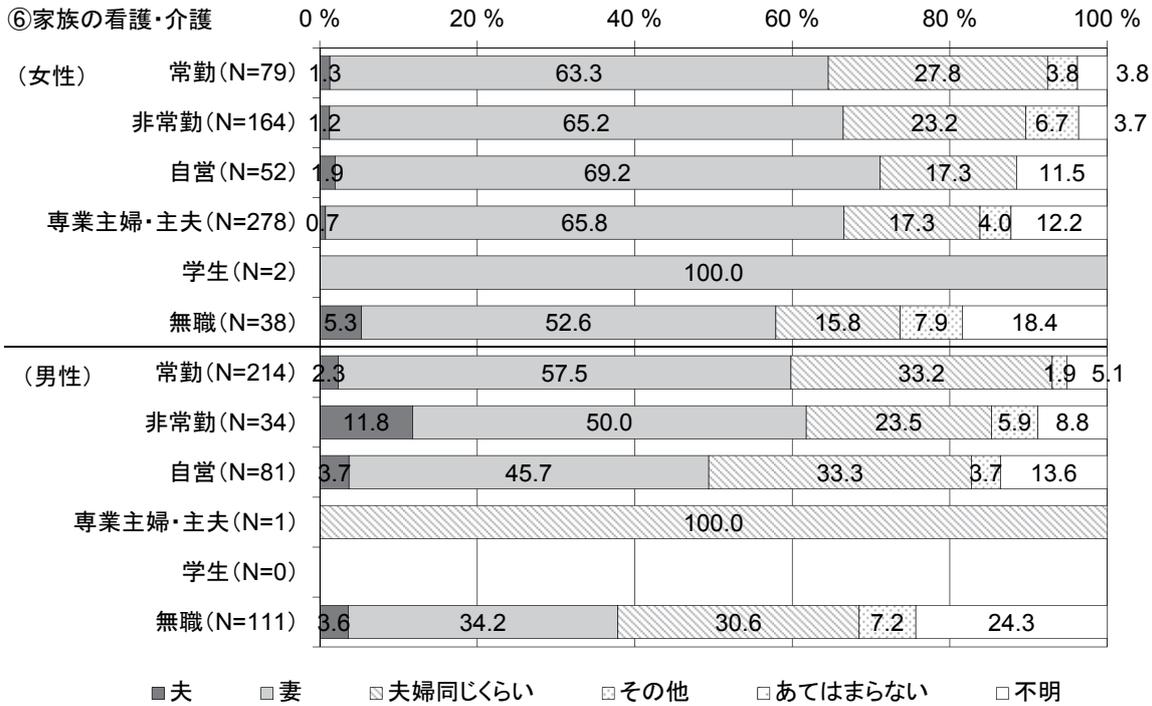


【性別×職業別】

- 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い
- 男性非常勤は「夫」、男性常勤・自営・無職は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。また、すべての職業で「妻」は女性が高くなっています。

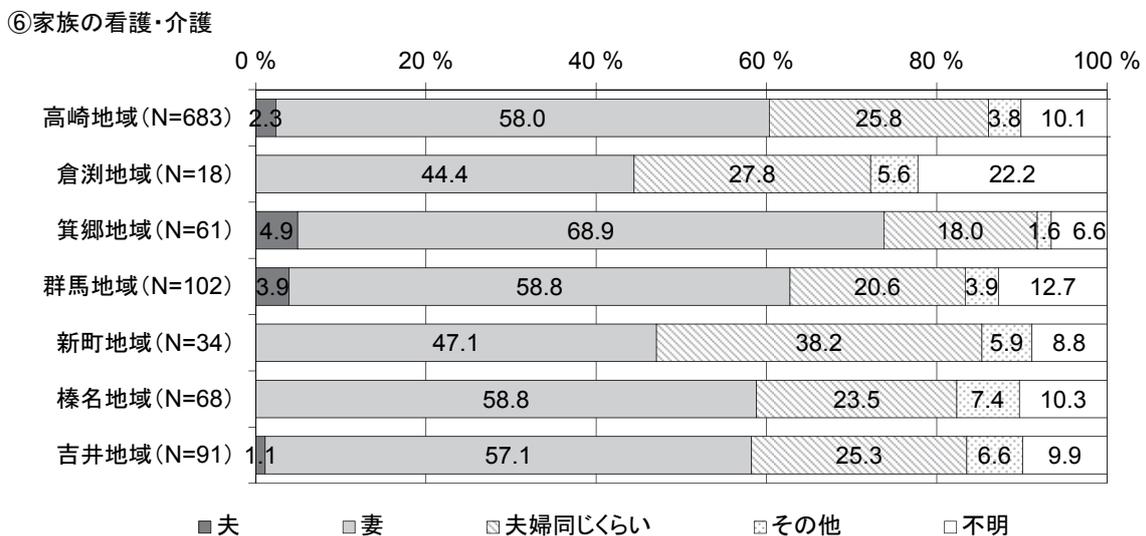
男性非常勤は「夫」(11.8%)、男性常勤・自営・無職は「夫婦同じくらい」(それぞれ 33.2%、33.3%、30.6%) も比較的高くなっています。



【地域別】

- すべての地域で「妻」が最も高い
- 新町地域は「夫婦同じくらい」が特に高い

すべての地域で「妻」が最も高く、特に箕郷地域(68.9%)が高くなっています。また、新町地域は「夫婦同じくらい」(38.2%)が特に高くなっています。

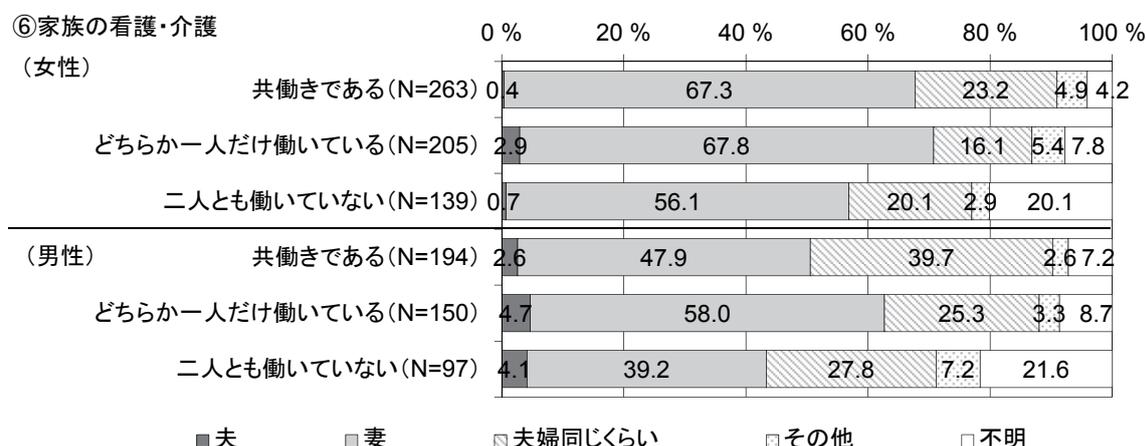


【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い
- 男性「共働き」は「夫婦同じくらい」が比較的高い

働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています。

男性「共働きである」は「夫婦同じくらい」(39.7%)も比較的高くなっています。

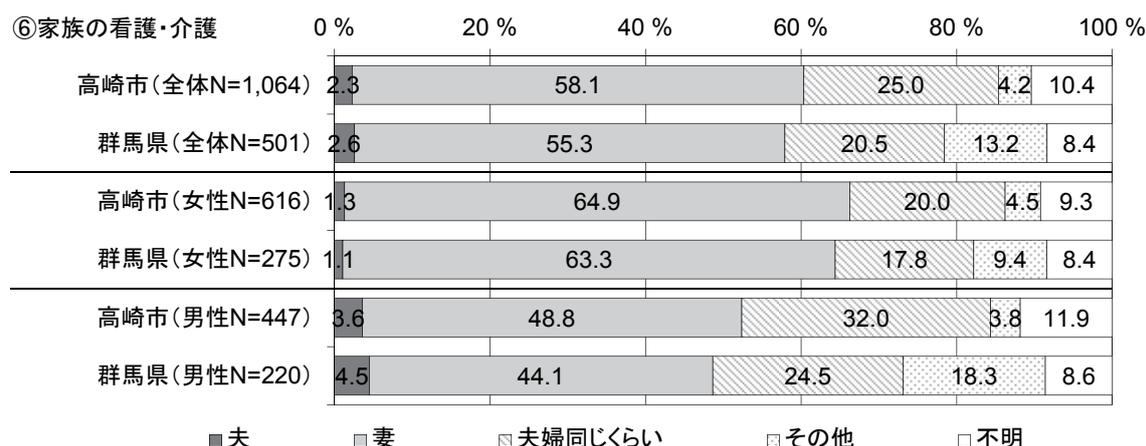


【性別×他調査との比較】

- 「妻」は群馬県より男性は高く、女性は同程度
- 「夫婦同じくらい」は男女とも群馬県より若干高い

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「妻」は、女性は群馬県と同程度、男性は群馬県より若干高くなっています。

また、「夫婦同じくらい」は、男女とも群馬県より若干高くなっています。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上し、「高崎市」と同様に「あてはまらない」を除外

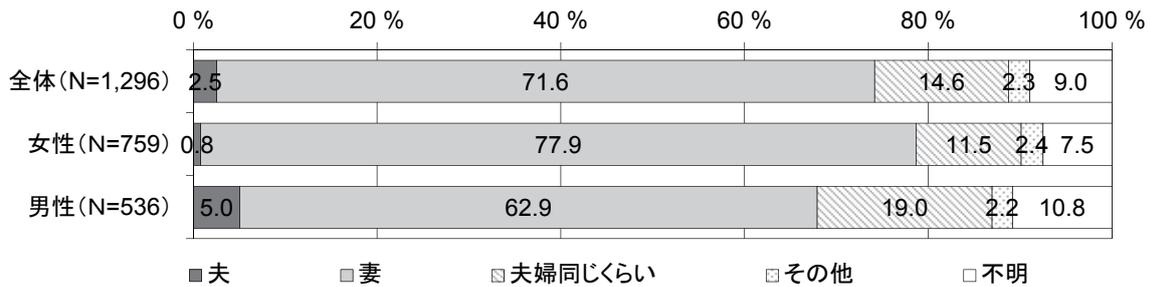
⑦学校行事等への参加（子どもがいない場合の「あてはまらない」を除外）

【全体・性別】

- 男女とも「妻」が最も高く、女性が約 8 割、男性が約 6 割
- 男性は「夫婦同じくらい」も約 2 割

男女とも「妻」（女性 77.9%、男性 62.9%）が最も高くなっています。また、男性は「夫婦同じくらい」（19.0%）も比較的高くなっています。

⑦学校行事への参加



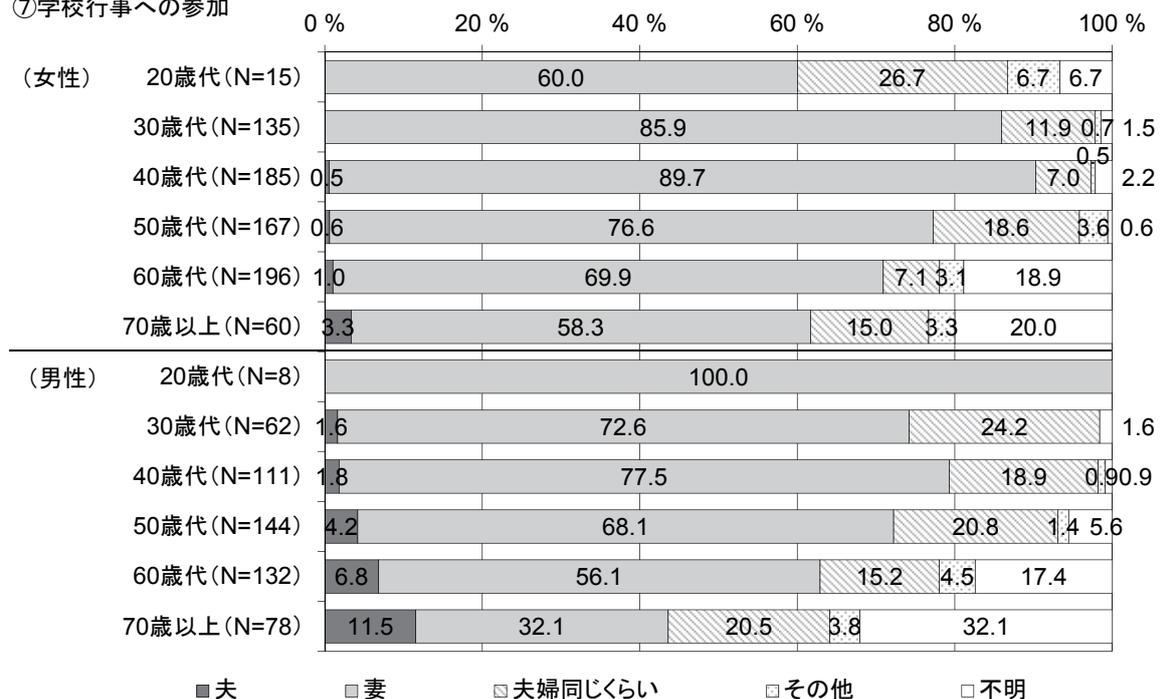
【性別×年代別】

- 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い
- 男性 60 歳代以上は「夫」、女性 20 歳代、男性 30 歳代は「夫婦同じくらい」が比較的高い

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。また、「妻」は、回答者数が少ない男性 20 歳代を除くすべての年代で女性が高くなっています。

また、男性 60 歳代以上は「夫」（男性 60 歳代 6.8%、男性 70 歳以上 11.5%）、女性 20 歳代や男性 30 歳代は「夫婦同じくらい」（それぞれ 26.7%、24.2%）も比較的高くなっています。

⑦学校行事への参加

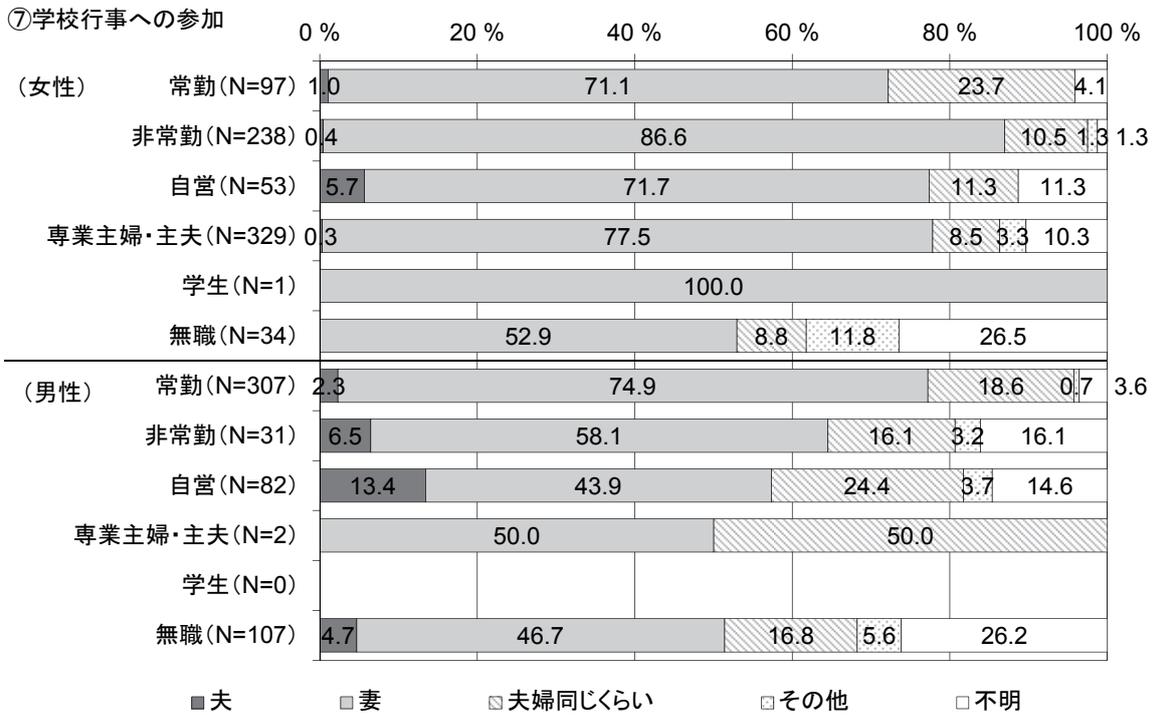


【性別×職業別】

- 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い
- 男性自営は「夫」、女性常勤、男性自営は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

また、男性自営は「夫」（13.4%）、女性常勤、男性自営は「夫婦同じくらい」（それぞれ23.7%、24.4%）も比較的高くなっています。

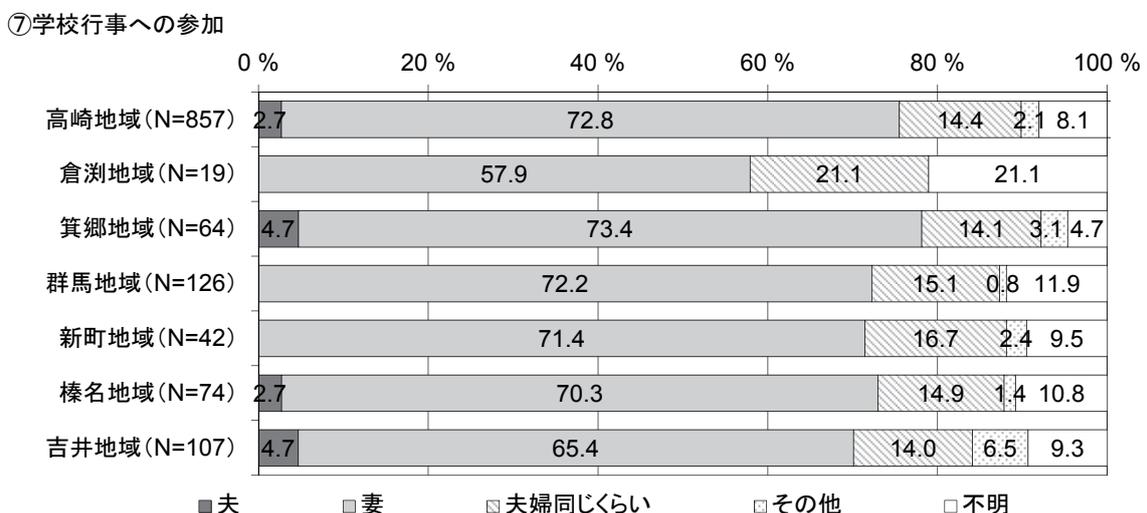


【地域別】

- すべての地域で「妻」が最も高い
- 倉渚地域は「夫婦同じくらい」が比較的高い

すべての地域で「妻」が最も高くなっています。

また、倉渚地域は「夫婦同じくらい」（21.1%）も比較的高くなっています。



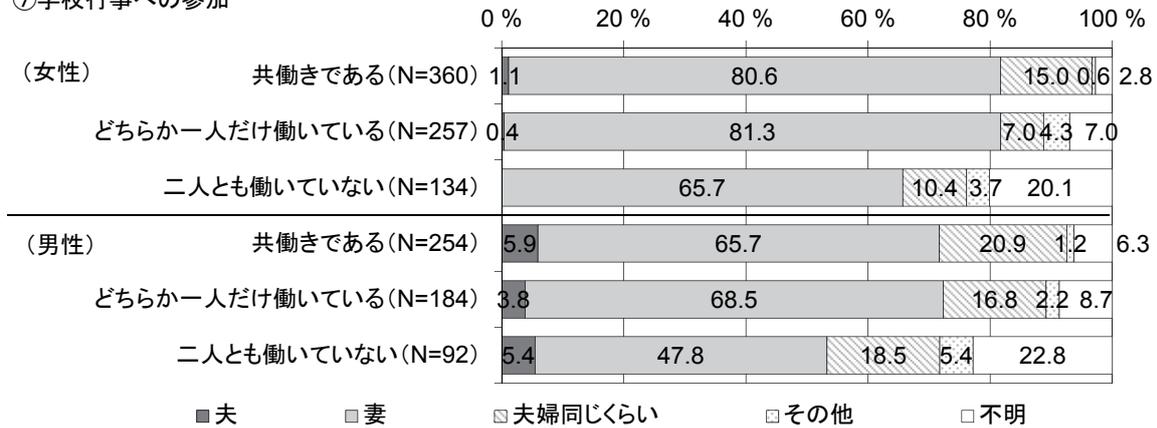
【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い
- 男性「共働き」は「夫婦同じくらい」が比較的高い

働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています。

男性「共働きである」は「夫婦同じくらい」(20.9%)も比較的高くなっています。

⑦学校行事への参加



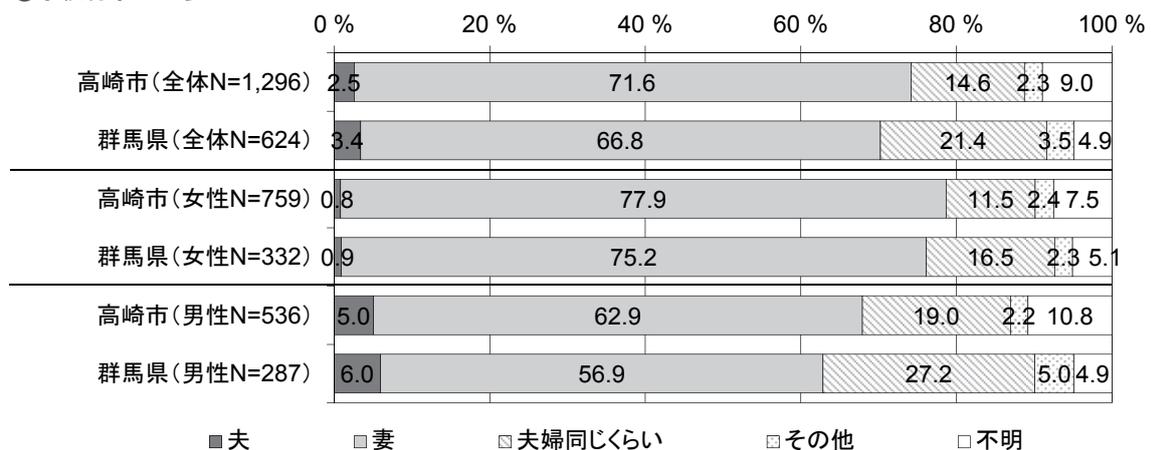
【性別×他調査との比較】

- 「妻」は男女とも群馬県より高い
- 「夫婦同じくらい」は男女とも群馬県より低い

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「妻」は、男女とも群馬県より若干高くなっています。

また、「夫婦同じくらい」は、男女とも群馬県より低くなっています。

⑦学校行事への参加



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上し、「高崎市」と同様に「あてはまらない」を除外

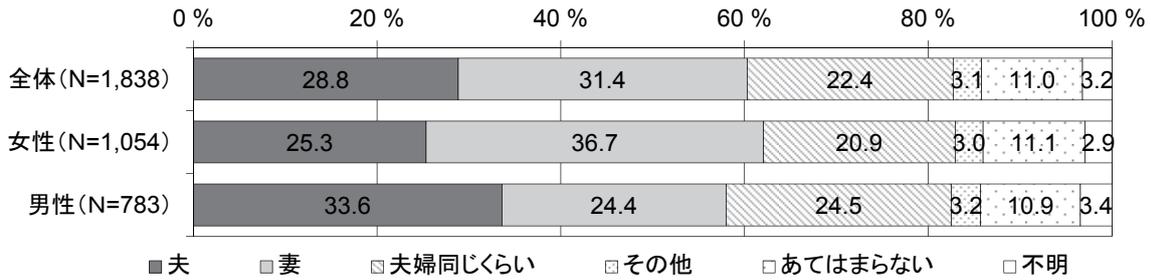
⑧自治会等の地域活動

【全体・性別】

- 女性は「妻」、男性は「夫」が3割以上で最も高い
- 次いで女性は「夫」、男性は「妻」と「夫婦同じくらい」が同程度

女性は「妻」(36.7%)、男性は「夫」(33.6%)が最も高く、次いで女性は「夫」(25.3%)、男性は「妻」(24.4%)と「夫婦同じくらい」(24.5%)が同程度になっています。

⑧自治会等の地域活動



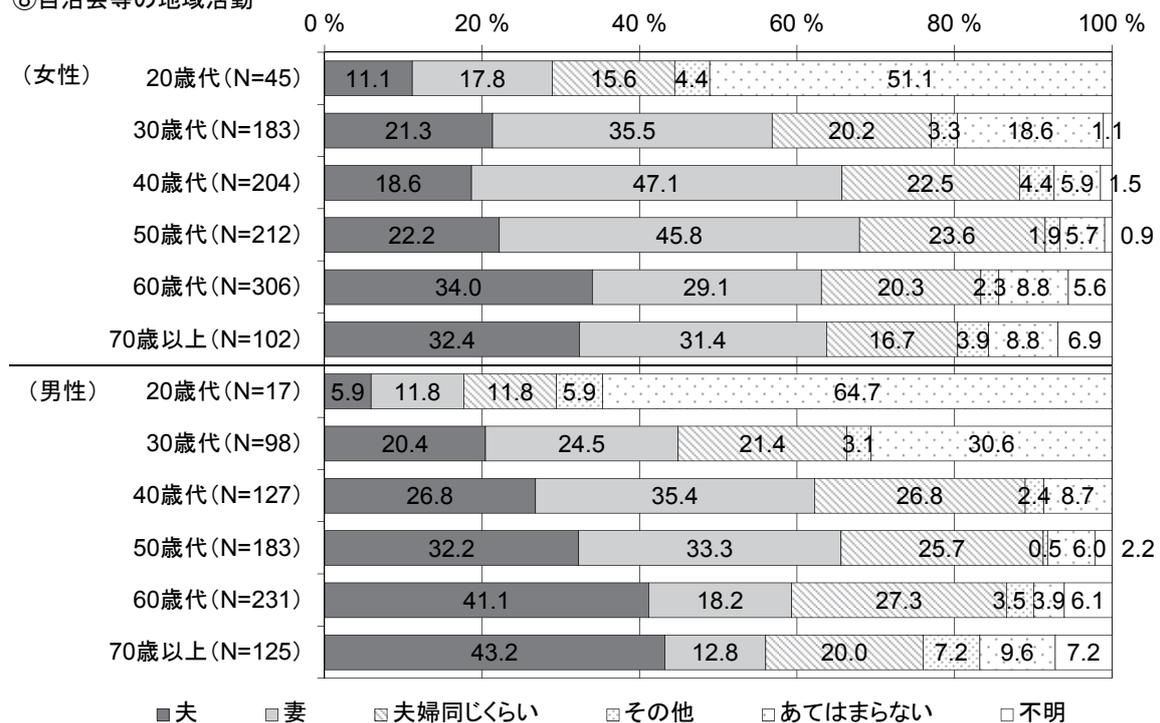
【性別×年代別】

- 男女とも30～50歳代は「妻」、60歳代以上は「夫」が最も高い
- 男女とも高い年代ほど「夫」が高い傾向

「あてはまらない」が高い20歳代を除くと、男女とも30～50歳代は「妻」、60歳代以上は「夫」が最も高く、高い年代ほど「夫」が高くなる傾向が見られます(男性30歳代は「あてはまらない」(30.6%)が最も高い)。

一方、「夫婦同じくらい」は男女とも年代による大きな差は見られません。

⑧自治会等の地域活動



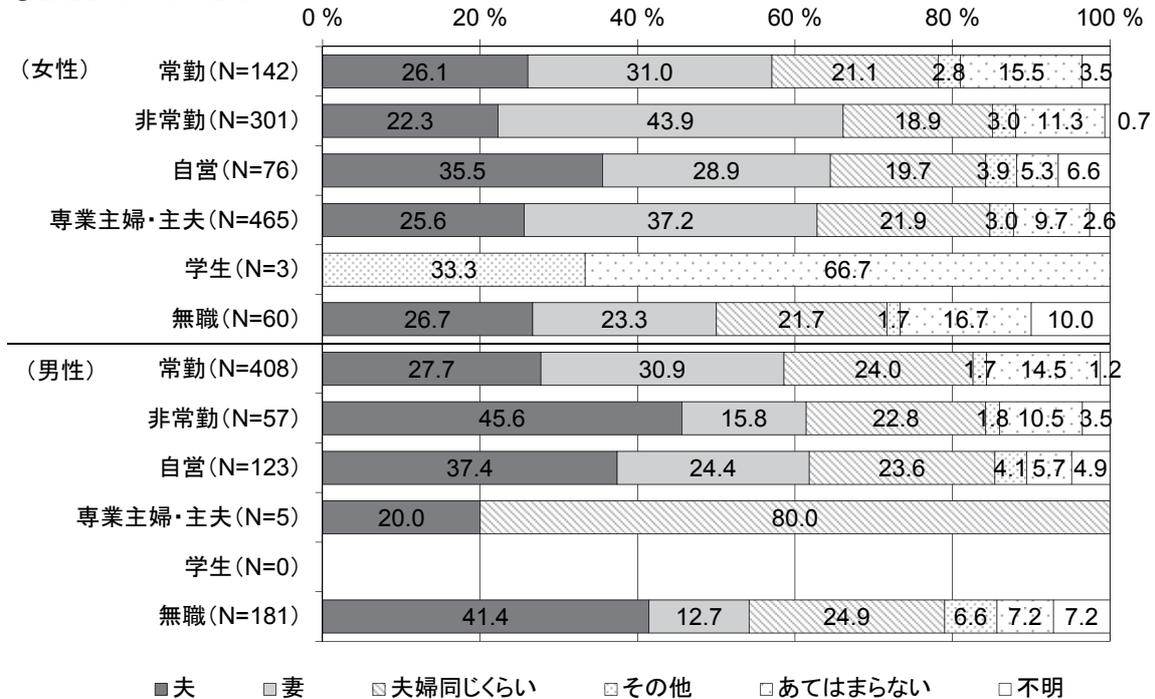
【性別×職業別】

- 「妻」は女性非常勤・専業主婦、「夫」は男性非常勤・無職、男女自営が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、「妻」は女性非常勤（43.9%）や女性専業主婦（37.2%）、「夫」は男性非常勤（45.6%）や男女自営（女性35.5%、男性37.4%）、男性無職（41.4%）が比較的高くなっています。

一方、「夫婦同じくらい」は男女とも職業による大きな差は見られません。

⑧自治会等の地域活動



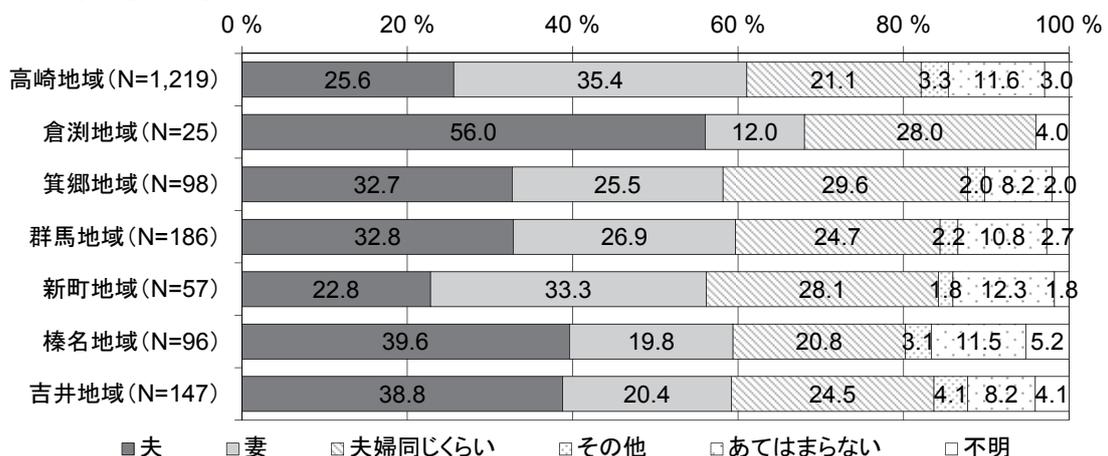
【地域別】

- 高崎・新町地域は「妻」、それ以外は「夫」が最も高い
- 倉渚・箕郷・新町地域は「夫婦同じくらい」が比較的高い

高崎・新町地域を除くすべての地域で「夫」が最も高く、特に倉渚地域（56.0%）が高くなっています。高崎・新町地域は「妻」（それぞれ35.4%、33.3%）が最も高くなっています。

また、倉渚・箕郷・新町地域は「夫婦同じくらい」（それぞれ28.0%、29.6%、28.1%）も比較的高くなっています。

⑧自治会等の地域活動

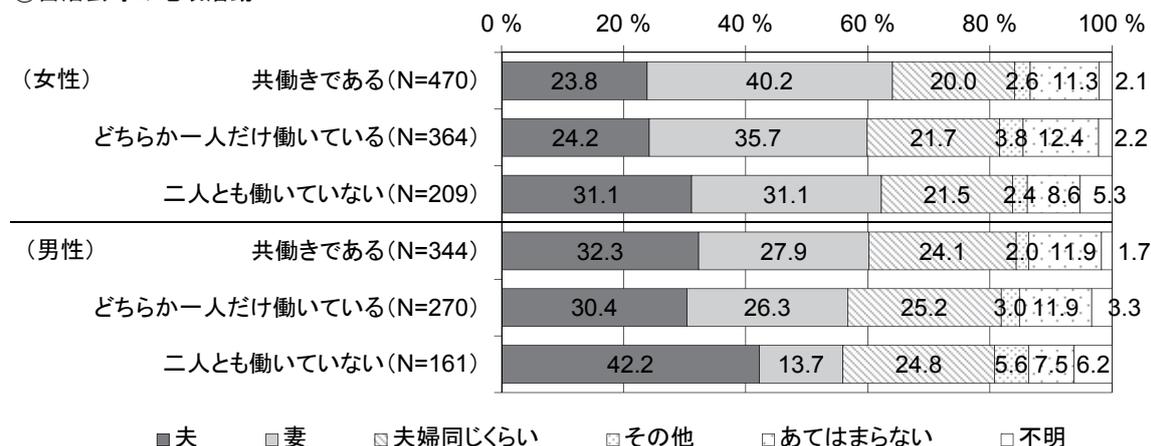


【性別×働き方別】

- 働き方にかかわらず女性は「妻」、男性は「夫」が最も高い
- 男性「二人とも働いていない」は「夫」が特に高い

働き方にかかわらず、女性は「妻」（「二人とも働いていない」は「夫」と同値）、男性は「夫」が最も高くなっています。特に男性「二人とも働いていない」は「夫」（42.2%）が高くなっています。

⑧自治会等の地域活動



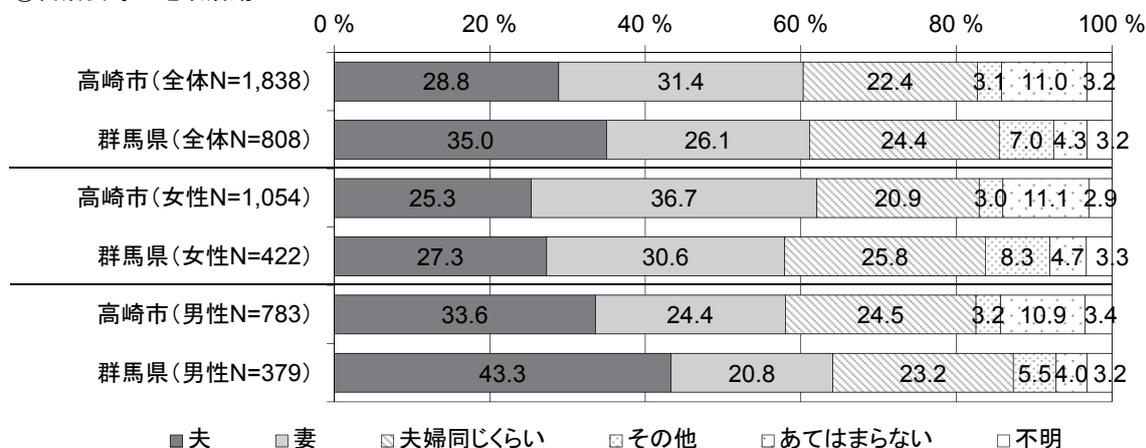
【性別×他調査との比較】

- 男女とも「妻」は群馬県より高く、「夫」は群馬県より男性は低く、女性は同程度
- 「夫婦同じくらい」は群馬県より女性は低く、男性は同程度

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「夫」は、女性では群馬県と同程度になっていますが、男性では群馬県より低くなっています。「妻」は、男女とも群馬県より高くなっています。

また、「夫婦同じくらい」は、女性は群馬県より低く、男性は群馬県と同程度になっています。

⑧自治会等の地域活動



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

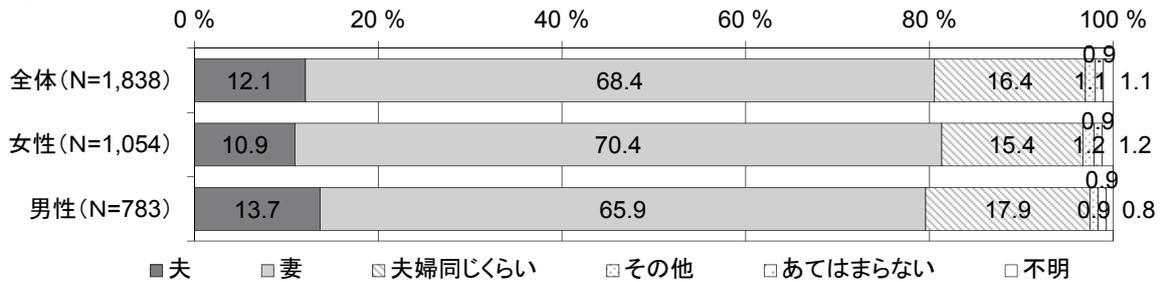
⑨家計の管理

【全体・性別】

● 男女とも「妻」が約7割で最も高い

男女とも「妻」（女性 70.4%、男性 65.9%）が最も高く、性別による大きな差は見られません。

⑨家計の管理



【性別×年代別】

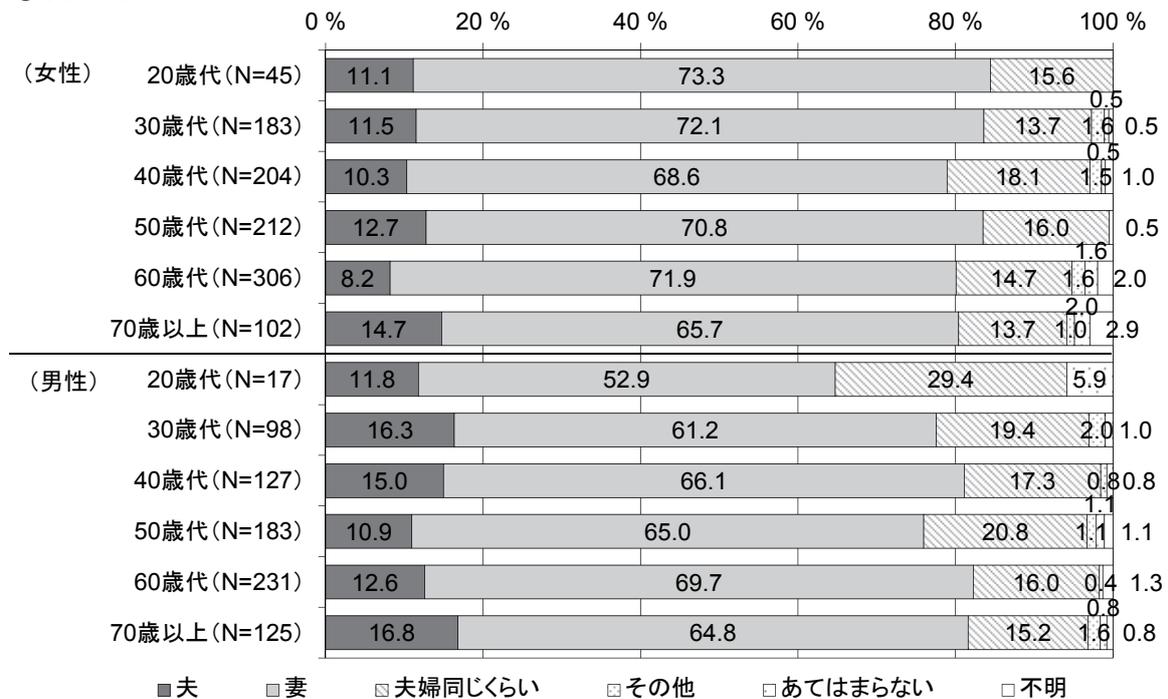
● 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い

● 男性 20 歳代は「夫婦同じくらい」が比較的高い

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。また、「妻」は、すべての年代で女性が高くなっています。

男性 20 歳代は「夫婦同じくらい」（29.4%）も比較的高くなっています。

⑨家計の管理

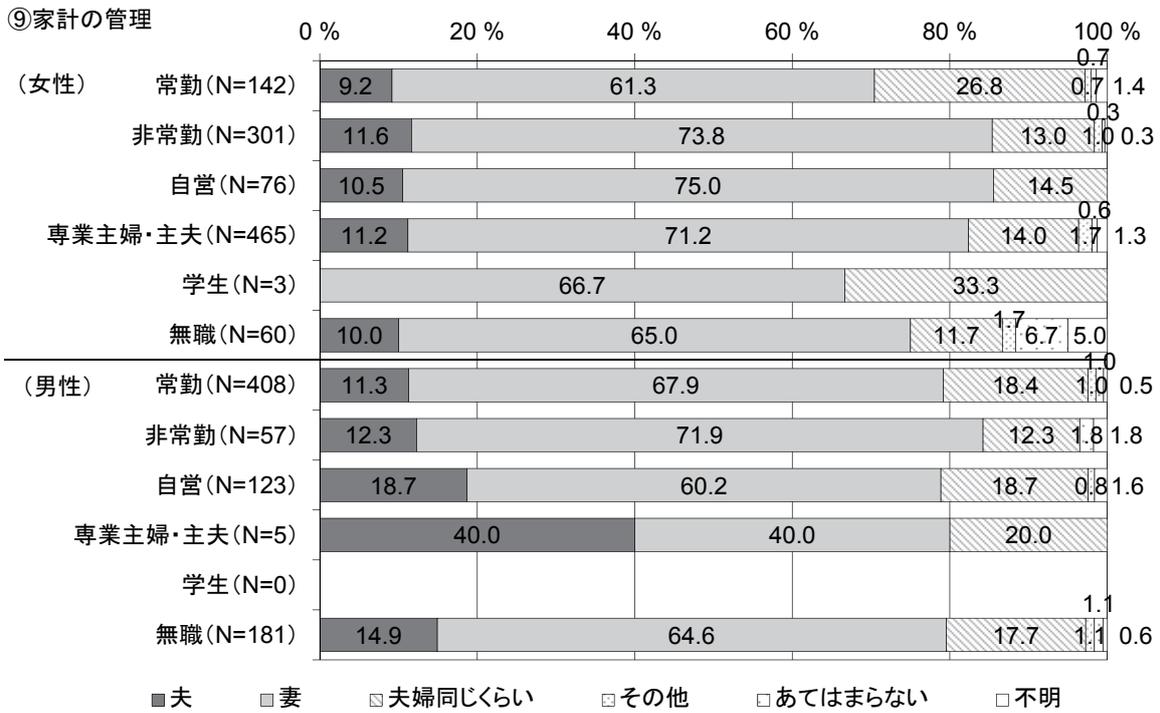


【性別×職業別】

- 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い
- 女性常勤は「夫婦同じくらい」、男性自営は「夫」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

また、女性常勤は「夫婦同じくらい」(26.8%)、男性自営は「夫」(18.7%)も比較的高くなっています。

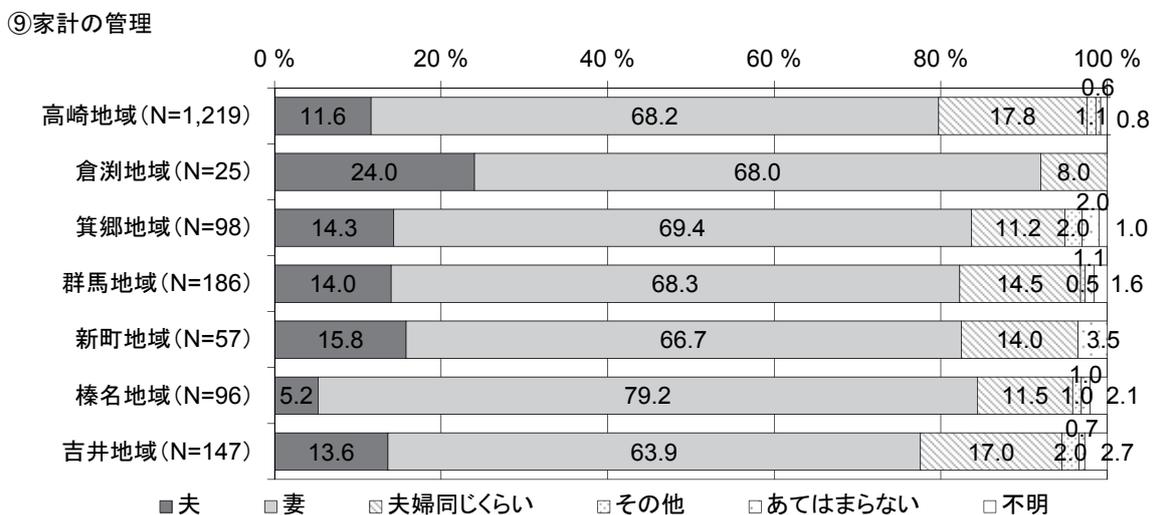


【地域別】

- すべての地域で「妻」が最も高く、特に榛名地域が高い
- 倉渚地域は「夫」が比較的高い

すべての地域で「妻」が最も高く、特に榛名地域(79.2%)で高くなっています。

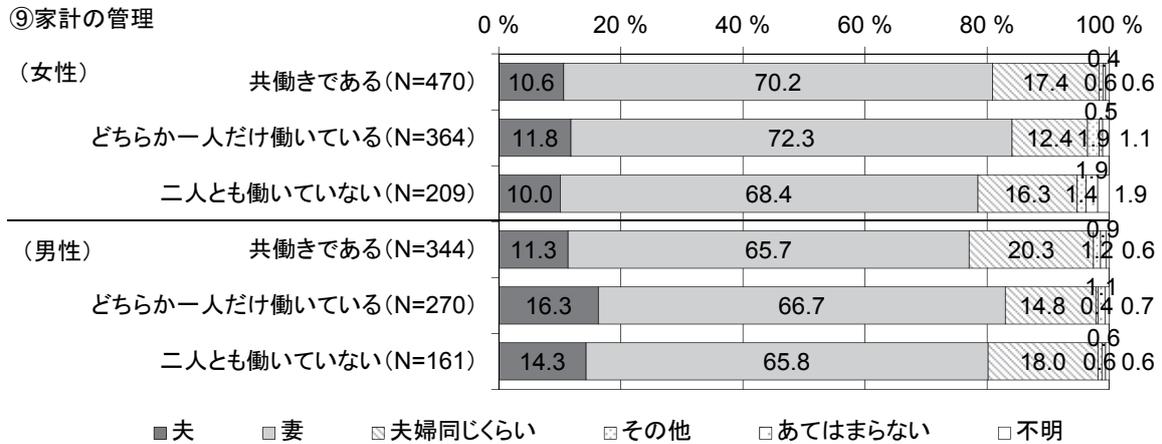
また、倉渚地域は「夫」(24.0%)も比較的高くなっています。



【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い

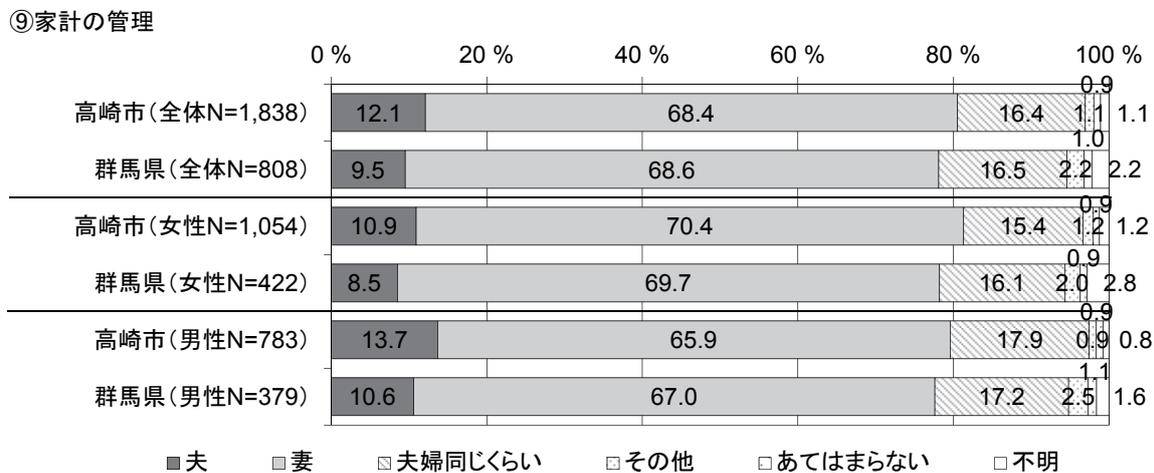
働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています。



【性別×他調査との比較】

● 男女とも群馬県と大きな差は見られない

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、男女とも群馬県と大きな差は見られません。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

⑩主たる収入

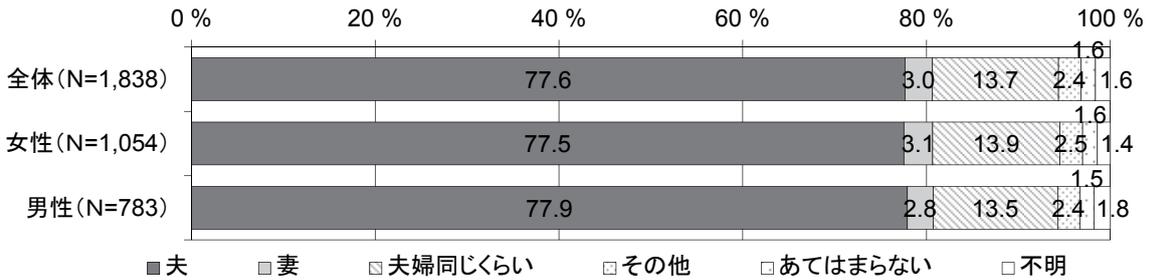
【全体・性別】

【性別】

- 男女とも「夫」が約8割で最も高い

男女とも「夫」（女性 77.5%、男性 77.9%）が最も高く、性別による大きな差は見られません。

⑩主たる収入



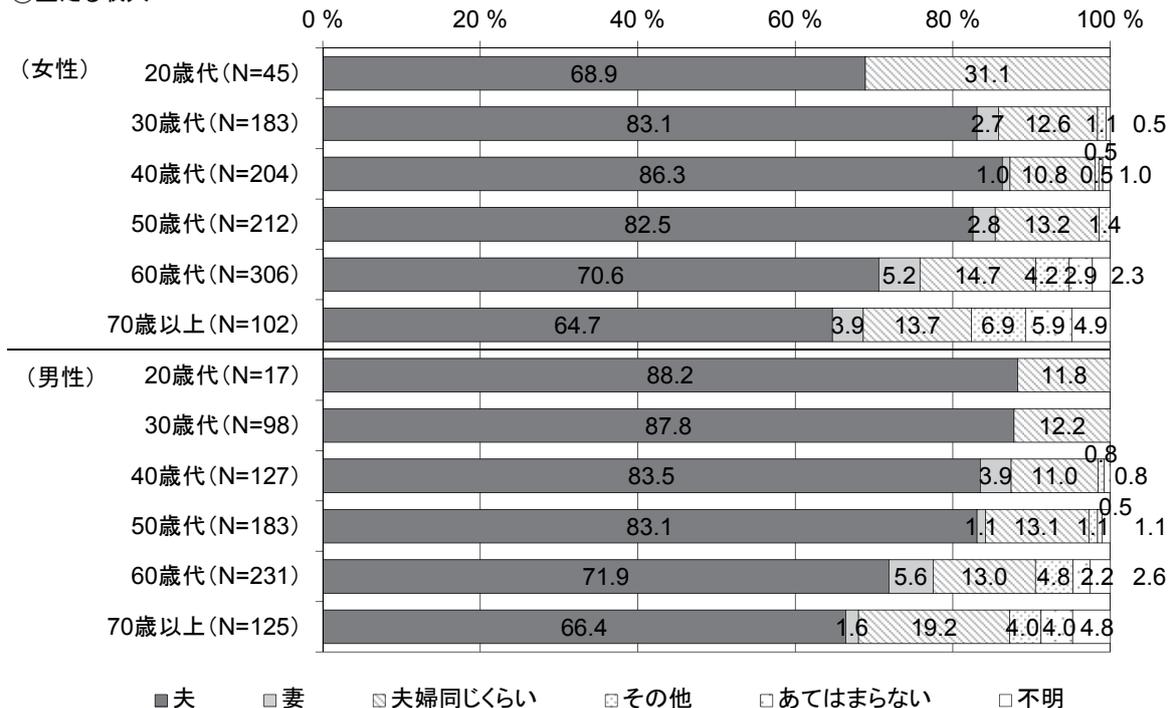
【性別×年代別】

- 男女ともすべての年代で「夫」が最も高く、若い年代ほど値が高い傾向
- 女性 20 歳代は「夫婦同じくらい」が特に高い

男女ともすべての年代で「夫」が最も高く、女性 20 歳代を除いて若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。

女性 20 歳代は「夫婦同じくらい」（31.1%）が特に高くなっています。

⑩主たる収入



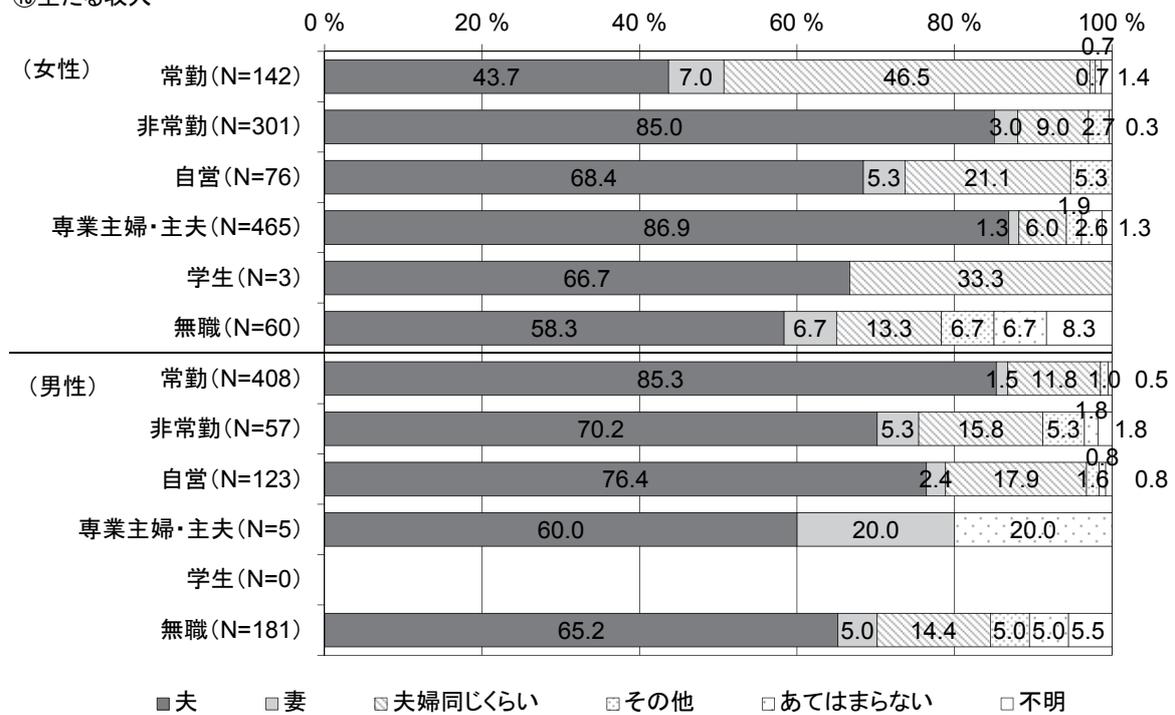
【性別×職業別】

● 女性常勤は「夫婦同じくらい」、それ以外は「夫」が最も高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、女性常勤を除くすべての職業で「夫」が最も高くなっています。特に女性非常勤（85.0%）、女性専業主婦（86.9%）、男性常勤（85.3%）は8割以上となっています。

女性常勤は「夫婦同じくらい」（46.5%）が最も高くなっています。

⑩主たる収入



【地域別】

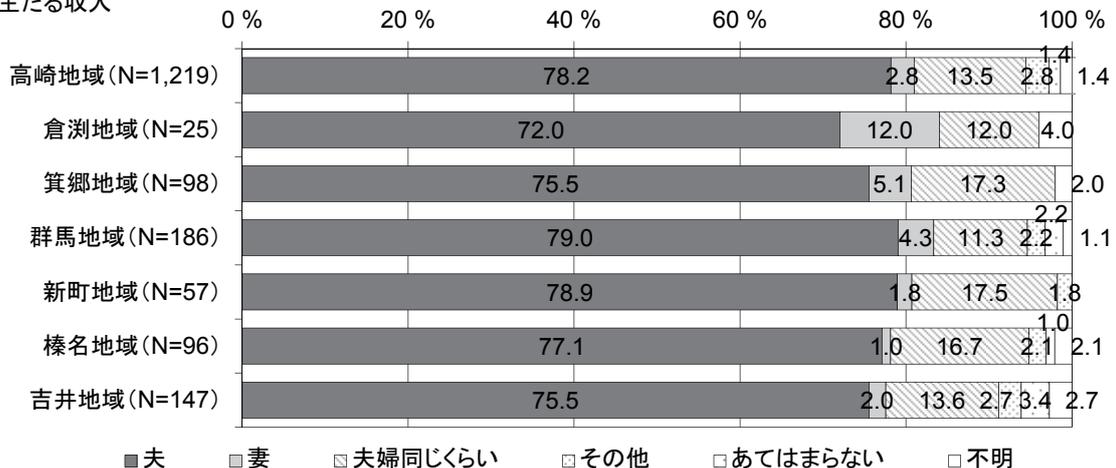
● すべての地域で「夫」が最も高い

● 倉渚地域は「妻」が比較的高い

すべての地域で「夫」が最も高くなっています。

また、倉渚地域は「妻」（12.0%）が比較的高くなっています。

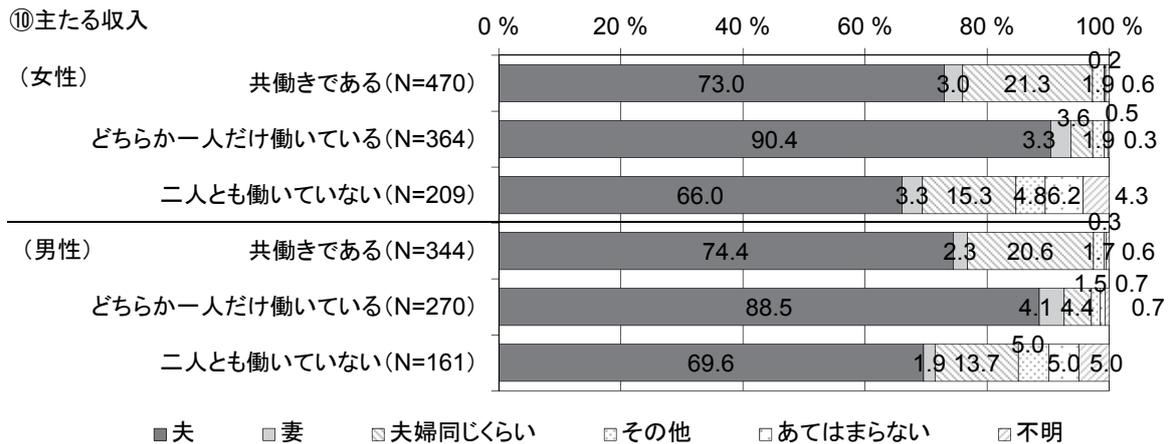
⑩主たる収入



【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「夫」が最も高く、男女とも「どちらか一人だけ働いている」が特に高い
- 男女とも「共働き」でも「夫」が約7割

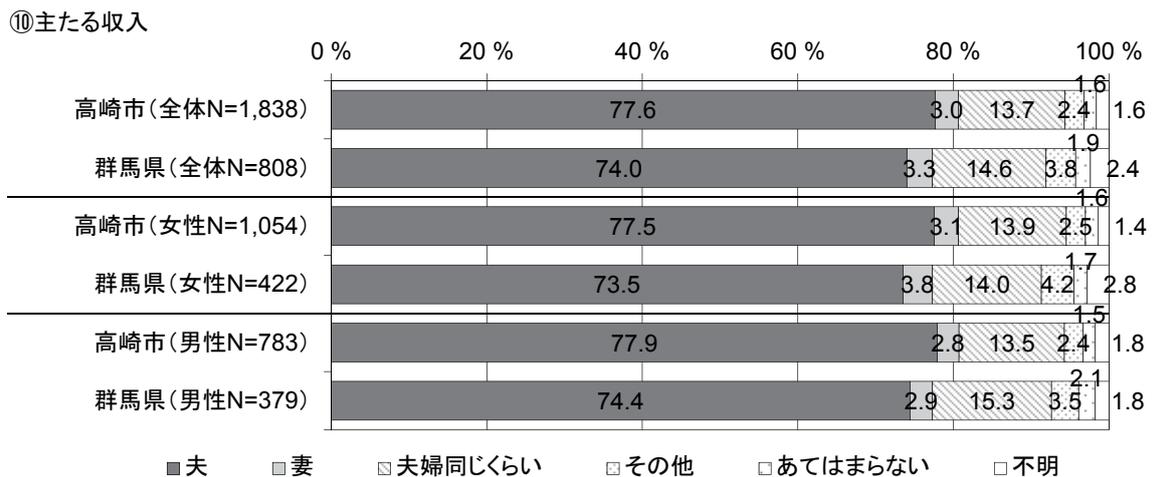
働き方にかかわらず、男女とも「夫」が最も高くなっています。また、「夫」は男女とも「どちらか一人だけ働いている」（女性 90.4%、男性 88.5%）が特に高くなっています。  
 男女とも「共働きである」は「夫婦同じくらい」（女性 21.3%、男性 20.6%）も比較的高くなっていますが、「夫」が約7割（女性 73.0%、男性 74.4%）を占めています。



【性別×他調査との比較】

- 「夫」は男女とも群馬県より若干高い

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「夫」は男女とも群馬県より若干高くなっています。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

問5 以下について、あなたは平日にどのくらいの時間を費やしていますか。

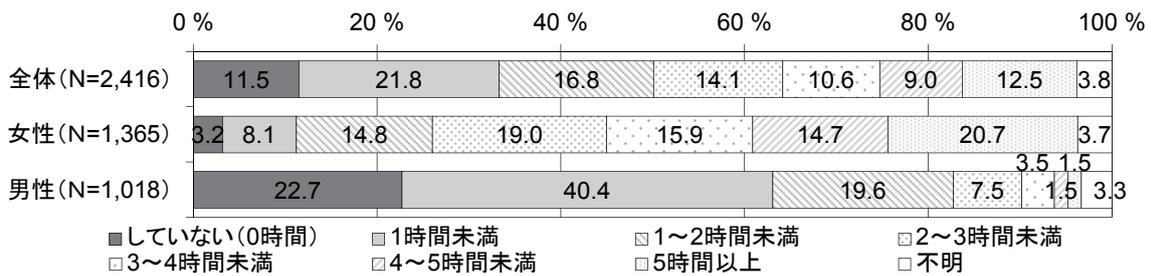
①家事（買い物を含む）や子育て、介護等

【全体・性別】

- 女性は「2時間以上」が約7割、男性は「2時間未満」が約8割

女性は「5時間以上」（20.7%）や「2～3時間未満」（19.0%）、「3～4時間未満」（15.9%）が比較的高く、これら「2時間以上」（70.3%）が約7割を占めています。

男性は「1時間未満」（40.4%）が最も高く、次いで「していない（0時間）」（22.7%）、「1～2時間未満」（19.6%）も比較的高く、これら「2時間未満（「していない」を含む）」（82.7%）が約8割を占めています。

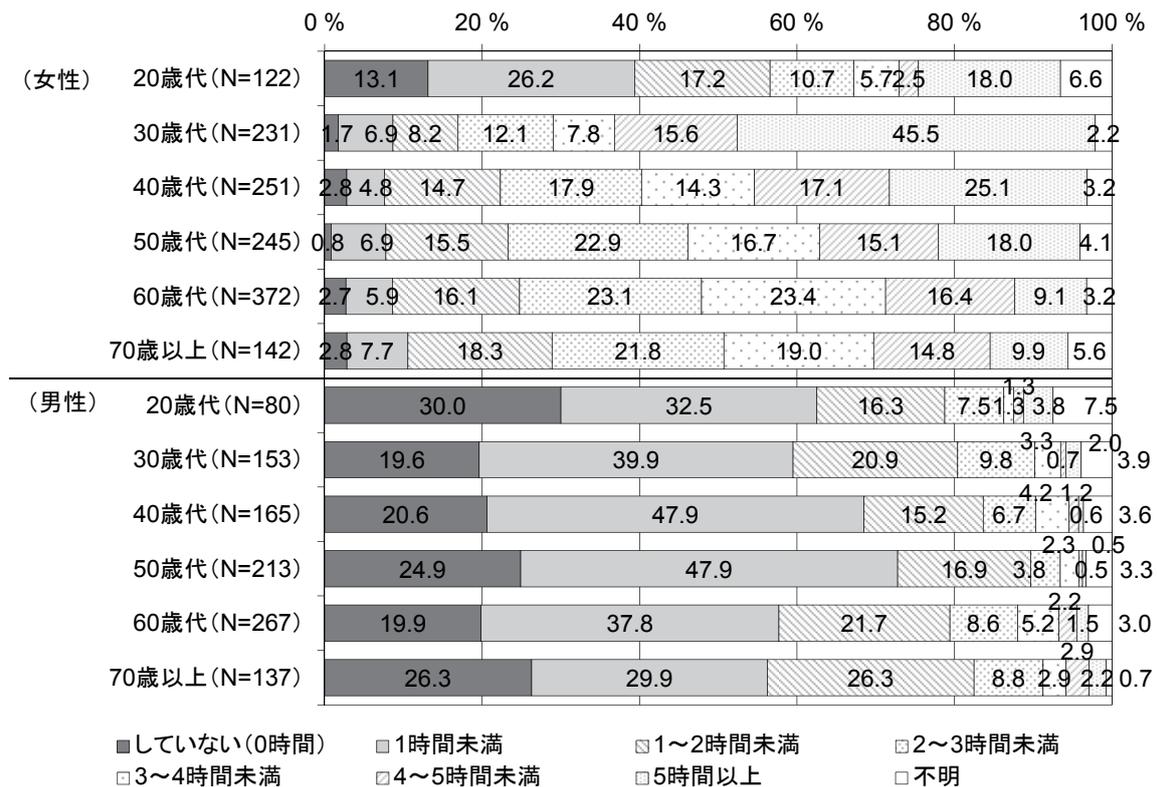


【性別×年代別】

- 女性は20歳代を除くすべての年代で「2時間以上」が約7～8割
- 男性はすべての年代で「1時間未満」が最も高く、「2時間未満」は約8～9割

女性は20歳代を除くすべての年代で「2時間以上」が約7～8割を占めており、女性30歳代以上では若い年代ほど長時間になる傾向が見られます。女性30歳代は「5時間以上」（45.5%）が特に高くなっています。

男性はすべての年代で「1時間未満」が最も高くなっており、「2時間未満（「していない」を含む）」が約8～9割を占めています。

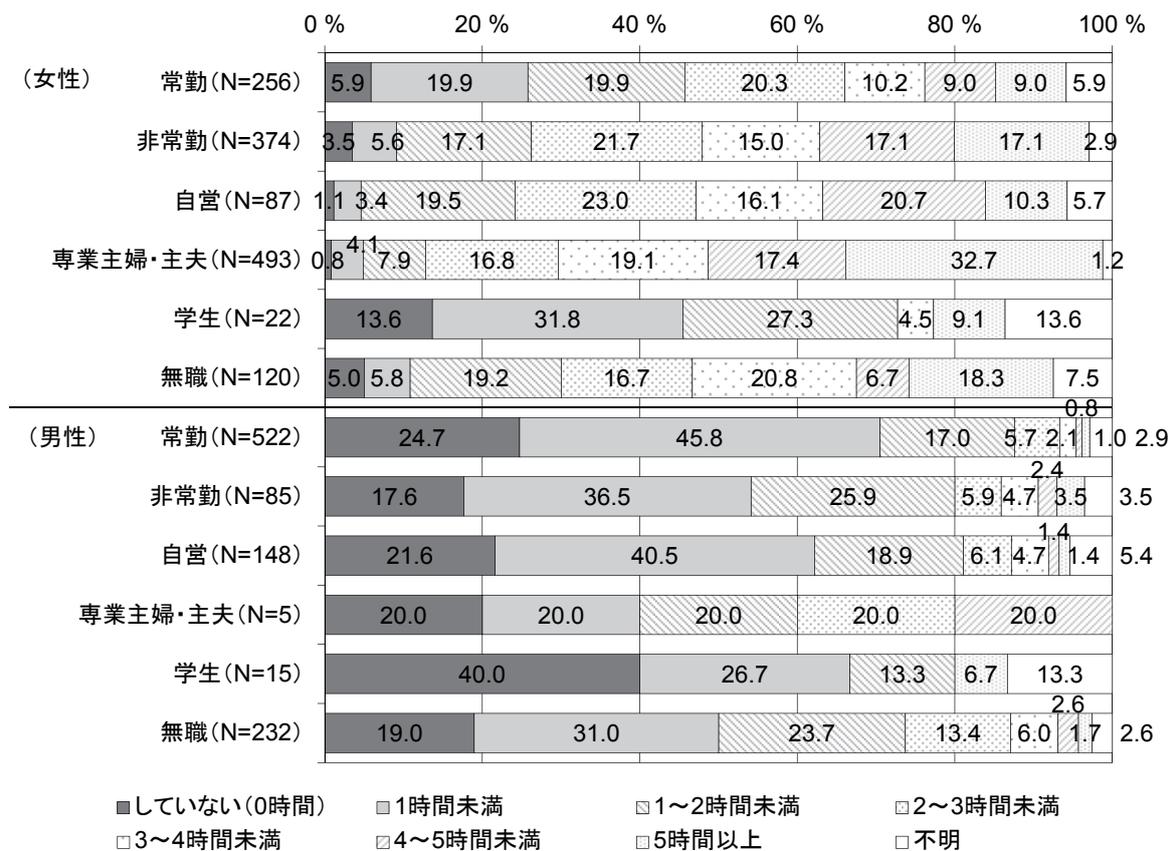


【性別×職業別】

- 女性専業主婦は「5時間以上」が最も高い
- 男性はすべての職業で「していない」または「1時間未満」が最も高い

女性は「2時間以上」を見ると、専業主婦（86.0%）が最も高く、専業主婦は特に「5時間以上」（32.7%）が高くなっています。「2時間以上」は非常勤（70.9%）や自営（70.1%）も約7割、無職（62.5%）も約6割を占める一方、常勤（48.5%）や学生（13.6%）は低くなっています。

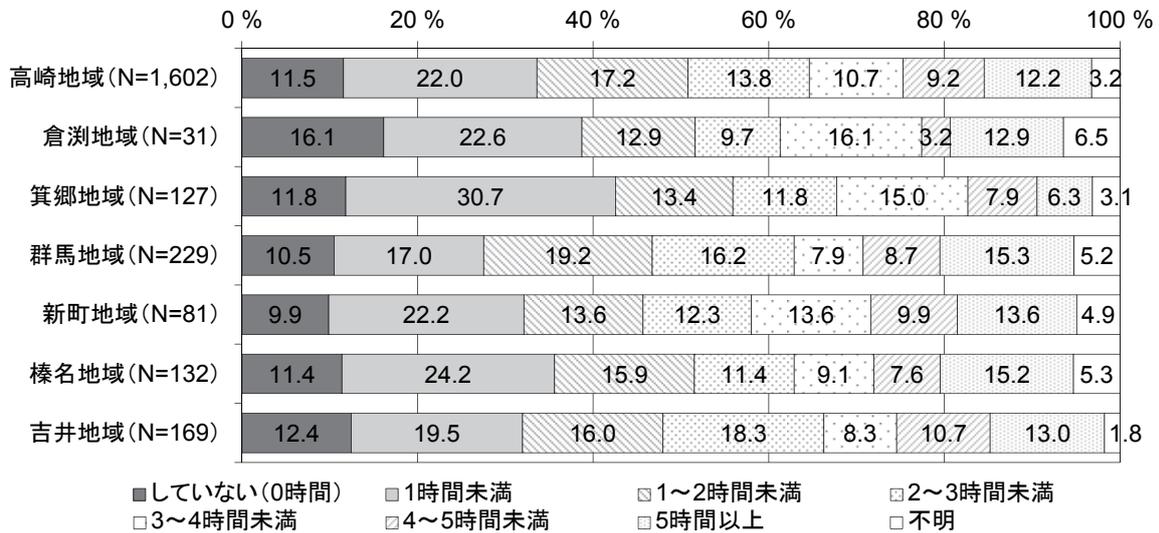
男性は回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、学生を除くすべての職業で「1時間未満」が最も高く、学生は「していない（0時間）」（40.0%）が最も高くなっています。



【地域別】

- 群馬地域は「1～2時間未満」、それ以外は「1時間未満」が最も高い

群馬地域を除くすべての地域で「1時間未満」が最も高く、特に箕郷地域（30.7%）が高くなっています。群馬地域は「1～2時間未満」（19.2%）が最も高くなっています。「2時間未満」は箕郷地域（55.9%）が最も高くなっています。

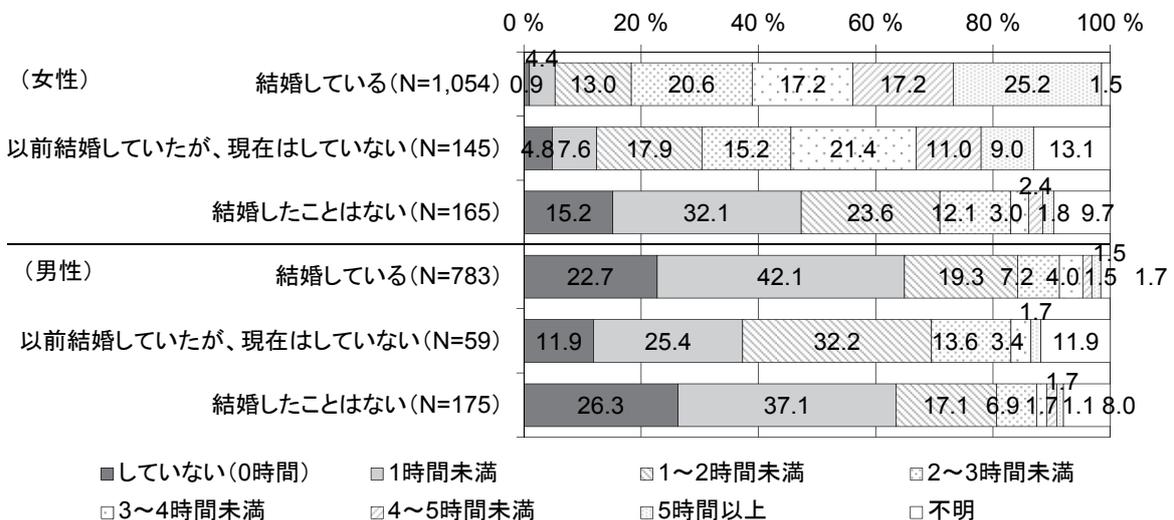


【性別×結婚経験別】

- 男女とも結婚経験によって傾向が異なる
- 女性「結婚している」は「5時間以上」が最も高い
- 男女とも「結婚したことはない」は「1時間未満」が最も高い

女性は、「結婚している」は「5時間以上」（25.2%）、「以前結婚していたが、現在はしていない」は「3～4時間未満」（21.4%）、「結婚したことはない」は「1時間未満」（32.1%）がそれぞれ最も高くなっています。また、女性「結婚している」は「2時間以上」（80.2%）が特に高くなっています。

男性は、「結婚している」「結婚したことはない」は「1時間未満」（それぞれ 42.1%、37.1%）、「以前結婚していたが、現在はしていない」は「1～2時間未満」（32.2%）がそれぞれ最も高くなっています。また、男性「結婚している」「結婚したことはない」は「2時間未満」（それぞれ 84.1%、80.5%）が高くなっています。



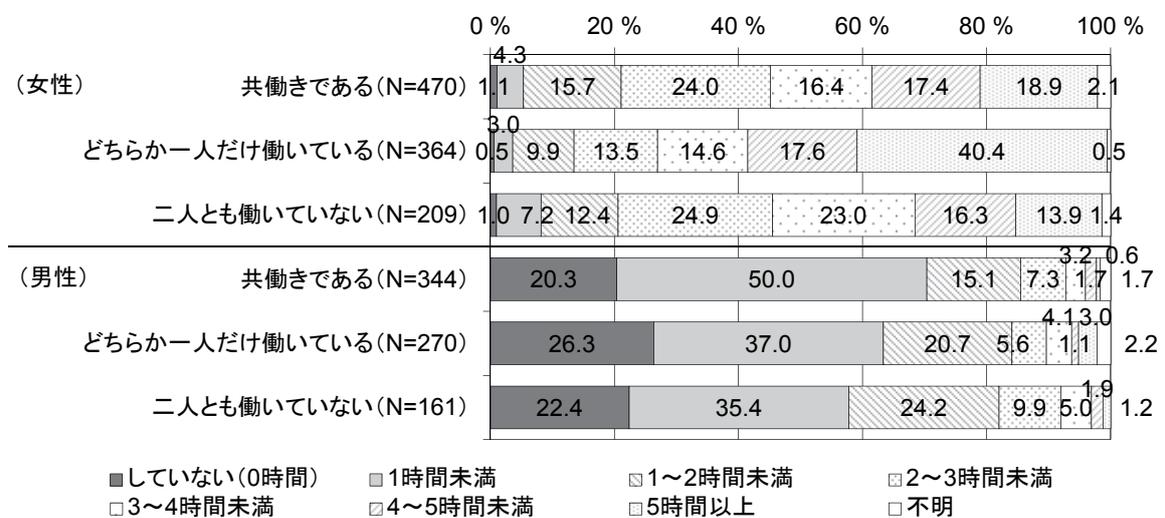
【性別×働き方別】

- 女性は「共働き」「二人とも働いていない」と「どちらか一人だけ働いている」とで傾向が異なる
- 男性は働き方にかかわらず「1時間未満」が最も高い
- 「共働き」でも女性約8割が「2時間以上」、男性8割以上が「2時間未満」

女性は、「共働きである」や「二人とも働いていない」は「2～3時間未満」（それぞれ24.0%、24.9%）、「どちらか一人だけ働いている」は「5時間以上」（40.4%）がそれぞれ最も高くなっています。

男性は、働き方にかかわらず「1時間未満」が最も高くなっています。

「共働きである」を見ると、女性は約8割（76.7%）が「2時間以上」ですが、男性は8割以上（85.4%）が「2時間未満」であり、「していない（0時間）」も2割（20.3%）となっています。



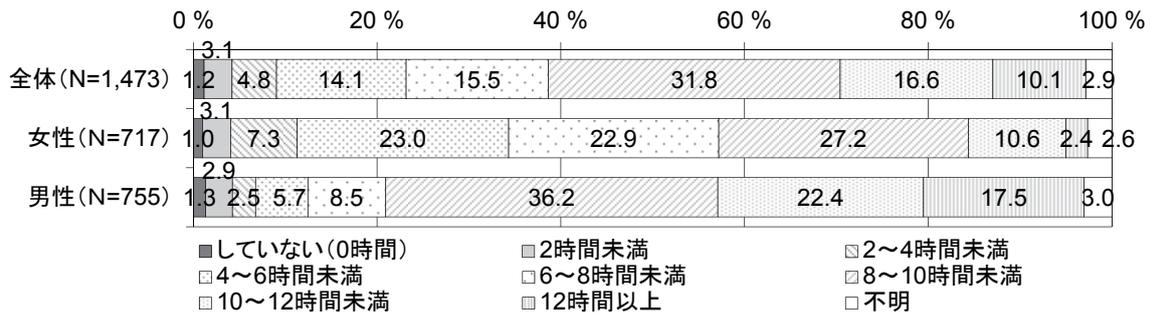
②仕事（通勤を含む）（専業主婦・主夫、学生、無職を除外）

【全体・性別】

- 男女とも「8～10 時間未満」が最も高い
- 女性は「8 時間未満」が約 6 割、男性は「8 時間以上」が約 8 割

男女とも「8～10 時間未満」（女性 27.2%、男性 36.2%）が最も高くなっています。また、女性は「4～6 時間未満」（23.0%）や「6～8 時間未満」（22.9%）も比較的高く、これら「8 時間未満」（57.3%）が約 6 割を占めています。

男性は「10～12 時間未満」（22.4%）なども比較的高く、これら「8 時間以上」（76.1%）が約 8 割を占めています。

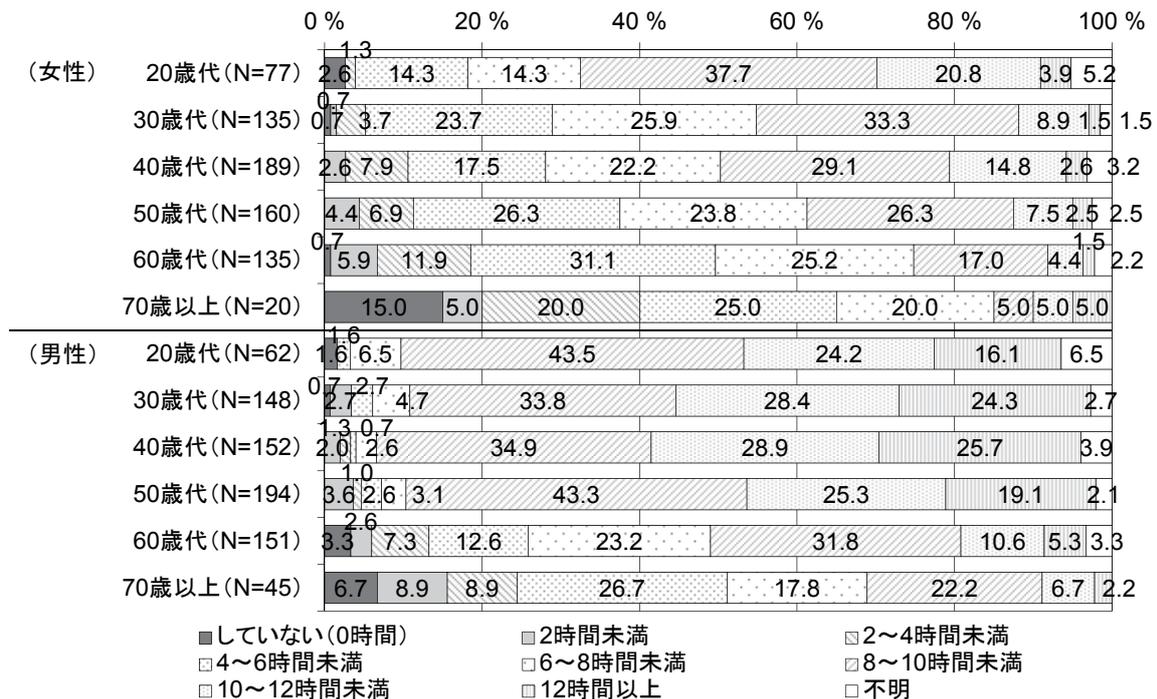


【性別×年代別】

- 女性 60 歳以上や男性 70 歳以上は「4～6 時間未満」、それ以外は「8～10 時間未満」が最も高い
- 男性 30・40 歳代は「12 時間以上」が 2 割以上

女性 60 歳以上、男性 70 歳以上を除くすべての年代で「8～10 時間未満」が最も高くなっています（女性 50 歳代は「4～6 時間未満」（26.3%）と同値）。女性 60 歳以上や男性 70 歳以上は「4～6 時間未満」が最も高くなっています。

また、男性は「12 時間以上」が 30・40 歳代（それぞれ 24.3%、25.7%）で高くなっています。



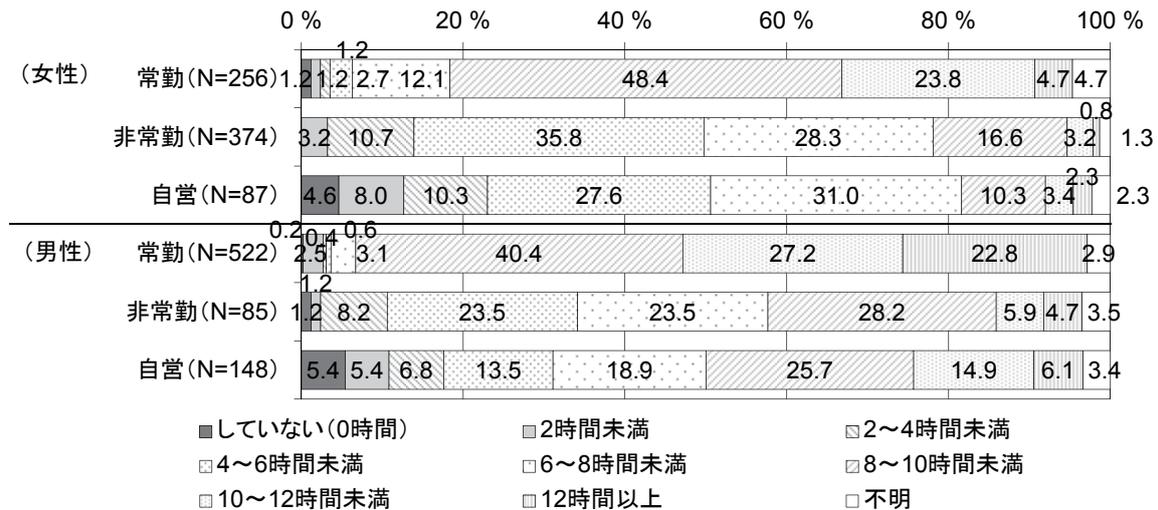
【性別×職業別】

- 男女常勤、男性非常勤・自営は「8～10 時間未満」が最も高い
- 女性非常勤は「4～6 時間」、女性自営は「6～8 時間」が最も高い
- 男性常勤は「12 時間以上」が 2 割以上

男女常勤や男性非常勤・自営は「8～10 時間未満」が最も高くなっています。

一方、女性非常勤は「4～6 時間未満」(35.8%)、女性自営は「6～8 時間未満」(31.0%) が最も高くなっています。

また、男性は「12 時間以上」が常勤 (22.8%) で特に高くなっています。

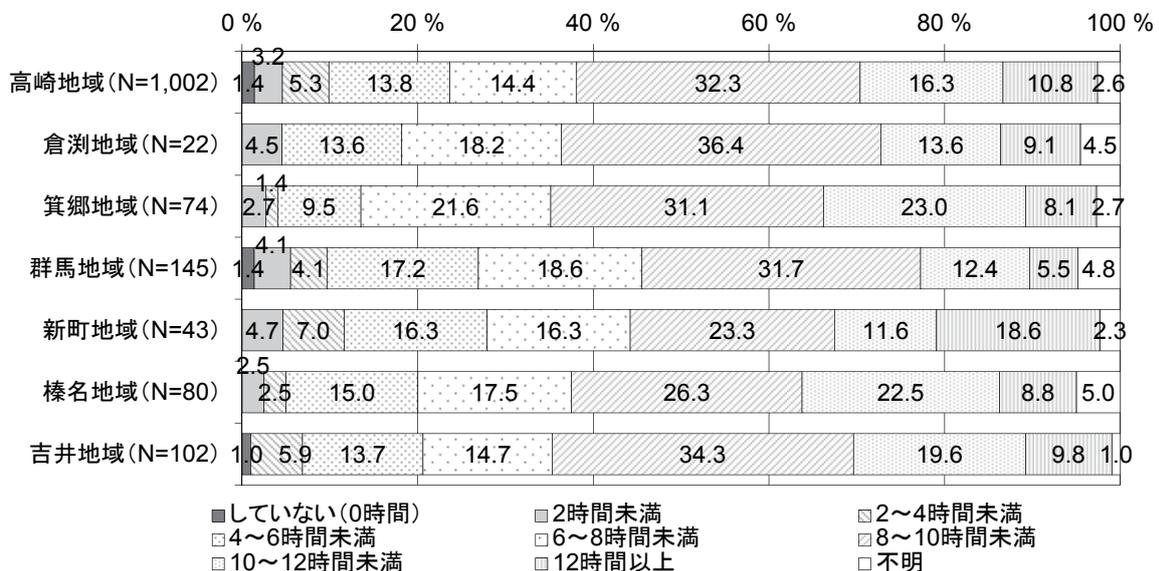


【地域別】

- すべての地域で「8～10 時間未満」が最も高い
- 群馬・新町地域は「8 時間未満」が比較的高いが、新町地域は「12 時間以上」も高い

すべての地域で「8～10 時間未満」が最も高くなっています。

また、群馬地域や新町地域は「8 時間未満」(それぞれ 45.4%、44.3%) が比較的高くなっていますが、新町地域は「12 時間以上」(18.6%) も高くなっています。

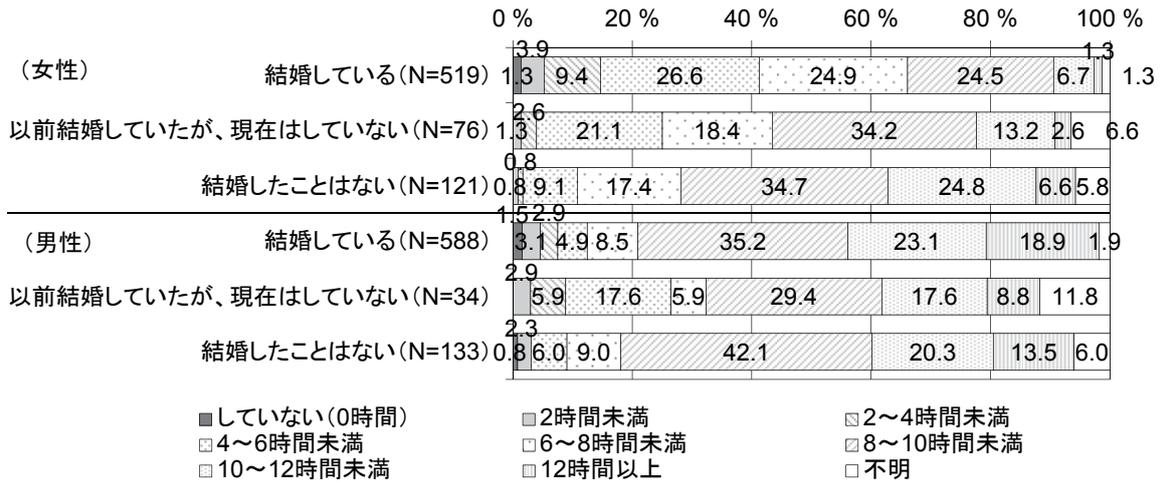


【性別×結婚経験別】

- 女性「結婚している」を除き男女とも「8～10 時間未満」が最も高い
- 女性「結婚している」は「4～6 時間未満」「6～8 時間未満」「8～10 時間未満」が同程度
- 男性「結婚している」は「12 時間以上」が約 2 割

女性「結婚している」を除き男女とも「8～10 時間未満」が最も高くなっています。女性「結婚している」は「4～6 時間未満」(26.6%)、「6～8 時間未満」(24.9%)、「8～10 時間未満」(24.5%) が同程度になっています。

男性「結婚している」は「12 時間以上」(18.9%) も高くなっています。



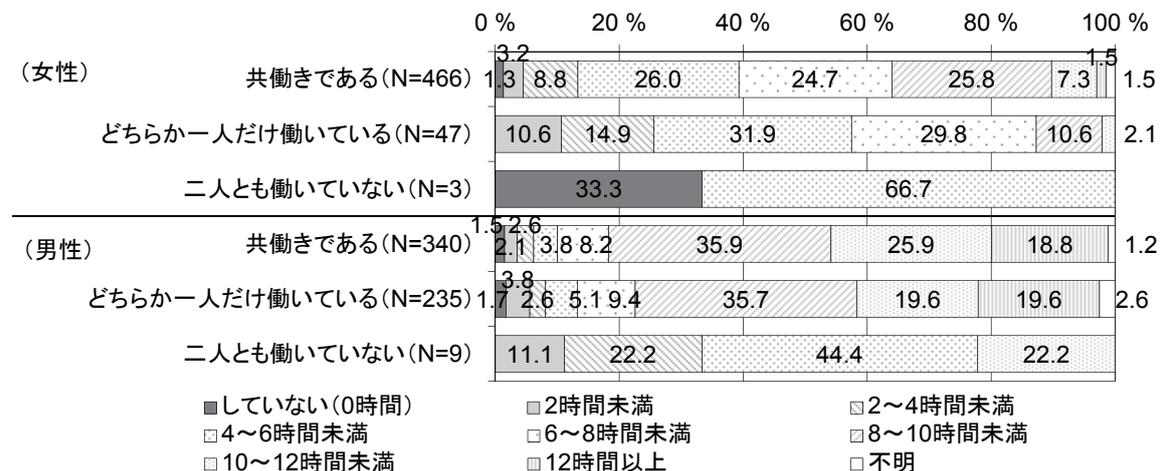
【性別×働き方別】

- 女性は働き方によって傾向が異なる
- 男性は働き方にかかわらず「8～10 時間未満」が最も高く、「12 時間以上」も約 2 割

回答者数が少ない「二人とも働いていない」を除くと、女性は、「共働きである」は「4～6 時間未満」(26.0%)、「6～8 時間未満」(24.7%)、「8～10 時間未満」(25.8%) が同程度、「どちらか一人だけ働いている」は「4～6 時間未満」(31.9%) と「6～8 時間未満」(29.8%) が同程度になっています。

男性は働き方にかかわらず「8～10 時間未満」(「共働きである」35.9%、「どちらか一人だけ働いている」35.7%) が最も高くなっています。

男性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」は「12 時間以上」(それぞれ 18.8%、19.6%) も高くなっています。



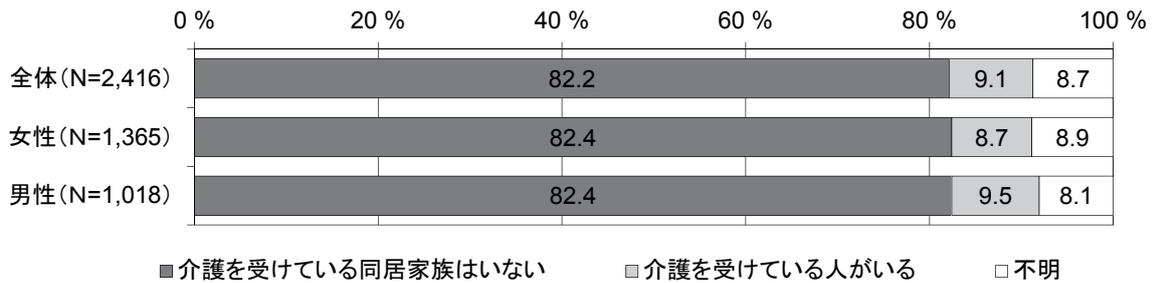
**問 6** 同居する家族の中に、介護を受けている人がいますか。いる場合、主に介護を担っているのは、介護を受けている人から見てどなたですか。

①介護を受けている人の有無

【全体・性別】

● 男女とも「いない」が8割以上

男女とも「介護を受けている同居家族はいない」が最も高く（それぞれ82.4%で同値）、8割以上を占めています。



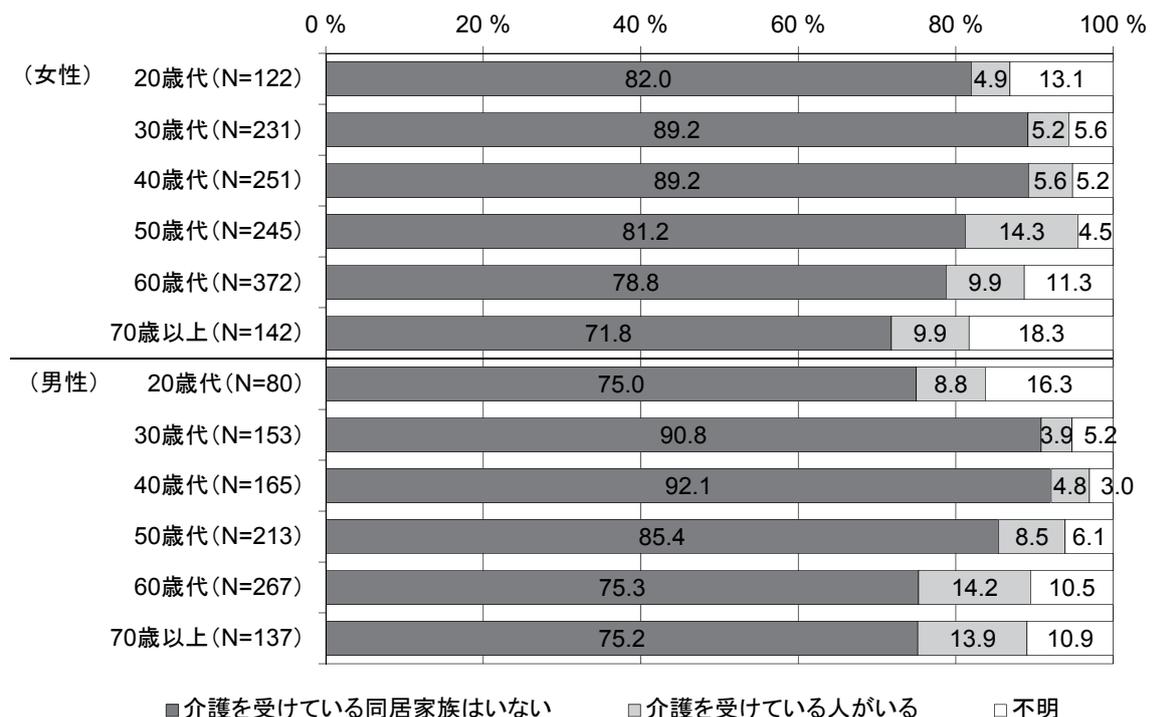
【性別×年代別】

● 男女ともすべての年代で「いない」が最も高く、特に30・40歳代は約9割

● 女性50歳代、男性60歳代以上は「いる」が1割以上

男女ともすべての年代で「介護を受けている同居家族はいない」が最も高く、特に30歳代（女性89.2%、男性90.8%）や40歳代（女性89.2%、男性92.1%）は約9割を占めています。

一方、「いる」は、女性50歳代（14.3%）、男性60歳代（14.2%）、男性70歳以上（13.9%）が1割以上で比較的高くなっています。

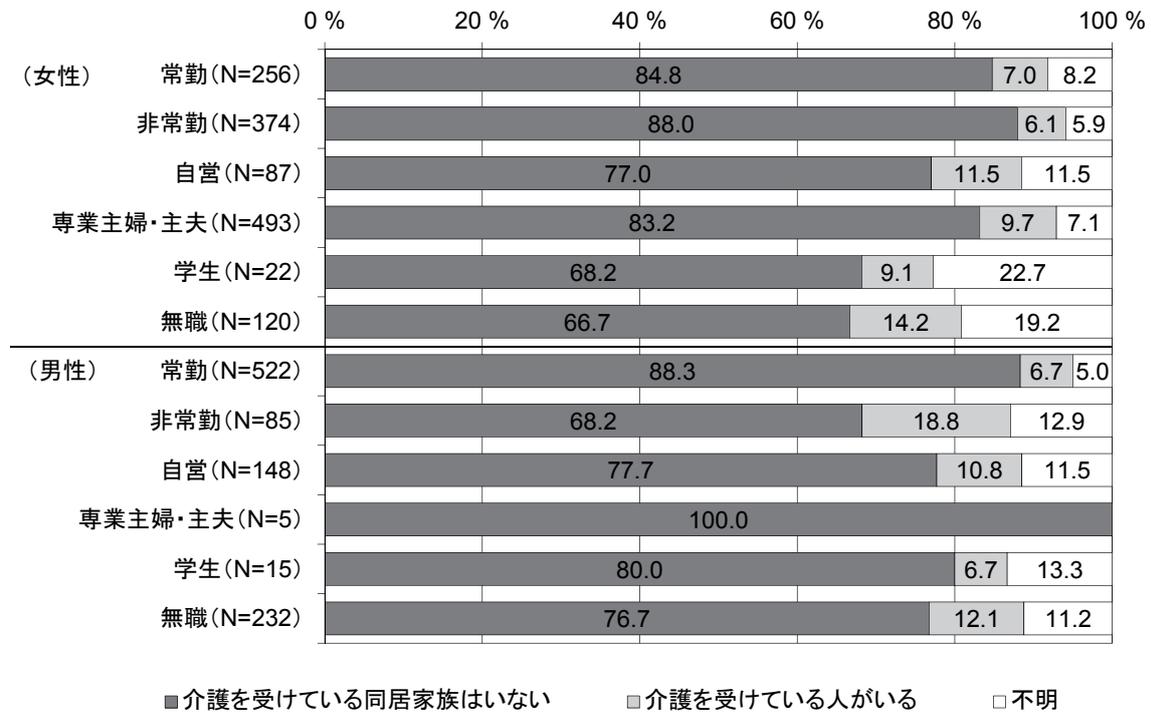


【性別×職業別】

- 男女ともすべての職業で「いない」が最も高い
- 男性非常勤は「いる」が約2割

男女ともすべての職業で「介護を受けている同居家族はいない」が最も高くなっています。

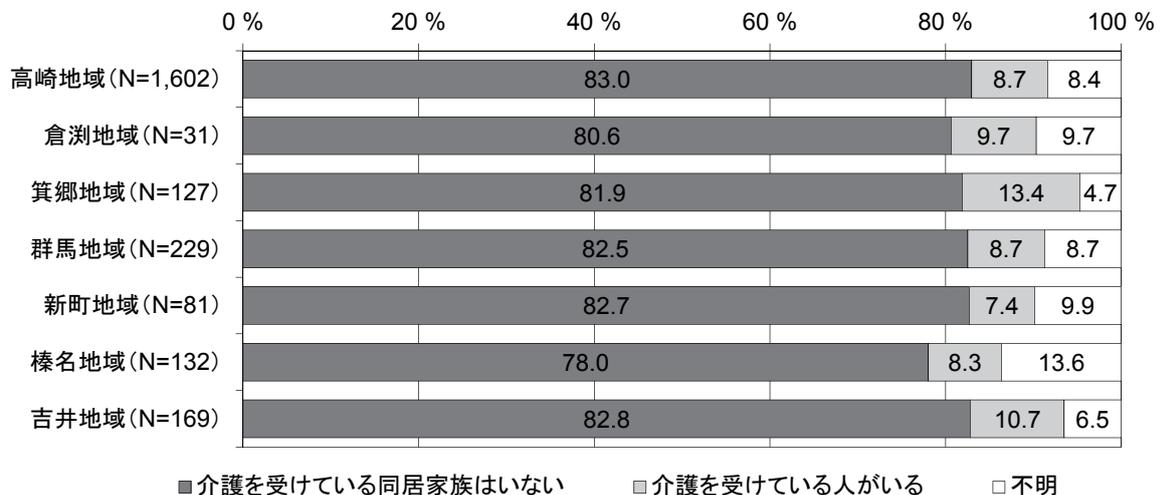
一方、「いる」は男性非常勤（18.8%）が約2割で比較的高くなっています。



【地域別】

- すべての地域で「いない」が約8割

すべての地域で「介護を受けている同居家族はいない」が約8割で最も高く、地域による大きな差は見られません。

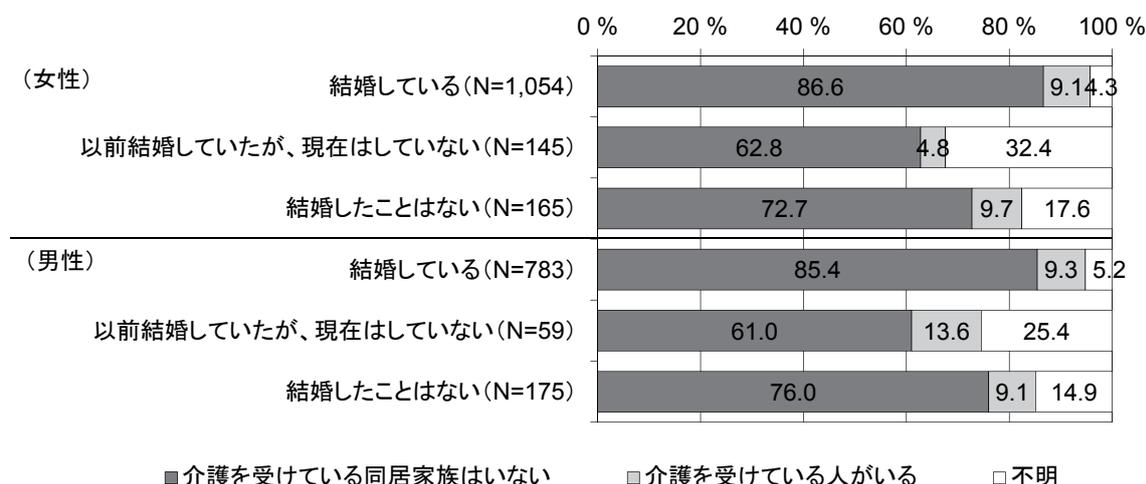


【性別×結婚経験別】

- 男女とも結婚経験にかかわらず「いない」が最も高い
- 男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「いる」が1割以上

男女とも結婚経験にかかわらず「介護を受けている同居家族はいない」が最も高くなっています。

一方、「いる」は男性「以前結婚していたが、現在はしていない」(13.6%)が1割以上で比較的高くなっています。

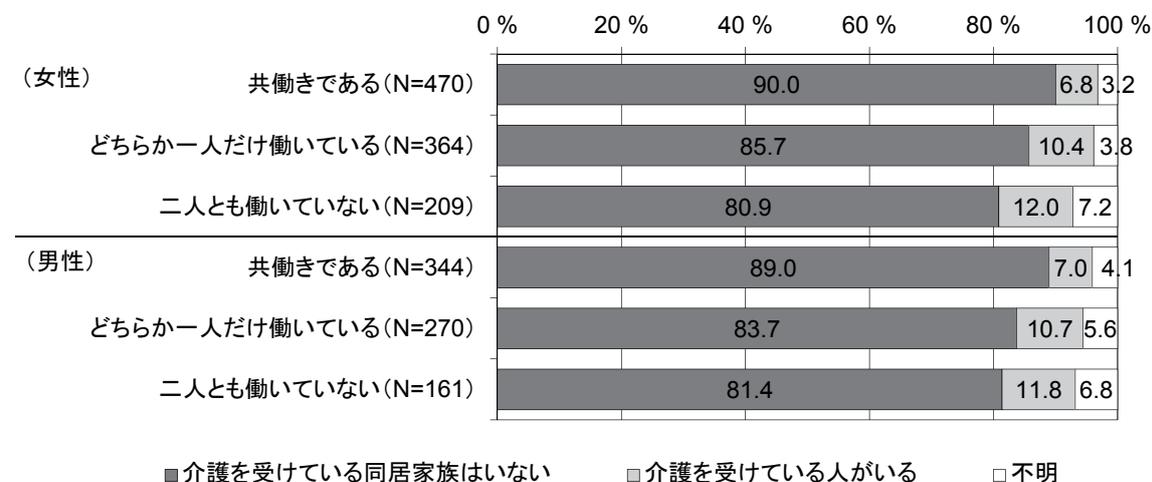


【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「いない」が最も高い
- 男女とも「共働き」を除き、「いる」が1割以上

男女とも働き方にかかわらず「介護を受けている同居家族はいない」が最も高くなっています。また、男女とも「介護を受けている同居家族はいない」は「共働きである」(女性 90.0%、男性 89.0%)が約9割で最も高くなっています。

一方、「いる」は男女とも「共働きである」を除き、いずれも1割以上となっています。



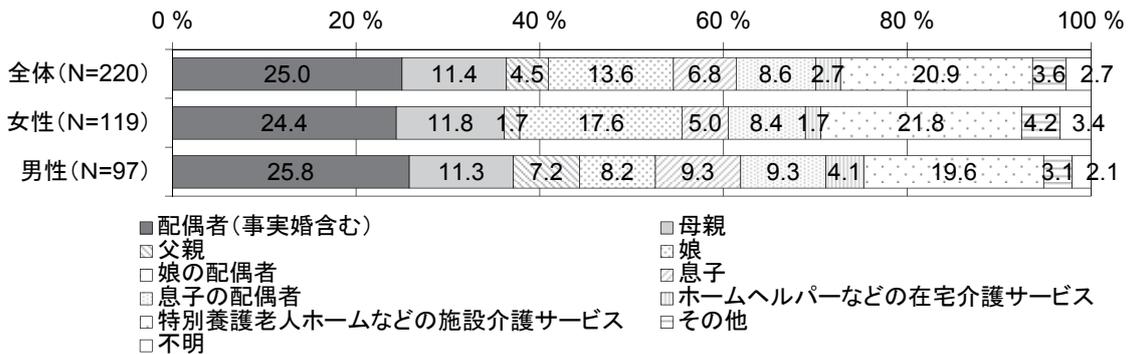
②主に介護を担っている人（「介護を受けている人がいる」場合）

【全体・性別】

- 男女とも「配偶者」「施設介護サービス」が比較的高い
- 女性は「娘」が比較的高い

男女とも「配偶者（事実婚を含む）」（女性 24.4%、男性 25.8%）が最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」（女性 21.8%、男性 19.6%）が比較的高くなっています。また、女性は「娘」（17.6%）も比較的高くなっています。

一方、「娘の配偶者」は見られません。

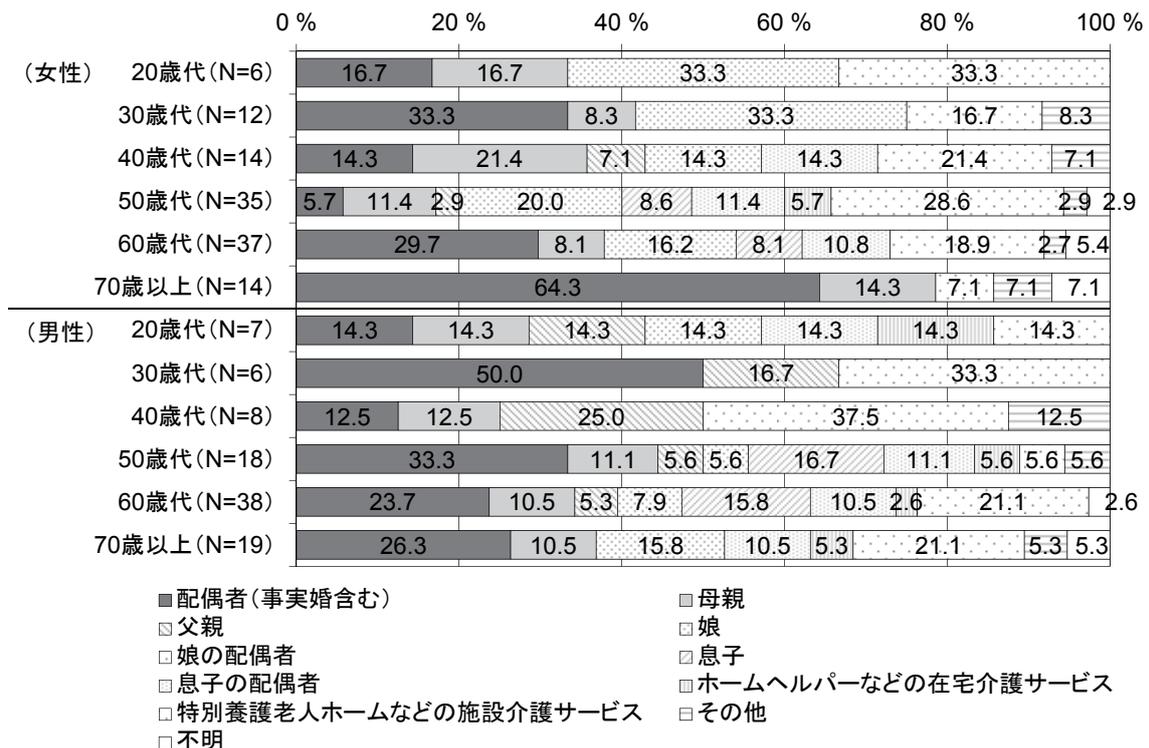


【性別×年代別】

- 女性は60歳代以上、男性は50歳以上で「配偶者」が最も高い
- 女性30歳代は「配偶者」「娘」が同値で最も高い
- 女性50歳代は「施設介護サービス」が最も高い

年代によって回答者数が少ないことを考慮する必要がありますが、女性は60歳代以上、男性は50歳以上で「配偶者（事実婚を含む）」が最も高くなっています。女性30歳代は「配偶者（事実婚含む）」と「娘」が同値（33.3%）で最も高くなっています。

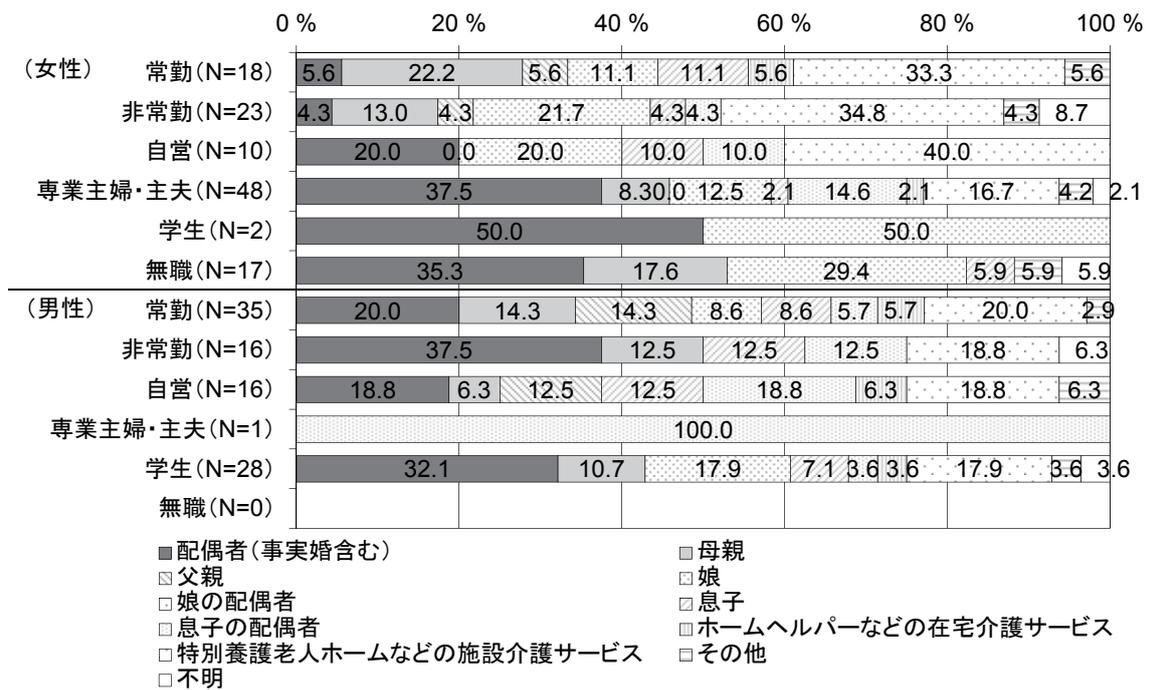
また、女性50歳代は「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」（28.6%）が最も高くなっています。



【性別×職業別】

- 女性常勤・非常勤・自営は「施設介護サービス」が最も高い
- 女性専業主婦・無職は「配偶者」が最も高い
- 男性はいずれの職業も「配偶者」が高い傾向

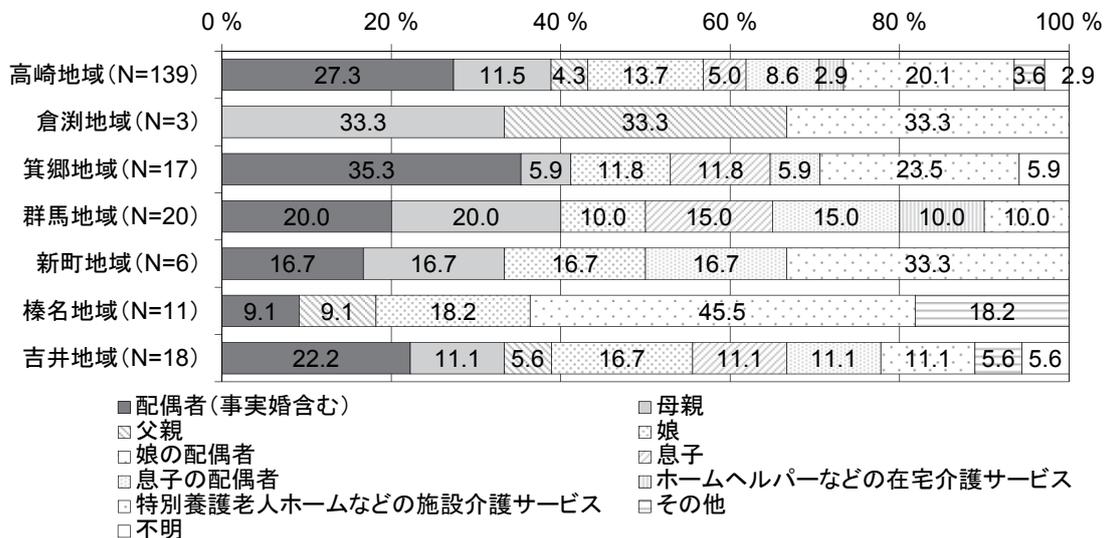
職業によって回答者数が少ないことを考慮する必要がありますが、女性常勤・非常勤・自営は「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」(それぞれ 33.3%、34.8%、40.0%) が最も高くなっています。男性自営は「配偶者(事実婚含む)」「息子の配偶者」「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」が同値(18.8%)で最も高くなっています。女性専業主婦・無職、男性非常勤・学生は「配偶者(事実婚含む)」(それぞれ 37.5%、35.3%、37.5%、32.1%) が最も高くなっています。男性常勤は「配偶者(事実婚含む)」「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」が同値(20.0%)で最も高くなっています。



【地域別】

- 高崎・箕郷・群馬・吉井地域は「配偶者」が最も高い

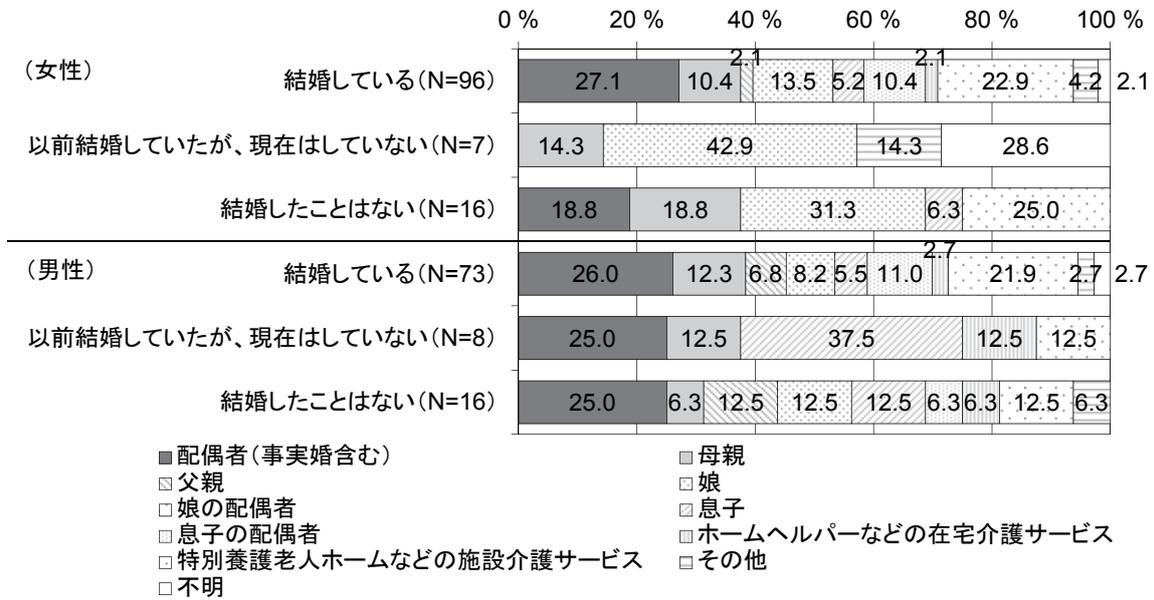
回答者が比較的多い高崎・箕郷・群馬・吉井地域はいずれも「配偶者(事実婚を含む)」が最も高くなっています(群馬地域は「母親」と同値)。



【性別×結婚経験別】

- 女性「結婚している」や男性「結婚したことはない」は「配偶者」が最も高い
- 女性「結婚したことはない」は「娘」が最も高い

回答者数が少ない「以前結婚していたが、現在はしていない」を除くと、女性「結婚したことはない」は、「娘」(31.3%)が最も高くなっていますが、それ以外では「配偶者(事実婚を含む)」が最も高くなっています。

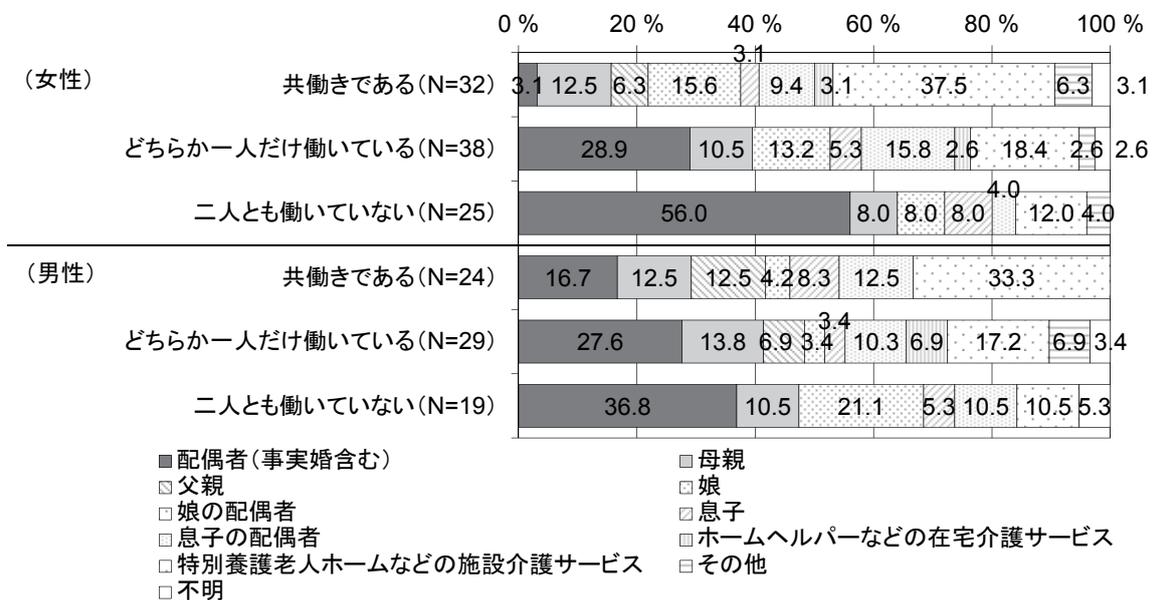


【性別×働き方別】

- 男女とも「共働き」は「施設介護サービス」、「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」は「配偶者」が最も高い

男女とも「共働きである」を除きいずれも「配偶者(事実婚を含む)」が最も高く、特に女性「二人とも働いていない」(56.0%)は約6割を占めています。

男女とも「共働きである」は「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」(女性37.5%、男性33.3%)が最も高くなっています。



## 5 育児・介護休業について

問7 育児や介護が必要な家族がいる場合、育児・介護休業の取得について、どのようにしたいと考えますか。(現在勤めている場合限定・複数回答可)

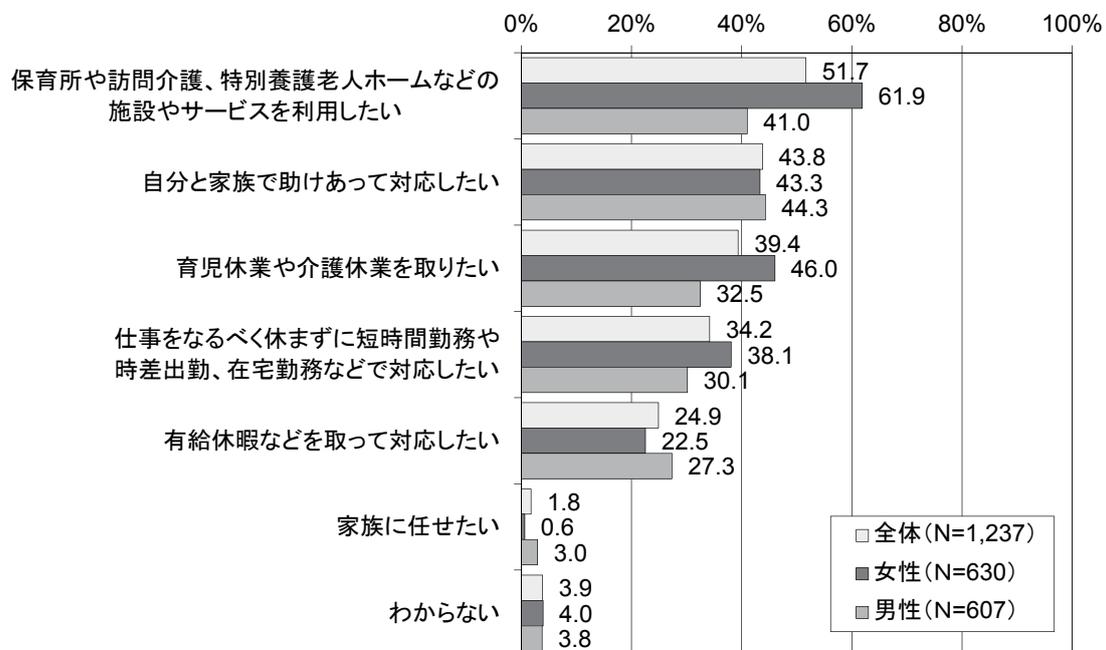
【全体・性別】

- 女性は「施設やサービスを利用したい」が6割以上で最も高い
- 男性は「施設やサービスを利用したい」と「自分と家族で助けあって対応したい」が同程度で最も高い
- 「育児・介護休業を取りたい」は、女性が約5割、男性が約3割

女性は「保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい」(以下「施設やサービスを利用したい」61.9%)が最も高く、6割以上となっています。次いで「育児休業や介護休業を取りたい」(46.0%)、「自分と家族で助けあって対応したい」(43.3%)が比較的高くなっています。

男性は「自分と家族で助けあって対応したい」(44.3%)と「施設やサービスを利用したい」(41.0%)が同程度に高くなっています。次いで「育児休業や介護休業を取りたい」(32.5%)が比較的高くなっていますが、女性と比較すると13.5ポイント低くなっています。

「仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい」は、女性(38.1%)が男性(30.1%)より高くなっています。また、「有給休暇などを取って対応したい」は男性(27.3%)が女性(22.5%)より高くなっています。



【性別×年代別】

- 女性は20歳代「育児・介護休業を取りたい」、30歳以上「施設やサービスを利用したい」が最も高い
- 男性は40歳代以下「自分と家族で助けあって対応したい」、50歳代以上「施設やサービスを利用したい」が最も高い

回答者数が少ない70歳以上を除くと、女性は、20歳代を除くすべての年代で「施設やサービスを利用したい」、女性20歳代は「育児休業や介護休業を取りたい」(57.1%)が最も高くなっています。

男性は、40歳代以下は「自分と家族で助けあって対応したい」、50歳代以上は「施設やサービスを利用したい」が最も高くなっています。

また、女性はすべての年代で5割以上を示す項目がありますが、男性はすべての年代で5割以上を示す項目がなく、年代による顕著な傾向は見られません。

		(%)	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
N=	女性	77	123	177	145	98	9	
	男性	59	137	138	165	89	17	
育児休業や介護休業を取りたい	女性	57.1	61.0	41.8	46.9	24.5	55.6	
	男性	35.6	40.1	32.6	32.1	20.2	29.4	
仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい	女性	41.6	41.5	45.2	31.7	28.6	33.3	
	男性	33.9	33.6	33.3	26.7	27.0	11.8	
保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい	女性	50.6	62.6	63.3	65.5	63.3	44.4	
	男性	33.9	35.8	42.8	46.7	44.9	23.5	
有給休暇などを取って対応したい	女性	26.0	27.6	19.8	22.8	17.3	33.3	
	男性	28.8	30.7	34.1	26.1	16.9	5.9	
自分と家族で助けあって対応したい	女性	53.2	50.4	39.5	44.1	31.6	44.4	
	男性	40.7	44.5	44.2	45.5	43.8	47.1	
家族に任せたい	女性	3.9	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	
	男性	0.0	5.8	2.9	2.4	1.1	5.9	
わからない	女性	9.1	2.4	5.6	2.1	2.0	0.0	
	男性	6.8	1.5	3.6	3.6	5.6	5.9	

## 【性別×職業別】

- 女性は常勤・非常勤ともに「施設やサービスを利用したい」が最も高い
- 男性は常勤・非常勤ともに「自分と家族で助けあって対応したい」が最も高い
- 女性常勤は「育児・介護休業を取りたい」、女性非常勤は「仕事をなるべく休まずに」も比較的高い

女性は常勤・非常勤ともに「施設やサービスを利用したい」（それぞれ 60.5%、62.8%）、男性は常勤・非常勤ともに「自分と家族で助けあって対応したい」（それぞれ 44.4%、43.5%）が最も高くなっています。また、女性常勤は「育児休業や介護休業を取りたい」（56.6%）、女性非常勤は「仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい」（41.7%）も比較的高くなっています。

女性は常勤・非常勤ともに 6 割以上を示す項目がありますが、男性はいずれの職業でも 5 割以上を示す項目はなく、顕著な傾向は見られません。

	N=	女性	（%）	
			常勤	非常勤
			256	374
		男性	522	85
育児休業や介護休業を取りたい		女性	56.6	38.8
		男性	33.1	28.2
仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい		女性	32.8	41.7
		男性	29.9	31.8
保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい		女性	60.5	62.8
		男性	42.3	32.9
有給休暇などを取って対応したい		女性	25.0	20.9
		男性	28.9	17.6
自分と家族で助けあって対応したい		女性	45.7	41.7
		男性	44.4	43.5
家族に任せたい		女性	0.4	0.8
		男性	2.9	3.5
わからない		女性	4.3	3.7
		男性	3.4	5.9

【地域別】

- すべての地域で「施設やサービスを利用したい」が最も高い
- 群馬地域は「育児・介護休業を取りたい」、新町地域は「有給休暇などを取って対応したい」が比較的高い

すべての地域で「施設やサービスを利用したい」が最も高く、群馬地域では「育児休業や介護休業を取りたい」（46.3%）が同値になっています。

また、新町地域は「有給休暇などを取って対応したい」（37.8%）も比較的高くなっています。

(%)	高崎 地域	倉渕 地域	箕郷 地域	群馬 地域	新町 地域	榛名 地域	吉井 地域
N=	850	14	61	123	37	65	85
育児休業や介護休業を取りたい	39.6	28.6	32.8	46.3	37.8	26.2	43.5
仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい	35.6	28.6	36.1	32.5	35.1	26.2	27.1
保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい	51.9	42.9	50.8	46.3	56.8	50.8	56.5
有給休暇などを取って対応したい	25.4	0.0	23.0	26.0	37.8	23.1	20.0
自分と家族で助けあって対応したい	43.4	35.7	44.3	43.1	45.9	44.6	48.2
家族に任せたい	2.2	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0
わからない	3.6	0.0	6.6	4.1	5.4	3.1	4.7

【性別×結婚経験別】

- 男女とも「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」と「結婚したことはない」とで傾向が異なる
- 男女とも「結婚したことはない」は「育児・介護休業を取りたい」が最も高い

女性は、「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は「施設やサービスを利用したい」（それぞれ64.1%、59.7%）、「結婚したことはない」は「育児休業や介護休業を取りたい」（60.5%）が最も高くなっています。

男性は、「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は「自分と家族で助けあって対応したい」（それぞれ48.0%、31.8%）、「結婚したことはない」は「育児休業や介護休業を取りたい」（41.7%）が最も高くなっています（「以前結婚していたが、現在はしていない」は「仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい」、「結婚したことはない」は「施設やサービスを利用したい」と同値）。

		(%)	結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
N=	女性		443	67	119
	男性		465	22	120
育児休業や介護休業を取りたい	女性		43.6	37.3	60.5
	男性		30.8	18.2	41.7
仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい	女性		36.8	40.3	42.0
	男性		28.8	31.8	35.0
保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい	女性		64.1	59.7	55.5
	男性		41.5	27.3	41.7
有給休暇などを取って対応したい	女性		22.1	16.4	27.7
	男性		27.5	31.8	25.8
自分と家族で助けあって対応したい	女性		43.6	34.3	47.9
	男性		48.0	31.8	32.5
家族に任せたい	女性		0.2	0.0	2.5
	男性		3.7	0.0	0.8
わからない	女性		3.6	1.5	5.9
	男性		3.0	9.1	5.8

【性別×働き方別】

- 働き方にかかわらず女性は「施設やサービスを利用したい」、男性は「自分と家族で助けあって対応したい」が最も高い
- 男女とも「共働き」は「育児休業や介護休業を取りたい」が比較的高い

働き方にかかわらず、女性は「施設やサービスを利用したい」（「共働きである」64.4%、「どちらか一人だけ働いている」62.2%）、男性は「自分と家族で助けあって対応したい」（「共働きである」47.9%、「どちらか一人だけ働いている」48.2%）が最も高くなっています。また、男女とも「共働きである」は「育児休業や介護休業を取りたい」（女性44.6%、男性34.2%）も比較的高くなっています。

	N=	(%)	
		共働きである	どちらか一人だけ働いている
	女性	404	37
	男性	263	199
育児休業や介護休業を取りたい	女性	44.6	29.7
	男性	34.2	26.6
仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい	女性	36.9	32.4
	男性	29.7	28.1
保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい	女性	64.4	62.2
	男性	43.3	39.2
有給休暇などを取って対応したい	女性	22.3	16.2
	男性	29.7	25.1
自分と家族で助けあって対応したい	女性	43.6	40.5
	男性	47.9	48.2
家族に任せたい	女性	0.2	0.0
	男性	4.2	2.5
わからない	女性	4.0	0.0
	男性	2.7	3.0

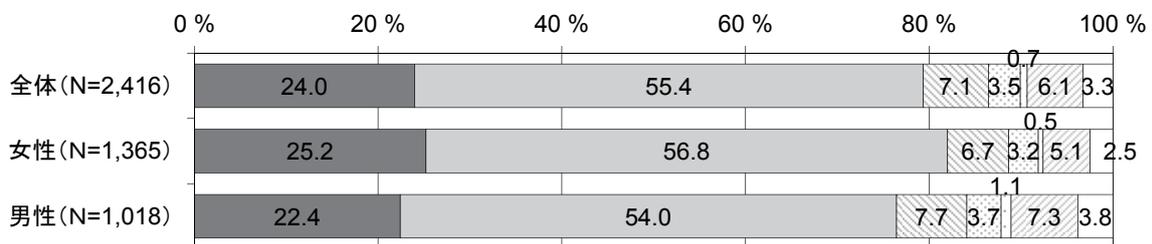
## 6 女性の就労について

問 8 一般的に女性が仕事を続けることについて、どのように考えますか。

【全体・性別】

- 男女とも「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が5割以上、「ずっと仕事を続けるのがよい」が2割以上

男女とも「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」（女性 56.8%、男性 54.0%）が最も高く、次いで「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」（女性 25.2%、男性 22.4%）となっており、性別による大きな差は見られません。



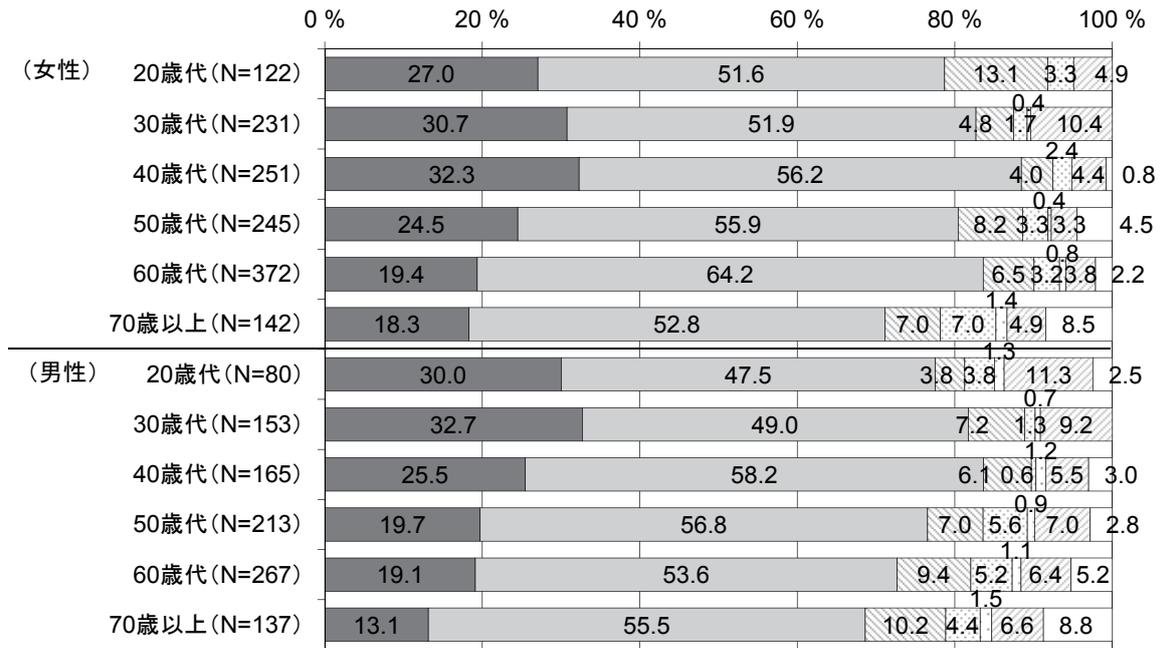
- 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい
- 子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい
- 子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい
- 結婚するまでは、仕事を続けるのがよい
- 女性は仕事に就かない方がよい
- わからない
- 不明

【性別×年代別】

- 男女ともすべての年代で「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高い
- 男女とも 20～40 歳代は「ずっと仕事を続けるのがよい」が比較的高い

男女ともすべての年代で「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高くなっています。

また、男女とも 20～40 歳代は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」が約 3 割で比較的高くなっていますが、50 歳代以上では高い年代ほど値が低くなっています。



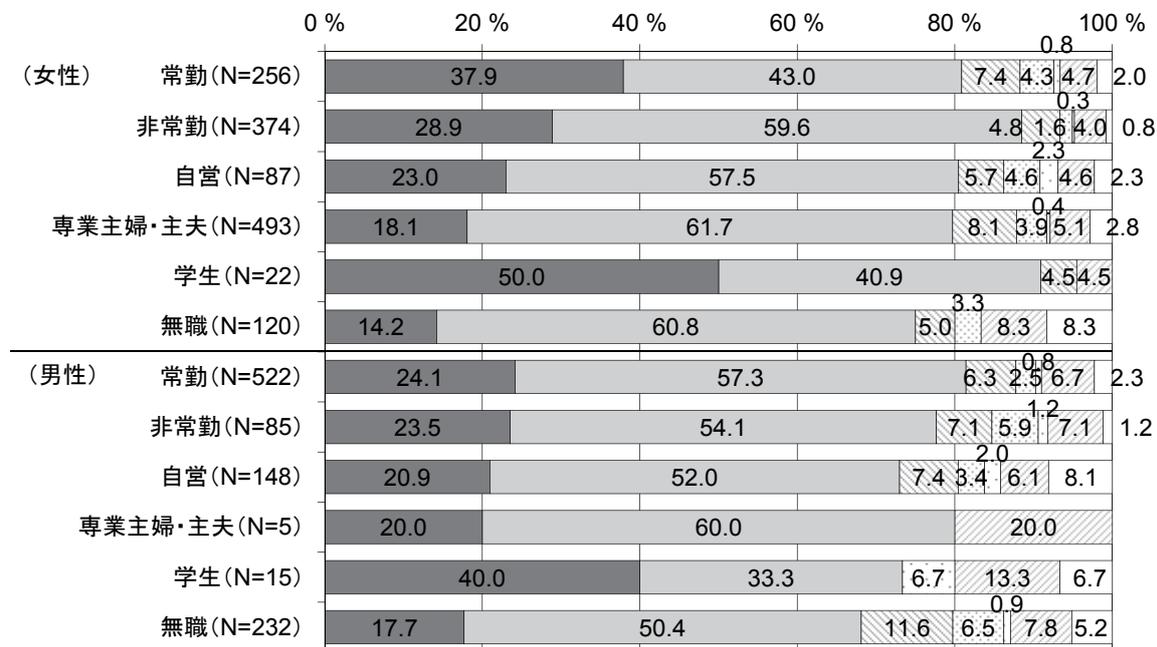
- 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい
- 子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい
- 子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい
- 結婚するまでは、仕事を続けるのがよい
- 女性は仕事に就かない方がよい
- わからない
- 不明

【性別×職業別】

- 男女とも学生は「ずっと仕事を続けるのがよい」、それ以外は「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高い
- 女性常勤は「ずっと仕事を続けるのがよい」が比較的高い
- 「ずっと仕事を続けるのがよい」は無職以外で女性が高い

男女とも学生を除くすべての職業で「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高くなっています。女性常勤は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」(37.9%)も比較的高くなっています。

また、回答者数が少ない男性専業主婦を除くと、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」は無職を除くすべての職業で女性が高くなっています。学生は男女とも「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」(女性 50.0%、男性 40.0%)が最も高くなっています。

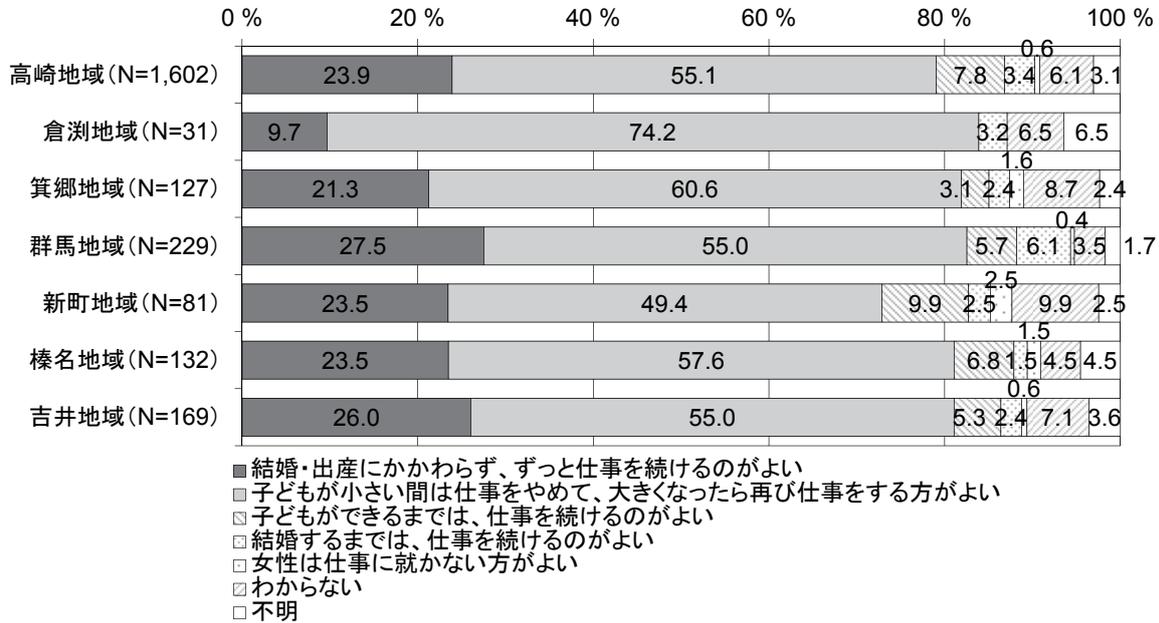


- 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい
- 子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい
- 子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい
- 結婚するまでは、仕事を続けるのがよい
- 女性は仕事に就かない方がよい
- わからない
- 不明

【地域別】

- すべての地域で「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高く、特に倉渕地域は7割以上

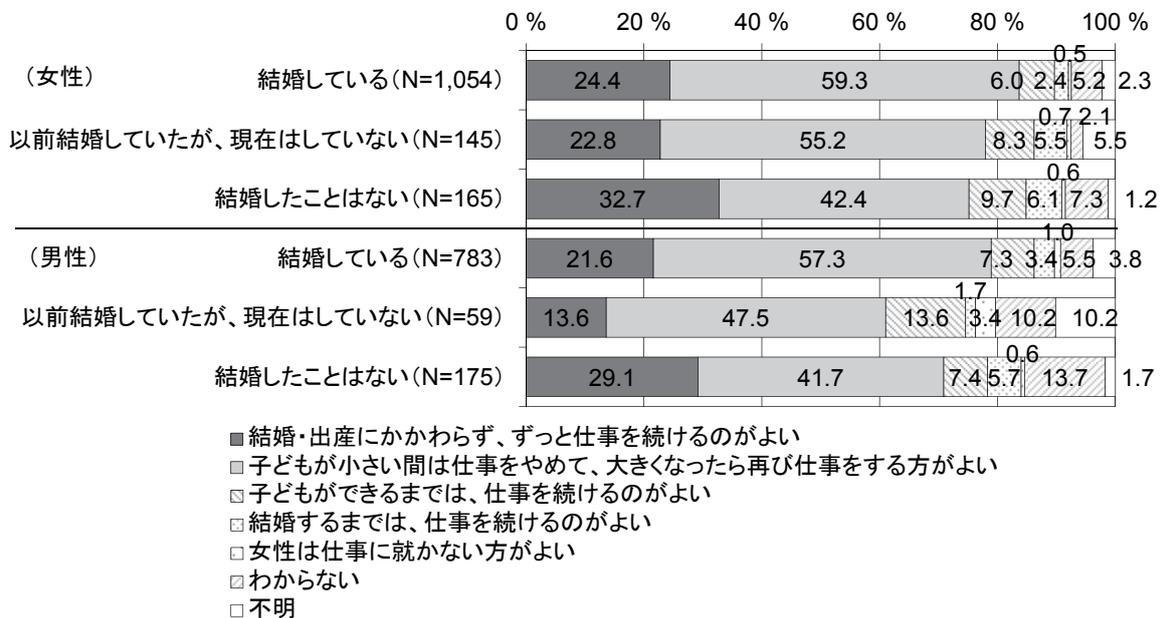
すべての地域で「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高く、特に倉渕地域（74.2%）は7割以上を占めています。



【性別×結婚経験別】

- 男女とも結婚経験にかかわらず「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高い
- 男女とも「結婚したことがない」は「ずっと仕事を続けるのがよい」が比較的高い

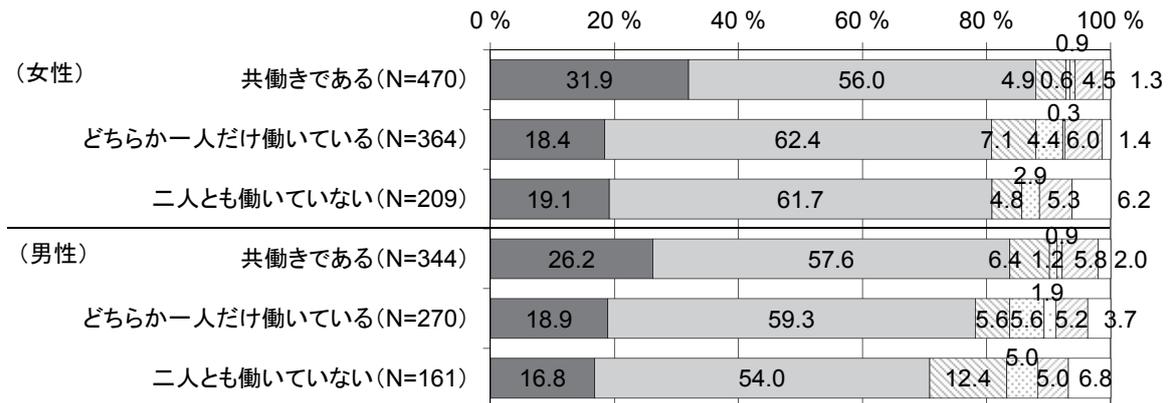
男女とも結婚経験にかかわらず「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高くなっています。また、男女とも「結婚したことはない」は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」（女性 32.7%、男性 29.1%）も約3割と比較的高くなっています。



【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高い
- 男女とも「共働き」は「ずっと仕事を続けるのがよい」が比較的高い

男女とも働き方にかかわらず「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高くなっています。また、男女とも「共働きである」は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」(女性 31.9%、男性 26.2%) も約3割と比較的高くなっています。

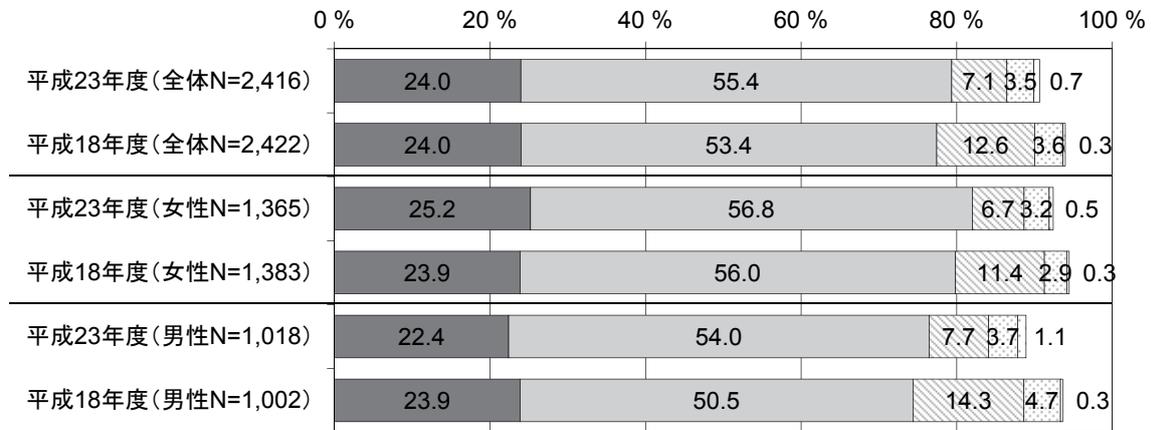


- 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい
- 子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい
- ▣ 子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい
- ▤ 結婚するまでは、仕事を続けるのがよい
- 女性は仕事に就かない方がよい
- ▥ わからない
- 不明

【性別×経年変化】

● 男女とも大きな変化は見られない

前回調査とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、男女とも大きな変化は見られません。



- 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい
- 子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい
- 子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい
- 結婚するまでは、仕事を続けるのがよい
- 女性は仕事に就かない方がよい

※「平成23年度」の選択肢「わからない」、「平成18年度」の選択肢「その他」は表示しない

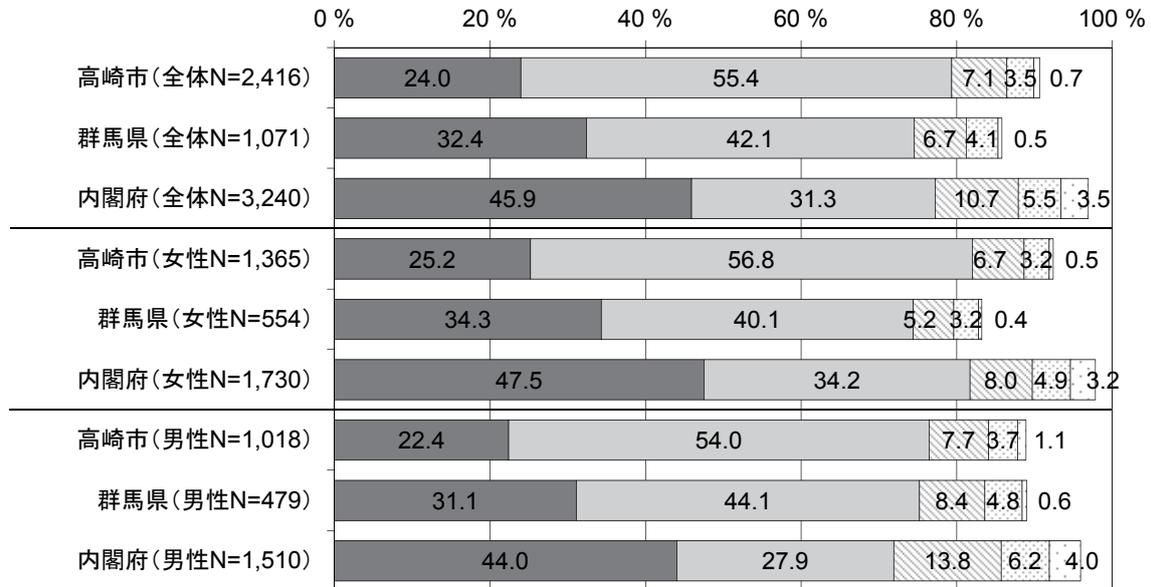
※各比較調査の選択肢と図での対応を以下に示す

高崎市(平成23年度)	高崎市(平成18年度)
結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい	結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい
子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい	子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就くのがよい
子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい	子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念するのがよい
結婚するまでは、仕事を続けるのがよい	結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念するのがよい
女性は仕事に就かない方がよい	女性は仕事に就かず、習い事などに専念するのがよい

【性別×他調査との比較】

- 「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」は男女とも群馬県や国より高い
- 「ずっと仕事を続けるのがよい」は男女とも群馬県や国より低い

他調査とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」は、男女とも群馬県や内閣府より高く、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」は低くなっています。



- 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい
- 子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい
- 子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい
- 結婚するまでは、仕事を続けるのがよい
- 女性は仕事に就かない方がよい

※「平成23年度」の選択肢「わからない」、「群馬県」「内閣府」の選択肢「その他」「わからない」は表示しない

※各比較調査の選択肢と図での対応を以下に示す

高崎市(平成23年度)	群馬県(平成21年度)	内閣府(平成21年度)
結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	
子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	
子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	
結婚するまでは、仕事を続けるのがよい	結婚するまでは職業をもつ方がよい	
女性は仕事に就かない方がよい	女性は職業をもたない方がよい	

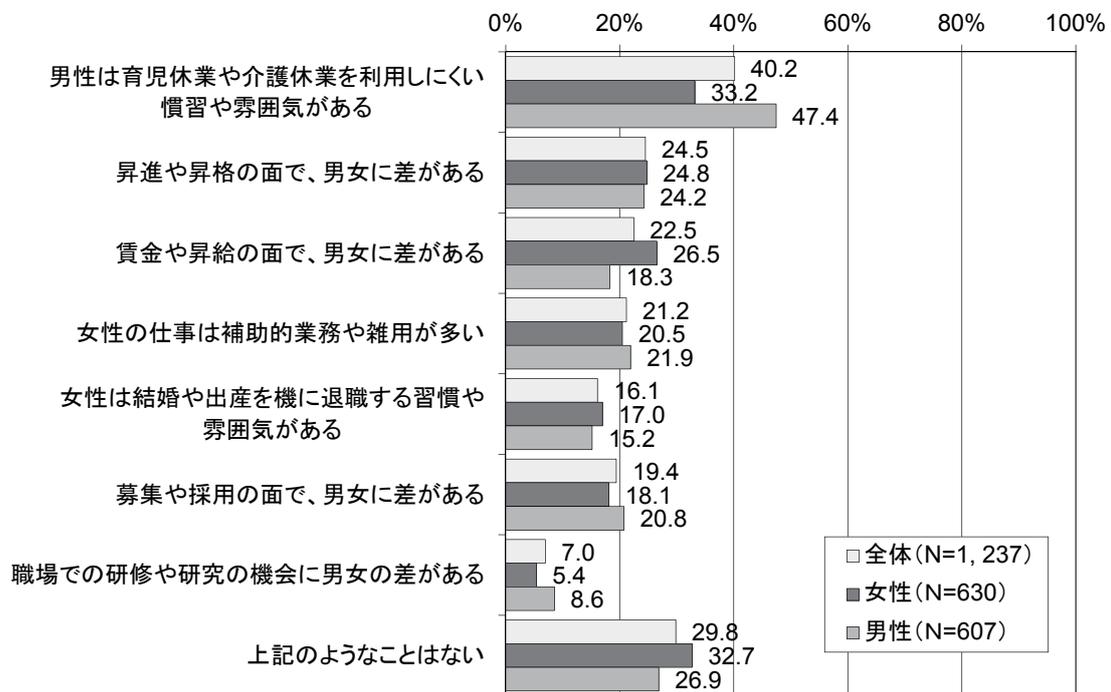
問 9

あなたの職場では以下のようなことがありますか。(現在勤めている場合限定・複数回答可)

【全体・性別】

- 男女とも「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」が最も高く、特に男性は約5割
- 女性は「ない」や「賃金や昇給」も比較的高い

男女とも「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」(女性 33.2%、男性 47.4%) が最も高く、特に男性が高くなっています。また、女性は「上記のようなことはない」(32.7%) や「賃金や昇給の面で、男女に差がある」(26.5%) も比較的高くなっています。



## 【性別×年代別】

- 男女とも 30・40 歳代は「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」が最も高く、特に男性は約 6 割
- 男女とも 20 歳代は「ない」が最も高い

回答者数が少ない 70 歳以上を除くと、女性は、30・40 歳代は「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（それぞれ 38.2%、36.7%）、20・50 歳代は「上記のようなことはない」（それぞれ 37.7%、35.9%）、60 歳代は「賃金や昇給の面で、男女に差がある」（33.7%）が最も高くなっています。

男性は、30・40 歳代は「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（それぞれ 59.9%、59.4%）が特に高く、50 歳代（48.5%）も高くなっています。20・60 歳代は「上記のようなことはない」（それぞれ 37.3%、38.2%）が最も高くなっています。

		(%)	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
N=	女性	77	123	177	145	98	9	
	男性	59	137	138	165	89	17	
募集や採用の面で、男女に差がある	女性	18.2	16.3	15.8	18.6	24.5	0.0	
	男性	27.1	22.6	16.7	23.6	15.7	17.6	
賃金や昇給の面で、男女に差がある	女性	18.2	22.8	27.7	28.3	33.7	11.1	
	男性	13.6	14.6	17.4	27.3	15.7	0.0	
昇進や昇格の面で、男女に差がある	女性	26.0	19.5	24.9	26.9	27.6	11.1	
	男性	16.9	20.4	30.4	29.7	19.1	5.9	
女性の仕事は補助的業務や雑用が多い	女性	23.4	19.5	22.0	15.9	24.5	11.1	
	男性	25.4	27.0	23.9	21.8	11.2	11.8	
職場での研修や研究の機会に男女の差がある	女性	10.4	4.9	3.4	4.8	7.1	0.0	
	男性	5.1	8.8	8.0	9.1	9.0	11.8	
女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	女性	26.0	21.1	18.1	15.2	7.1	0.0	
	男性	20.3	21.2	18.8	13.9	2.2	0.0	
男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある	女性	35.1	38.2	36.7	29.7	26.5	11.1	
	男性	32.2	59.9	59.4	48.5	27.0	0.0	
上記のようなことはない	女性	37.7	35.0	29.4	35.9	26.5	44.4	
	男性	37.3	19.7	20.3	26.7	38.2	47.1	

【性別×職業別】

- 男女とも常勤は「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」、非常勤は「ない」が最も高い
- 女性常勤は「賃金や昇給」「昇進や昇格」も比較的高い

男女とも常勤は「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（女性 37.9%、男性 50.0%）、非常勤は「上記のようなことはない」（女性 35.0%、男性 44.7%）が最も高くなっています。また、女性常勤は「賃金や昇給の面で、男女に差がある」（30.1%）や「昇進や昇格の面で、男女に差がある」（30.9%）も比較的高くなっています。

		(%)	常勤	非常勤
N=	女性		256	374
	男性		522	85
募集や採用の面で、男女に差がある	女性	16.8	19.0	
	男性	22.0	12.9	
賃金や昇給の面で、男女に差がある	女性	30.1	24.1	
	男性	19.2	12.9	
昇進や昇格の面で、男女に差がある	女性	30.9	20.6	
	男性	25.3	17.6	
女性の仕事は補助的業務や雑用が多い	女性	19.5	21.1	
	男性	23.4	12.9	
職場での研修や研究の機会に男女の差がある	女性	7.0	4.3	
	男性	8.8	7.1	
女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	女性	17.6	16.6	
	男性	15.9	10.6	
男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある	女性	37.9	29.9	
	男性	50.0	31.8	
上記のようなことはない	女性	29.3	35.0	
	男性	23.9	44.7	

【地域別】

- 倉渚地域を除くすべての地域で「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」が最も高く、特に新町地域が高い
- 倉渚地域は「ない」が最も高い

倉渚地域を除くすべての地域で「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」が最も高く、特に新町地域（51.4%）は5割以上となっています。倉渚地域は「上記のようなことはない」（42.9%）が最も高くなっています。

(%)	高崎地域	倉渚地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	吉井地域
N=	850	14	61	123	37	65	85
募集や採用の面で、男女に差がある	20.1	14.3	19.7	16.3	18.9	16.9	20.0
賃金や昇給の面で、男女に差がある	22.6	7.1	18.0	22.8	16.2	23.1	29.4
昇進や昇格の面で、男女に差がある	24.4	14.3	27.9	23.6	21.6	15.4	34.1
女性の仕事は補助的業務や雑用が多い	22.0	0.0	19.7	17.9	16.2	13.8	30.6
職場での研修や研究の機会に男女の差がある	7.1	7.1	4.9	8.9	2.7	3.1	9.4
女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	16.1	7.1	19.7	17.1	10.8	21.5	11.8
男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある	39.9	21.4	39.3	43.1	51.4	36.9	40.0
上記のようなことはない	30.8	42.9	27.9	26.8	27.0	29.2	24.7

【性別×結婚経験別】

- 女性は結婚経験にかかわらず「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」「ない」が同程度に高い
- 男性は結婚経験にかかわらず「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」が最も高い

女性「結婚している」「結婚したことはない」は、「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（それぞれ 33.6%、35.3%）、「以前結婚していたが、現在はしていない」は「上記のようなことはない」（32.8%）が最も高くなっていますが、大きな差は見られません。また、「結婚したことはない」は「女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある」（24.4%）も比較的高くなっています。

男性は、結婚経験にかかわらず「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」が約 5 割で最も高くなっています。

		(%)	結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
N=	女性		443	67	119
	男性		465	22	120
募集や採用の面で、男女に差がある	女性		19.2	13.4	16.0
	男性		20.4	9.1	24.2
賃金や昇給の面で、男女に差がある	女性		26.6	23.9	27.7
	男性		19.1	4.5	17.5
昇進や昇格の面で、男女に差がある	女性		22.4	22.4	27.7
	男性		24.7	22.7	22.5
女性の仕事は補助的業務や雑用が多い	女性		21.7	13.4	20.2
	男性		22.2	22.7	20.8
職場での研修や研究の機会に男女の差がある	女性		5.4	0.0	8.4
	男性		8.6	4.5	9.2
女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	女性		16.0	10.4	24.4
	男性		15.3	9.1	15.8
男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある	女性		33.6	26.9	35.3
	男性		48.2	45.5	45.0
上記のようなことはない	女性		32.7	32.8	32.8
	男性		26.0	31.8	29.2

## 【性別×働き方別】

- 女性「共働き」は「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」、女性「どちらか一人だけ働いている」は「賃金や昇給」や「昇進や昇格」が比較的高い
- 男性は働き方にかかわらず「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」が最も高い

女性は、「共働きである」は「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」(34.4%)、「どちらか一人だけ働いている」は「賃金や昇給の面で、男女に差がある」(37.8%)が最も高くなっています。また、「どちらか一人だけ働いている」は「昇進や昇格の面で、男女に差がある」(32.4%)も比較的高くなっています。

男性は、働き方にかかわらず「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」が約5割で最も高くなっています。

	N=	女性	(%)	
			共働きである	どちらか一人だけ働いている
		女性	404	37
		男性	263	199
募集や採用の面で、男女に差がある		女性	18.8	21.6
		男性	21.7	19.1
賃金や昇給の面で、男女に差がある		女性	25.5	37.8
		男性	20.2	18.1
昇進や昇格の面で、男女に差がある		女性	23.5	32.4
		男性	24.3	25.6
女性の仕事は補助的業務や雑用が多い		女性	21.5	21.6
		男性	20.2	25.1
職場での研修や研究の機会に男女の差がある		女性	5.2	8.1
		男性	9.9	7.0
女性は結婚や出産を機に退職する習慣や雰囲気がある		女性	17.1	5.4
		男性	17.1	13.1
男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある		女性	34.4	24.3
		男性	50.2	45.7
上記のようなことはない		女性	32.7	32.4
		男性	26.2	25.6

## 7 地域活動について

問 10 あなたがお住まいの地域では、以下のようなことについて、男女どちらが多いと思いますか。

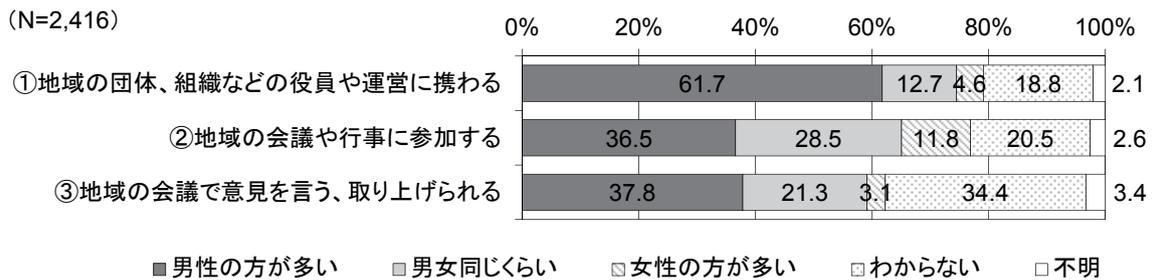
【全項目・全体】

- すべての項目で「男性の方が多い」が最も高く、特に「地域の団体、組織などの役員や運営に携わる」は6割以上
- 「男女同じくらい」が最も高いのは「地域の会議や行事に参加」で約3割
- すべての項目で「女性の方が多い」は低い

いずれの項目も「男性の方が多い」が最も高く、特に「①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる」(61.7%)は6割以上を占めています。

また、「②地域の会議や行事に参加する」は「男女同じくらい」(28.5%)、「③地域の会議で意見を言う、取り上げられる」は「わからない」(34.4%)も比較的高くなっています。

一方、「女性の方が多い」は「②地域の会議や行事に参加する」(11.8%)で1割程度見られますが、他の2項目ではほとんど見られません。



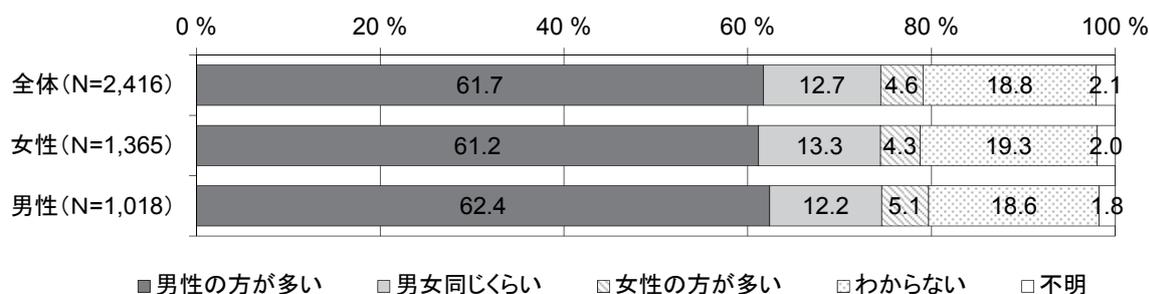
①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる

【全体・性別】

● 男女とも「男性の方が多い」が6割以上

男女とも「男性の方が多い」（女性 61.2%、男性 62.4%）が最も高く、性別による大きな差は見られません。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる



【性別×年代別】

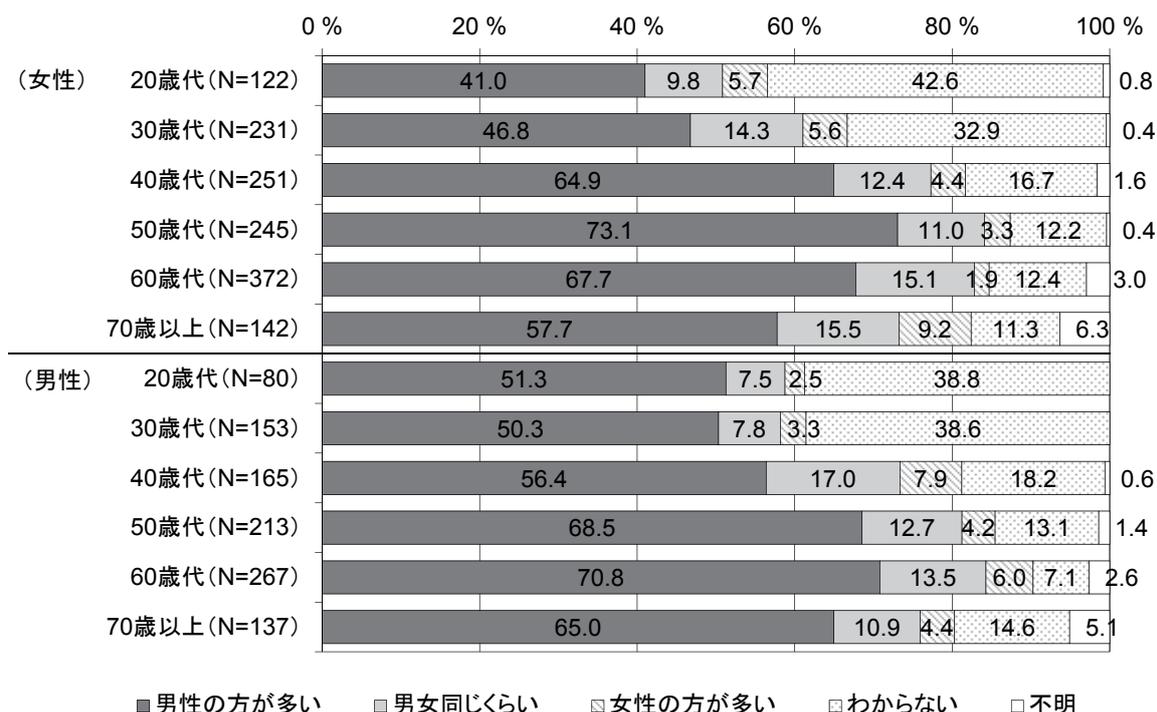
● 女性 20 歳代は「わからない」、それ以外は「男性の方が多い」が最も高い

● 男女とも 20・30 歳代は「わからない」が高い

女性 20 歳代を除くすべての年代で「男性の方が多い」が最も高く、特に女性 50 歳代（73.1%）や男性 60 歳代（70.8%）は 7 割以上を占めています。

女性 20 歳代は「わからない」（42.6%）が最も高く、男女とも 20・30 歳代は「わからない」が高くなっています。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる

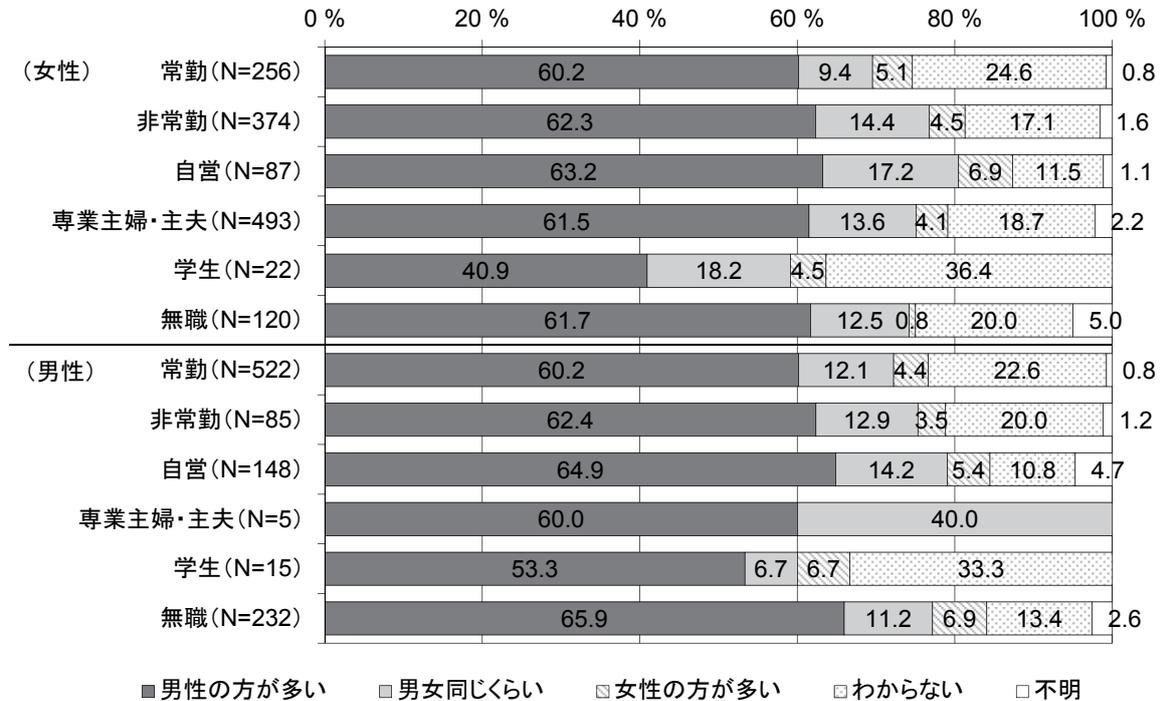


【性別×職業別】

- 男女ともすべての職業で「男性の方が多い」が最も高い
- 学生は男女とも「わからない」が比較的高い

すべての職業で「男性の方が多い」が最も高くなっています。また、男女とも学生は「わからない」（女性 36.4%、男性 33.3%）も比較的高くなっています。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる



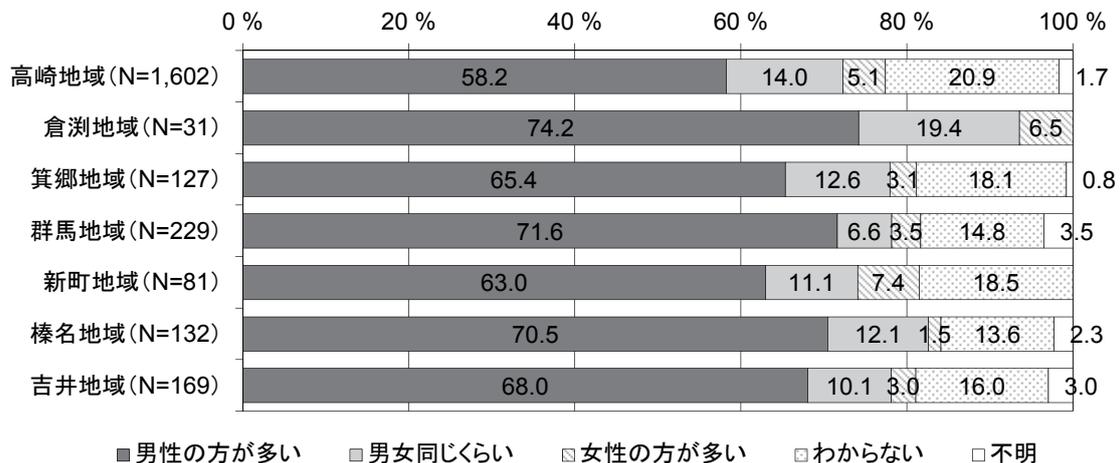
【地域別】

- すべての地域で「男性の方が多い」が最も高い
- 倉淵地域は「男女同じくらい」が約 2 割で比較的高い

すべての地域で「男性の方が多い」が最も高く、特に倉淵・群馬・榛名地域（それぞれ 74.2%、71.6%、70.5%）は 7 割以上を占めています。

また、倉淵地域は「男女同じくらい」（19.4%）も約 2 割と比較的高くなっています。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる

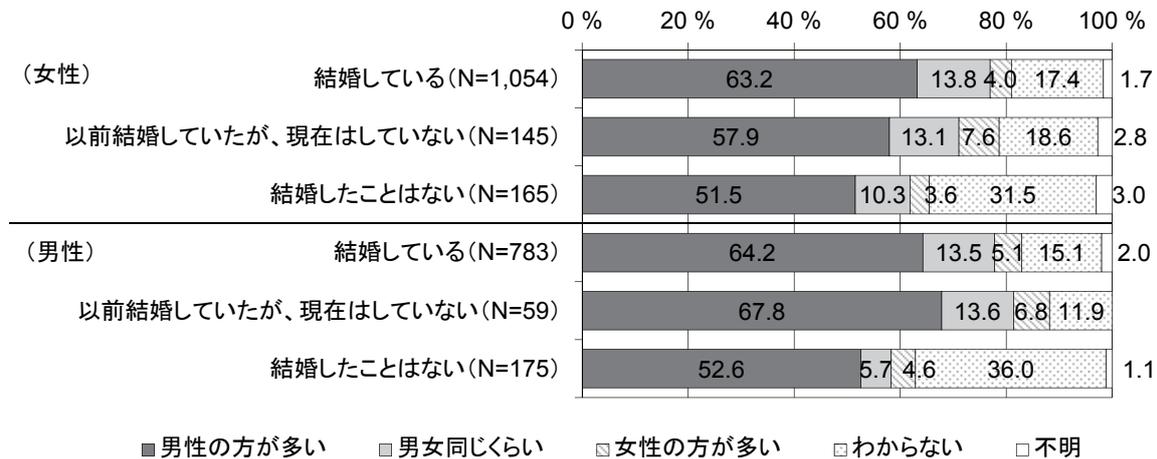


【性別×結婚経験別】

- 男女とも結婚経験にかかわらず「男性の方が多い」が最も高い
- 「結婚したことはない」は男女とも「わからない」が比較的高い

結婚経験にかかわらず、男女とも「男性の方が多い」が最も高くなっています。また、男女とも「結婚したことはない」は「わからない」（女性 31.5%、男性 36.0%）も比較的高くなっています。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる

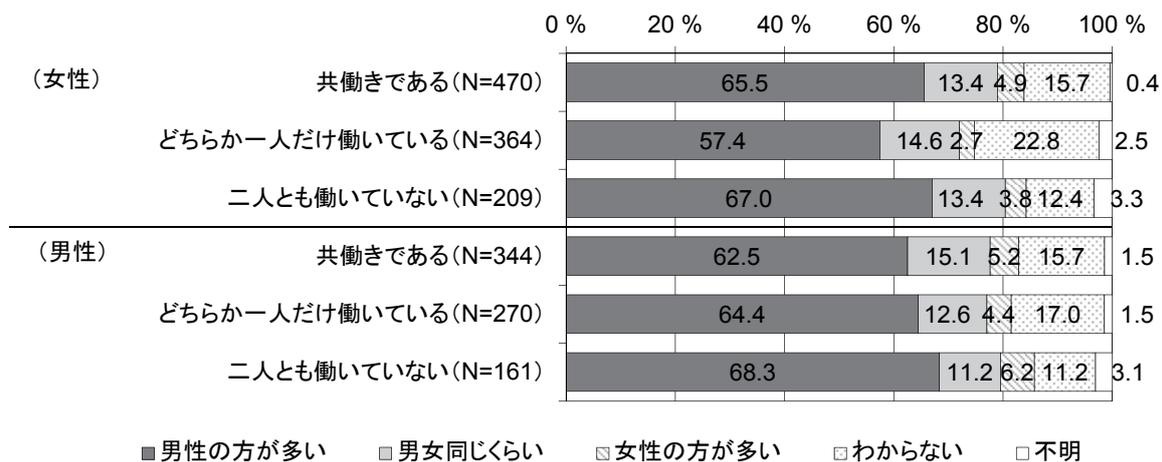


【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「男性の方が多い」が最も高い

働き方にかかわらず、男女とも「男性の方が多い」が最も高くなっています。また、女性「どちらか一人だけ働いている」は「わからない」（22.8%）も比較的高くなっています。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる



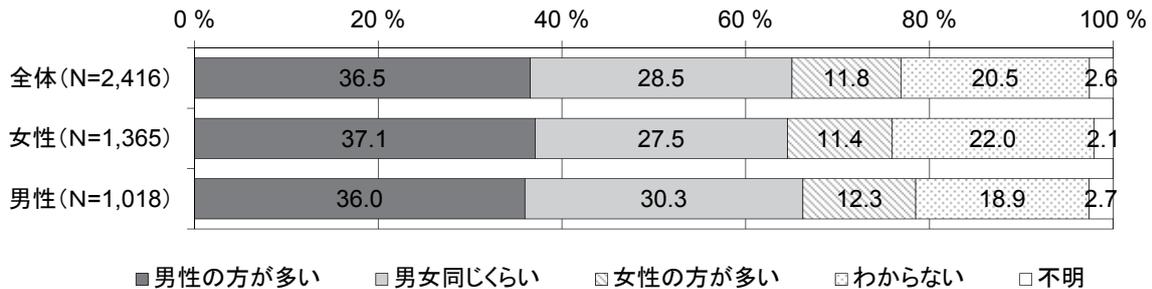
②地域の会議や行事に参加する

【全体・性別】

- 男女とも「男性の方が多い」が約4割、「男女同じくらい」が約3割

男女とも「男性の方が多い」（女性 37.1%、男性 36.0%）が最も高く、次いで「男女同じくらい」（女性 27.5%、男性 30.3%）となっています。性別による大きな差は見られません。

②地域の会議や行事に参加する

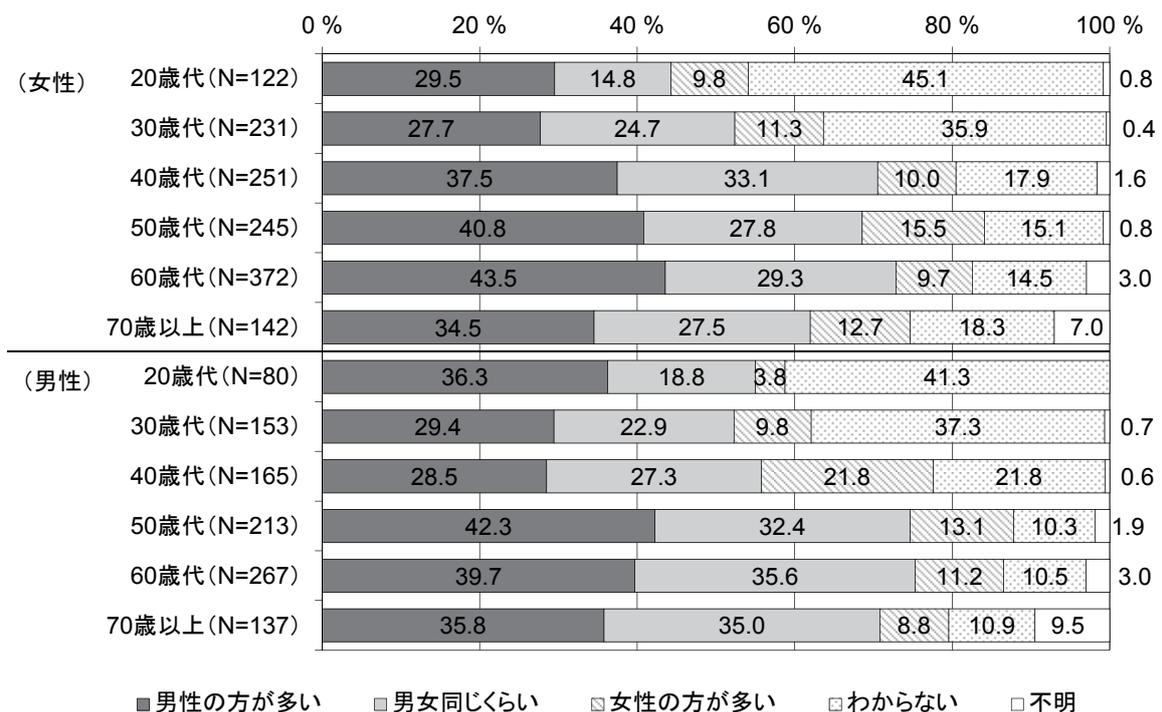


【性別×年代別】

- 男女とも30歳代以下は「わからない」、40歳代以上は「男性の方が多い」が最も高い
- 男性40歳代・70歳以上は「男性の方が多い」と「男女同じくらい」が同程度
- 男性40歳代は「女性の方が多い」が比較的高い

男女とも30歳代以下は「わからない」、40歳代以上は「男性の方が多い」が最も高くなっています。40歳代以上は、これに次いで「男女同じくらい」が比較的高く、特に男性40歳代や男性70歳以上は「男性の方が多い」と「男女同じくらい」が同程度になっています。また、男性40歳代は「女性の方が多い」（21.8%）も比較的高くなっています。

②地域の会議や行事に参加する

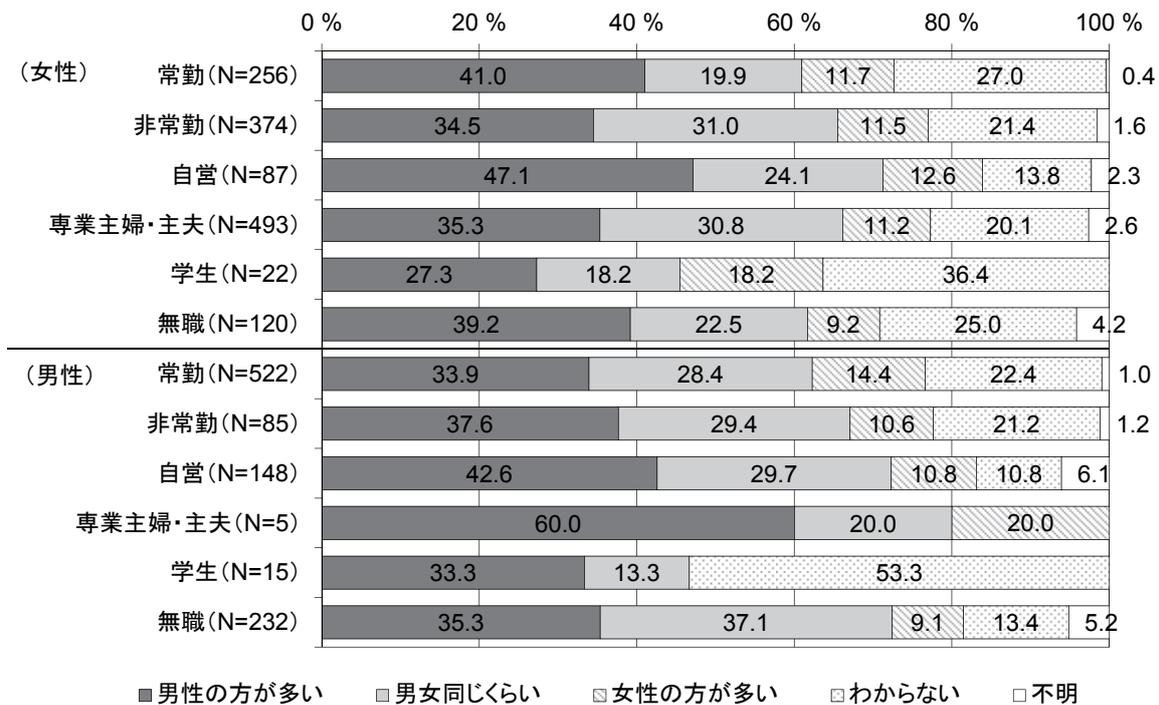


【性別×職業別】

- 男女学生、男性無職を除くすべての職業で「男性の方が多い」が最も高い
- 男女とも学生は「わからない」、男性無職は「男女同じくらい」が最も高い

男女学生、男性無職を除くすべての職業で「男性の方が多い」が最も高くなっています。男女とも学生は「わからない」（女性 36.4%、男性 53.3%）、男性無職は「男女同じくらい」（37.1%）が最も高くなっています。

②地域の会議や行事に参加する

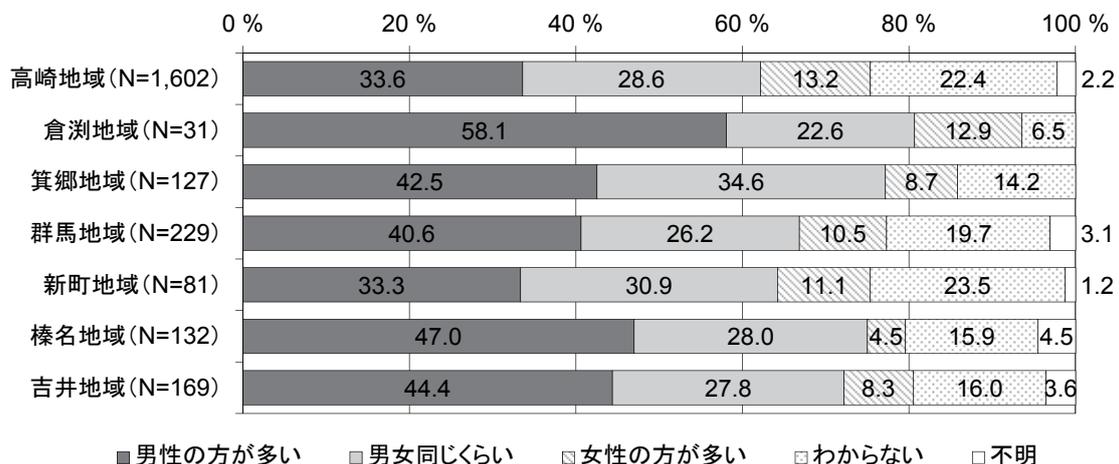


【地域別】

- すべての地域で「男性の方が多い」が最も高く、特に倉渚地域は約 6 割
- 箕郷地域は「男女同じくらい」が比較的高い

すべての地域で「男性の方が多い」が最も高く、特に倉渚地域（58.1%）は約 6 割を占めています。また、箕郷地域は「男女同じくらい」（34.6%）、高崎地域や新町地域は「わからない」（それぞれ 22.4%、23.5%）も比較的高くなっています。

②地域の会議や行事に参加する

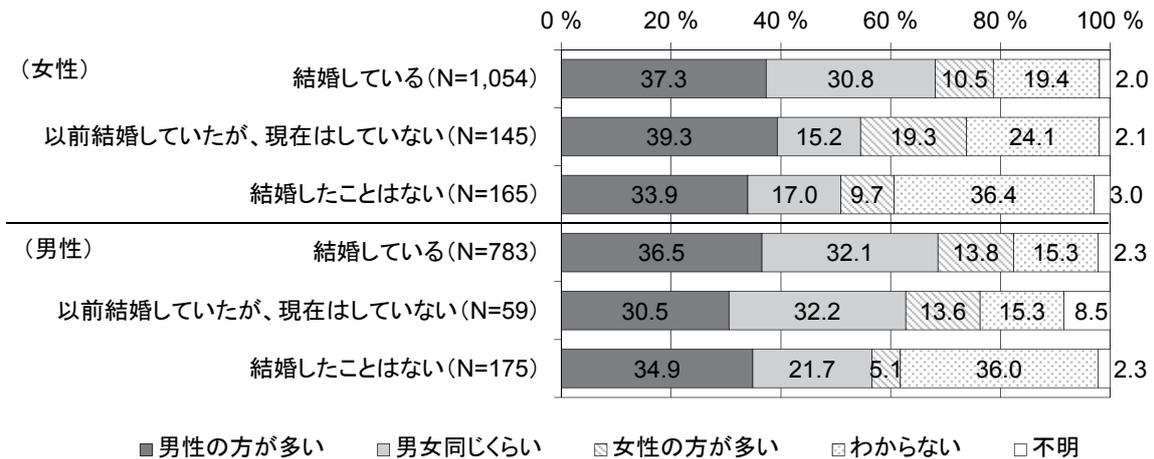


【性別×結婚経験別】

- 男女とも結婚経験によって傾向が異なる
- 男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「男女同じくらい」が最も高い

男女とも「結婚している」は「男性の方が多い」（女性 37.3%、男性 36.5%）、「結婚したことはない」は「わからない」（女性 36.4%、男性 36.0%）が最も高くなっています。「以前結婚していたが、現在はしていない」は、女性では「男性の方が多い」（39.3%）、男性では「男女同じくらい」（32.2%）が最も高くなっています。

②地域の会議や行事に参加する

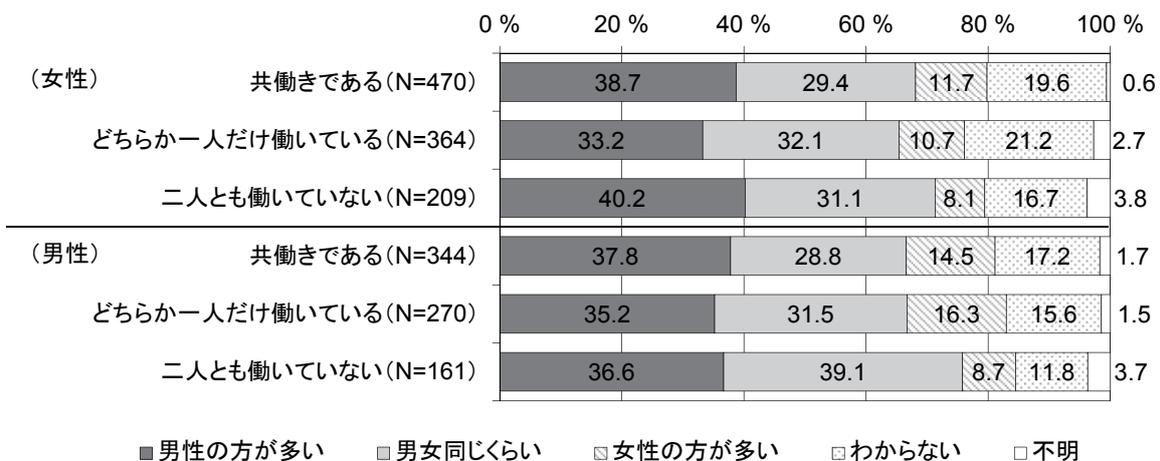


【性別×働き方別】

- 男性「二人とも働いていない」は「男女同じくらい」、それ以外は「男性の方が多い」が最も高い

男性「二人とも働いていない」を除いて「男性の方が多い」が最も高くなっています。男性「二人とも働いていない」は「男女同じくらい」（39.1%）が最も高くなっています。

②地域の会議や行事に参加する



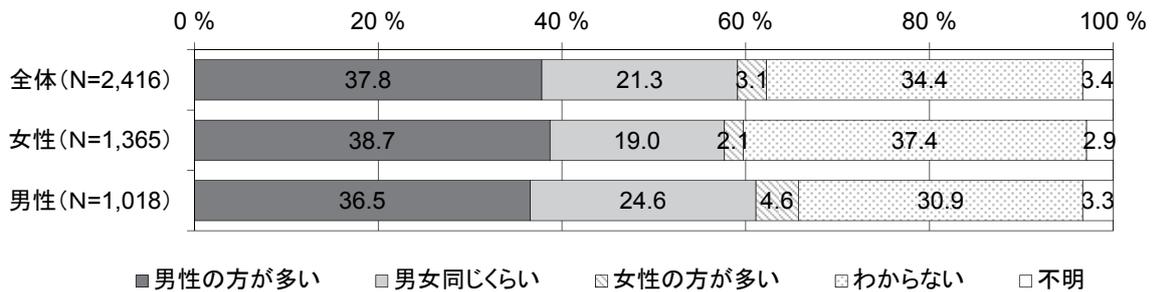
③地域の会議で意見を言う、取り上げられる

【全体・性別】

- 男女とも「男性の方が多い」が約4割
- 男性は「男女同じくらい」が2割以上で比較的高い
- 「わからない」が女性約4割、男性約3割

男女とも「男性の方が多い」(女性 38.7%、男性 36.5%) が最も高くなっていますが、「わからない」(女性 37.4%、男性 30.9%) も同程度に高くなっています。性別による大きな差は見られませんが、男性は「男女同じくらい」(24.6%) が比較的高くなっています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる

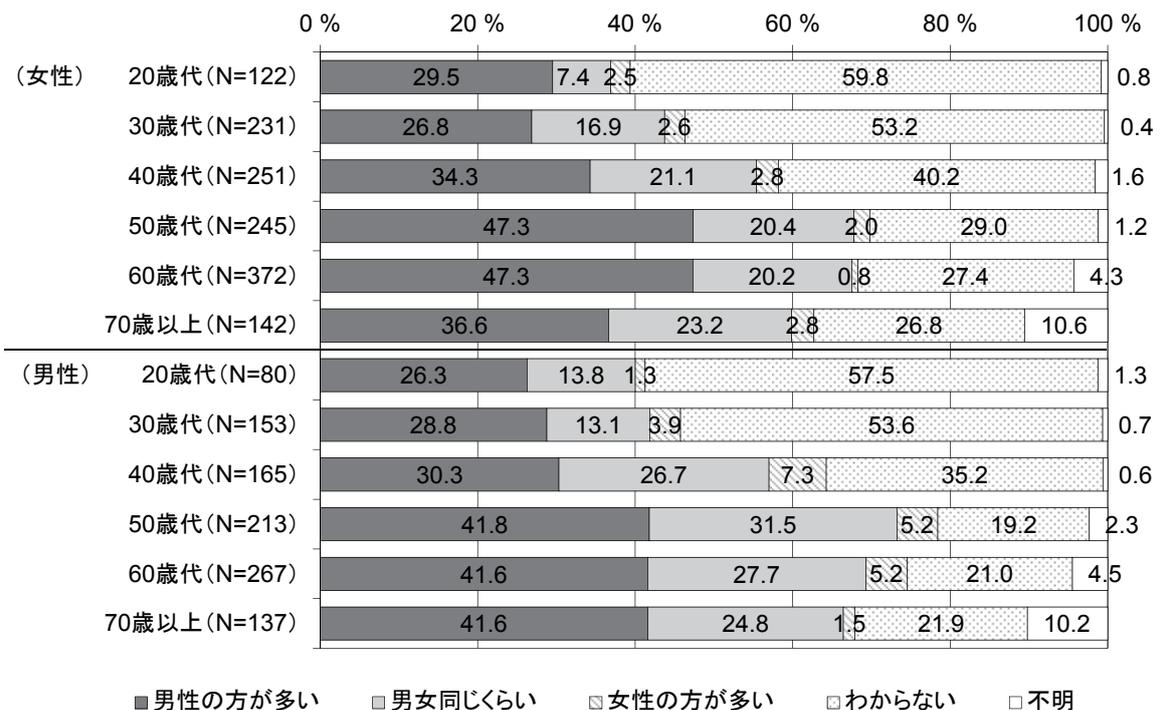


【性別×年代別】

- 男女とも40歳代以下は「わからない」、50歳代以上は「男性の方が多い」が最も高い

男女とも40歳代以下は「わからない」、50歳代以上は「男性の方が多い」が最も高くなっています。特に30歳代以下は男女とも「わからない」が5割以上を占めています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる

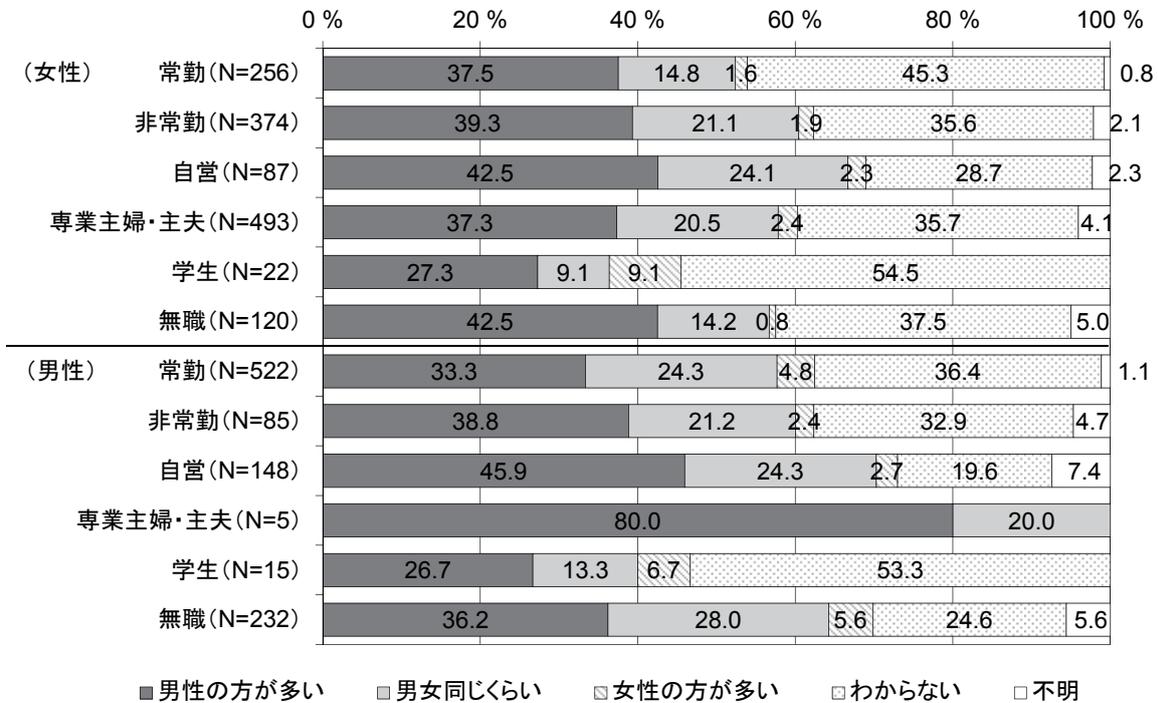


【性別×職業別】

- 男女とも常勤・学生は「わからない」、それ以外は「男性の方が多い」が最も高い

回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、男女とも常勤・学生を除くすべての職業で「男性の方が多い」が最も高くなっています。男女とも常勤や学生は「わからない」が最も高くなっています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる

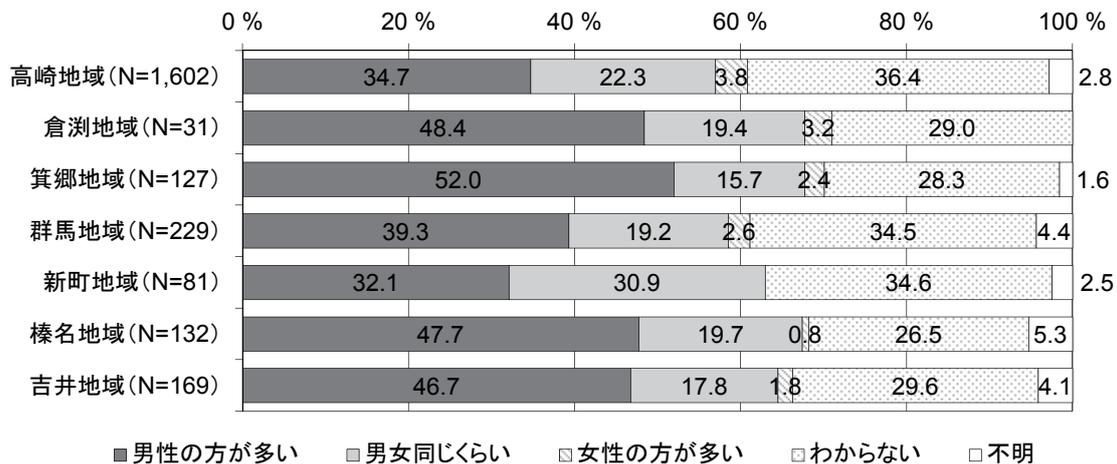


【地域別】

- 高崎・新町地域を除くすべての地域で「男性の方が多い」が最も高い
- 高崎・新町地域は「わからない」が最も高く、新町地域は「男女同じくらい」も比較的高い

高崎・新町地域を除くすべての地域で「男性の方が多い」が最も高くなっています。高崎・新町地域は「わからない」（それぞれ 36.4%、34.6%）が最も高くなっています。また、新町地域は「男女同じくらい」（30.9%）も比較的高くなっています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる

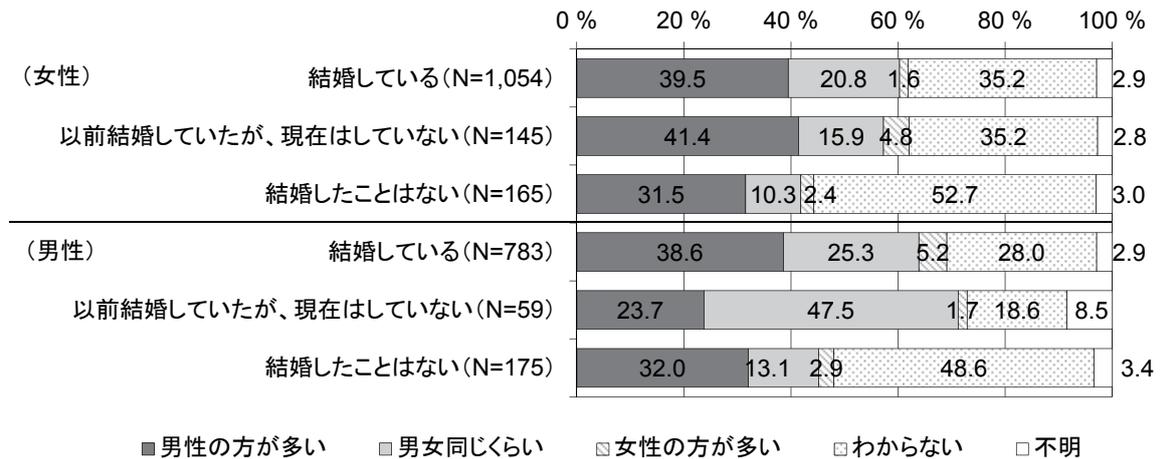


【性別×結婚経験別】

- 男女とも結婚経験によって傾向が異なる
- 男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「男女同じくらい」が最も高い

男女とも「結婚している」は「男性の方が多い」（女性 39.5%、男性 38.6%）、「結婚したことはない」は「わからない」（女性 52.7%、男性 48.6%）が最も高くなっています。「以前結婚していたが、現在はしていない」は、女性では「男性の方が多い」（41.4%）、男性では「男女同じくらい」（47.5%）が最も高くなっています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる

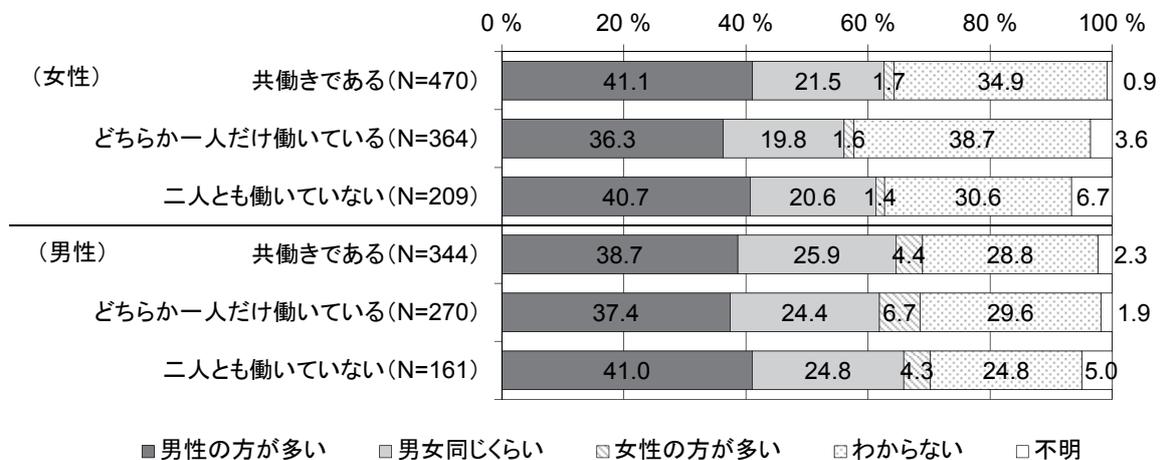


【性別×働き方別】

- 女性「どちらか一人だけ働いている」を除き「男性の方が多い」が最も高い
- 女性「どちらか一人だけ働いている」は「男性の方が多い」と「わからない」が同程度

女性「どちらか一人だけ働いている」を除いて「男性の方が多い」が最も高くなっています。女性「どちらか一人だけ働いている」は「わからない」（38.7%）が最も高く、「男性の方が多い」（36.3%）も同程度に高くなっています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる



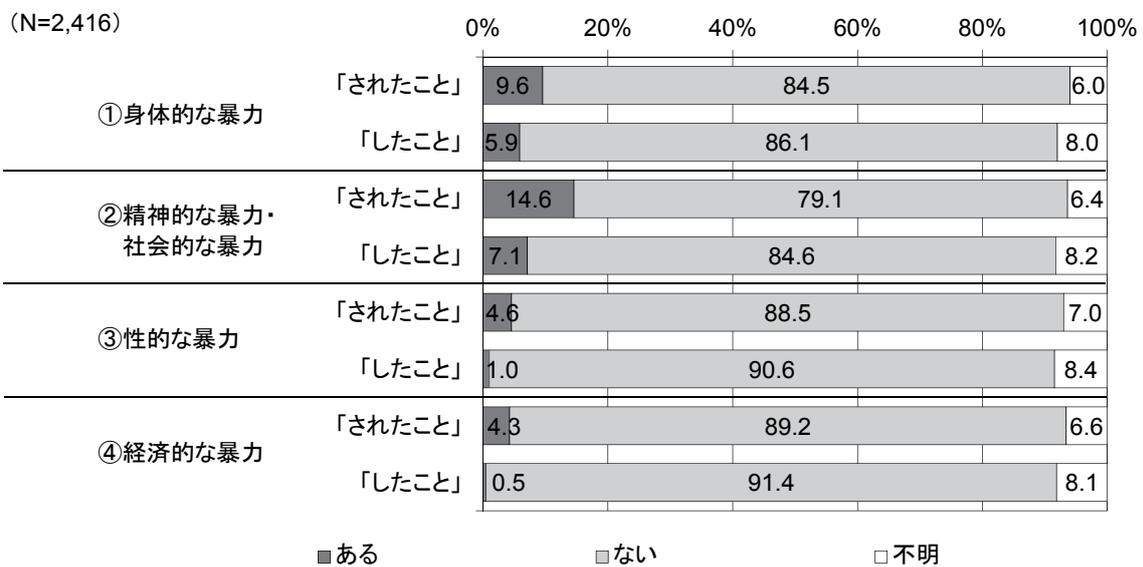
## 8 ドメスティック・バイオレンスについて

問 11 あなたはこれまでに恋人やパートナーから、次のようなことを「されたこと」や、もしくは「したこと」がありますか。

【全項目・全体】

- ほとんどの項目で「されたこと」「したこと」とともにあまり見られない
- 「②精神的・社会的な暴力」を「されたことがある」は1割以上見られる

いずれの項目も「されたこと」「したこと」とともに「ない」がほとんどを占めています。その中で「②精神的な暴力・社会的な暴力」を「されたこと」が「ある」(14.6%)は比較的高くなっています。



※①身体的な暴力…なぐる、ける、物を投げつける、つきとばす、刃物でおどす等  
 ②精神的な暴力・社会的な暴力…人格を否定するような暴言、長時間の無視、どなる、「誰のおかげで生活できるんだ」や「かいしょうなし」等の見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等  
 ③性的な暴力……相手がいやがっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要等  
 ④経済的な暴力…生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等

①身体的な暴力

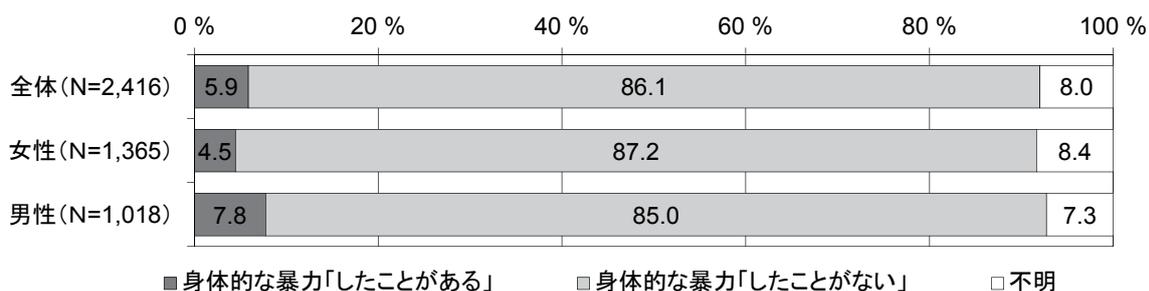
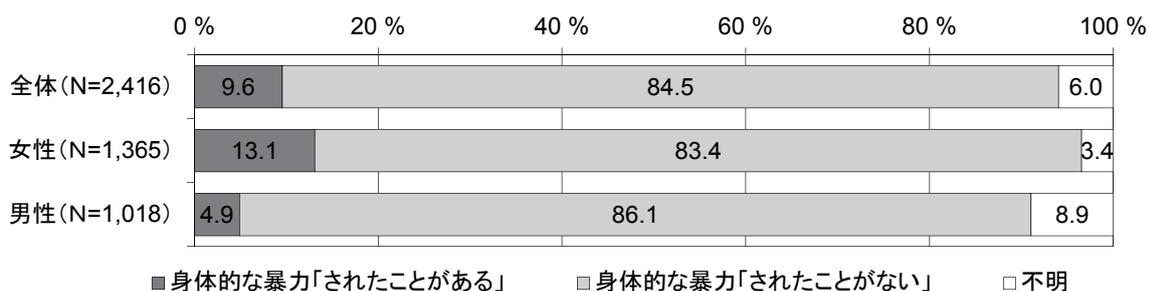
(なぐる、ける、物を投げつける、つきとばす、刃物でおどす等)

【全体・性別】

- 「されたことがある」は女性が1割以上で比較的高い
- 「したことがある」は男女とも1割未満

「されたことがある」は女性（13.1%）が1割以上で比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は男性（7.8%）が若干高くなっていますが、男女とも1割未満で性別による大きな差は見られません。

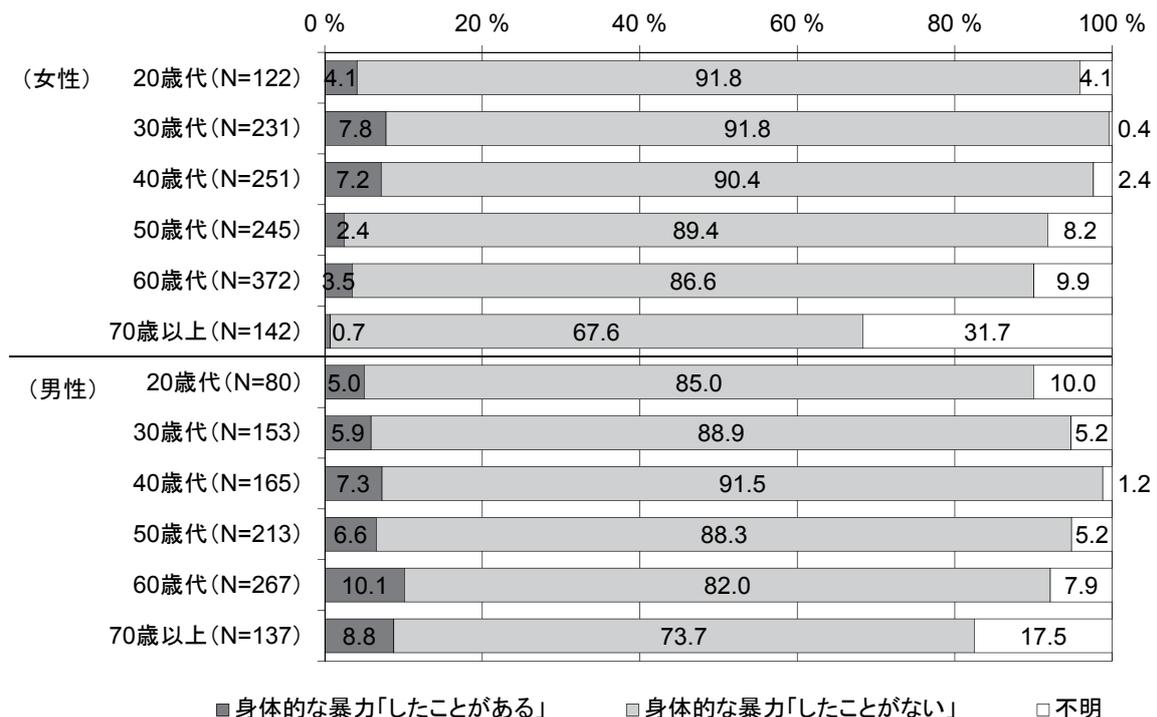
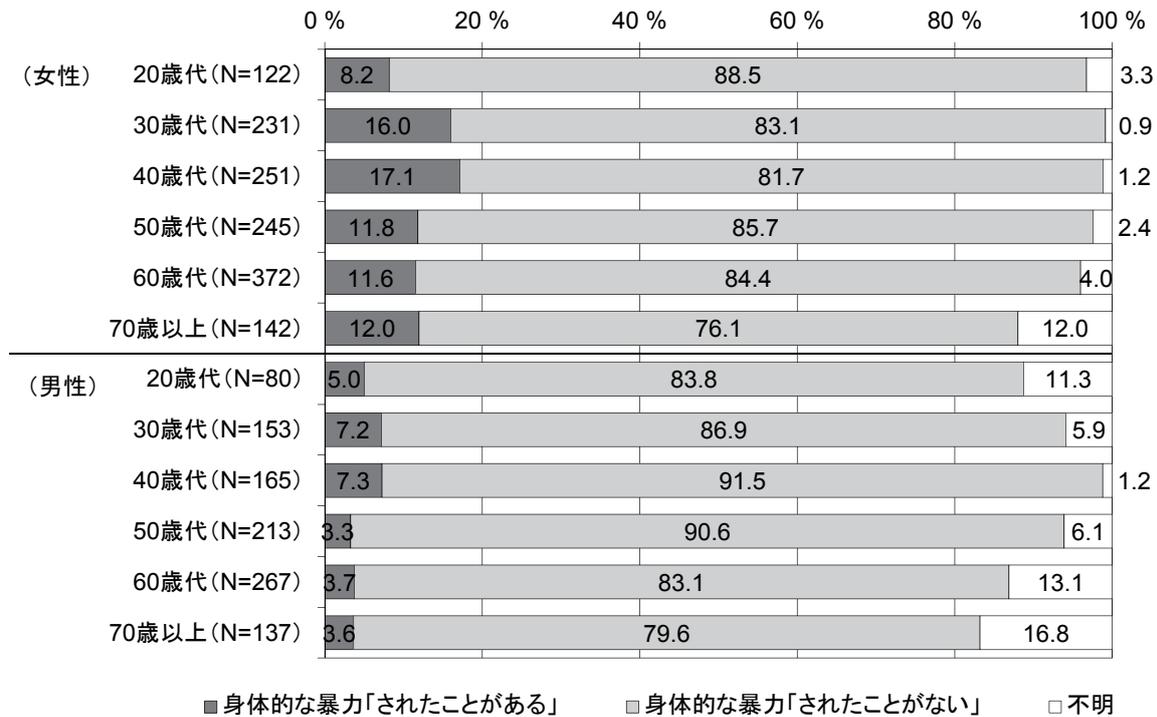


【性別×年代別】

- 「されたことがある」はすべての年代で女性が高く、女性 30・40 歳代が比較的高い
- 「したことがある」は男女とも年代による大きな差は見られない

「されたことがある」は女性 30 歳代（16.0%）や女性 40 歳代（17.1%）が比較的高く、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性 60 歳代（10.1%）が若干高くなっていますが、男女とも年代による大きな差は見られません。

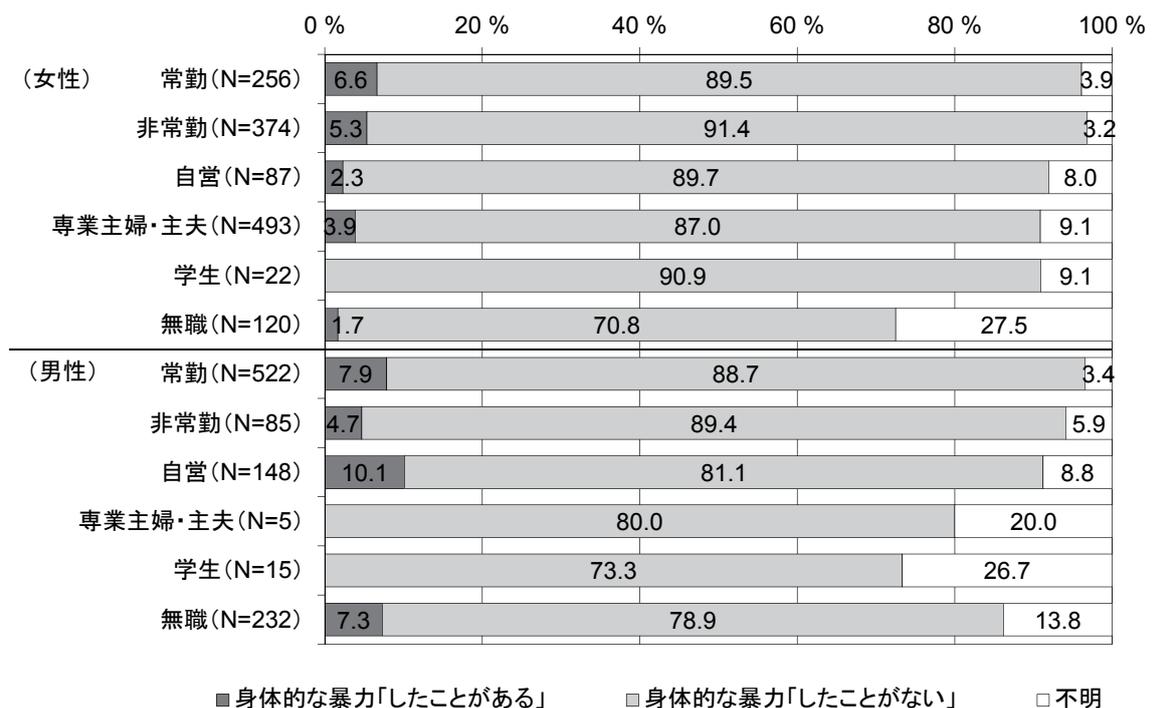
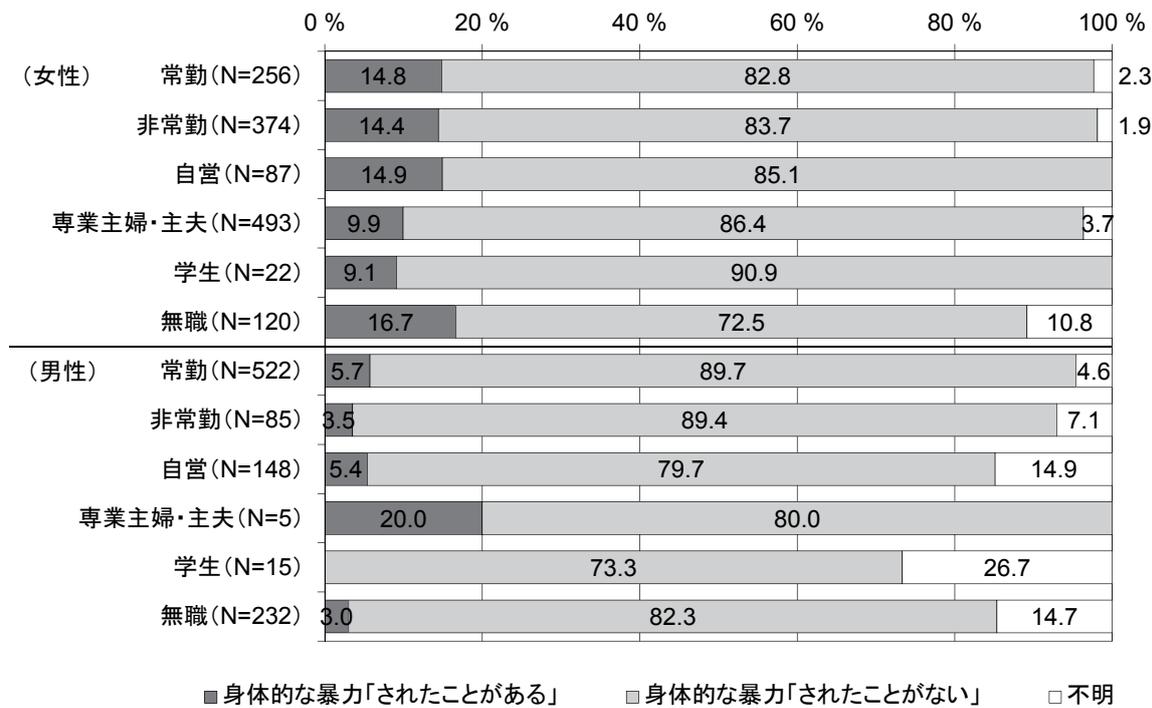


【性別×職業別】

- 「されたことがある」はすべての職業で女性が高い
- 「したことがある」は男女とも職業による大きな差は見られない

回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、「されたことがある」は女性無職（16.7%）が最も高く、すべての職業で女性が高くなっています。

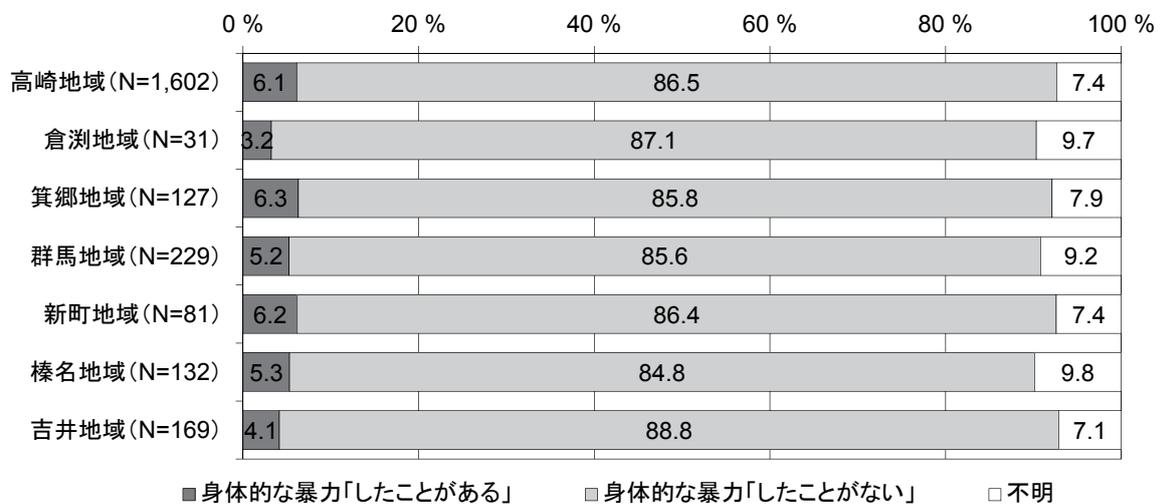
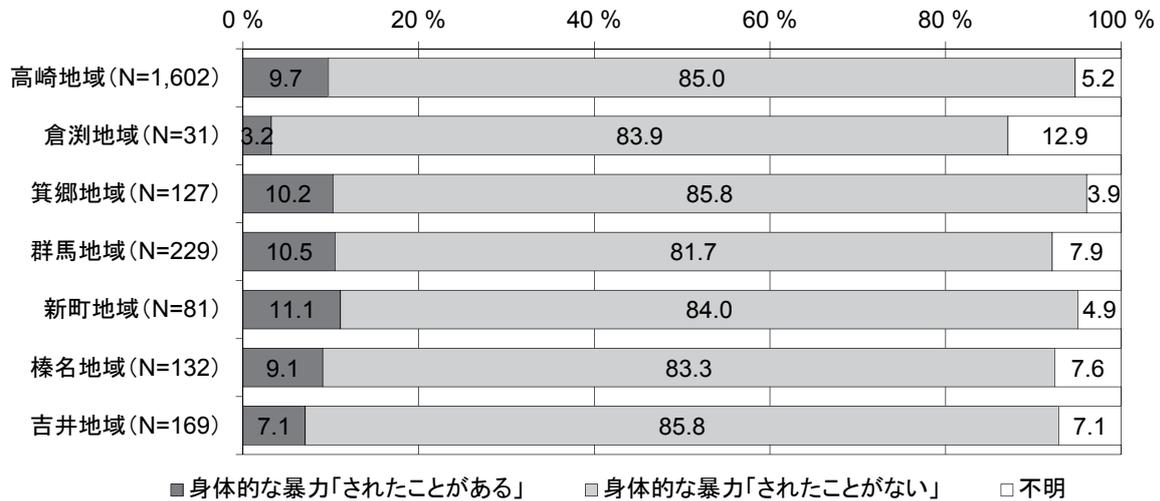
一方、「したことがある」は男性自営（10.1%）が若干高くなっていますが、男女とも職業による大きな差は見られません。



【地域別】

- 「されたことがある」は倉渚地域が特に低い
- 「したことがある」は地域による大きな差は見られない

「されたことがある」は倉渚地域（3.2%）が特に低くなっています。  
 一方、「したことがある」は地域による大きな差は見られません。

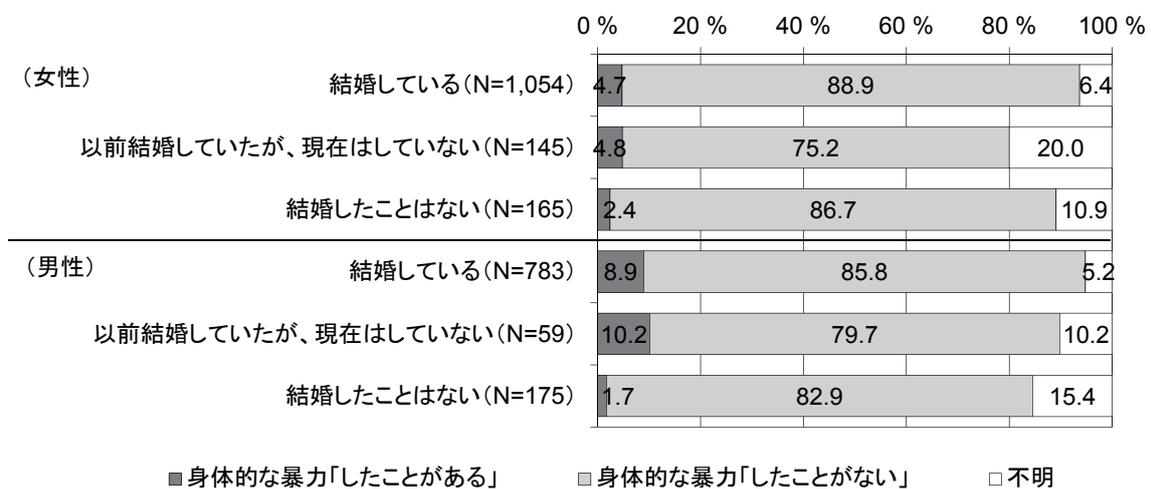
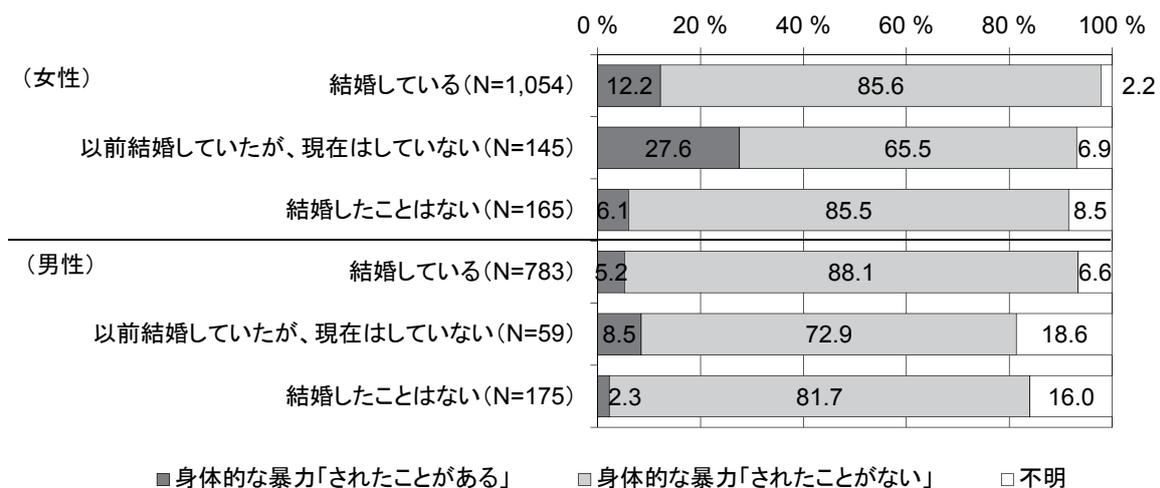


【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」が約3割で特に高い
- 「したことがある」は男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」が約1割で比較的高い

「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」(27.6%)が約3割で特に高く、結婚経験にかかわらず女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」(それぞれ8.9%、10.2%)が比較的高くなっています。

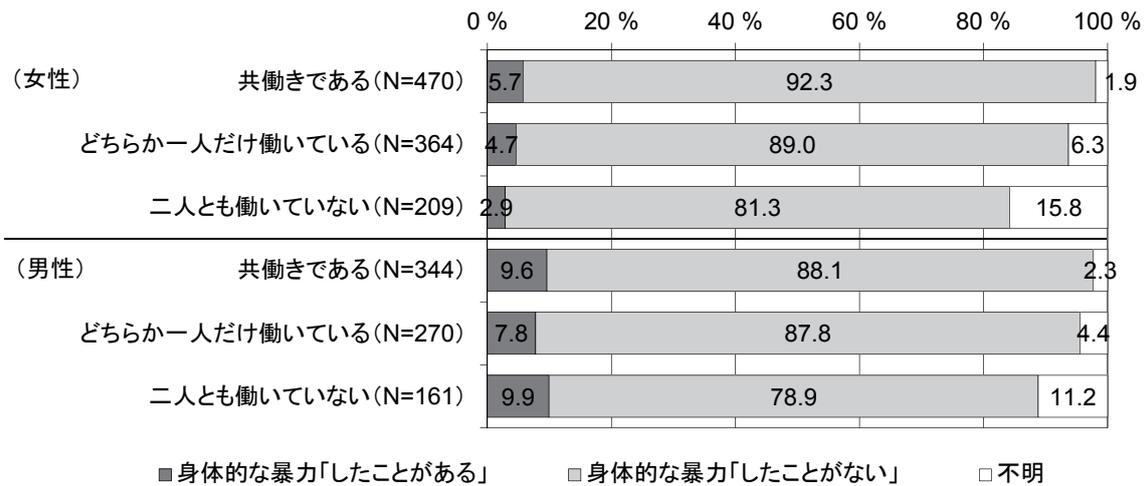
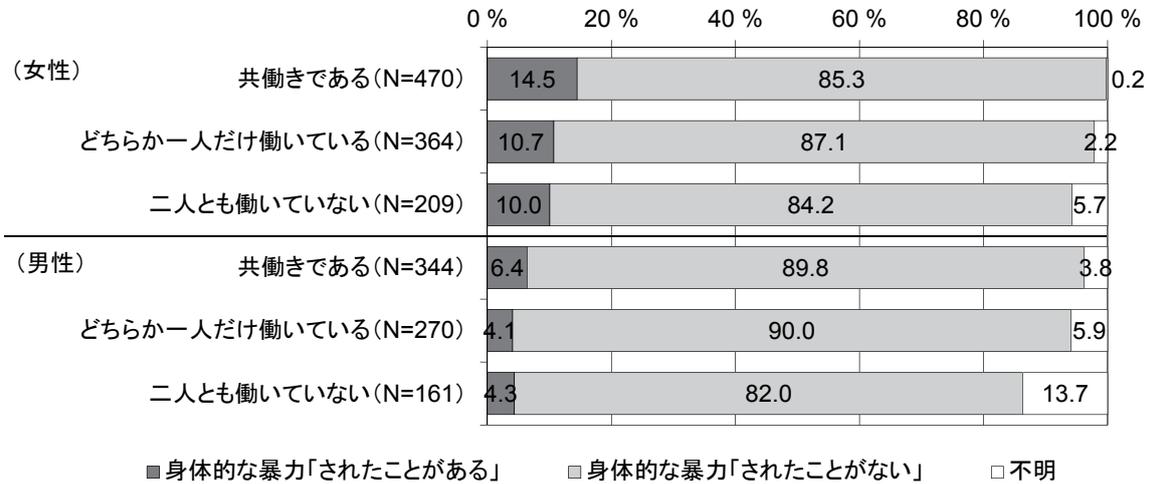


【性別×働き方別】

- 「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高い
- 「したことがある」は働き方にかかわらず男性が高い

「されたことがある」は女性「共働きである」(14.5%)が比較的高く、働き方にかかわらず女性が高くなっています。

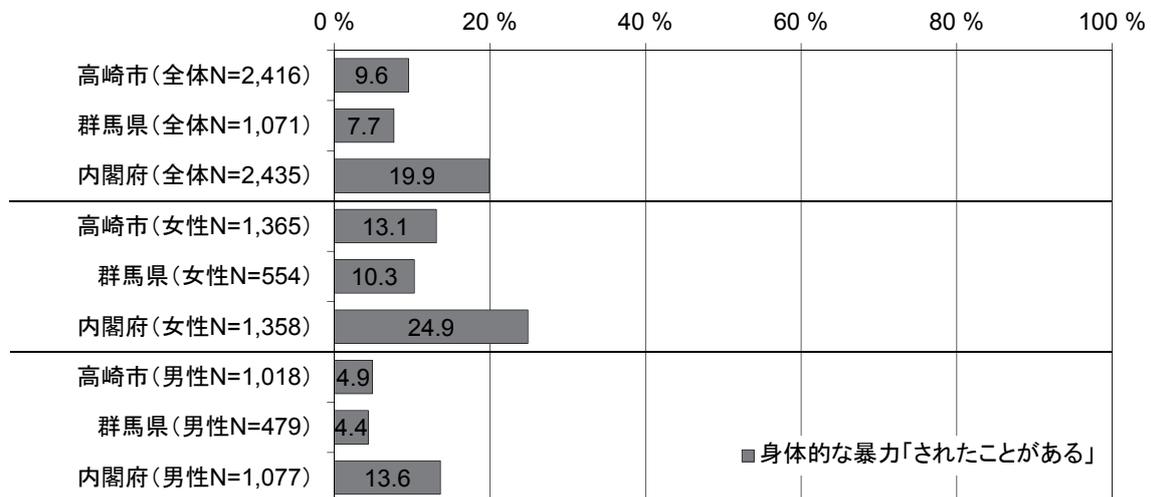
一方、「したことがある」は働き方にかかわらず男性は約1割と比較的高くなっています。



【性別×他調査との比較】

- 「されたことがある」は男女とも国より低く、群馬県と同程度
- 「したことがある」は男女とも群馬県より若干高い

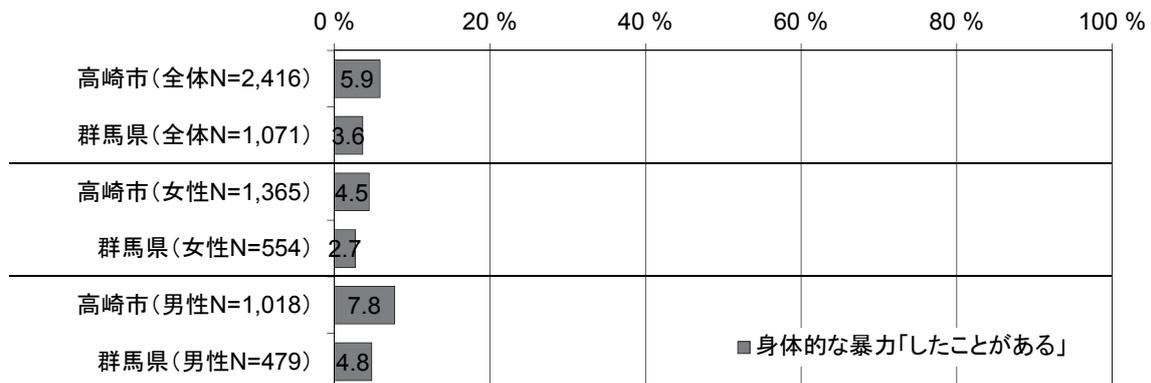
「されたことがある」は男女とも内閣府より低く、群馬県と同程度になっています。  
一方、「したことがある」は男女とも群馬県より若干高くなっています。



※「ある」のみを表示

※「群馬県」「内閣府」は「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」

※「群馬県」「内閣府」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示



※「ある」のみを表示

※「群馬県」は「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行をした」

※「群馬県」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」として表示

②精神的な暴力・社会的な暴力

(人格を否定するような暴言、長時間の無視、どなる、「誰のおかげで生活できるんだ」や「かいしょうなし」等の見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等)

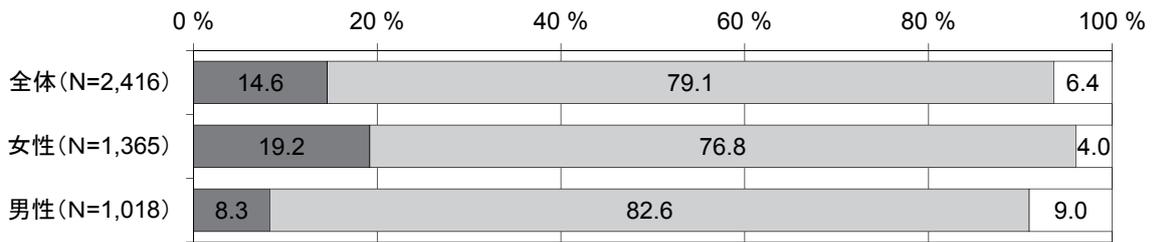
【全体・性別】

- 「されたことがある」は女性が約2割で比較的高い

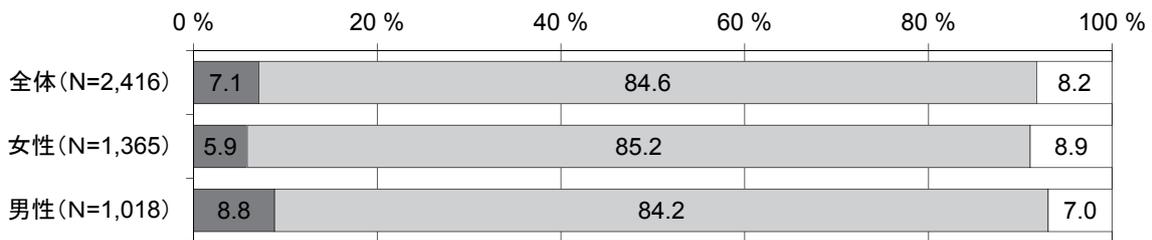
- 「したことがある」は男女とも1割未満

「されたことがある」は女性（19.2%）が約2割で比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は男性（8.8%）が若干高くなっていますが、男女とも1割未満で、性別による大きな差は見られません。



■精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがある」 □精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがない」 □不明



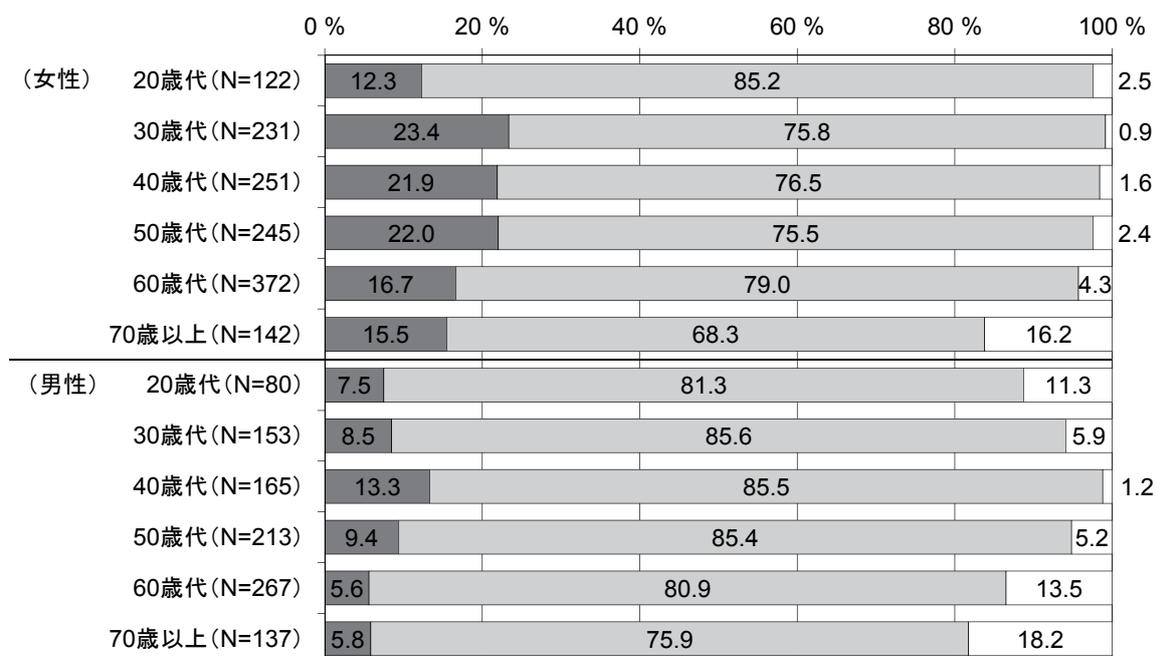
■精神的な暴力・社会的な暴力「したことがある」 □精神的な暴力・社会的な暴力「したことがない」 □不明

【性別×年代別】

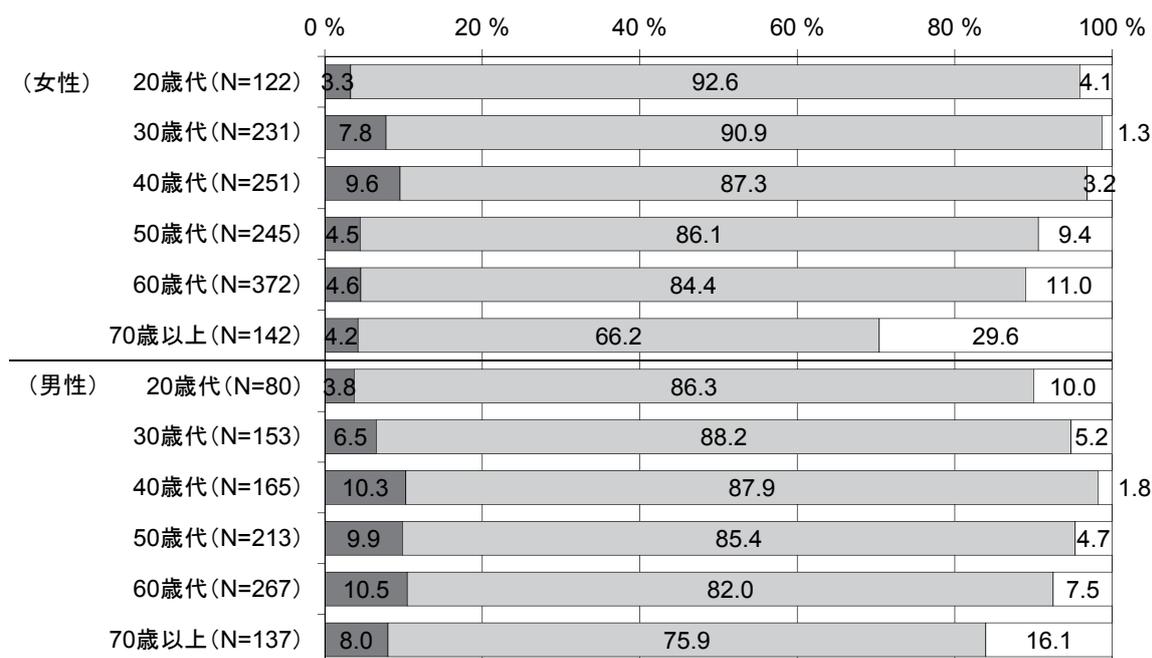
- 「されたことがある」はすべての年代で女性が高く、女性 30～50 歳代が比較的高い
- 「したことがある」は男女とも年代による大きな差は見られない

「されたことがある」は女性 30 歳代（23.4%）が最も高くなっています。女性 30～50 歳代はいずれも 2 割以上で比較的高く、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は女性 40 歳代と男性 40～60 歳代が約 1 割で若干高くなっていますが、男女とも年代による大きな差は見られません。



■ 精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがある」 □ 精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがない」 □ 不明



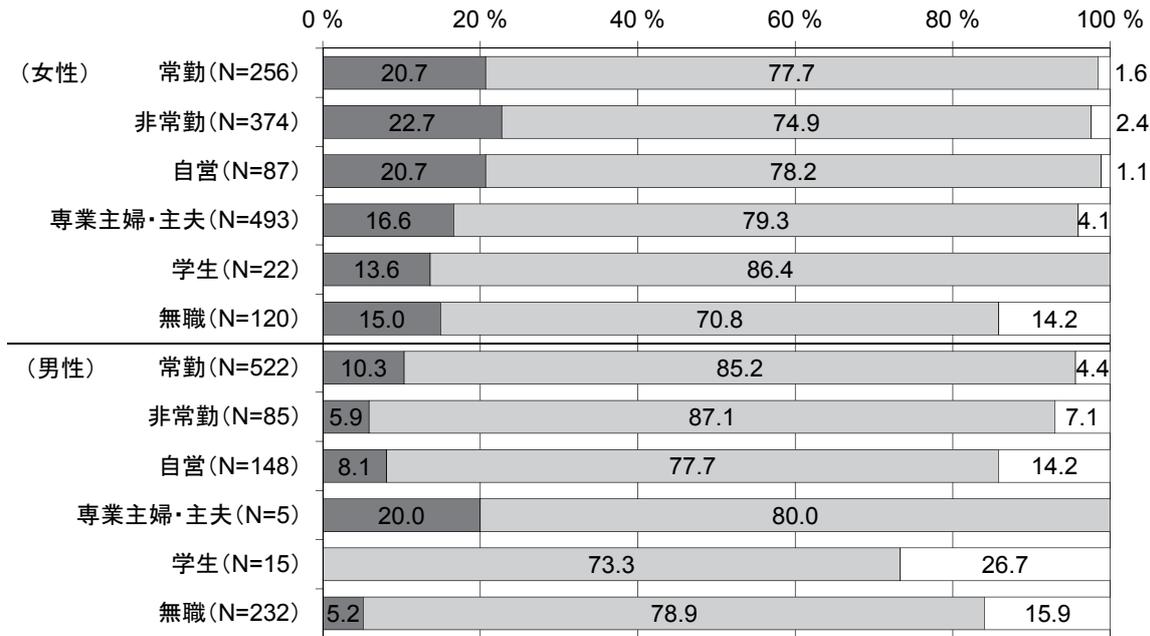
■ 精神的な暴力・社会的な暴力「したことがある」 □ 精神的な暴力・社会的な暴力「したことがない」 □ 不明

【性別×職業別】

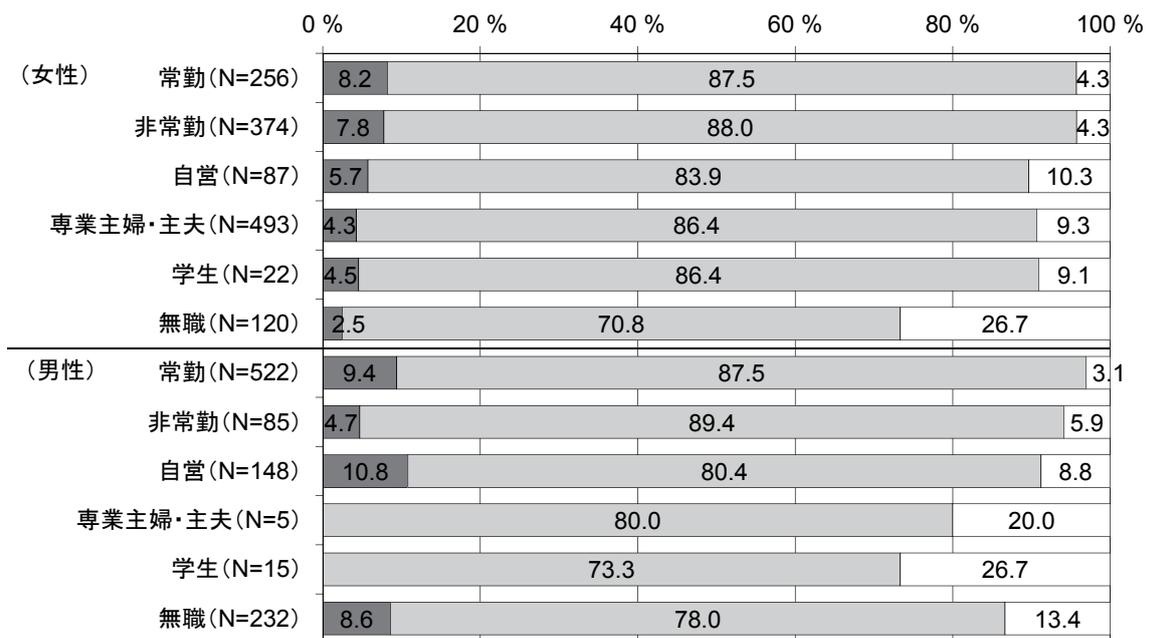
- 「されたことがある」はすべての職業で女性が高い
- 「したことがある」は男女とも職業による大きな差は見られない

「されたことがある」は女性非常勤(22.7%)が最も高く、女性常勤・自営(ともに20.7%)も2割以上となっています。また、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性自営(10.8%)が若干高くなっていますが、男女とも職業による大きな差は見られません。



■精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがある」 □精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがない」 □不明



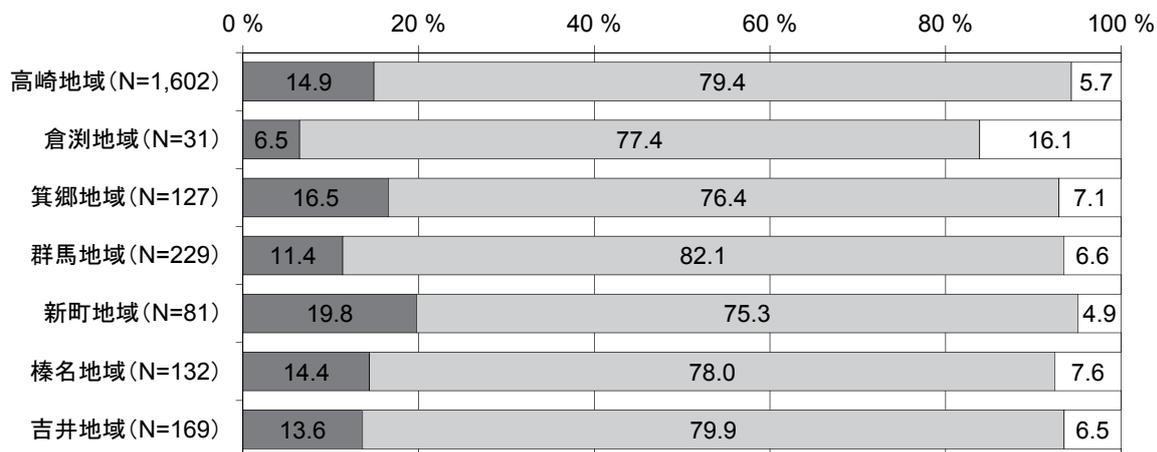
■精神的な暴力・社会的な暴力「したことがある」 □精神的な暴力・社会的な暴力「したことがない」 □不明

【地域別】

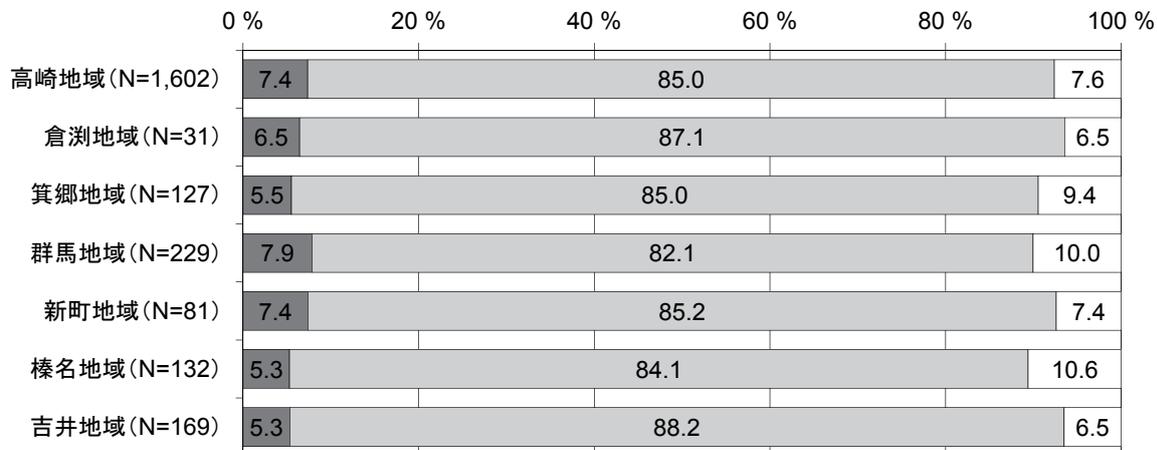
- 「されたことがある」は新町地域が約2割で最も高い
- 「したことがある」は地域による大きな差は見られない

「されたことがある」は新町地域（19.8%）が約2割で最も高くなっています。また、倉渕地域（6.5%）が特に低くなっています。

一方、「したことがある」は地域による大きな差は見られません。



■精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがある」 □精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがない」 □不明



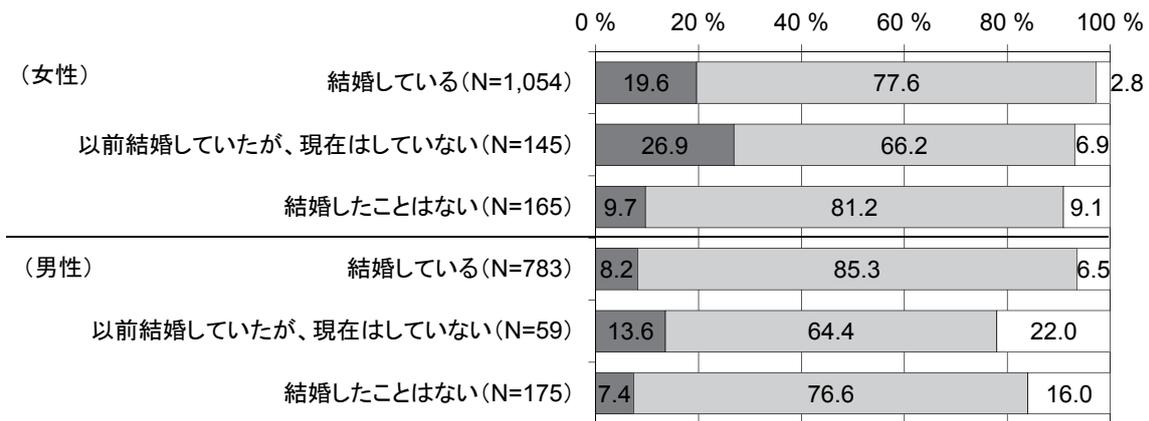
■精神的な暴力・社会的な暴力「したことがある」 □精神的な暴力・社会的な暴力「したことがない」 □不明

【性別×結婚経験別】

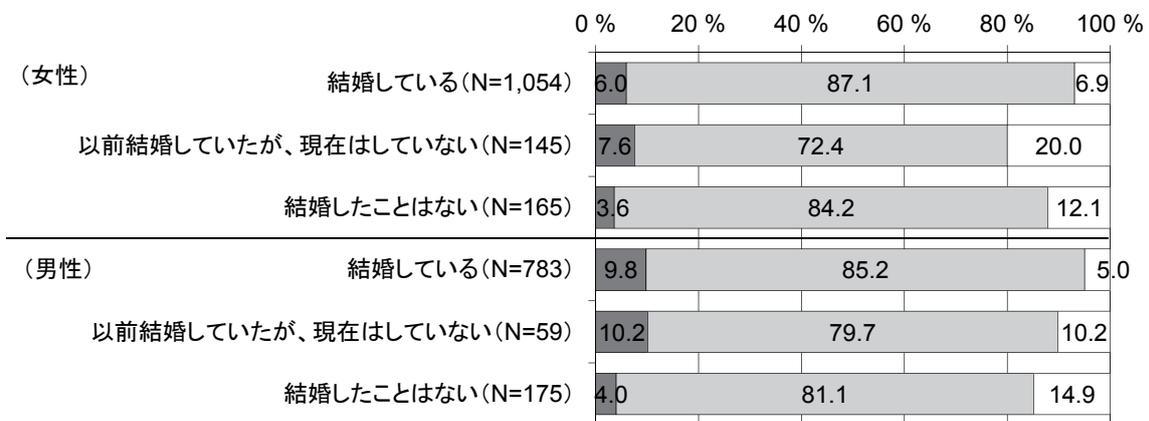
- 「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」が約3割で高い
- 「したことがある」は男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」が約1割で比較的高い

「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」(26.9%)が約3割で高くなっています。また、女性「結婚している」(19.6%)も比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」(それぞれ9.8%、10.2%)が約1割で比較的高くなっています。



■精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがある」 □精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがない」 □不明



■精神的な暴力・社会的な暴力「したことがある」 □精神的な暴力・社会的な暴力「したことがない」 □不明

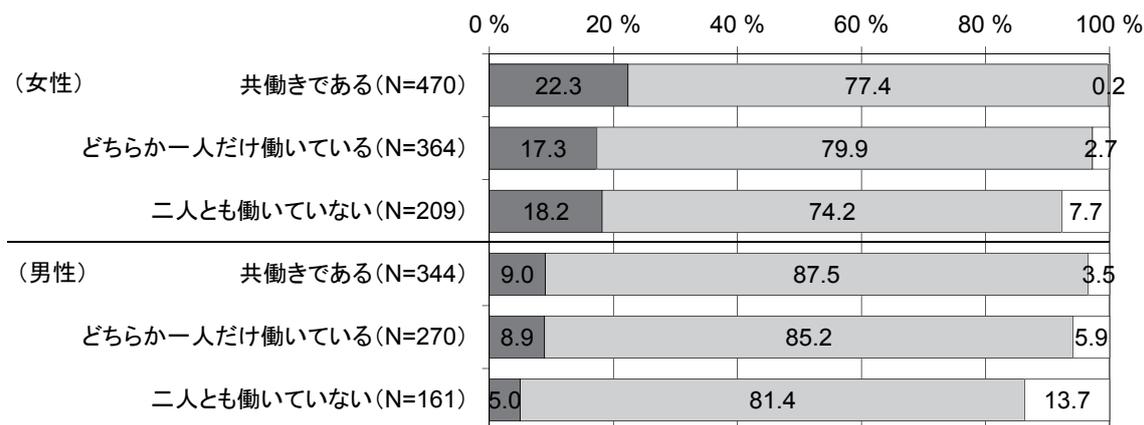
【性別×働き方別】

- 「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高く、女性「共働き」は2割以上で比較的高い

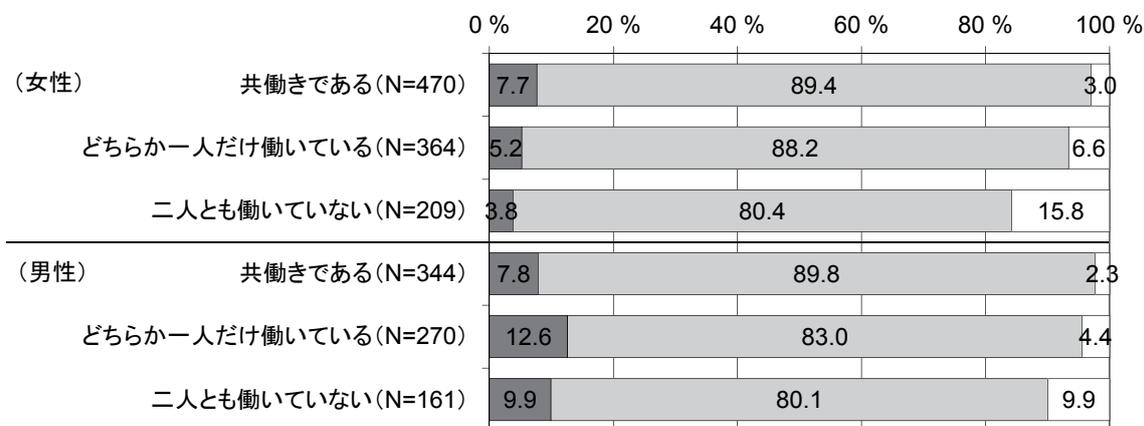
- 「したことがある」は働き方にかかわらず男性が高い

「されたことがある」は女性「共働きである」(22.3%)が比較的高く、結婚経験にかかわらず女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性「どちらか一人だけ働いている」(12.6%)が比較的高く、働き方にかかわらず男性が比較的高くなっています。



■精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがある」 □精神的な暴力・社会的な暴力「されたことがない」 □不明

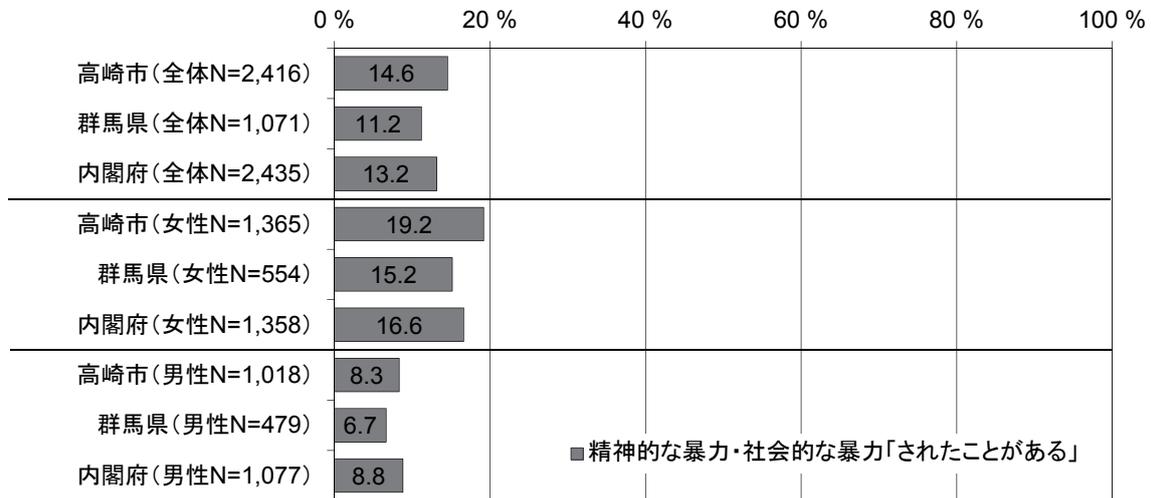


■精神的な暴力・社会的な暴力「したことがある」 □精神的な暴力・社会的な暴力「したことがない」 □不明

【性別×他調査との比較】

- 「されたことがある」は男女とも群馬県より若干高く、国と同程度
- 「したことがある」は男女とも群馬県と同程度

「されたことがある」は男女とも群馬県より若干高く、内閣府と同程度になっています。  
一方、「したことがある」は男女とも群馬県と同程度になっています。

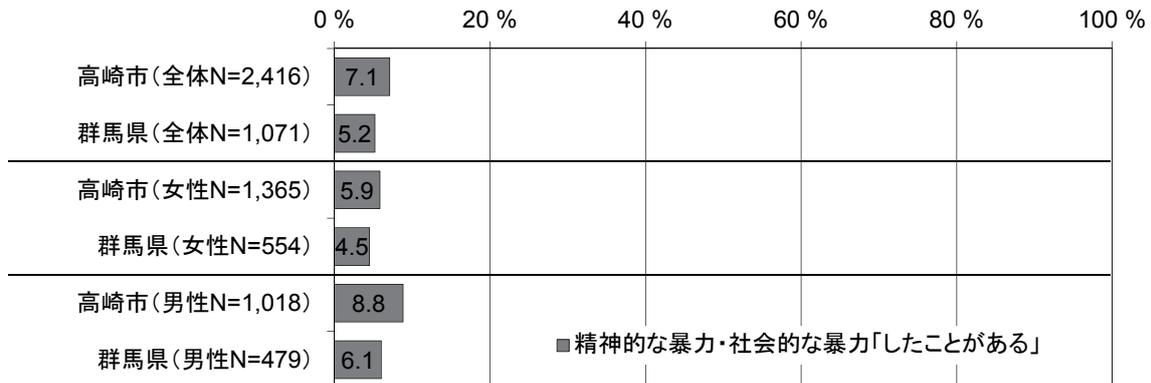


※「ある」のみを表示

※「群馬県」は「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた」

※「内閣府」は「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」

※「群馬県」「内閣府」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示



※「ある」のみを表示

※「群馬県」は「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせをした」

※「群馬県」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示

③性的な暴力

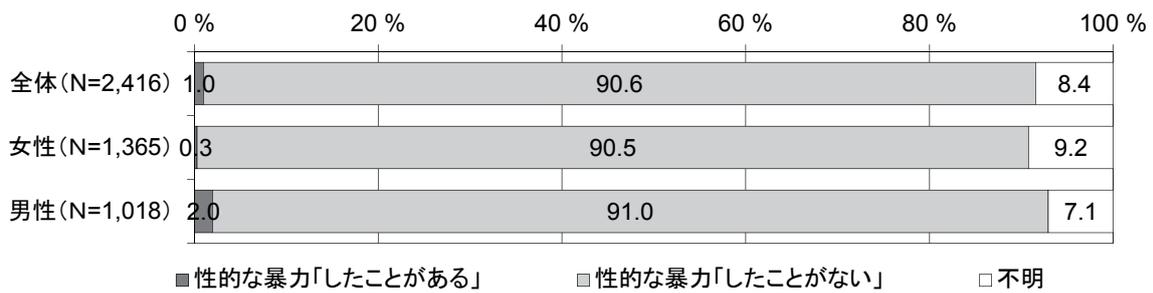
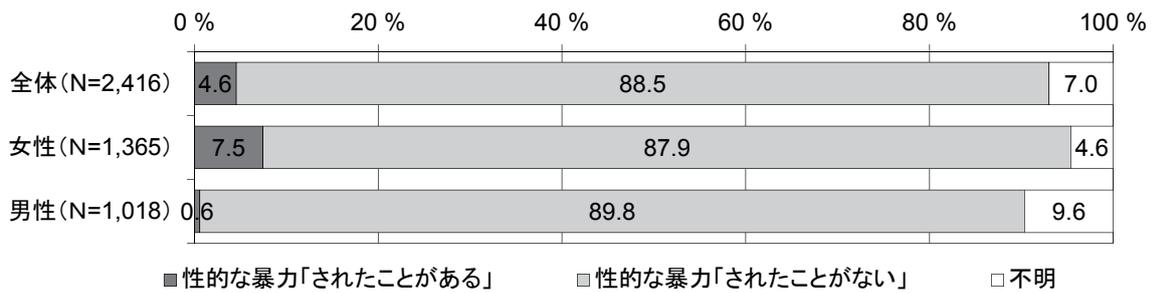
(相手がいやがっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要等)

【全体・性別】

- 「されたことがある」は女性が約1割、男性はほとんど見られない
- 「したことがある」は男女ともほとんど見られない

「されたことがある」は男性（0.6%）ではほとんど見られませんが、女性（7.5%）は約1割となっています。

一方、「したことがある」は男女ともほとんど見られません。

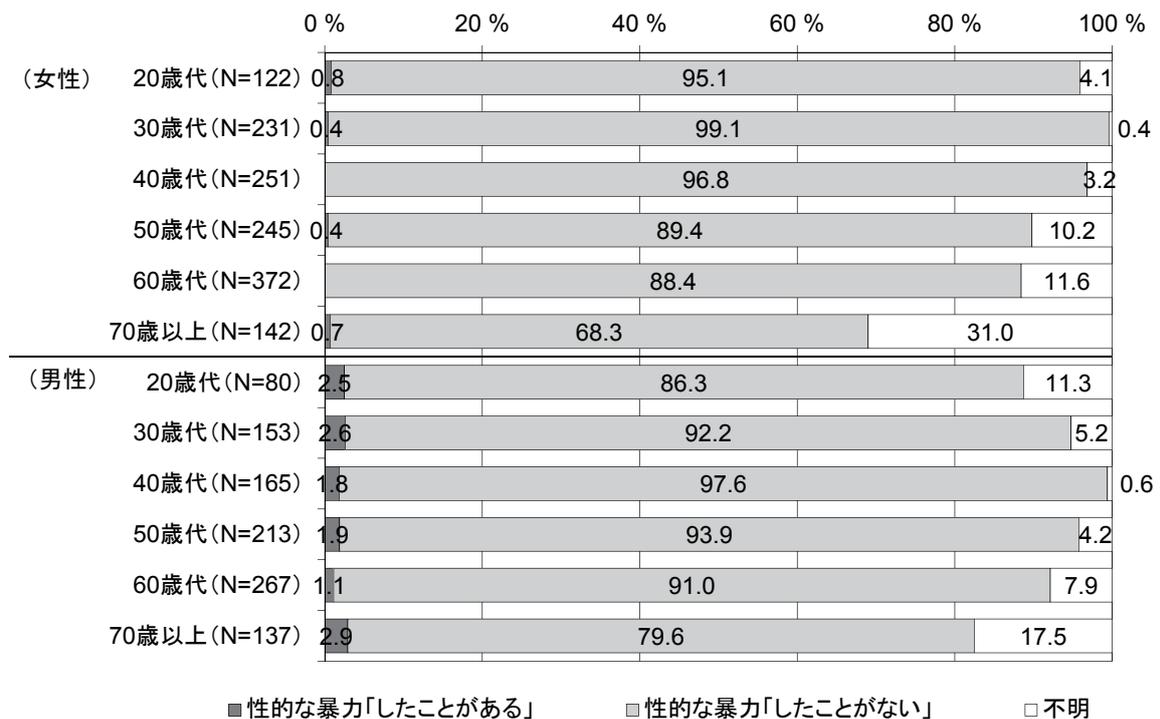
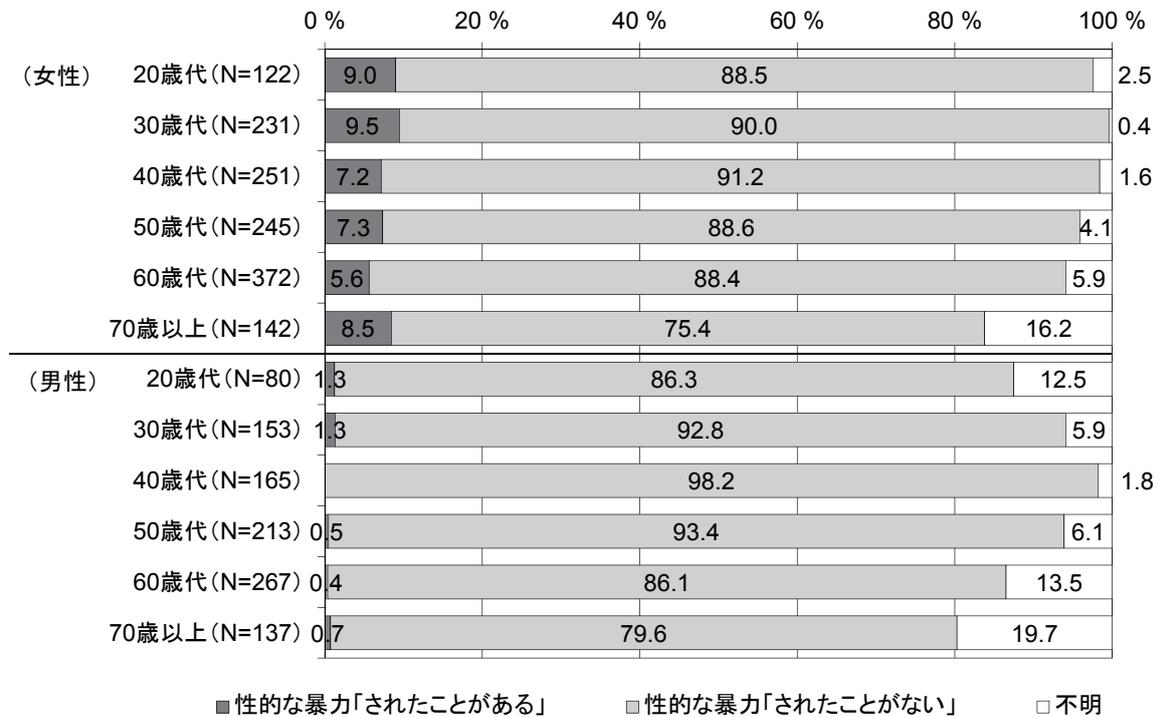


【性別×年代別】

- 「されたことがある」はすべての年代で女性約1割、男性はほとんど見られない
- 「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」はすべての年代で女性は約1割見られますが、男性ではほとんど見られません。

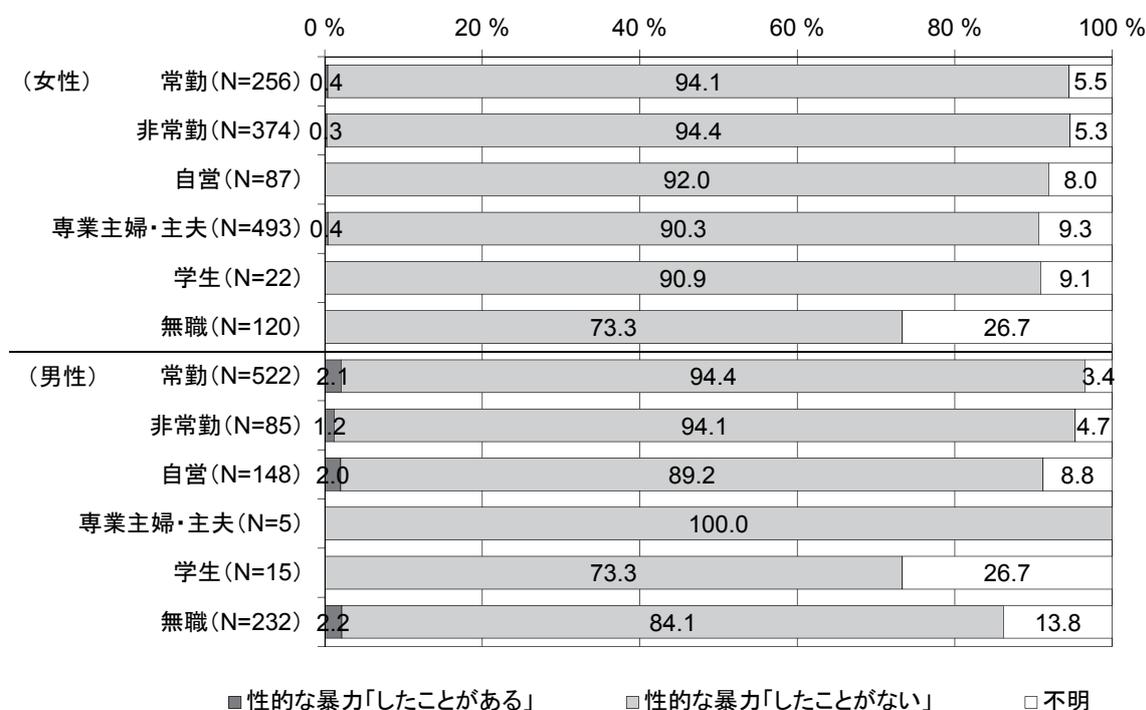
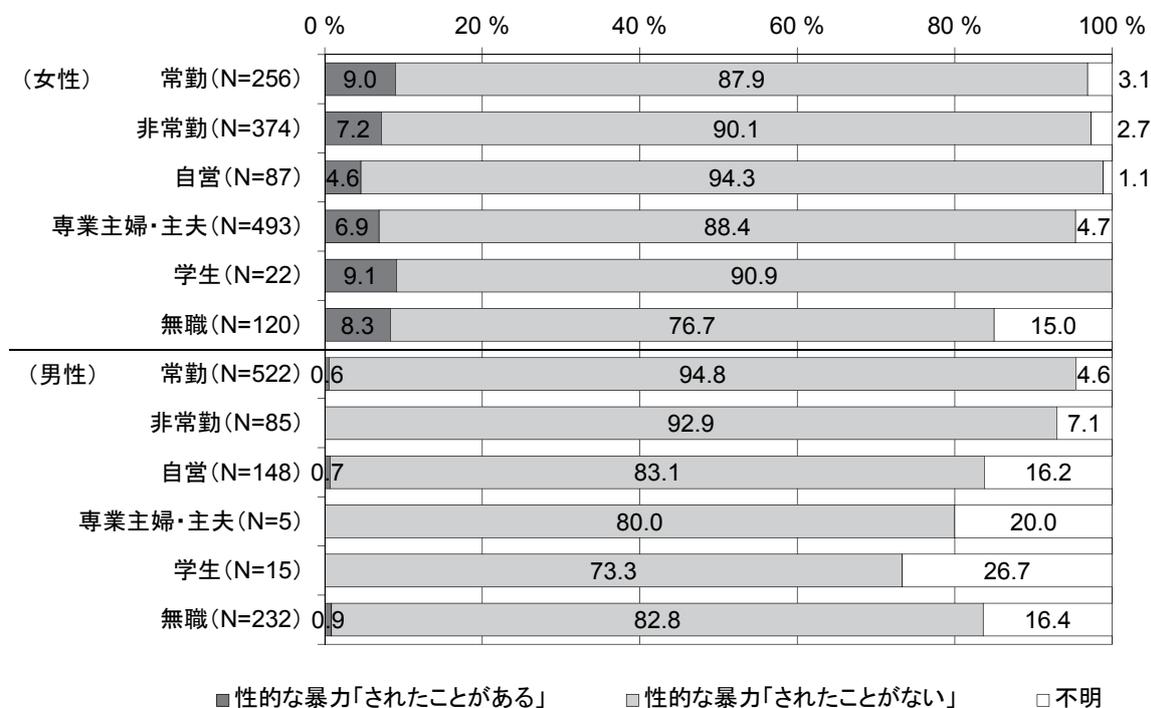
一方、「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られません。



【性別×職業別】

- 「されたことがある」はすべての職業で女性が高く、男性はほとんど見られない
- 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

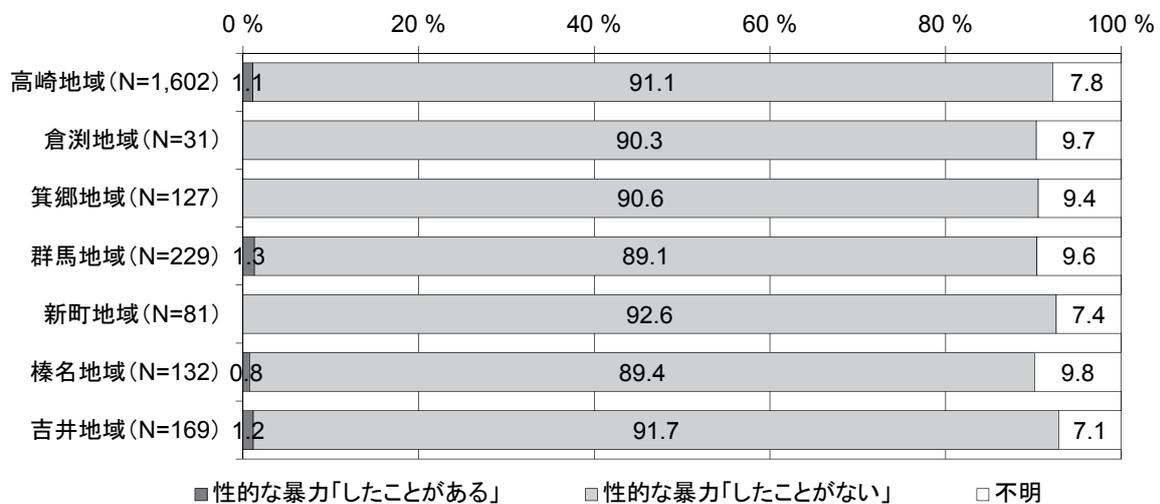
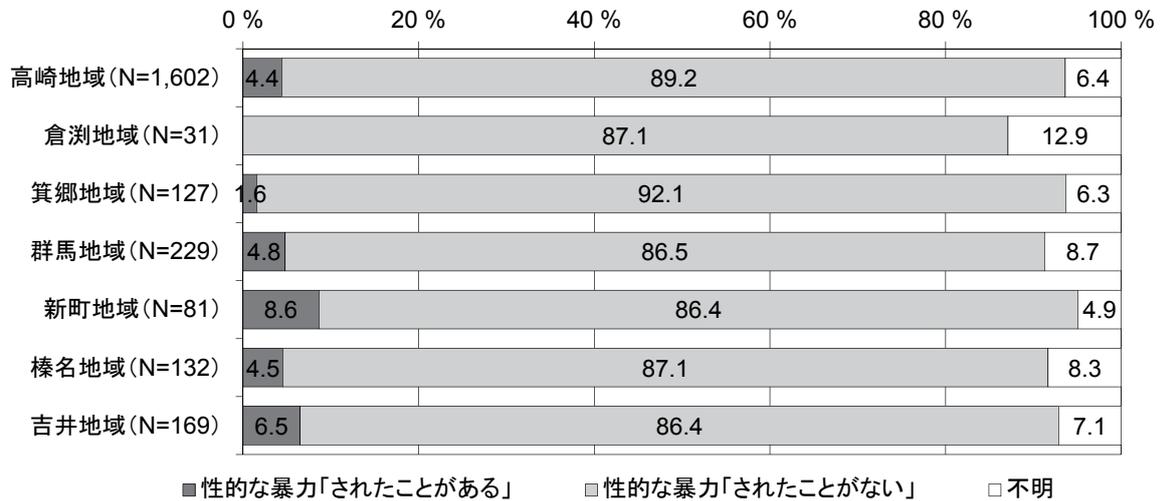
「されたことがある」はすべての職業で女性が高く、男性はほとんど見られません。  
 一方、「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られません。



【地域別】

- 「されたことがある」は新町地域が約1割で最も高い
- 「したことがある」はすべての地域でほとんど見られない

「されたことがある」は新町地域（8.6%）が約1割で最も高くなっています。  
一方、「したことがある」はすべての地域でほとんど見られません。



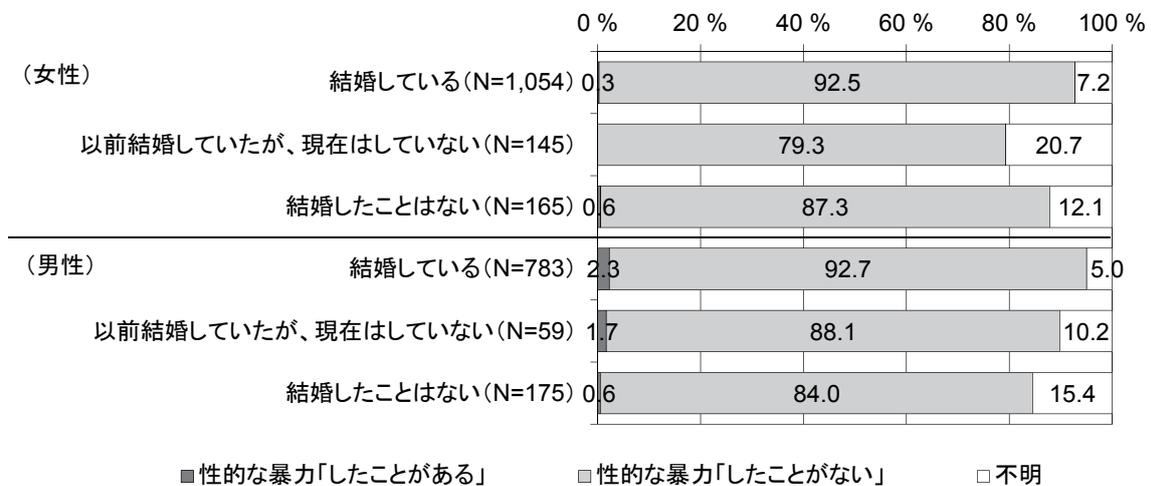
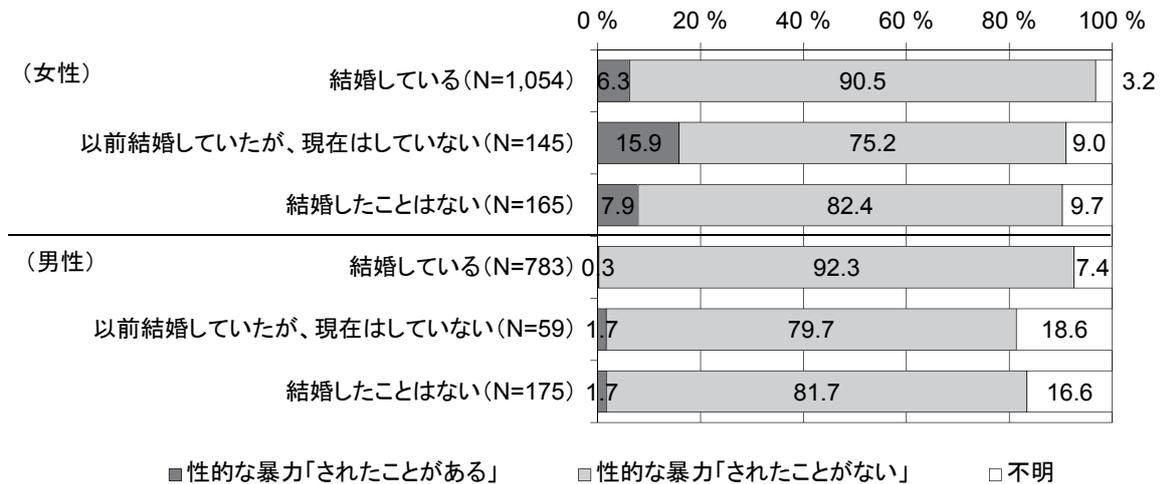
【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」が1割以上で特に高い

- 「したことがある」は男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」(15.9%)が1割以上で特に高く、結婚経験にかかわらず女性が高くなっています。

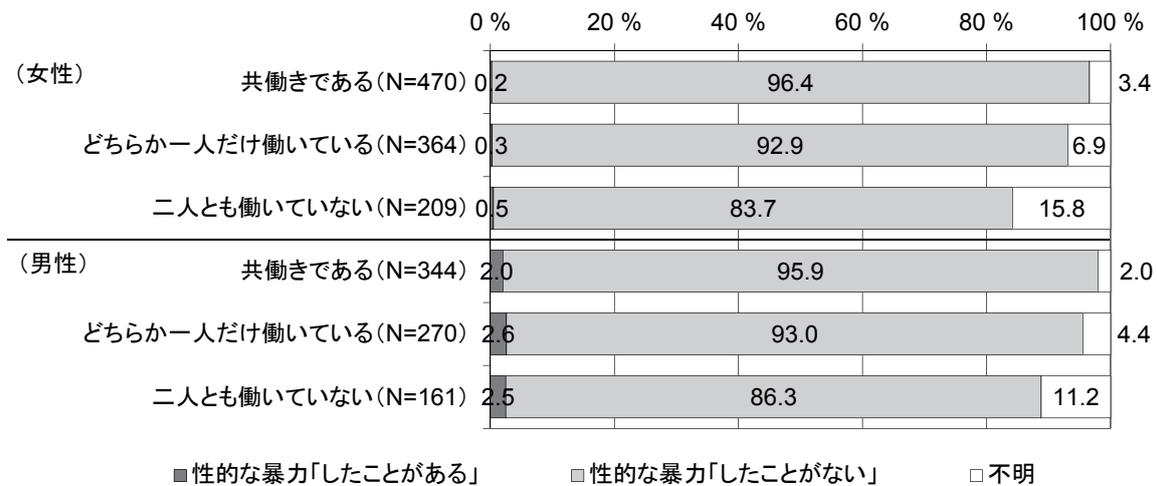
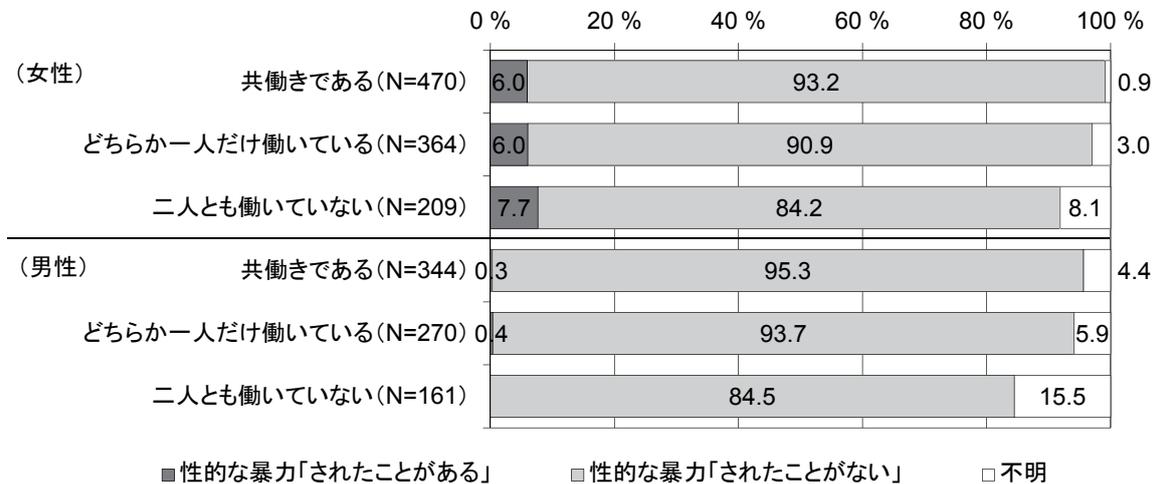
一方、「したことがある」は男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られません。



【性別×働き方別】

- 「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高く、男性はほとんど見られない
- 「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高く、男性はほとんど見られません。  
一方、「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。

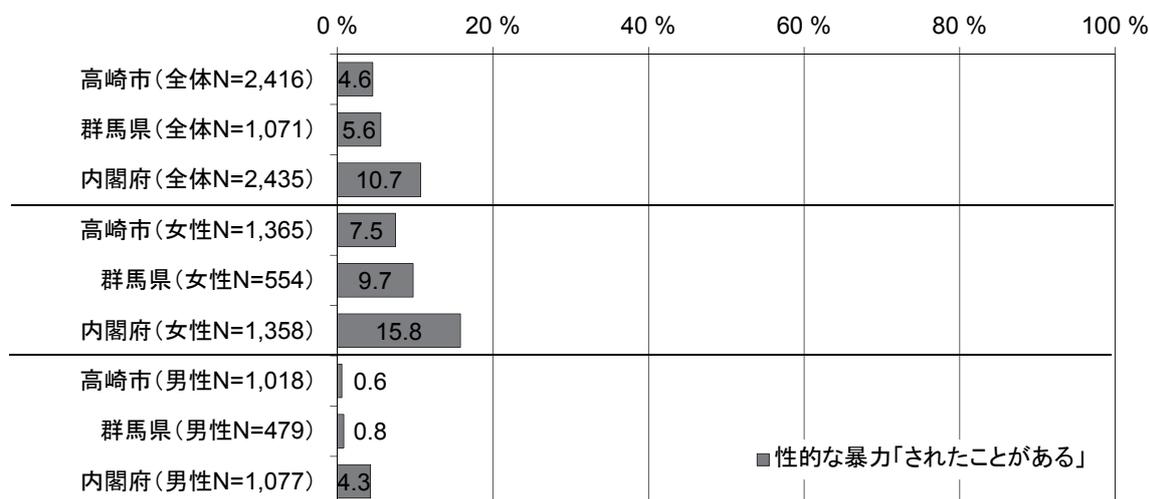


【性別×他調査との比較】

- 「されたことがある」は男女とも国より低く、群馬県より女性は低く、男性は同程度
- 「したことがある」は男女とも群馬県と同程度

「されたことがある」は、女性は群馬県や内閣府より低くなっています。男性は内閣府より低く、群馬県と同程度になっています。

一方、「したことがある」は男女とも群馬県と同程度になっています。



※「ある」のみを表示

※「群馬県」「内閣府」は「いやがっているのに性的な行為を強要された」

※「群馬県」「内閣府」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示



※「ある」のみを表示

※「群馬県」「内閣府」は「いやがっているのに性的な行為を強要した」

※「群馬県」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示

④経済的な暴力

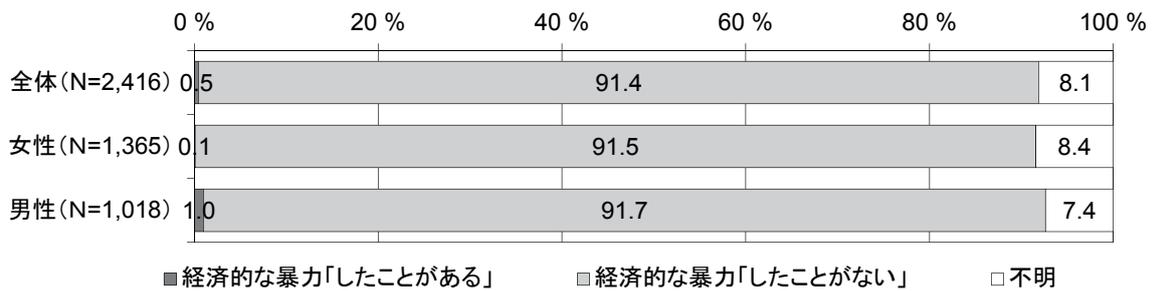
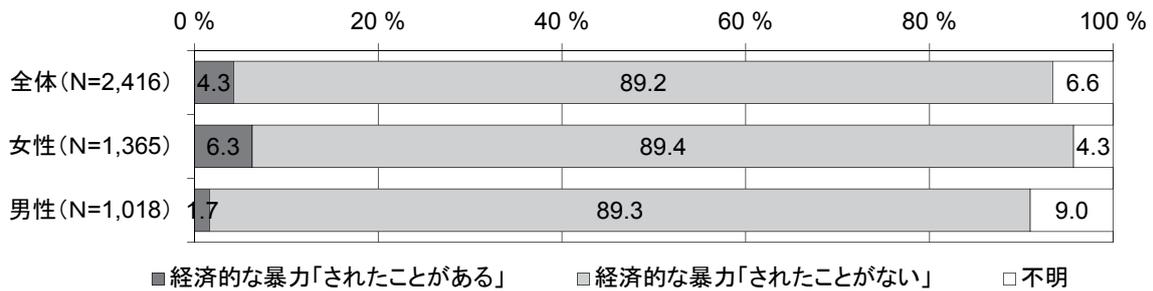
(生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等)

【全体・性別】

- 「されたことがある」は男女とも1割未満
- 「したことがある」は男女ともほとんど見られない

「されたことがある」は女性(6.3%)が若干高くなっていますが、男女とも1割未満であり、性別による大きな差は見られません。

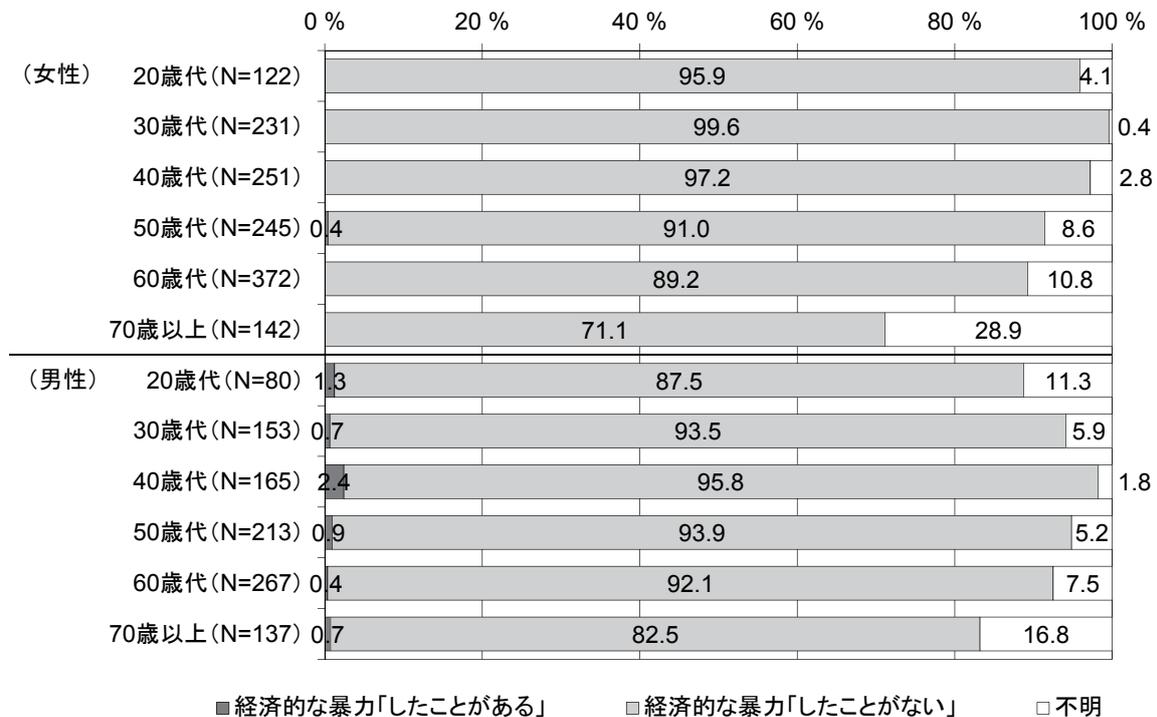
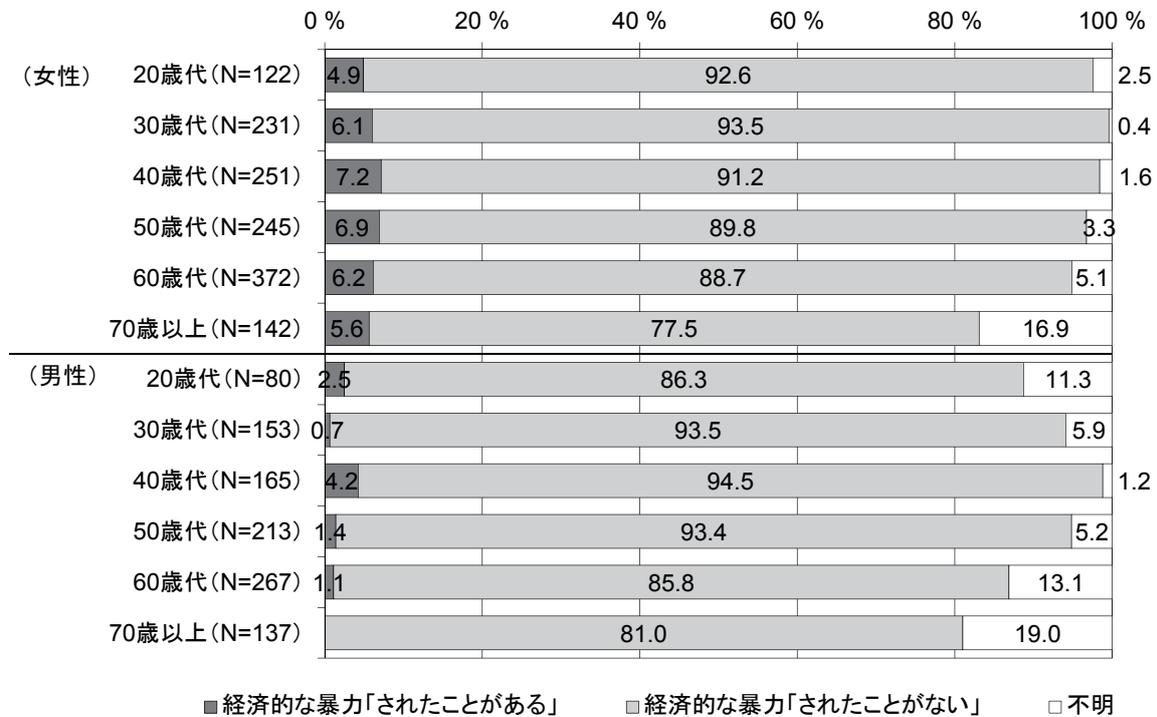
一方、「したことがある」は男女ともほとんど見られません。



【性別×年代別】

- 「されたことがある」はすべての年代で女性が高い
- 「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」はすべての年代で女性が高くなっています。  
 一方、「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られません。

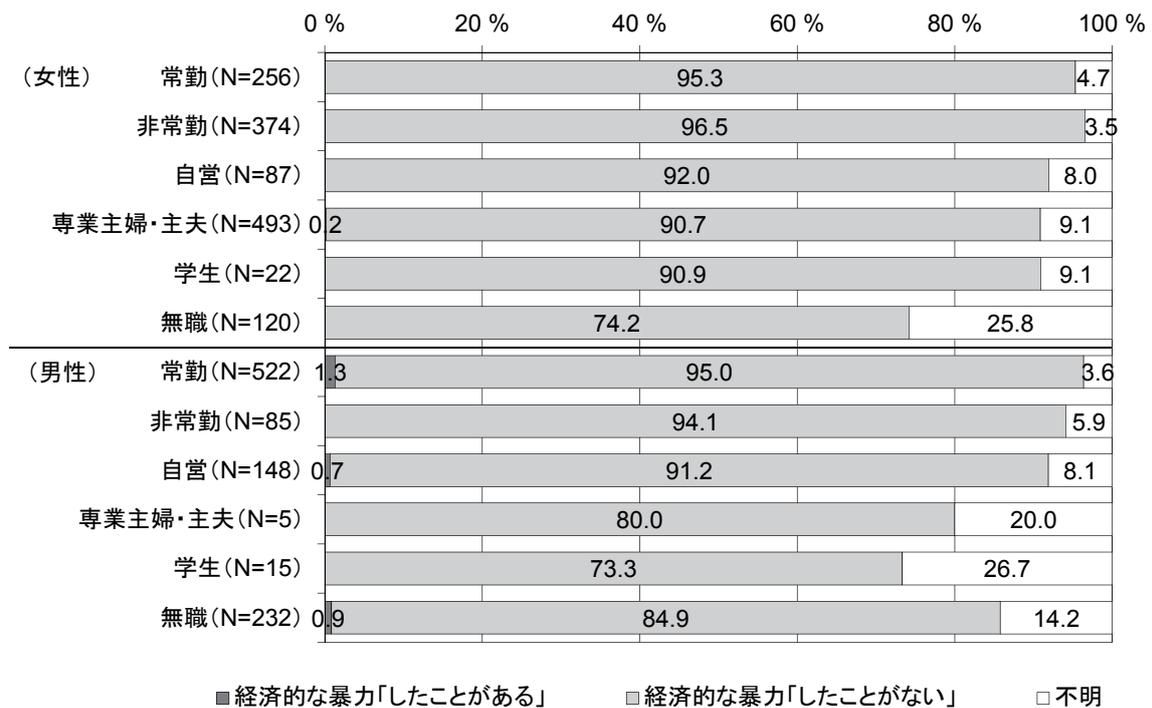
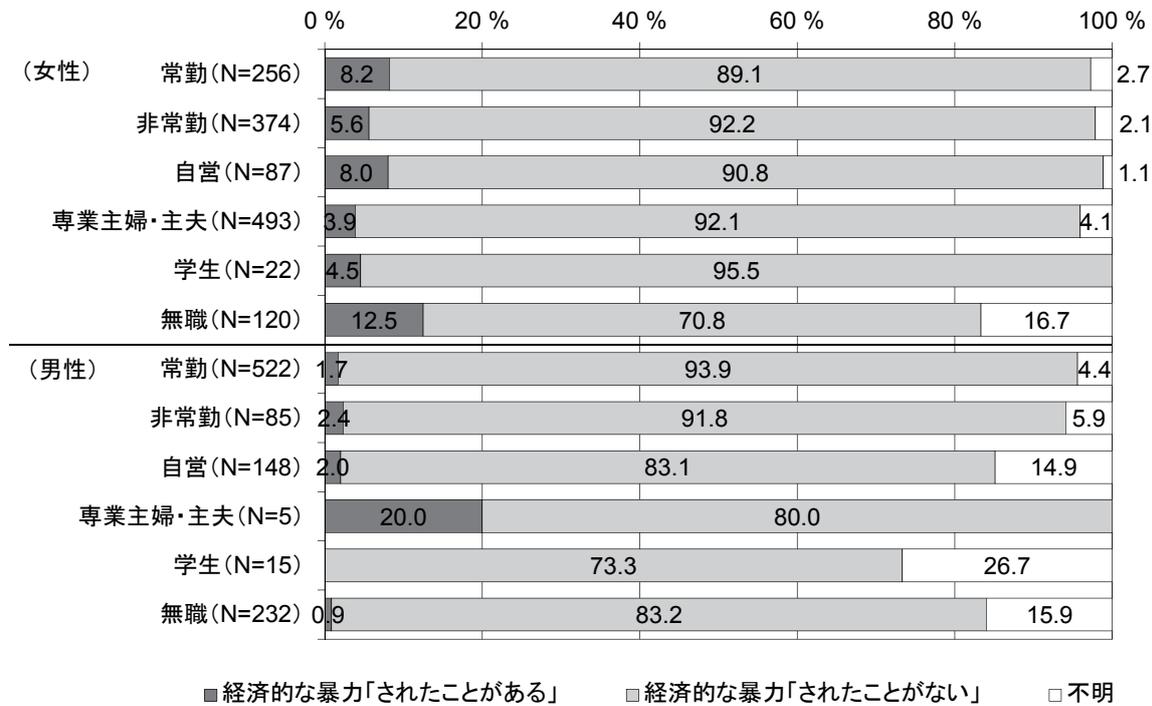


【性別×職業別】

- 「されたことがある」はすべての職業で女性が高く、女性無職が比較的高い
- 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

「されたことがある」は、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、女性無職（12.5%）が最も高く、すべての職業で女性が高くなっています。

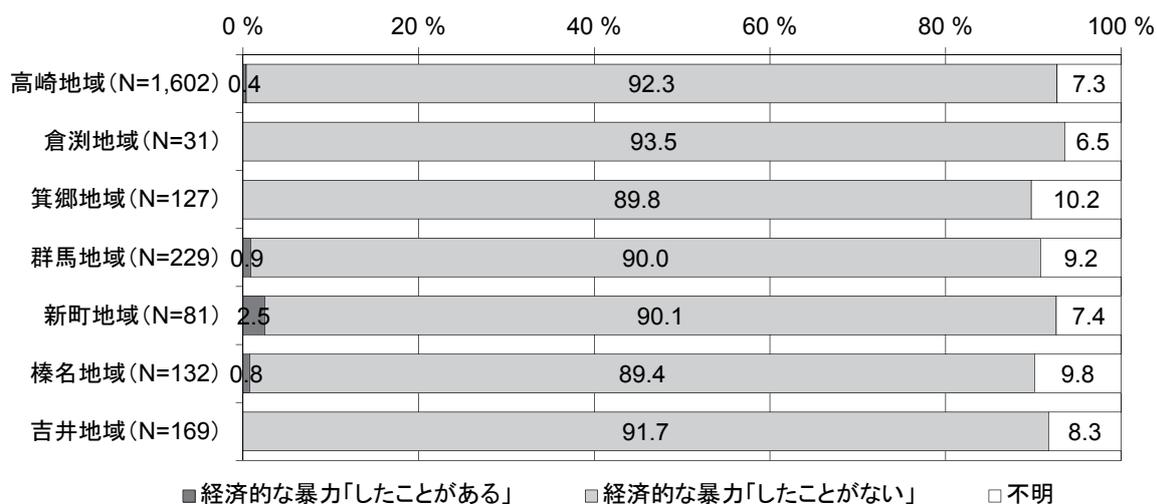
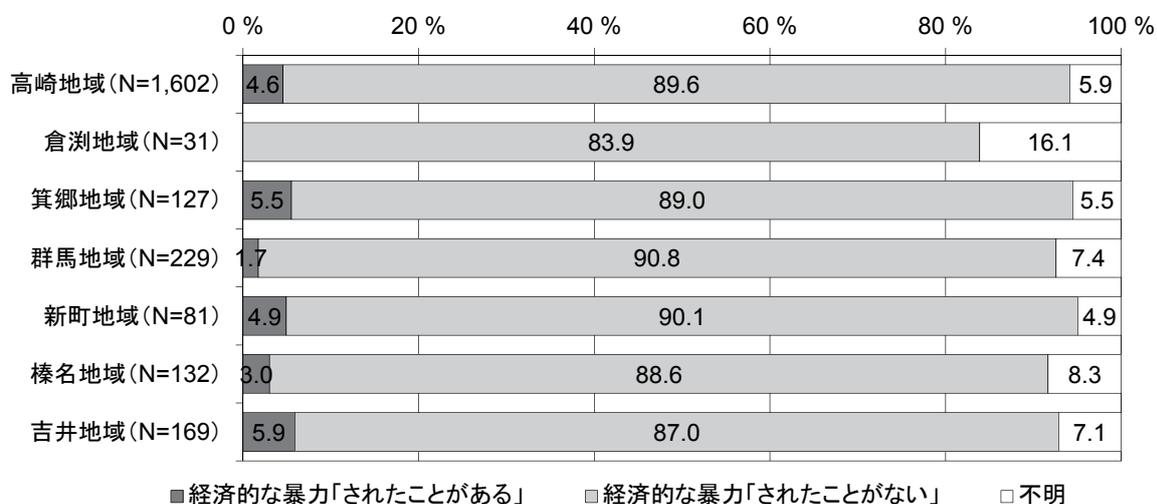
一方、「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られません。



【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに地域による大きな差は見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、地域による大きな差は見られません。

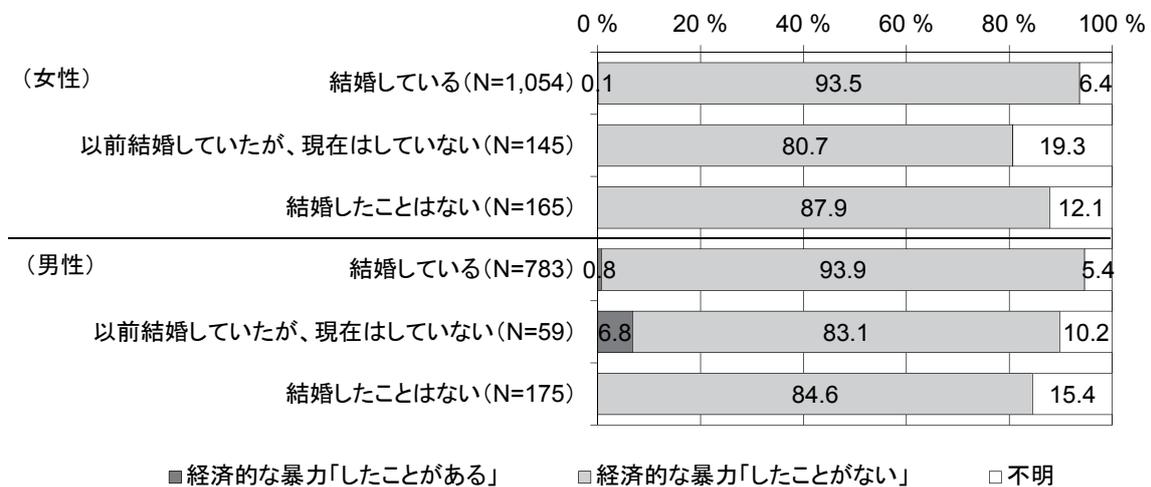
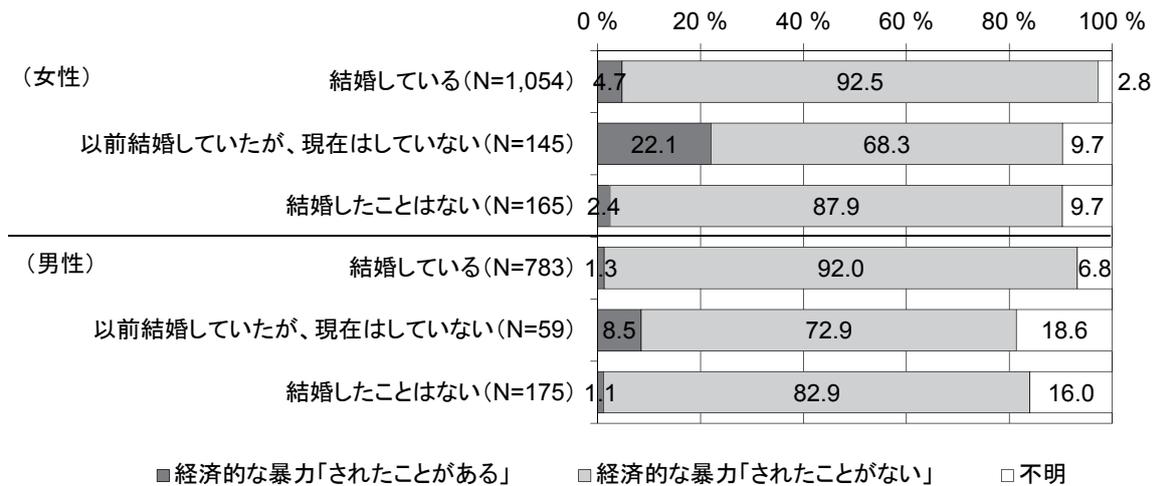


【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」が2割以上で特に高い
- 「したことがある」は男性「以前結婚していたが、現在はしていない」が約1割で比較的高い

「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」(22.1%)が2割以上で特に高く、結婚経験にかかわらず女性が高くなっています。

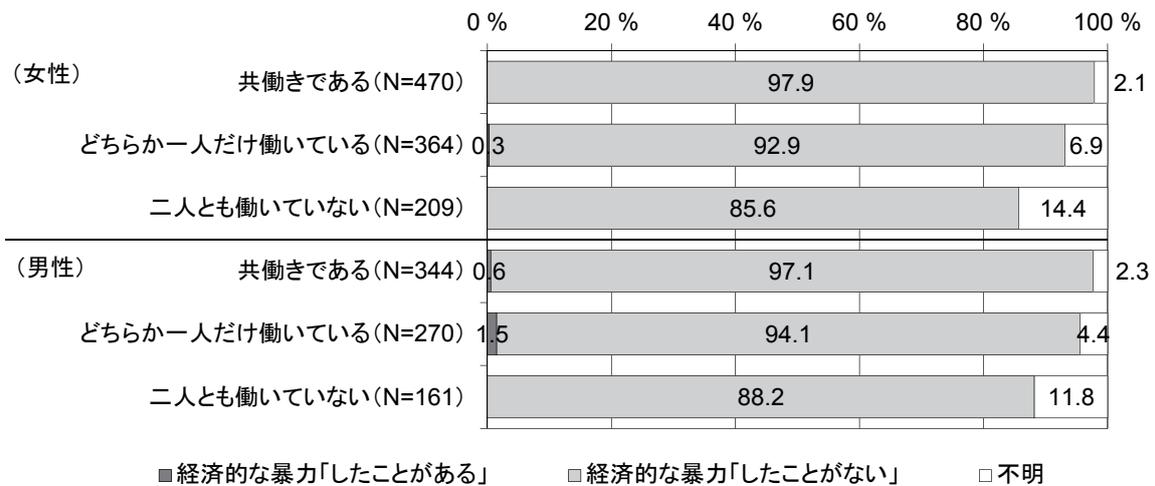
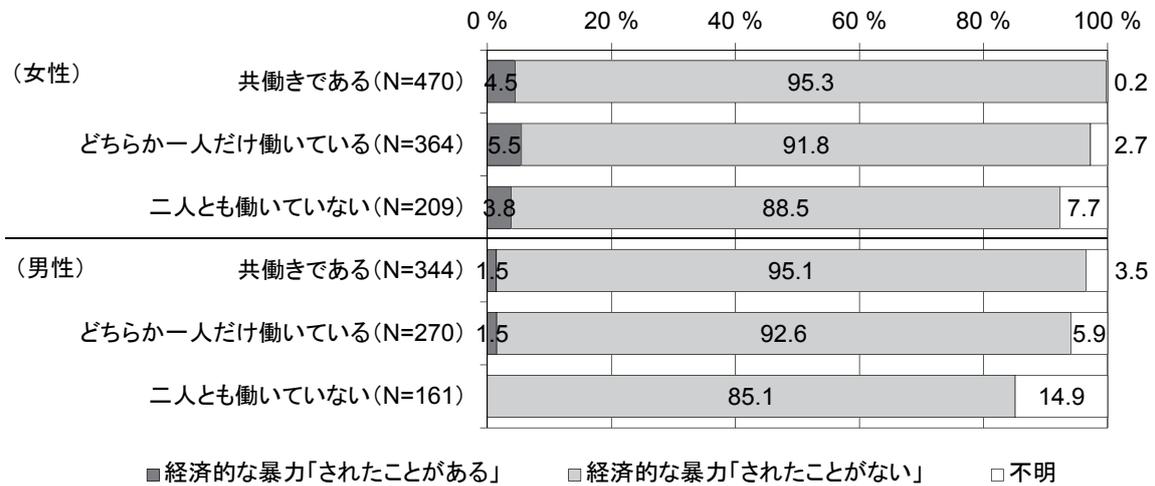
一方、「したことがある」は男性「以前結婚していたが、現在はしていない」(6.8%)が約1割で比較的高く、これを除き男女ともほとんど見られません。



【性別×働き方別】

- 「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高く、男性はほとんど見られない
- 「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高く、男性はほとんど見られません。  
一方、「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。



【性別×他調査との比較】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも群馬県と同程度

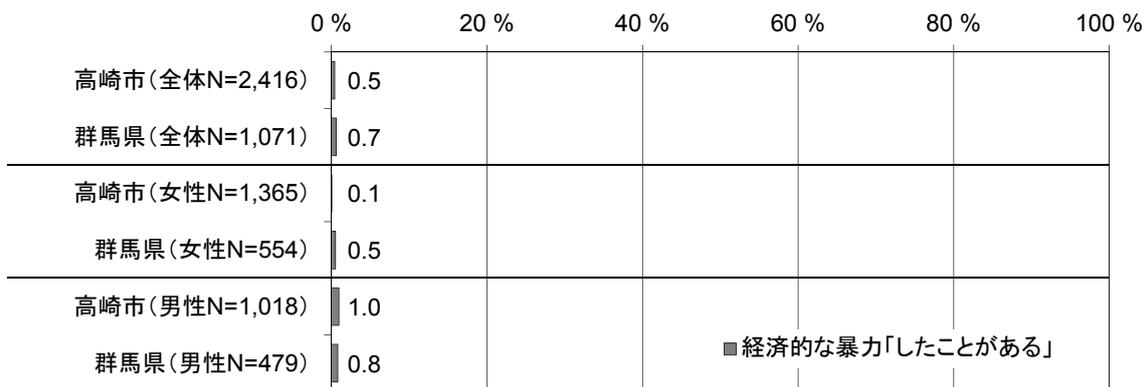
「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも群馬県、内閣府と同程度になっています。



※「ある」のみを表示

※「群馬県」は「生活費を入れないなど、経済的な暴力を受けた」

※「群馬県」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示



※「ある」のみを表示

※「群馬県」は「生活費を入れないなど、経済的な暴力をした」

※「群馬県」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示

複数種類の被害・加害の状況（ひとつでも被害・加害経験がある場合）

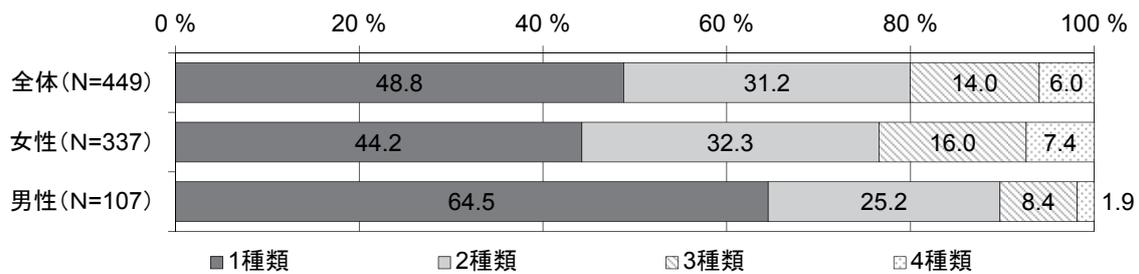
【全体・性別】

- 「されたことがある」は1種類が女性約4割、男性約6割
- 「したことがある」は1種類が女性約7割、男性約6割
- 3種類「されたことがある」は女性が約2割で比較的高い
- 女性は5割以上、男性は3割以上が複数種類の被害経験あり
- 女性は約3割、男性は約4割が複数種類の加害経験あり

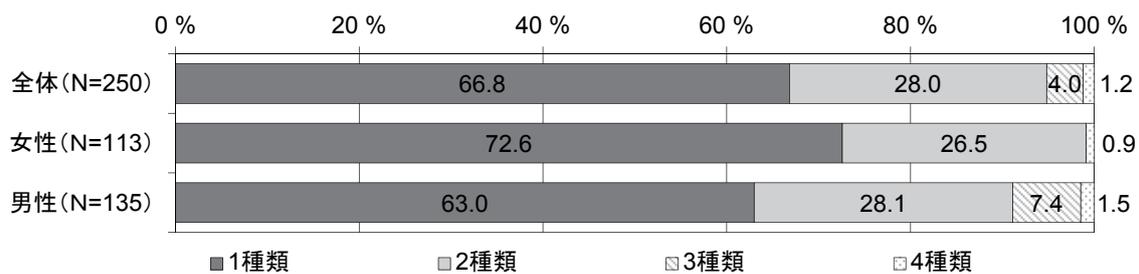
1種類でも「されたことがある」または「したことがある」場合の種類数を見ると、「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも1種類（「されたことがある」女性44.2%、男性64.5%、「したことがある」女性72.6%、男性63.0%）が最も高くなっています。次いで「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも2種類が比較的高くなっています。また、「されたことがある」では、女性は3種類（16.0%）も約2割と比較的高くなっています。

これらをあわせると、女性の55.7%、男性の35.5%が複数種類の被害経験、女性の27.4%、男性の37.0%が複数種類の加害経験があるといえます。

「されたことがある」種類数



「したことがある」種類数

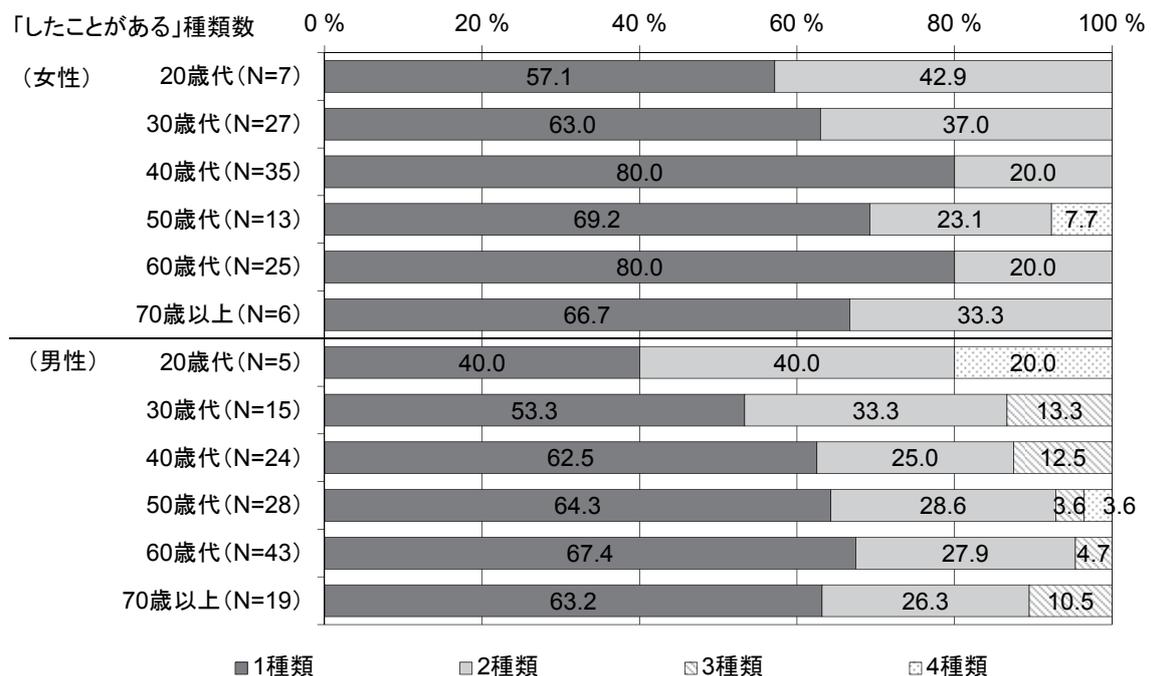
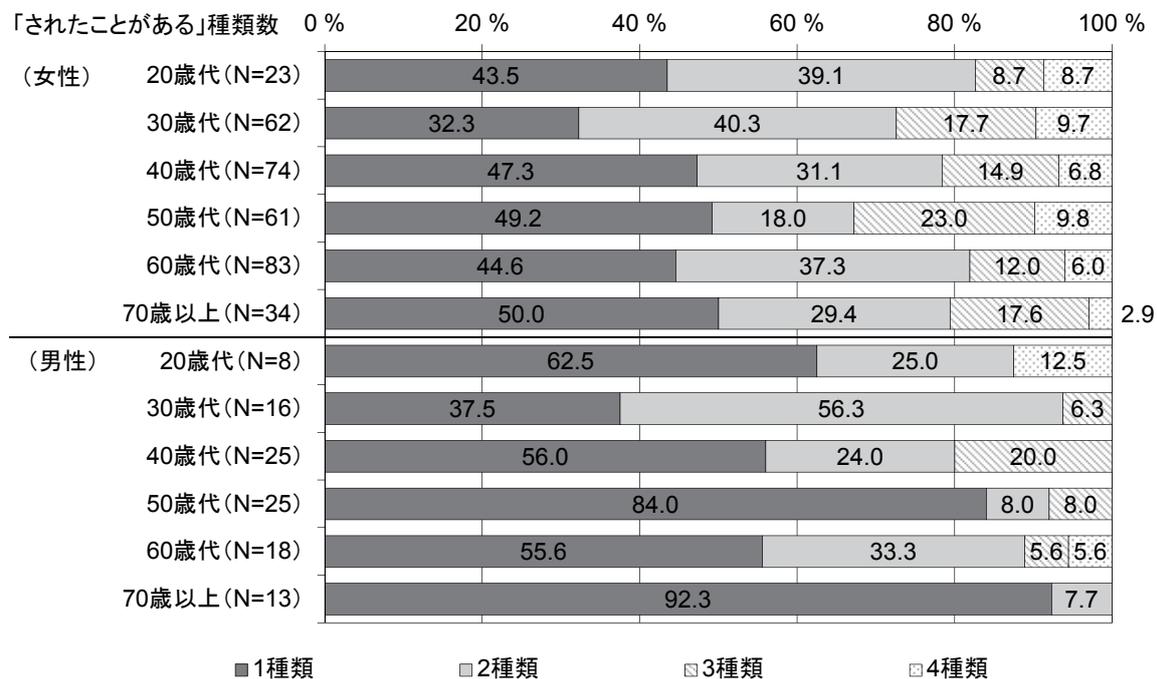


【性別×年代別】

- 「されたことがある」は男女とも30歳代は2種類、それ以外は1種類が最も高い
- 30歳代は複数種類の被害経験が女性約7割、男性6割以上
- 「したことがある」は男女ともすべての年代で1種類が最も高い

回答者数が少ない男性20歳代を除くと、「されたことがある」は、男女とも30歳代を除くすべての年代で1種類が最も高く、30歳代は2種類（女性40.3%、男性56.3%）が最も高くなっています。複数種類の被害経験は、30歳代では女性67.7%、男性62.6%と高くなっています。また、女性50歳代や男性40歳代は3種類（それぞれ23.0%、20.0%）も比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は、回答者数が少ない男女20歳代、女性70歳以上を除くと、男女ともすべての年代で1種類が最も高くなっています。



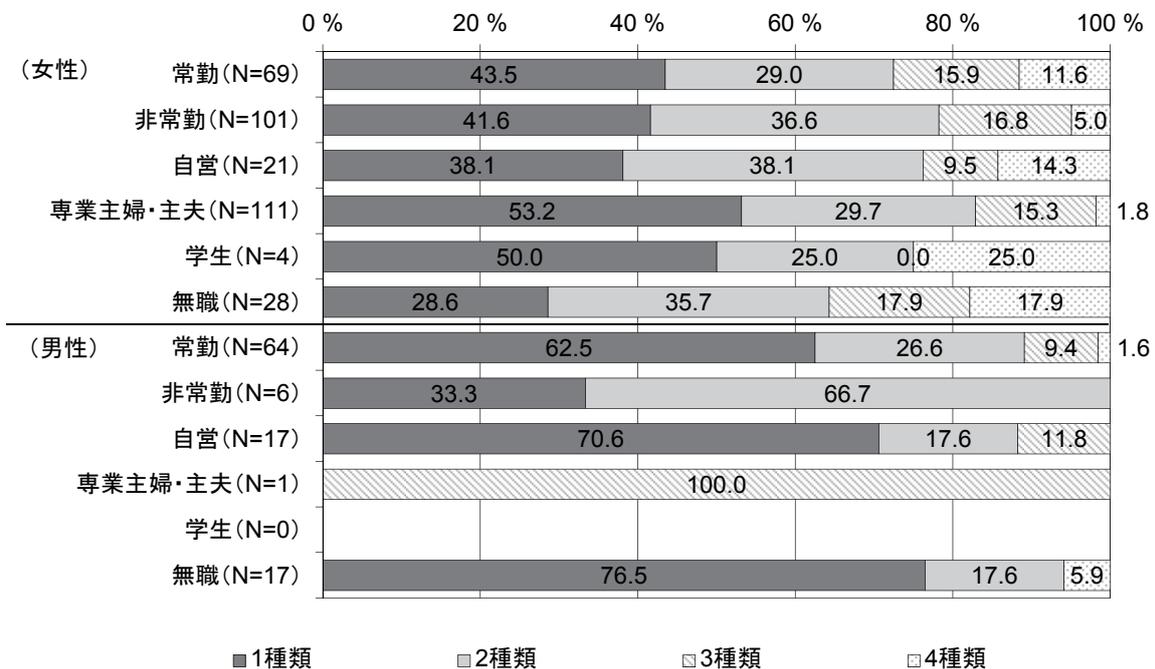
【性別×職業別】

- 「されたことがある」は女性無職を除くすべての職業で1種類が最も高い
- 「されたことがある」女性無職は2種類が最も高く、複数種類の被害経験は7割以上
- 「したことがある」は男女ともすべての職業で1種類が最も高い

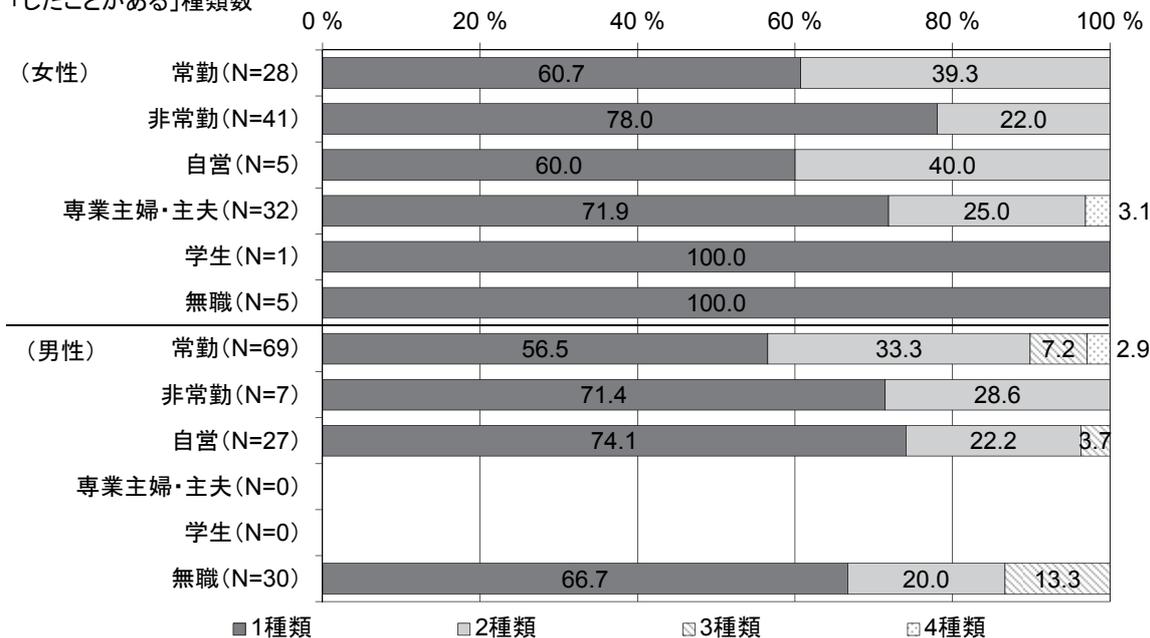
回答者数が少ない学生や男性非常勤を除くと、「されたことがある」は、女性無職を除くすべての職業で1種類が最も高くなっています。女性無職は2種類(35.7%)が最も高く、複数種類の被害経験は71.4%と高くなっています。それ以外も女性は複数種類の被害経験が約6割となっています。

一方、「したことがある」は、回答者数が少ない属性があることに留意する必要がありますが、男女ともすべての職業で1種類が最も高くなっています。

「されたことがある」種類数



「したことがある」種類数

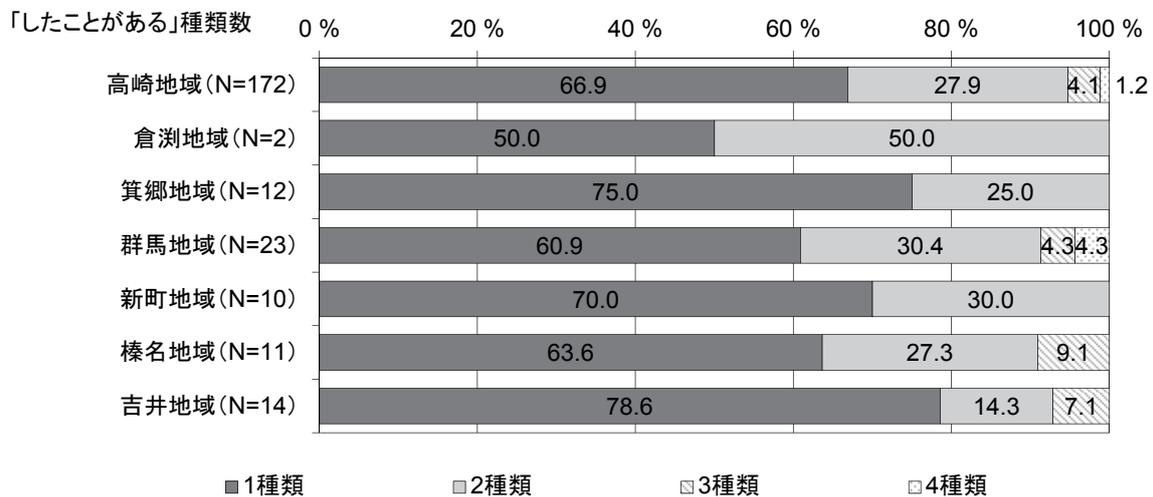
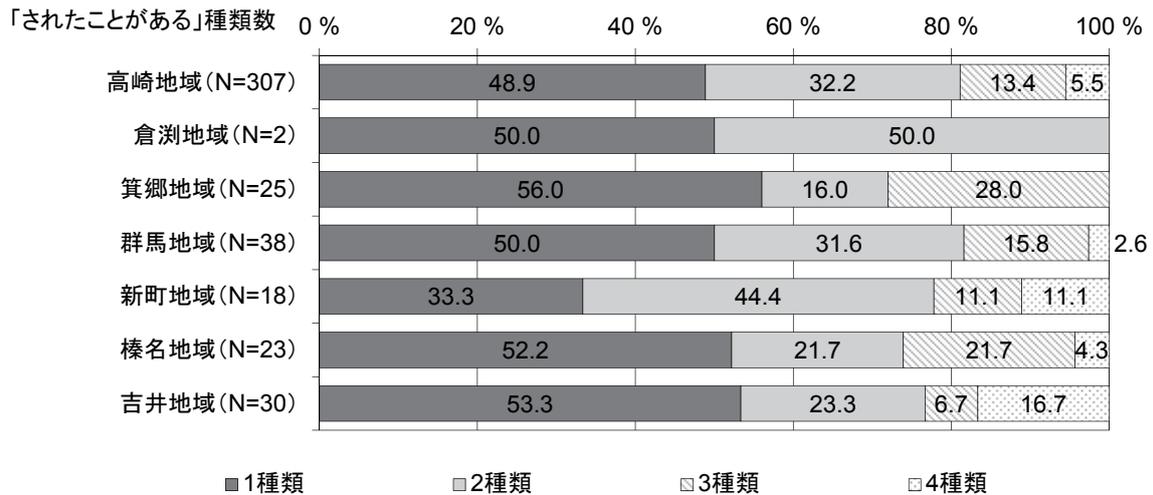


【地域別】

- 「されたことがある」は新町地域を除くすべての地域で1種類が最も高い
- 「されたことがある」は新町地域では2種類が最も高く、複数種類の被害経験は約7割
- 「したことがある」はすべての地域で1種類が最も高い

「されたことがある」は、新町地域を除くすべての地域で1種類が最も高くなっています。新町地域は2種類（44.4%）が最も高く、複数種類の被害経験が66.7%と高くなっています。また、箕郷地域は3種類（28.0%）も比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は、すべての地域で1種類が最も高くなっています。

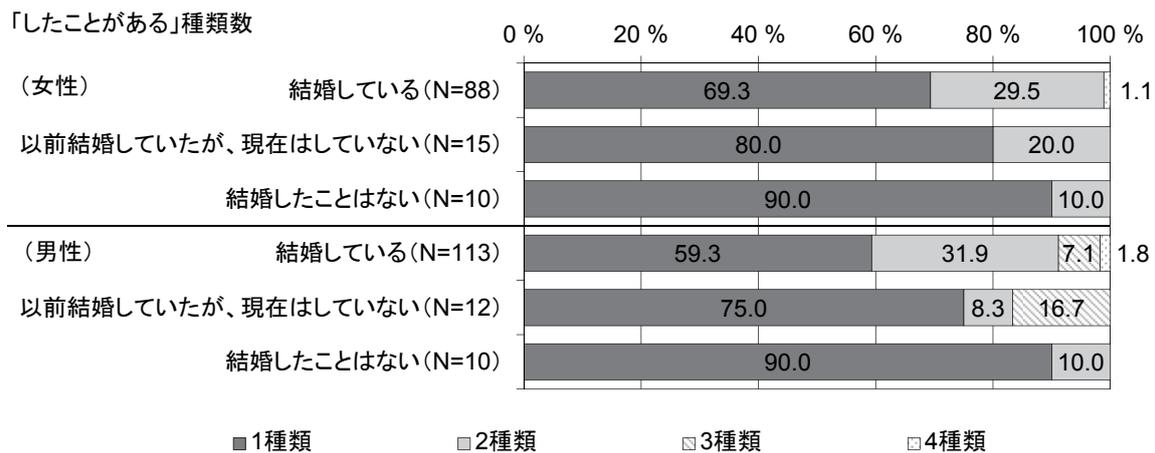
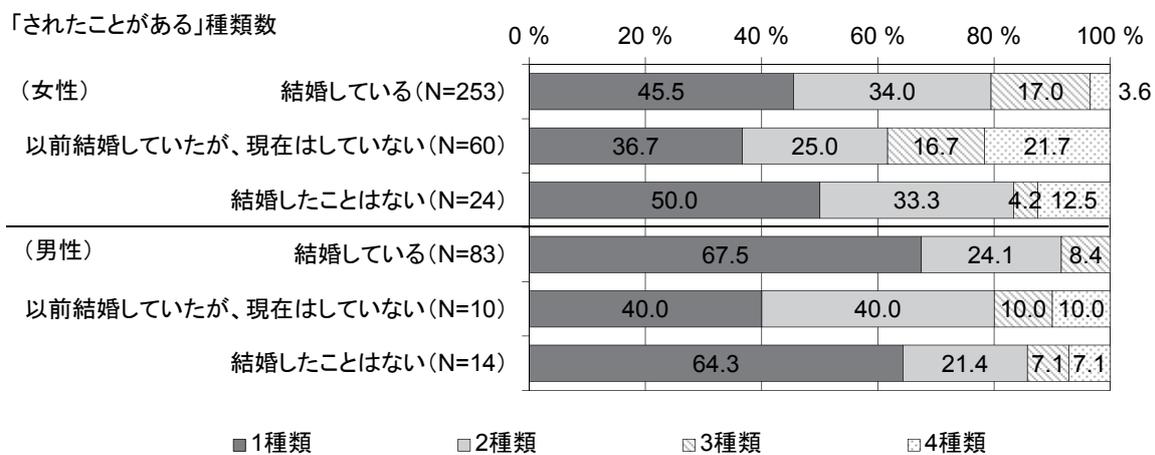


【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらず1種類が最も高い
- 複数種類の被害経験は「以前結婚していたが、現在はしていない」が男女とも高く約6割
- 複数種類の加害経験は「結婚している」が男女とも高く女性約3割、男性約4割

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらず1種類が最も高くなっています（男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は2種類と同値）。「以前結婚していたが、現在はしていない」では複数種類の被害経験が女性63.4%、男性60.0%と、男女ともに高くなっています。また、女性「以前結婚していたが、現在はしていない」は4種類（21.7%）が2割以上で特に高くなっています。

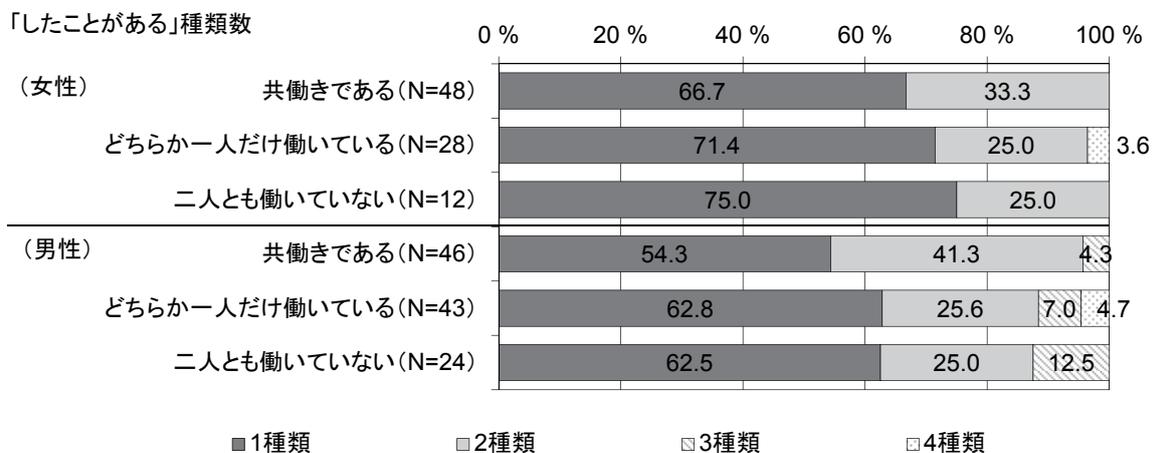
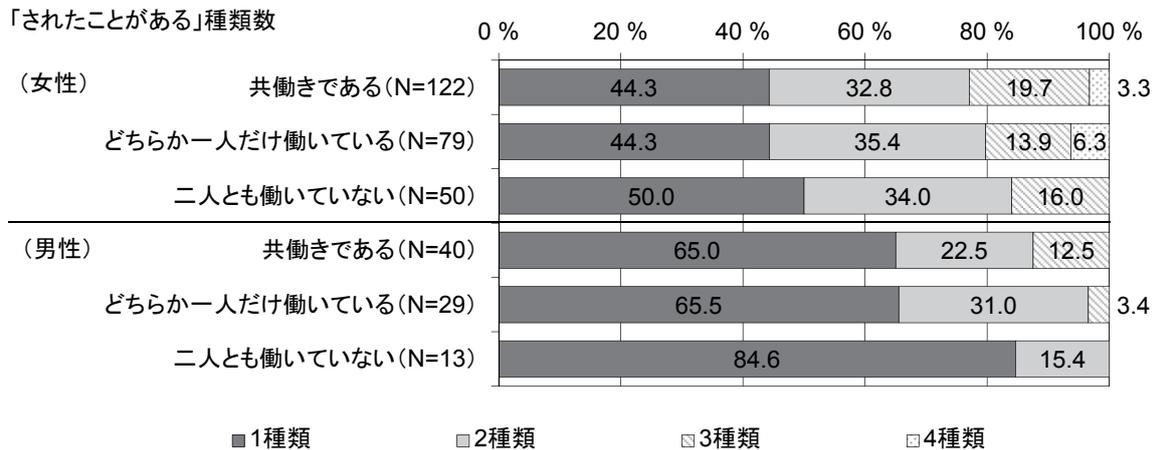
一方、「したことがある」は、「結婚している」では複数種類の加害経験が女性30.6%、男性40.8%と、男女ともに高くなっています。



【性別×働き方別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらず1種類が最も高い
- 働き方にかかわらず複数種類の被害経験は女性、加害経験は男性が比較的高い

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらず1種類が最も高くなっています。また、働き方にかかわらず複数種類の値は、「されたことがある」は女性、「したことがある」は男性が比較的高くなっています。

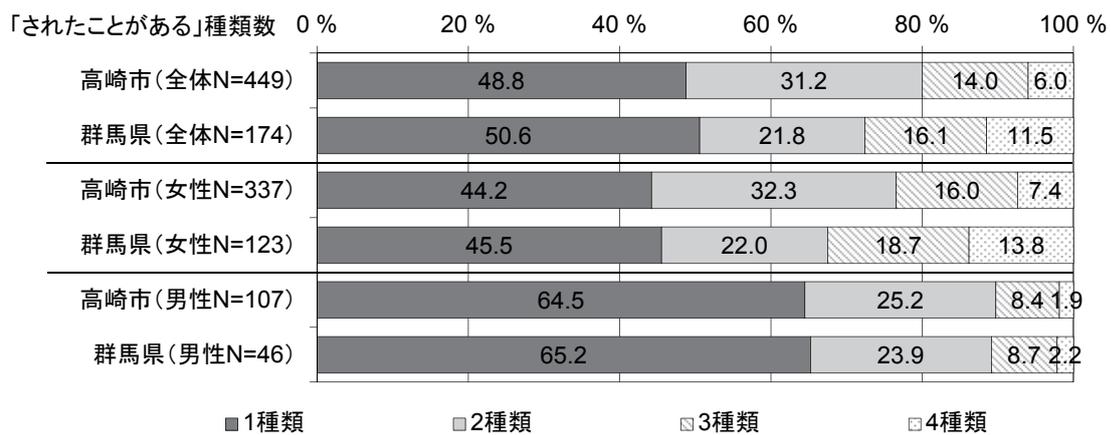


【性別×他調査との比較】

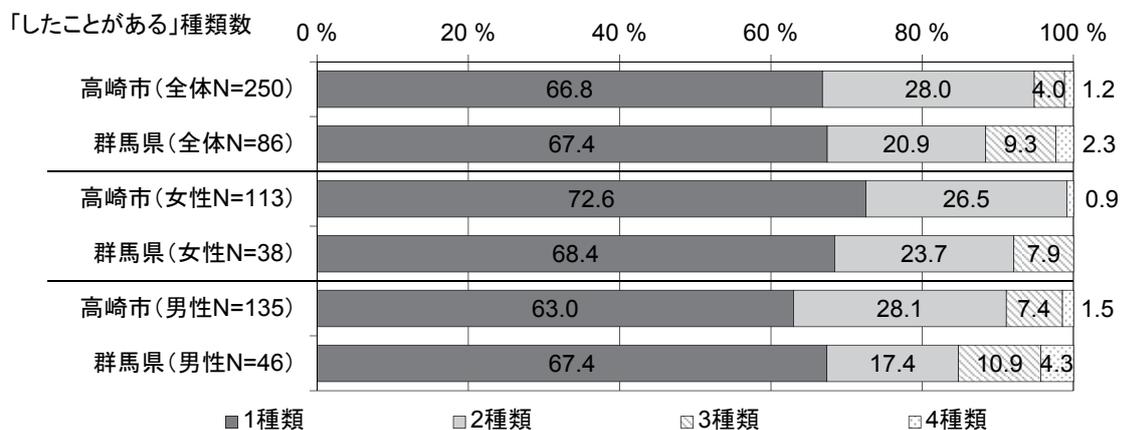
- 「されたことがある」は群馬県より女性は2種類が高く、男性は大きな差が見られない
- 「したことがある」は群馬県より女性は1・2種類、男性は2種類が高く、男女とも3種類以上は低い

群馬県とは選択肢が若干異なることを考慮する必要がありますが、「されたことがある」は、女性は1種類や3種類は群馬県と同程度、2種類は群馬県より高くなっています。男性は群馬県と大きな差は見られません。

一方、「したことがある」は、女性は1種類や2種類が群馬県より高く、3種類以上は群馬県より低くなっています。男性は2種類を除いて群馬県より低くなっています。



※「群馬県」は5種類の選択肢であるため、「4種類されたことがある」場合と、「5種類されたことがある」場合を合わせて「4種類以上されたことがある」として計上



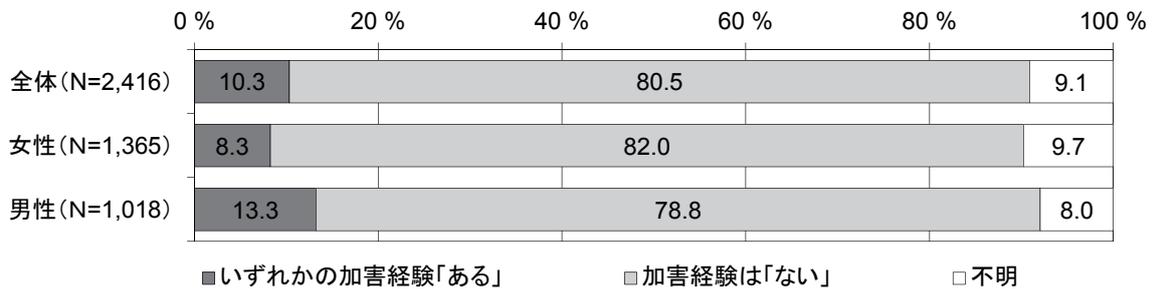
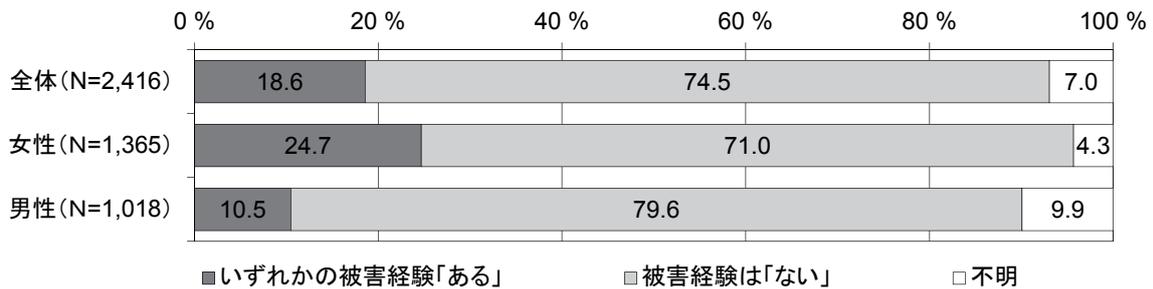
※「群馬県」は5種類の選択肢であるため、「4種類したことがある」場合と、「5種類したことがある」場合を合わせて「4種類以上したことがある」として計上

4 種類いずれかの被害・加害経験の状況

【全体・性別】

- 被害経験「ある」は女性が高く、女性の約4分の1
- 加害経験「ある」は男性が1割以上で比較的高い

4 種類中 1 種類でも「されたことがある（いずれかの被害経験「ある」）」または「したことがある（いずれかの加害経験「ある」）」割合を見ると、被害経験「ある」は女性（24.7%）、加害経験「ある」は男性（13.3%）が比較的高く、女性の約4分の1は被害経験「ある」となっています。

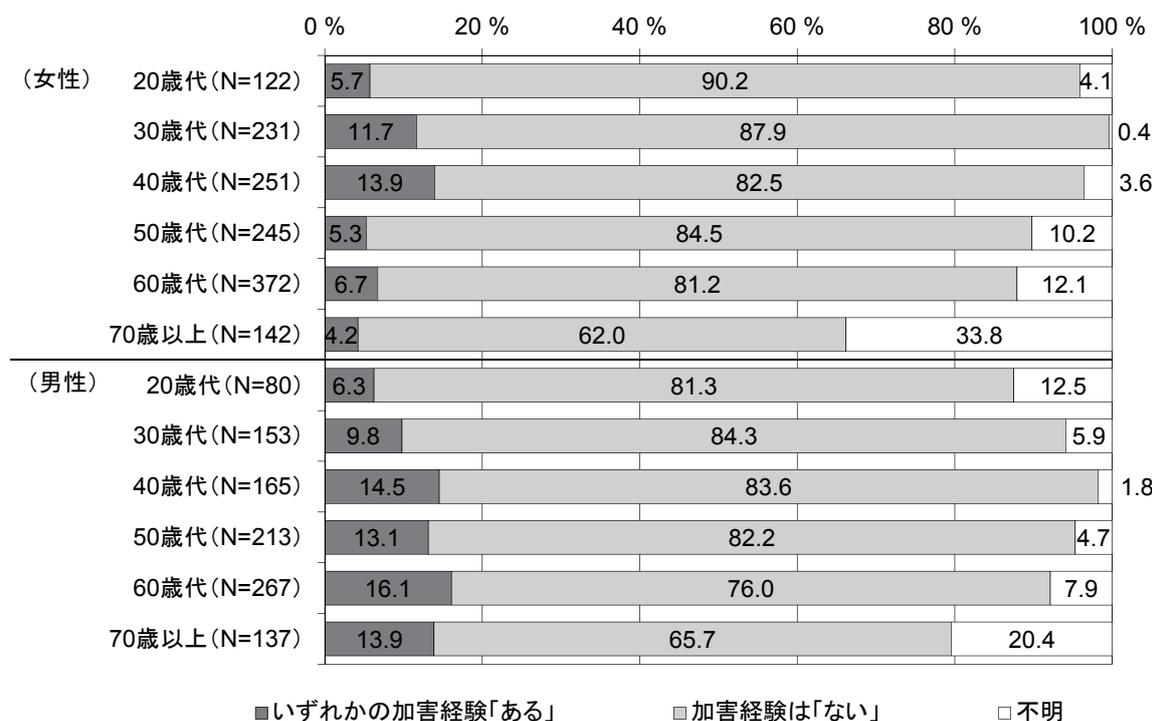
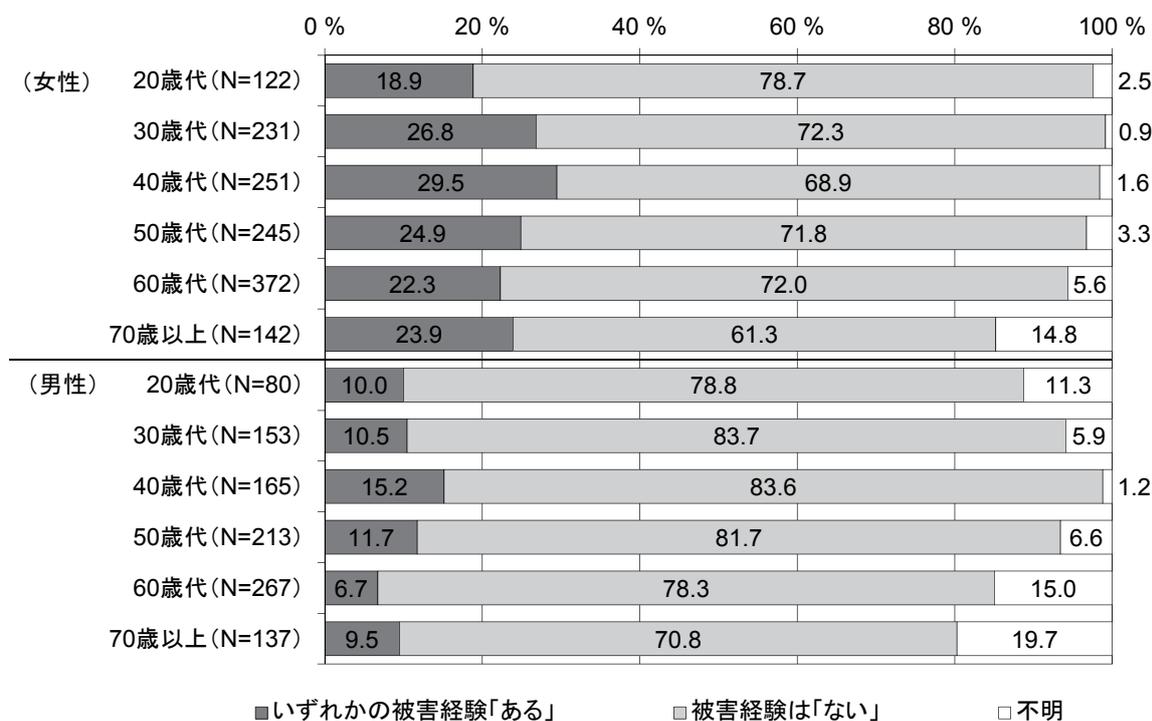


【性別×年代別】

- 被害経験「ある」はすべての年代で女性が高く、特に女性40歳代が比較的高い
- 加害経験「ある」は30歳代を除くすべての年代で男性が高い

いずれかの被害経験「ある」は、女性40歳代（29.5%）が比較的高く、約3割を占めています。また、すべての年代で女性が高く、約2～3割となっています。

一方、いずれかの加害経験「ある」は、男性60歳代（16.1%）が比較的高く、30歳代を除くすべての年代で男性が高くなっています。

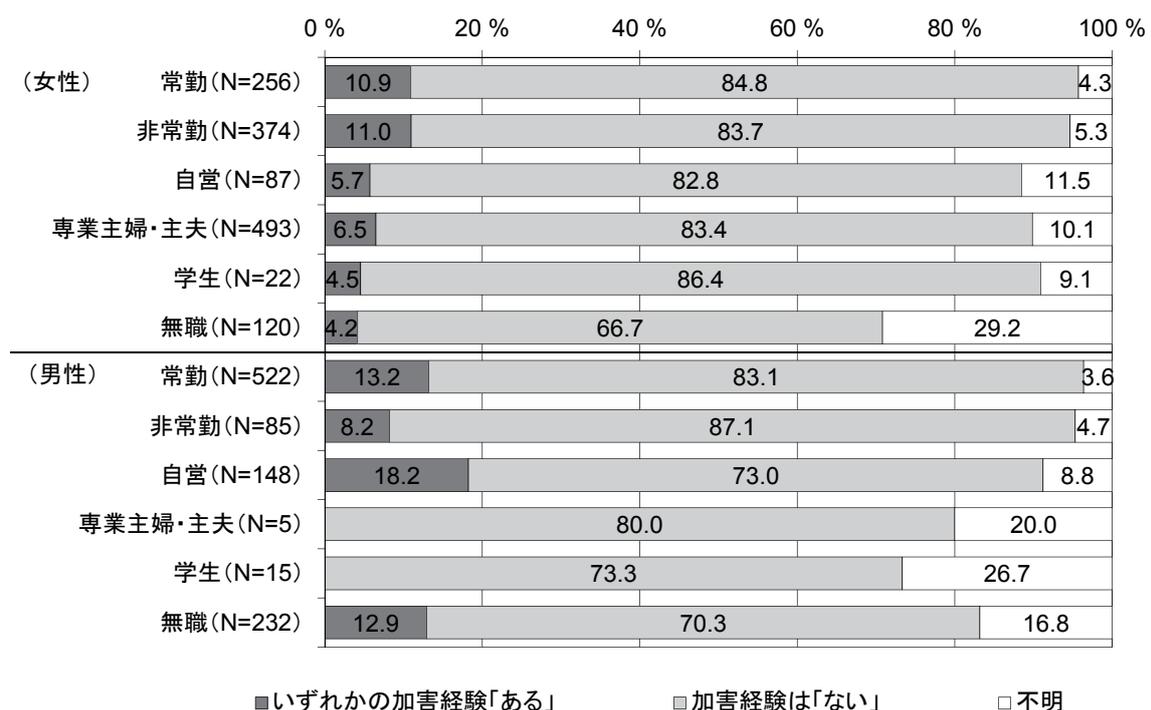
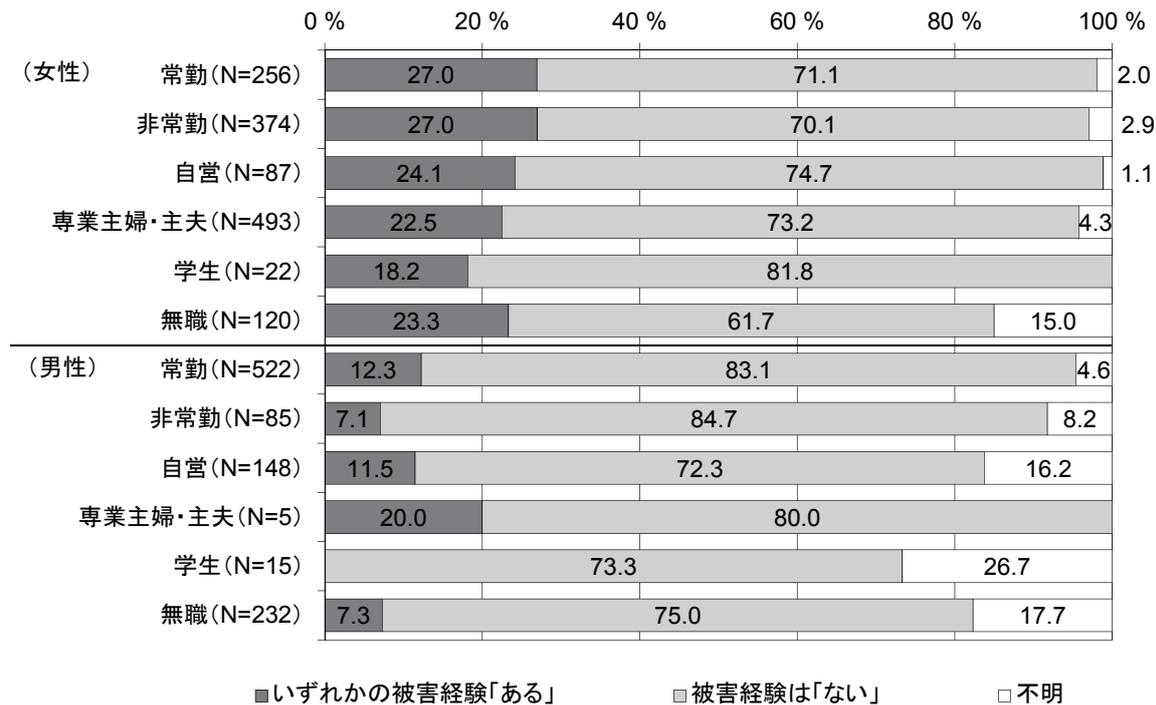


【性別×職業別】

- 被害経験「ある」はすべての職業で女性が高く、女性常勤・非常勤が比較的高い
- 加害経験「ある」は非常勤・学生を除くすべての職業で男性が高く、男性自営が比較的高い

いずれかの被害経験「ある」は、女性常勤・非常勤（ともに 27.0%）が比較的高く、約 3 割を占めています。また、すべての職業で女性が高く、約 2～3 割となっています。

一方、いずれかの加害経験「ある」は、男性自営（18.2%）が比較的高く、約 2 割となっています。また、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、非常勤・学生を除くすべての職業で男性が高くなっています。

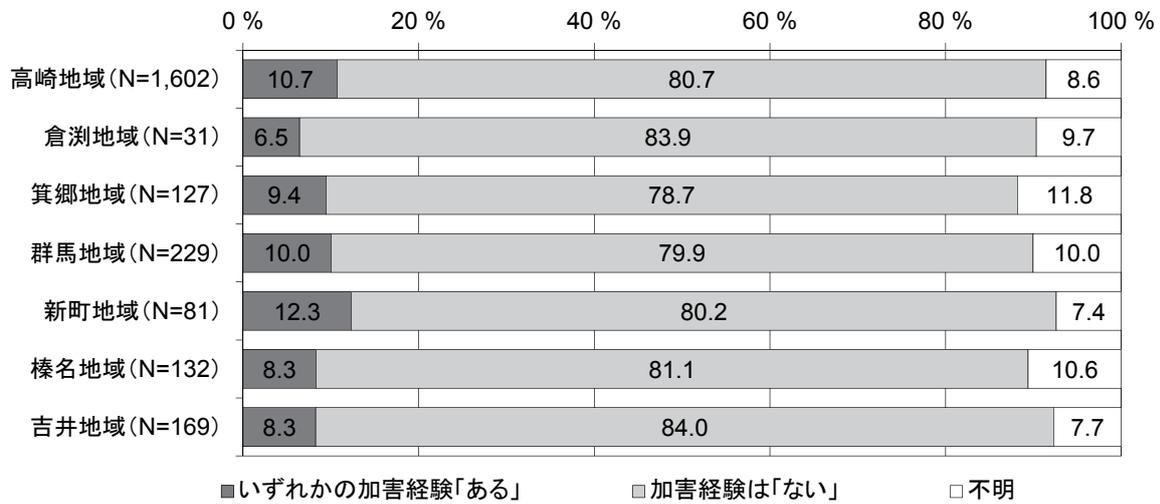
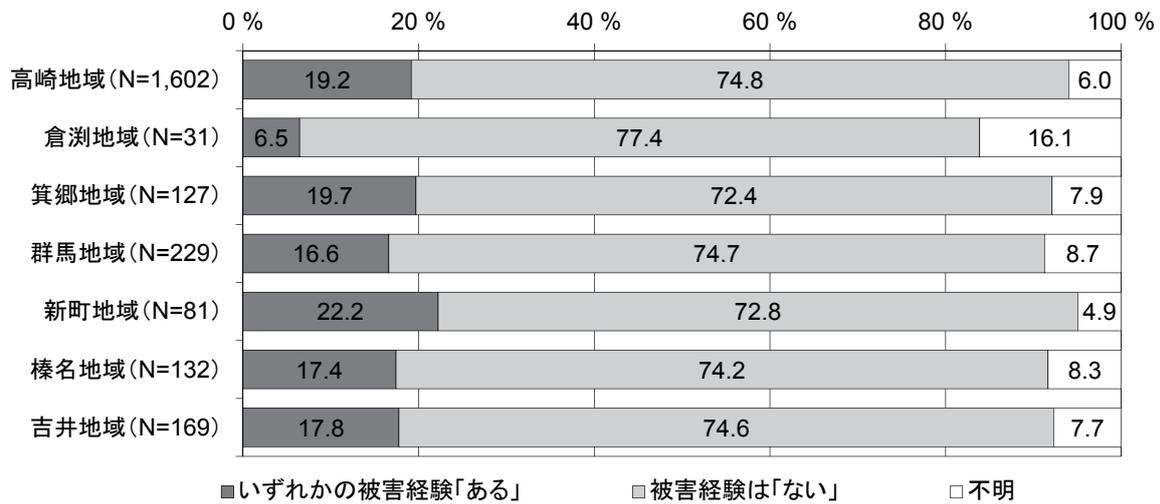


【地域別】

- 被害経験「ある」は倉渚地域が1割未満、それ以外は約2割
- 加害経験「ある」は地域による大きな差は見られない

いずれかの被害経験「ある」は、倉渚地域（6.5%）を除くすべての地域で約2割となっています。

一方、いずれかの加害経験「ある」は、地域による大きな差は見られません。



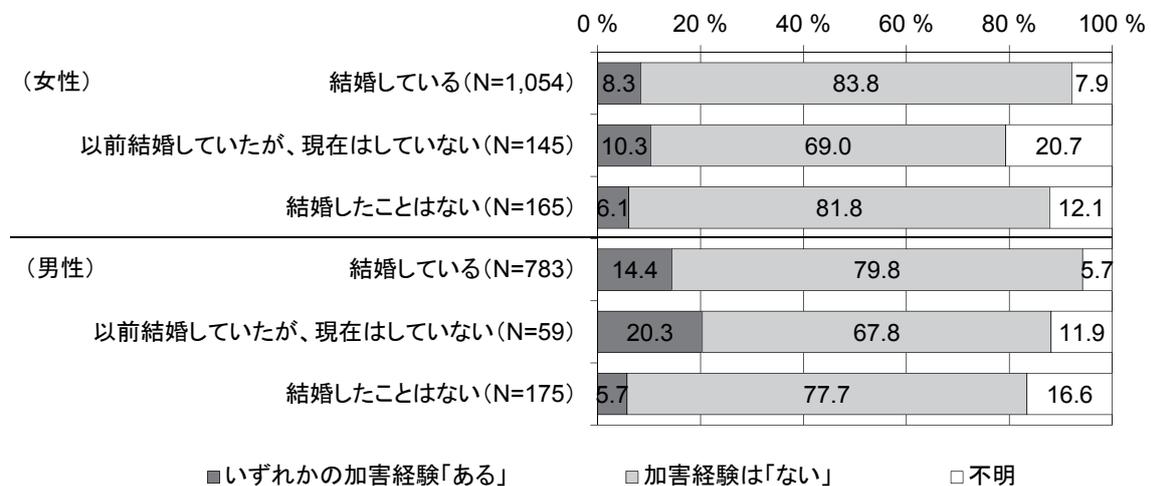
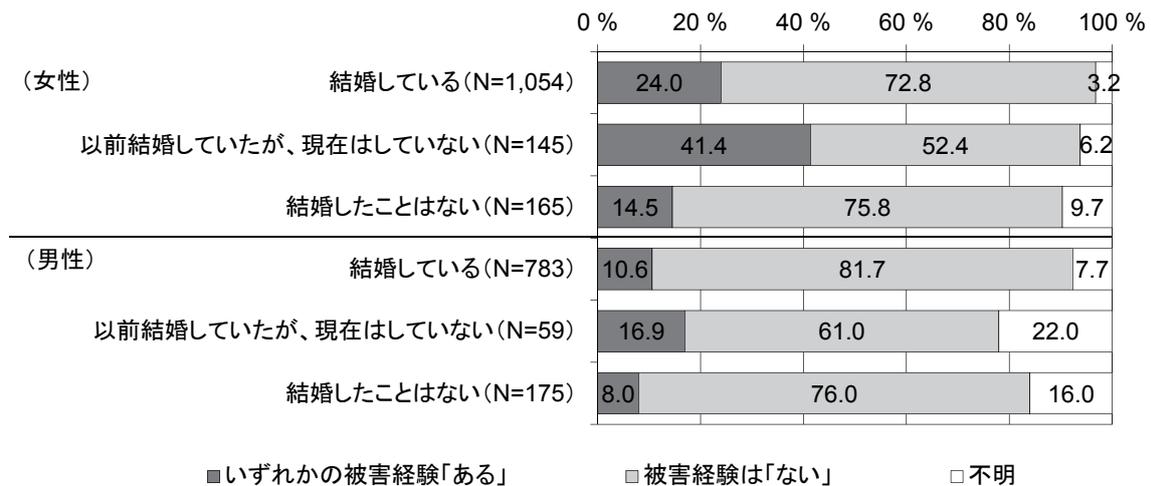
【性別×結婚経験別】

- 被害経験「ある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」が4割以上で特に高い

- 加害経験「ある」は男性「以前結婚していたが、現在はしていない」が約2割で最も高い

いずれかの被害経験「ある」は、女性「以前結婚していたが、現在はしていない」(41.4%)が特に高く、4割以上を占めています。また、女性「結婚している」(24.0%)も比較的高くなっています。

一方、いずれかの加害経験「ある」は、男性「以前結婚していたが、現在はしていない」(20.3%)が最も高く、約2割を占めています。

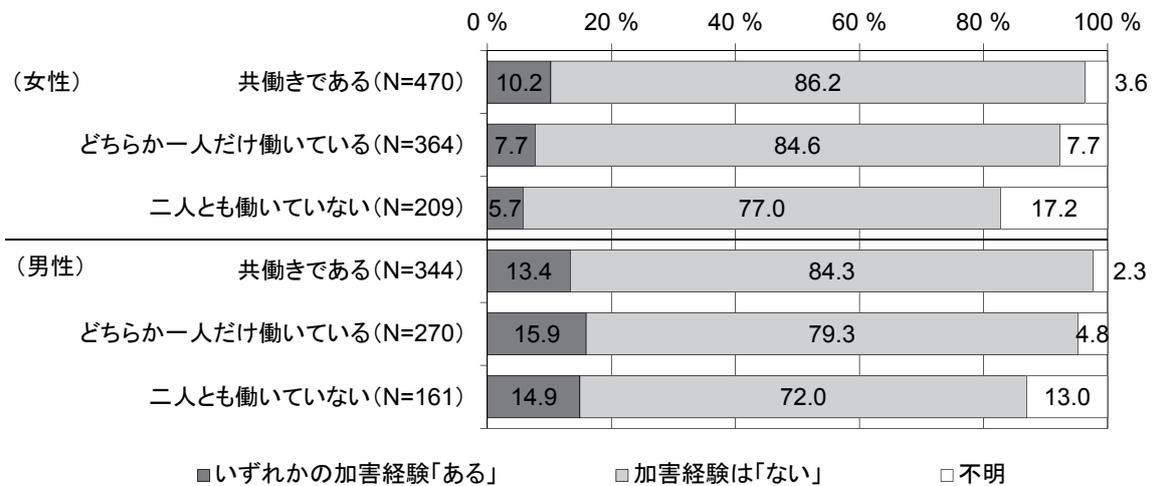
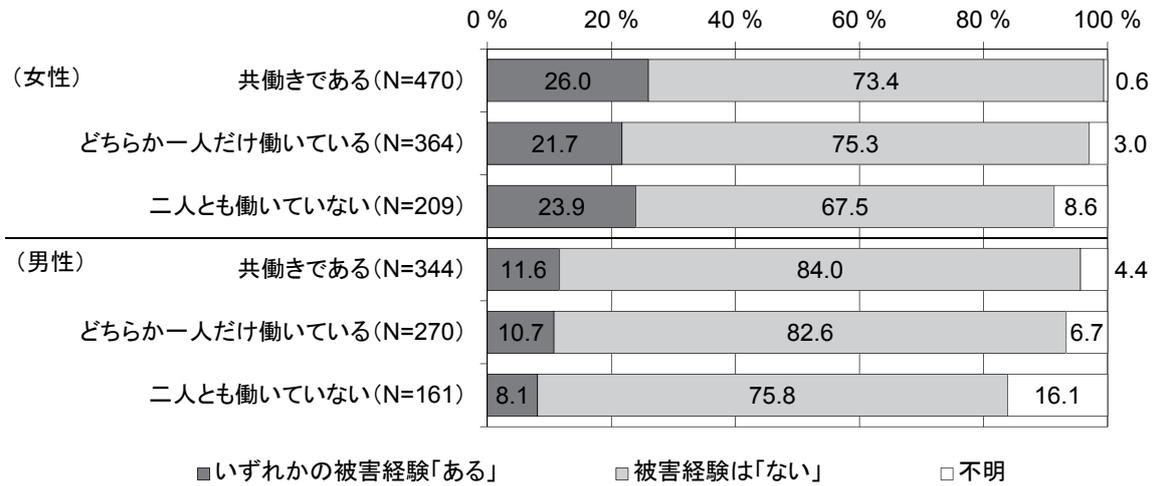


【性別×働き方別】

● 働き方にかかわらず被害経験「ある」は女性、加害経験「ある」は男性が高い

いずれかの被害経験「ある」は、女性「共働きである」(26.0%)が比較的高く、約3割を占めています。また、働き方にかかわらず女性が高く、2割以上となっています。

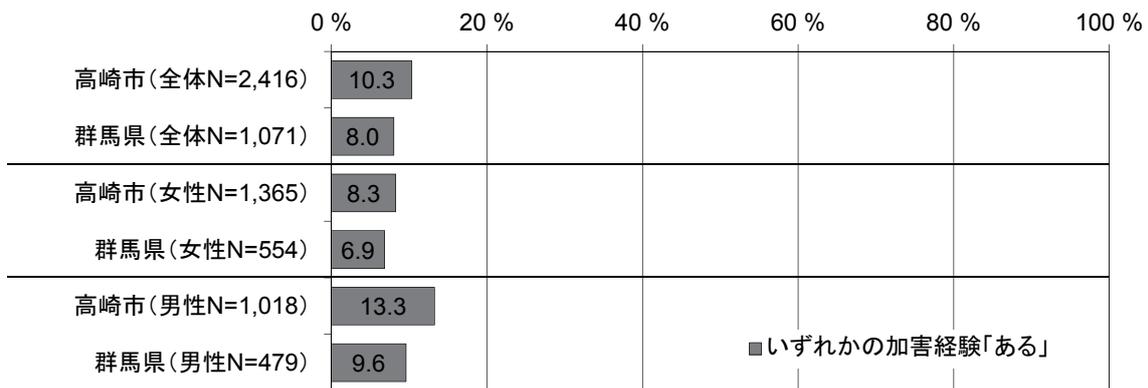
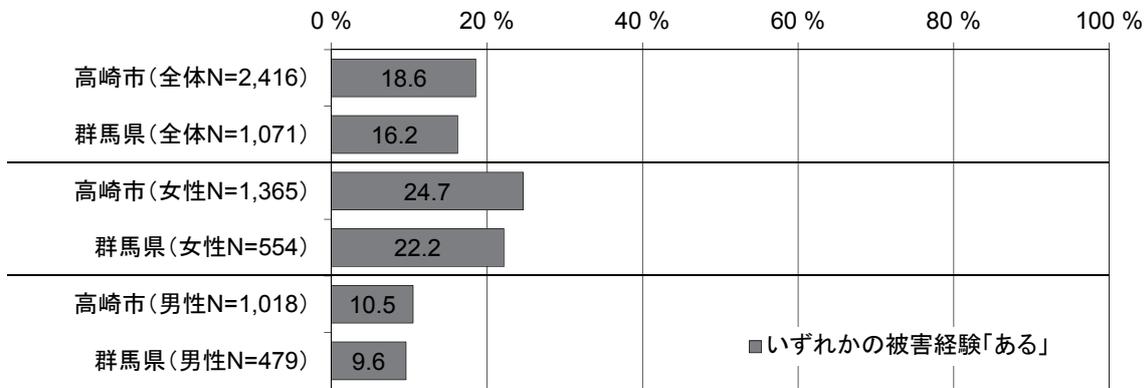
一方、加害経験「ある」は、働き方にかかわらず男性が高く、1割以上となっています。



【性別×他調査との比較】

● 被害経験・加害経験ともに、男女とも群馬県と大きな差は見られない

いずれかの被害経験「ある」、加害経験「ある」とともに、男女とも群馬県より若干高くなっていますが、大きな差は見られません。



※「ある」のみを表示

※「群馬県」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」として計上

問 12

その後、どこか（だれか）に相談しましたか。（複数回答可 N=問 11 で 1つでも「されたこと」が「ある」と回答した 449 人）

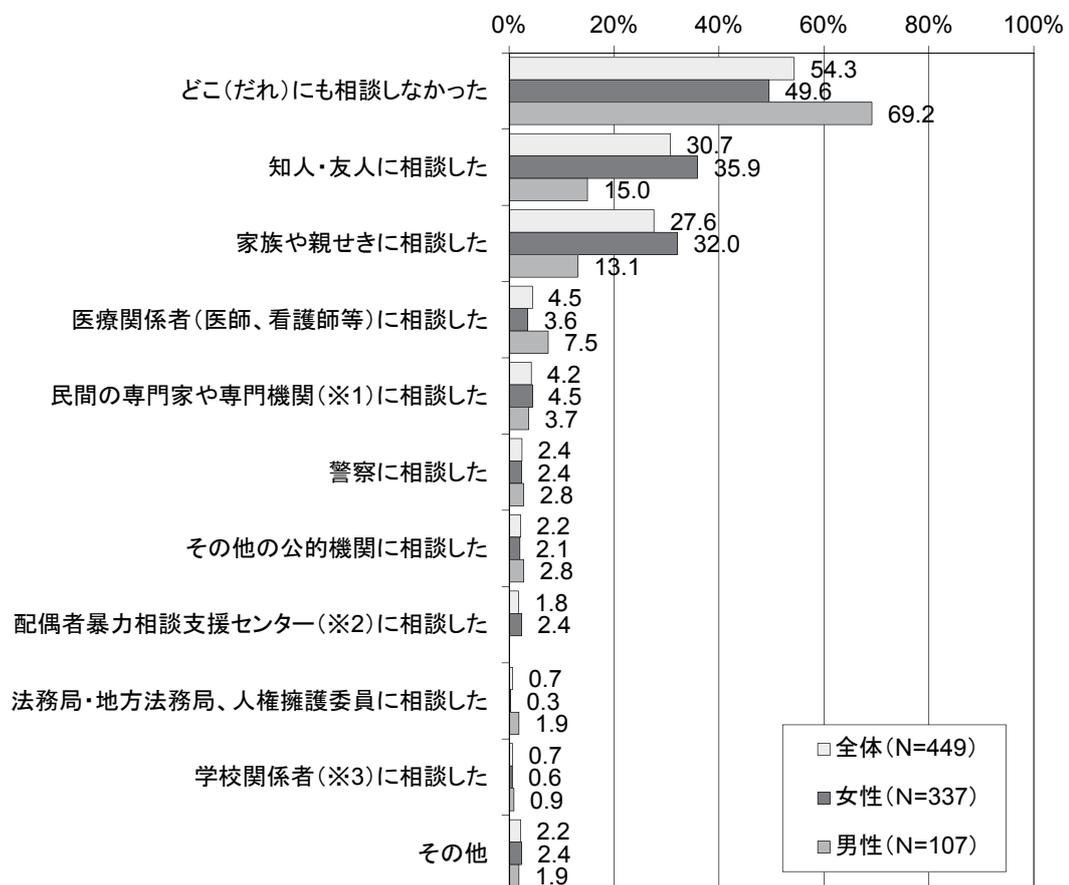
【全体・性別】

- 「相談しなかった」が女性約 5 割、男性約 7 割
- 女性は「知人・友人」約 4 割や「家族や親せき」約 3 割も比較的高い
- 男性は特に高い値を示す相談相手が見られない

男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」（女性 49.6%、男性 69.2%）が最も高く、特に男性は約 7 割となっています。次いで女性は「知人・友人に相談した」（35.9%）、「家族や親せきに相談した」（32.0%）も比較的高くなっています。

一方、男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」を除いて特に高い値を示す項目は見られません。

また、上記 3 項目以外はいずれも男女とも 1 割未満となっています。



※1 弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等  
 ※2 女性相談所、女性相談センター等  
 ※3 教員、スクールカウンセラー等

【性別×年代別】

- 女性 30・40 歳代を除くすべての年代で「相談しなかった」が最も高い
- 女性 30 歳代は「知人・友人」、女性 40 歳代は「家族や親せき」が最も高い
- 「相談しなかった」はすべての年代で男性が高い

女性 30・40 歳代を除くすべての年代で「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」はすべての年代で男性が高くなっています。女性 30 歳代は「知人・友人に相談した」（56.5%）、女性 40 歳代は「家族や親せきに相談した」（43.2%）が最も高くなっています。

		(%)	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳 以上
N=	女性	23	62	74	61	83	34	
	男性	8	16	25	25	18	13	
どこ(だれ)にも相談しなかった	女性	56.5	38.7	36.5	52.5	59.0	64.7	
	男性	75.0	87.5	68.0	60.0	61.1	69.2	
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	女性	0.0	4.8	2.7	1.6	2.4	0.0	
	男性	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
警察に相談した	女性	4.3	3.2	4.1	1.6	1.2	0.0	
	男性	0.0	0.0	4.0	8.0	0.0	0.0	
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	女性	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	
	男性	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	
その他の公的機関に相談した	女性	0.0	0.0	1.4	6.6	1.2	2.9	
	男性	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	15.4	
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	女性	4.3	3.2	5.4	8.2	2.4	2.9	
	男性	0.0	0.0	4.0	4.0	5.6	7.7	
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	女性	4.3	4.8	4.1	4.9	1.2	2.9	
	男性	0.0	6.3	12.0	8.0	11.1	0.0	
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	女性	4.3	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	
	男性	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	
家族や親せきに相談した	女性	26.1	32.3	43.2	34.4	24.1	26.5	
	男性	25.0	0.0	20.0	16.0	11.1	7.7	
知人・友人に相談した	女性	43.5	56.5	36.5	36.1	22.9	23.5	
	男性	25.0	12.5	12.0	12.0	22.2	0.0	
その他	女性	0.0	0.0	2.7	3.3	2.4	5.9	
	男性	0.0	0.0	0.0	4.0	5.6	0.0	

## 【性別×職業別】

- 女性常勤を除くすべての職業で「相談しなかった」が最も高い
- 女性常勤は「家族や親せき」と「知人・友人」が同程度で高い
- 女性非常勤は「相談しなかった」と「知人・友人」が同値

回答者数が少ない学生や男性非常勤・専業主夫を除くと、女性常勤を除き男女ともすべての職業で「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」はすべての職業で男性が高くなっていますが、女性専業主婦（63.1%）も比較的高くなっています。女性常勤は「家族や親せきに相談した」（44.9%）と「知人・友人に相談した」（43.5%）が同程度に高く、女性非常勤は「どこ（だれ）にも相談しなかった」と「知人・友人に相談した」が同値（44.6%）となっています。

		(%)	常勤	非常勤	自営	専業主婦・主夫	学生	無職
N=	女性		69	101	21	111	4	28
	男性		64	6	17	1	0	17
どこ(だれ)にも相談しなかった	女性		34.8	44.6	52.4	63.1	25.0	57.1
	男性		65.6	66.7	76.5	100.0	-	76.5
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	女性		1.4	2.0	0.0	2.7	0.0	7.1
	男性		0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0
警察に相談した	女性		4.3	1.0	0.0	0.9	0.0	10.7
	男性		3.1	0.0	0.0	100.0	-	0.0
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	女性		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
	男性		3.1	0.0	0.0	0.0	-	0.0
その他の公的機関に相談した	女性		2.9	1.0	0.0	0.9	0.0	7.1
	男性		1.6	0.0	0.0	0.0	-	11.8
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	女性		5.8	4.0	0.0	2.7	25.0	7.1
	男性		1.6	0.0	5.9	100.0	-	5.9
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	女性		7.2	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性		7.8	16.7	0.0	0.0	-	11.8
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	女性		1.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性		0.0	0.0	0.0	0.0	-	5.9
家族や親せきに相談した	女性		44.9	35.6	23.8	23.4	0.0	28.6
	男性		18.8	0.0	5.9	0.0	-	5.9
知人・友人に相談した	女性		43.5	44.6	38.1	25.2	50.0	21.4
	男性		14.1	33.3	17.6	100.0	-	0.0
その他	女性		2.9	3.0	0.0	2.7	0.0	0.0
	男性		1.6	0.0	5.9	0.0	-	0.0

【地域別】

- すべての地域で「相談しなかった」が最も高い
- 箕郷地域は「家族や親せき」、新町地域は「知人・友人」が比較的高い

回答者数が少ない倉渕地域を除くと、すべての地域で「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高く、その中で新町地域（66.7%）が比較的高くなっています。また、箕郷地域は「家族や親せきに相談した」（36.0%）、新町地域は「知人・友人に相談した」（38.9%）も比較的高くなっています。

(%)	高崎 地域	倉渕 地域	箕郷 地域	群馬 地域	新町 地域	榛名 地域	吉井 地域
N=	307	2	25	38	18	23	30
どこ(だれ)にも相談しなかった	54.1	0.0	52.0	50.0	66.7	56.5	60.0
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	2.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	3.3
警察に相談した	2.3	0.0	4.0	5.3	0.0	4.3	0.0
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	0.3	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	3.3
その他の公的機関に相談した	1.3	0.0	0.0	5.3	5.6	13.0	0.0
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	4.9	0.0	4.0	2.6	0.0	4.3	3.3
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	4.2	0.0	8.0	2.6	5.6	4.3	3.3
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族や親せきに相談した	28.3	50.0	36.0	15.8	27.8	30.4	23.3
知人・友人に相談した	32.9	50.0	20.0	28.9	38.9	17.4	26.7
その他	2.6	0.0	4.0	0.0	5.6	0.0	0.0

## 【性別×結婚経験別】

- 女性「結婚したことはない」は「知人・友人」、それ以外は「相談しなかった」が最も高い
- 女性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「家族や親せき」「知人・友人」も高い

女性「結婚したことはない」を除いて「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。女性「結婚したことはない」は「知人・友人に相談した」（58.3%）が最も高くなっています。また、女性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「家族や親せきに相談した」や「知人・友人に相談した」（ともに 38.3%）も同程度に高くなっています。

		(%)	結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
N=	女性	253	60	24	
	男性	83	10	14	
どこ(だれ)にも相談しなかった	女性	53.0	40.0	37.5	
	男性	69.9	50.0	78.6	
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	女性	1.6	6.7	0.0	
	男性	0.0	0.0	0.0	
警察に相談した	女性	1.2	5.0	8.3	
	男性	2.4	10.0	0.0	
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	女性	0.4	0.0	0.0	
	男性	2.4	0.0	0.0	
その他の公的機関に相談した	女性	1.6	3.3	4.2	
	男性	3.6	0.0	0.0	
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	女性	2.8	10.0	8.3	
	男性	3.6	10.0	0.0	
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	女性	2.4	6.7	8.3	
	男性	6.0	20.0	7.1	
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	女性	0.4	0.0	4.2	
	男性	1.2	0.0	0.0	
家族や親せきに相談した	女性	32.4	38.3	12.5	
	男性	10.8	30.0	14.3	
知人・友人に相談した	女性	33.2	38.3	58.3	
	男性	15.7	10.0	14.3	
その他	女性	3.2	0.0	0.0	
	男性	2.4	0.0	0.0	

【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高い
- 女性「共働き」は「家族や親せき」「知人・友人」も比較的高い

働き方にかかわらず、男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高く、男女とも「二人とも働いていない」（女性 70.0%、男性 84.6%）で特に高くなっています。

また、女性「共働きである」は「家族や親せきに相談した」や「知人・友人に相談した」（ともに 40.2%）も比較的高くなっています。

		(%)	共働きである	どちらか一人だけ働いている	二人とも働いていない
N=	女性	122	79	50	
	男性	40	29	13	
どこ(だれ)にも相談しなかった	女性	43.4	55.7	70.0	
	男性	70.0	62.1	84.6	
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	女性	0.8	3.8	0.0	
	男性	0.0	0.0	0.0	
警察に相談した	女性	1.6	1.3	0.0	
	男性	0.0	3.4	0.0	
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	女性	0.0	0.0	2.0	
	男性	2.5	3.4	0.0	
その他の公的機関に相談した	女性	2.5	1.3	0.0	
	男性	0.0	3.4	15.4	
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	女性	2.5	3.8	2.0	
	男性	2.5	3.4	0.0	
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	女性	4.1	1.3	0.0	
	男性	2.5	13.8	0.0	
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	女性	0.8	0.0	0.0	
	男性	0.0	3.4	0.0	
家族や親せきに相談した	女性	40.2	26.6	22.0	
	男性	7.5	17.2	7.7	
知人・友人に相談した	女性	40.2	34.2	14.0	
	男性	15.0	20.7	0.0	
その他	女性	3.3	2.5	4.0	
	男性	5.0	0.0	0.0	

## 【性別×他調査との比較】

- 「相談しなかった」は男女とも国より低く、全体値は群馬県より高い
- 「家族や親せき」は男女で傾向が異なり、「知人・友人」は男女とも国より高く、全体値は群馬県より高い

全体傾向で値が比較的高い項目について見ると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男女とも内閣府より低く、全体値は群馬県より高くなっています。

「家族や親せきに相談した」は、内閣府より女性は高く、男性は低くなっています。また、全体値は内閣府より高く、群馬県と同程度になっています。

「知人・友人に相談した」は男女とも内閣府より高く、全体値は群馬県より高くなっています。

		(%)	高崎市	群馬県	内閣府
N=	全体	449	174	277	
	女性	337	-	185	
	男性	107	-	92	
どこ(だれ)にも相談しなかった	全体	54.3	35.6	61.0	
	女性	49.6	-	53.0	
	男性	69.2	-	77.2	
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	全体	1.8	1.1	0.7	
	女性	2.4	-	1.1	
	男性	0.0	-	0.0	
警察に相談した	全体	2.4	4.0	1.8	
	女性	2.4	-	2.2	
	男性	2.8	-	1.1	
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	全体	0.7	0.6	0.4	
	女性	0.3	-	0.5	
	男性	1.9	-	0.0	
その他の公的機関に相談した	全体	2.2	0.6	0.0	
	女性	2.1	-	0.0	
	男性	2.8	-	0.0	
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	全体	4.2	5.2	1.4	
	女性	4.5	-	1.6	
	男性	3.7	-	1.1	
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	全体	4.5	4.0	2.9	
	女性	3.6	-	3.2	
	男性	7.5	-	2.2	
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	全体	0.7	0.6	0.4	
	女性	0.6	-	0.5	
	男性	0.9	-	0.0	
家族や親せきに相談した	全体	27.6	27.0	23.8	
	女性	32.0	-	27.6	
	男性	13.1	-	16.3	
知人・友人に相談した	全体	30.7	22.4	21.7	
	女性	35.9	-	27.6	
	男性	15.0	-	9.8	
その他	全体	2.2	4.0	1.1	
	女性	2.4	-	1.1	
	男性	1.9	-	1.1	

※「群馬県」は公開されている全体値のみを表示

※「群馬県」は「ここ数年の間」、内閣府は「この5年間」として設定

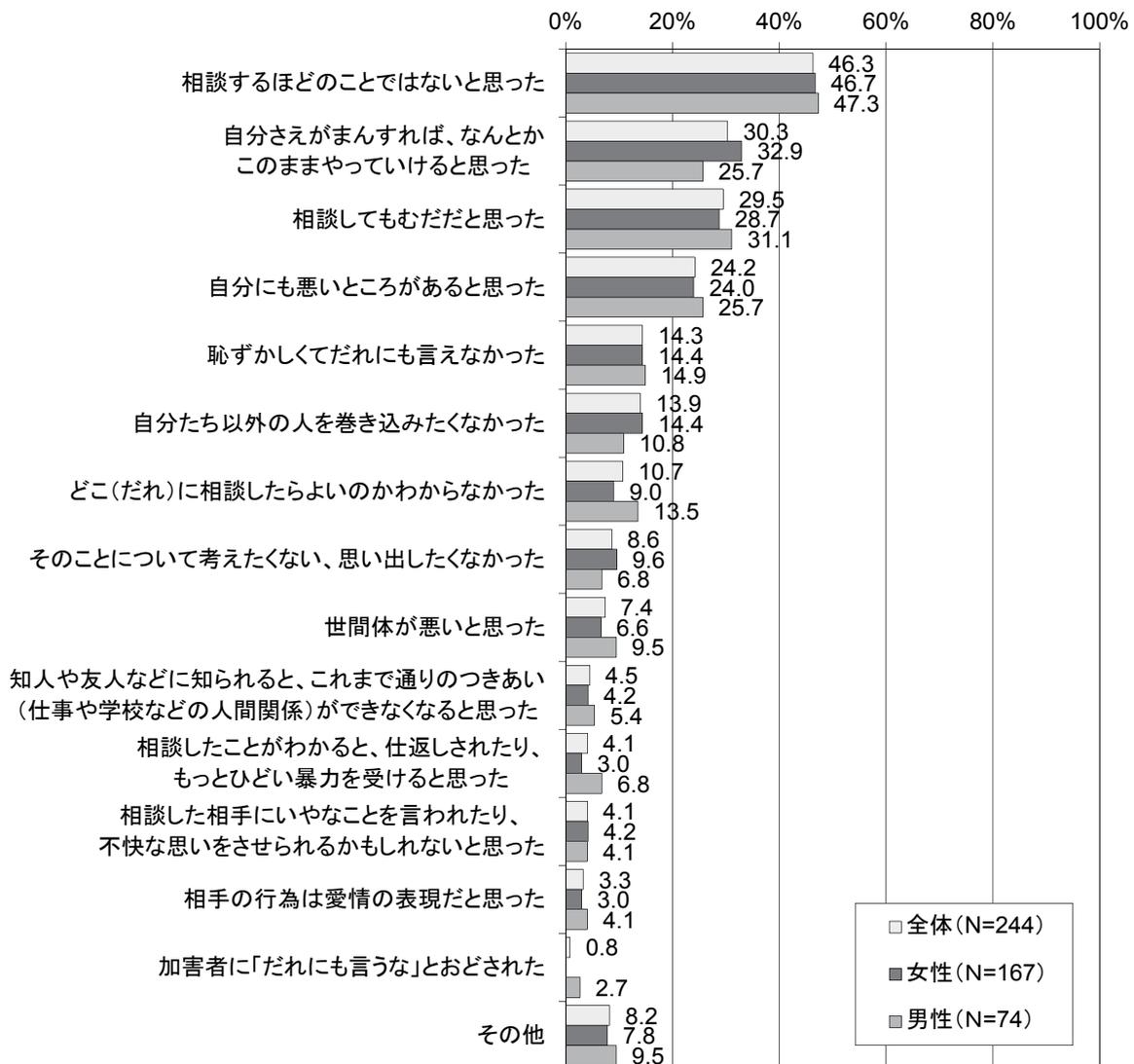
問 13

相談しなかった理由はどんなことですか。(複数回答可 N=問 12 で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した 244 人)

【全体・性別】

- 男女とも「相談するほどのことではない」が約 5 割
- 女性は「自分さえがまんすれば、なんとかやっていける」が比較的高い

男女とも「相談するほどのことではないと思った」(女性 46.7%、男性 47.3%) が最も高く、ほとんどの項目で性別による大きな差は見られません。その中で女性は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」(32.9%) が比較的高くなっています。また、男性は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」(25.7%) より「相談してもむだだと思った」(31.1%) が高くなっています。



## 【性別×年代別】

- 男女とも多くの年代で「相談するほどのことはない」が最も高い
- 男女とも年代によって傾向が異なる

回答者数が少ない男性 20 歳代・70 歳以上を除くと、女性 30・40・50 歳代や男性 30・50・60 歳代は「相談するほどのことではないと思った」、女性 20・60 歳代は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといった」（それぞれ 46.2%、38.8%）、女性 70 歳以上は「相談してもむだだと思った」（36.4%）、男性 40 歳代は「どこ（だれ）に相談したらよいのかわからなかった」（35.3%）がそれぞれ最も高くなっており、年代によって傾向に違いが見られます。

		(%)	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代
N=	女性		13	24	27	32	49	22
	男性		6	14	17	15	11	9
どこ(だれ)に相談したらよいのかわからなかった	女性		15.4	8.3	7.4	3.1	8.2	18.2
	男性		0.0	14.3	35.3	13.3	0.0	0.0
恥ずかしくてだれにも言えなかった	女性		38.5	8.3	14.8	12.5	12.2	13.6
	男性		33.3	14.3	11.8	20.0	18.2	0.0
相談してもむだだと思った	女性		23.1	12.5	33.3	37.5	26.5	36.4
	男性		33.3	35.7	29.4	26.7	18.2	55.6
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けるといった	女性		0.0	4.2	7.4	3.1	2.0	0.0
	男性		16.7	7.1	11.8	0.0	9.1	0.0
加害者に「だれにも言うな」とおどされた	女性		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性		16.7	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った	女性		7.7	4.2	0.0	12.5	2.0	0.0
	男性		16.7	0.0	5.9	0.0	0.0	11.1
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといった	女性		46.2	16.7	33.3	31.3	38.8	31.8
	男性		33.3	28.6	23.5	33.3	27.3	11.1
世間体が悪いと思った	女性		0.0	4.2	11.1	3.1	8.2	9.1
	男性		16.7	0.0	11.8	13.3	9.1	11.1
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった	女性		38.5	12.5	14.8	18.8	12.2	0.0
	男性		16.7	14.3	5.9	13.3	9.1	11.1
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい(仕事や学校などの人間関係)ができなくなるといった	女性		7.7	0.0	3.7	3.1	6.1	4.5
	男性		0.0	0.0	5.9	6.7	9.1	0.0
そのことについて考えたくない、思い出したくなかった	女性		23.1	4.2	7.4	12.5	6.1	13.6
	男性		0.0	7.1	0.0	20.0	9.1	0.0
自分にも悪いところがあると思った	女性		38.5	25.0	18.5	15.6	30.6	18.2
	男性		0.0	50.0	11.8	26.7	36.4	22.2
相手の行為は愛情の表現だと思った	女性		23.1	4.2	0.0	0.0	2.0	0.0
	男性		0.0	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0
相談するほどのことではないと思った	女性		38.5	66.7	51.9	56.3	36.7	31.8
	男性		50.0	57.1	23.5	60.0	63.6	44.4
その他	女性		7.7	8.3	11.1	3.1	8.2	9.1
	男性		16.7	0.0	23.5	6.7	9.1	0.0

【性別×職業別】

- 男女とも多くの職業で「相談するほどのことはない」が最も高い
- 男女とも職業によって傾向が異なる

回答者数が少ない学生、男性非常勤・専業主婦を除くと、女性常勤と男女無職を除き男女ともすべての職業で「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっています（女性自営 45.5%は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていると」同値）。女性常勤、男女無職は「相談してもむだだと思った」（それぞれ 45.8%、53.8%、37.5%）が最も高くなっています（女性無職は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていると」同値）。

		（%）					
		常勤	非常勤	自営	専業主婦・主夫	学生	無職
N=	女性	24	45	11	70	1	16
	男性	42	4	13	1	0	13
どこ(だれ)に相談したらよいのかわからなかった	女性	4.2	6.7	9.1	8.6	100.0	18.8
	男性	21.4	0.0	7.7	0.0	-	0.0
恥ずかしくてだれにも言えなかった	女性	29.2	11.1	9.1	11.4	0.0	18.8
	男性	14.3	0.0	23.1	0.0	-	15.4
相談してもむだだと思った	女性	45.8	24.4	36.4	21.4	100.0	37.5
	男性	23.8	25.0	23.1	100.0	-	53.8
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った	女性	0.0	6.7	9.1	0.0	0.0	6.3
	男性	7.1	0.0	7.7	100.0	-	0.0
加害者に「だれにも言うな」とおどされた	女性	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	2.4	0.0	0.0	100.0	-	0.0
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った	女性	8.3	4.4	0.0	0.0	0.0	18.8
	男性	4.8	0.0	0.0	0.0	-	7.7
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていると	女性	33.3	33.3	45.5	30.0	0.0	37.5
	男性	23.8	0.0	38.5	100.0	-	23.1
世間体が悪いと思った	女性	12.5	11.1	0.0	2.9	0.0	6.3
	男性	9.5	0.0	0.0	100.0	-	15.4
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった	女性	20.8	22.2	9.1	7.1	0.0	18.8
	男性	9.5	0.0	7.7	100.0	-	15.4
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると	女性	16.7	2.2	0.0	0.0	0.0	12.5
	男性	2.4	25.0	7.7	100.0	-	0.0
そのことについて考えたくない、思い出したくなかった	女性	16.7	8.9	0.0	8.6	0.0	12.5
	男性	9.5	0.0	7.7	0.0	-	0.0
自分にも悪いところがあると思った	女性	37.5	15.6	9.1	28.6	0.0	18.8
	男性	21.4	25.0	15.4	100.0	-	46.2
相手の行為は愛情の表現だと思った	女性	0.0	2.2	0.0	4.3	0.0	6.3
	男性	4.8	0.0	7.7	0.0	-	0.0
相談するほどのことではないと思った	女性	41.7	53.3	45.5	52.9	0.0	12.5
	男性	52.4	50.0	46.2	0.0	-	38.5
その他	女性	4.2	6.7	0.0	11.4	0.0	6.3
	男性	11.9	0.0	15.4	0.0	-	0.0

## 【性別×地域別】

- 新町地域を除くすべての地域で「相談するほどのことではない」が最も高い
- 新町地域は「相談してもむだ」、榛名地域は「自分さえがまんすれば、なんとかやっつけてける」「自分にも悪いところがある」「相談するほどのことではない」が同値

回答者がいない倉淵地域を除くと、新町地域を除くすべての地域で「相談するほどのことではないと思った」が最も高く、特に箕郷地域（69.2%）は約7割と比較的高くなっています。新町地域は「相談してもむだだと思った」（41.7%）、榛名地域は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっつけていけると思った」「自分にも悪いところがあると思った」「相談するほどのことでもないと思った」も同値（46.2%）で最も高くなっています。

(%)	高崎 地域	倉淵 地域	箕郷 地域	群馬 地域	新町 地域	榛名 地域	吉井 地域
N=	166	0	13	19	12	13	18
どこ(だれ)に相談したらよいかわからなかった	10.2	-	7.7	15.8	16.7	7.7	5.6
恥ずかしくてだれにも言えなかった	14.5	-	0.0	31.6	8.3	7.7	16.7
相談してもむだだと思った	28.3	-	38.5	26.3	41.7	38.5	22.2
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った	4.2	-	7.7	5.3	0.0	7.7	0.0
加害者に「だれにも言うな」とおどされた	1.2	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った	4.2	-	7.7	5.3	0.0	0.0	5.6
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっつけていけると思った	30.1	-	38.5	21.1	33.3	46.2	27.8
世間体が悪いと思った	7.8	-	0.0	10.5	0.0	15.4	5.6
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった	12.7	-	15.4	21.1	8.3	15.4	11.1
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思った	4.2	-	0.0	15.8	0.0	7.7	0.0
そのことについて考えたくない、思い出したくなかった	9.0	-	15.4	10.5	0.0	7.7	5.6
自分にも悪いところがあると思った	23.5	-	15.4	21.1	25.0	46.2	27.8
相手の行為は愛情の表現だと思った	2.4	-	15.4	5.3	8.3	0.0	0.0
相談するほどのことではないと思った	45.8	-	69.2	52.6	25.0	46.2	50.0
その他	9.0	-	0.0	15.8	8.3	0.0	5.6

【性別×結婚経験別】

- 男性「結婚したことはない」は「相談してもむだ」、それ以外は「相談するほどのことではない」が最も高い

回答者数が少ない女性「結婚したことはない」、男性「以前結婚していたが、現在はしていない」を除くと、男性「結婚したことはない」を除き男女とも「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっています。男性「結婚したことはない」は「相談してもむだだと思った」(54.5%)が最も高くなっています。

	N=	女性	(%)		
			結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
		女性	134	24	9
		男性	58	5	11
どこ(だれ)に相談したらよいのかわからなかった		女性	8.2	8.3	22.2
		男性	10.3	0.0	36.4
恥ずかしくてだれにも言えなかった		女性	12.7	16.7	33.3
		男性	13.8	20.0	18.2
相談してもむだだと思った		女性	28.4	29.2	33.3
		男性	27.6	20.0	54.5
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った		女性	1.5	4.2	22.2
		男性	5.2	0.0	18.2
加害者に「だれにも言うな」とおどされた		女性	0.0	0.0	0.0
		男性	1.7	0.0	9.1
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った		女性	3.0	4.2	22.2
		男性	5.2	0.0	0.0
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った		女性	32.8	33.3	33.3
		男性	22.4	40.0	36.4
世間体が悪いと思った		女性	7.5	4.2	0.0
		男性	10.3	0.0	9.1
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった		女性	14.9	4.2	33.3
		男性	13.8	0.0	0.0
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思った		女性	3.0	4.2	22.2
		男性	5.2	0.0	9.1
そのことについて考えたくない、思い出したくなかった		女性	9.0	12.5	11.1
		男性	6.9	0.0	9.1
自分にも悪いところがあると思った		女性	24.6	16.7	33.3
		男性	25.9	0.0	36.4
相手の行為は愛情の表現だと思った		女性	2.2	0.0	22.2
		男性	1.7	0.0	18.2
相談するほどのことではないと思った		女性	49.3	37.5	33.3
		男性	55.2	20.0	18.2
その他		女性	7.5	8.3	11.1
		男性	10.3	20.0	0.0

## 【性別×働き方別】

- 男女とも「二人とも働いていない」を除き「相談するほどのことではない」が最も高い
- 「二人とも働いていない」は女性「自分さえがまんすれば、なんとかやっつけていける」、男性「自分にも悪いところがある」が最も高い

男女とも「二人とも働いていない」を除いて「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっています。女性「二人とも働いていない」は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっつけていけると思った」(45.7%)、男性「二人とも働いていない」は「自分にも悪いところがあると思った」(45.5%)が最も高くなっています。

	N=	女性	(%)		
			共働きである	どちらか一人だけ働いている	二人とも働いていない
		女性	53	44	35
		男性	28	18	11
どこ(だれ)に相談したらよいのかわからなかった		女性	5.7	9.1	11.4
		男性	17.9	5.6	0.0
恥ずかしくてだれにも言えなかった		女性	15.1	11.4	11.4
		男性	14.3	16.7	9.1
相談してもむだだと思った		女性	34.0	22.7	25.7
		男性	21.4	27.8	36.4
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った		女性	3.8	0.0	0.0
		男性	7.1	0.0	0.0
加害者に「だれにも言うな」とおどされた		女性	0.0	0.0	0.0
		男性	0.0	0.0	0.0
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った		女性	5.7	0.0	0.0
		男性	3.6	5.6	9.1
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっつけていけると思った		女性	34.0	20.5	45.7
		男性	25.0	16.7	18.2
世間体が悪いと思った		女性	7.5	6.8	5.7
		男性	7.1	5.6	18.2
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった		女性	20.8	18.2	0.0
		男性	10.7	11.1	18.2
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思った		女性	5.7	0.0	2.9
		男性	7.1	0.0	0.0
そのことについて考えたくない、思い出したくなかった		女性	9.4	9.1	5.7
		男性	10.7	5.6	0.0
自分にも悪いところがあると思った		女性	24.5	20.5	31.4
		男性	17.9	22.2	45.5
相手の行為は愛情の表現だと思った		女性	0.0	4.5	2.9
		男性	3.6	0.0	0.0
相談するほどのことではないと思った		女性	50.9	63.6	28.6
		男性	46.4	83.3	36.4
その他		女性	5.7	11.4	5.7
		男性	14.3	5.6	9.1

【性別×他調査との比較】

- 「相談するほどのことではない」は男女とも国より低く、全体値は群馬県と同程度
- 「自分さえがまんすれば、なんとかやっつけていける」「相談してもむだ」は男女とも国より高く、全体値は群馬県と同程度

全体傾向で値が比較的高い項目について見ると、「相談するほどのことではないと思った」は男女とも内閣府より低く、全体値は群馬県と同程度になっています。

「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっつけていけるといった」や「相談してもむだだと思った」は男女とも内閣府より高く、全体値は群馬県と同程度になっています。

		(%)	高崎市	群馬県	内閣府
N=	全体	244	62	169	
	女性	167	-	98	
	男性	74	-	71	
どこ(だれ)に相談したらよいかわからなかった	全体	10.7	3.2	7.1	
	女性	9.0	-	8.2	
	男性	13.5	-	5.6	
恥ずかしくてだれにも言えなかった	全体	14.3	16.1	14.8	
	女性	14.4	-	17.3	
	男性	14.9	-	11.3	
相談してもむだだと思った	全体	29.5	27.4	15.4	
	女性	28.7	-	12.2	
	男性	31.1	-	19.7	
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けるといった	全体	4.1	3.2	1.2	
	女性	3.0	-	1.0	
	男性	6.8	-	1.4	
加害者に「だれにも言うな」とおどされた	全体	0.8	1.6	0.0	
	女性	0.0	-	0.0	
	男性	2.7	-	0.0	
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないといった	全体	4.1	0.0	1.8	
	女性	4.2	-	2.0	
	男性	4.1	-	1.4	
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっつけていけるといった	全体	30.3	29.0	18.9	
	女性	32.9	-	22.4	
	男性	25.7	-	14.1	
世間体が悪いといった	全体	7.4	6.5	9.5	
	女性	6.6	-	9.2	
	男性	9.5	-	9.9	
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった	全体	13.9	12.9	5.3	
	女性	14.4	-	7.1	
	男性	10.8	-	2.8	
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい(仕事や学校などの人間関係)ができなくなるといった	全体	4.5	1.6	1.8	
	女性	4.2	-	2.0	
	男性	5.4	-	1.4	
そのことについて考えたくない、思い出さなくなかった	全体	8.6	8.1	4.7	
	女性	9.6	-	5.1	
	男性	6.8	-	4.2	
自分にも悪いところがあるといった	全体	24.2	32.3	39.1	
	女性	24.0	-	35.7	
	男性	25.7	-	43.7	
相手の行為は愛情の表現だといった	全体	3.3	9.7	9.5	
	女性	3.0	-	10.2	
	男性	4.1	-	8.5	
相談するほどのことではないといった	全体	46.3	45.2	57.4	
	女性	46.7	-	50.0	
	男性	47.3	-	67.6	
その他	全体	8.2	6.5	12.4	
	女性	7.8	-	16.3	
	男性	9.5	-	7.0	

※「群馬県」は公開されている全体値のみを表示

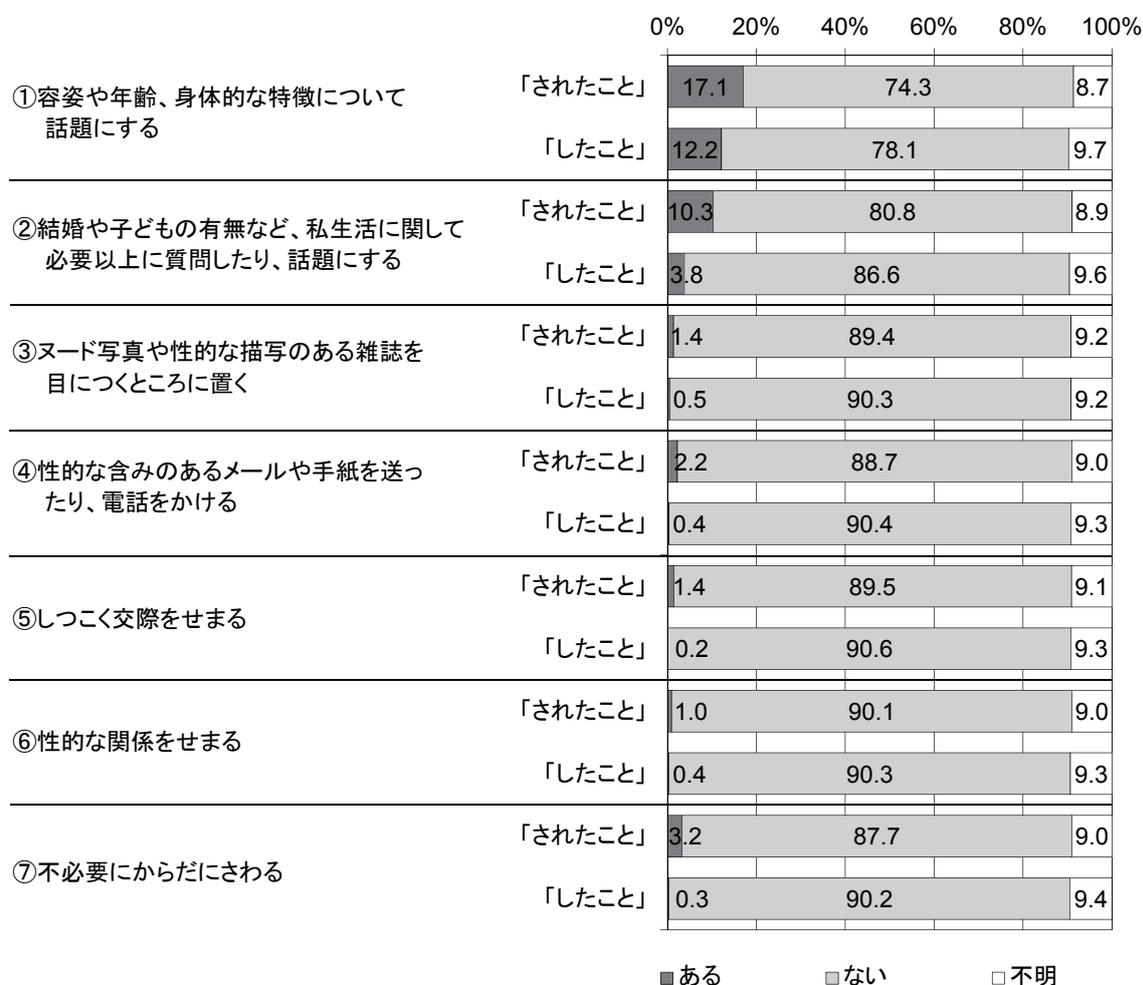
## 9 セクシャル・ハラスメントについて

問 14 あなたは過去 3 年以内に、職場や学校、地域での活動の中で、次のようなことを「されたこと」や「したこと」がありますか。

【全項目・全体】

- ほとんどの項目で「されたこと」「したこと」とともにあまり見られない。
- 「①容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」は「されたこと」あるが約 2 割、「したこと」あるが約 1 割

いずれの項目も「されたこと」「したこと」とともに「ない」がほとんどを占めています。その中で「①容姿や年齢、身体的な特徴について話題にする」は「されたこと」「したこと」とともに「ある」（それぞれ 17.1%、12.2%）が比較的高くなっています。

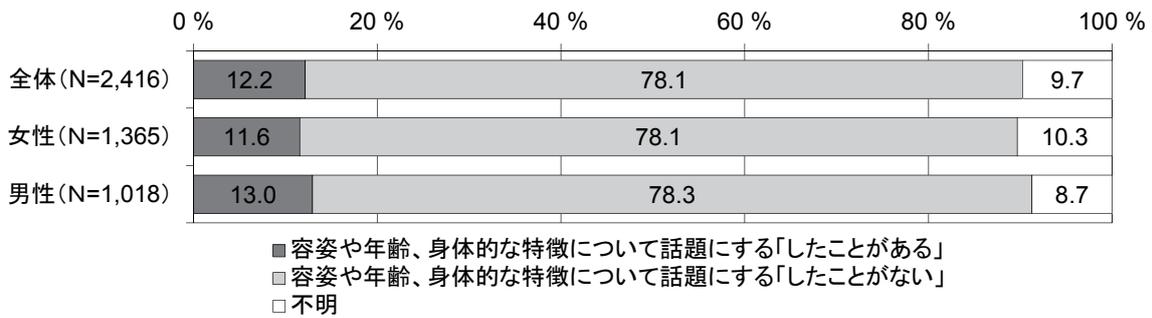
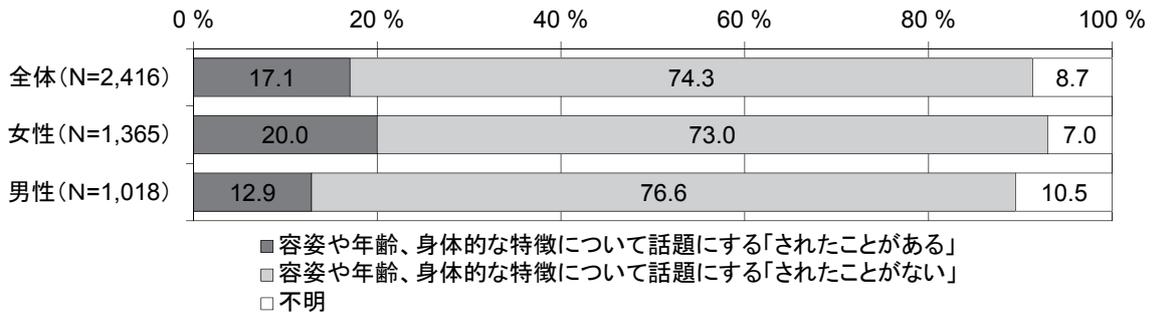


①容姿や年齢、身体的な特徴について話題にする

【全体・性別】

- 「されたことがある」は女性が約2割で比較的高い
- 「したことがある」は男女とも約1割

「されたことがある」は女性（20.0%）が約2割で比較的高くなっています。  
 一方、「したことがある」は、男女とも約1割で性別による大きな差は見られません。

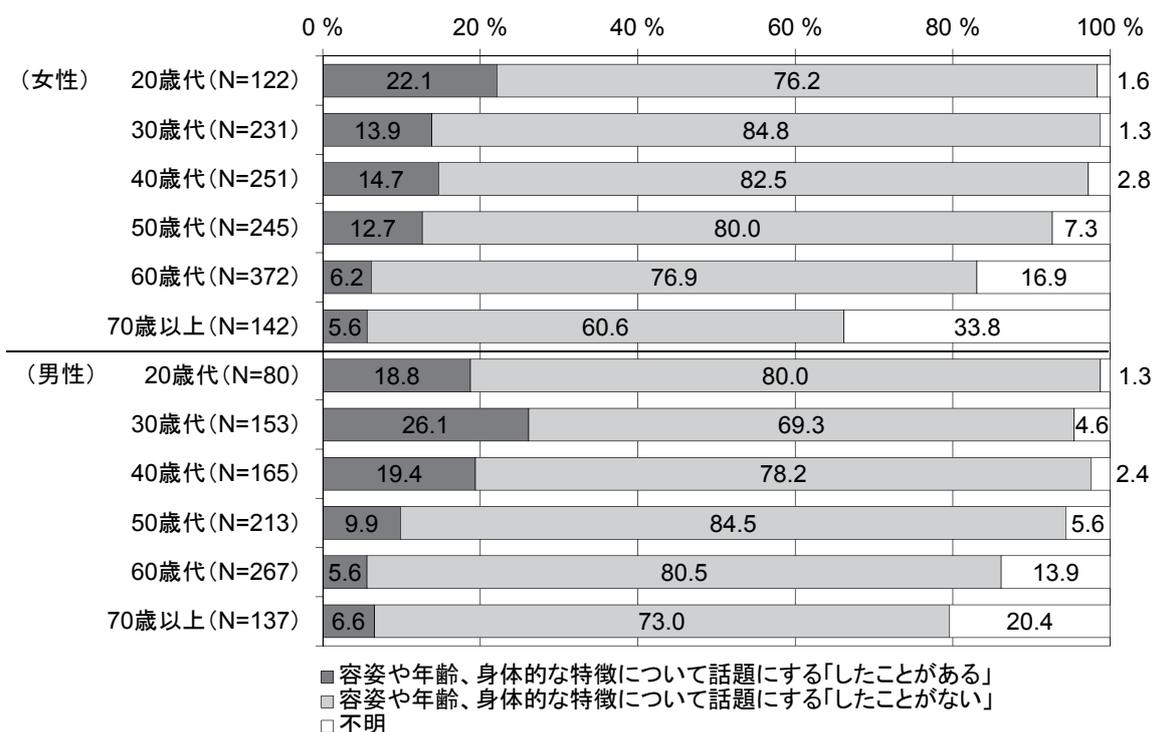
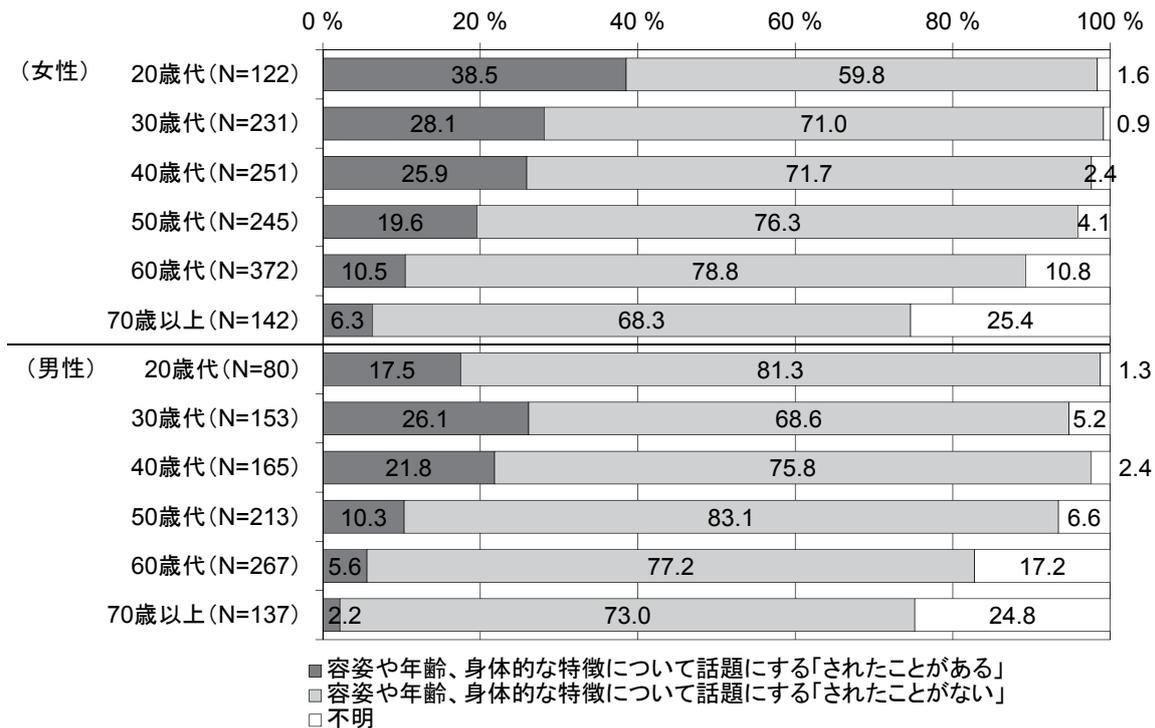


【性別×年代別】

- 「されたことがある」はすべての年代で女性が高く、女性 20 歳代が約 4 割で最も高い
- 「したことがある」は男性 30 歳代が約 3 割で最も高い
- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも若い年代ほど値が高い傾向

「されたことがある」は女性 20 歳代(38.5%)が約 4 割で最も高く、男性 20 歳代(17.5%)を除いて男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。また、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性 30 歳代(26.1%)が約 3 割で最も高く、男性 20 歳代(18.8%)を除いて男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。

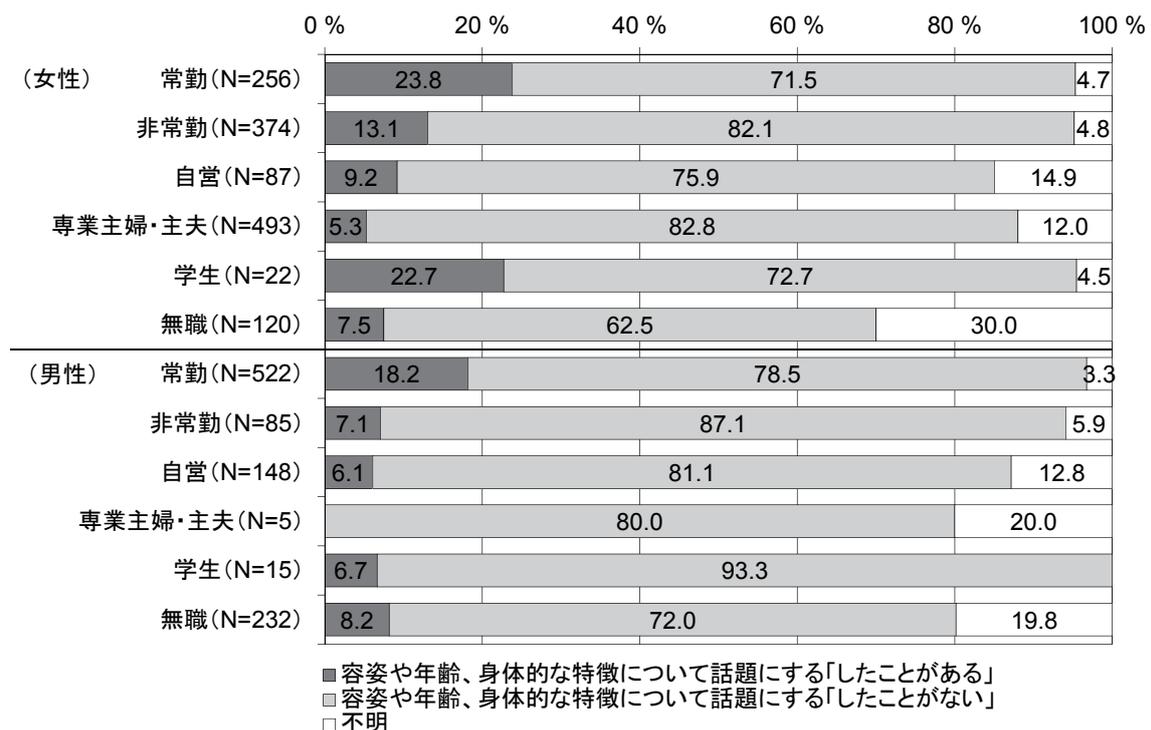
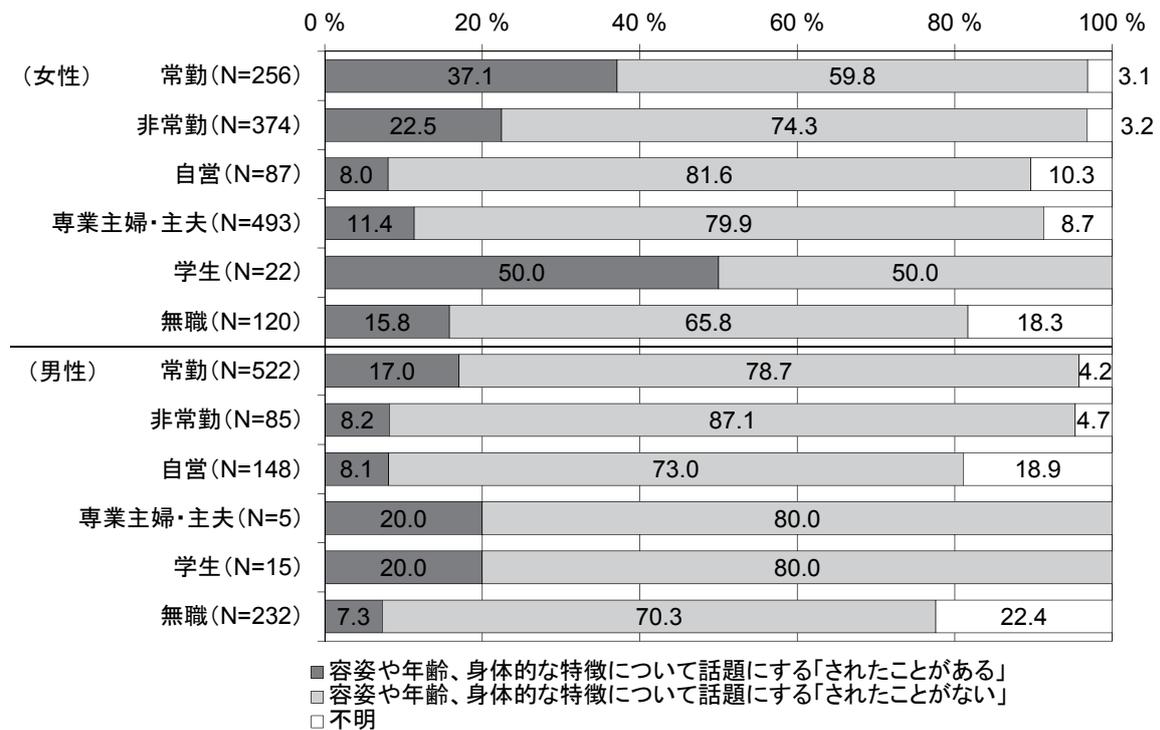


【性別×職業別】

- 「されたことがある」は女性学生が5割で最も高く、女性常勤も約4割
- 「したことがある」は女性常勤・学生、男性常勤が約2割

「されたことがある」は女性学生（50.0%）が5割で特に高く、女性常勤（37.1%）も高くなっています。

一方、「したことがある」は女性常勤（23.8%）や女性学生（22.7%）、男性常勤（18.2%）が約2割で比較的高くなっています。

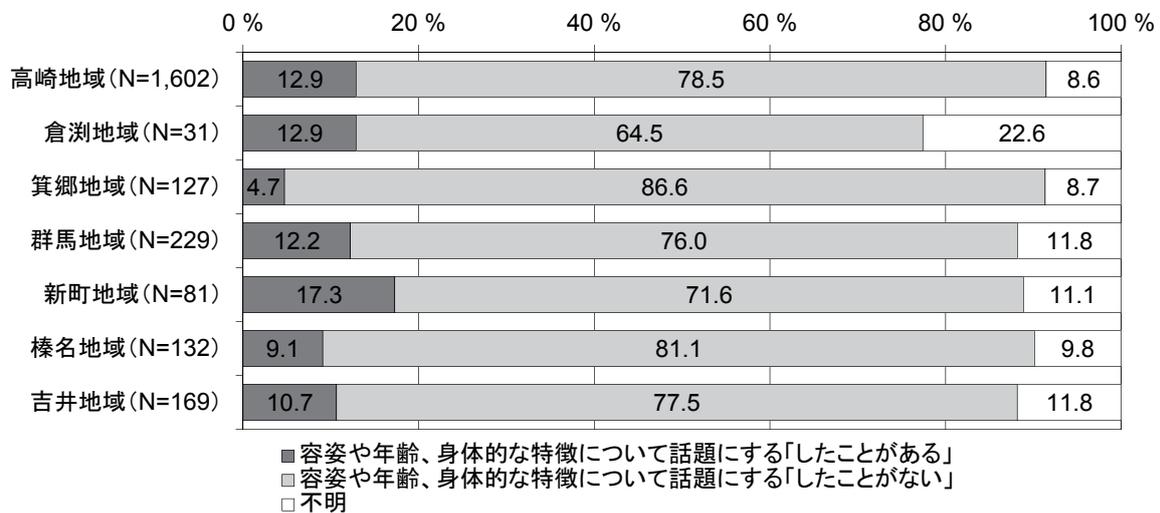
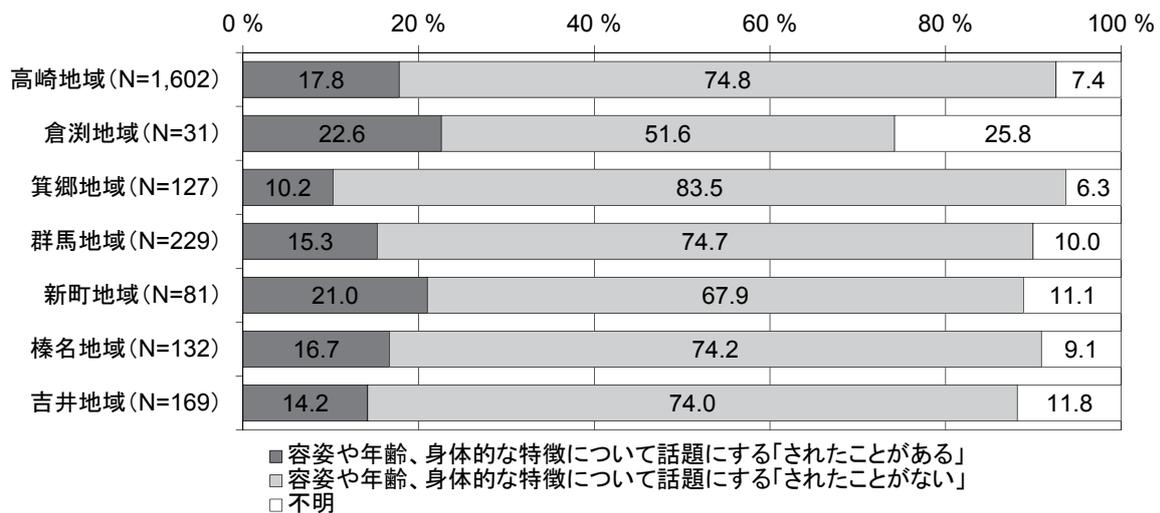


【地域別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに新町地域が比較的高く、箕郷地域が比較的低い

「されたことがある」は倉渚地域（22.6%）や新町地域（21.0%）が2割以上で比較的高くなっています。また、箕郷地域（10.2%）が比較的低くなっています。

一方、「したことがある」は新町地域（17.3%）が比較的高くなっています。また、箕郷地域（4.7%）が比較的低くなっています。

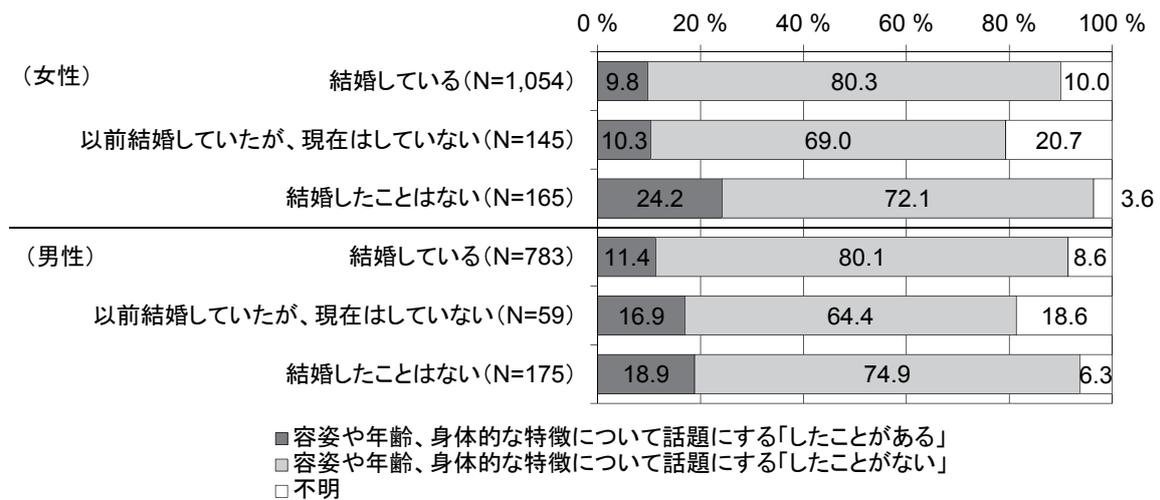
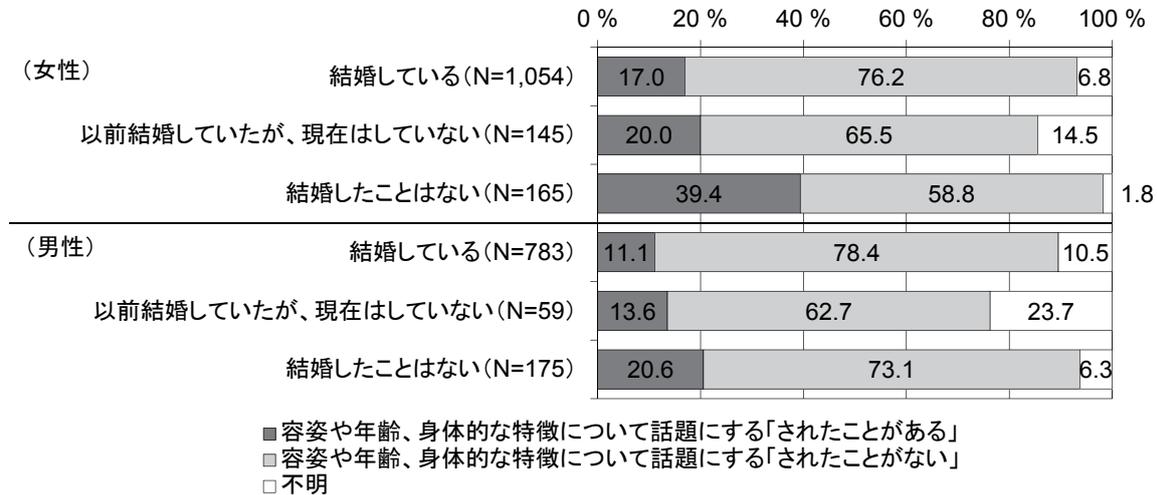


【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに女性「結婚したことがない」が比較的高い

「されたことがある」は女性「結婚したことはない」(39.4%)が約4割で特に高くなっています。

また、「したことがある」も女性「結婚したことはない」(24.2%)が2割以上で比較的高くなっています。

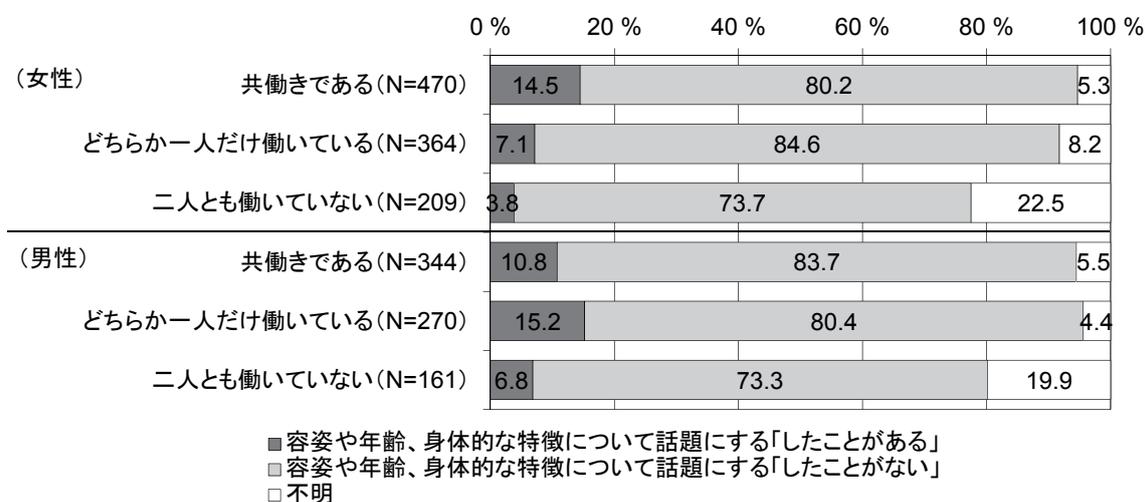
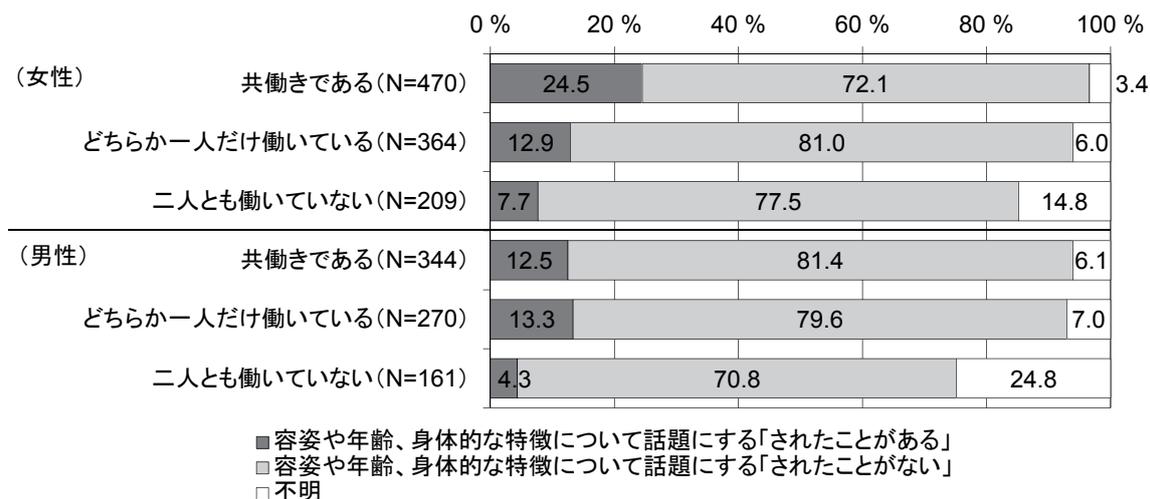


【性別×働き方別】

- 「されたことがある」は女性「共働き」が特に高い
- 「したことがある」は女性「共働き」や男性「どちらか一人だけ働いている」が比較的高い

「されたことがある」は女性「共働きである」(24.5%)が2割以上で特に高くなっています。

一方、「したことがある」は女性「共働きである」(14.5%)や男性「どちらか一人だけ働いている」(15.2%)が比較的高くなっています。

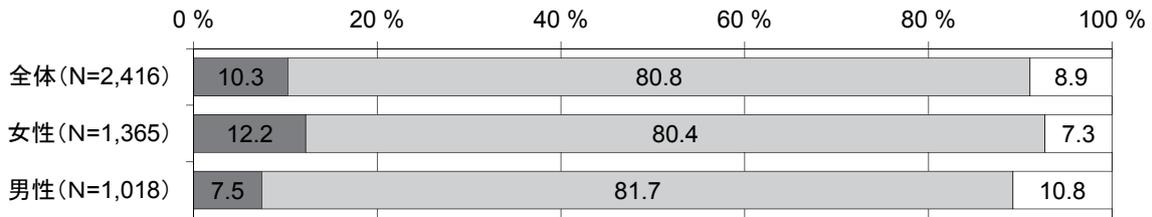


②結婚や子どもの有無など、私生活に関して必要以上に質問したり、話題にする

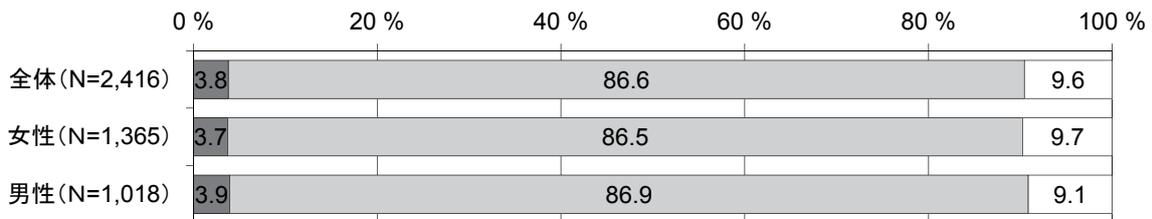
【全体・性別】

- 「されたことがある」は女性が1割以上で比較的高い
- 「したことがある」は男女とも1割未満

「されたことがある」は女性（12.2%）が1割以上で比較的高くなっています。  
 一方、「したことがある」は男女とも1割未満で、性別による大きな差は見られません。



■ 結婚や子どもの有無など、私生活に関して必要以上に質問したり、話題にする「されたことがある」  
 □ 結婚や子どもの有無など、私生活に関して必要以上に質問したり、話題にする「されたことがない」  
 □ 不明



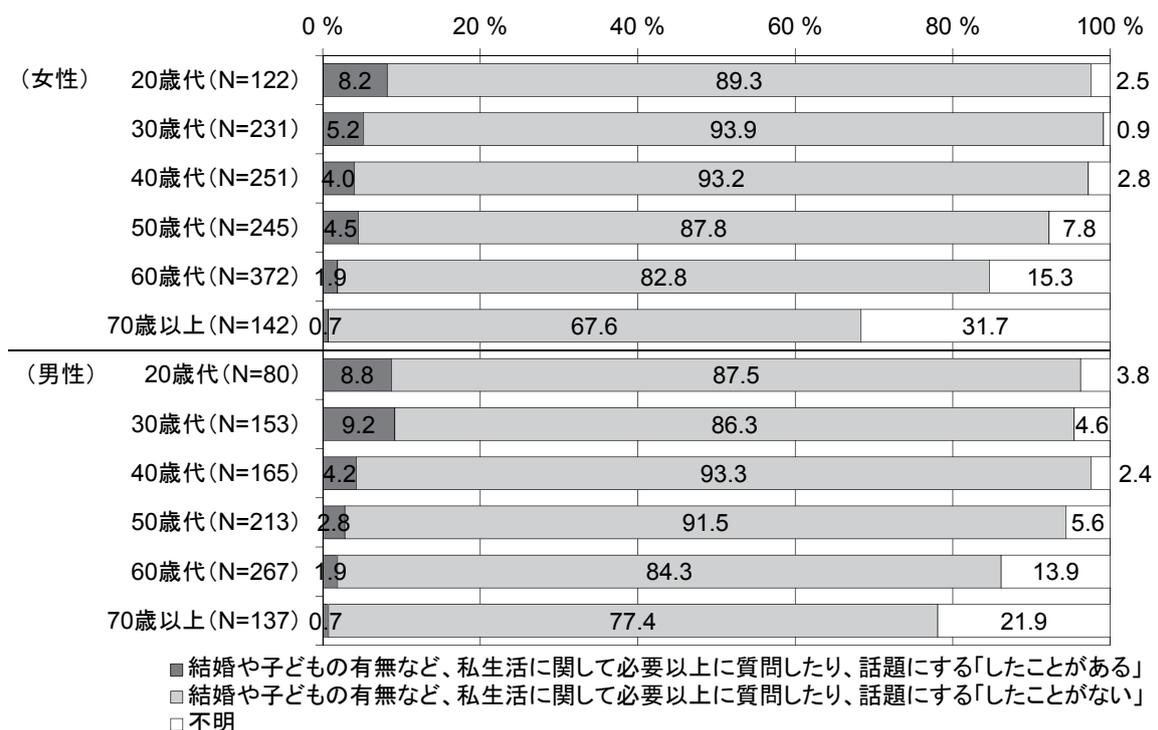
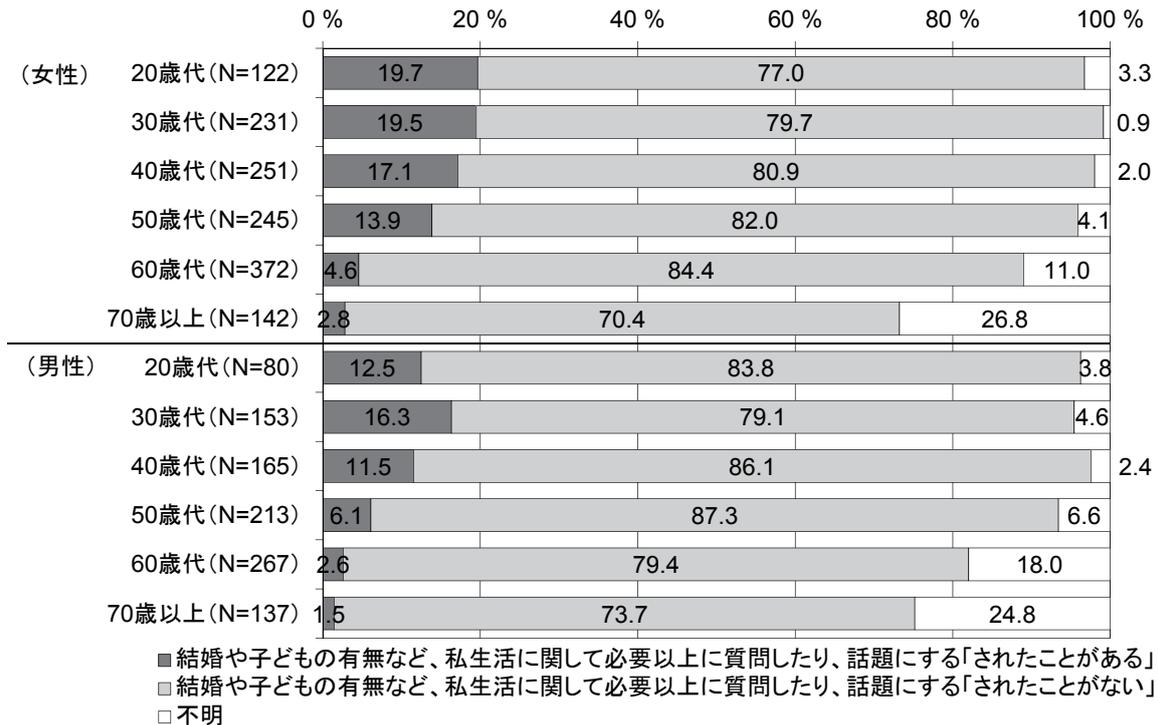
■ 結婚や子どもの有無など、私生活に関して必要以上に質問したり、話題にする「したことがある」  
 □ 結婚や子どもの有無など、私生活に関して必要以上に質問したり、話題にする「したことがない」  
 □ 不明

【性別×年代別】

- 「されたことがある」は女性 40 歳代以下が約 2 割で比較的高い
- 「したことがある」は女性 20 歳代・男性 30 歳代以下が約 1 割で比較的高い
- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも若い年代ほど値が高い傾向

「されたことがある」は女性 20・30・40 歳代（それぞれ 19.7%、19.5%、17.1%）が約 2 割で比較的高く、男性 20 歳代（12.5%）を除いて男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。また、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は女性 20 歳代（8.2%）、男性 20・30 歳代（それぞれ 8.8%、9.2%）が約 1 割で比較的高く、男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。

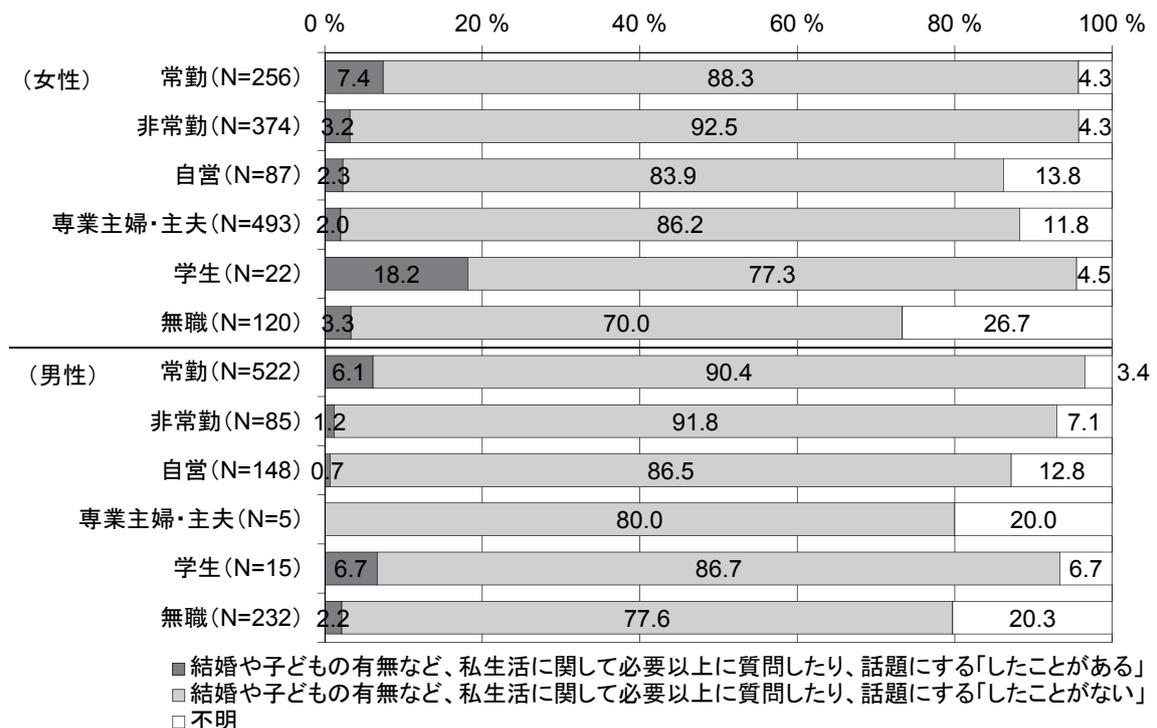
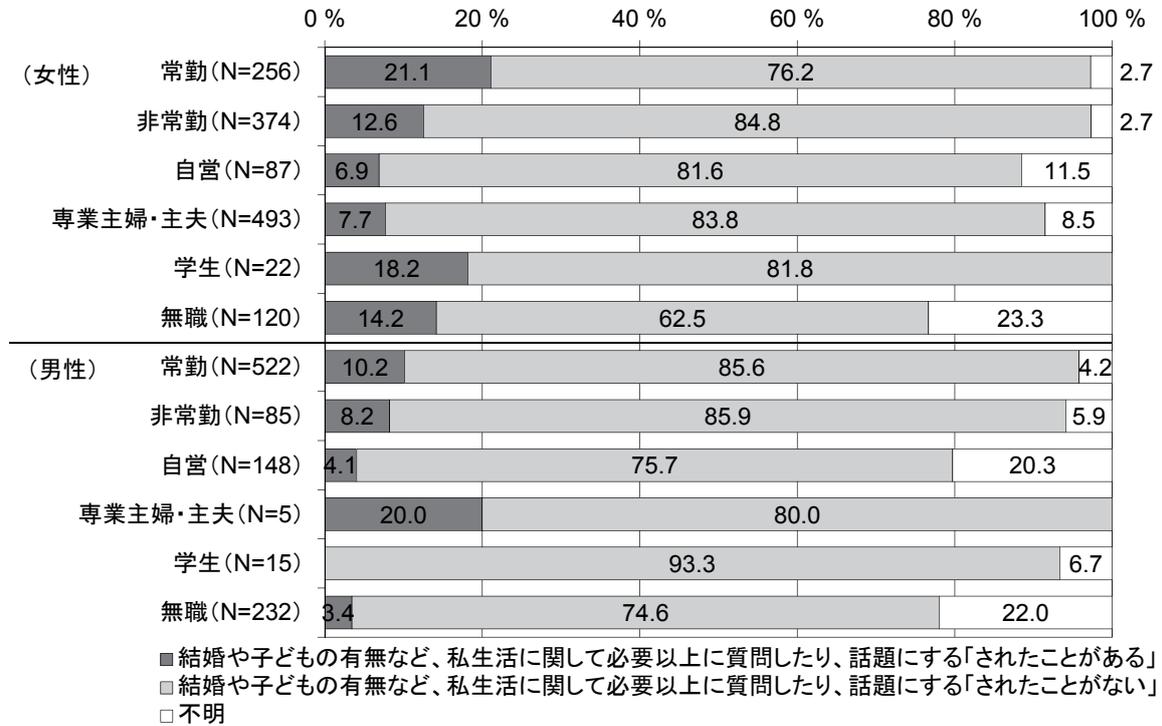


【性別×職業別】

- 「されたことがある」は女性常勤・学生が約2割で比較的高い
- 「したことがある」は女性学生が約2割で特に高い

回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、「されたことがある」は、女性常勤（21.1%）や女性学生（18.2%）が約2割で比較的高くなっています。

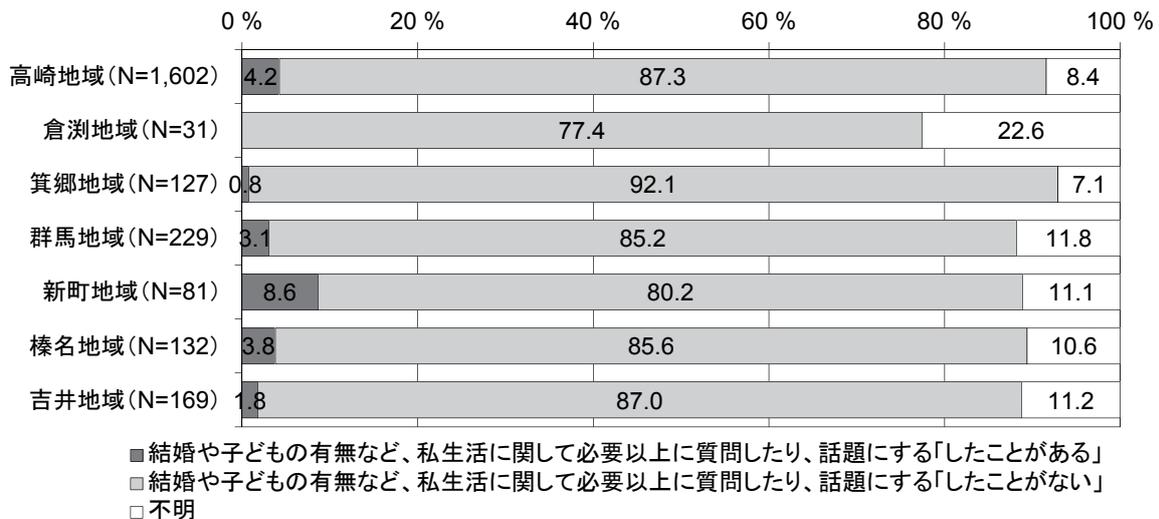
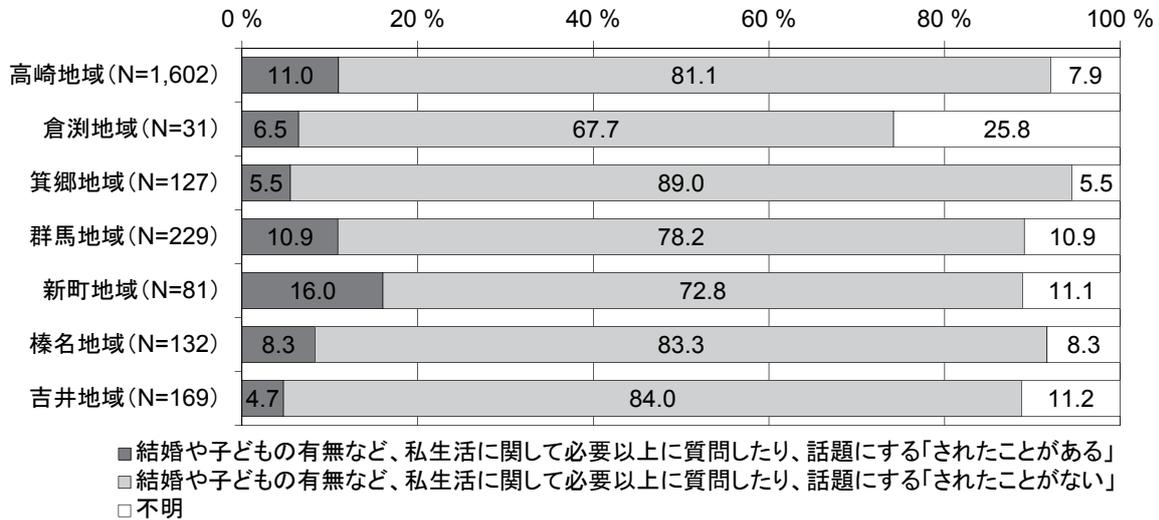
一方、「したことがある」は女性学生（18.2%）が約2割で特に高くなっています。



【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに新町地域が比較的高い

「されたことがある」「したことがある」ともに、新町地域（それぞれ 16.0%、8.6%）が比較的高くなっています。

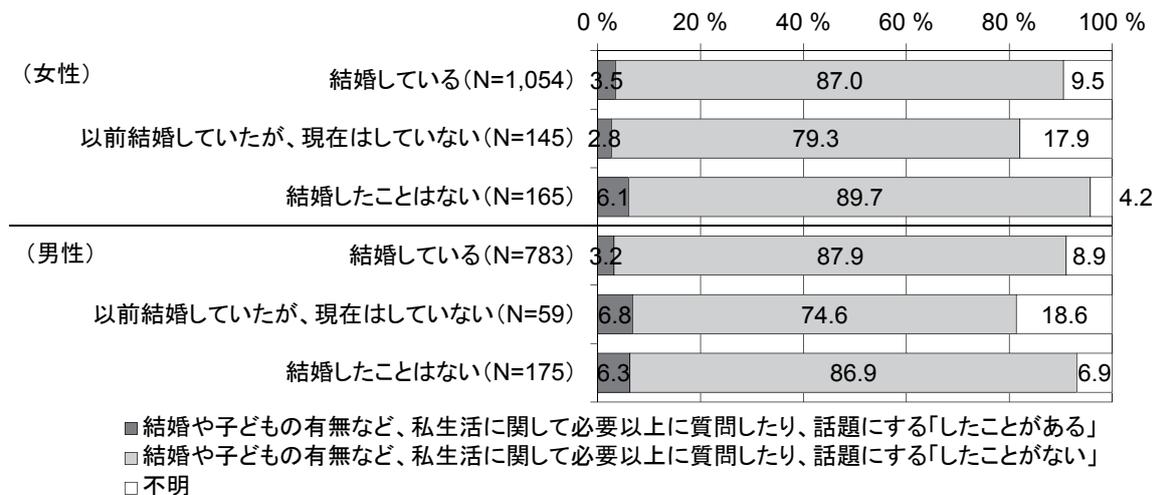
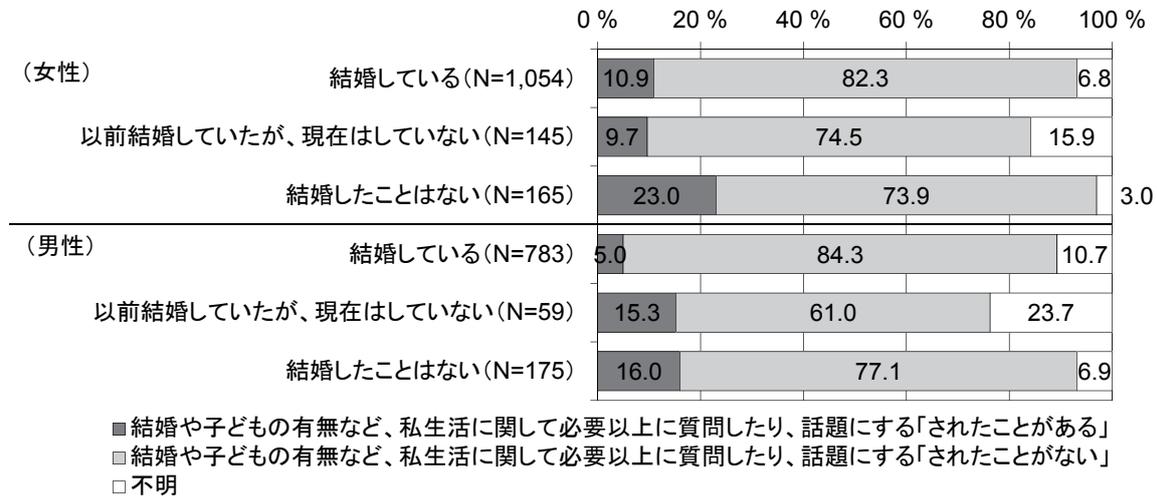


【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」は女性「結婚したことがない」が2割以上で最も高い
- 「したことがある」は男女とも結婚経験による大きな差は見られない

「されたことがある」は女性「結婚したことはない」(23.0%)が2割以上で最も高くなっています。

一方、「したことがある」は男女とも結婚経験による大きな差は見られません。

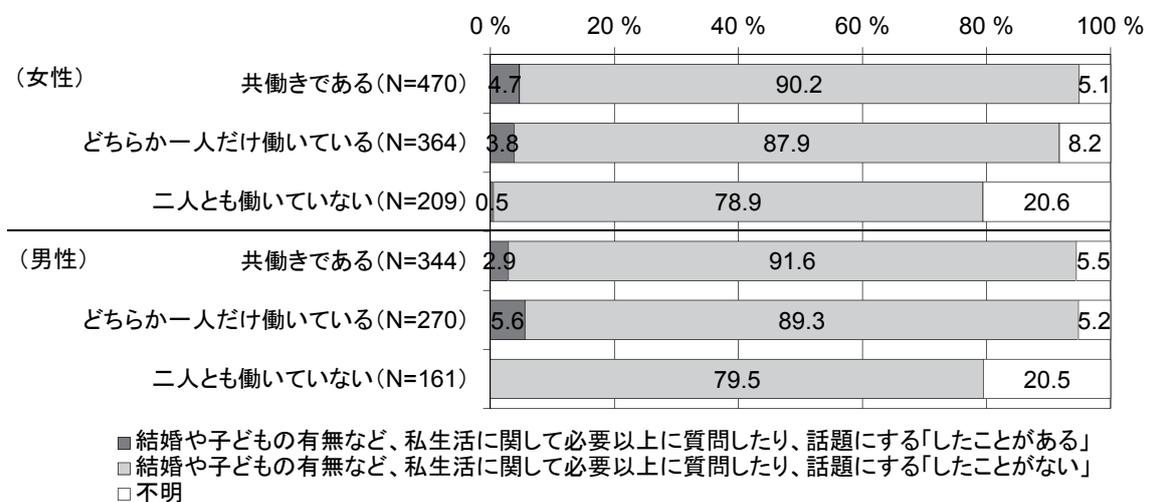
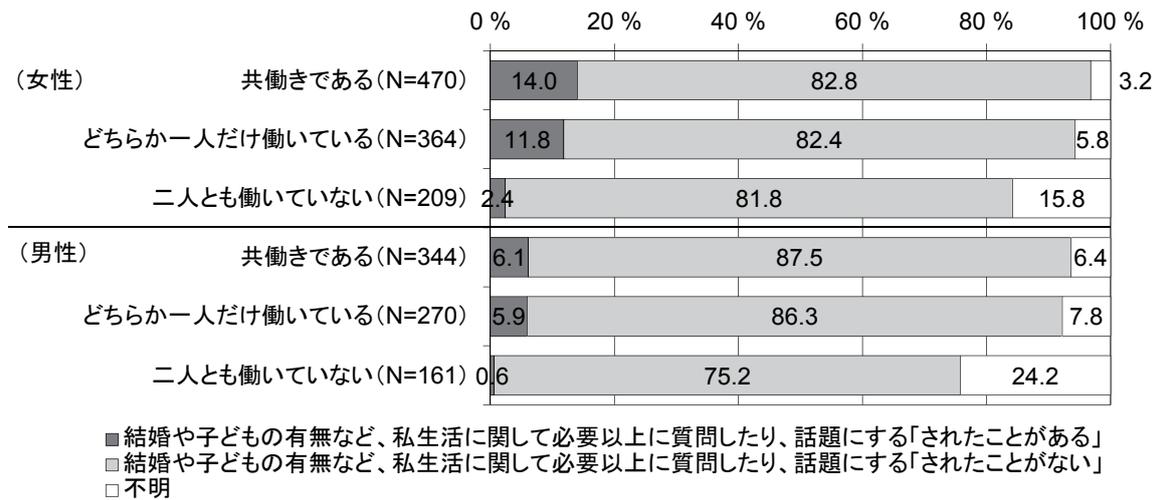


【性別×働き方別】

- 「されたことがある」は女性「共働き」「どちらか一人だけ働いている」が比較的高い
- 「したことがある」は男女とも働き方による大きな差は見られない

「されたことがある」は女性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」（それぞれ14.0%、11.8%）が1割以上で比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は男女とも働き方による大きな差は見られませんが、「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも「二人とも働いていない」が低くなっています。

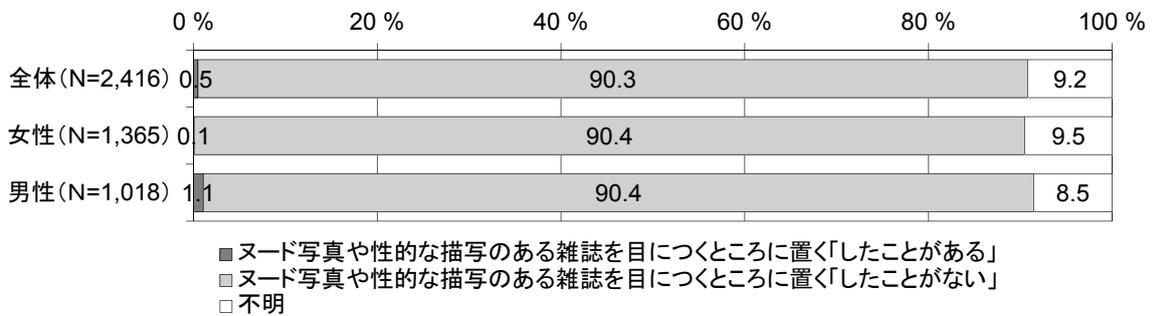
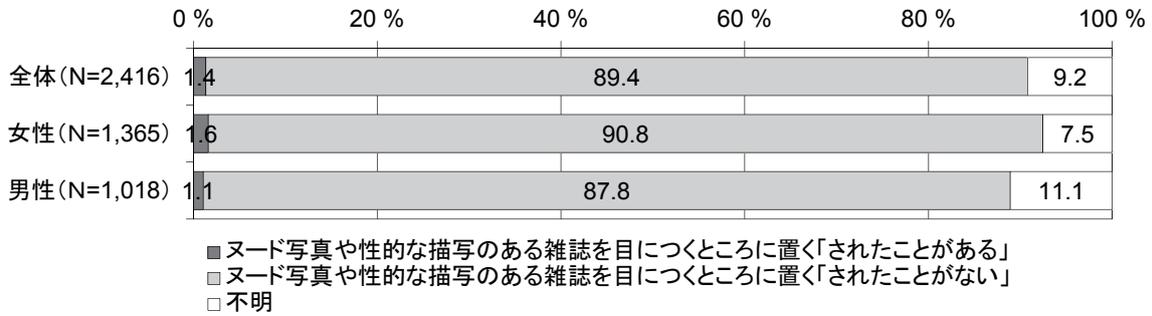


③ヌード写真や性的な描写のある雑誌等を目につくところに置く

【全体・性別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られない

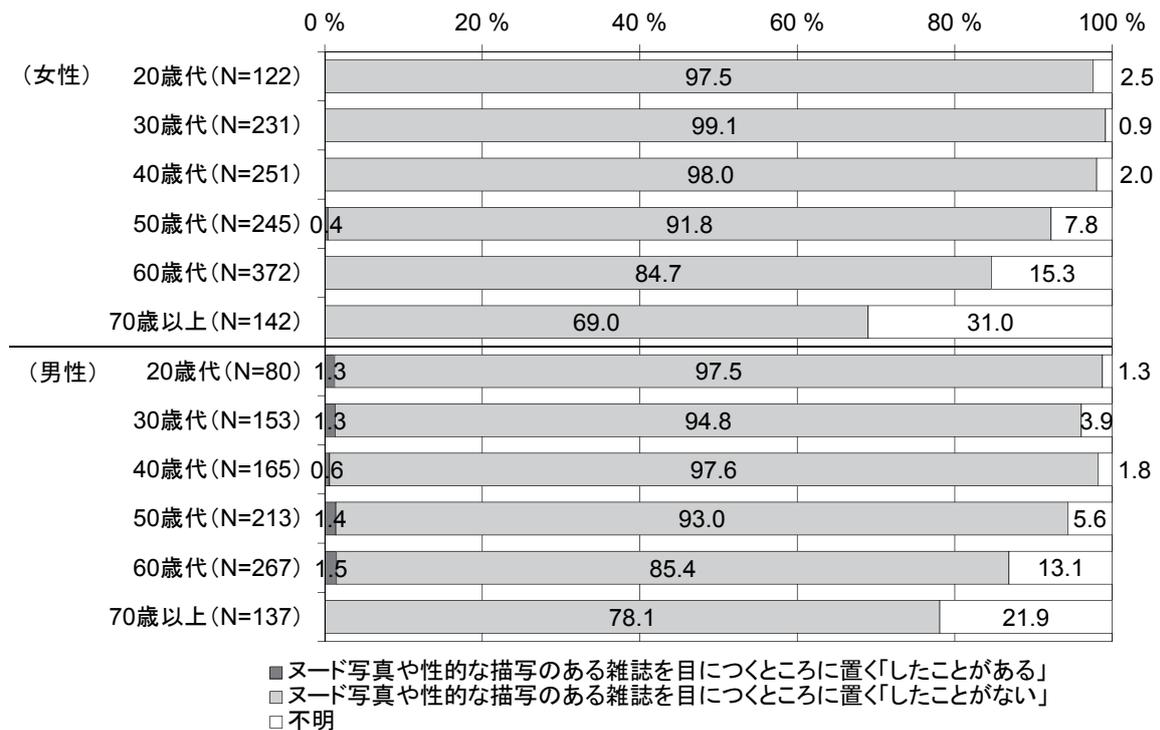
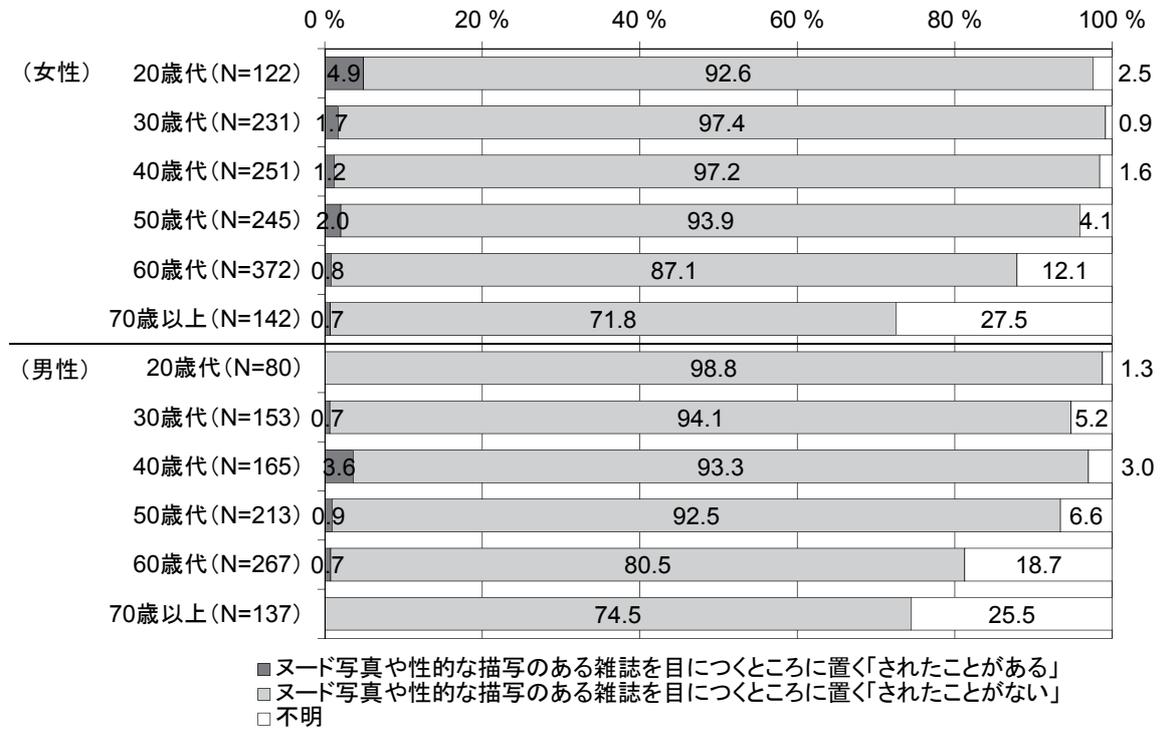
「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られません。



【性別×年代別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともすべての年代でほとんど見られない

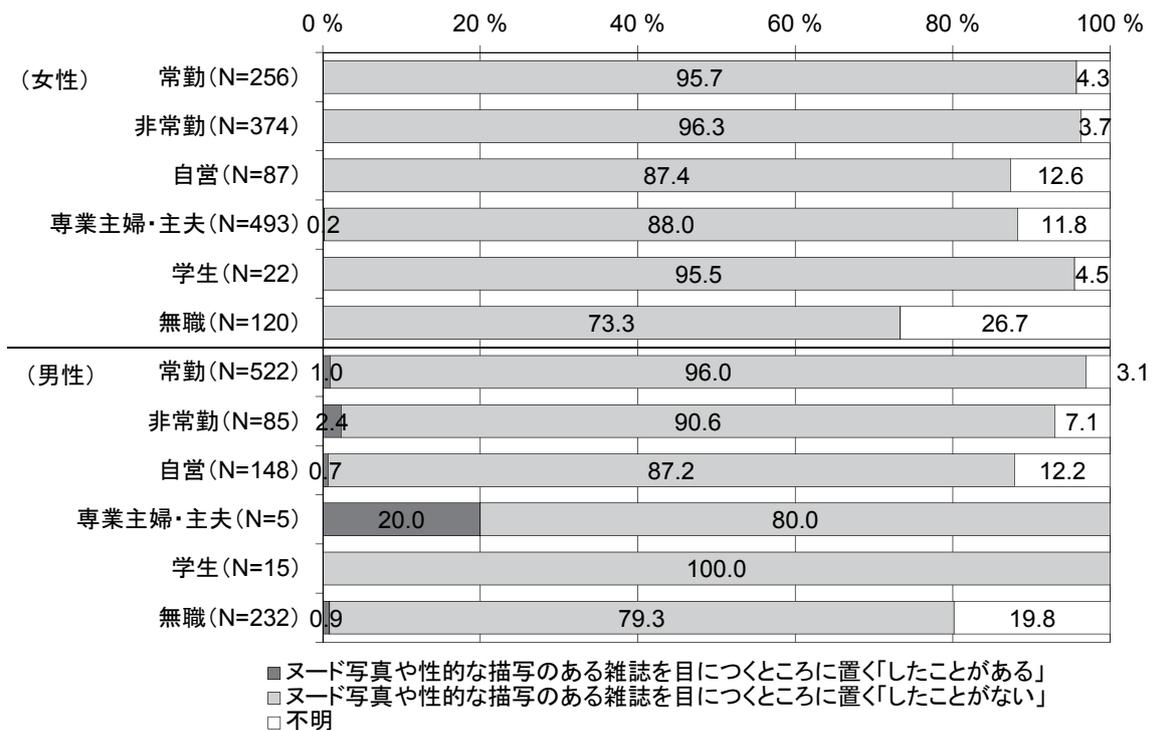
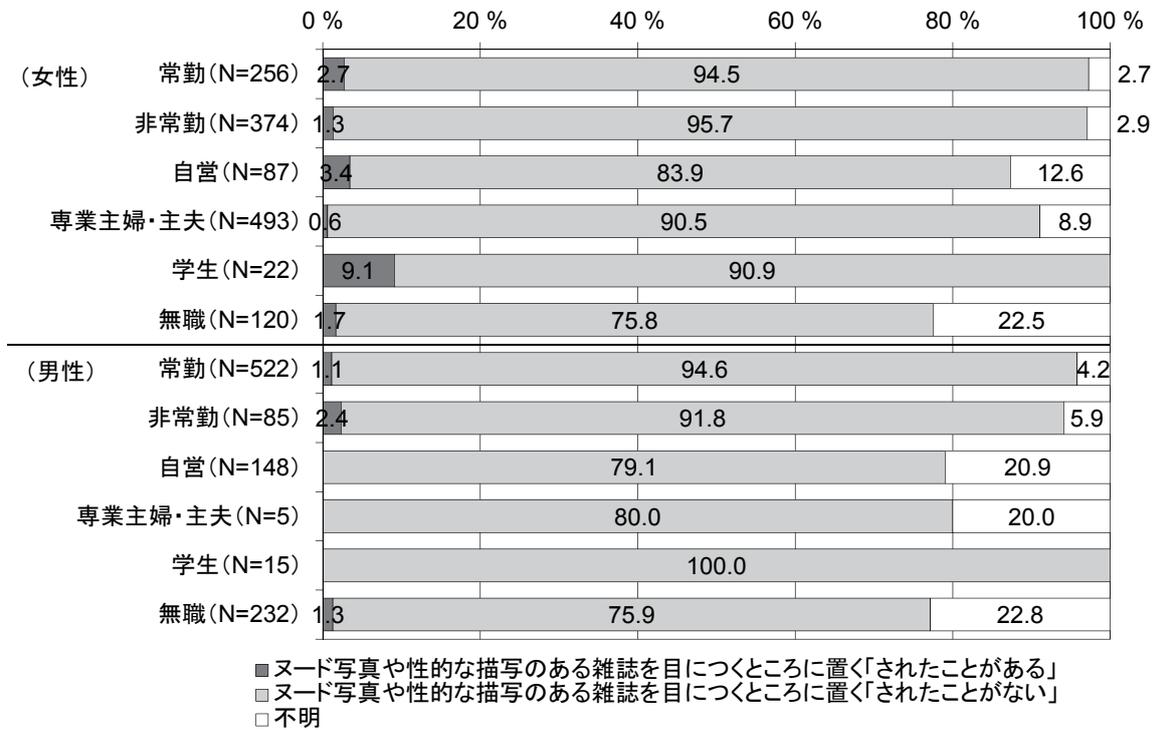
「されたことがある」は女性 20 歳代（4.9%）や男性 40 歳代（3.6%）が若干高くなっていますが、「されたこと」「したことがある」はともに、男女ともすべての年代でほとんど見られません。



【性別×職業別】

- 「されたことがある」は女性学生が約1割で比較的高い
- 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

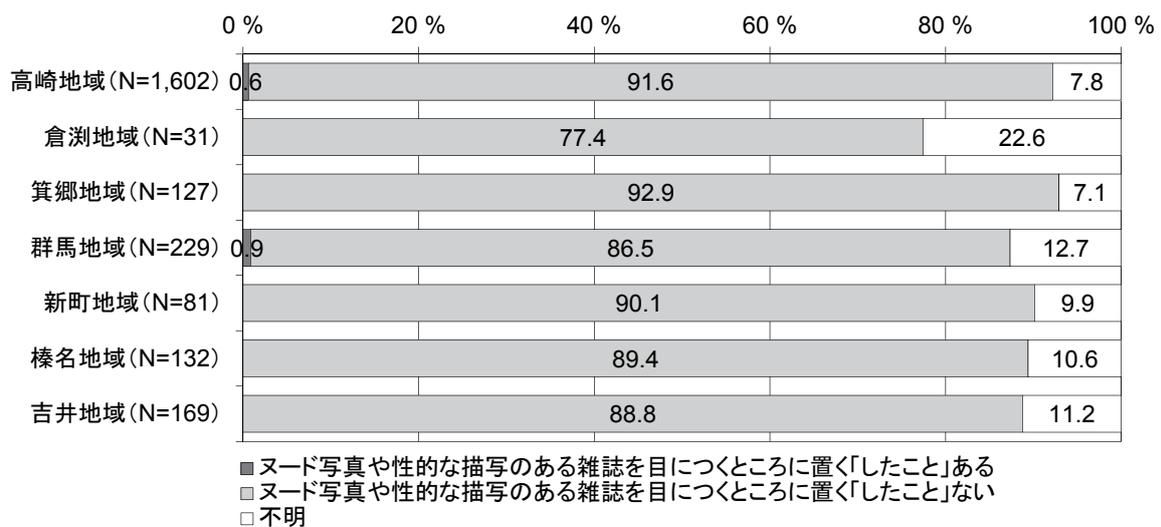
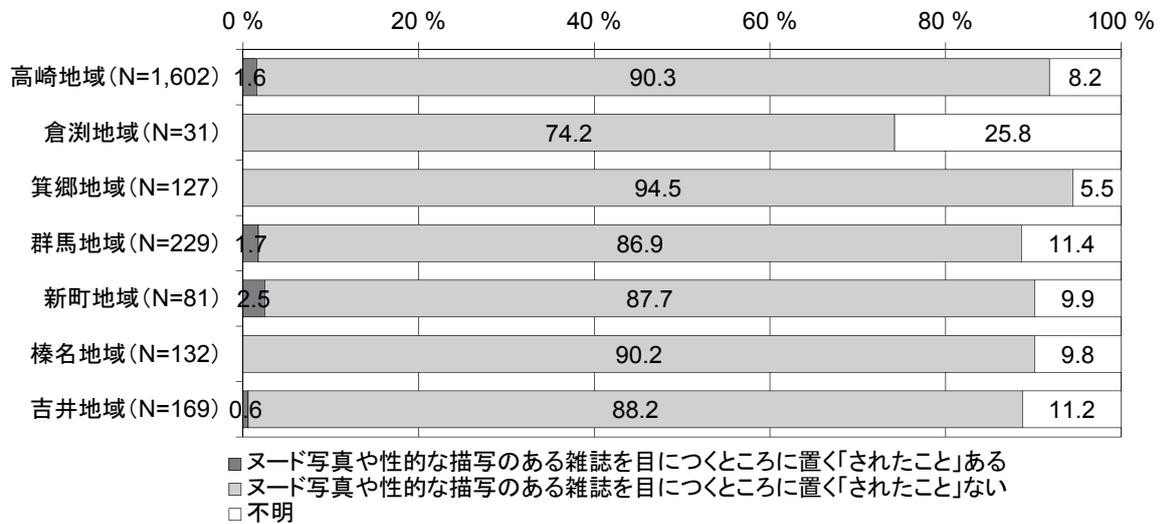
「されたことがある」は女性学生（9.1%）が約1割で比較的高くなっています。  
 一方、「したことがある」は、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、男女ともすべての職業でほとんど見られません。



【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られない

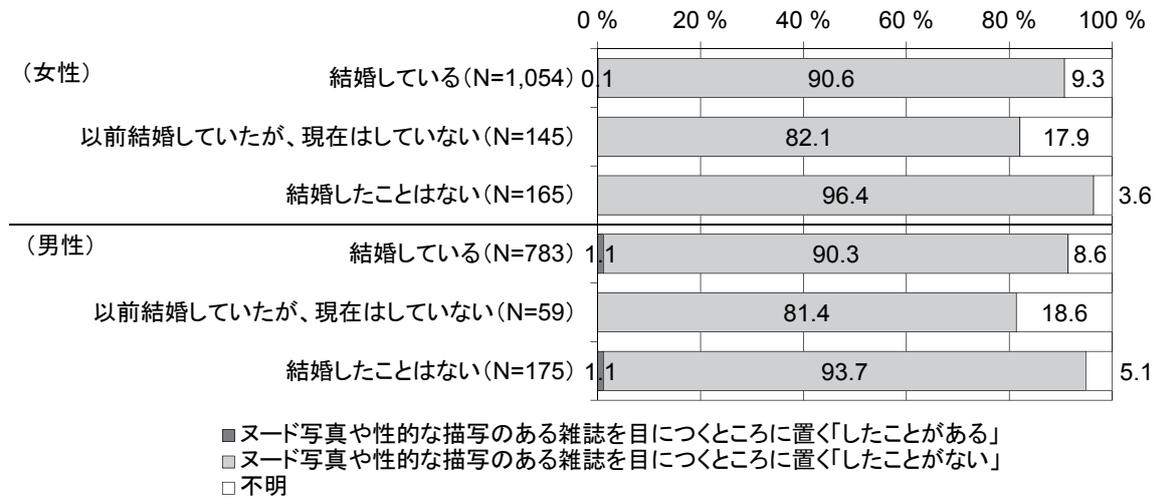
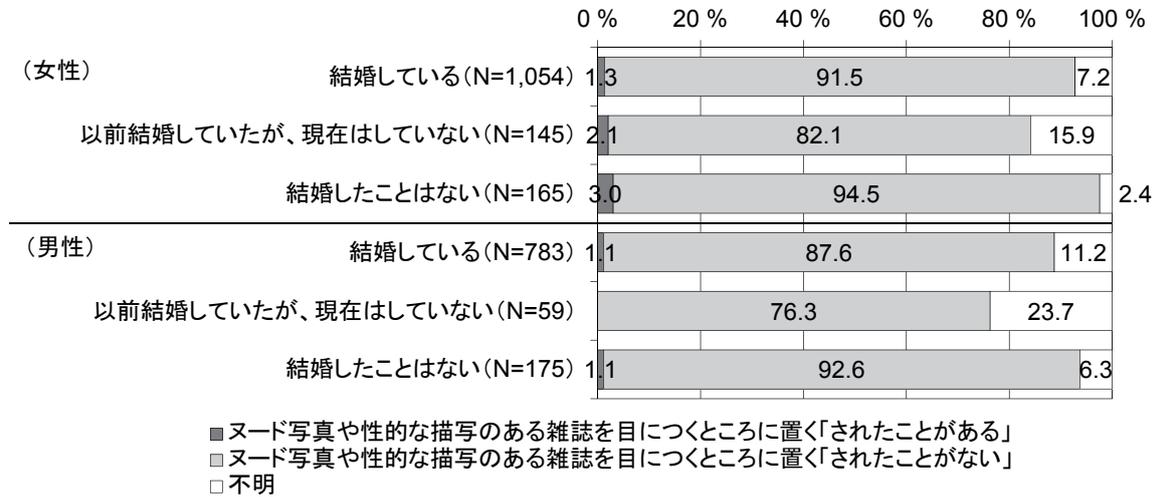
「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られません。



【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

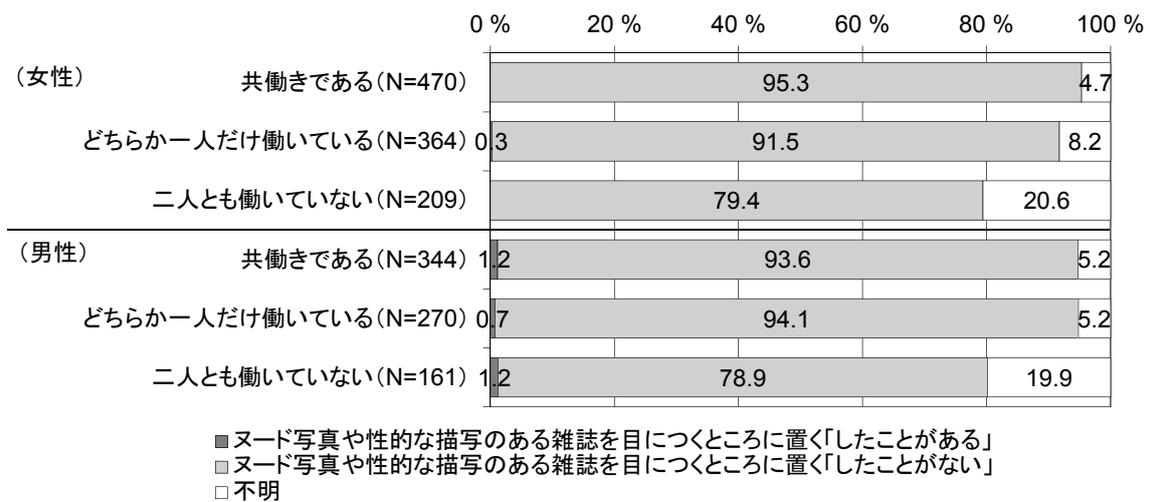
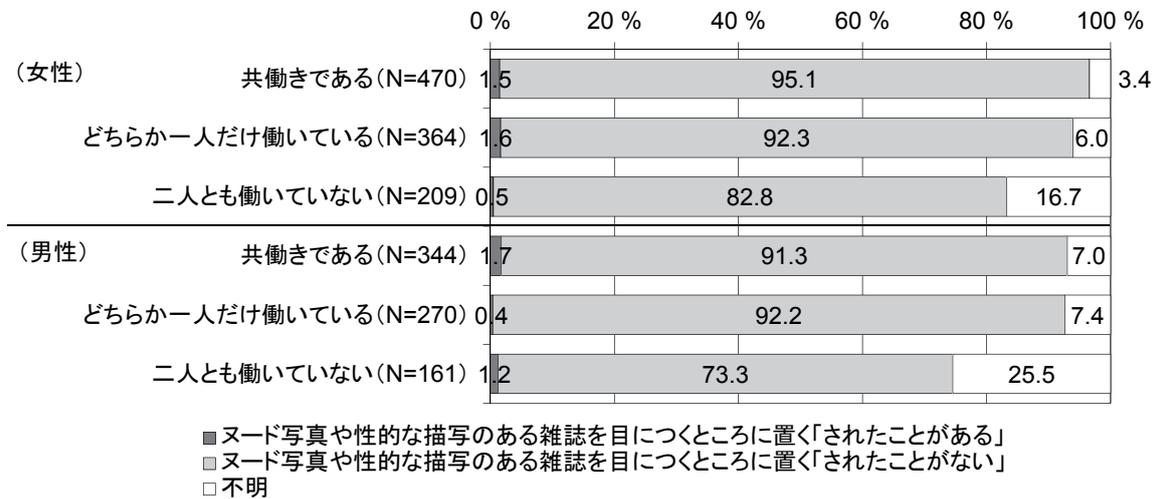
「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られません。



【性別×働き方別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。

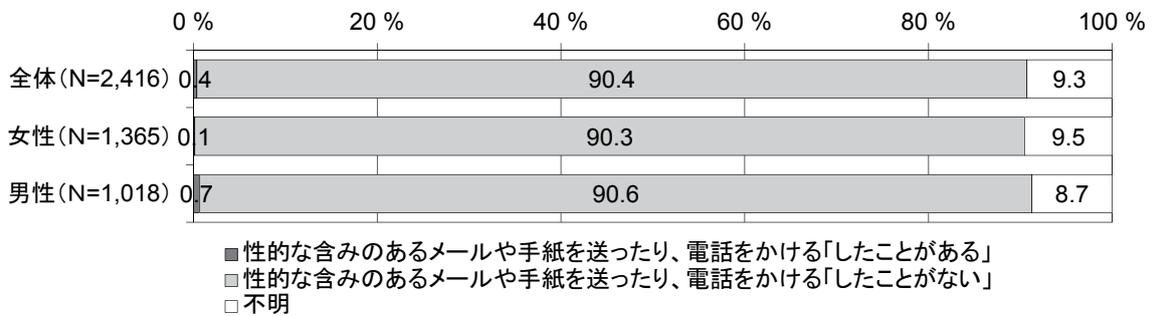
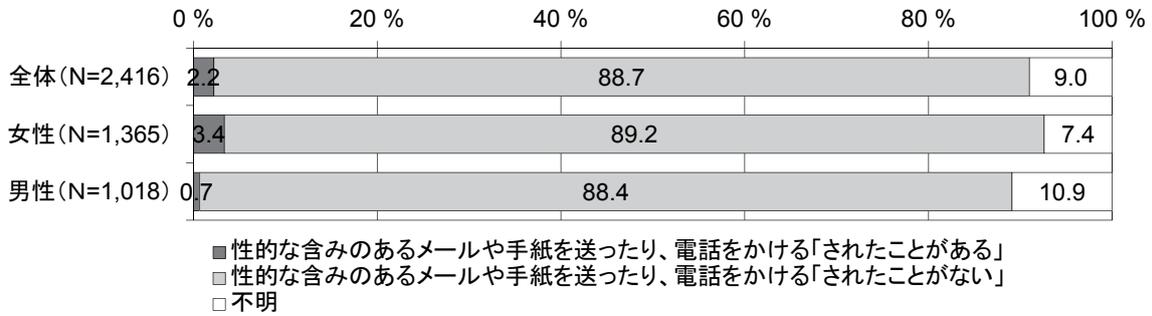


④性的な含みのあるメールや手紙を送ったり、電話をかける

【全体・性別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られない

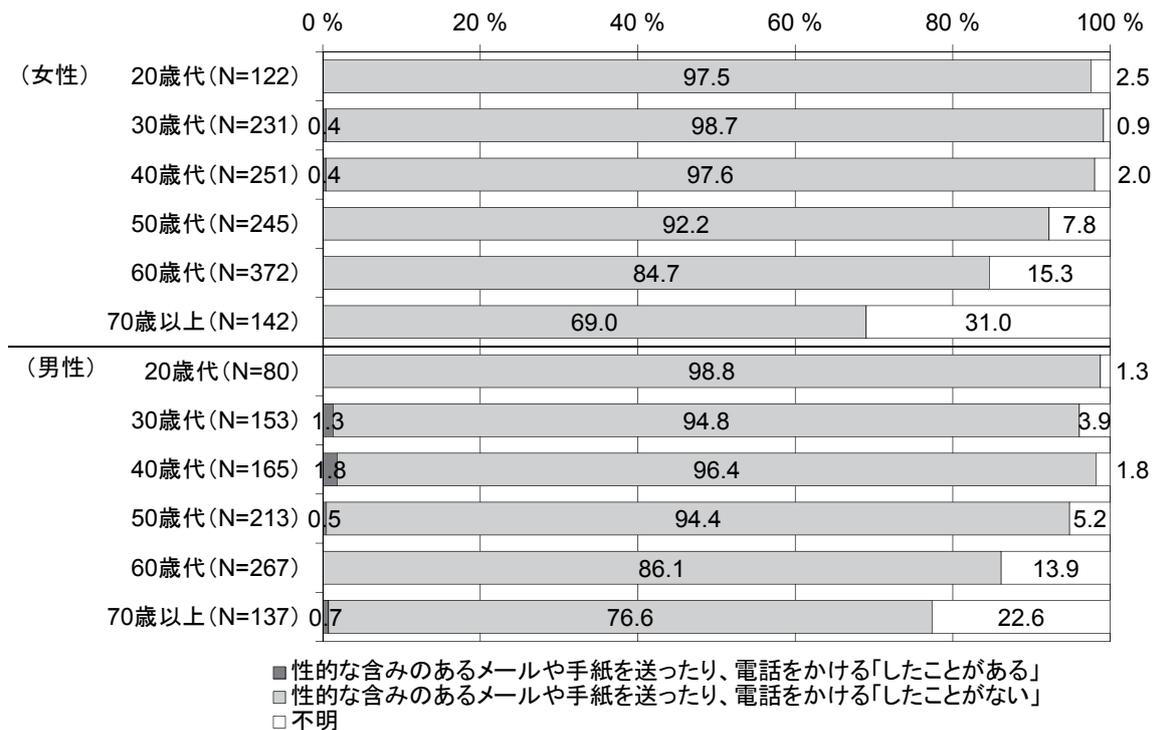
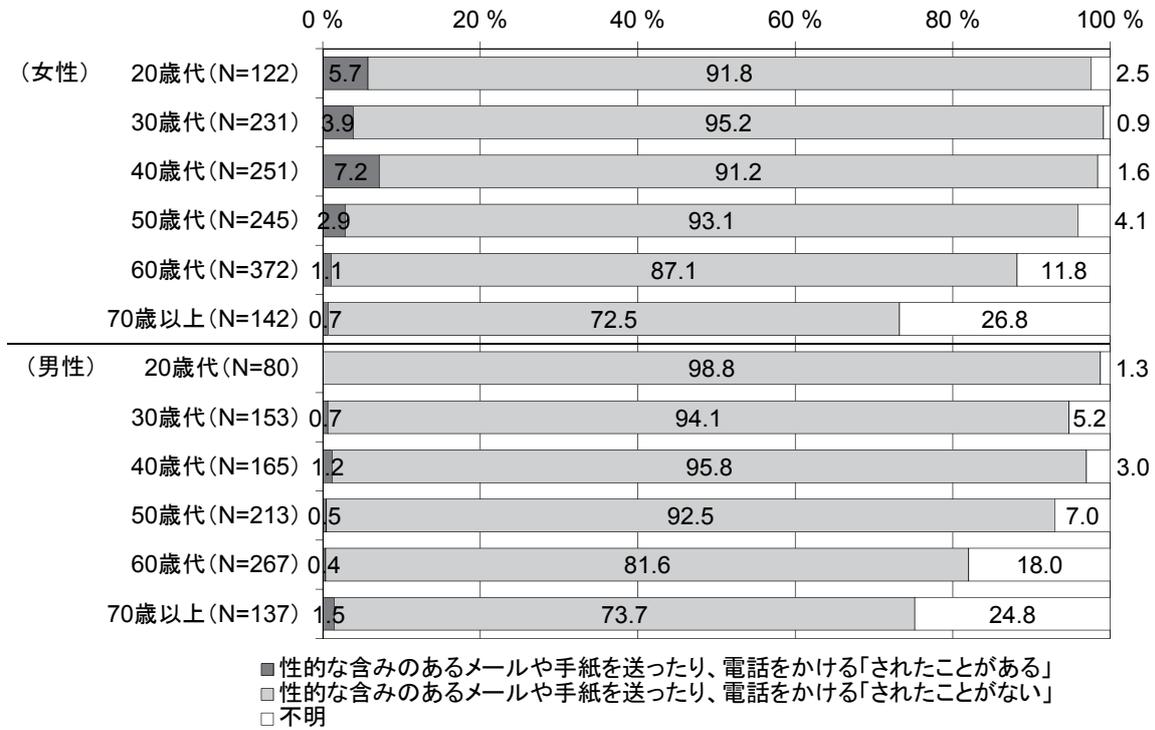
「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られません。



【性別×年代別】

- 「されたことがある」は女性 40 歳代以下で若干高い
- 「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られない

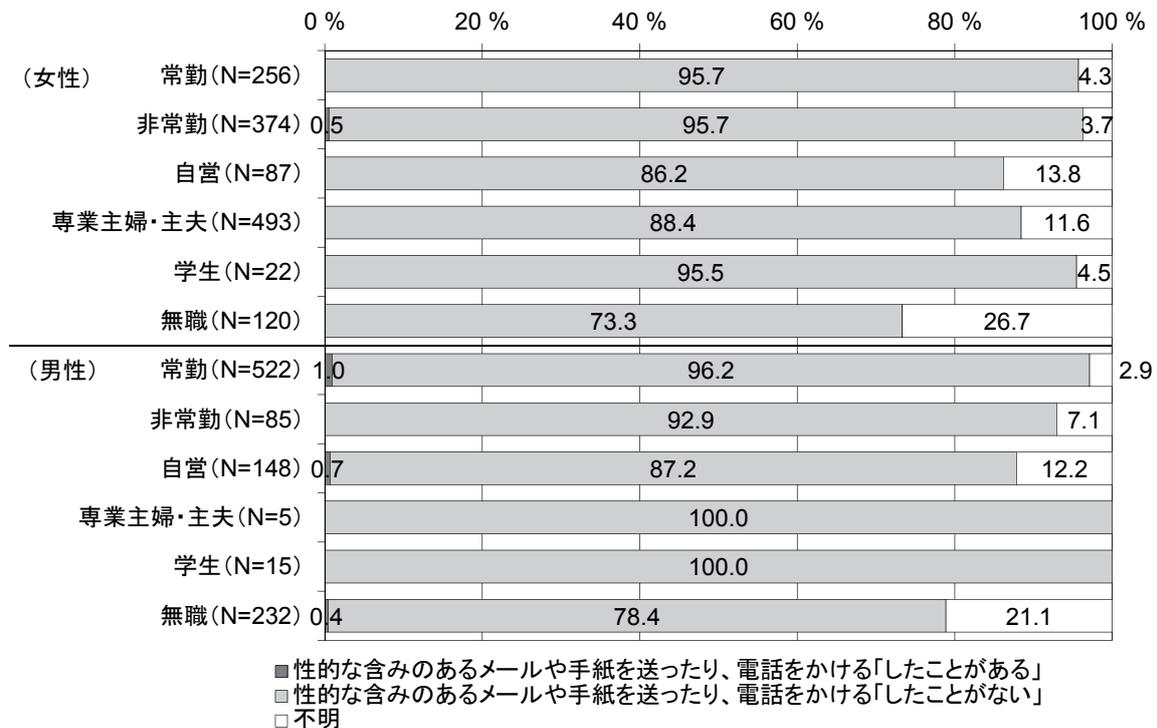
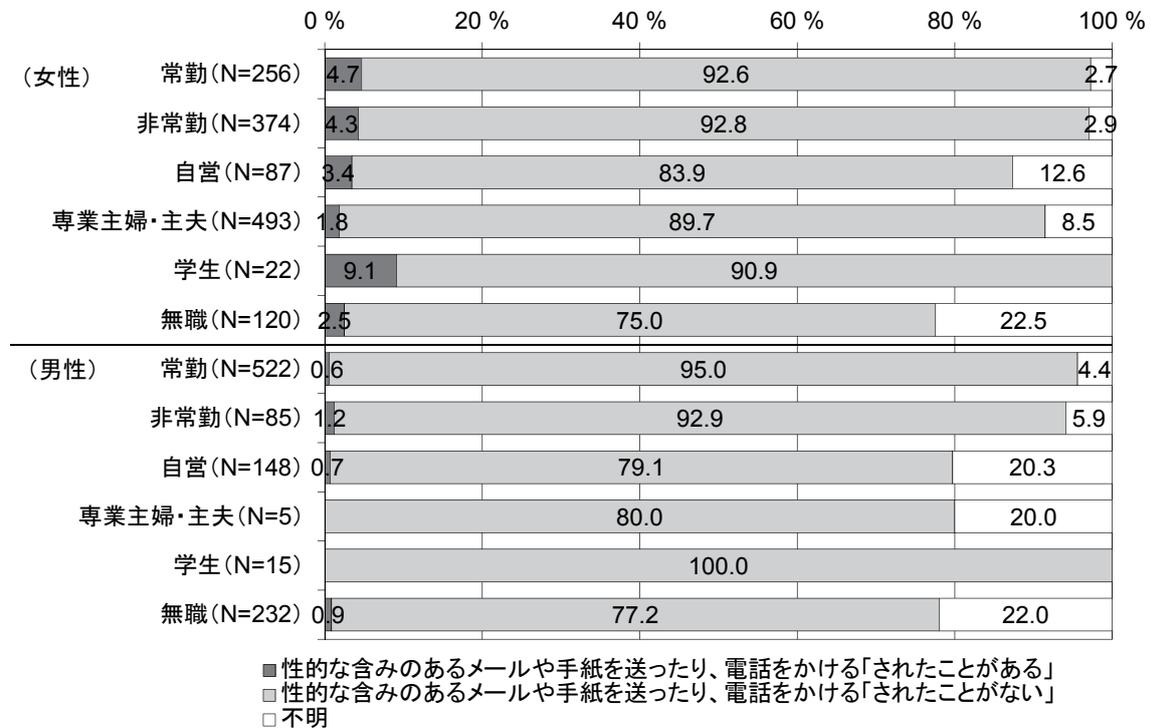
「されたことがある」は男女ともほとんど見られませんが、その中で、「されたことがある」は女性 40 歳代以下で若干高くなっています。「したことがある」は男女ともほとんど見られません



【性別×職業別】

- 「されたことがある」は女性学生が約1割で比較的高い
- 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

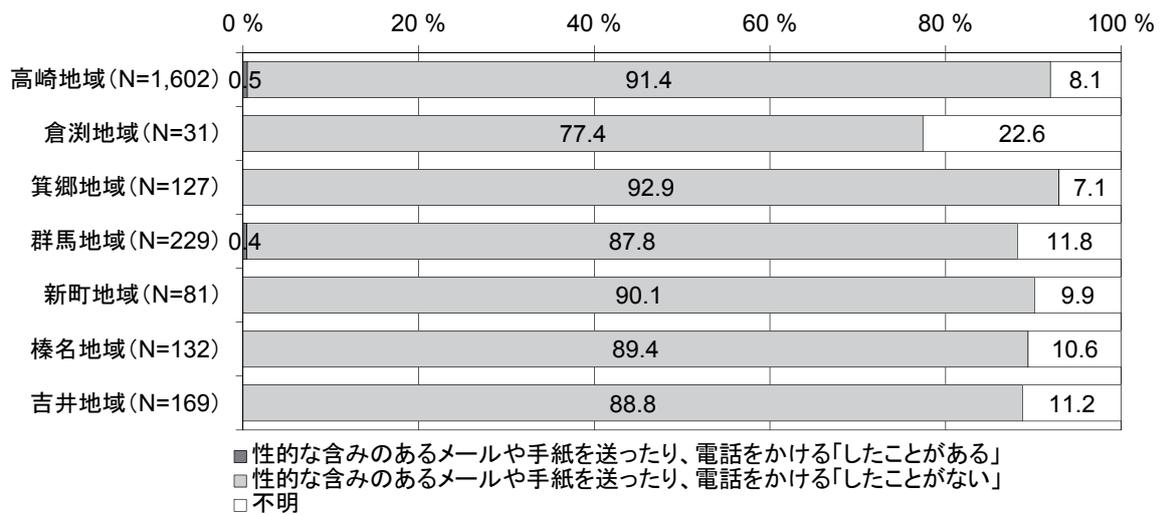
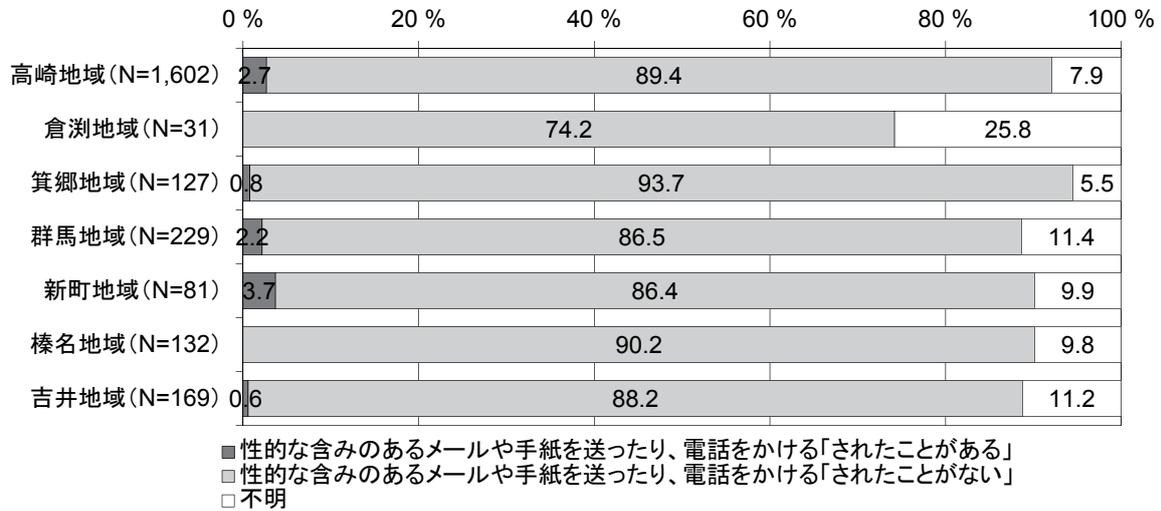
「されたことがある」は女性学生（9.1%）が約1割で比較的高くなっています。  
一方、「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られません。



【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られない

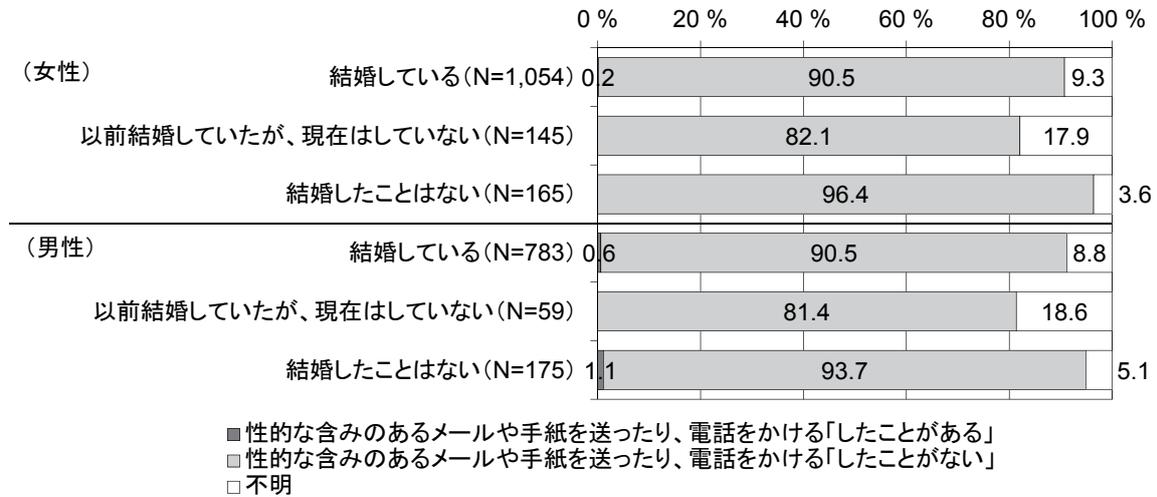
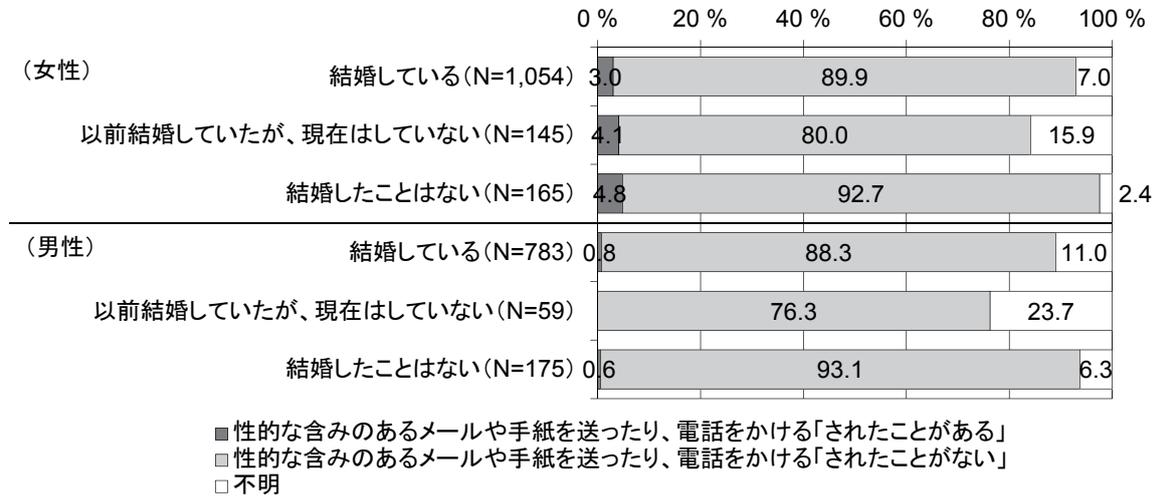
「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られません。



【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

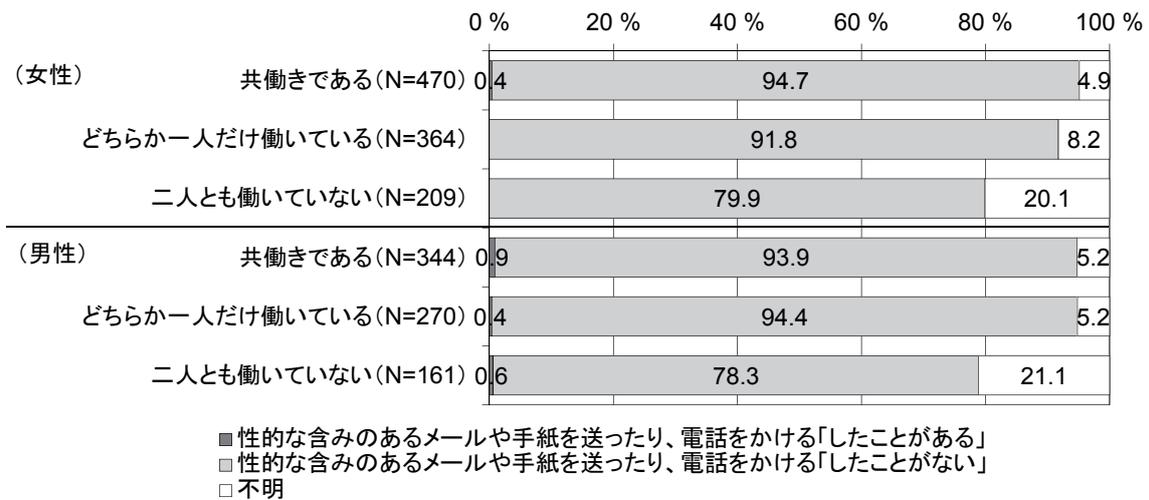
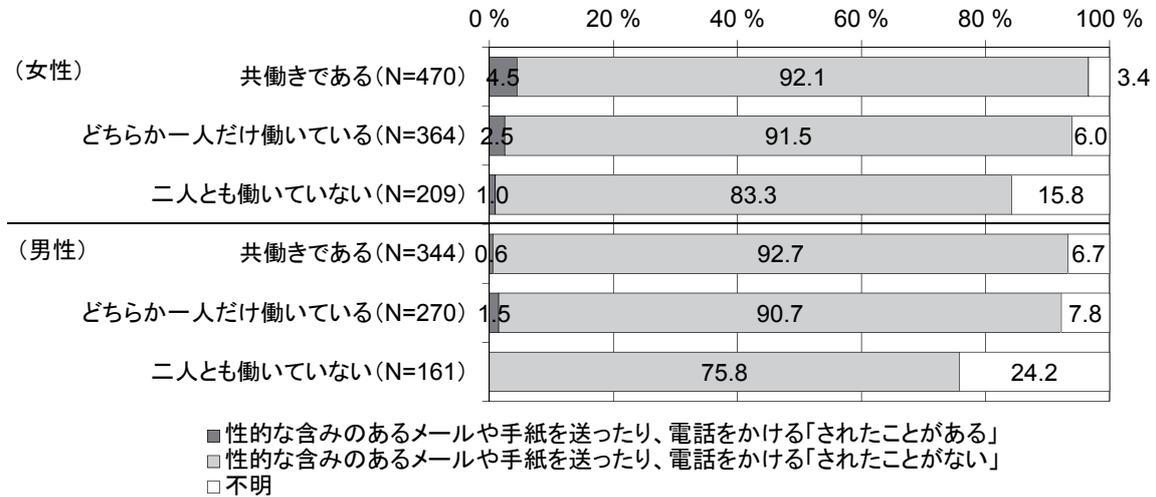
「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られませんが、「されたことがある」は結婚経験にかかわらず女性が若干高くなっています。



【性別×働き方別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。

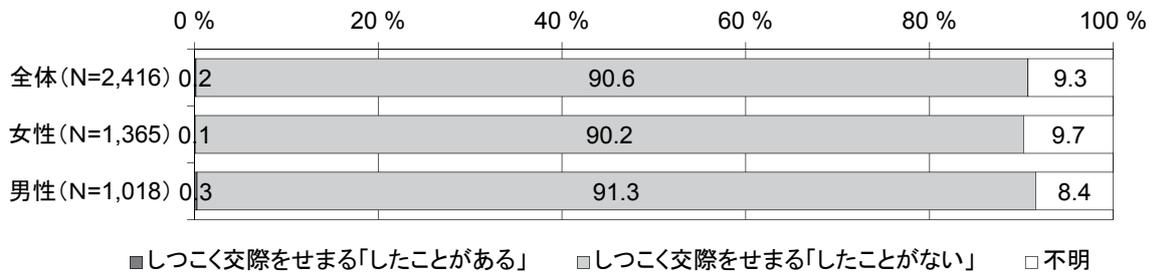
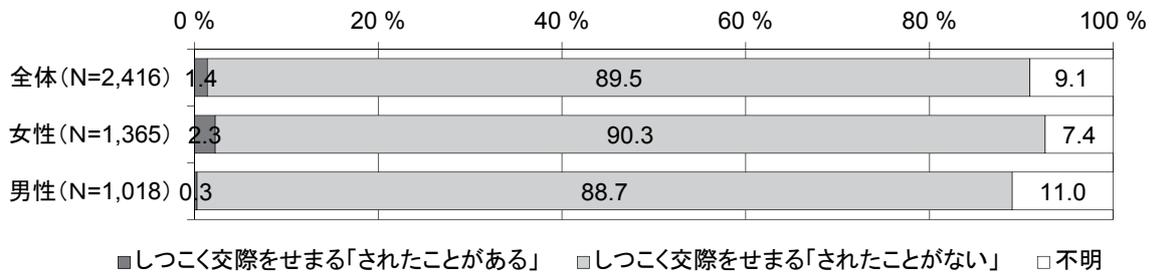


⑤ しつこく交際をせまる

【全体・性別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られない

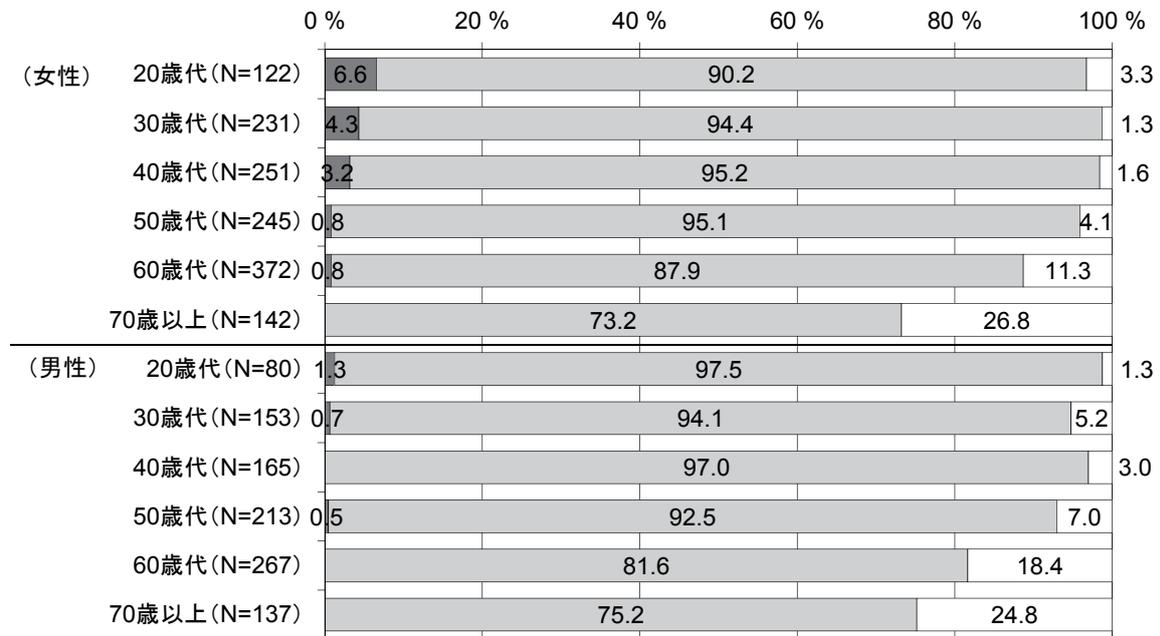
「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られません。



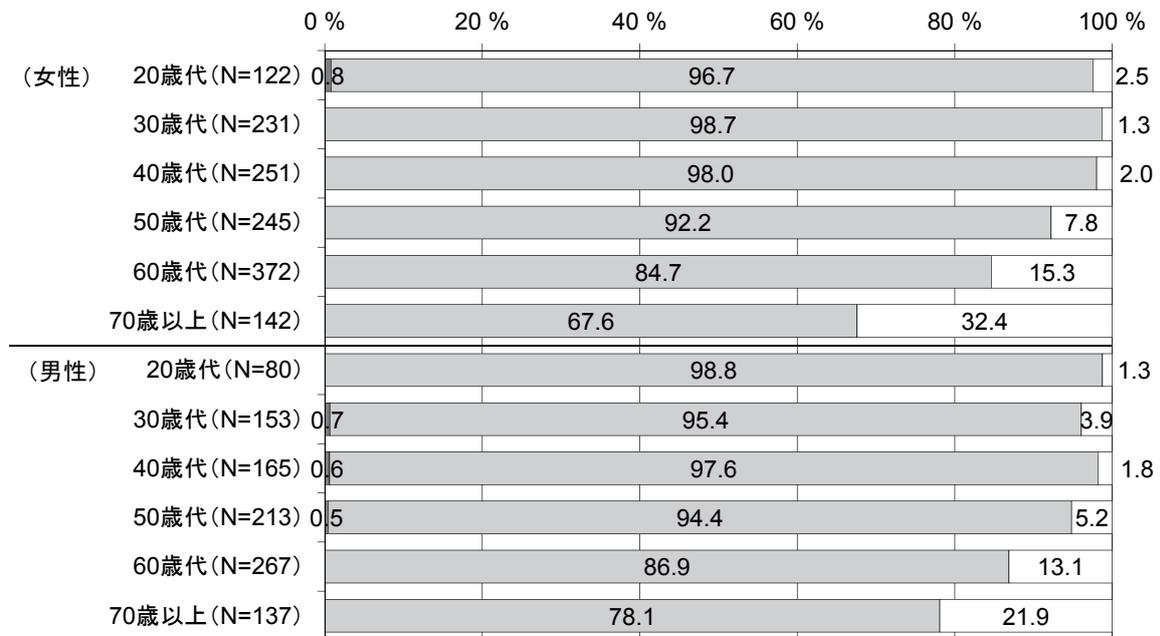
【性別×年代別】

- 「されたことがある」は女性 20 歳代が若干高い
- 「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」は女性 20 歳代（6.6%）が若干高くなっています。  
一方、「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られません。



■しつこく交際をせまる「されたことがある」 □しつこく交際をせまる「したことがある」 □不明

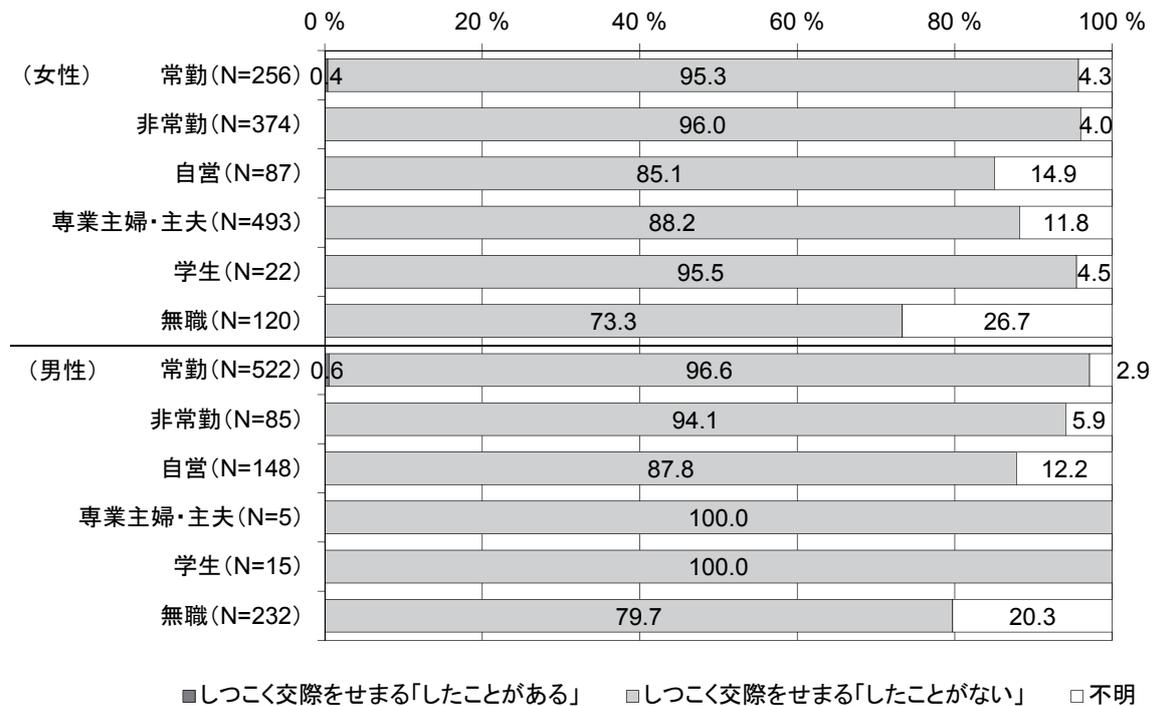
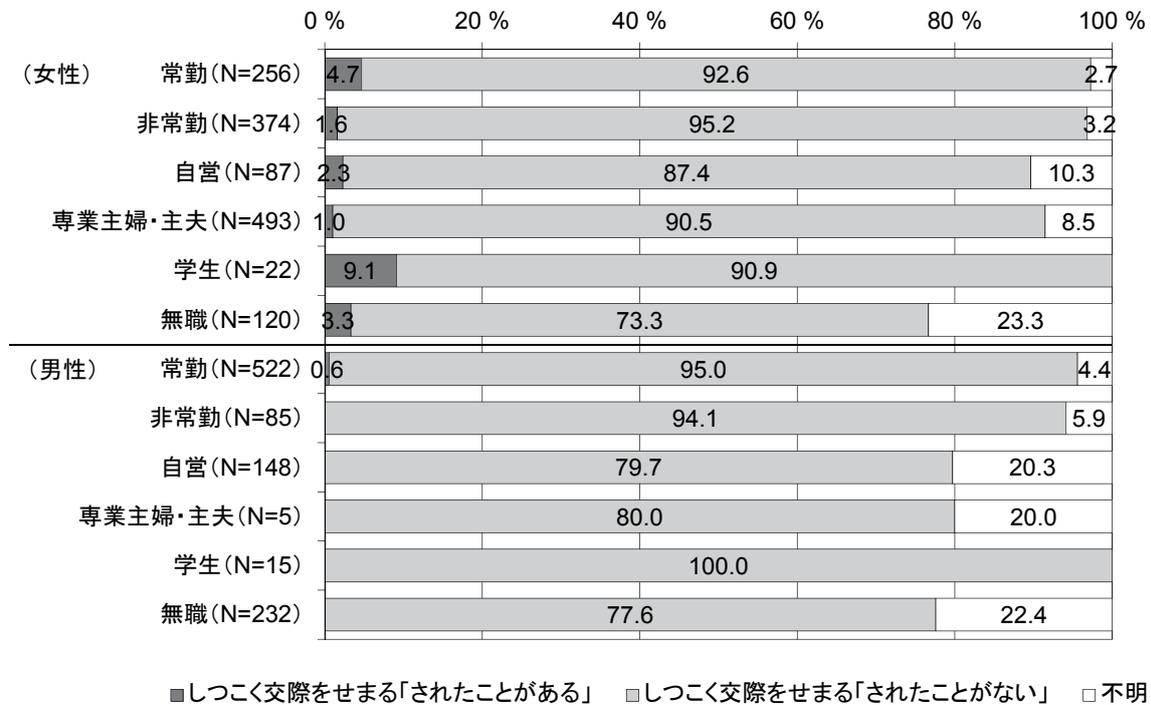


■しつこく交際をせまる「されたことがある」 □しつこく交際をせまる「したことがある」 □不明

【性別×職業別】

- 「されたことがある」は女性学生が約1割で比較的高い
- 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

「されたことがある」は女性学生（9.1%）が約1割で比較的高くなっています。  
一方、「したことがある」は、男女ともすべての職業でほとんど見られません。



【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られない

「されたことがある」は新町地域（4.9%）が若干高くなっていますが、「されたこと」「したことがある」はともにすべての地域でほとんど見られません。



■ しつこく交際をせまる「されたことがある」 □ しつこく交際をせまる「されたことがない」 □ 不明

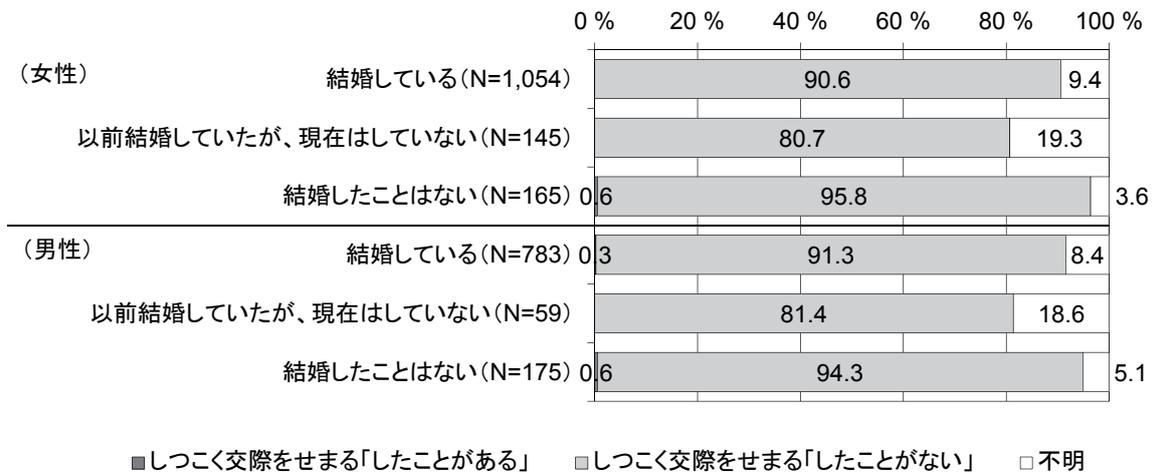
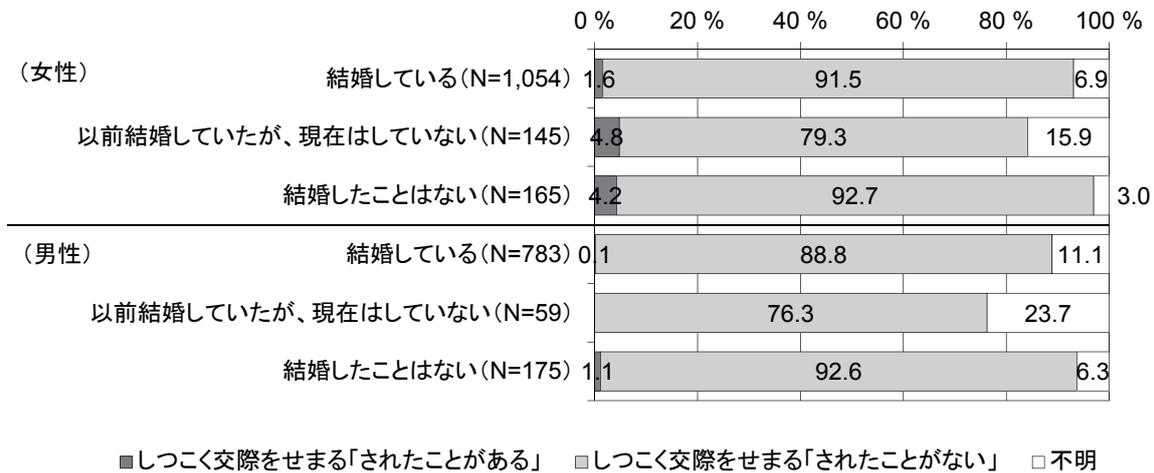


■ しつこく交際をせまる「したことがある」 □ しつこく交際をせまる「したことがない」 □ 不明

【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

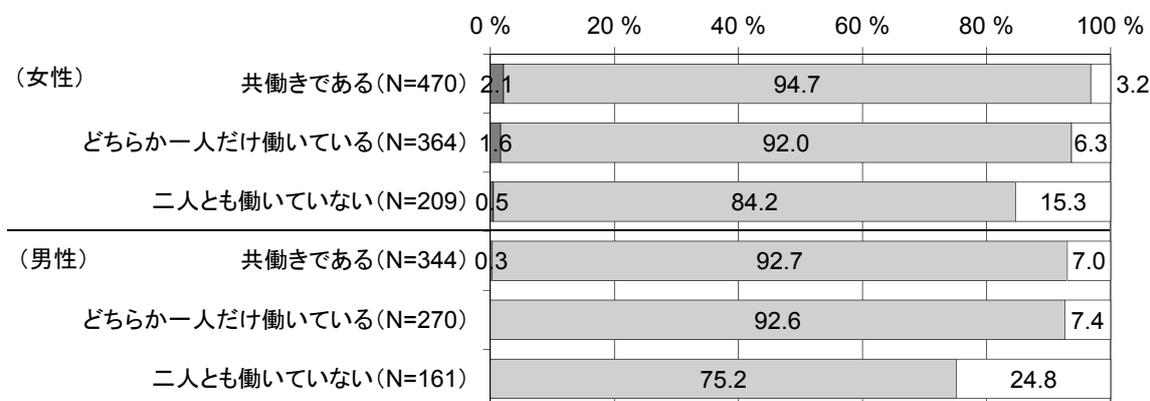
「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」「結婚したことはない」（それぞれ4.8%、4.2%）が若干高くなっていますが、「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られません。



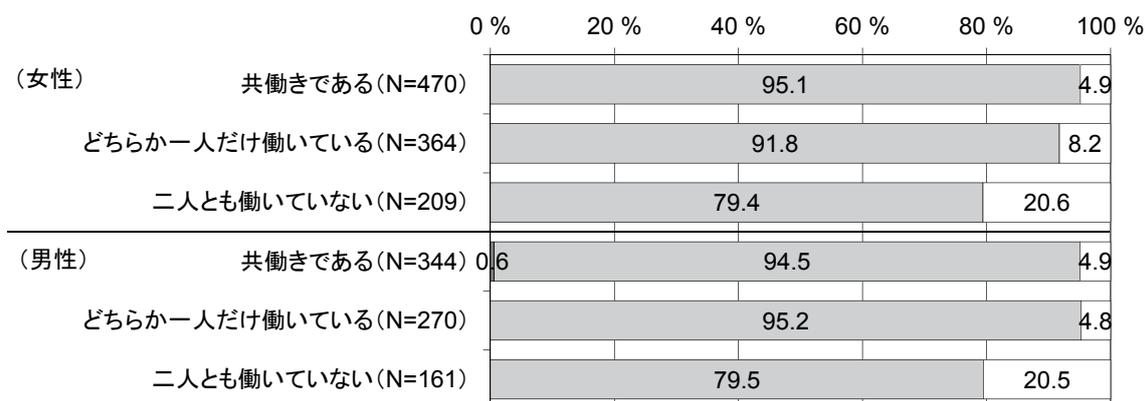
【性別×働き方別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。



■しつこく交際をせまる「されたことがある」 □しつこく交際をせまる「されたことがない」 □不明



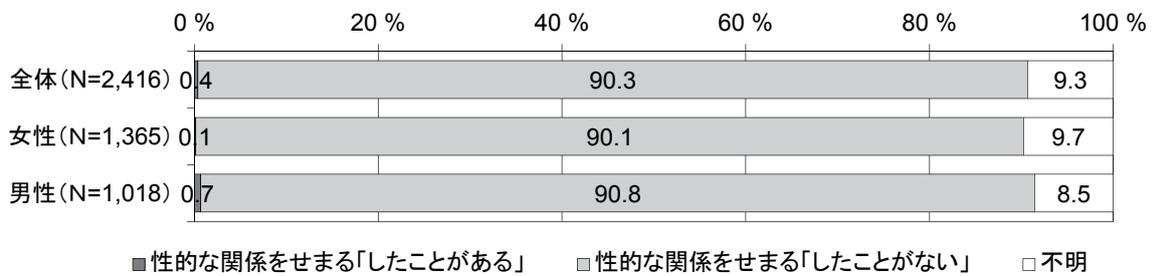
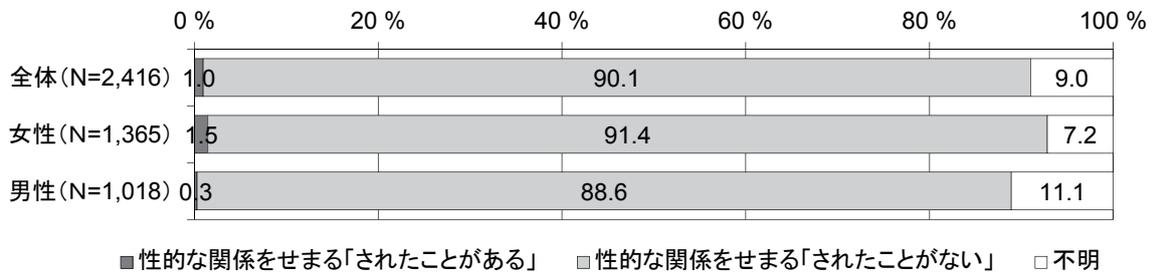
■しつこく交際をせまる「したことがある」 □しつこく交際をせまる「したことがない」 □不明

⑥性的な関係をせまる

【全体・性別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られない

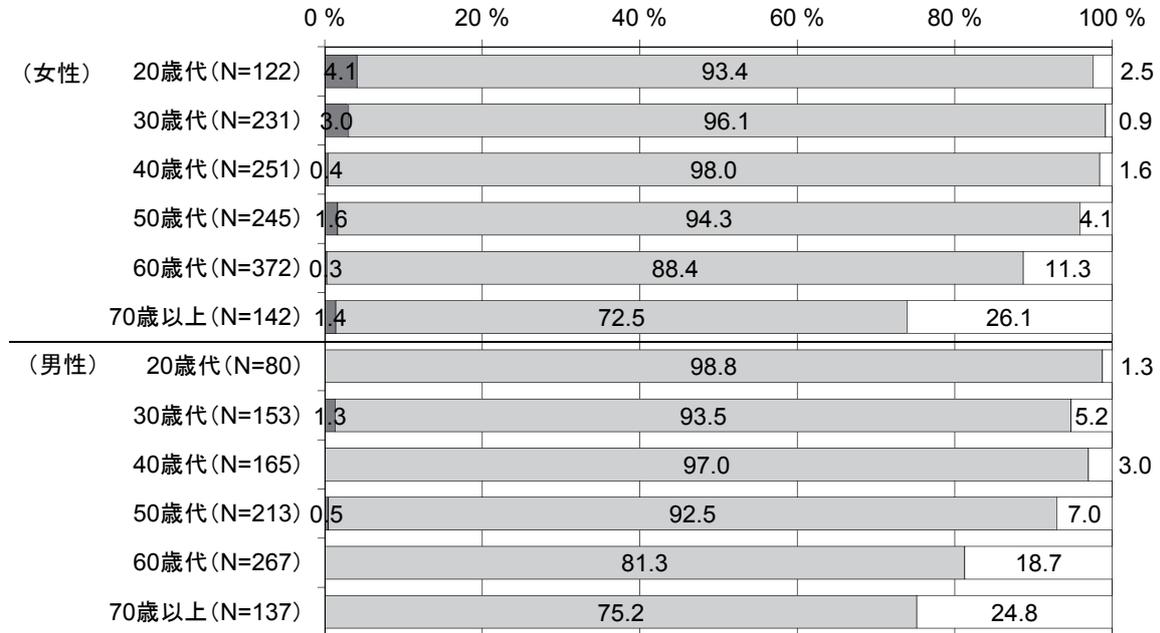
「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られません。



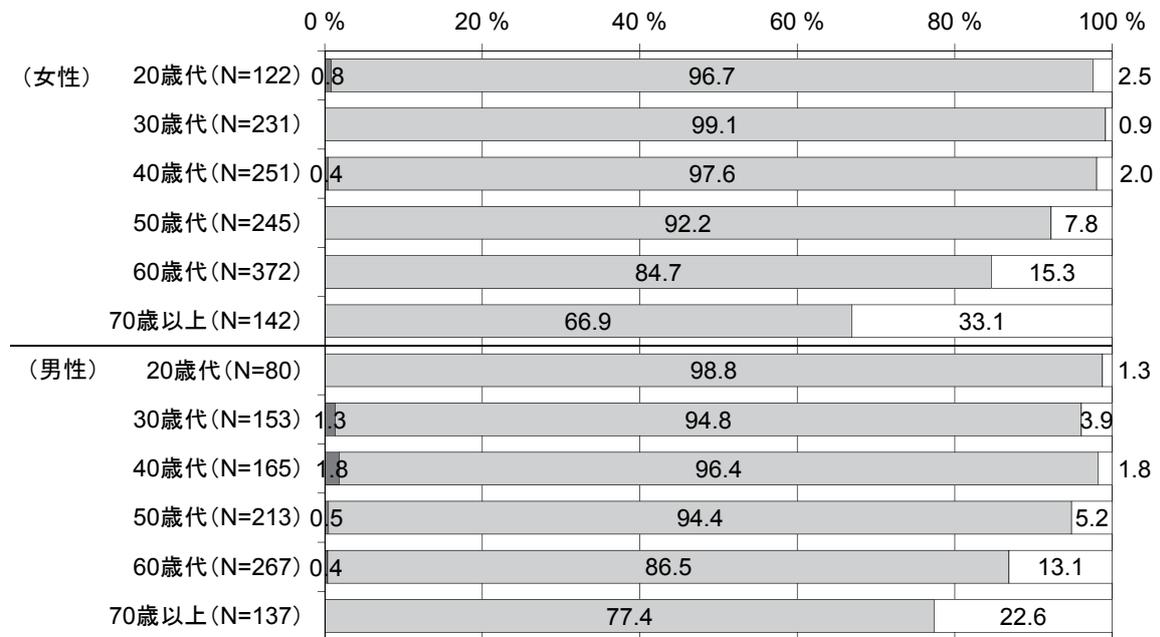
【性別×年代別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」は女性 20 歳代 (4.1%) が若干高くなっていますが、「されたこと」「したことがある」ともに、男女ともすべての年代でほとんど見られません。



■ 性的な関係をせまる「されたことがある」 ■ 性的な関係をせまる「されたことがない」 □ 不明

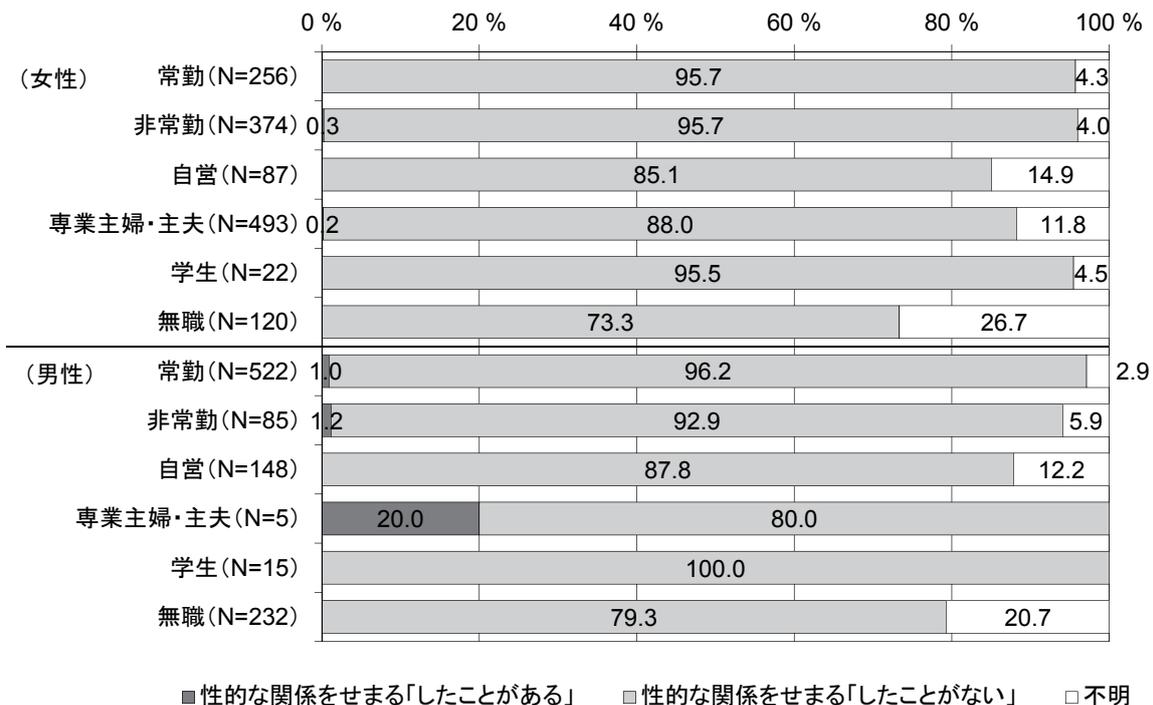
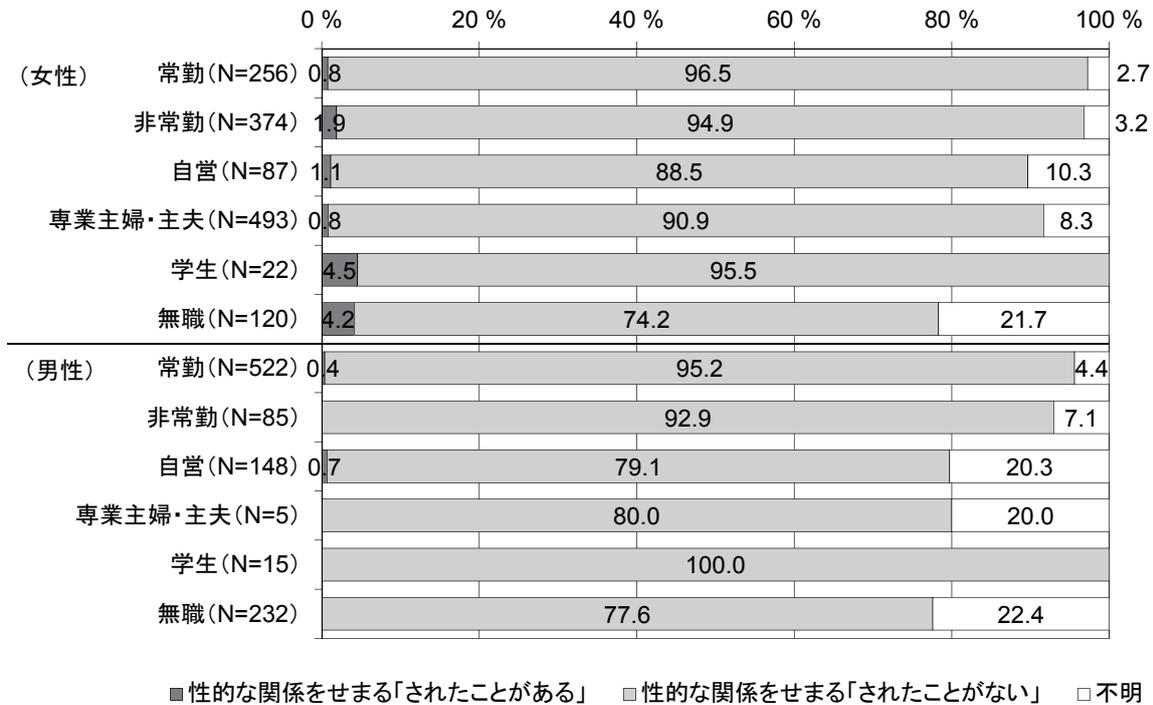


■ 性的な関係をせまる「したことがある」 ■ 性的な関係をせまる「したことがない」 □ 不明

【性別×職業別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともすべての職業でほとんど見られない

「されたことがある」は女性学生（4.5%）や女性無職（4.2%）が若干高くなっていますが、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、「されたこと」「したことがある」はともに、男女ともすべての職業でほとんど見られません。



【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られません。



■ 性的な関係をせまる「されたことがある」 ■ 性的な関係をせまる「されたことがない」 □ 不明

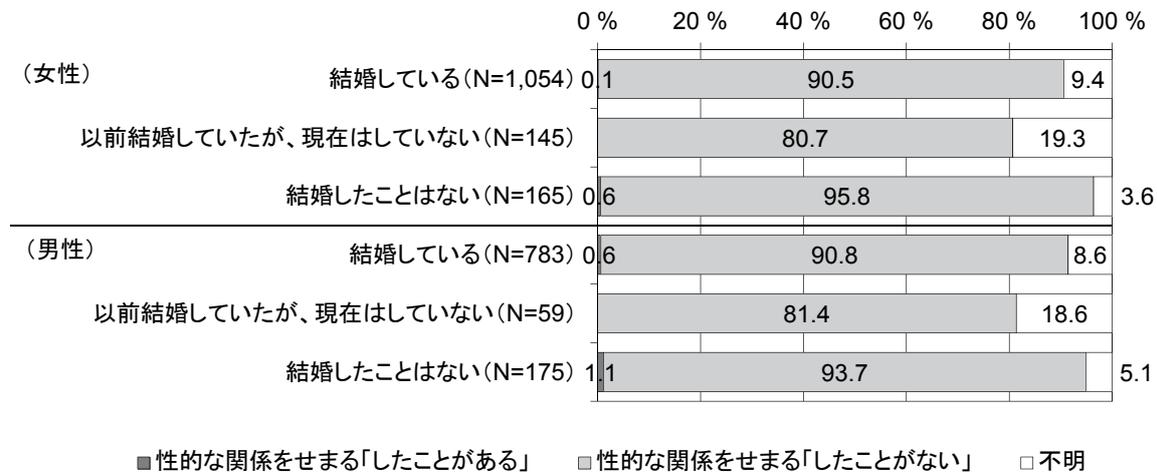
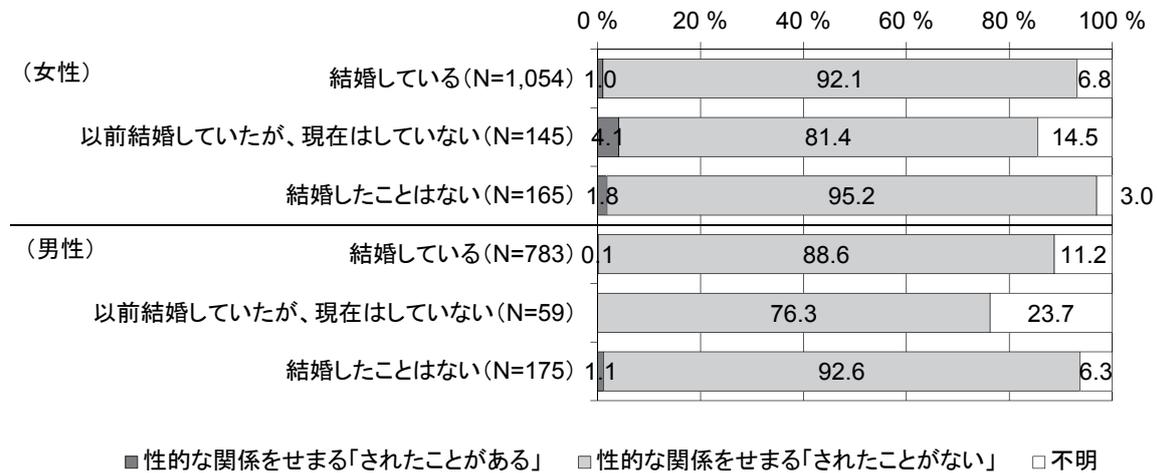


■ 性的な関係をせまる「したことがある」 ■ 性的な関係をせまる「したことがない」 □ 不明

【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

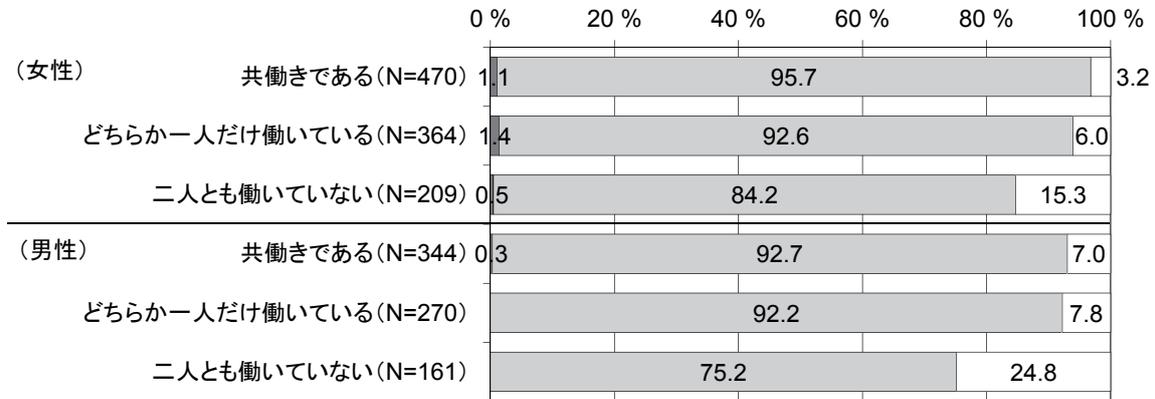
「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」(4.1%)が若干高くなっていますが、「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られません。



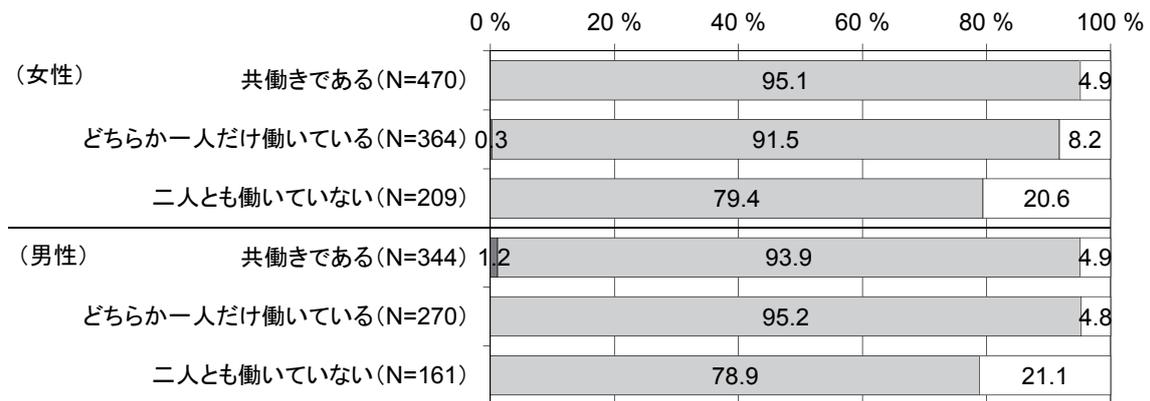
【性別×働き方別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。



■ 性的な関係をせまる「されたことがある」 ■ 性的な関係をせまる「されたことがない」 □ 不明



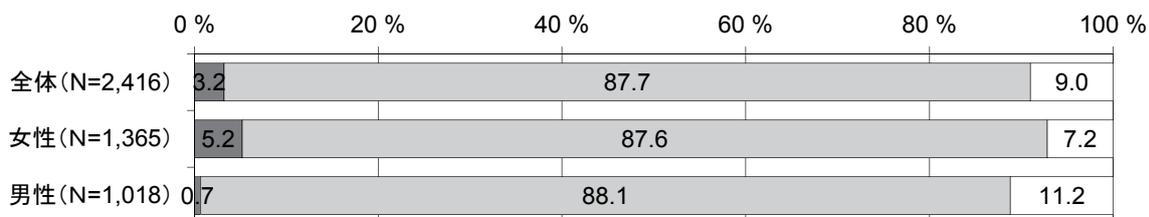
■ 性的な関係をせまる「したことがある」 ■ 性的な関係をせまる「したことがない」 □ 不明

⑦不必要にからだにさわる

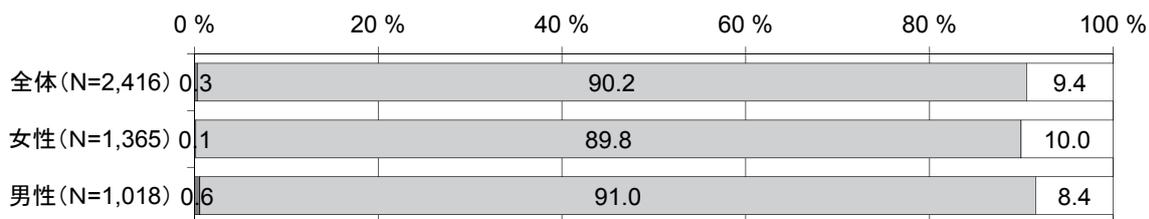
【全体・性別】

- 「されたことがある」は女性で若干見られる
- 「したことがある」は男女ともほとんど見られない

「されたことがある」は女性（5.2%）で若干見られます。  
 一方、「したことがある」は男女ともほとんど見られません。



■ 不必要にからだにさわる「されたことがある」 ■ 不必要にからだにさわる「されたことがない」 □ 不明

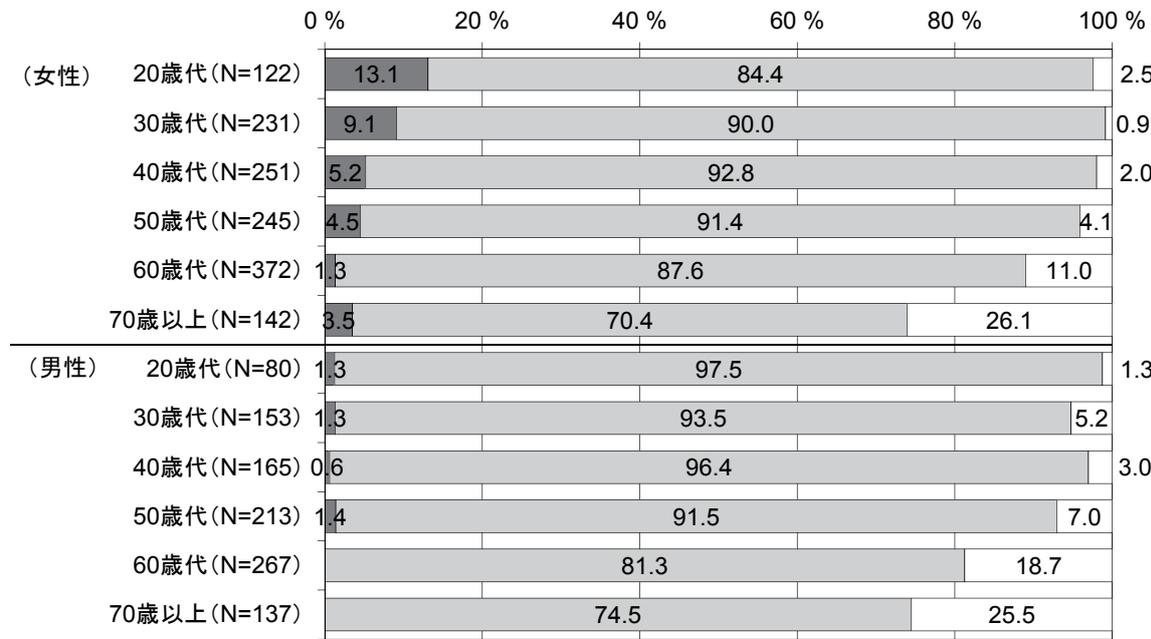


■ 不必要にからだにさわる「したことがある」 ■ 不必要にからだにさわる「したことがない」 □ 不明

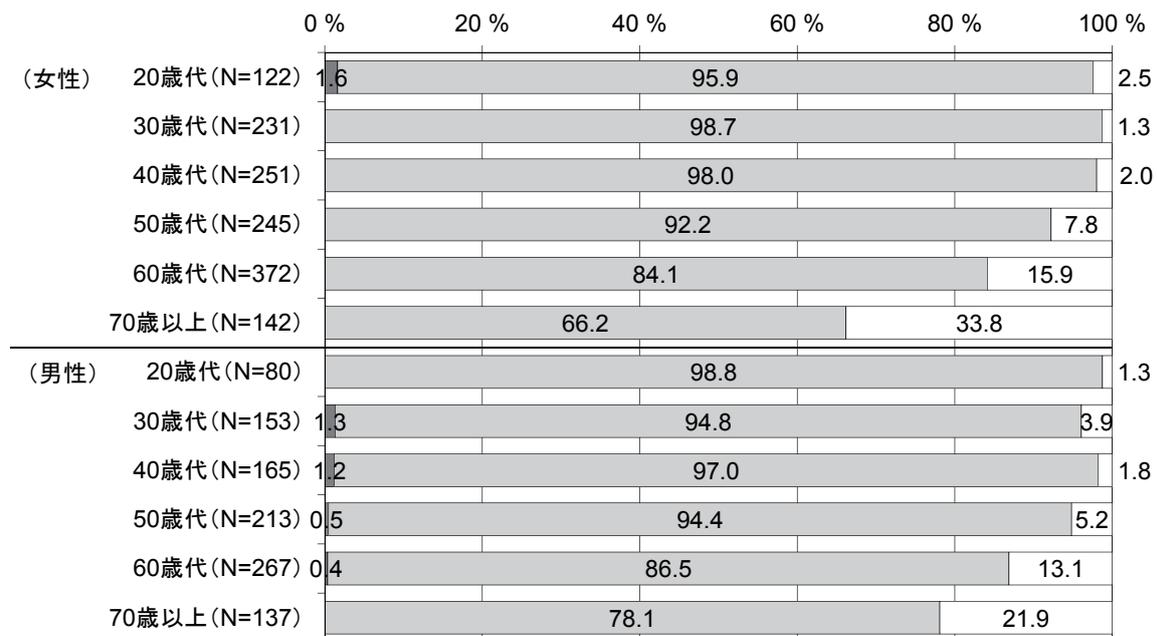
【性別×年代別】

- 「されたことがある」は女性 30 歳代以下が比較的高い
- 「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」は女性 20 歳代(13.1%)が 1 割以上で最も高く、女性 30 歳代(9.1%)も約 1 割で比較的高くなっています。また、すべての年代で女性が高くなっています。一方、「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られません。



■ 不必要にからだにさわられる「されたことがある」 □ 不必要にからだにさわられる「されたことがない」 □ 不明



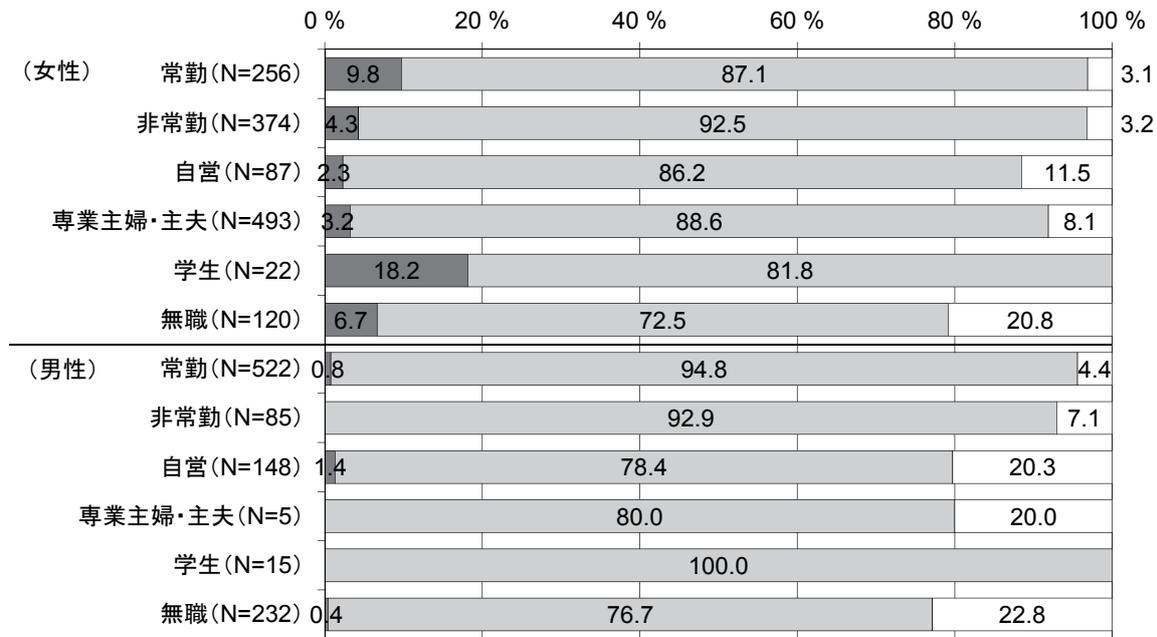
■ 不必要にからだにさわられる「したことがある」 □ 不必要にからだにさわられる「したことがない」 □ 不明

【性別×職業別】

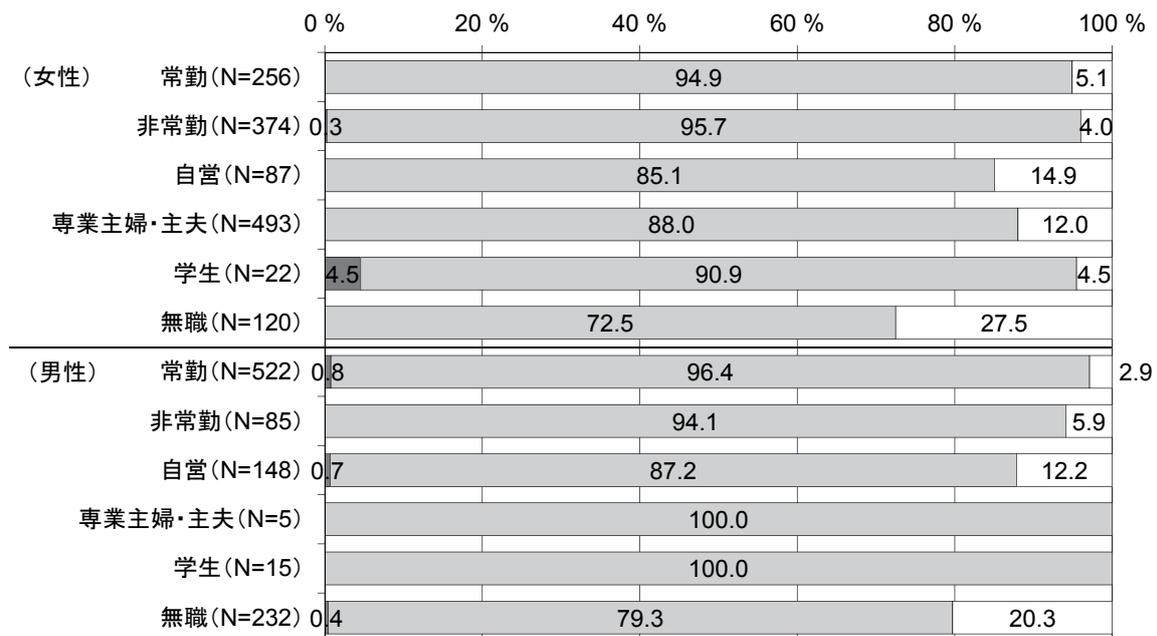
- 「されたことがある」は女性学生が約2割で特に高く、女性常勤も約1割で比較的高い
- 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

「されたことがある」は女性学生（18.2%）が約2割で特に高く、女性常勤（9.8%）も約1割で比較的高くなっています。また、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は女性学生（4.5%）が若干高くなっていますが、すべての職業で男女ともほとんど見られません。



■ 不必要にからだにさわる「されたことがある」 □ 不必要にからだにさわる「されたことがない」 □ 不明

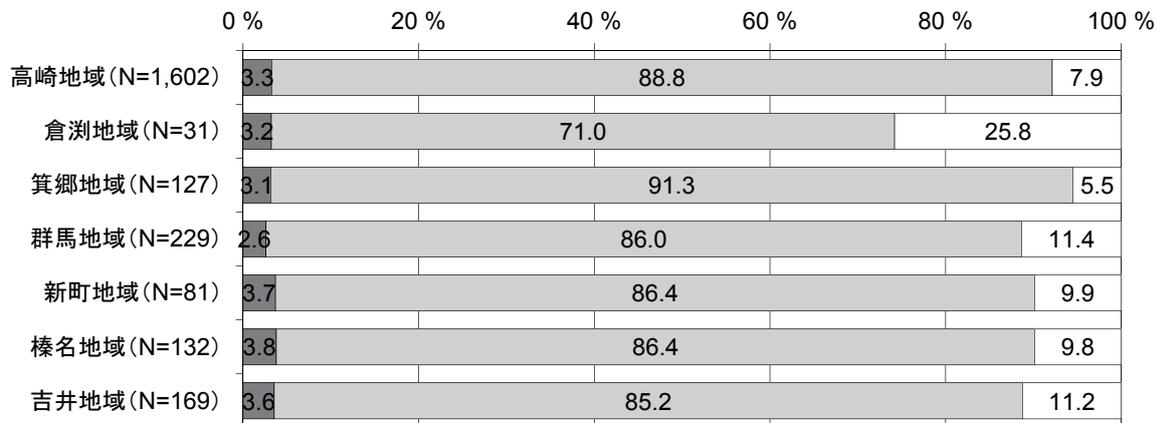


■ 不必要にからだにさわる「したことがある」 □ 不必要にからだにさわる「したことがない」 □ 不明

【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られません。



■ 不必要にからだにさわる「されたことがある」 ■ 不必要にからだにさわる「されたことがない」 □ 不明



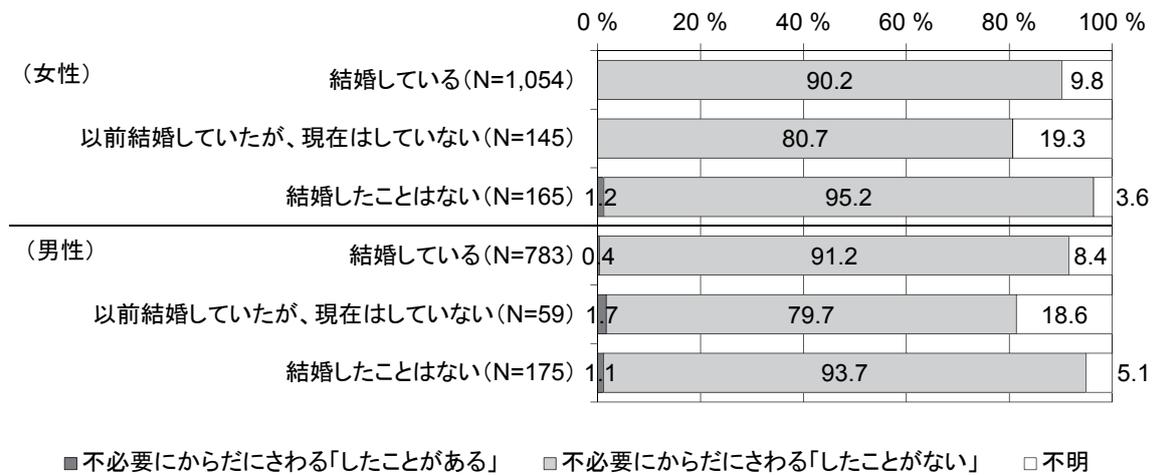
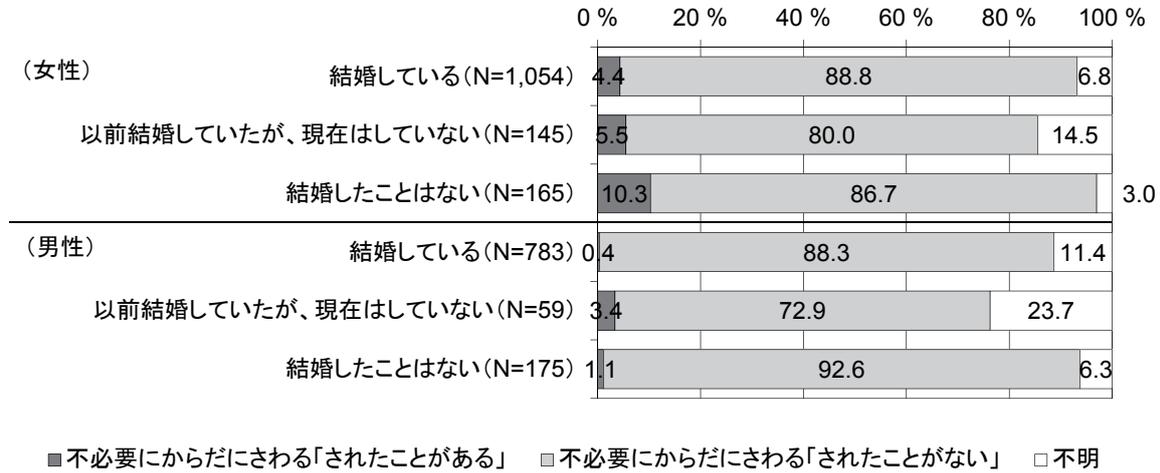
■ 不必要にからだにさわる「したことがある」 ■ 不必要にからだにさわる「したことがない」 □ 不明

【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」は女性「結婚したことはない」が約1割で比較的高い
- 「したことがある」は男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は女性「結婚したことはない」(10.3%)が約1割で比較的高くなっています。また、結婚経験にかかわらず女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られません。

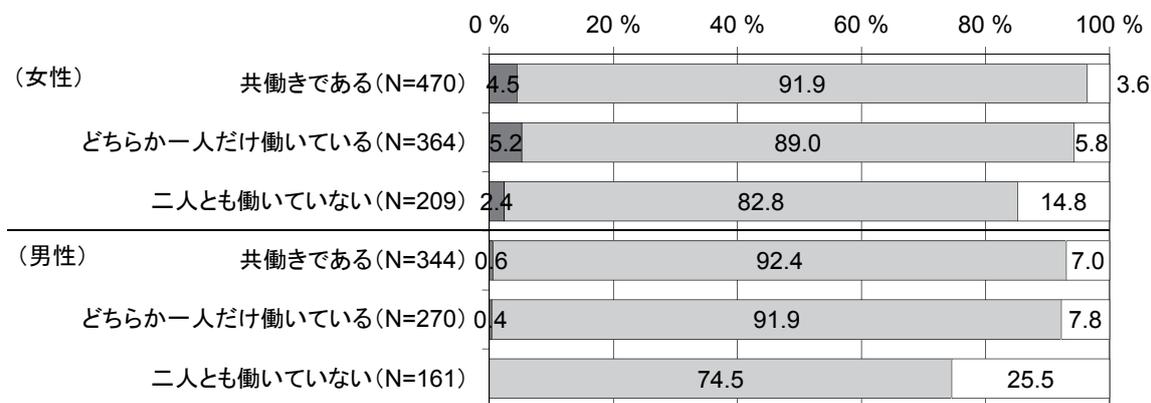


【性別×働き方別】

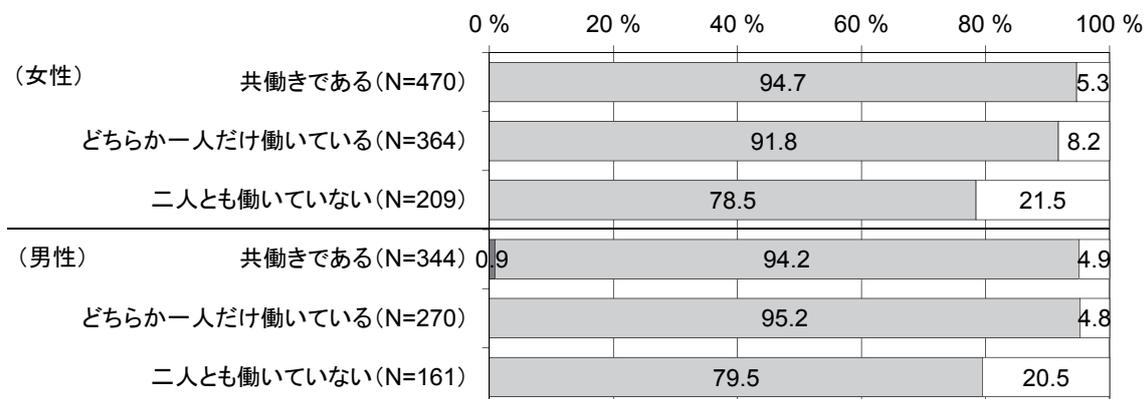
- 「されたことがある」は女性「共働き」「どちらか一人だけ働いている」が若干高い
- 「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は女性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」（それぞれ4.5%、5.2%）で若干高くなっています。

一方、「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。



■ 不必要にからだにさわる「されたことがある」 □ 不必要にからだにさわる「されたことがない」 □ 不明



■ 不必要にからだにさわる「したことがある」 □ 不必要にからだにさわる「したことがない」 □ 不明

## 10 男女共同参画社会推進のための施策について

問 15

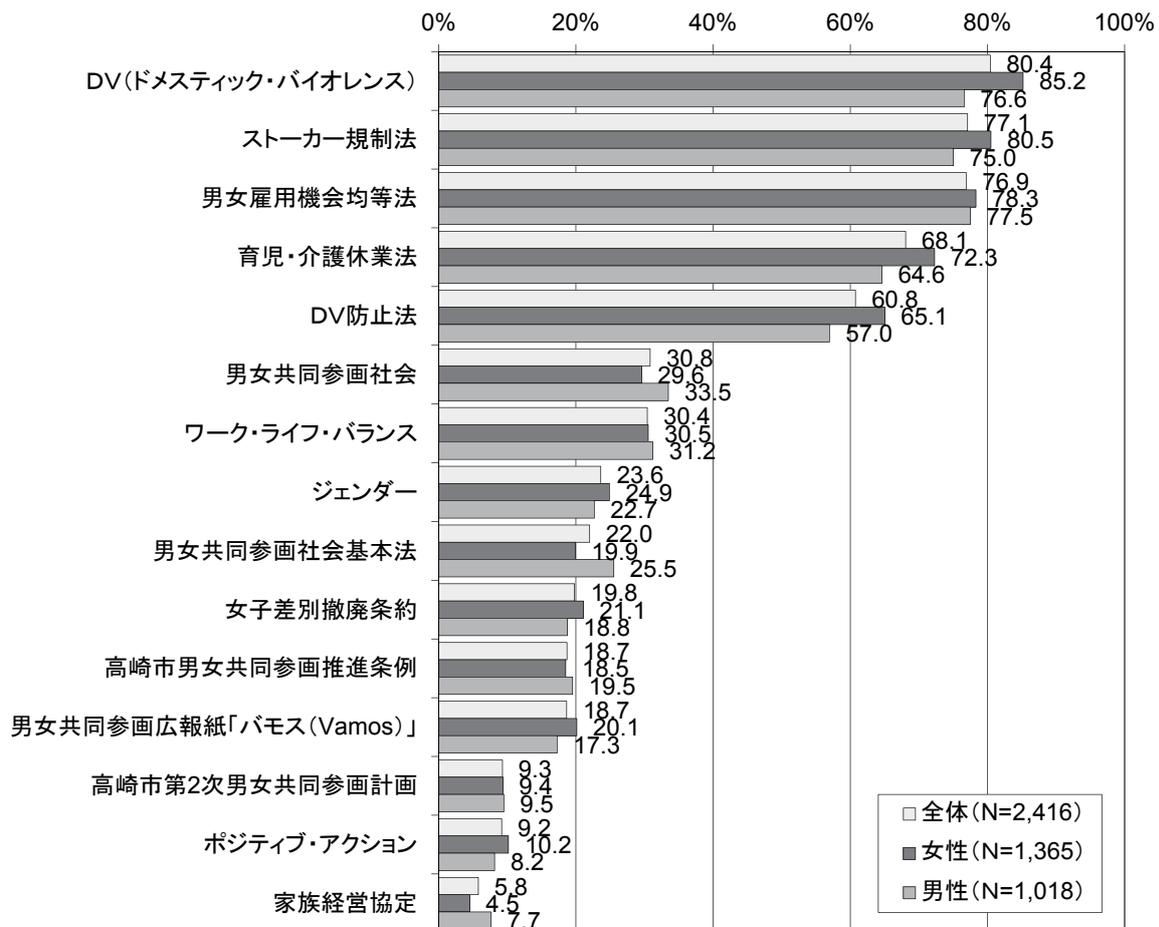
次の言葉や制度等のうち、見たり聞いたりしたことがあるものがありますか。(複数回答可)

### 【全体・性別】

- 男女とも「DV」「ストーカー規制法」「男女雇用機会均等法」の3項目が約8割
- 次いで男女とも「育児・介護休業法」「DV防止法」の2項目が約6～7割
- 上位5項目以外は男女とも3割程度以下

男女とも「DV（ドメスティック・バイオレンス）以下DV」、「ストーカー規制法」、「男女雇用機会均等法」の3項目が約8割で特に高くなっています。次いで「育児・介護休業法」、「DV防止法」も約6～7割で比較的高くなっています。また、上位5項目はいずれも女性が高くなっています。

これらに次いで、男女とも「男女共同参画社会」「ワーク・ライフ・バランス」「ジェンダー」「男女共同参画社会基本法」「女子差別撤廃条約」「高崎市男女共同参画推進条例」「男女共同参画広報紙『バモス (Vamos)』」の7項目が約2～3割となっています。



※アンケート調査票では、以下の選択肢について、カッコ（ ）内に以下の説明文を加えて提示

- ・ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）
- ・DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）
- ・ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）
- ・ジェンダー（生物としての性別ではなく、社会通念や慣習の中で社会的に形成された性別のこと）
- ・高崎市男女共同参画推進条例（平成21年4月1日施行）
- ・男女共同参画広報紙「バモス (Vamos)」（高崎市が毎年3月に発行し、全戸に配布）
- ・高崎市第2次男女共同参画計画（平成20年3月策定）
- ・ポジティブ・アクション（男女間の格差改善のため、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供すること）
- ・家族経営協定（農業経営にたずさわる家族それぞれの経営参画を目指し、家族で取り決める協定のこと）

【性別×年代別】

- 男性 40 歳代以上は「男女雇用機会均等法」、それ以外は「DV」が最も高い
- 女性 70 歳以上は「DV」「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」が同値
- 女性 50 歳代以下は「DV」が 9 割以上
- 「DV」は年代によって傾向が異なる

男性 40 歳代以上を除き、男女ともすべての年代で「DV」が最も高くなっています。特に女性 30・40 歳代（ともに 94.4%）が比較的高く、50 歳代以下は 9 割以上となっています。また、「DV」は男女とも 60 歳代以上が低く、年代による差が大きくなっています。女性 70 歳以上は「DV」「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」が同値となっています。

男性 40 歳代以上はいずれも「男女雇用機会均等法」が最も高く、特に男性 40 歳代（88.5%）が比較的高くなっています。

		(%)	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
N=	女性	122	231	251	245	372	142	
	男性	80	153	165	213	267	137	
高崎市男女共同参画推進条例	女性	6.6	15.6	16.7	18.8	22.3	26.8	
	男性	10.0	17.6	17.0	17.8	21.7	28.5	
高崎市第 2 次男女共同参画計画	女性	1.6	5.2	5.6	8.6	14.0	19.0	
	男性	5.0	3.3	6.1	8.0	13.9	17.5	
男女共同参画広報紙「バモス(Vamos)」	女性	4.9	19.5	23.5	22.0	20.2	25.4	
	男性	5.0	15.7	15.8	13.6	20.2	28.5	
男女共同参画社会	女性	36.9	23.4	29.9	30.2	28.8	34.5	
	男性	27.5	32.7	28.5	40.4	32.6	35.0	
DV(ドメスティック・バイオレンス)	女性	92.6	94.4	94.4	90.6	76.6	62.0	
	男性	85.0	88.9	85.5	82.6	69.7	51.8	
ジェンダー	女性	46.7	33.3	31.9	23.3	12.6	15.5	
	男性	30.0	36.6	26.7	24.9	13.9	11.7	
ワーク・ライフ・バランス	女性	30.3	32.5	26.7	28.2	34.7	28.2	
	男性	42.5	37.9	38.8	27.7	27.3	21.9	
ポジティブ・アクション	女性	9.8	7.8	8.4	9.4	13.7	9.9	
	男性	13.8	7.2	7.3	8.5	10.1	2.9	
家族経営協定	女性	1.6	1.7	1.6	4.1	7.3	10.6	
	男性	5.0	4.6	3.6	7.0	12.7	8.8	
男女共同参画社会基本法	女性	32.8	15.6	14.7	18.8	20.7	25.4	
	男性	26.3	24.2	15.8	31.5	25.1	29.9	
女子差別撤廃条約	女性	35.2	20.3	12.0	18.0	22.8	27.5	
	男性	25.0	17.0	12.1	18.8	19.1	24.1	
DV防止法	女性	54.9	71.9	72.1	73.9	59.4	50.7	
	男性	56.3	56.2	62.4	67.6	53.9	41.6	
ストーカー規制法	女性	77.0	90.9	88.8	83.7	75.5	60.6	
	男性	75.0	83.7	85.5	79.8	71.5	53.3	
男女雇用機会均等法	女性	88.5	85.3	88.0	75.1	72.8	62.0	
	男性	72.5	76.5	88.5	83.6	74.2	65.7	
育児・介護休業法	女性	69.7	68.4	80.1	72.2	74.7	62.0	
	男性	58.8	60.1	72.7	73.7	64.4	51.1	
いずれも、見聞きしたことはない	女性	1.6	0.9	0.8	1.2	3.0	4.2	
	男性	2.5	3.9	3.6	1.4	4.5	9.5	

【性別×職業別】

- 女性は自営・学生を除くすべての職業で「DV」が高い
- 男性は職業によって傾向が異なる
- 男女とも自営は「ストーカー規制法」、学生は「男女雇用機会均等法」が最も高い
- 学生は男女とも複数の項目の値が比較的高い

女性は自営・学生を除くすべての職業で「DV」が最も高く、自営は「ストーカー規制法」(79.3%)、学生は「男女雇用機会均等法」(95.5%)が最も高くなっています。

男性は、回答者数が少ない専業主夫を除くと、常勤は「DV」(87.0%)、非常勤・学生・無職は「男女雇用機会均等法」(それぞれ76.5%、86.7%、70.3%)、自営は「ストーカー規制法」(73.6%)が最も高くなっています。

また、学生は男女とも複数の項目の値が比較的高くなっています。

		(%)	常勤	非常勤	自営	専業主婦・主夫	学生	無職
N=	女性	256	374	87	493	22	120	
	男性	522	85	148	5	15	232	
高崎市男女共同参画推進条例	女性	17.2	14.4	23.0	22.9	13.6	15.0	
	男性	18.6	12.9	21.6	80.0	6.7	22.0	
高崎市第2次男女共同参画計画	女性	7.4	7.2	18.4	11.0	4.5	8.3	
	男性	5.9	10.6	12.8	60.0	6.7	14.2	
男女共同参画広報紙「バモス(Vamos)」	女性	17.6	20.6	25.3	22.1	4.5	16.7	
	男性	15.7	16.5	18.2	60.0	0.0	20.7	
男女共同参画社会	女性	33.6	26.5	29.9	29.8	68.2	25.0	
	男性	35.2	27.1	31.8	40.0	46.7	31.9	
DV(ドメスティック・バイオレンス)	女性	92.2	89.6	75.9	84.2	90.9	69.2	
	男性	87.0	70.6	70.9	80.0	73.3	59.5	
ジェンダー	女性	37.5	22.5	20.7	19.9	81.8	20.8	
	男性	27.0	23.5	14.2	40.0	60.0	15.1	
ワーク・ライフ・バランス	女性	35.9	27.5	27.6	31.8	50.0	24.2	
	男性	36.2	31.8	24.3	20.0	40.0	24.1	
ポジティブ・アクション	女性	11.3	8.0	11.5	10.8	22.7	9.2	
	男性	9.2	5.9	6.8	0.0	20.0	7.3	
家族経営協定	女性	2.3	5.3	8.0	4.7	9.1	3.3	
	男性	4.6	7.1	16.2	20.0	6.7	8.2	
男女共同参画社会基本法	女性	19.9	16.0	23.0	21.5	77.3	15.0	
	男性	24.1	20.0	27.7	40.0	73.3	25.0	
女子差別撤廃条約	女性	18.8	18.7	24.1	22.9	50.0	20.8	
	男性	17.4	12.9	18.9	40.0	33.3	22.8	
DV防止法	女性	66.8	66.8	66.7	66.1	54.5	52.5	
	男性	62.5	48.2	58.8	60.0	46.7	47.4	
ストーカー規制法	女性	84.4	83.7	79.3	81.1	63.6	65.0	
	男性	83.0	71.8	73.6	100.0	66.7	59.9	
男女雇用機会均等法	女性	87.5	81.3	74.7	75.3	95.5	64.2	
	男性	83.0	76.5	70.3	100.0	86.7	70.3	
育児・介護休業法	女性	78.9	71.1	65.5	74.8	68.2	60.0	
	男性	69.3	58.8	65.5	100.0	66.7	55.2	
いずれも、見聞きしたことはない	女性	0.8	1.1	1.1	2.6	0.0	5.8	
	男性	1.7	7.1	4.7	0.0	0.0	7.8	

## 【地域別】

- 倉渚地域は「ストーカー規制法」、それ以外は「DV」が最も高い
- 倉渚地域は「男女共同参画社会基本法」が比較的高い

倉渚地域を除くすべての地域で「DV」が最も高く、特に新町地域（85.2%）が比較的高くなっています。倉渚地域は「ストーカー規制法」（71.0%）が最も高くなっています。

また、全体傾向では高い値ではない項目のうち、倉渚地域は「男女共同参画社会基本法」（35.5%）が比較的高くなっています。

(%)	高崎 地域	倉渚 地域	箕郷 地域	群馬 地域	新町 地域	榛名 地域	吉井 地域
N=	1,602	31	127	229	81	132	169
高崎市男女共同参画推進条例	19.9	25.8	18.1	16.2	17.3	15.9	16.6
高崎市第2次男女共同参画計画	10.4	6.5	9.4	7.4	9.9	9.1	4.1
男女共同参画広報紙「バモス(Vamos)」	19.3	19.4	15.7	17.0	21.0	19.7	18.9
男女共同参画社会	32.2	35.5	29.1	26.6	32.1	23.5	34.9
DV(ドメスティック・バイオレンス)	82.8	64.5	81.1	78.2	85.2	79.5	79.3
ジェンダー	24.4	9.7	28.3	20.5	24.7	22.0	26.0
ワーク・ライフ・バランス	32.1	22.6	29.9	23.1	33.3	27.3	33.1
ポジティブ・アクション	10.3	9.7	7.9	5.2	7.4	8.3	8.3
家族経営協定	5.5	12.9	7.9	2.6	2.5	6.8	10.7
男女共同参画社会基本法	22.3	35.5	24.4	18.3	24.7	21.2	24.3
女子差別撤廃条約	21.2	25.8	18.9	15.7	18.5	17.4	18.3
DV防止法	62.5	54.8	65.4	53.3	59.3	64.4	62.1
ストーカー規制法	79.5	71.0	78.0	76.4	76.5	74.2	74.6
男女雇用機会均等法	79.6	67.7	78.0	73.8	75.3	72.7	75.7
育児・介護休業法	70.2	67.7	74.8	60.7	66.7	68.2	68.6
いずれも、見聞きしたことはない	2.3	6.5	4.7	3.9	0.0	6.1	4.7

【性別×結婚経験別】

- 男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」を除き男女とも「DV」が最も高い
- 男性「結婚している」は「男女雇用機会均等法」、男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「ストーカー規制法」「男女雇用機会均等法」が同値で最も高い
- 女性「結婚したことはない」は「男女雇用機会均等法」「ジェンダー」が比較的高い

男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」を除き、男女とも「DV」が最も高く、特に女性「結婚したことはない」(93.3%)は9割以上となっています。男性「結婚している」は「男女雇用機会均等法」(77.7%)、「以前結婚していたが、現在はしていない」は「ストーカー規制法」と「男女雇用機会均等法」が同値(69.5%)で最も高くなっています。

また、全体傾向では高い値ではない項目を含めて、女性「結婚したことはない」は「男女雇用機会均等法」(90.9%)や「ジェンダー」(48.5%)が比較的高くなっています。

		(%)	結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
N=	女性	1,054	145	165	
	男性	783	59	175	
高崎市男女共同参画推進条例	女性	19.8	19.3	9.7	
	男性	21.6	11.9	13.1	
高崎市第2次男女共同参画計画	女性	10.3	9.0	3.0	
	男性	10.1	11.9	6.3	
男女共同参画広報紙「バモス(Vamos)」	女性	21.5	22.1	9.1	
	男性	19.2	11.9	10.9	
男女共同参画社会	女性	28.8	25.5	37.6	
	男性	34.5	22.0	33.1	
DV(ドメスティック・バイオレンス)	女性	84.8	78.6	93.3	
	男性	76.5	61.0	82.9	
ジェンダー	女性	22.8	13.8	48.5	
	男性	20.4	16.9	34.9	
ワーク・ライフ・バランス	女性	30.4	29.7	32.7	
	男性	30.7	25.4	36.0	
ポジティブ・アクション	女性	9.7	11.0	12.7	
	男性	8.0	5.1	9.7	
家族経営協定	女性	5.0	3.4	2.4	
	男性	7.7	10.2	6.9	
男女共同参画社会基本法	女性	18.7	17.9	29.7	
	男性	25.5	16.9	28.6	
女子差別撤廃条約	女性	20.9	20.0	23.0	
	男性	18.1	18.6	21.7	
DV防止法	女性	66.2	58.6	63.0	
	男性	57.5	45.8	58.9	
ストーカー規制法	女性	80.8	76.6	81.8	
	男性	74.8	69.5	78.3	
男女雇用機会均等法	女性	77.8	67.6	90.9	
	男性	77.7	69.5	80.0	
育児・介護休業法	女性	73.1	66.9	71.5	
	男性	65.8	55.9	62.9	
いずれも、見聞きしたことはない	女性	1.8	3.4	1.8	
	男性	3.7	3.4	5.7	

## 【性別×働き方別】

- 男性「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」を除き男女とも「DV」が最も高い
- 男性「どちらか一人だけ働いている」は「ストーカー規制法」「男女雇用機会均等法」（同値）、男性「二人とも働いていない」は「男女雇用機会均等法」が最も高い
- 男女とも「二人とも働いていない」は「女子差別撤廃条約」「高崎市第2次男女共同参画計画」が比較的高い

男性「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」を除き、男女とも「DV」が最も高くなっています。男性「どちらか一人だけ働いている」は「ストーカー規制法」「男女雇用機会均等法」が同値（80.7%）で最も高く、男性「二人とも働いていない」は「男女雇用機会均等法」（71.4%）が最も高くなっています。

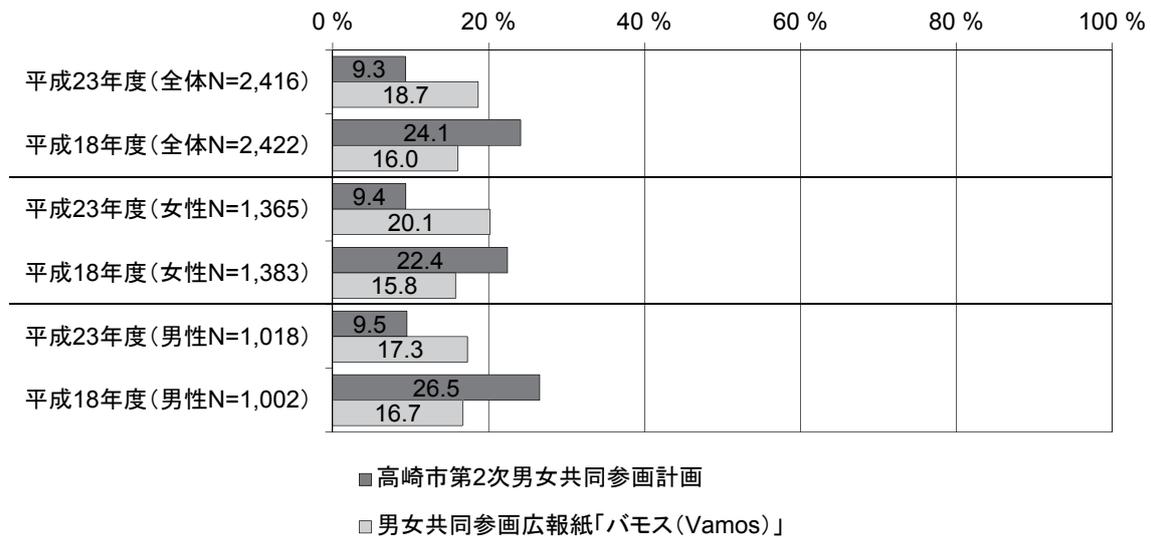
また、全体傾向では高い値ではない項目を含めて、男女とも「二人とも働いていない」は「女子差別撤廃条約」（女性 27.3%、男性 26.1%）や「高崎市第2次男女共同参画計画」（女性 16.7%、男性 18.6%）が比較的高くなっています。

		(%)	共働きである	どちらか一人だけ働いている	二人とも働いていない
N=	女性		470	364	209
	男性		344	270	161
高崎市男女共同参画推進条例	女性		18.1	19.2	23.9
	男性		20.3	20.7	25.5
高崎市第2次男女共同参画計画	女性		9.1	8.0	16.7
	男性		8.1	7.0	18.6
男女共同参画広報紙「バモス(Vamos)」	女性		21.7	20.9	22.5
	男性		16.6	18.5	26.7
男女共同参画社会	女性		28.7	28.8	30.1
	男性		33.7	34.8	36.0
DV(ドメスティック・バイオレンス)	女性		88.9	85.4	75.6
	男性		82.3	79.6	60.9
ジェンダー	女性		27.0	22.5	13.9
	男性		22.7	21.1	14.3
ワーク・ライフ・バランス	女性		28.1	31.3	33.5
	男性		29.7	34.8	25.5
ポジティブ・アクション	女性		8.3	9.9	12.0
	男性		8.4	8.5	6.2
家族経営協定	女性		4.9	3.6	8.1
	男性		5.8	7.8	10.6
男女共同参画社会基本法	女性		17.0	18.1	23.4
	男性		23.5	26.7	27.3
女子差別撤廃条約	女性		20.4	18.1	27.3
	男性		15.7	15.9	26.1
DV防止法	女性		68.7	68.4	58.4
	男性		62.8	55.9	50.3
ストーカー規制法	女性		83.2	84.1	70.3
	男性		78.5	80.7	58.4
男女雇用機会均等法	女性		82.1	76.4	71.8
	男性		78.8	80.7	71.4
育児・介護休業法	女性		72.6	74.2	73.2
	男性		69.5	67.0	56.5
いずれも、見聞きしたことはない	女性		0.4	3.0	2.4
	男性		3.2	2.2	7.5

【性別×経年変化】

- 「高崎市第2次男女共同参画計画」は減少
- 「バモス (Vamos)」は若干増加

前回調査とは表現等が異なることを考慮する必要がありますが、「高崎市第2次男女共同参画計画」と「男女共同参画広報紙「バモス (Vamos)」について前回調査と比較すると、男女とも「高崎市第2次男女共同参画計画」は減少し、「男女共同参画広報紙「バモス (Vamos)」は若干増加しています。



※前回調査（平成18年度）では、「現在、高崎市が行っている取り組みのうちあなたが知っている取り組み」（MA）として「高崎市男女共同参画計画」「男女平等広報紙（Vamos）全戸配布」を含む10選択肢で設定

【性別×他調査との比較】

- 高崎市が比較的高いのは「育児・介護休業法」
- 高崎市が比較的低いのは「DV防止法」「男女共同参画社会」

群馬県、内閣府との比較が可能な項目について、全体傾向で値の高い5項目を見ると、「DV」は男女とも内閣府と同程度、「ストーカー規制法」は群馬県より男性は若干低く、女性は同程度、「男女雇用機会均等法」は男女とも群馬県、内閣府と同程度、「育児・介護休業法」は男女とも群馬県より高く、「DV防止法」は男女とも群馬県より低くなっています。

また、全体傾向で値の高い項目以外で、「男女共同参画社会」は群馬県や国より低くなっています。

		(%)	高崎市	群馬県	内閣府
N=	全体	2,416	1,071	3,240	
	女性	1,365	554	1,730	
	男性	1,018	479	1,510	
DV (ドメスティック・バイオレンス)	全体	80.4	-	78.7	
	女性	85.2	-	81.0	
	男性	76.6	-	76.0	
ストーカー規制法	全体	77.1	78.9	-	
	女性	80.5	79.6	-	
	男性	75.0	80.0	-	
男女雇用機会均等法	全体	76.9	76.8	79.3	
	女性	78.3	75.1	78.3	
	男性	77.5	80.6	80.4	
育児・介護休業法	全体	68.1	58.2	-	
	女性	72.3	59.2	-	
	男性	64.6	58.5	-	
DV防止法	全体	60.8	72.5	-	
	女性	65.1	74.4	-	
	男性	57.0	72.9	-	
男女共同参画社会	全体	30.8	45.9	64.6	
	女性	29.6	44.4	62.1	
	男性	33.5	49.3	67.5	
ワーク・ライフ・バランス	全体	30.4	17.8	37.0	
	女性	30.5	15.2	38.1	
	男性	31.2	21.1	35.8	
ジェンダー	全体	23.6	21.0	31.9	
	女性	24.9	23.1	32.4	
	男性	22.7	19.4	31.3	
男女共同参画社会基本法	全体	22.0	18.0	-	
	女性	19.9	15.3	-	
	男性	25.5	21.7	-	
女子差別撤廃条約	全体	19.8	15.6	35.1	
	女性	21.1	15.0	32.8	
	男性	18.8	16.3	37.7	
ポジティブ・アクション	全体	9.2	7.4	19.0	
	女性	10.2	7.6	18.4	
	男性	8.2	7.1	19.6	

※群馬県・内閣府との比較が可能な項目のみを、高崎市（全体）の値が高い順に表示

問 16

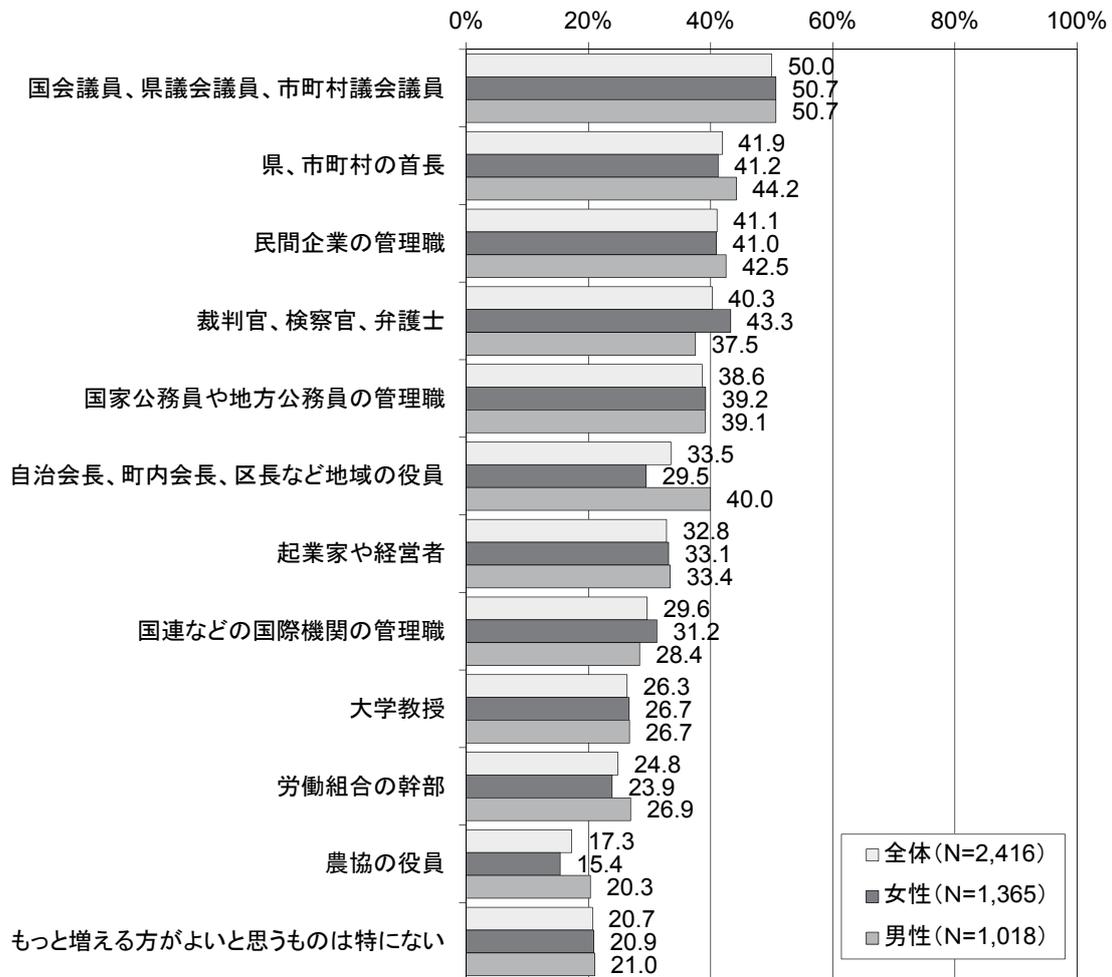
以下のような職業や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うものはどれですか。（複数回答可）

【全体・性別】

- 男女とも「国・県・市町村議会議員」が約5割で最も高い
- 女性は「裁判官、検察官、弁護士」、男性は「地域の役員」が比較的高い
- 男女とも「特にない」は約2割

男女とも「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」（50.7%で同値）が最も高く、約5割となっています。次いで女性は「裁判官、検察官、弁護士」（43.3%）、「県、市町村の首長」（41.2%）、「民間企業の管理職」（41.0%）、男性は「県、市町村の首長」（44.2%）、「民間企業の管理職」（42.5%）、「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」（40.0%）が4割以上で比較的高くなっています。

また、男女とも「もっと増える方がよいと思うものは特にない」（女性20.9%、男性21.0%）が約2割見られます。



## 【性別×年代別】

- 男性 70 歳以上は「地域の役員」、それ以外は「国・県・市町村議会議員」が最も高い
- 女性 40 歳代は「国・県・市町村議会議員」「裁判官、検察官、弁護士」が同程度に高い

男性 70 歳以上を除くすべての年代で「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」が最も高くなっています。男性 70 歳以上は「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」(49.6%) が最も高くなっています。また、女性 40 歳代は「裁判官、検察官、弁護士」(51.4%) が「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」(51.8%) と同程度に高くなっています。

		(%)	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
N=	女性	122	231	251	245	372	142	
	男性	80	153	165	213	267	137	
県、市町村の首長	女性	52.5	42.4	41.0	43.7	37.9	35.2	
	男性	43.8	46.4	36.4	47.9	45.3	43.8	
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	女性	55.7	53.7	51.8	51.0	48.4	45.8	
	男性	52.5	54.9	43.0	53.1	52.4	48.2	
国家公務員や地方公務員の管理職	女性	41.8	40.7	40.6	42.9	34.7	38.0	
	男性	33.8	37.9	36.4	40.8	43.4	36.5	
裁判官、検察官、弁護士	女性	44.3	49.8	51.4	45.3	35.8	34.5	
	男性	40.0	34.6	36.4	40.4	41.2	29.9	
大学教授	女性	30.3	30.3	25.1	26.5	23.1	30.3	
	男性	25.0	26.8	27.9	29.1	27.0	22.6	
国連などの国際機関の管理職	女性	29.5	33.8	31.9	31.8	29.6	31.0	
	男性	28.8	24.8	28.5	31.5	32.2	20.4	
民間企業の管理職	女性	39.3	48.1	49.0	41.6	34.1	33.8	
	男性	48.8	41.2	39.4	46.5	44.6	34.3	
起業家や経営者	女性	33.6	39.0	36.3	31.4	29.0	31.7	
	男性	40.0	39.2	28.5	33.3	33.3	29.9	
労働組合の幹部	女性	32.0	28.1	26.7	22.9	17.7	23.2	
	男性	28.8	33.3	32.1	26.3	24.3	19.0	
農協の役員	女性	18.0	17.3	14.7	14.7	12.6	19.7	
	男性	17.5	21.6	20.6	22.1	21.7	15.3	
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	女性	23.8	24.2	23.5	31.4	33.6	39.4	
	男性	30.0	30.1	29.7	45.1	46.1	49.6	
もっと増える方がよいと思うものは特にない	女性	15.6	16.9	19.1	21.2	25.8	20.4	
	男性	21.3	21.6	25.5	18.3	21.3	19.0	

【性別×職業別】

- 女性は学生を除くすべての職業で「国・県・市町村議会議員」が最も高い
- 女性学生は「県、市町村の首長」が最も高い
- 女性学生ほとんどの項目の値が最も高い
- 男性は職業によって傾向が異なる

女性は学生を除き、すべての職業で「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」が最も高くなっています。女性学生は「県、市町村の首長」(68.2%)が最も高くなっています。

男性は、回答者数が少ない専業主夫を除くと、常勤・自営・無職は「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」(それぞれ 51.3%、50.0%、50.9%)、非常勤・学生は「県、市町村の首長」(それぞれ 47.1%、40.0%)が最も高くなっています(学生は「裁判官、検察官、弁護士」と同値)。

また、女性学生は「起業家や経営者」「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」を除くすべての項目の値が最も高くなっています(「もっと増える方がよいと思うものは特にない」を除く)。

		(%)	常勤	非常勤	自営	専業主婦・主夫	学生	無職
N=	女性	256	374	87	493	22	120	
	男性	522	85	148	5	15	232	
県、市町村の首長	女性	44.5	39.0	37.9	41.6	68.2	38.3	
	男性	43.3	47.1	38.5	80.0	40.0	47.4	
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	女性	52.3	47.9	42.5	54.6	63.6	45.8	
	男性	51.3	45.9	50.0	80.0	33.3	50.9	
国家公務員や地方公務員の管理職	女性	44.1	36.1	28.7	42.0	50.0	34.2	
	男性	38.3	38.8	41.2	60.0	26.7	39.2	
裁判官、検察官、弁護士	女性	44.5	43.6	37.9	45.4	54.5	35.0	
	男性	37.0	34.1	33.8	80.0	40.0	40.9	
大学教授	女性	26.6	23.5	25.3	29.4	45.5	25.0	
	男性	25.3	28.2	28.4	60.0	26.7	27.6	
国連などの国際機関の管理職	女性	30.1	30.7	34.5	33.3	40.9	24.2	
	男性	27.4	32.9	25.0	60.0	20.0	31.0	
民間企業の管理職	女性	46.9	44.1	32.2	39.4	50.0	30.8	
	男性	43.9	41.2	48.0	60.0	33.3	37.9	
起業家や経営者	女性	30.9	33.7	41.4	34.5	31.8	25.8	
	男性	32.6	29.4	40.5	40.0	26.7	32.3	
労働組合の幹部	女性	26.6	23.5	16.1	24.5	40.9	20.0	
	男性	28.5	32.9	24.3	20.0	6.7	24.1	
農協の役員	女性	15.2	12.8	17.2	17.4	27.3	10.8	
	男性	19.3	22.4	23.0	0.0	6.7	21.1	
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	女性	21.5	27.5	31.0	35.1	36.4	26.7	
	男性	35.2	38.8	44.6	40.0	26.7	48.7	
もっと増える方がよいと思うものは特にない	女性	17.6	21.7	23.0	20.7	22.7	22.5	
	男性	21.8	25.9	16.9	0.0	20.0	21.1	

## 【地域別】

- すべての地域で「国・県・市町村議会議員」が最も高い
- 倉渚地域は「労働組合の幹部」「農協の役員」、箕郷・群馬・榛名地域は「特にない」が比較的高い

すべての地域で「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」が最も高くなっていますが、その中で榛名地域（42.4%）は比較的低くなっています。

また、全体傾向では比較的低い項目のうち、倉渚地域は「労働組合の幹部」（32.3%）や「農協の役員」（22.6%）、箕郷・群馬・榛名地域は「もっと増える方がよいと思うものは特にない」（それぞれ 26.8%、25.8%、26.5%）が比較的高くなっています。

(%)	高崎 地域	倉渚 地域	箕郷 地域	群馬 地域	新町 地域	榛名 地域	吉井 地域
N=	1,602	31	127	229	81	132	169
県、市町村の首長	43.0	38.7	39.4	42.8	43.2	34.8	46.7
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	50.5	51.6	50.4	52.0	55.6	42.4	57.4
国家公務員や地方公務員の管理職	39.4	32.3	44.1	38.9	38.3	30.3	43.8
裁判官、検察官、弁護士	42.3	45.2	36.2	35.8	43.2	34.8	40.2
大学教授	27.3	22.6	22.0	24.5	29.6	24.2	29.0
国連などの国際機関の管理職	30.9	29.0	27.6	30.1	25.9	24.2	30.2
民間企業の管理職	42.9	32.3	41.7	37.6	40.7	37.1	41.4
起業家や経営者	34.5	29.0	31.5	27.9	34.6	27.3	34.3
労働組合の幹部	25.3	32.3	27.6	24.5	24.7	21.2	25.4
農協の役員	17.3	22.6	17.3	17.5	18.5	15.9	19.5
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	33.2	35.5	33.1	34.9	37.0	31.1	39.1
もっと増える方がよいと思うものは特にない	20.0	19.4	26.8	25.8	19.8	26.5	17.2

【性別×結婚経験別】

- 男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「県、市町村の首長」、それ以外は「国・県・市町村議会議員」が最も高い

男性「以前結婚していたが、現在はしていない」を除いて「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」が最も高くなっています。男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「県、市町村の首長」(39.0%)が最も高くなっています。

また、女性「結婚したことはない」は、「民間企業の管理職」(46.7%)や「起業家や経営者」(38.2%)が比較的高くなっています。

		(%)	結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
N=	女性		1,054	145	165
	男性		783	59	175
県、市町村の首長	女性		42.3	30.3	44.2
	男性		45.0	39.0	42.3
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	女性		52.6	38.6	49.7
	男性		51.6	35.6	51.4
国家公務員や地方公務員の管理職	女性		39.9	31.0	41.8
	男性		41.5	28.8	31.4
裁判官、検察官、弁護士	女性		44.1	32.4	47.9
	男性		38.1	28.8	37.7
大学教授	女性		27.6	17.2	29.1
	男性		26.8	23.7	26.9
国連などの国際機関の管理職	女性		31.7	24.8	33.9
	男性		29.2	20.3	26.9
民間企業の管理職	女性		41.2	33.1	46.7
	男性		43.3	32.2	42.3
起業家や経営者	女性		33.3	26.2	38.2
	男性		34.1	20.3	34.3
労働組合の幹部	女性		23.9	18.6	27.9
	男性		26.1	25.4	30.9
農協の役員	女性		15.7	9.7	18.2
	男性		20.6	15.3	20.6
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	女性		30.3	26.9	26.7
	男性		42.0	33.9	32.6
もっと増える方がよいと思うものは特にない	女性		20.3	25.5	20.6
	男性		19.4	32.2	24.6

【性別×働き方別】

- 男女とも働き方にかかわらず「国・県・市町村議会議員」が最も高い
- 女性「どちらか一人だけ働いている」は「裁判官、検察官、弁護士」、男性「二人とも働いていない」は「地域の役員」が比較的高い

働き方にかかわらず、男女とも「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」が最も高く、特に女性「どちらか一人だけ働いている」(56.6%)は約6割と比較的高くなっています。

また、女性「どちらか一人だけ働いている」は「裁判官、検察官、弁護士」(48.4%)、男性「二人とも働いていない」は「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」(48.4%)が比較的高くなっています。

		(%)	共働きである	どちらか一人だけ働いている	二人とも働いていない
N=	女性	470	364	209	
	男性	344	270	161	
県、市町村の首長	女性	40.0	45.6	41.6	
	男性	43.6	45.9	46.0	
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	女性	49.6	56.6	52.2	
	男性	49.7	54.4	50.9	
国家公務員や地方公務員の管理職	女性	37.7	43.4	38.8	
	男性	39.2	44.4	41.0	
裁判官、検察官、弁護士	女性	42.8	48.4	39.7	
	男性	36.6	40.0	37.9	
大学教授	女性	24.5	30.5	29.2	
	男性	24.4	30.0	26.1	
国連などの国際機関の管理職	女性	30.6	32.7	32.1	
	男性	27.6	31.1	29.2	
民間企業の管理職	女性	43.0	43.1	33.5	
	男性	45.6	43.3	39.8	
起業家や経営者	女性	33.0	36.0	29.2	
	男性	34.3	35.2	32.9	
労働組合の幹部	女性	23.6	27.5	18.2	
	男性	26.7	28.9	20.5	
農協の役員	女性	14.0	17.6	16.3	
	男性	20.1	21.5	20.5	
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	女性	25.3	33.2	36.4	
	男性	39.2	41.9	48.4	
もっと増える方がよいと思うものは特にない	女性	20.2	19.5	21.1	
	男性	19.2	20.0	19.3	

【性別×他調査との比較】

- 男女とも群馬県より「公務員の管理職」「国際機関の管理職」「大学教授」は高く、「国・県・市町村議会議員」は低い
- 男性は群馬県や国より「地域の役員」が高い

群馬県と比較すると、男女とも「国家公務員や地方公務員の管理職」「国連などの国際機関の管理職」「大学教授」は高く、「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」は低くなっており、いずれも内閣府と同程度となっています。また、男性は群馬県と比較して「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」(40.0%)、「労働組合の幹部」(26.9%)が比較的高くなっています。

内閣府と比較すると、男女ともほとんどの項目が内閣府と同程度になっています。その中で、男性は「県、市町村の首長」(44.2%)や「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」(40.0%)が比較的高くなっています。

		(%)	高崎市	群馬県	内閣府
N=	全体		2,416	1,071	3,240
	女性		1,365	554	1,730
	男性		1,018	479	1,510
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	全体		50.0	55.4	51.6
	女性		50.7	55.4	51.8
	男性		50.7	57.2	51.5
県、市町村の首長	全体		41.9	42.1	40.3
	女性		41.2	38.8	40.8
	男性		44.2	47.0	39.9
民間企業の管理職	全体		41.1	40.8	42.3
	女性		41.0	41.2	43.4
	男性		42.5	42.2	41.0
裁判官、検察官、弁護士	全体		40.3	39.0	42.8
	女性		43.3	44.2	44.3
	男性		37.5	34.7	41.1
国家公務員や地方公務員の管理職	全体		38.6	34.5	38.1
	女性		39.2	33.8	38.4
	男性		39.1	36.5	37.9
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	全体		33.5	30.8	29.1
	女性		29.5	26.5	26.5
	男性		40.0	35.9	32.1
起業家や経営者	全体		32.8	32.5	31.8
	女性		33.1	33.0	32.4
	男性		33.4	32.8	31.1
国連などの国際機関の管理職	全体		29.6	25.5	28.9
	女性		31.2	27.3	29.5
	男性		28.4	24.4	28.1
大学教授	全体		26.3	22.0	27.0
	女性		26.7	22.9	25.7
	男性		26.7	21.9	28.5
労働組合の幹部	全体		24.8	23.3	26.4
	女性		23.9	24.7	27.5
	男性		26.9	22.3	25.2
農協の役員	全体		17.3	15.6	18.5
	女性		15.4	14.8	17.7
	男性		20.3	16.9	19.4

※群馬県・内閣府との比較が可能な項目のみを、高崎市（全体）の値が高い順に表示